

平成 25 年度 事故やけがなどに関する調査

報 告 書

平成 2 6 年 3 月

鹿児島市

目 次

第1章	調査の概要	1
第2章	乳幼児	3
第3章	小中学生	49
第4章	一般	105
第5章	高齢者	175
第6章	総括	289
第7章	調査票	343

第1章 調査の概要

1 調査の目的

セーフコミュニティ活動による認識や行動に関する変化を確認する基礎となる取組当初のデータや分野ごとの取組を進める上で必要なデータを取得すること。

2 調査の地域

鹿児島市全域

3 調査方法

	全体	乳幼児	小中学生	一般	高齢者
対象者			0歳～6歳で未就学児の男女	小学生、中学生の男女	16歳～64歳の男女
回答者		保護者回答	保護者回答 (一部設問については、子どもと一緒に保護者が回答)	本人回答 (できない場合は、家族などが可能な範囲で聞き取り等を行い回答)	本人回答 (できない場合は、家族などが可能な範囲で聞き取り等を行い回答)
調査方法		市内に居住する市民を無作為に抽出し、郵送による発送・回収			
配布数	8,000人	2,000人	2,000人	2,000人	2,000人
有効回答数	3,249人	873人	701人	683人	992人
有効回答率	40.6%	43.7%	35.1%	34.2%	49.6%

4 調査期間

平成25年10月31日(木)～平成25年11月14日(木)

5 調査の基準日

平成25年10月1日(火)

6 調査結果利用上の注意

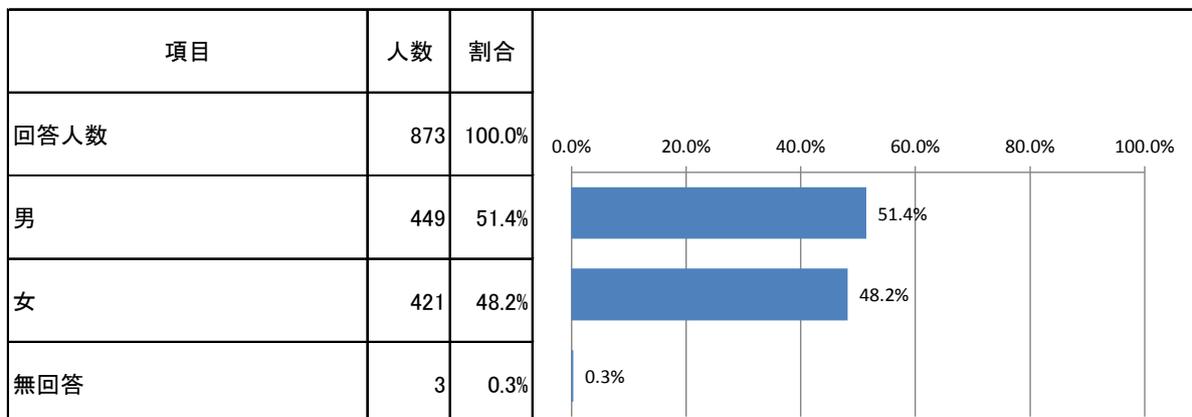
- ①割合は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある。
- ②割合は、回答人数を分母として算出している。

第2章 乳幼児

問1 対象のお子さんについてお聞きします。

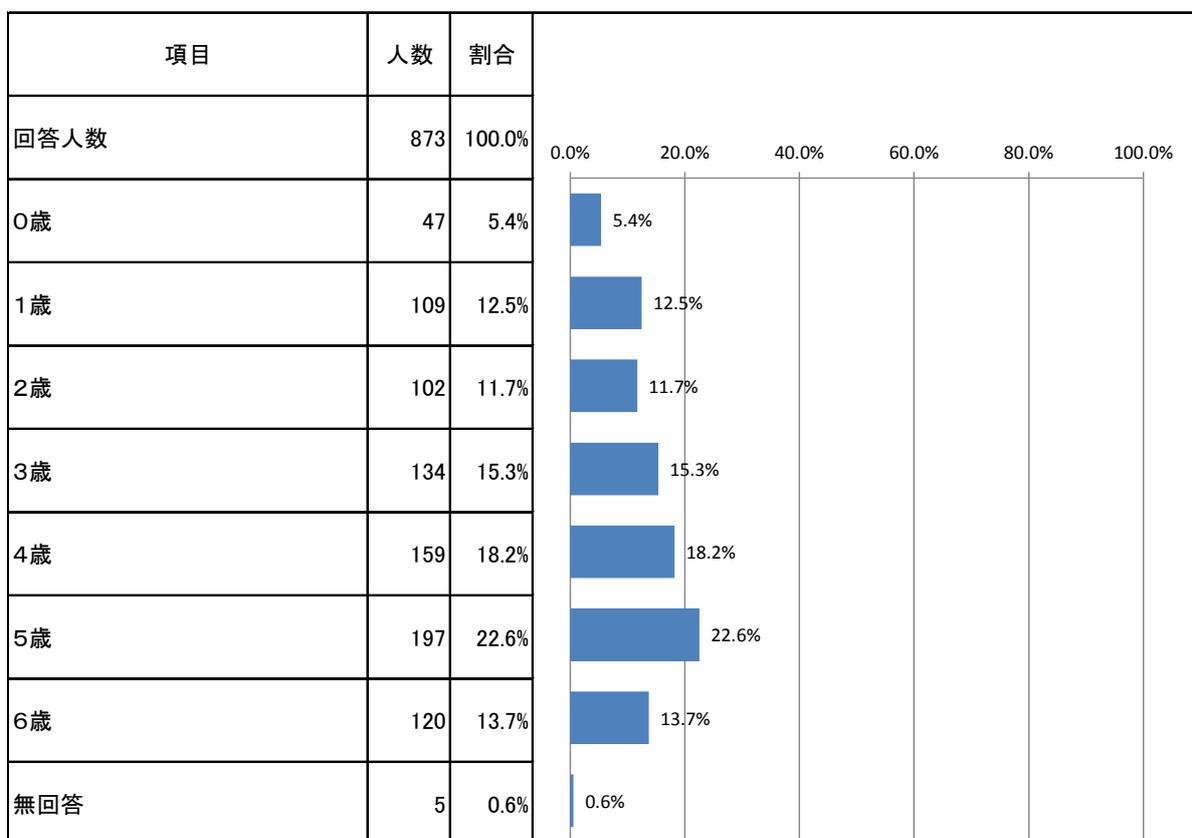
(1)① 対象（封書の宛名）のお子さんの性別

性別については、「男」が51.4%、「女」が48.2%となっている。



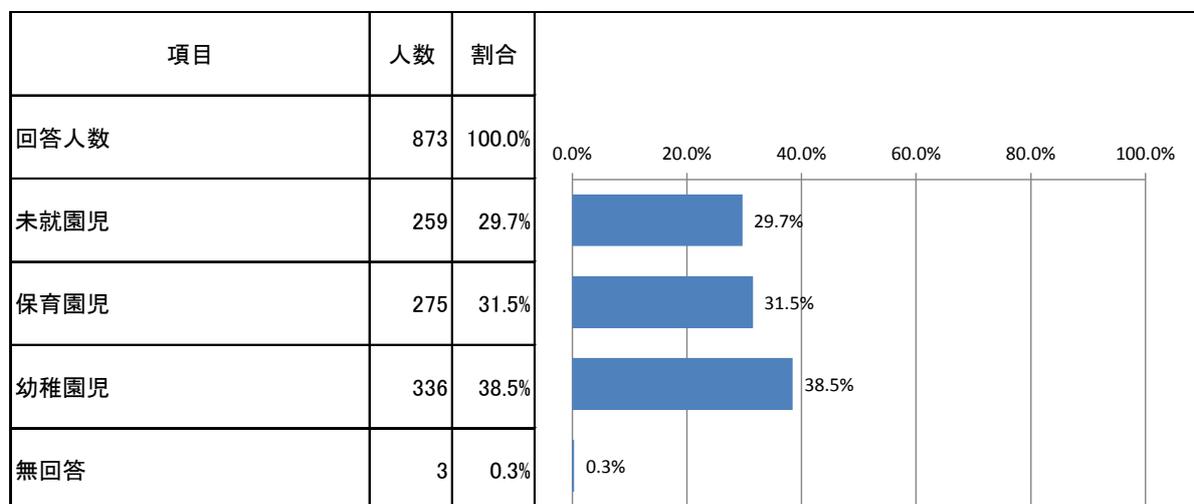
(1)② 対象（封書の宛名）のお子さんの年齢

年齢については、「5歳」が22.6%と最も多く、次いで「4歳」が18.2%、「3歳」が15.3%となっている。



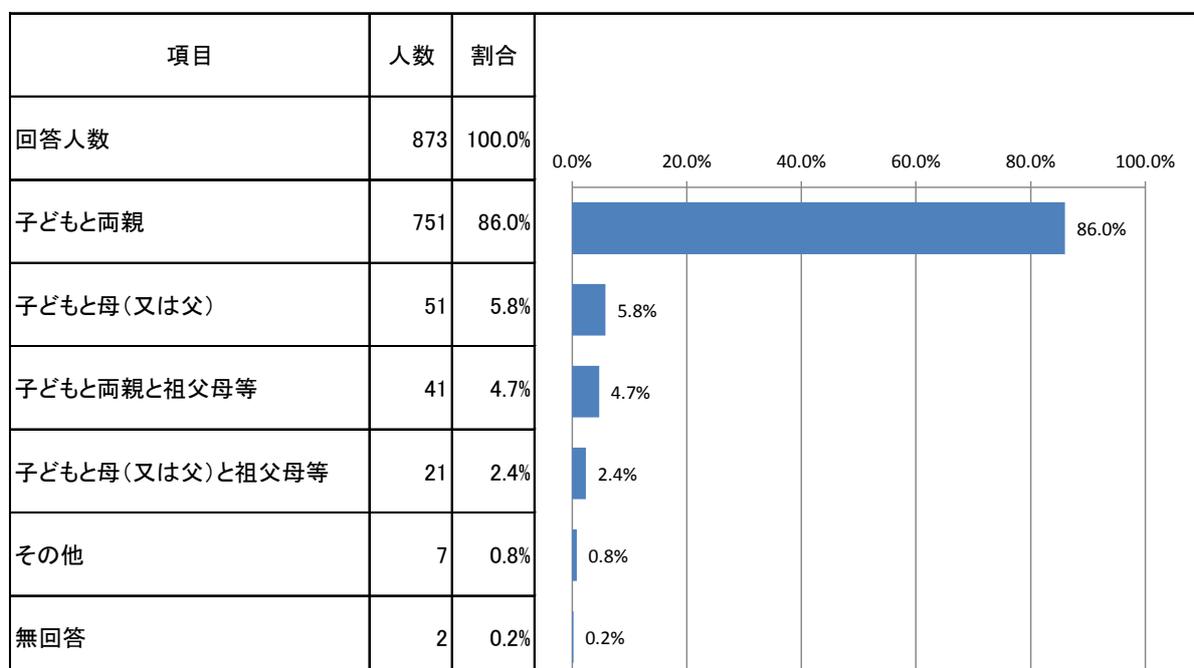
(2) 対象（封書の宛名）のお子さんの就園状況

就園状況については、「幼稚園児」が 38.5%と最も多く、次いで「保育園児」が 31.5%、「未就園児」が 29.7%となっている。



(3) 家族構成

家族構成については、「子どもと両親」が 86.0%と最も多く、次いで「子どもと母（又は父）」が 5.8%、「子どもと両親と祖父母等」が 4.7%となっている。

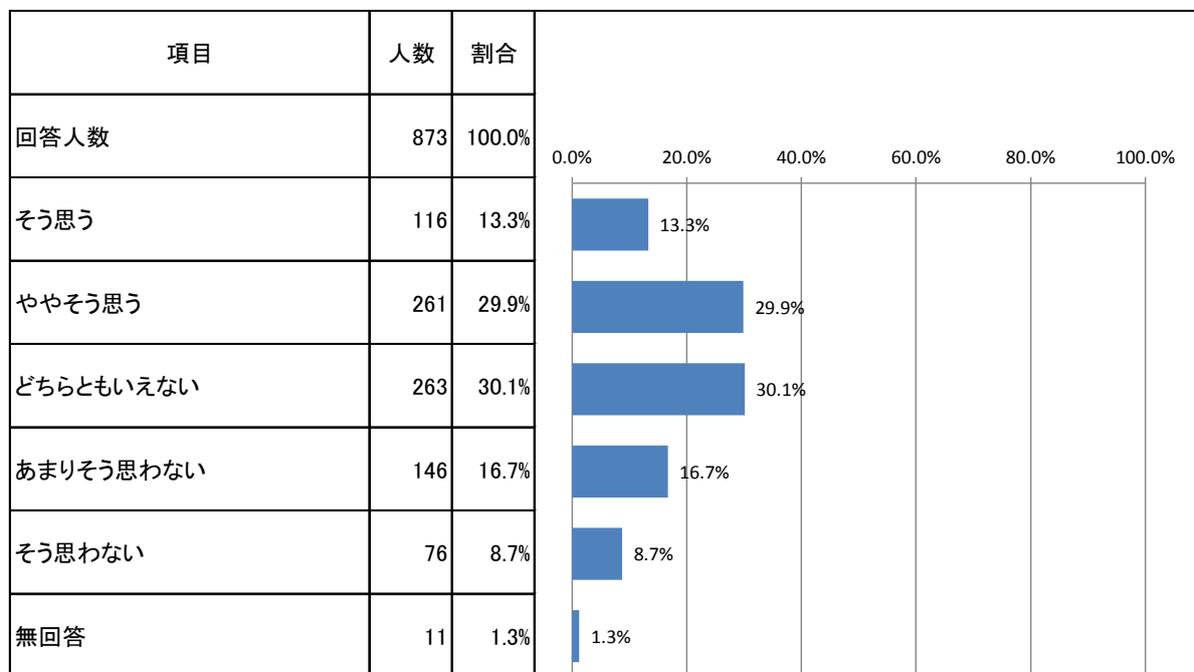


問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。（小学校区）

区分	人数	割合	区分	人数	割合
吉田小学校	2	0.2%	宇宿小学校	14	1.6%
本名小学校	4	0.5%	向陽小学校	10	1.1%
宮小学校	1	0.1%	伊敷小学校	9	1.0%
牟礼岡小学校	1	0.1%	花野小学校	4	0.5%
南方小学校	2	0.2%	西伊敷小学校	6	0.7%
郡山小学校	1	0.1%	伊敷台小学校	13	1.5%
川上小学校	2	0.2%	玉江小学校	14	1.6%
吉野小学校	160	18.3%	小山田小学校	1	0.1%
吉野東小学校	2	0.2%	犬迫小学校	1	0.1%
大明丘小学校	2	0.2%	東桜島小学校	4	0.5%
坂元小学校	6	0.7%	桜洲小学校	22	2.5%
坂元台小学校	16	1.8%	桜峰小学校	9	1.0%
清水小学校	26	3.0%	松元小学校	14	1.6%
大龍小学校	5	0.6%	東昌小学校	1	0.1%
名山小学校	2	0.2%	春山小学校	5	0.6%
山下小学校	5	0.6%	石谷小学校	6	0.7%
松原小学校	10	1.1%	谷山小学校	13	1.5%
城南小学校	11	1.3%	西谷山小学校	19	2.2%
草牟田小学校	10	1.1%	東谷山小学校	22	2.5%
原良小学校	20	2.3%	清和小学校	30	3.4%
明和小学校	7	0.8%	和田小学校	20	2.3%
武岡小学校	8	0.9%	錦江台小学校	14	1.6%
武岡台小学校	9	1.0%	福平小学校	11	1.3%
西田小学校	16	1.8%	平川小学校	1	0.1%
武小学校	15	1.7%	中山小学校	26	3.0%
田上小学校	9	1.0%	桜丘西小学校	8	0.9%
西陵小学校	12	1.4%	桜丘東小学校	6	0.7%
広木小学校	8	0.9%	星峯西小学校	22	2.5%
中洲小学校	3	0.3%	星峯東小学校	7	0.8%
荒田小学校	11	1.3%	宮川小学校	10	1.1%
八幡小学校	22	2.5%	皇徳寺小学校	11	1.3%
中郡小学校	14	1.6%	瀬々串小学校	4	0.5%
紫原小学校	12	1.4%	喜入小学校	6	0.7%
西紫原小学校	17	1.9%	分からない	29	3.3%
鴨池小学校	12	1.4%	無回答	2	0.2%
南小学校	16	1.8%	合計	873	100.0%

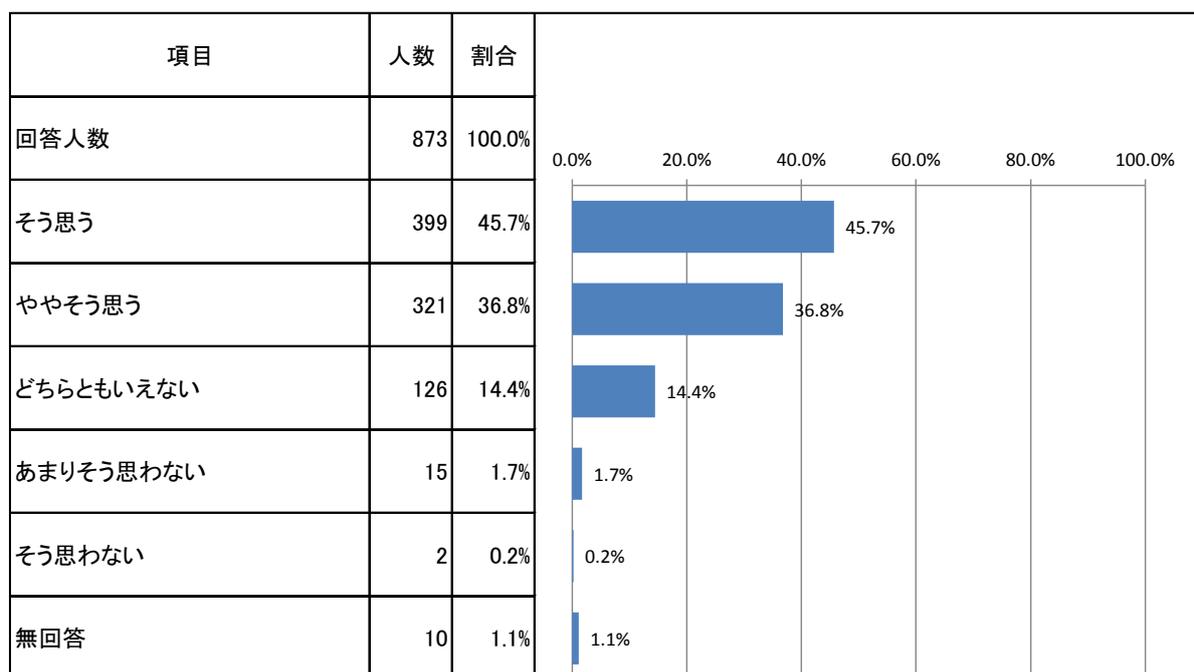
問3 あなた（保護者）は、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組んでいると思いますか。（ひとつに○）

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組んでいると思うことについては、「どちらともいえない」が30.1%と最も多く、次いで「ややそう思う」が29.9%、「あまりそう思わない」が16.7%となっている。



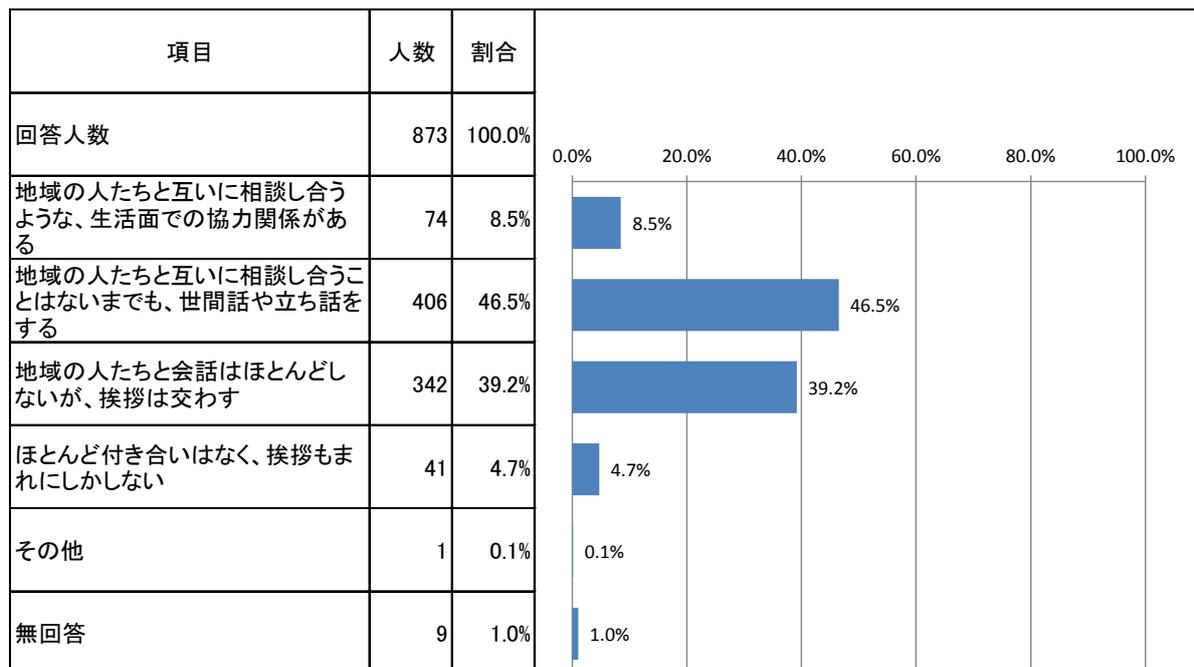
問4 あなた（保護者）は、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組むことは重要だと思いますか。（ひとつに○）

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組むことは重要だと思うことについては、「そう思う」が45.7%と最も多く、次いで「ややそう思う」が36.8%、「どちらともいえない」が14.4%となっている。



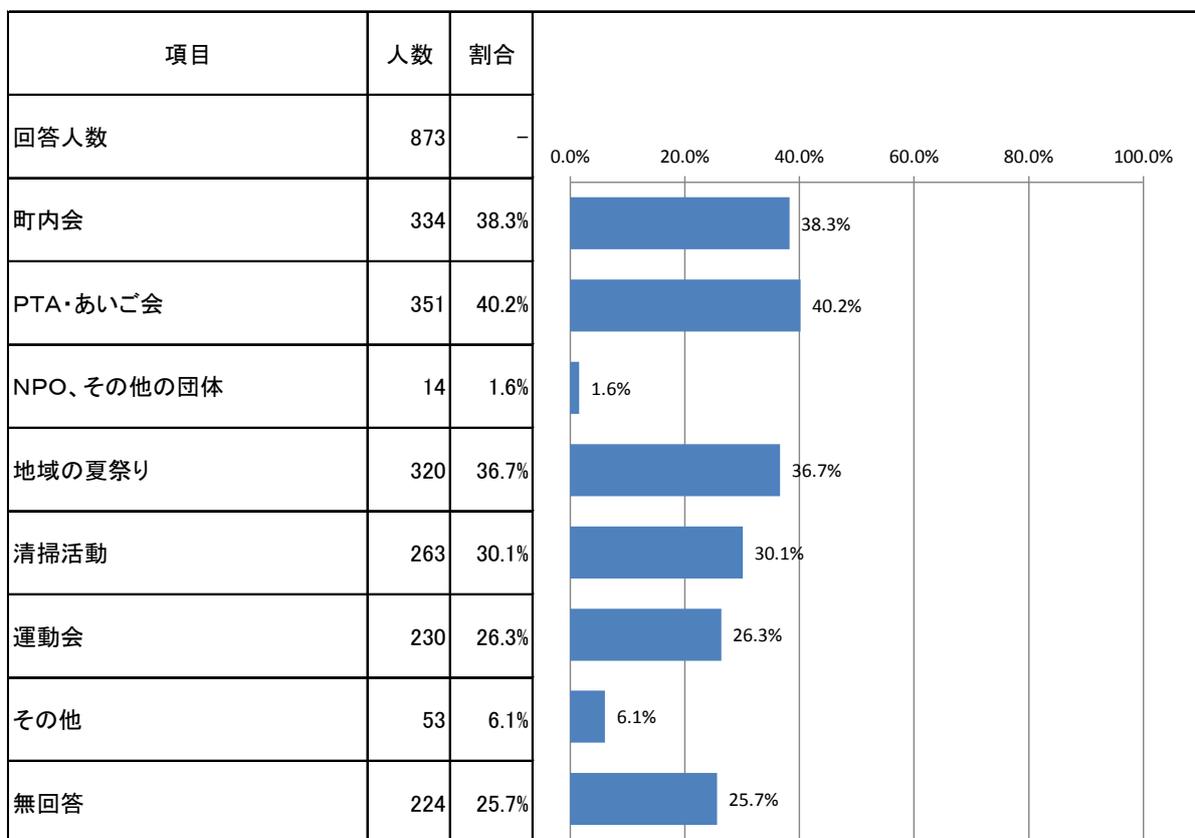
問5 あなた（保護者）は、地域の人たちとコミュニケーションをとっていますか。
（ひとつに○）

地域の人たちとのコミュニケーションについては、「地域の人たちと互いに相談し合うことはないまでも、世間話や立ち話をする」が 46.5%と最も多く、次いで「地域の人たちと会話はほとんどしないが、挨拶は交わす」が 39.2%、「地域の人たちと互いに相談し合うような、生活面での協力関係がある」が 8.5%となっている。



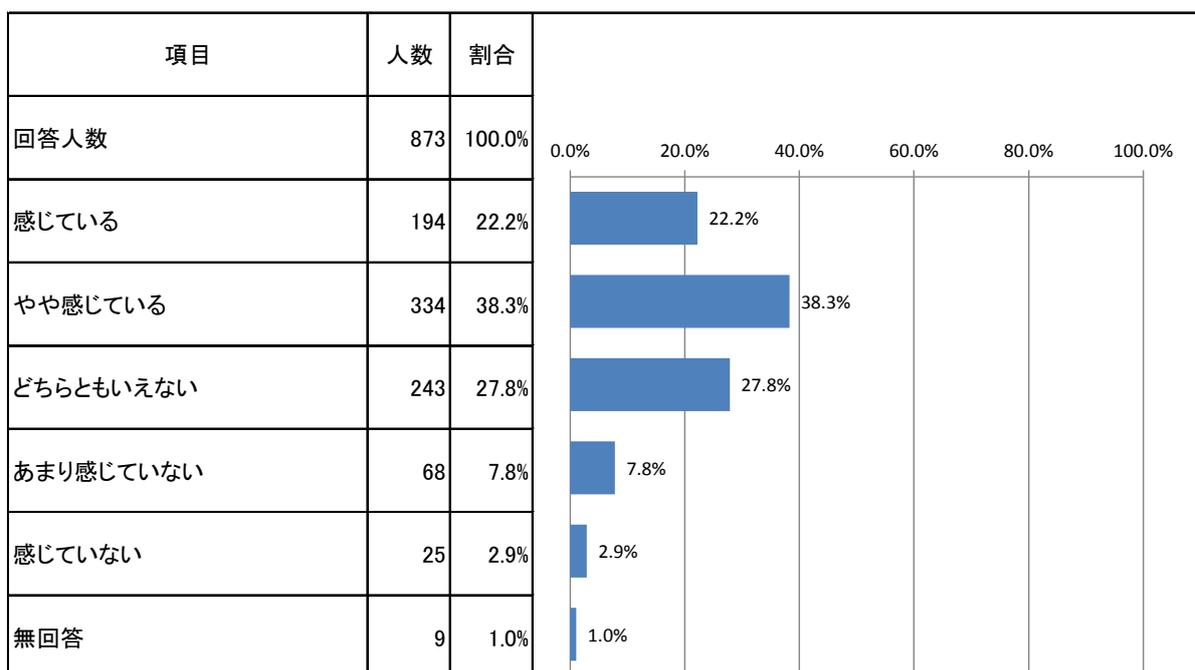
問6 あなた（保護者）は、地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

地域活動への参加については、「PTA・あいご会」が40.2%と最も多く、次いで「町内会」が38.3%、「地域の夏祭り」が36.7%となっている。



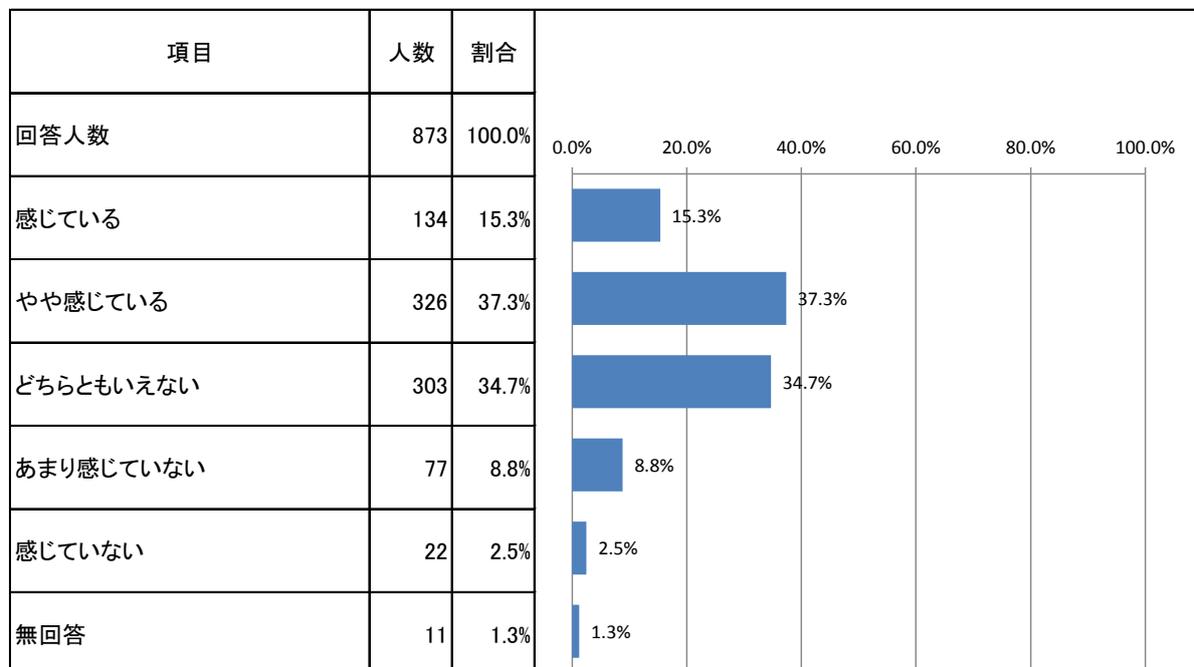
問7 あなたは、地域の暮らしに愛着を感じていますか。（ひとつに○）

地域の暮らしへの愛着度については、「やや感じている」が38.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が27.8%、「感じている」が22.2%となっている。



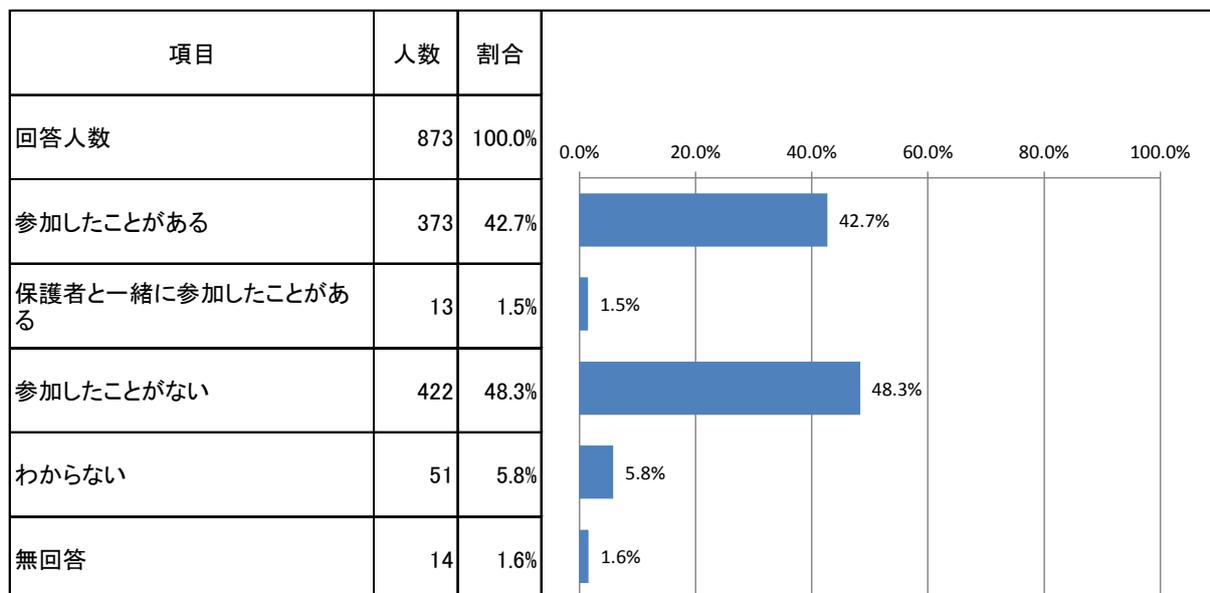
問8 あなたは、鹿児島市の暮らしに安心安全を感じていますか。(ひとつに○)

鹿児島市の暮らしに安心安全を感じているかについては、「やや感じている」が37.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が34.7%、「感じている」が15.3%となっている。



問9 対象のお子さんは、この1年間（平成24年10月から平成25年9月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。
（ひとつに○）

1年間の子どもの交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがない」が48.3%と最も多く、次いで「参加したことがある」が42.7%、「わからない」が5.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

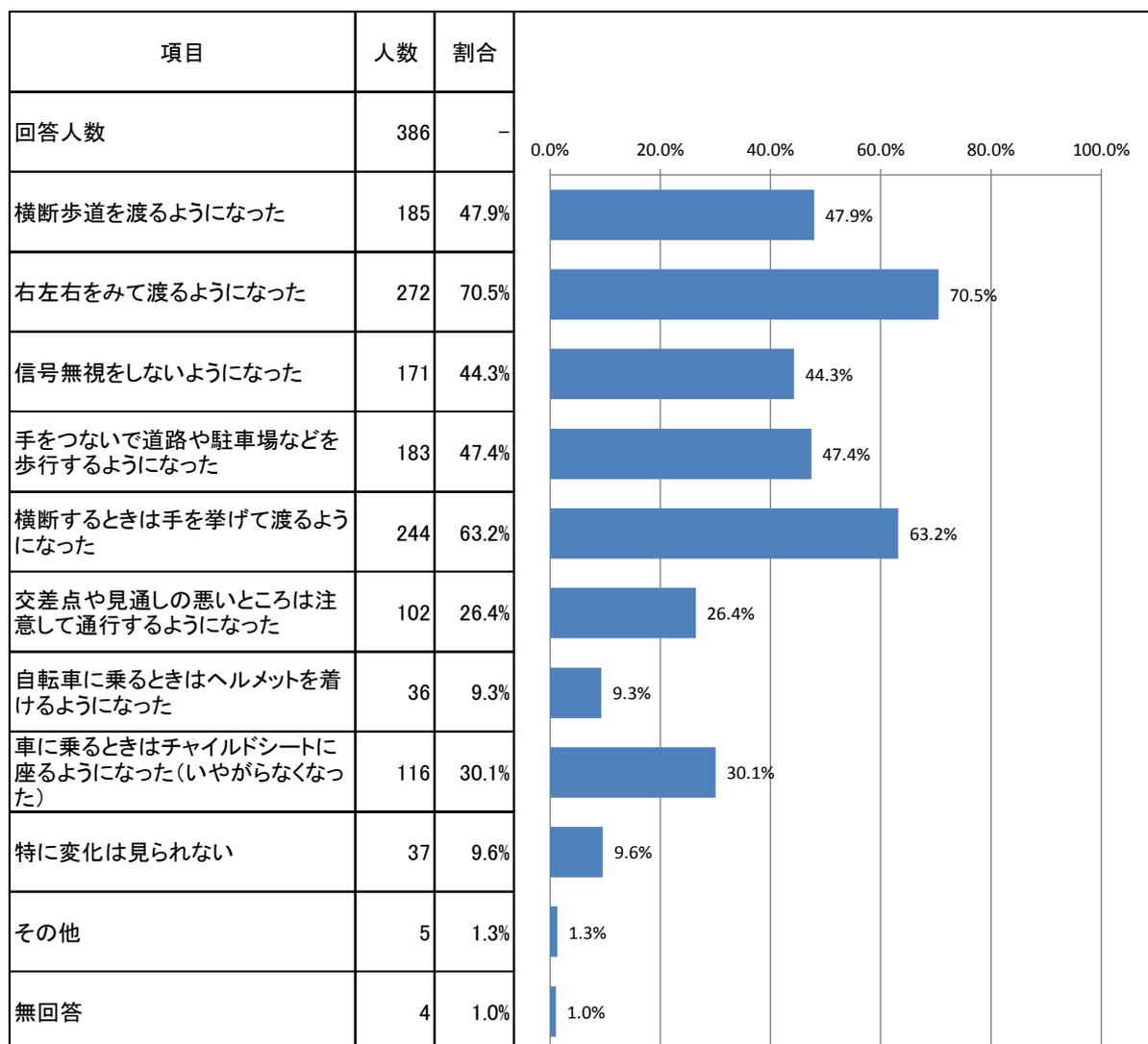
年齢別では、2歳以下では「参加したことがない」が89.1%、3歳以上では「参加したことがある」が58.7%と最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	873	100.0%	449	100.0%	421	100.0%	3	100.0%	258	100.0%	610	100.0%	5	100.0%
参加したことがある	373	42.7%	185	41.2%	187	44.4%	1	33.3%	13	5.0%	358	58.7%	2	40.0%
保護者と一緒に参加したことがある	13	1.5%	5	1.1%	8	1.9%	0	0.0%	3	1.2%	10	1.6%	0	0.0%
参加したことがない	422	48.3%	222	49.4%	198	47.0%	2	66.7%	230	89.1%	189	31.0%	3	60.0%
わからない	51	5.8%	31	6.9%	20	4.8%	0	0.0%	8	3.1%	43	7.0%	0	0.0%
無回答	14	1.6%	6	1.3%	8	1.9%	0	0.0%	4	1.6%	10	1.6%	0	0.0%

※問9で『①参加したことがある』、『②保護者と一緒に参加したことがある』とご回答された方にお聞きします。

問9-1 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、対象のお子さんの行動に変化が見られたものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、子どもに見られた行動の変化については、「右左右をみて渡るようになった」が70.5%と最も多く、次いで「横断するときは手を挙げて渡るようになった」が63.2%、「横断歩道を渡るようになった」が47.9%となっている。



【属性別特徴】

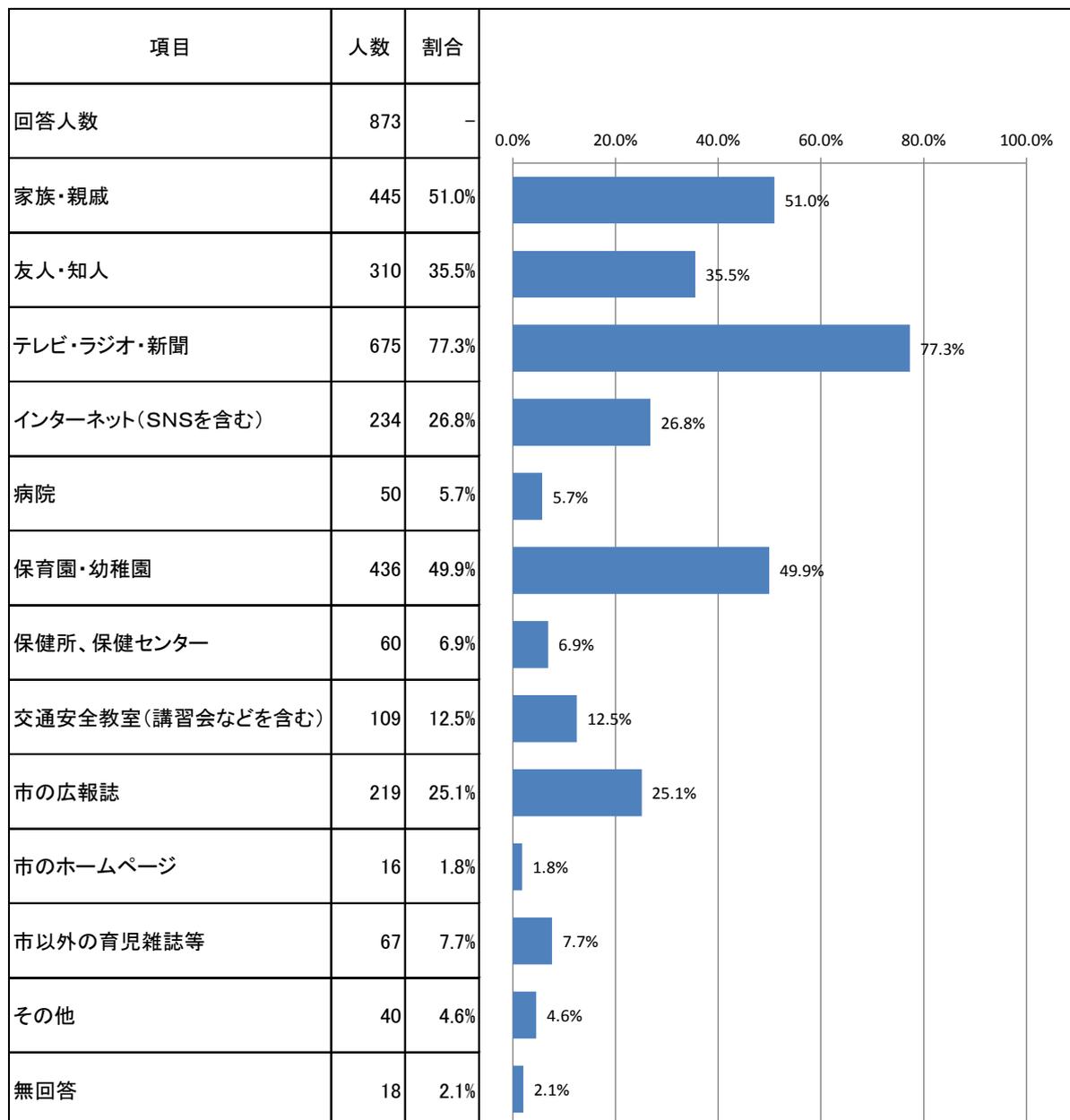
性別では、女の「車に乗るときはチャイルドシートに座るようになった（いやがらなくなった）」が33.3%で、男の26.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、2歳以下では「手をつないで道路や駐車場などを歩行するようになった」が50.0%、3歳以上では「右左右をみて渡るようになった」が72.3%と最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	386	-	190	-	195	-	1	-	16	-	368	-	2	-
横断歩道を渡るようになった	185	47.9%	94	49.5%	90	46.2%	1	100.0%	3	18.8%	180	48.9%	2	100.0%
右左右をみて渡るようになった	272	70.5%	133	70.0%	138	70.8%	1	100.0%	4	25.0%	266	72.3%	2	100.0%
信号無視をしないようになった	171	44.3%	82	43.2%	88	45.1%	1	100.0%	4	25.0%	165	44.8%	2	100.0%
手をつないで道路や駐車場などを歩行するようになった	183	47.4%	90	47.4%	92	47.2%	1	100.0%	8	50.0%	173	47.0%	2	100.0%
横断するときは手を挙げて渡るようになった	244	63.2%	118	62.1%	125	64.1%	1	100.0%	7	43.8%	235	63.9%	2	100.0%
交差点や見通しの悪いところは注意して通行するようになった	102	26.4%	46	24.2%	56	28.7%	0	0.0%	2	12.5%	99	26.9%	1	50.0%
自転車に乗るときはヘルメットを着けるようになった	36	9.3%	18	9.5%	18	9.2%	0	0.0%	0	0.0%	35	9.5%	1	50.0%
車に乗るときはチャイルドシートに座るようになった（いやがらなくなった）	116	30.1%	50	26.3%	65	33.3%	1	100.0%	5	31.3%	109	29.6%	2	100.0%
特に変化は見られない	37	9.6%	23	12.1%	14	7.2%	0	0.0%	4	25.0%	33	9.0%	0	0.0%
その他	5	1.3%	3	1.6%	2	1.0%	0	0.0%	2	12.5%	3	0.8%	0	0.0%
無回答	4	1.0%	1	0.5%	3	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.1%	0	0.0%

問10 あなた（保護者）は、交通安全に関する情報はなに（どこ）から得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

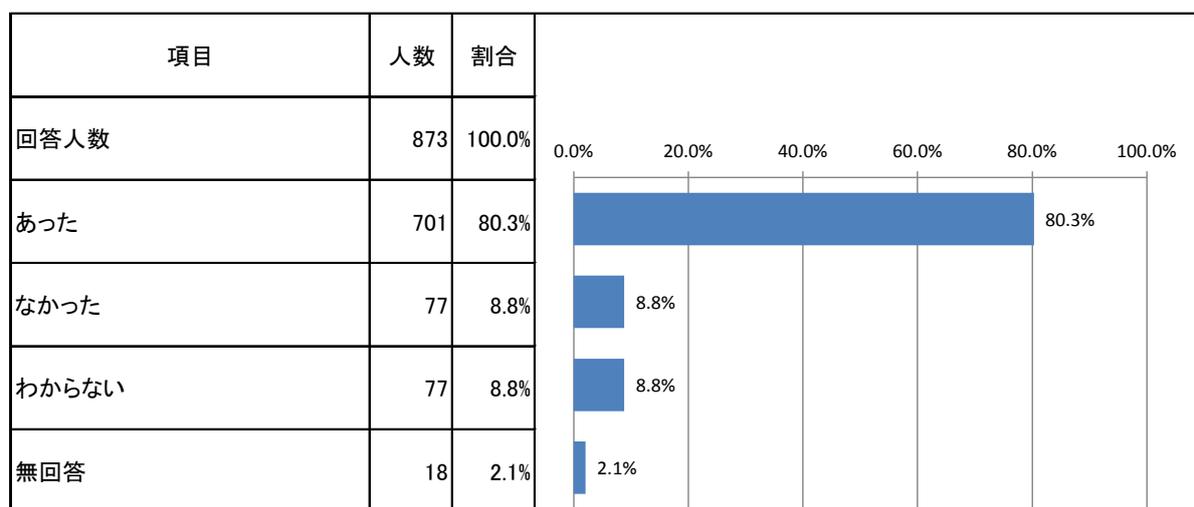
交通安全に関する情報源については、「テレビ・ラジオ・新聞」が77.3%と最も多く、次いで「家族・親戚」が51.0%、「保育園・幼稚園」が49.9%となっている。



問 11 問 10 の情報を得た後、交通安全に関して、あなた（保護者）は対象のお子さんに対する考え方や行動の変化はありましたか。（ひとつに〇）

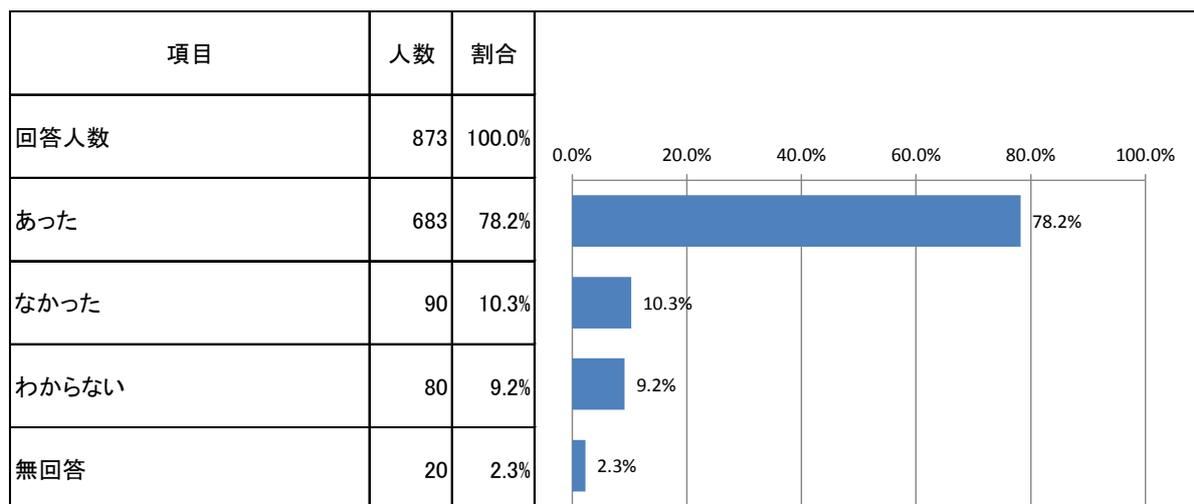
A 考え方の変化

交通安全に関する情報取得後、子どもに対する保護者の考え方の変化については、「あった」が80.3%と最も多く、次いで「なかった」、「わからない」が8.8%となっている。



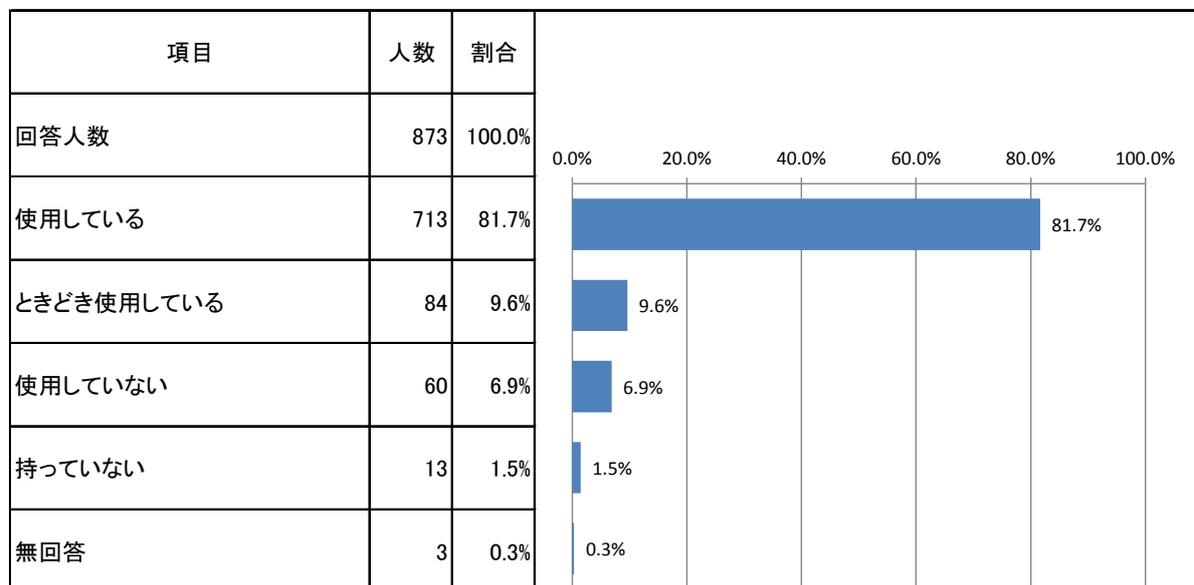
B 行動の変化

交通安全に関する情報取得後、子どもに対する保護者の行動の変化については、「あった」が78.2%と最も多く、次いで「なかった」が10.3%、「わからない」が9.2%となっている。



問 12 あなた（保護者）は、対象のお子さんが車に乗る際にチャイルドシートを使用していますか。（ひとつに〇）

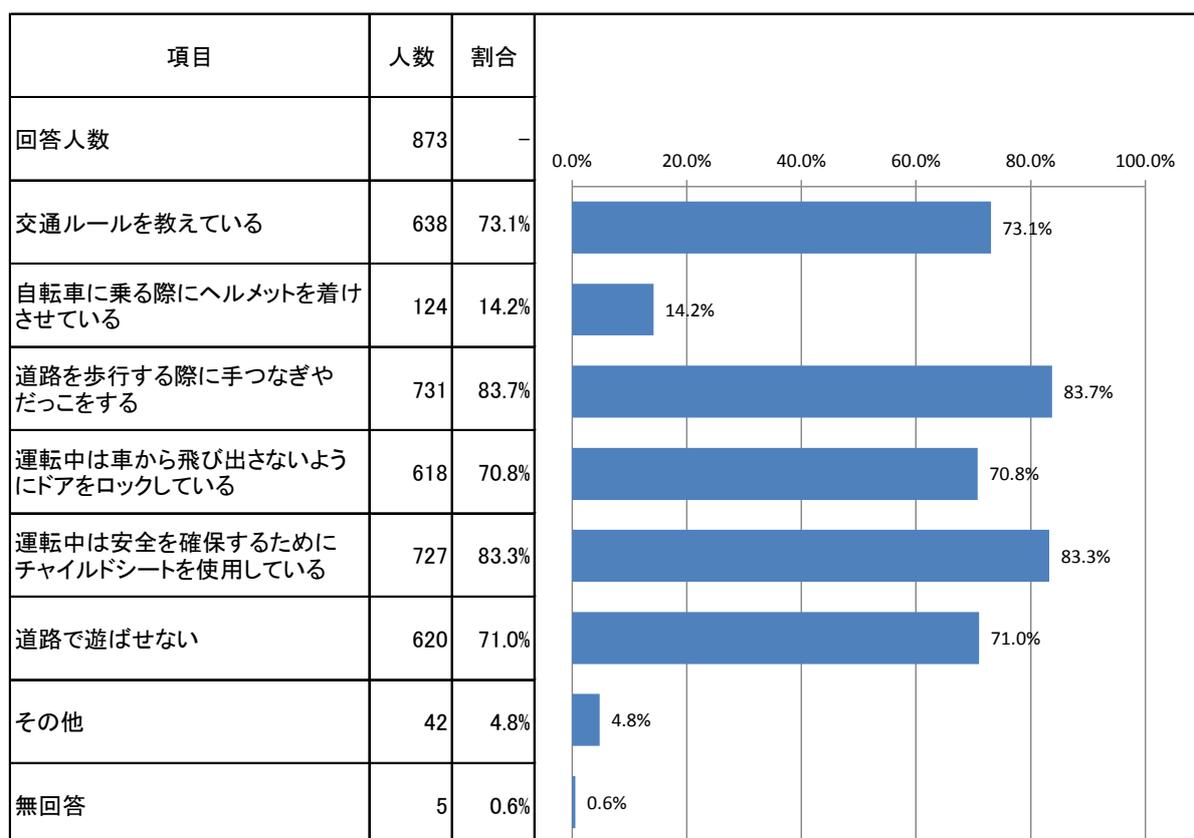
チャイルドシートの使用頻度については、「使用している」が 81.7%と最も多く、次いで「ときどき使用している」が 9.6%、「使用していない」が 6.9%となっている。



問 13 あなた（保護者）は、日頃から対象のお子さんのためにどのような交通安全対策をとっていますか。（あてはまるものすべてに○）

日頃の交通安全対策については、「道路を歩行する際に手つなぎやだっこをする」が 83.7%と最も多く、次いで「運転中は安全を確保するためにチャイルドシートを使用している」が 83.3%、「交通ルールを教えている」が 73.1%となっている。

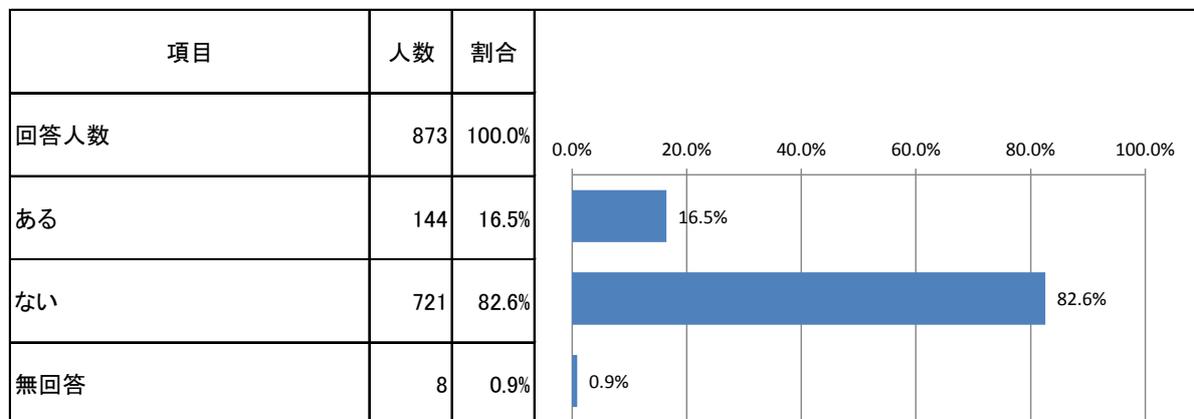
「その他」の具体的な内容としては「危険性のある所をその都度教えている」、「交通安全に関する絵本を読んであげている」、「駐車場で遊ばせない」等が挙げられた。



【乳幼児】

問 14 車内で対象のお子さんがけがをしたまたは危険な目にあったことがありますか。(ひとつに○)

自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあったことについては、「ある」が16.5%、「ない」が82.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、3歳以上の「ある」が18.9%で、2歳以下の11.2%に比べてやや高くなっている。

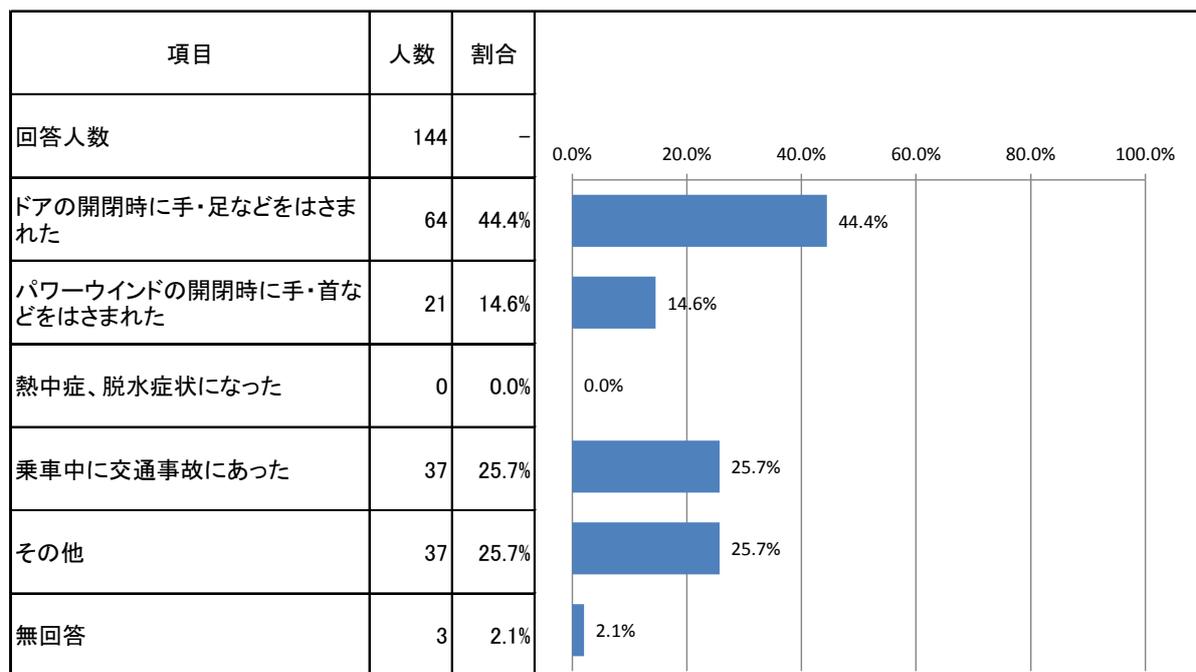
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	873	100.0%	449	100.0%	421	100.0%	3	100.0%	258	100.0%	610	100.0%	5	100.0%
ある	144	16.5%	78	17.4%	66	15.7%	0	0.0%	29	11.2%	115	18.9%	0	0.0%
ない	721	82.6%	367	81.7%	351	83.4%	3	100.0%	227	88.0%	489	80.2%	5	100.0%
無回答	8	0.9%	4	0.9%	4	1.0%	0	0.0%	2	0.8%	6	1.0%	0	0.0%

【乳幼児】

※問 14 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 14-1 どんな状況でしたか。(あてはまるものすべてに○)

自動車内で子どもが経験した危険な状況については、「ドアの開閉時に手・足などをはさまれた」が 44.4%と最も多く、次いで「乗車中に交通事故にあった」が 25.7%、「パワーウインドの開閉時に手・首などをはさまれた」が 14.6%となっている。「その他」の具体的な内容としては、「急ブレーキでひっくり返った」等が挙げられた。



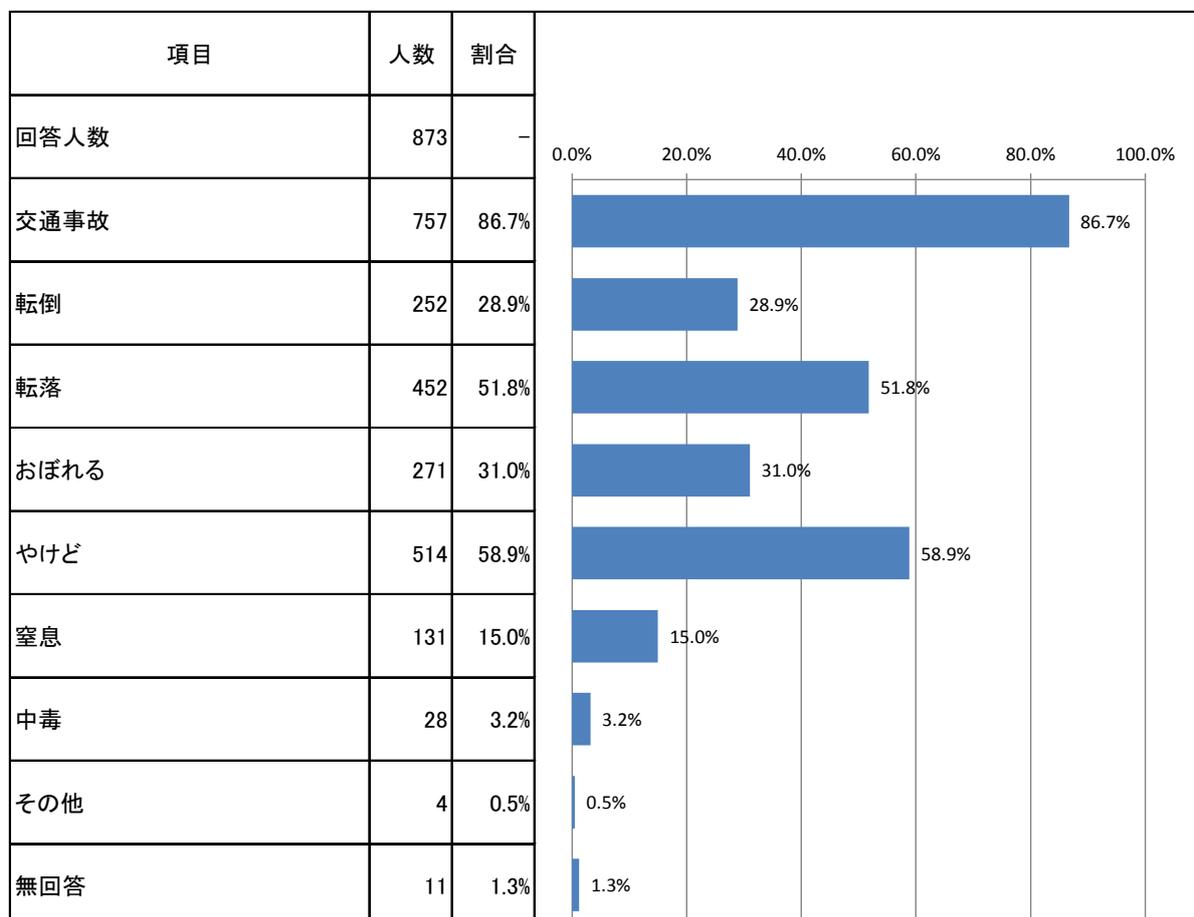
【属性別特徴】

性別では、男の「ドアの開閉時に手・足などをはさまれた」が 52.6%で、女の 34.8%と比べて高くなっている。年齢別では、3歳以上の「ドアの開閉時に手・足などをはさまれた」が 48.7%で、2歳以下の 27.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	144	-	78	-	66	-	0	-	29	-	115	-	0	-
ドアの開閉時に手・足などをはさまれた	64	44.4%	41	52.6%	23	34.8%	0	0.0%	8	27.6%	56	48.7%	0	0.0%
パワーウインドの開閉時に手・首などをはさまれた	21	14.6%	14	17.9%	7	10.6%	0	0.0%	5	17.2%	16	13.9%	0	0.0%
熱中症、脱水症状になった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
乗車中に交通事故にあった	37	25.7%	17	21.8%	20	30.3%	0	0.0%	6	20.7%	31	27.0%	0	0.0%
その他	37	25.7%	14	17.9%	23	34.8%	0	0.0%	13	44.8%	24	20.9%	0	0.0%
無回答	3	2.1%	1	1.3%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.6%	0	0.0%

問 15 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれる、やけど、窒息、中毒などをいいますが、対象のお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。（3つまで○）

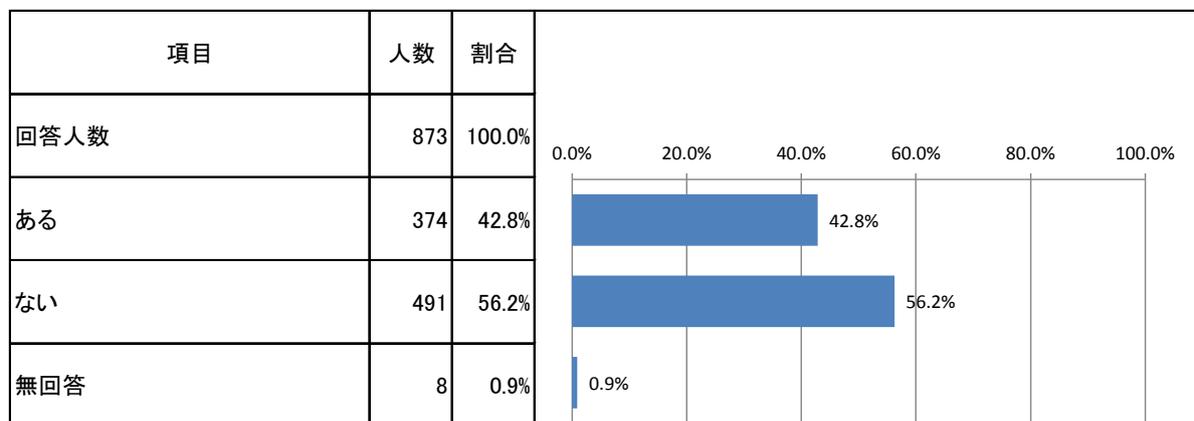
特に注意している不慮の事故については、「交通事故」が86.7%と最も多く、次いで「やけど」が58.9%、「転落」が51.8%となっている。



【乳幼児】

問 16 対象のお子さんが、この1年間（平成24年10月から平成25年9月まで）にもう少して「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに〇）

「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとした経験については、「ある」が42.8%、「ない」が56.2%となっている。



【属性別特徴】

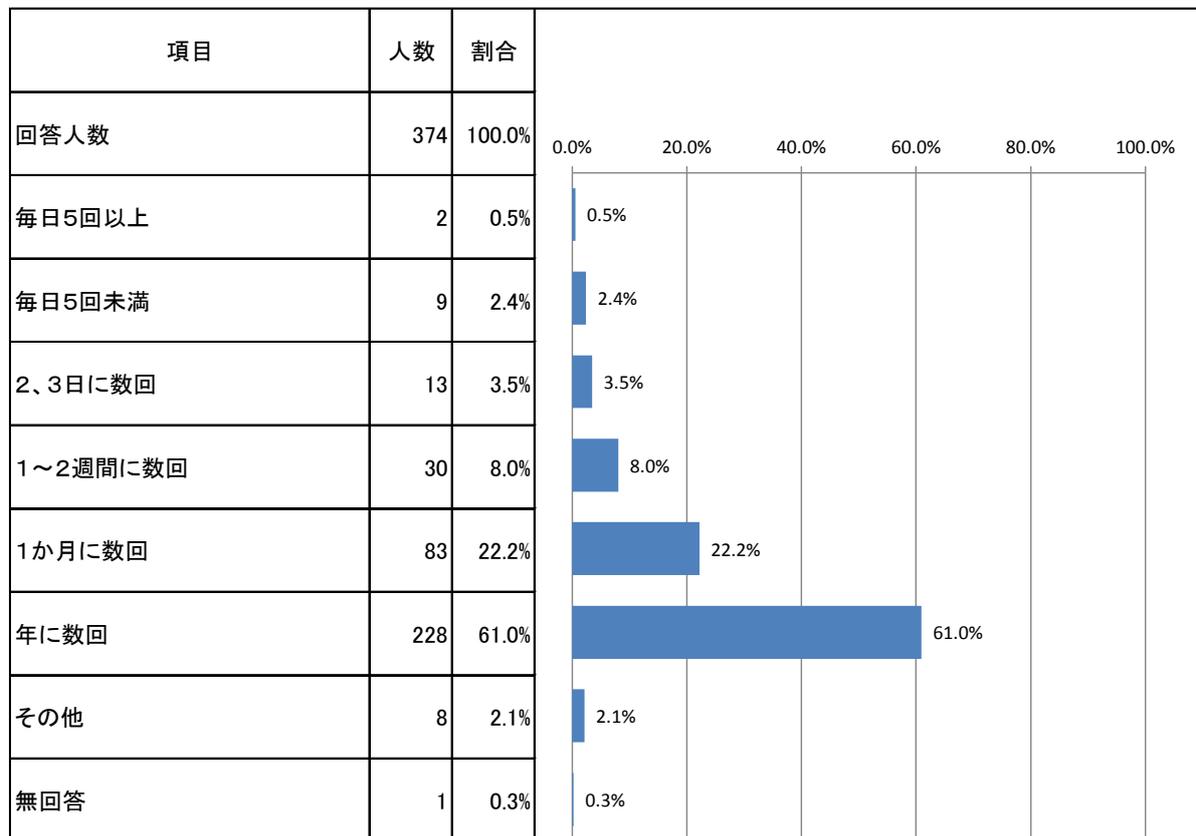
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	873	100.0%	449	100.0%	421	100.0%	3	100.0%	258	100.0%	610	100.0%	5	100.0%
ある	374	42.8%	195	43.4%	177	42.0%	2	66.7%	118	45.7%	254	41.6%	2	40.0%
ない	491	56.2%	251	55.9%	239	56.8%	1	33.3%	138	53.5%	350	57.4%	3	60.0%
無回答	8	0.9%	3	0.7%	5	1.2%	0	0.0%	2	0.8%	6	1.0%	0	0.0%

※問 16 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

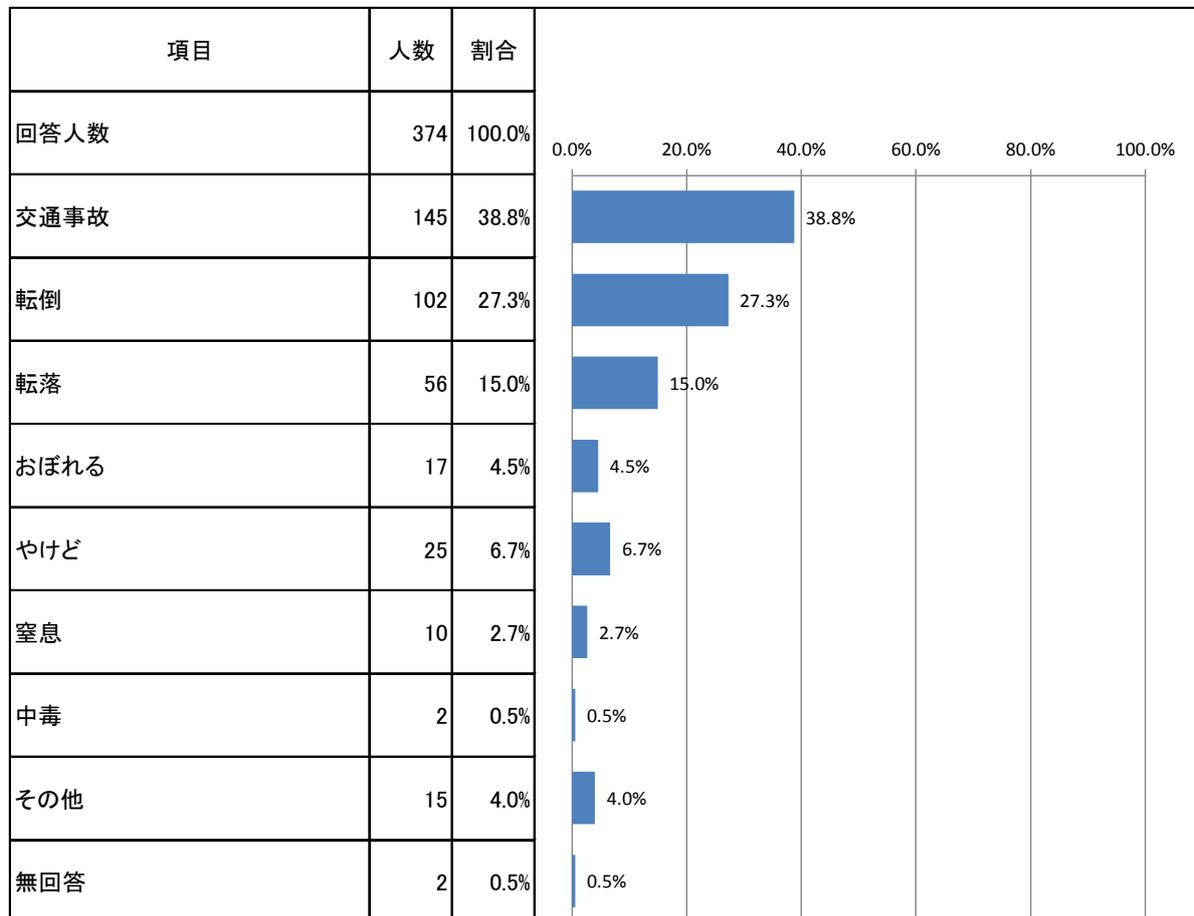
問 16-1 この1年間に対象のお子さんでヒヤリとしたことはどのくらいの頻度
 ありますか。(一番近いものひとつに○)

1年間、子どもでヒヤリとした頻度については、「年に数回」が61.0%と最も多く、
 次いで「1か月に数回」が22.2%、「1～2週間に数回」が8.0%となっている。



問 16-2 この1年間に対象のお子さんで一番多くヒヤリとした体験は何ですか。
(ひとつに○)

1年間、一番多くヒヤリとした体験については、「交通事故」が38.8%と最も多く、次いで「転倒」が27.3%、「転落」が15.0%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

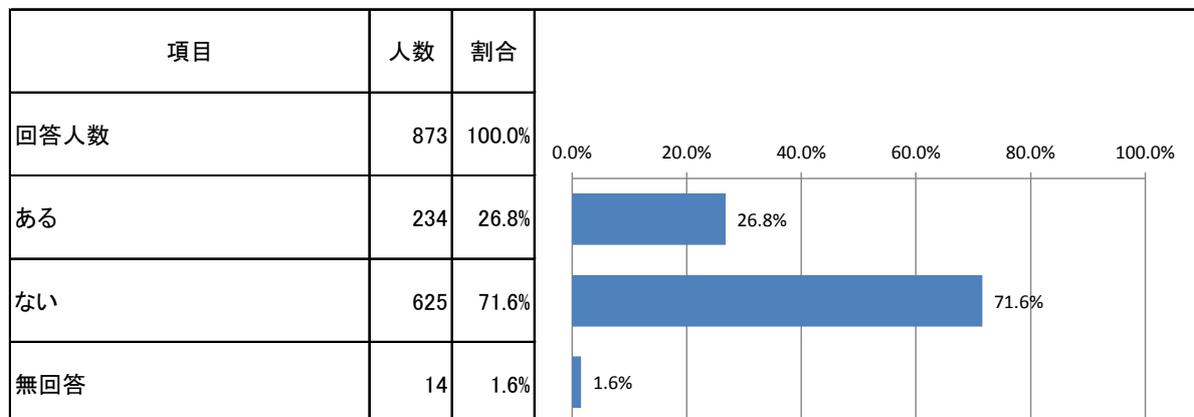
年齢別では、3歳以上の「交通事故」が49.6%、2歳以下の「転倒」が39.0%と最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	374	100.0%	195	100.0%	177	100.0%	2	100.0%	118	100.0%	254	100.0%	2	100.0%
交通事故	145	38.8%	77	39.5%	67	37.9%	1	50.0%	17	14.4%	126	49.6%	2	100.0%
転倒	102	27.3%	51	26.2%	50	28.2%	1	50.0%	46	39.0%	56	22.0%	0	0.0%
転落	56	15.0%	33	16.9%	23	13.0%	0	0.0%	33	28.0%	23	9.1%	0	0.0%
おぼれる	17	4.5%	9	4.6%	8	4.5%	0	0.0%	7	5.9%	10	3.9%	0	0.0%
やけど	25	6.7%	9	4.6%	16	9.0%	0	0.0%	7	5.9%	18	7.1%	0	0.0%
窒息	10	2.7%	4	2.1%	6	3.4%	0	0.0%	3	2.5%	7	2.8%	0	0.0%
中毒	2	0.5%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.4%	0	0.0%
その他	15	4.0%	10	5.1%	5	2.8%	0	0.0%	4	3.4%	11	4.3%	0	0.0%
無回答	2	0.5%	0	0.0%	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%	0	0.0%

【乳幼児】

問 17 対象のお子さんは、この1年間に「事故やけが」の経験がありますか。
(ひとつに〇)

1年間、子どもが事故やけがをした経験については、「ある」が26.8%、「ない」が71.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「ない」が74.8%で、男の68.6%に比べてやや高くなっている。
年齢別では、大きな差異はみられない。

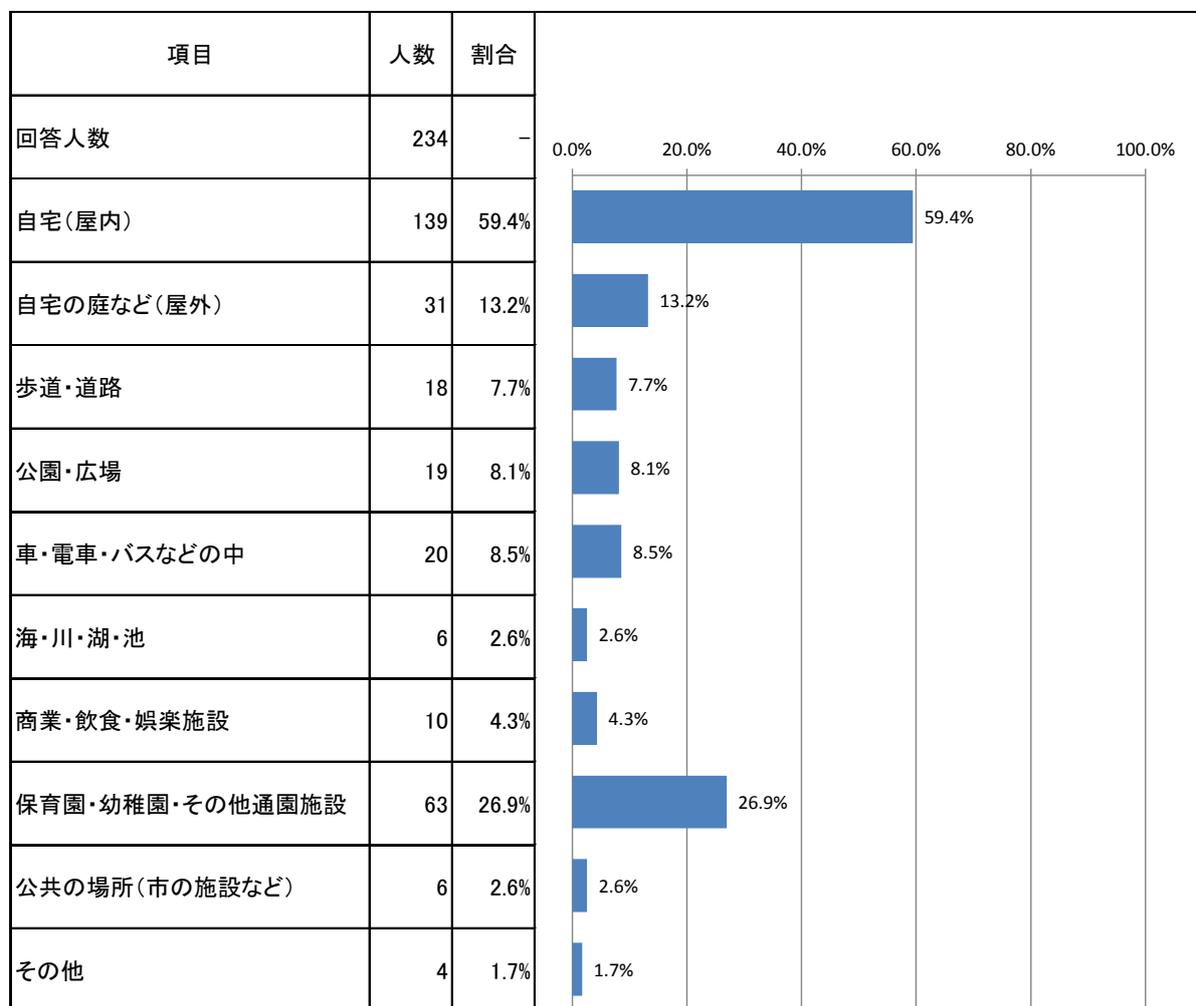
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	873	100.0%	449	100.0%	421	100.0%	3	100.0%	258	100.0%	610	100.0%	5	100.0%
ある	234	26.8%	129	28.7%	104	24.7%	1	33.3%	75	29.1%	159	26.1%	0	0.0%
ない	625	71.6%	308	68.6%	315	74.8%	2	66.7%	180	69.8%	440	72.1%	5	100.0%
無回答	14	1.6%	12	2.7%	2	0.5%	0	0.0%	3	1.2%	11	1.8%	0	0.0%

※問 17 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 18 対象のお子さんのこの 1 年間（平成 24 年 10 月～平成 25 年 9 月）にあった事故やけがについて、ア：場所、イ：種類、ウ：医療機関の受診の状況、エ：その事故やけがを未然に防ぐことができた可能性を、それぞれ 1 つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大 2 件までご回答ください。

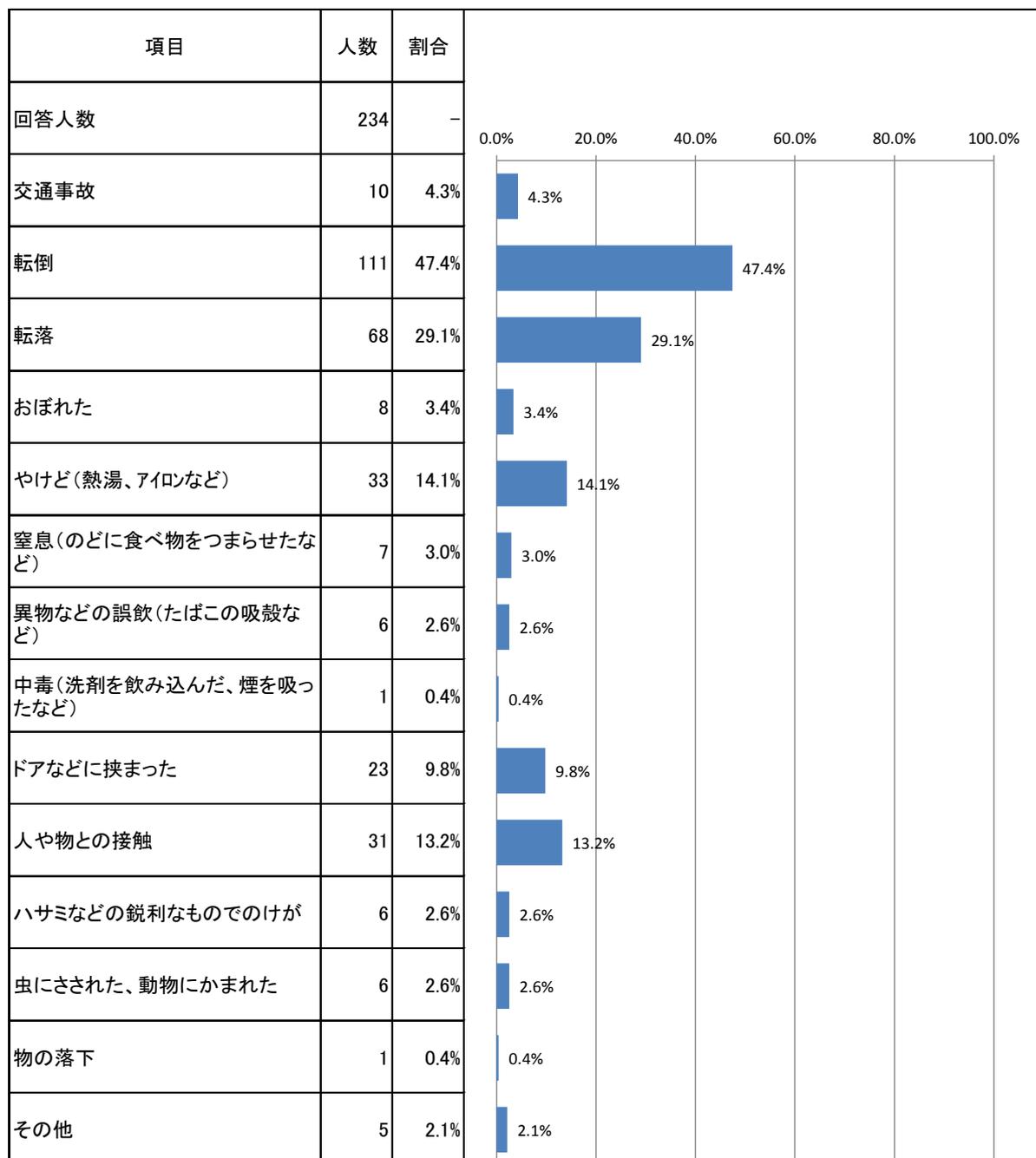
ア 事故やけがをした場所

事故やけがをした場所については、「自宅（屋内）」が 59.4%と最も多く、次いで「保育園・幼稚園・その他通園施設」が 26.9%、「自宅の庭など（屋外）」が 13.2%となっている。



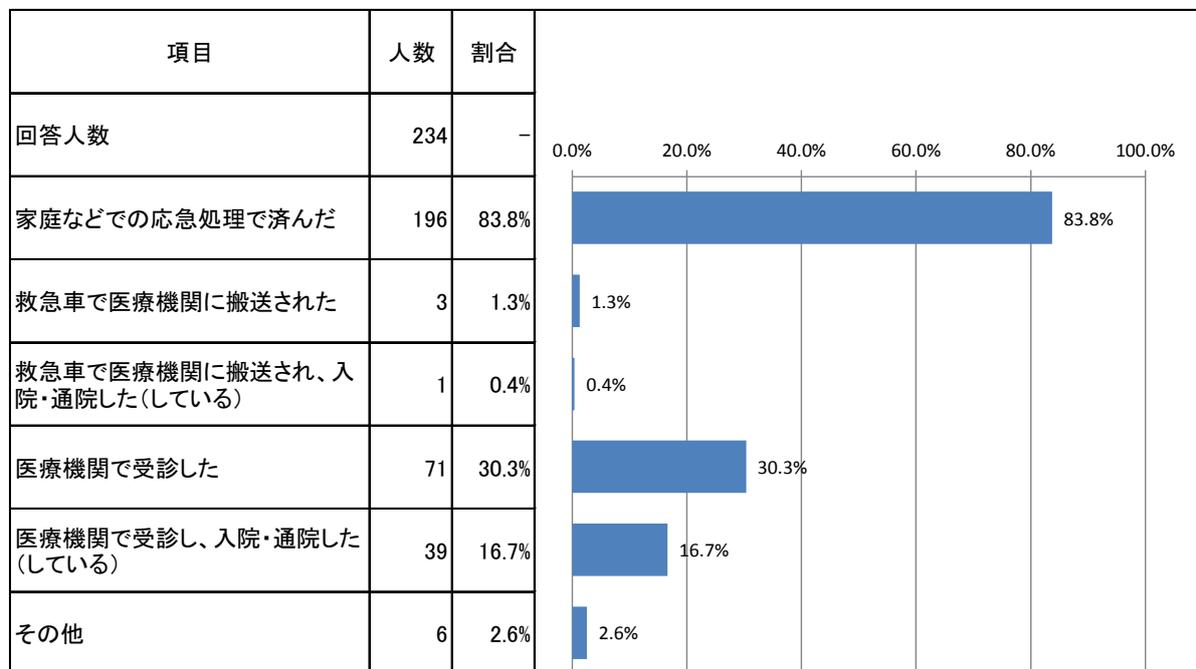
イ 事故やけがの種類

事故やけがの種類については、「転倒」が 47.4%と最も多く、次いで「転落」が 29.1%、「やけど（熱湯・アイロンなど）」が 14.1%となっている。



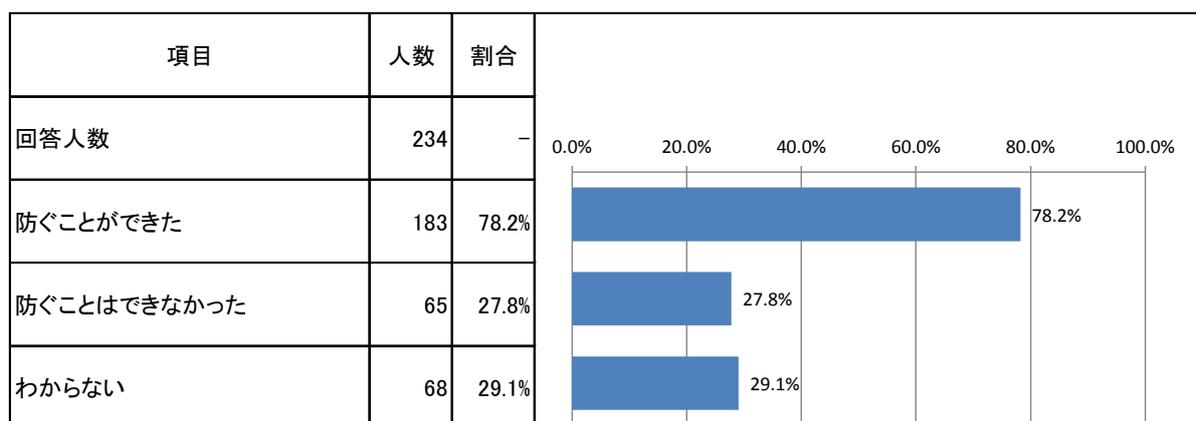
ウ 医療機関の受診

医療機関の受診については、「家庭などでの応急処理で済んだ」が 83.8%と最も多く、次いで「医療機関で受診した」が 30.3%、「医療機関で受診し、入院・通院した（している）」が 16.7%となっている。



エ 未然に防ぐことができた可能性

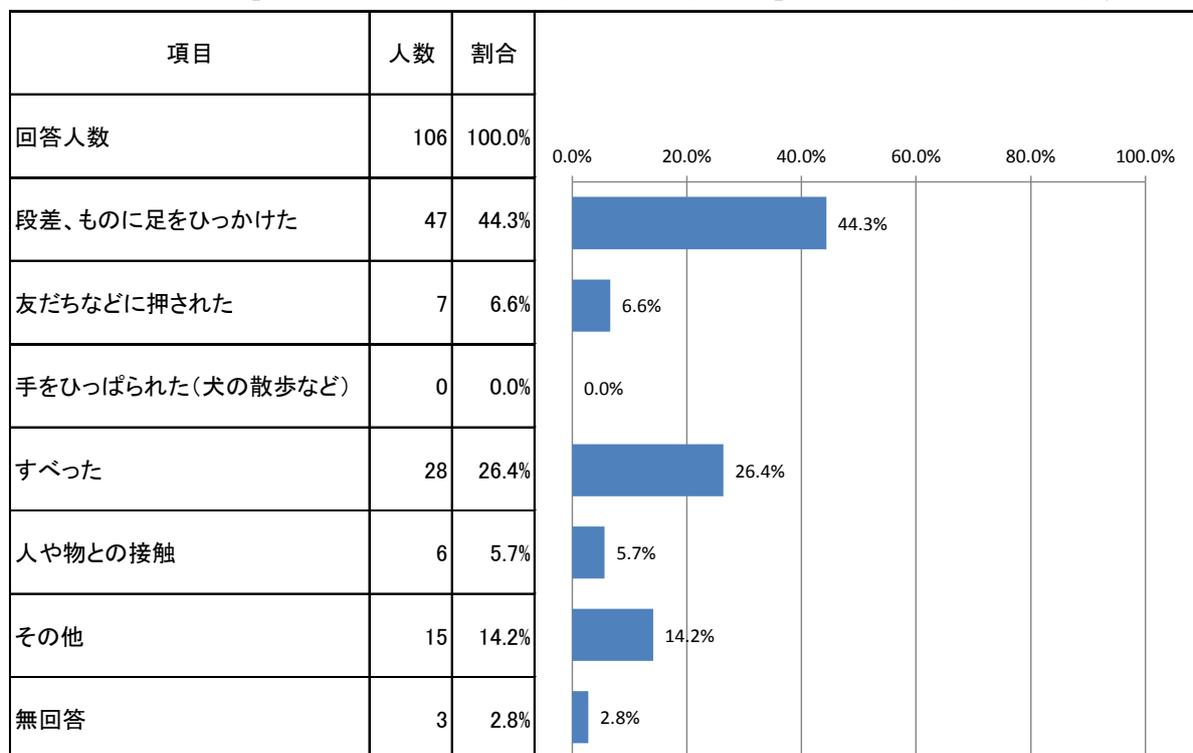
未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が 78.2%と最も多く、次いで「わからない」が 29.1%、「防ぐことはできなかった」が 27.8%となっている。



※問 18 の『イ 事故やけがの種類』で『②転倒』とご回答された方にお聞きします。

問 18-1 転倒の原因（ひとつに○）

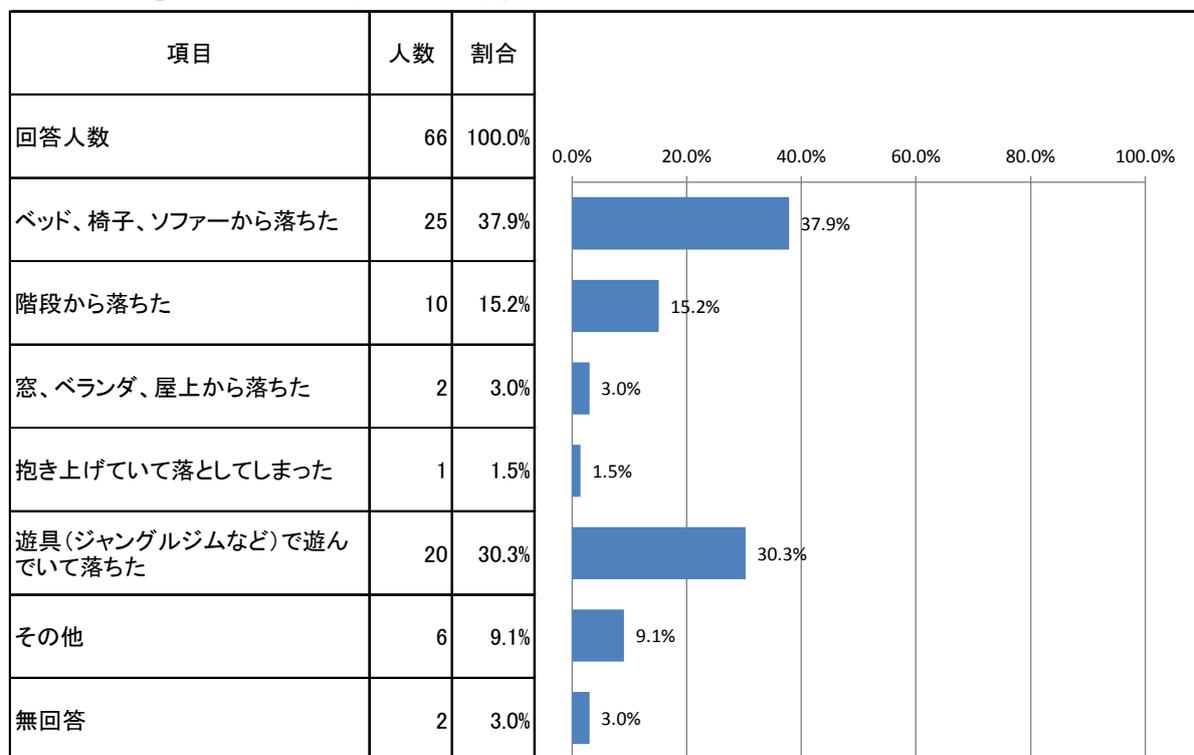
転倒の原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が 44.3%と最も多く、次いで「すべった」が 26.4%、「友だちなどに押された」が 6.6%となっている。



※問 18 の『イ 事故やけがの種類』で『③転落』とご回答された方にお聞きします。

問 18-2 転落の原因（ひとつに○）

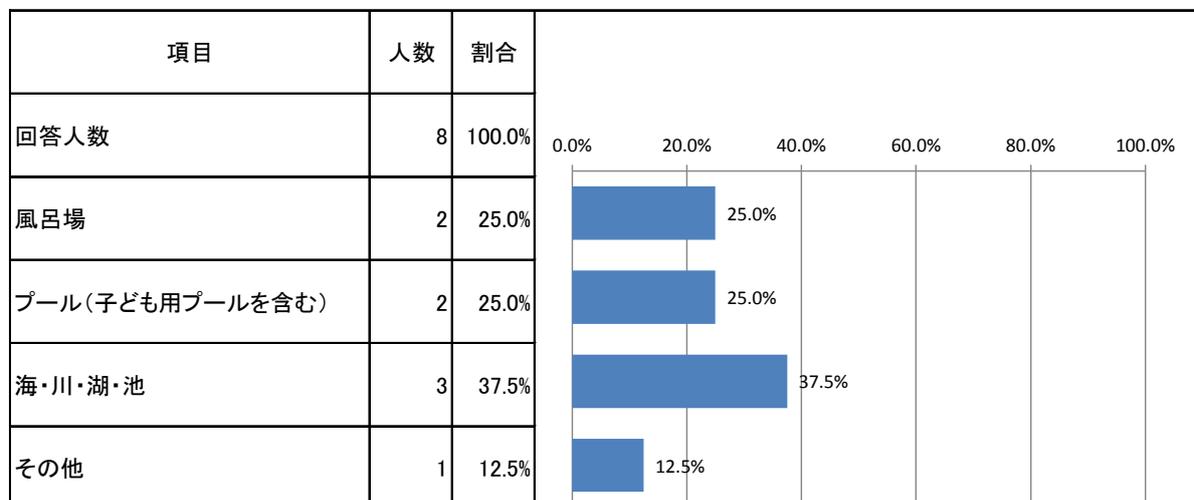
転落の原因については、「ベッド、椅子、ソファから落ちた」が 37.9%と最も多く、次いで「遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた」が 30.3%、「階段から落ちた」が 15.2%となっている。



※問 18 の『イ 事故やけがの種類』で『④おぼれた』とご回答された方にお聞きします。

問 18-3 おぼれた場所（ひとつに○）

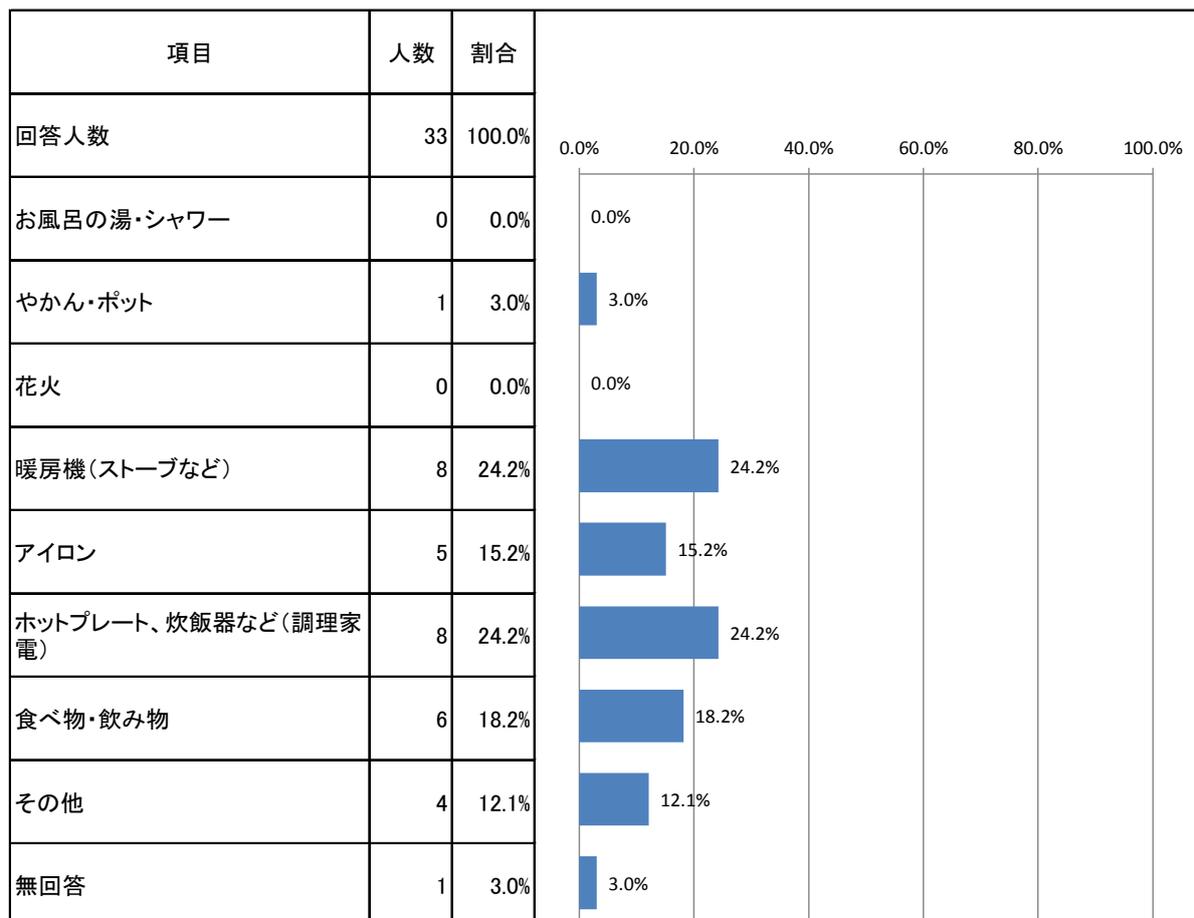
おぼれた場所については、「海・川・湖・池」が 37.5%と最も多く、次いで「風呂場」、「プール（子ども用プールを含む）」が 25.0%となっている。



※問 18 の『イ 事故やけがの種類』で『⑤やけど』とご回答された方にお聞きします。

問 18-4 やけどの原因（ひとつに○）

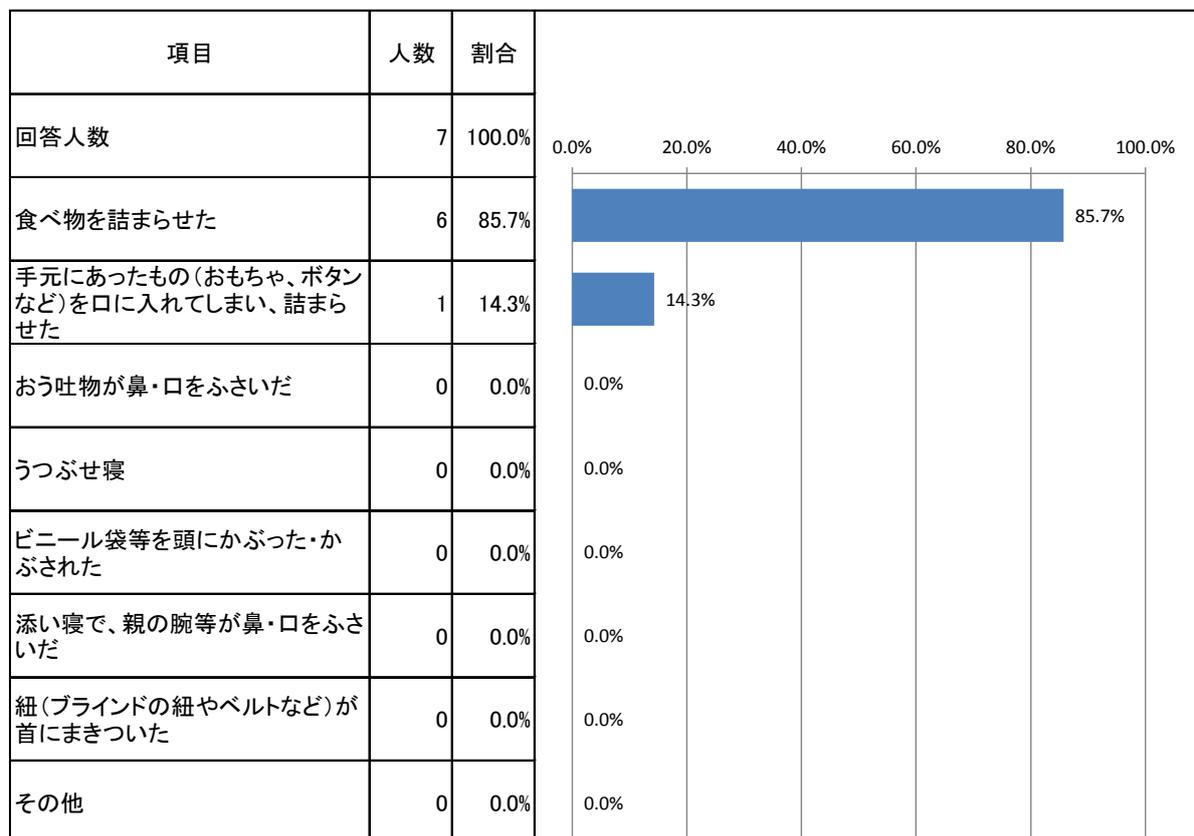
やけどの原因については、「暖房機（ストーブなど）」、「ホットプレート、炊飯器など（調理家電）」が 24.2%と最も多く、次いで「食べ物・飲み物」が 18.2%となっている。



※問 18 の『イ 事故やけがの種類』で『⑥窒息』とご回答された方にお聞きします。

問 18-5 窒息の原因・状況（ひとつに○）

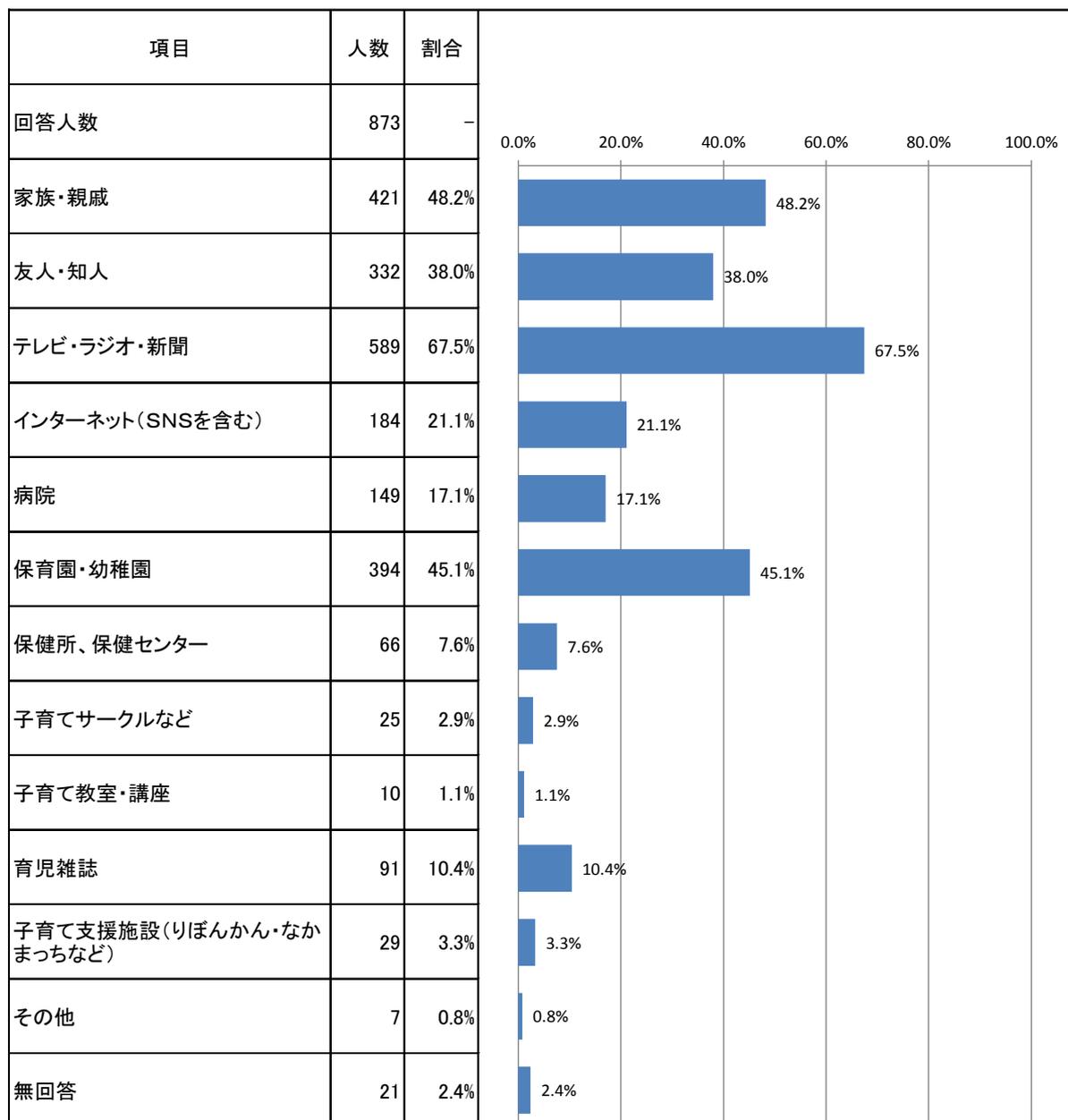
窒息の原因・状況については、「食べ物を詰ませた」が 85.7%と最も多く、次いで「手元にあったもの（おもちゃ、ボタンなど）を口に入れてしまい、詰ませた」が 14.3%となっている。



問 19 お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに(どこ)から得ていますか。
 また、お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、なに(どこ)ですか。(3つまで○)

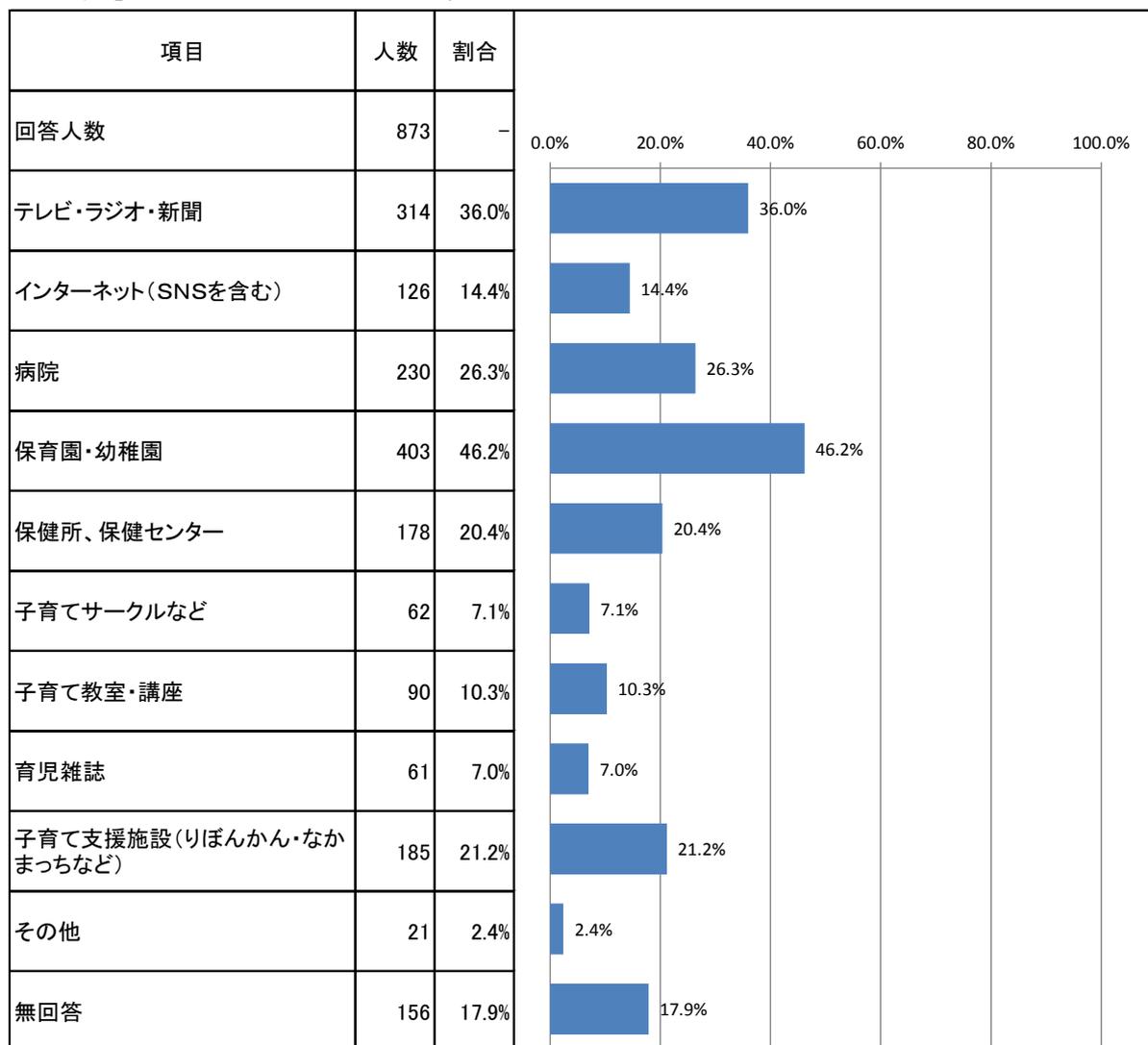
(現在、得ている)

子どもの事故やけがの予防に関する情報源については、「テレビ・ラジオ・新聞」が 67.5%と最も多く、次いで「家族・親戚」が 48.2%、「保育園・幼稚園」が 45.1%となっている。



(充実して欲しい)

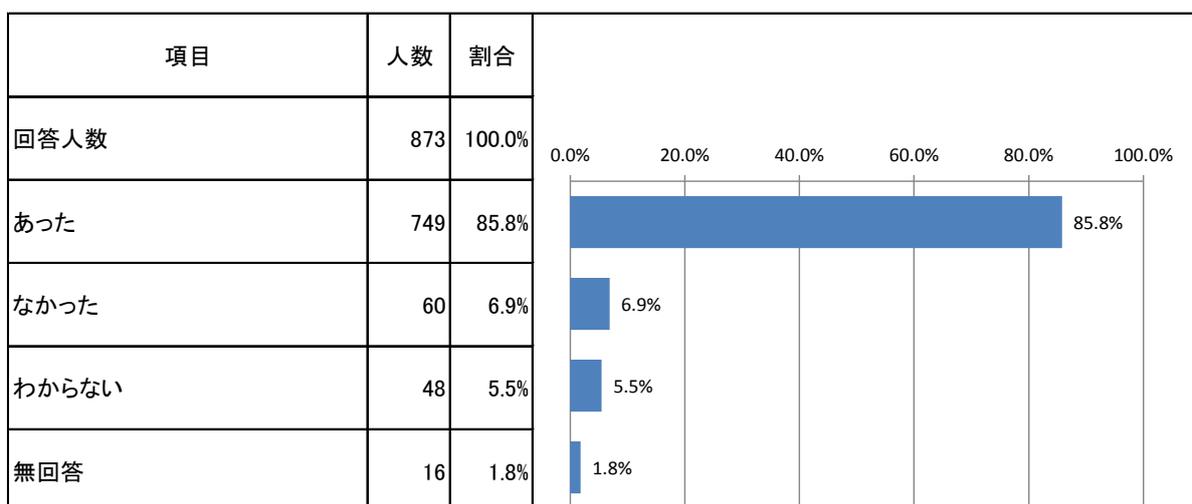
子どもの事故やけがの予防のために充実して欲しい情報源については、「保育園・幼稚園」が 46.2%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞」が 36.0%、「病院」が 26.3%となっている。



問 20 問 19 の情報を収集した後、事故やけがに関して、あなた（保護者）は対象のお子さんに対する考え方や行動の変化はありましたか。（ひとつに○）

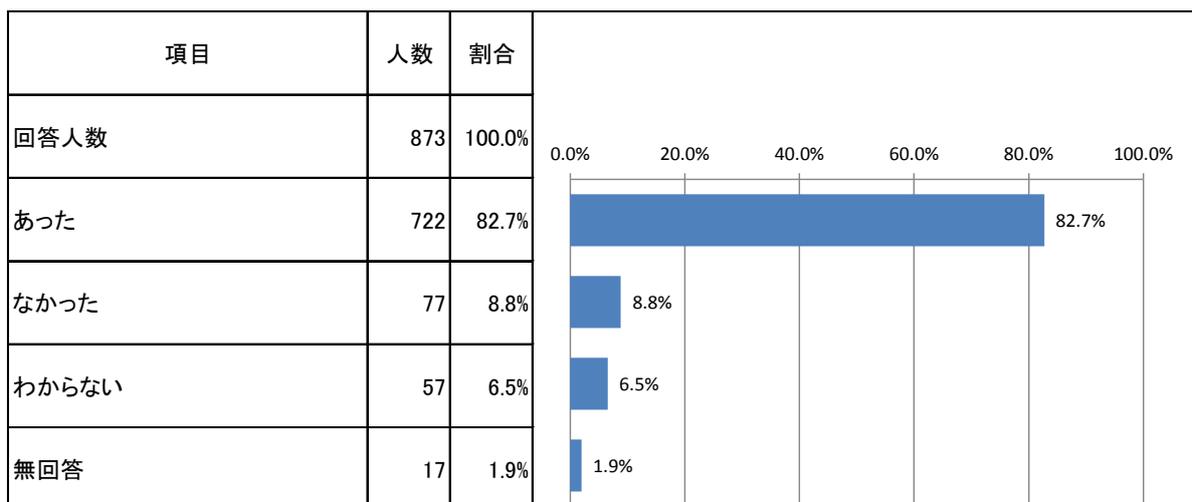
A 考え方の変化

情報収集後、子どもの事故やけがに対する保護者の考え方の変化については、「あった」が85.8%と最も多く、次いで「なかった」が6.9%、「わからない」が5.5%となっている。



B 行動の変化

情報収集後、子どもの事故やけがに対する保護者の行動の変化については、「あった」が82.7%と最も多く、次いで「なかった」が8.8%、「わからない」が6.5%となっている。

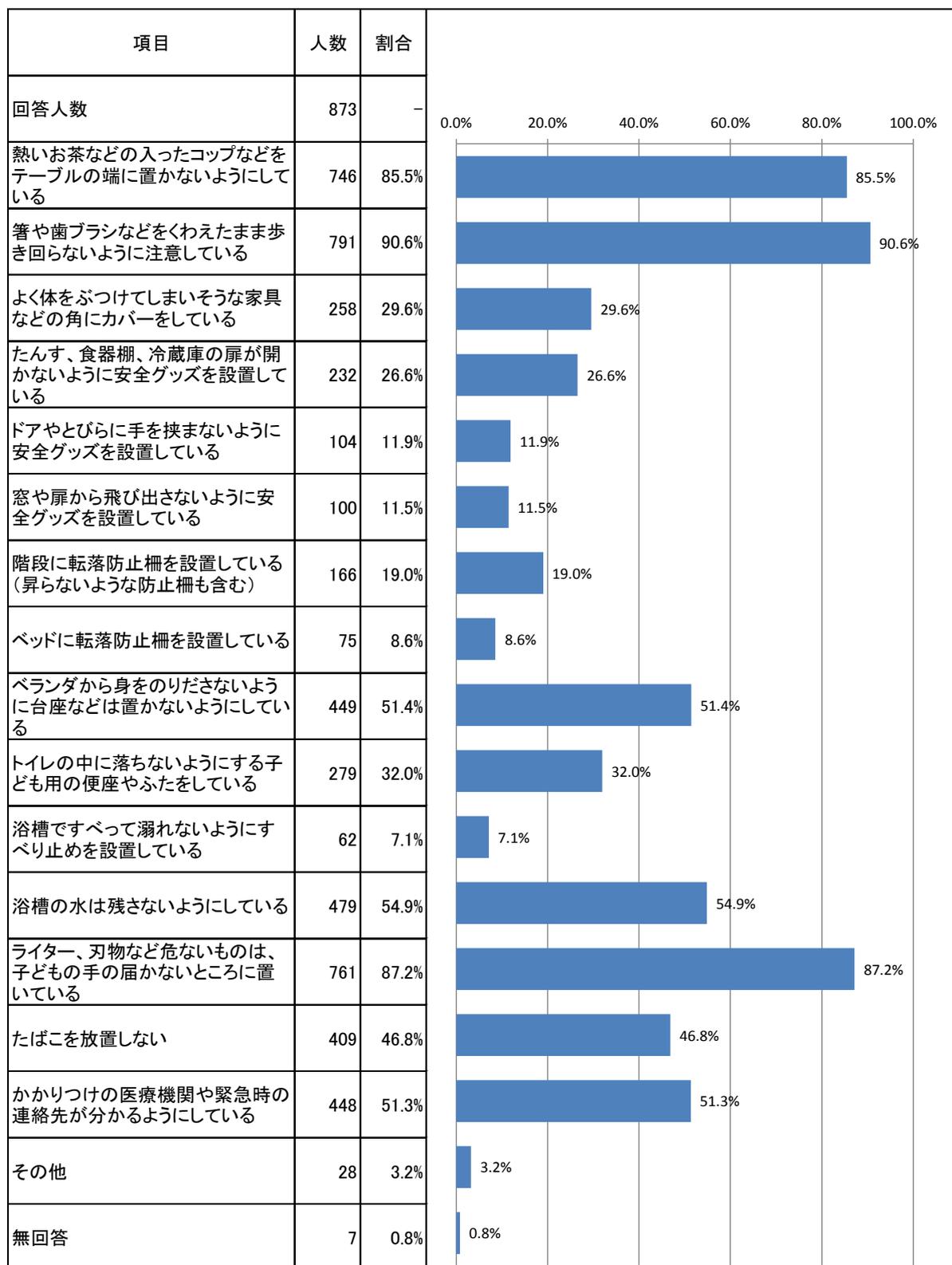


問 21 あなた(保護者)は、日頃からどのような子どもの安全対策をとっていますか。過去にとった対策についても、○をつけてください。

子どもの安全対策については、「箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないように注意している」が 90.6%と最も多く、次いで「ライター・刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている」が 87.2%、「熱いお茶などの入ったコップなどをテーブルの端に置かないようにしている」が 85.5%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「キッチンに入らないように柵をしている」、「コンセントカバーをつけている」、「口に入りそうなおもちゃ・キャップは手が届かないようにしている」等が挙げられた。

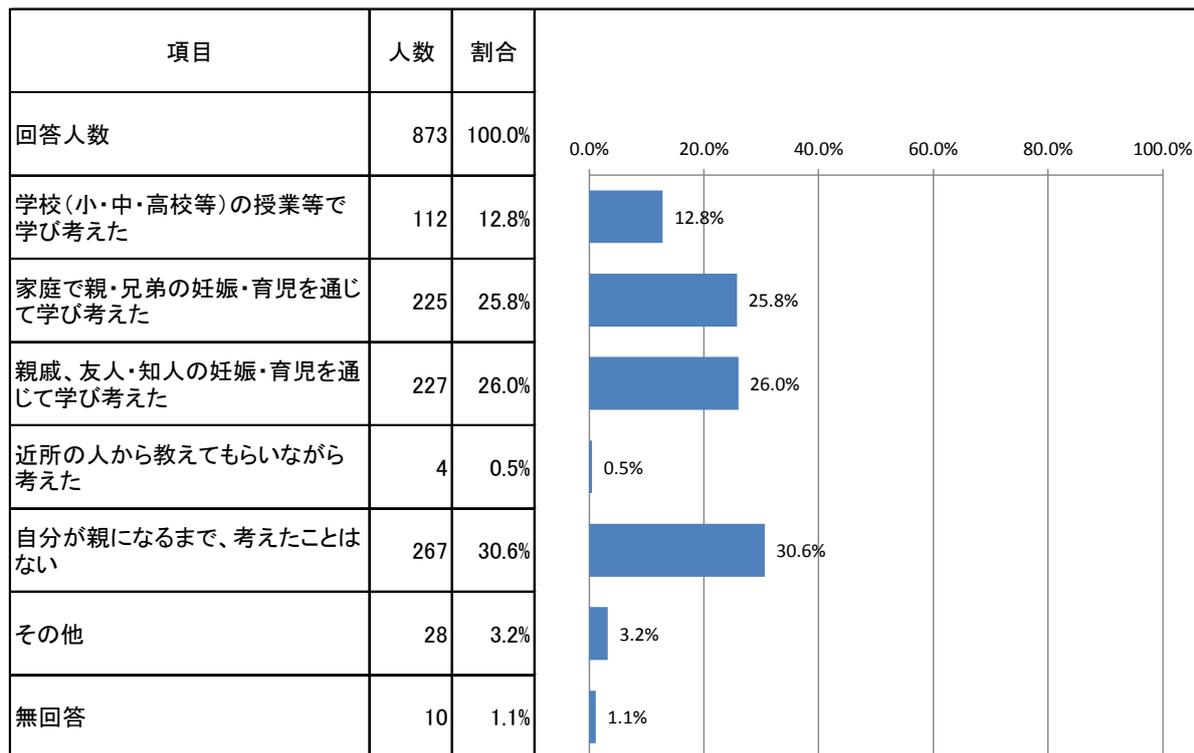
【乳幼児】



問 22 あなた（保護者）は、自分が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて考える機会がありましたか。（ひとつに〇）

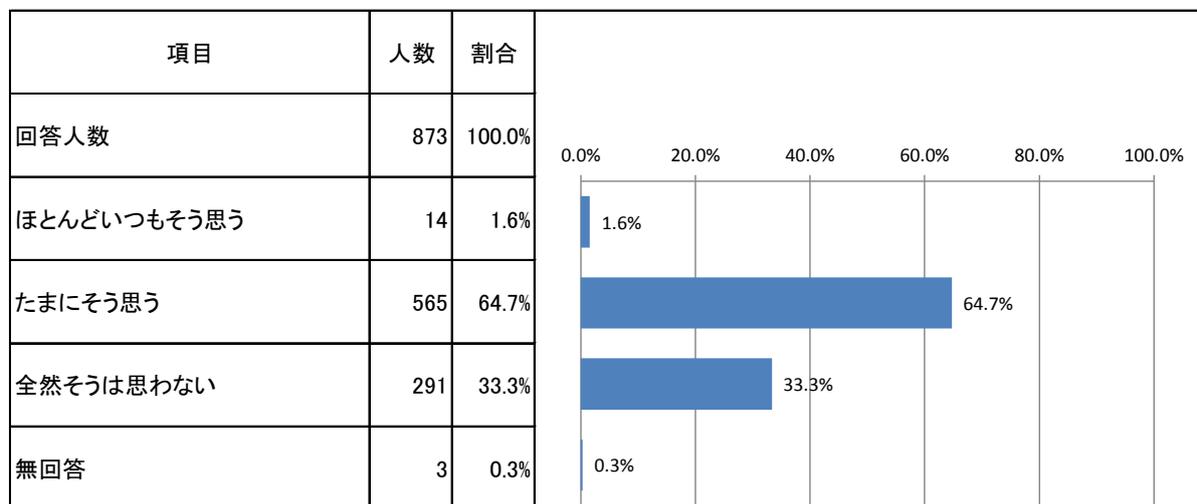
保護者が親になる前に妊娠や子育てのことを考える機会があったかについては、「自分が親になるまで考えたことはない」が 30.6%と最も多く、次いで「親戚・友人・知人の妊娠・育児を通じて学び考えた」が 26.0%、「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が 25.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「保健センターの教室」、「仕事を通して学び考えた」等が挙げられた。



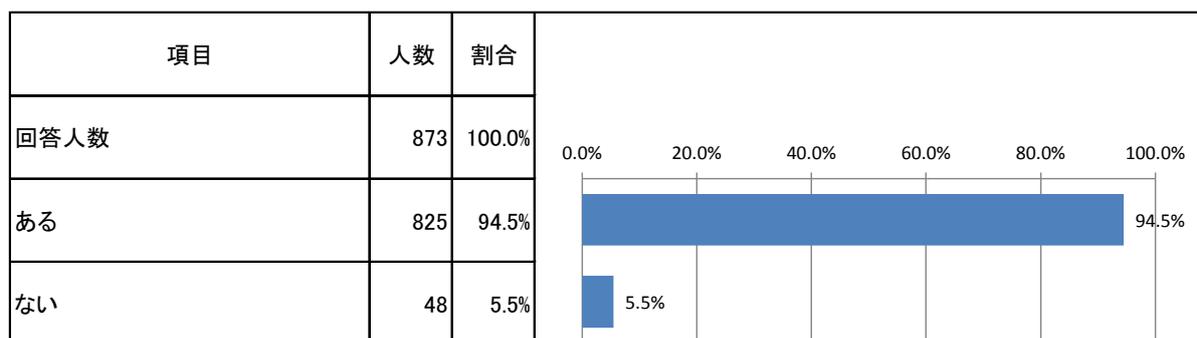
問 23 あなた（保護者）は、子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがありますか。（ひとつに○）

保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについては、「たまにそう思う」が64.7%と最も多く、次いで「全然そうは思わない」が33.3%、「ほとんどいつもそう思う」が1.6%となっている。



問 24 あなた（保護者）は、子育てで困ったときに相談する人や施設がありますか。（ひとつに○）

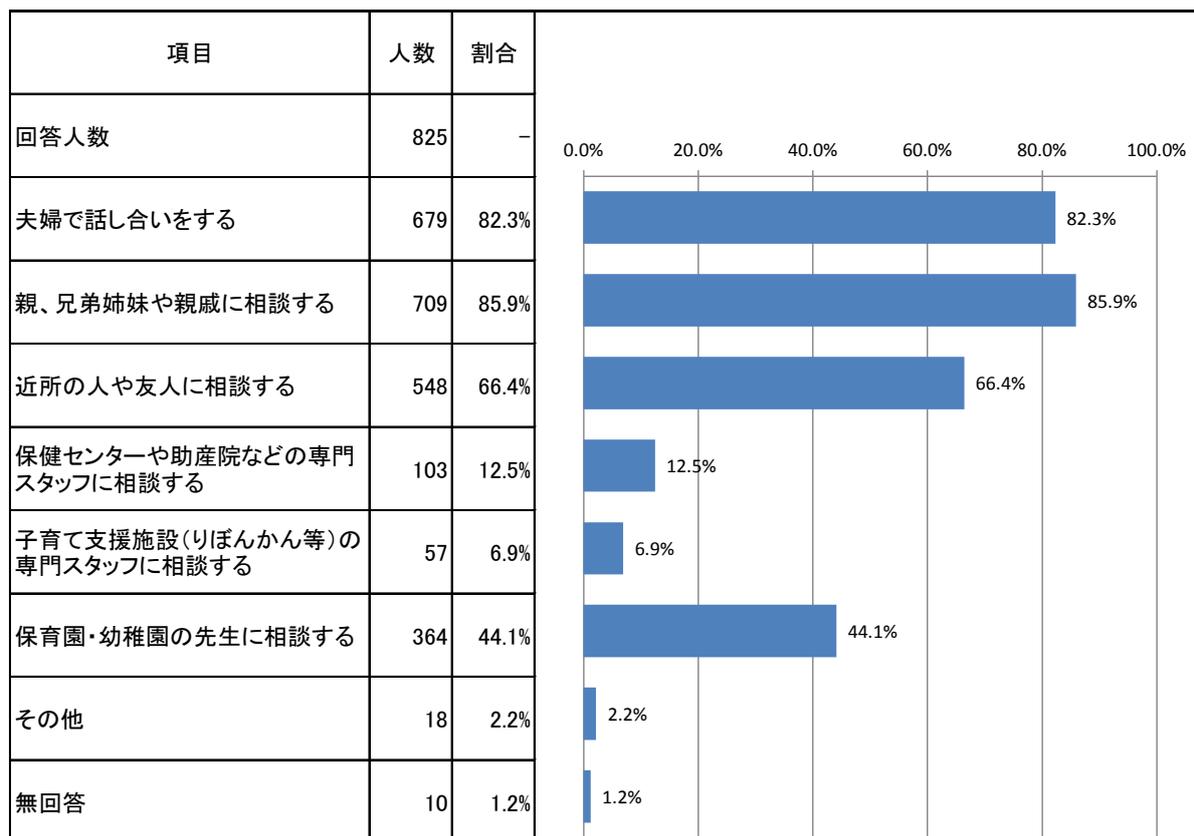
保護者が子育てで困ったときの相談先については、「ある」が94.5%、「ない」が5.5%となっている。



※問 24 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 25 子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

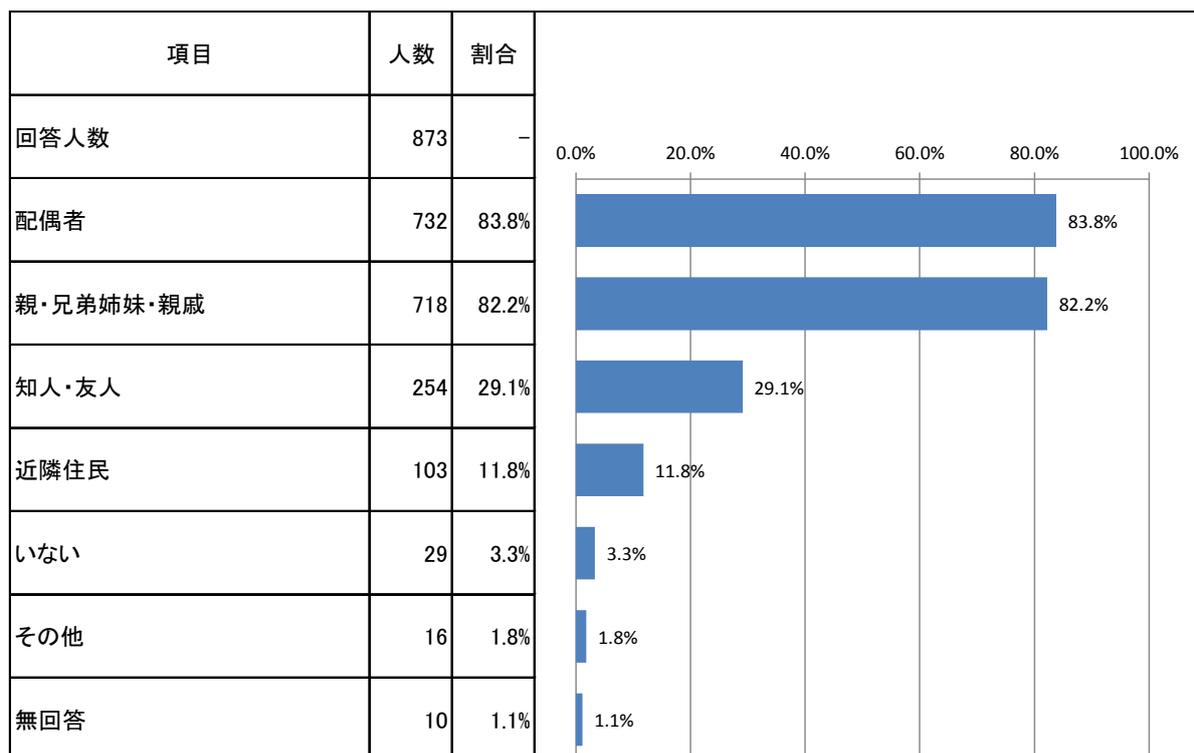
子育てで困ったときの具体的な相談先については、「親・兄弟姉妹や親戚に相談する」が 85.9%と最も多く、次いで「夫婦で話し合いをする」が 82.3%、「近所の人や友人に相談する」が 66.4%となっている。



※問 26 子育て中の親への支援についてお聞きします。

問 26-1 あなた（保護者）の子育てを手伝ってくれる人はいますか。
（あてはまるものすべてに○）

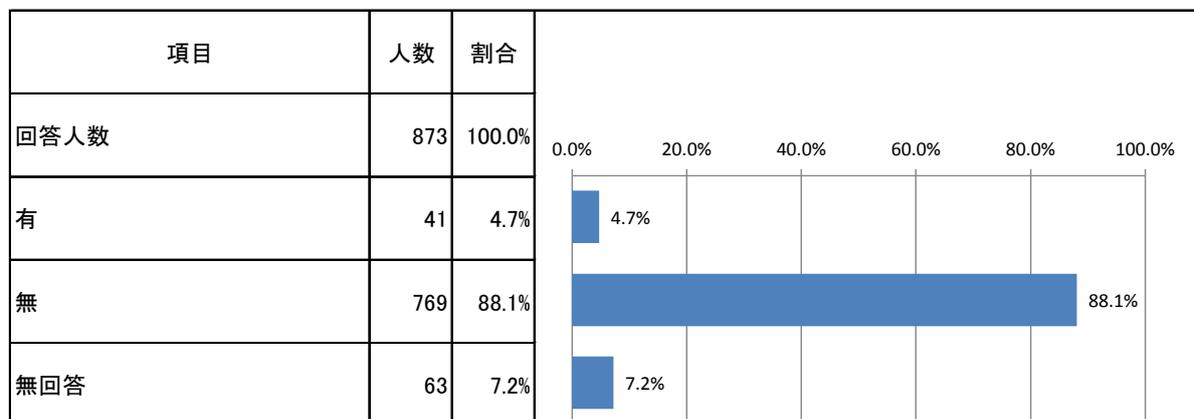
子育てを手伝ってくれる人については、「配偶者」が 83.8%と最も多く、次いで「親・兄弟姉妹・親戚」が 82.2%、「知人・友人」が 29.1%となっている。



問 26-2 あなた（保護者）は、子どもの一時預かりの施設等を利用したことがありますか。（AからDの項目ごとにひとつに○）

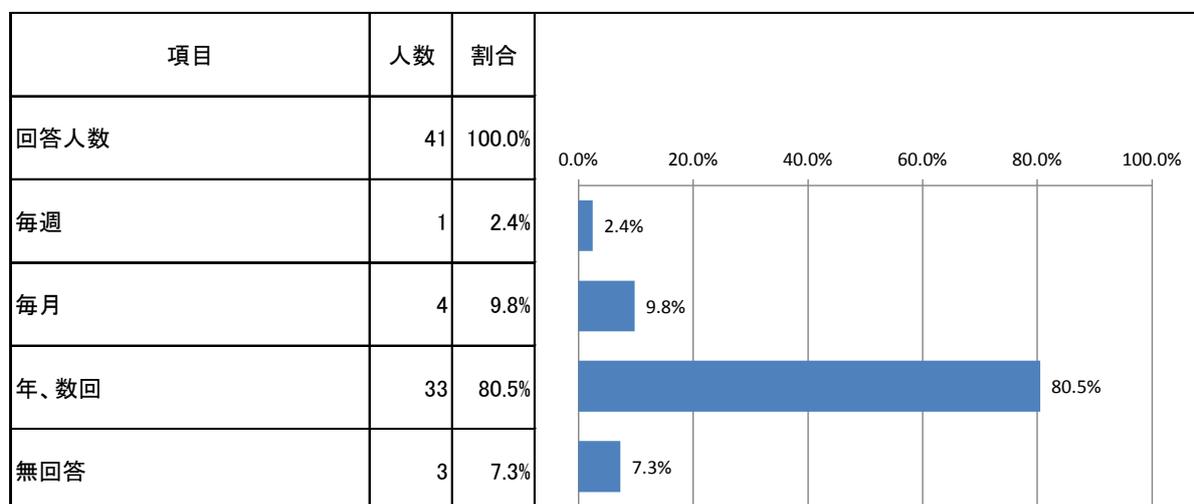
A ファミリー・サポート・センターの育児支援（利用の有無）

ファミリー・サポート・センターの育児支援の利用状況については、「有」が4.7%、「無」が88.1%となっている。



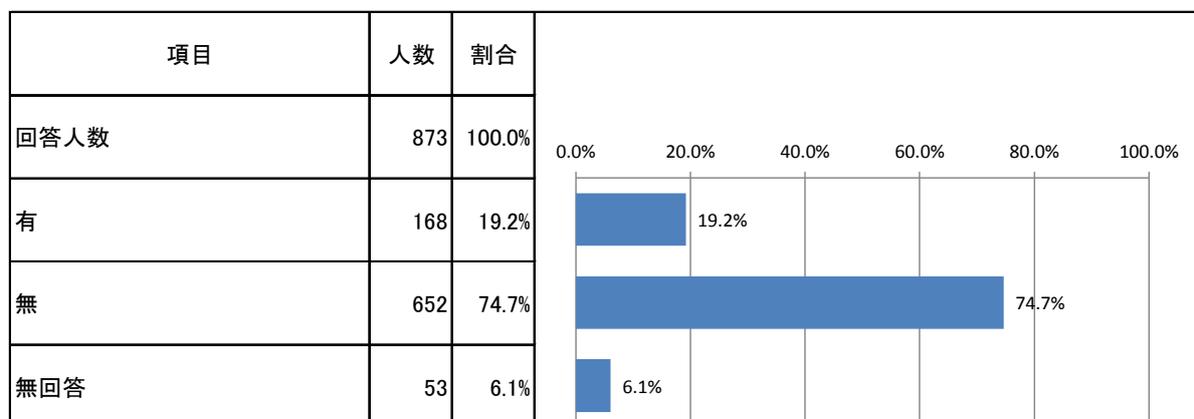
A ファミリー・サポート・センターの育児支援（利用頻度）

ファミリー・サポート・センターの育児支援の利用頻度については、「年、数回」が80.5%と最も多く、次いで「毎月」が9.8%、「毎週」が2.4%となっている。



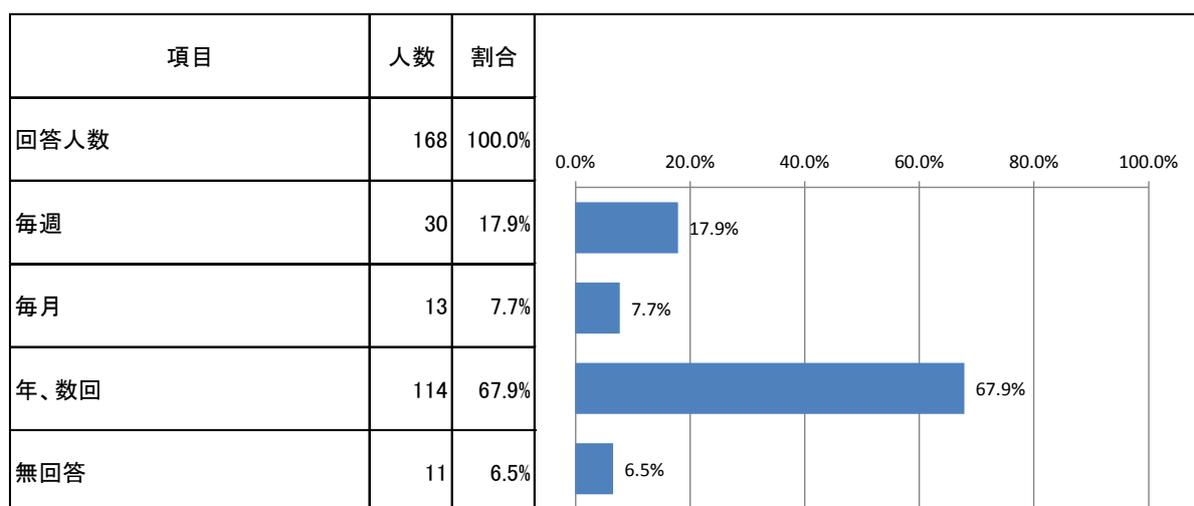
B 保育園の一時預かり（利用の有無）

保育園の一時預かりの利用状況については、「有」が 19.2%、「無」が 74.7%となっている。



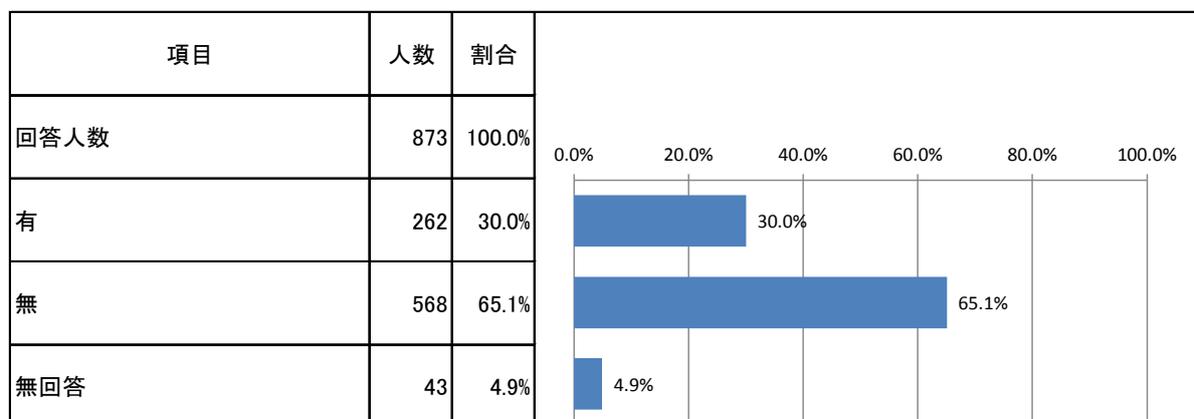
B 保育園の一時預かり（利用頻度）

保育園の一時預かりの利用頻度については、「年、数回」が 67.9%と最も多く、次いで「毎週」が 17.9%、「毎月」が 7.7%となっている。



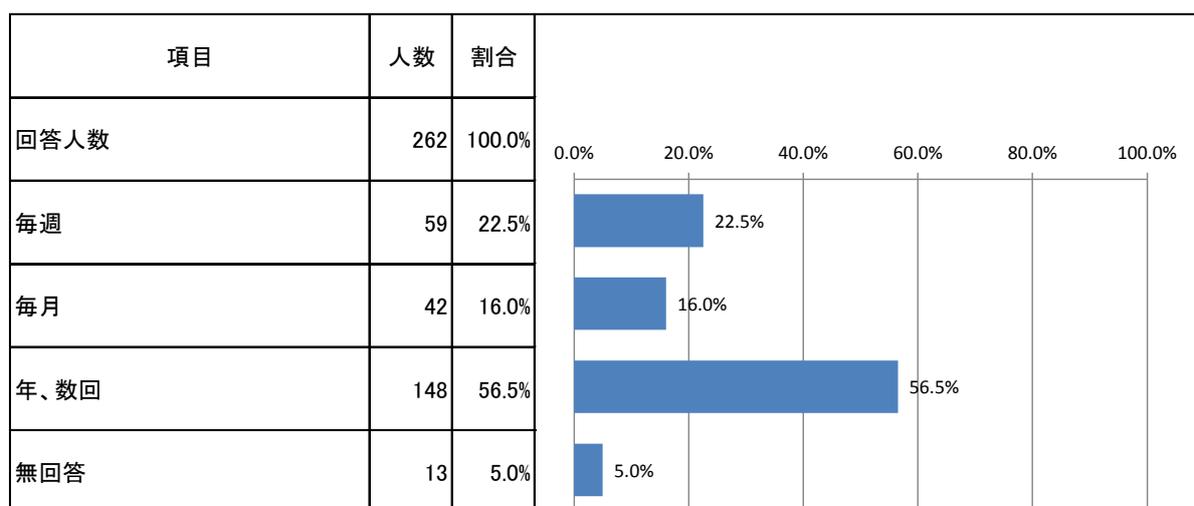
C 幼稚園の預かり保育（利用の有無）

幼稚園の預かり保育の利用状況については、「有」が 30.0%、「無」が 65.1%となっている。



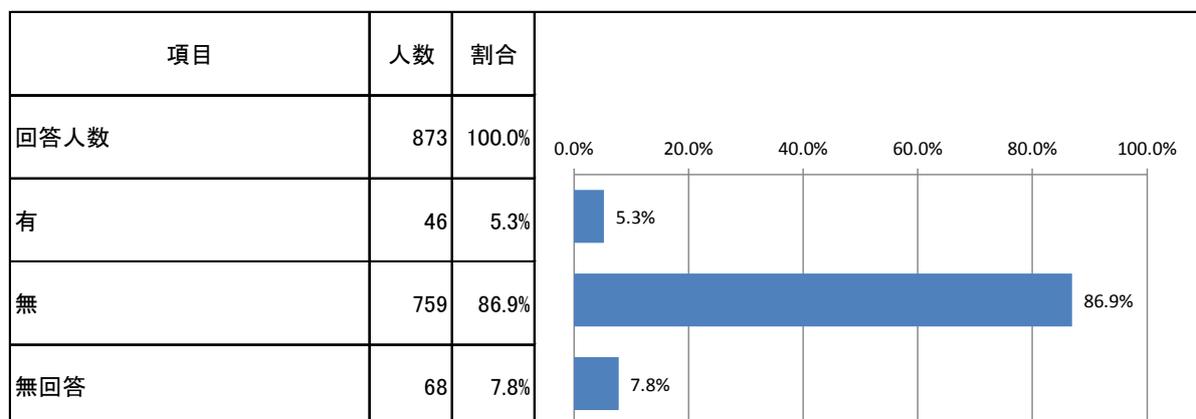
C 幼稚園の預かり保育（利用頻度）

幼稚園の預かり保育の利用頻度については、「年、数回」が 56.5%と最も多く、次いで「毎週」が 22.5%、「毎月」が 16.0%となっている。



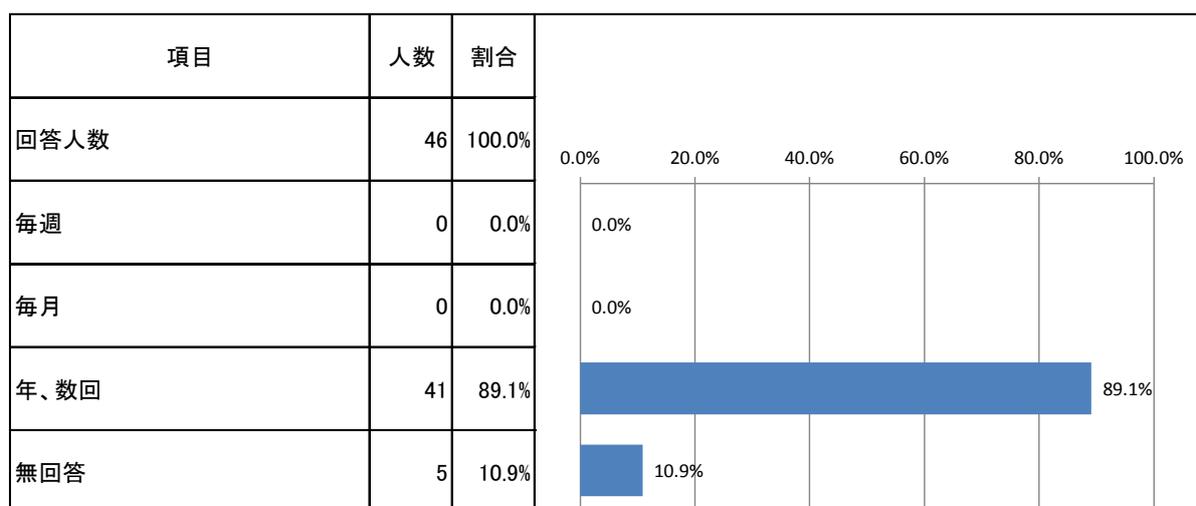
D すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かり（利用の有無）

すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かりの利用状況については、「有」が5.3%、「無」が86.9%となっている。



D すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かり（利用頻度）

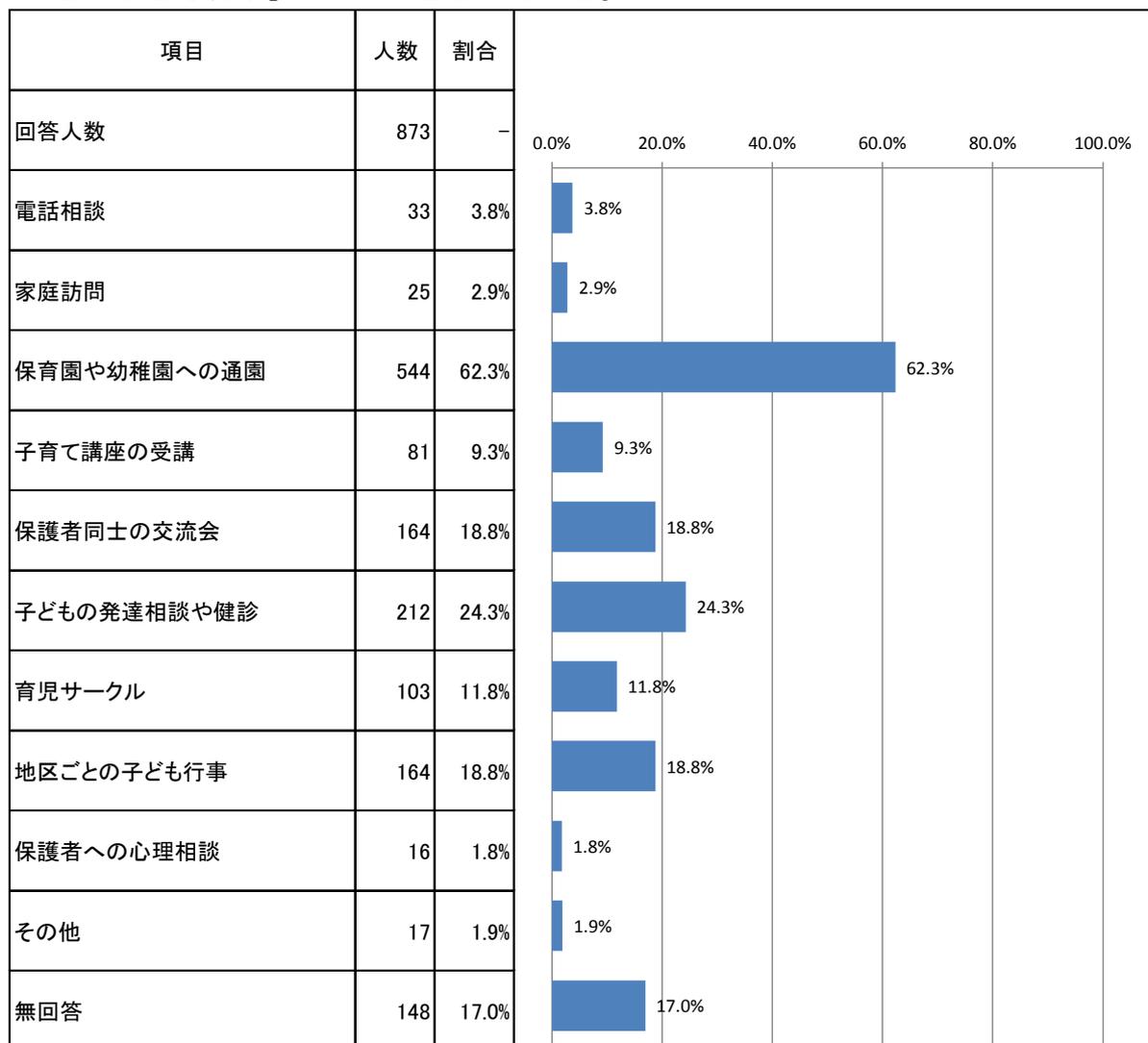
すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かりの利用頻度については、「年に数回」が89.1%となっている。



問 27 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。
また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。
（最も希望するもの3つに○）

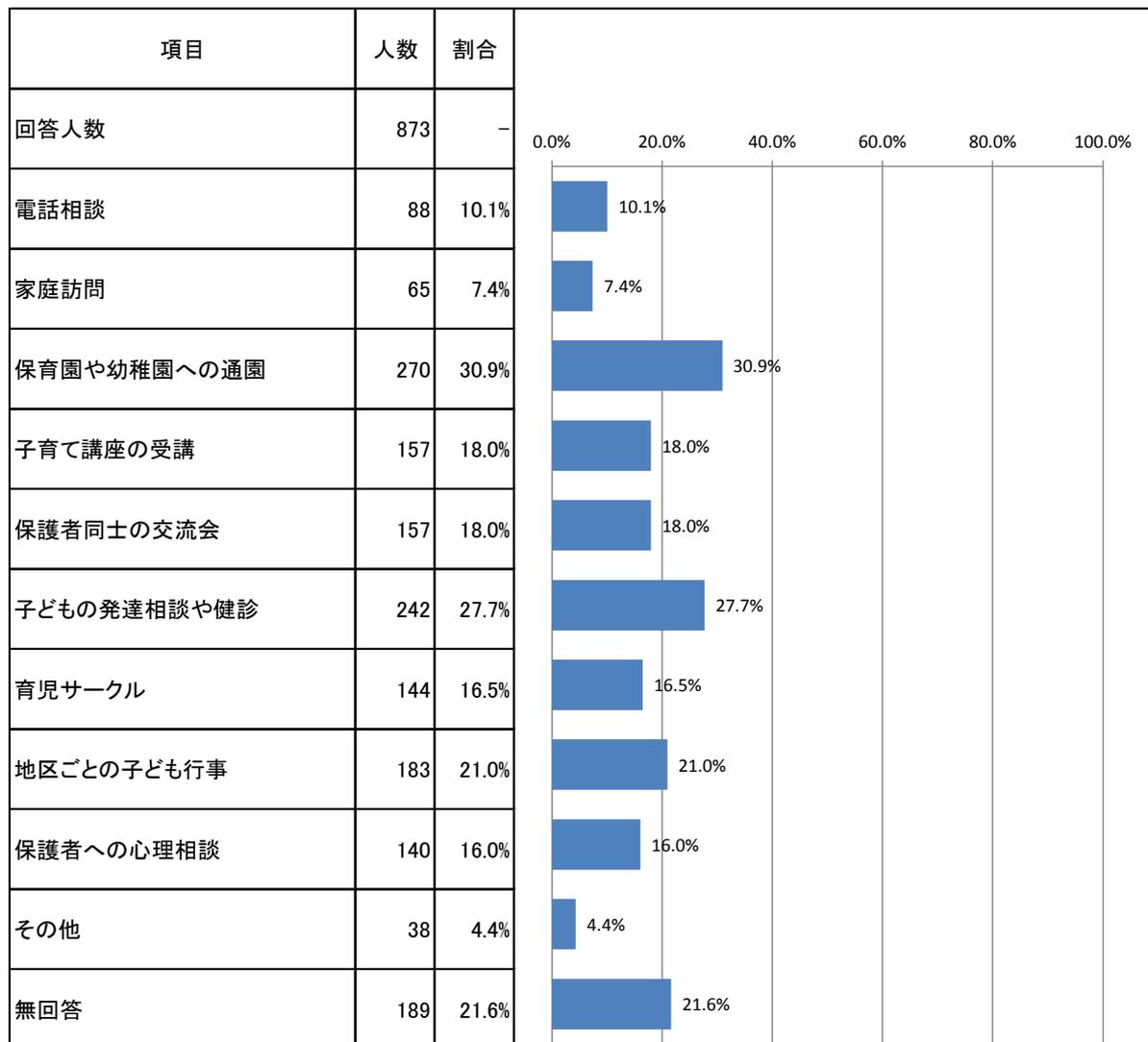
（現在、活用している）

子育て支援の活用状況については、「保育園や幼稚園への通園」が 62.3%と最も多く、次いで「子どもの発達相談や健診」が 24.3%、「保護者同士の交流会」、「地区ごとの子ども行事」が 18.8%となっている。



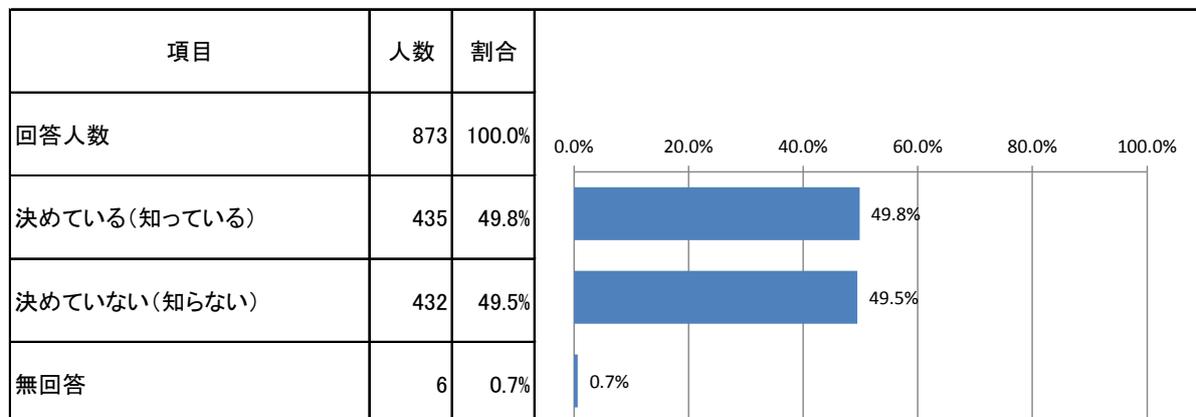
(充実して欲しい)

充実して欲しい子育て支援については、「保育園や幼稚園への通園」が 30.9%と最も多く、次いで「子どもの発達相談や健診」が 27.7%、「地区ごとの子ども行事」が 21.0%となっている。



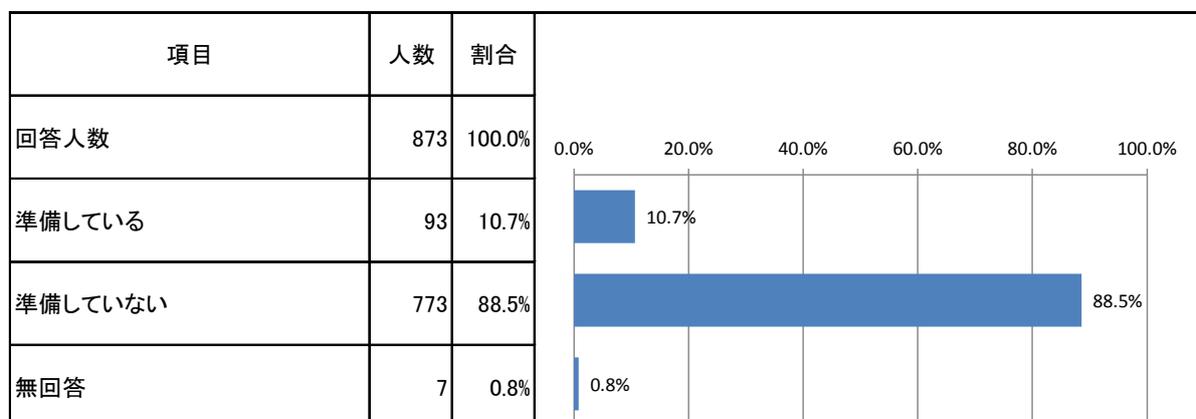
**問 28 あなた（保護者）は、避難する場所を決めていますか。
（または自宅に一番近い指定避難所を知っていますか。（ひとつに〇）**

自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている（知っている）」が 49.8%、「決めていない（知らない）」が 49.5%となっている。



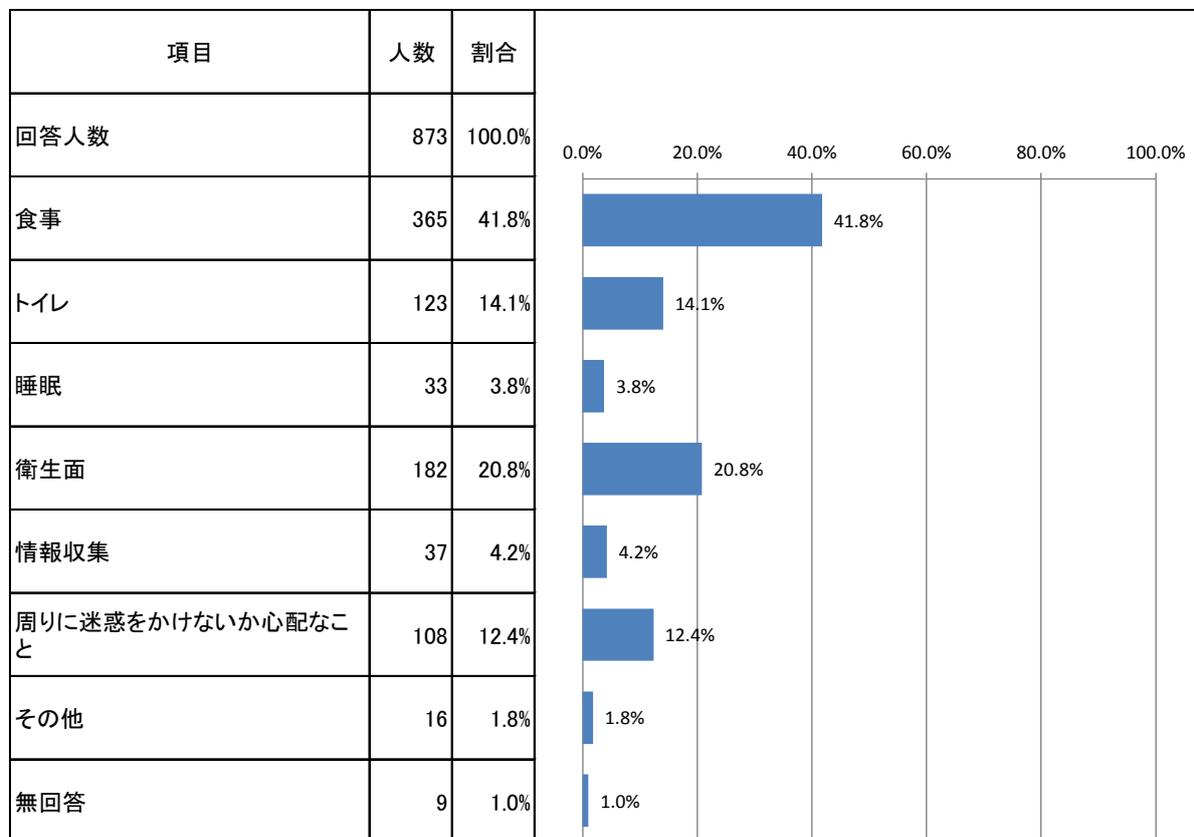
問 29 お子さんのための災害時の非常持ち出し品を準備していますか。（ひとつに〇）

子どものために災害時の非常持ち出し品を準備しているかについては、「準備している」が 10.7%、「準備していない」が 88.5%となっている。



問 30 お子さんと避難所に避難した場合に、一番不安なのは次のうちどれですか。
(ひとつに○)

子どもと避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「食事」が 41.8%と最も多く、次いで「衛生面」が 20.8%、「トイレ」が 14.1%となっている。

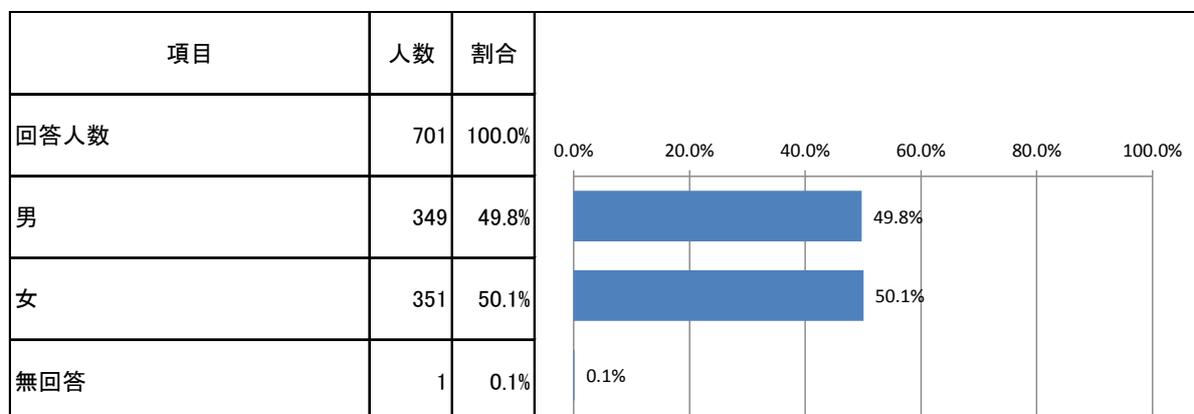


第3章 小中学生

問1 対象のお子さんについてお聞きします。

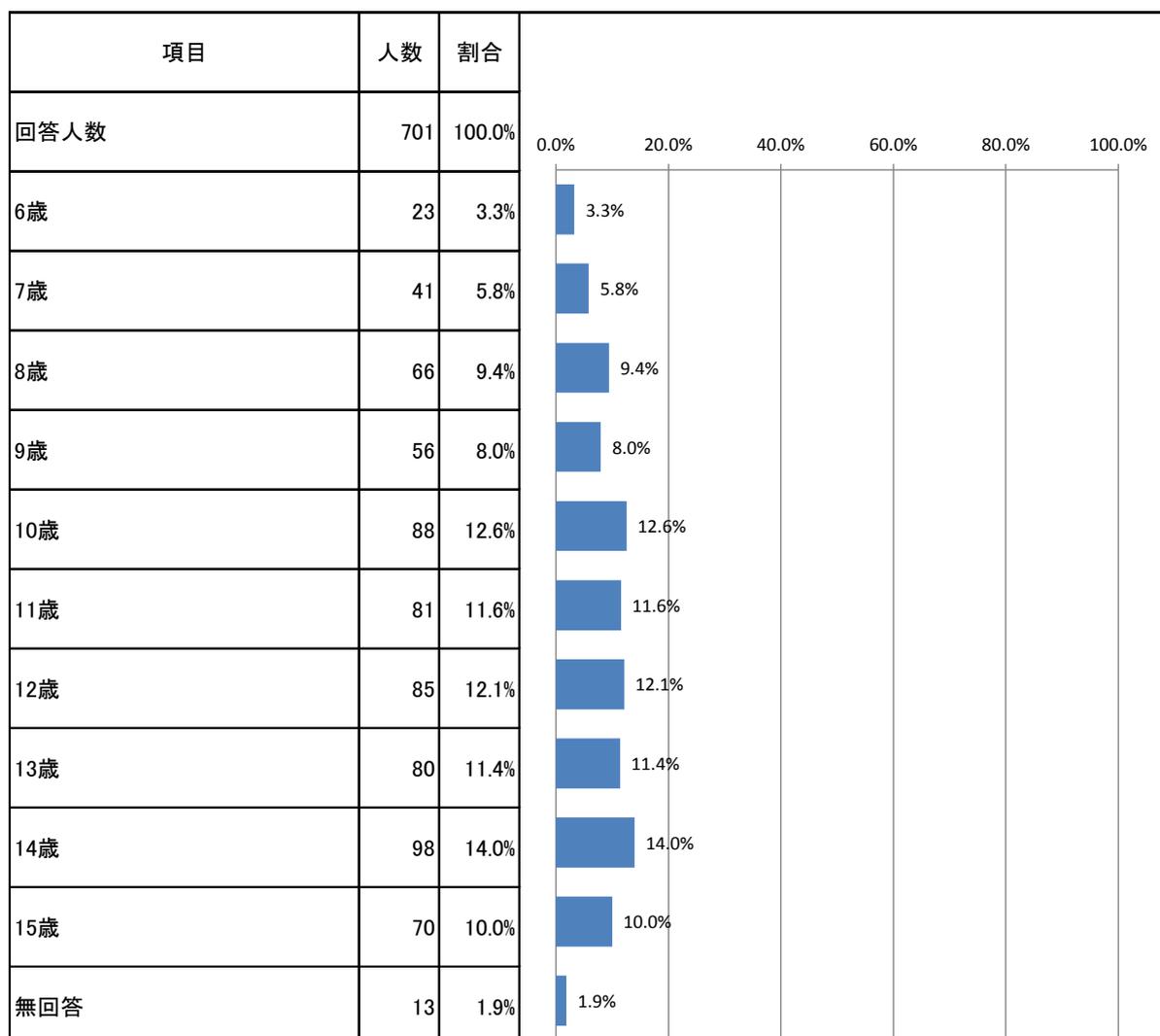
(1)① 対象（封書の宛名）のお子さんの性別

性別については、「男」が49.8%、「女」が50.1%となっている。



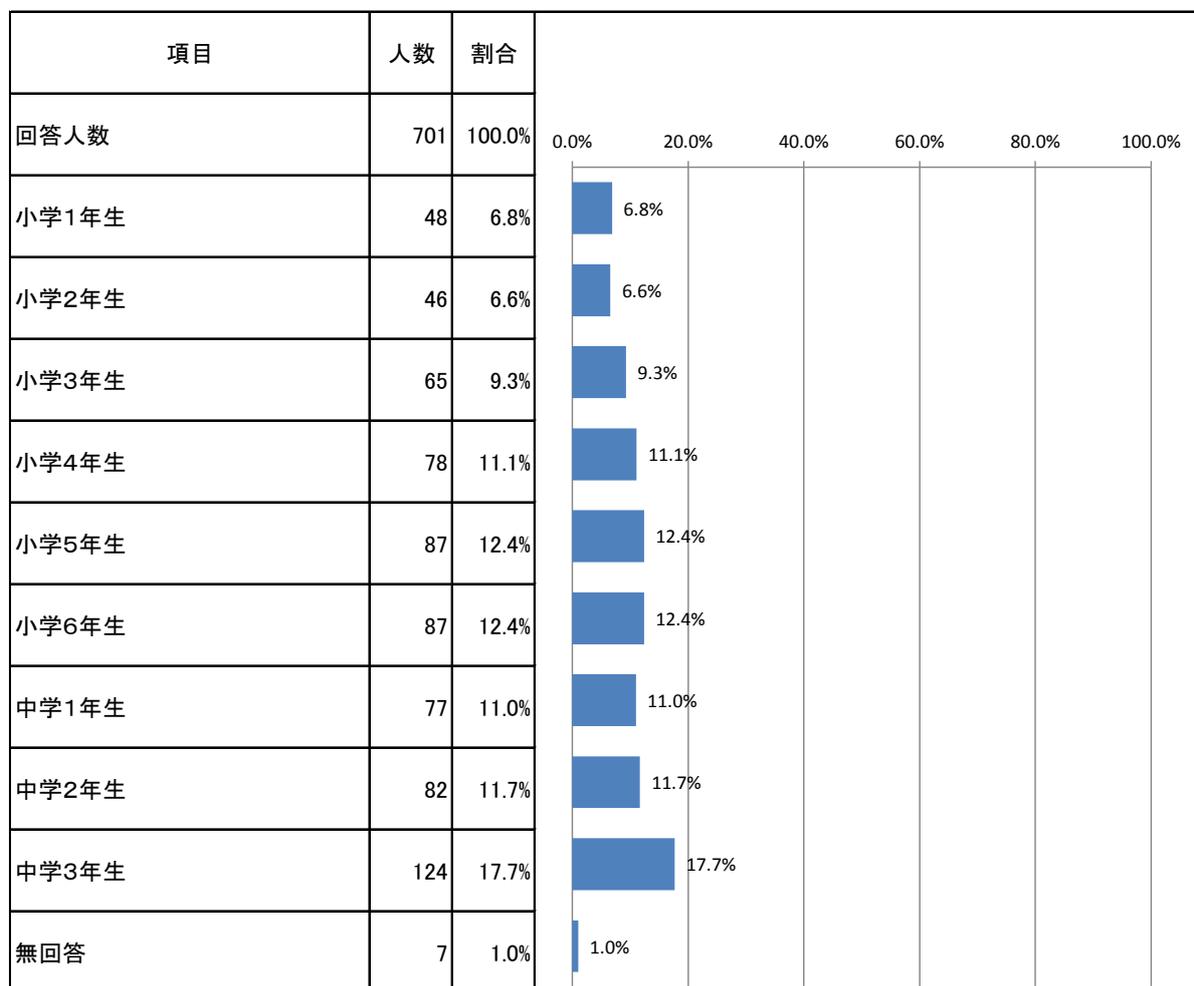
(1)② 対象（封書の宛名）のお子さんの年齢

年齢については、「14歳」が14.0%と最も多く、次いで「10歳」が12.6%、「12歳」が12.1%となっている。



(2) 対象（封書の宛名）のお子さんの学年

学年については、「中学3年生」が17.7%と最も多く、次いで「小学5年生」、「小学6年生」が12.4%となっている。

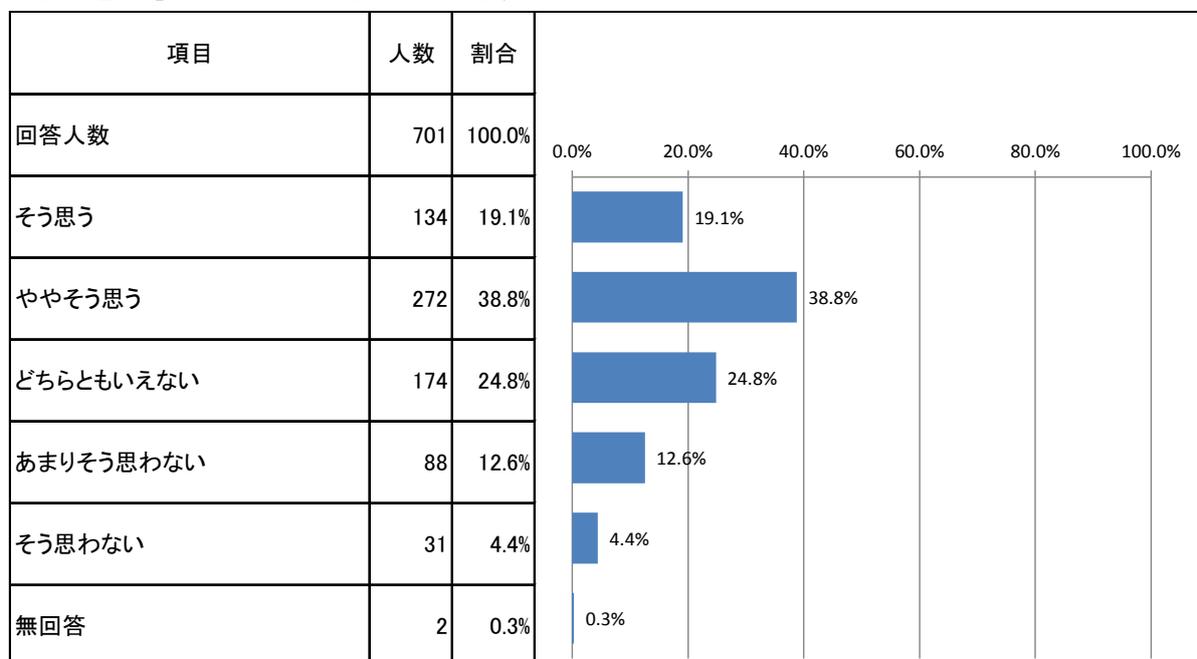


問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。（小学校区）

区分	人数	割合	区分	人数	割合
本名小学校	2	0.3%	玉江小学校	8	1.1%
郡山小学校	5	0.7%	東桜島小学校	8	1.1%
吉野小学校	180	25.7%	黒神小学校	2	0.3%
大明丘小学校	2	0.3%	桜洲小学校	35	5.0%
坂元小学校	3	0.4%	桜峰小学校	12	1.7%
坂元台小学校	2	0.3%	松元小学校	3	0.4%
清水小学校	12	1.7%	春山小学校	8	1.1%
大龍小学校	7	1.0%	石谷小学校	6	0.9%
名山小学校	10	1.4%	谷山小学校	18	2.6%
山下小学校	3	0.4%	西谷山小学校	12	1.7%
松原小学校	2	0.3%	東谷山小学校	15	2.1%
城南小学校	2	0.3%	清和小学校	13	1.9%
草牟田小学校	7	1.0%	和田小学校	9	1.3%
原良小学校	11	1.6%	錦江台小学校	10	1.4%
明和小学校	6	0.9%	福平小学校	12	1.7%
武岡小学校	7	1.0%	平川小学校	1	0.1%
武岡台小学校	4	0.6%	中山小学校	22	3.1%
西田小学校	7	1.0%	桜丘西小学校	14	2.0%
武小学校	13	1.9%	桜丘東小学校	7	1.0%
田上小学校	10	1.4%	星峯西小学校	16	2.3%
西陵小学校	10	1.4%	星峯東小学校	2	0.3%
広木小学校	6	0.9%	宮川小学校	6	0.9%
中洲小学校	1	0.1%	皇徳寺小学校	3	0.4%
荒田小学校	6	0.9%	中名小学校	1	0.1%
八幡小学校	19	2.7%	喜入小学校	8	1.1%
中郡小学校	5	0.7%	前之浜小学校	1	0.1%
紫原小学校	8	1.1%	分からない	7	1.0%
西紫原小学校	14	2.0%	無回答	8	1.1%
鴨池小学校	13	1.9%	合計	701	100.0%
南小学校	9	1.3%			
宇宿小学校	13	1.9%			
向陽小学校	7	1.0%			
伊敷小学校	4	0.6%			
花野小学校	4	0.6%			
西伊敷小学校	10	1.4%			
伊敷台小学校	10	1.4%			

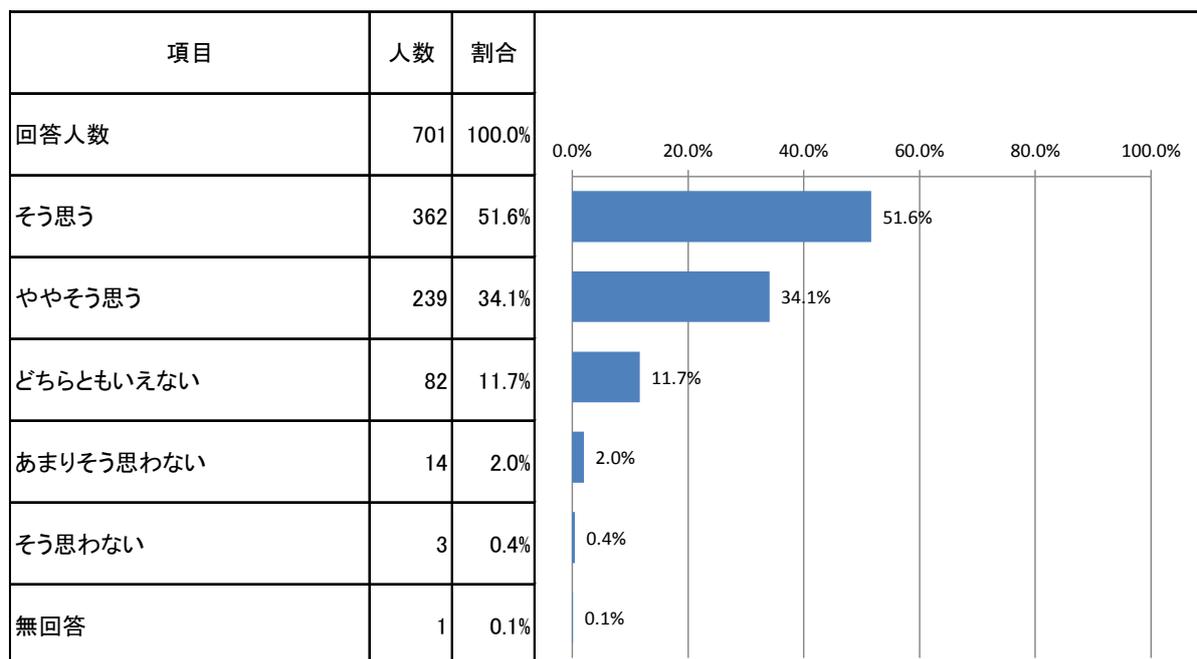
**問3 あなた（保護者）は、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組んでい
ると思いますか。（ひとつに○）**

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組んでいると思うことについては、「ややそう思う」が 38.8%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 24.8%、「そう思う」が 19.1%となっている。



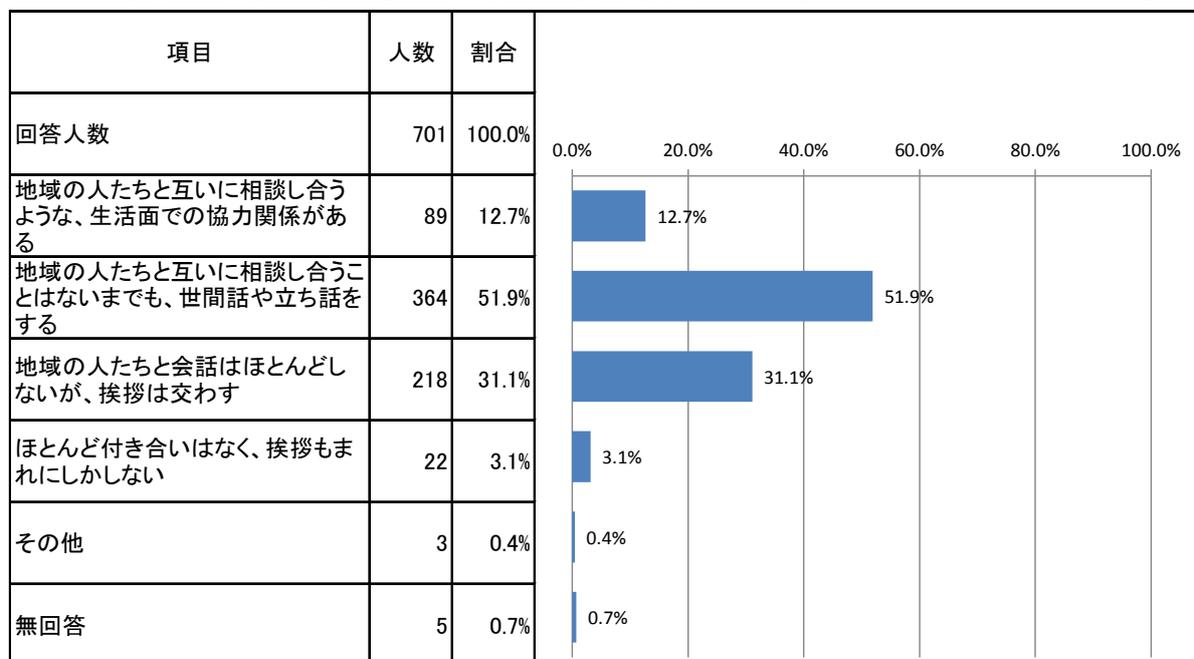
**問4 あなた（保護者）は、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組むこと
は重要だと思いますか。（ひとつに○）**

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組むことは重要だと思うことについては、「そう思う」が 51.6%と最も多く、次いで「ややそう思う」が 34.1%、「どちらともいえない」が 11.7%となっている。



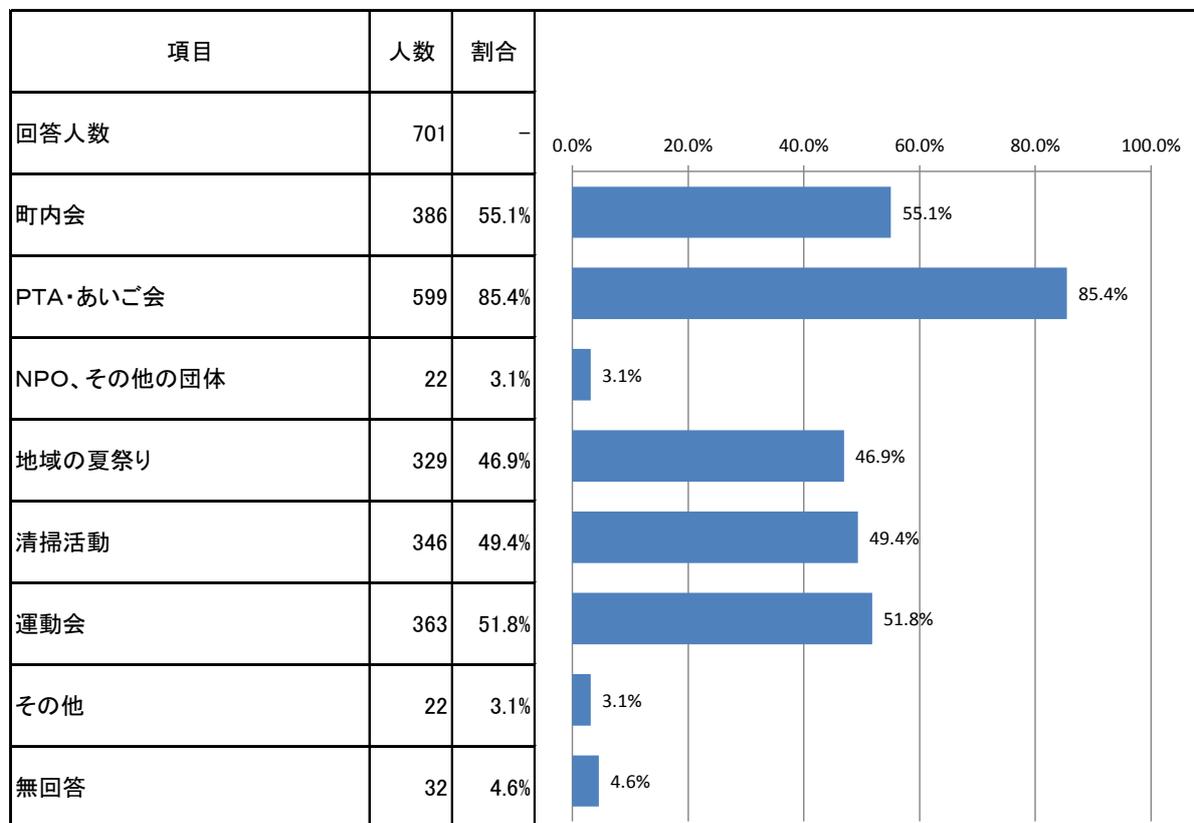
問5 あなた（保護者）は、地域の人たちとコミュニケーションをとっていますか。
（ひとつに〇）

地域の人たちとのコミュニケーションについては、「地域の人たちと互いに相談し合うことはないまでも、世間話や立ち話をする」が 51.9%と最も多く、次いで「地域の人たちと会話はほとんどしないが、挨拶は交わす」が 31.1%、「地域の人たちと互いに相談し合うような、生活面での協力関係がある」が 12.7%となっている。



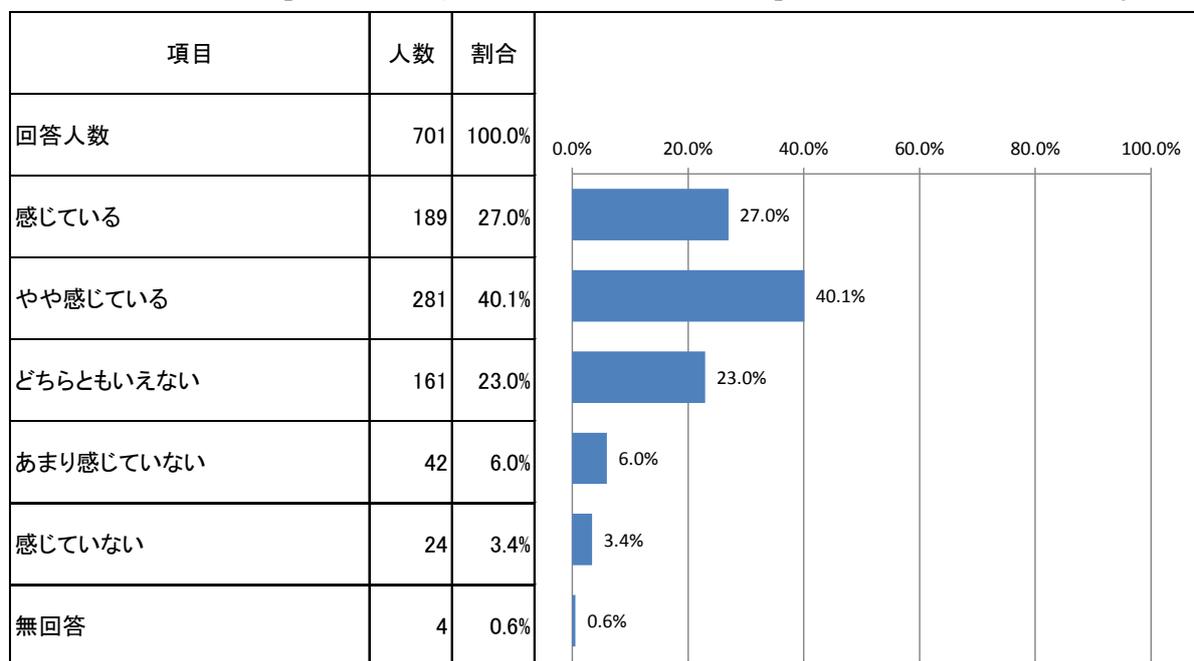
問6 あなた（保護者）は、地域活動に参加していますか。
（あてはまるものすべてに○）

地域活動への参加については、「PTA・あいご会」が85.4%と最も多く、次いで「町内会」が55.1%、「運動会」が51.8%となっている。



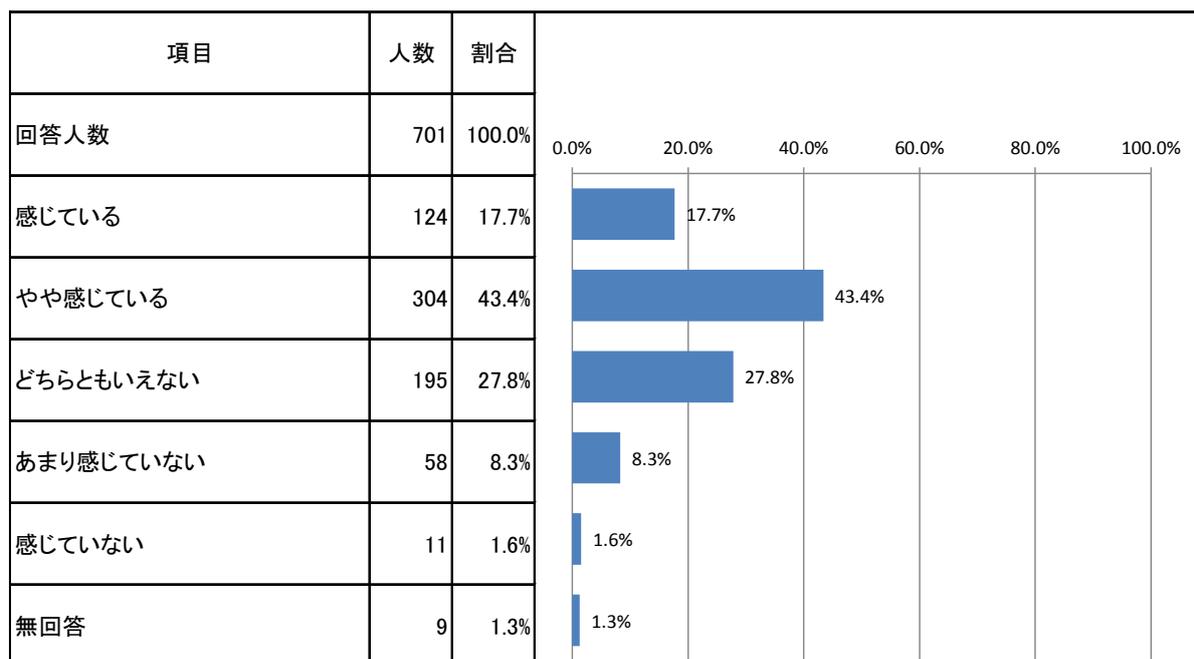
問7 あなた（保護者）は、地域の暮らしに愛着を感じていますか。（ひとつに○）

地域の暮らしへの愛着度については、「やや感じている」が40.1%と最も多く、次いで「感じている」が27.0%、「どちらともいえない」が23.0%となっている。



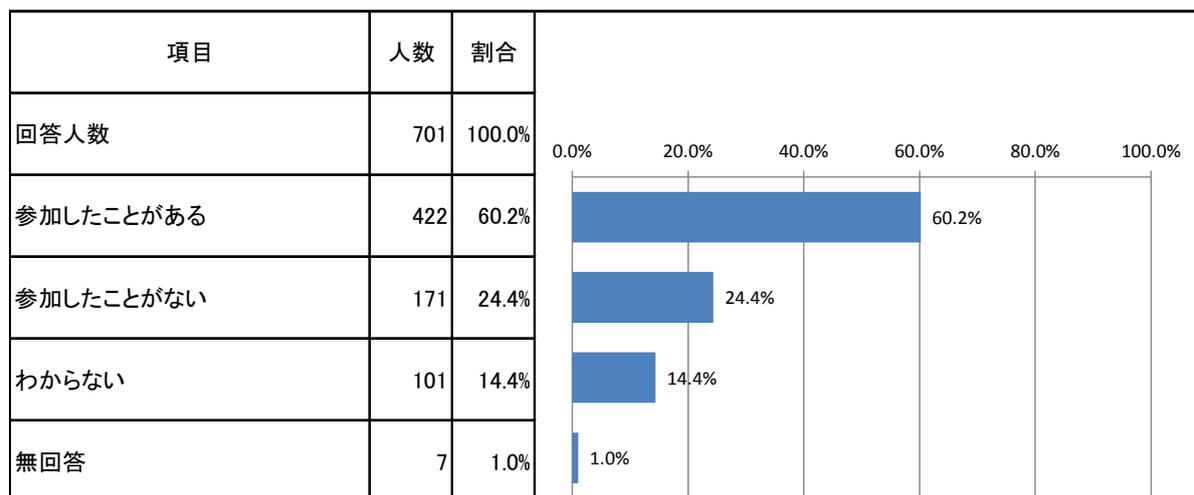
問8 あなた（保護者）は、鹿児島市の暮らしに安心安全を感じていますか。（ひとつに○）

鹿児島市の暮らしに安心安全を感じているかについては、「やや感じている」が43.4%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が27.8%、「感じている」が17.7%となっている。



問9 対象のお子さんは、この1年間（平成24年10月から平成25年9月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。
（ひとつに○）

1年間の子どもの交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがある」が60.2%と最も多く、次いで「参加したことがない」が24.4%、「わからない」が14.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

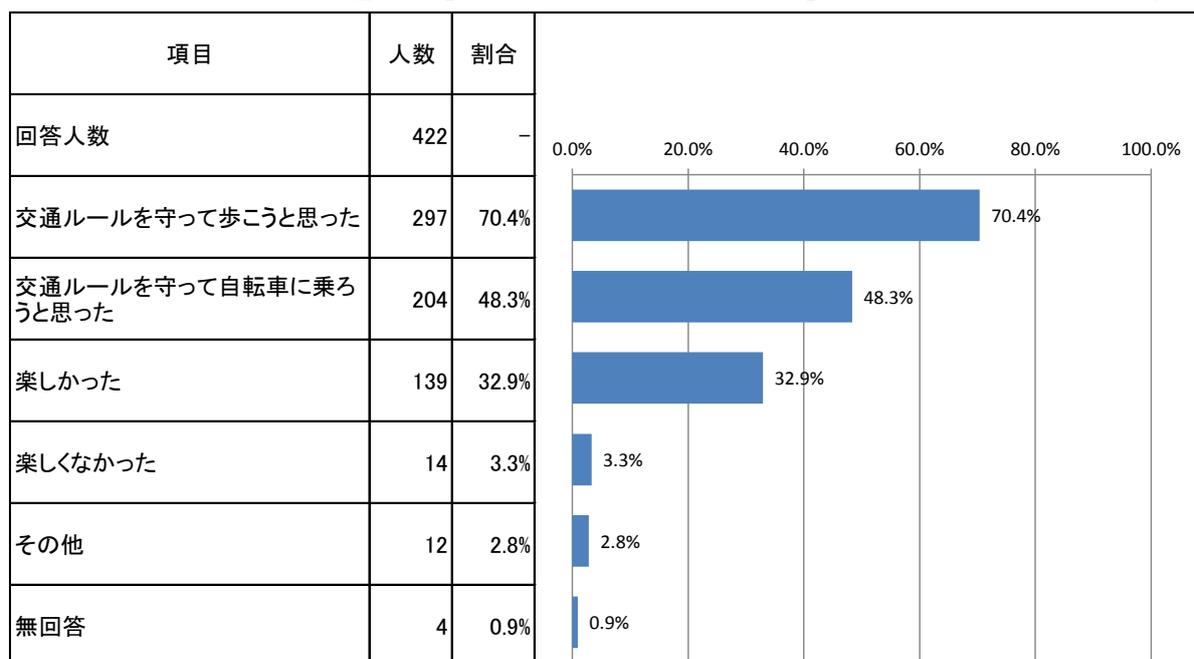
年齢別では、小学校低学年及び小学校高学年の「参加したことがある」がそれぞれ74.8%、78.2%で、中学生の「参加したことがない」が41.3%と最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	701	100.0%	349	100.0%	351	100.0%	1	100.0%	159	100.0%	252	100.0%	283	100.0%	7	100.0%
参加したことがある	422	60.2%	205	58.7%	217	61.8%	0	0.0%	119	74.8%	197	78.2%	102	36.0%	4	57.1%
参加したことがない	171	24.4%	81	23.2%	89	25.4%	1	100.0%	24	15.1%	28	11.1%	117	41.3%	2	28.6%
わからない	101	14.4%	59	16.9%	42	12.0%	0	0.0%	16	10.1%	25	9.9%	59	20.8%	1	14.3%
無回答	7	1.0%	4	1.1%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%	5	1.8%	0	0.0%

※問9で『①参加したことがある』とご回答された方にお聞きします。

問9-1 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した対象のお子さんの感想はどうでしたか。（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加した子どもの感想については、「交通ルールを守って歩こうと思った」が70.4%と最も多く、次いで「交通ルールを守って自転車に乗ろうと思った」が48.3%、「楽しかった」が32.9%となっている。



【属性別特徴】

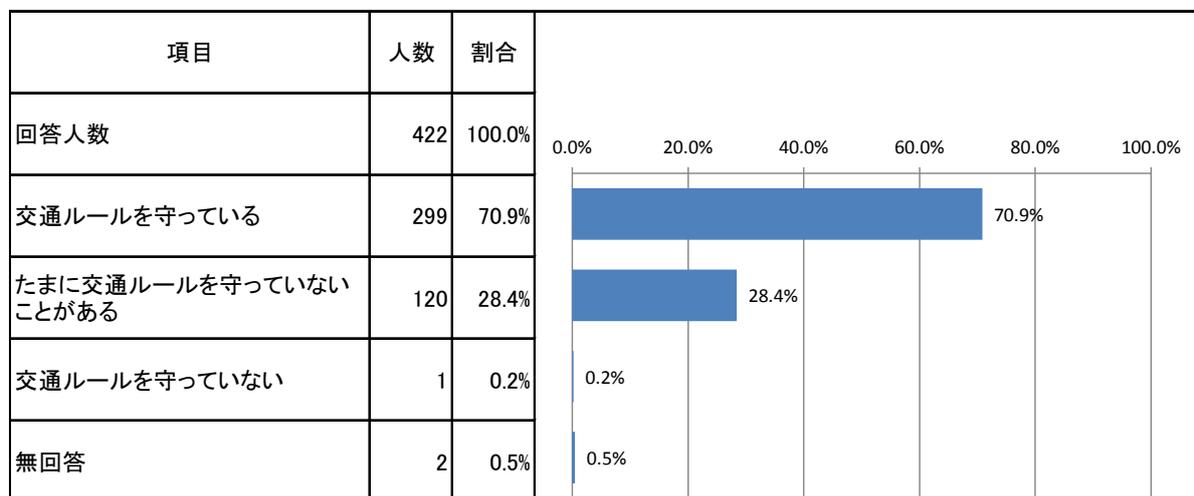
性別では、男の「交通ルールを守って自転車に乗ろうと思った」が55.6%で、女の41.5%に比べて高くなっている。

年齢別では、小学校低学年の「交通ルールを守って歩こうと思った」が78.2%で、小学校高学年の65.0%、中学生の70.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	422	-	205	-	217	-	0	-	119	-	197	-	102	-	4	-
交通ルールを守って歩こうと思った	297	70.4%	142	69.3%	155	71.4%	0	0.0%	93	78.2%	128	65.0%	72	70.6%	4	100.0%
交通ルールを守って自転車に乗ろうと思った	204	48.3%	114	55.6%	90	41.5%	0	0.0%	31	26.1%	122	61.9%	49	48.0%	2	50.0%
楽しかった	139	32.9%	67	32.7%	72	33.2%	0	0.0%	54	45.4%	63	32.0%	20	19.6%	2	50.0%
楽しなかった	14	3.3%	6	2.9%	8	3.7%	0	0.0%	2	1.7%	6	3.0%	6	5.9%	0	0.0%
その他	12	2.8%	6	2.9%	6	2.8%	0	0.0%	2	1.7%	2	1.0%	7	6.9%	1	25.0%
無回答	4	0.9%	3	1.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.0%	0	0.0%	0	0.0%

問9-2 対象のお子さんは、交通安全教室（講習会などを含む）で学んだことを意識して交通ルールを守っていますか。（ひとつに○）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守については、「交通ルールを守っている」が70.9%と最も多く、次いで「たまに交通ルールを守っていないことがある」が28.4%、「交通ルールを守っていない」が0.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「交通ルールを守っている」が76.5%で、男の64.9%に比べて高くなっている。

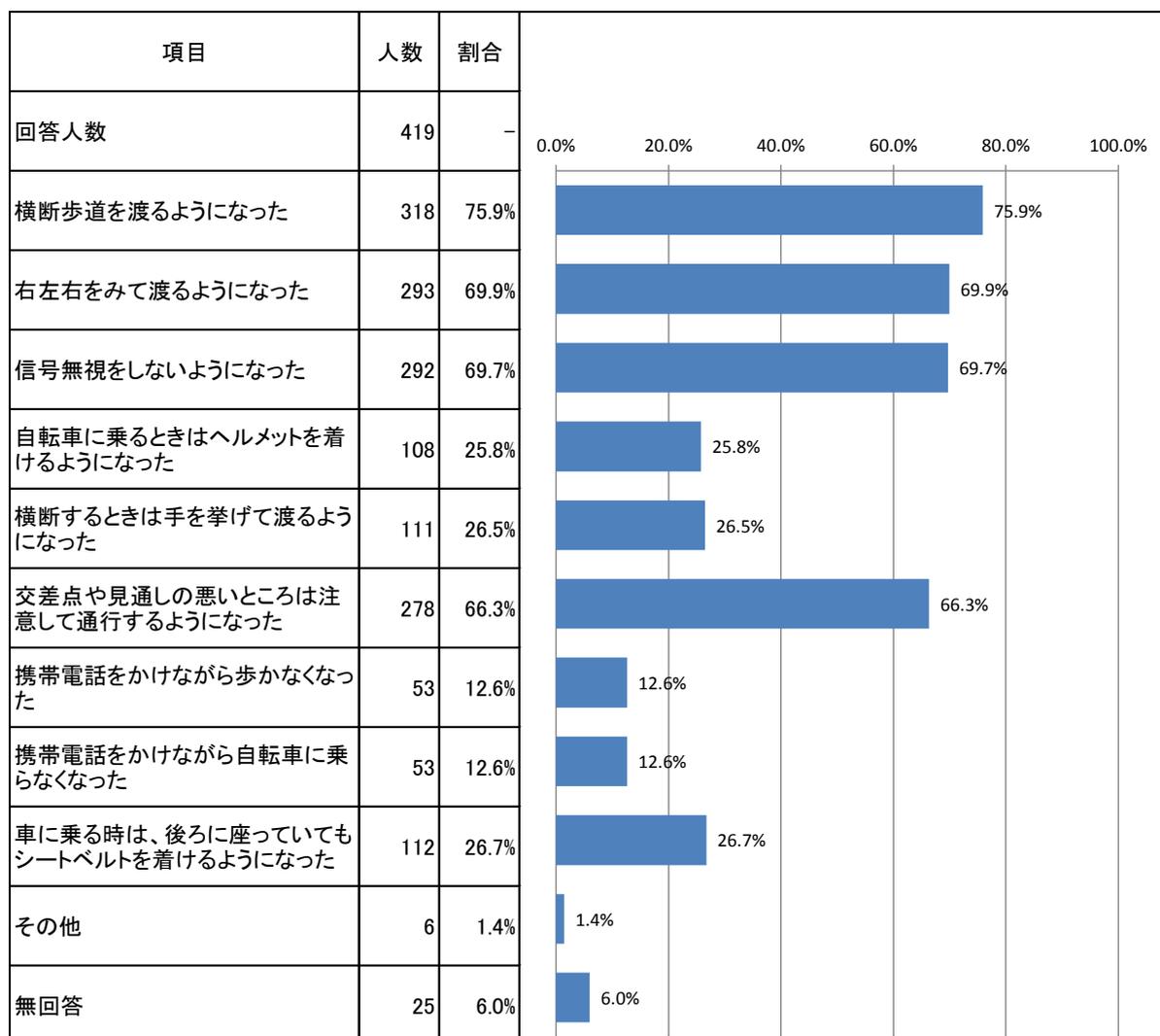
年齢別では、小学校高学年の「交通ルールを守っている」が68.0%で、小学校低学年の73.1%、中学生の73.5%に比べてやや低くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	422	100.0%	205	100.0%	217	100.0%	0	0.0%	119	100.0%	197	100.0%	102	100.0%	4	100.0%
交通ルールを守っている	299	70.9%	133	64.9%	166	76.5%	0	0.0%	87	73.1%	134	68.0%	75	73.5%	3	75.0%
たまに交通ルールを守っていないことがある	120	28.4%	71	34.6%	49	22.6%	0	0.0%	31	26.1%	63	32.0%	25	24.5%	1	25.0%
交通ルールを守っていない	1	0.2%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
無回答	2	0.5%	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%

※問9-2で『①交通ルールを守っている』、『②たまに交通ルールを守っていないことがある』とご回答された方にお聞きします。

問9-3 対象のお子さんは、交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、守っている（守るようになった）交通ルールは次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、守るようになった交通ルールについては、「横断歩道を渡るようになった」が75.9%と最も多く、次いで「右左右をみて渡るようになった」が69.9%、「信号無視をしないようになった」が69.7%となっている。



【小中学生】

【属性別特徴】

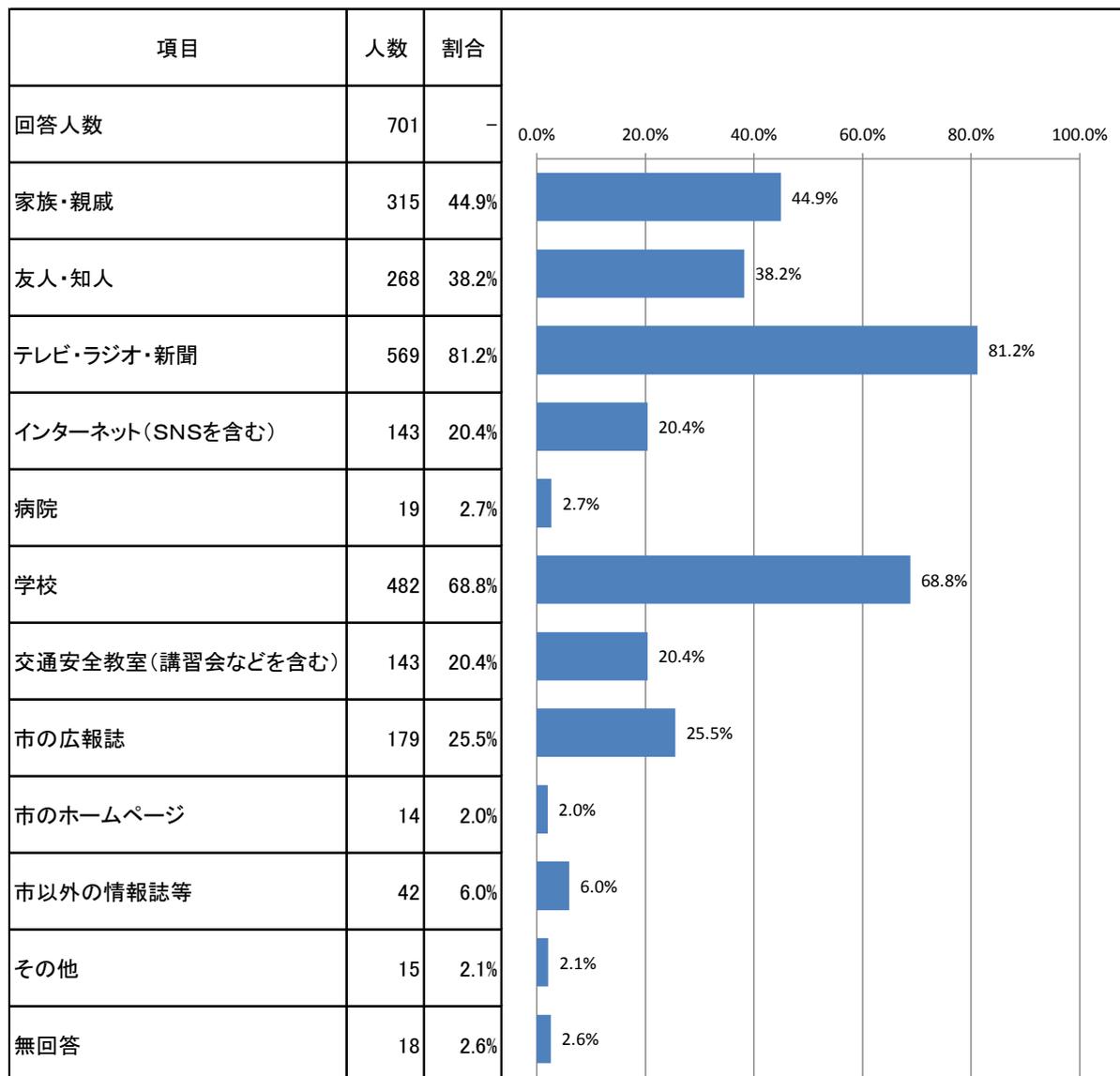
性別では、女の「携帯電話をかけながら歩かなくなった」が17.7%で、男の7.4%に比べて高くなっている。

年齢別では、中学生の「交差点や見通しの悪いところは注意して通行するようになった」が75.0%で、小学校低学年の55.1%、小学校高学年の68.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	419	-	204	-	215	-	0	-	118	-	197	-	100	-	4	-
横断歩道を渡るようになった	318	75.9%	155	76.0%	163	75.8%	0	0.0%	91	77.1%	152	77.2%	72	72.0%	3	75.0%
右左右をみて渡るようになった	293	69.9%	134	65.7%	159	74.0%	0	0.0%	87	73.7%	141	71.6%	64	64.0%	1	25.0%
信号無視をしないようになった	292	69.7%	140	68.6%	152	70.7%	0	0.0%	85	72.0%	133	67.5%	70	70.0%	4	100.0%
自転車に乗るときはヘルメットを着けるようになった	108	25.8%	59	28.9%	49	22.8%	0	0.0%	21	17.8%	69	35.0%	17	17.0%	1	25.0%
横断するときは手を挙げて渡るようになった	111	26.5%	54	26.5%	57	26.5%	0	0.0%	63	53.4%	38	19.3%	9	9.0%	1	25.0%
交差点や見通しの悪いところは注意して通行するようになった	278	66.3%	133	65.2%	145	67.4%	0	0.0%	65	55.1%	134	68.0%	75	75.0%	4	100.0%
携帯電話をかけながら歩かなくなった	53	12.6%	15	7.4%	38	17.7%	0	0.0%	5	4.2%	28	14.2%	20	20.0%	0	0.0%
携帯電話をかけながら自転車に乗らなくなった	53	12.6%	17	8.3%	36	16.7%	0	0.0%	4	3.4%	28	14.2%	21	21.0%	0	0.0%
車に乗る時は、後ろに座っていてもシートベルトを着けるようになった	112	26.7%	49	24.0%	63	29.3%	0	0.0%	35	29.7%	53	26.9%	23	23.0%	1	25.0%
その他	6	1.4%	2	1.0%	4	1.9%	0	0.0%	2	1.7%	4	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	25	6.0%	12	5.9%	13	6.0%	0	0.0%	10	8.5%	8	4.1%	7	7.0%	0	0.0%

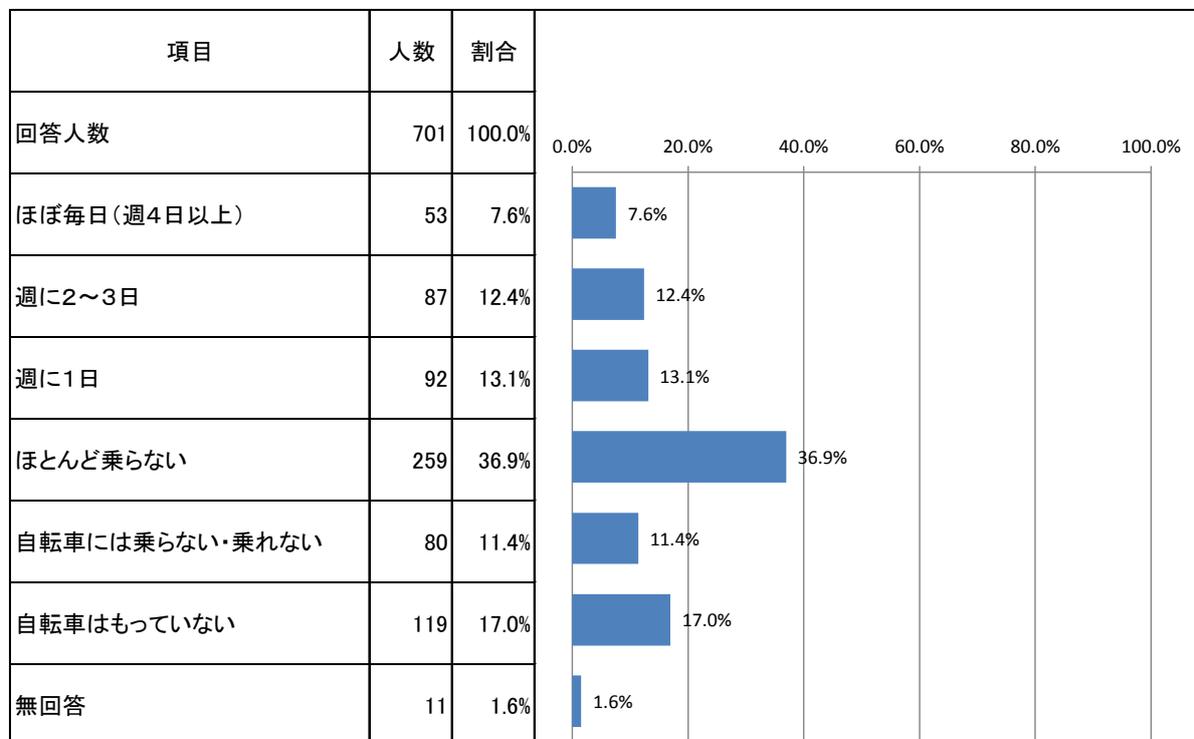
問10 あなた（保護者）は、交通安全に関する情報はなに（どこ）から得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

交通安全に関する情報源については、「テレビ・ラジオ・新聞」が81.2%と最も多く、次いで「学校」が68.8%、「家族・親戚」が44.9%となっている。



問 11 対象のお子さんは、いつもどのくらいの頻度で自転車に乗りますか。
(一番近いものひとつに○)

自転車の使用頻度については、「ほとんど乗らない」が 36.9%と最も多く、次いで「自転車はもっていない」が 17.0%、「週に1日」が 13.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「ほぼ毎日(週4日以上)」と「週に2~3日」と「週に1日」の合計が 41.5%で、女の合計の 24.8%に比べて高くなっている。

年齢別では、小学校低学年の「自転車には乗らない・乗れない」が 16.4%で、小学校高学年の 7.1%に比べて高くなっている。

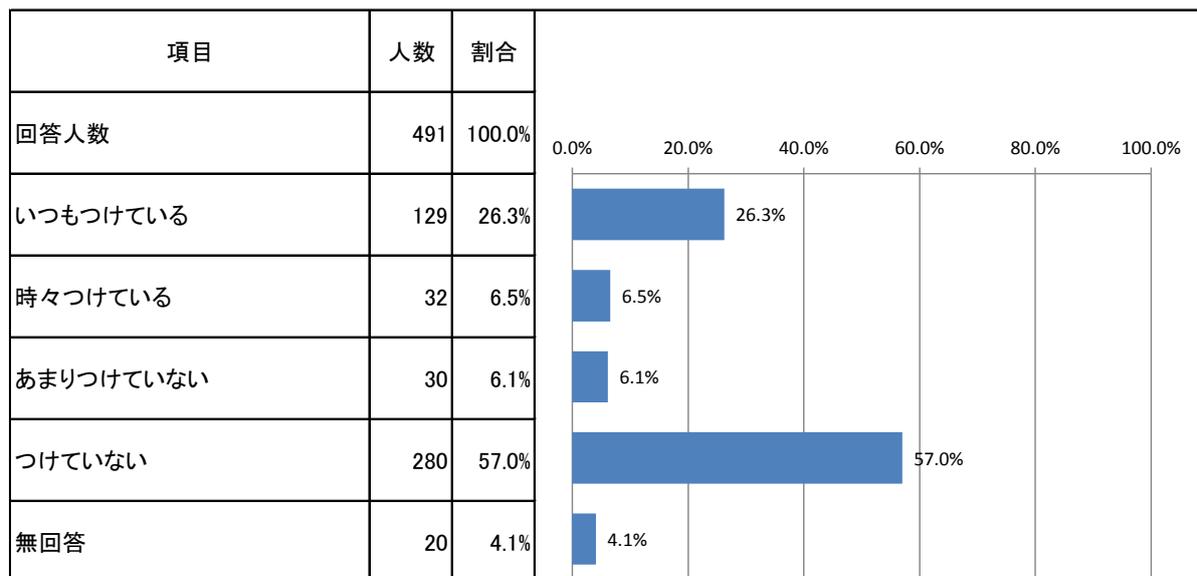
項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	701	100.0%	349	100.0%	351	100.0%	1	100.0%	159	100.0%	252	100.0%	283	100.0%	7	100.0%
ほぼ毎日(週4日以上)	53	7.6%	41	11.7%	12	3.4%	0	0.0%	7	4.4%	15	6.0%	31	11.0%	0	0.0%
週に2~3日	87	12.4%	58	16.6%	29	8.3%	0	0.0%	15	9.4%	47	18.7%	25	8.8%	0	0.0%
週に1日	92	13.1%	46	13.2%	46	13.1%	0	0.0%	15	9.4%	38	15.1%	38	13.4%	1	14.3%
ほとんど乗らない	259	36.9%	113	32.4%	146	41.6%	0	0.0%	59	37.1%	84	33.3%	112	39.6%	4	57.1%
自転車には乗らない・乗れない	80	11.4%	34	9.7%	46	13.1%	0	0.0%	26	16.4%	18	7.1%	35	12.4%	1	14.3%
自転車はもっていない	119	17.0%	51	14.6%	67	19.1%	1	100.0%	33	20.8%	46	18.3%	39	13.8%	1	14.3%
無回答	11	1.6%	6	1.7%	5	1.4%	0	0.0%	4	2.5%	4	1.6%	3	1.1%	0	0.0%

【小中学生】

※問 11 で『①ほぼ毎日（週 4 日以上）』～『④ほとんど乗らない』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問 11-1 対象のお子さんは、自転車に乗るときにヘルメットをつけていますか。
(ひとつに○)

自転車乗車中のヘルメットの着用状況については、「つけていない」が 57.0%と最も多く、次いで「いつもつけている」が 26.3%、「時々つけている」が 6.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「いつもつけている」が 29.5%で、女の 22.7%に比べてやや高くなっている。

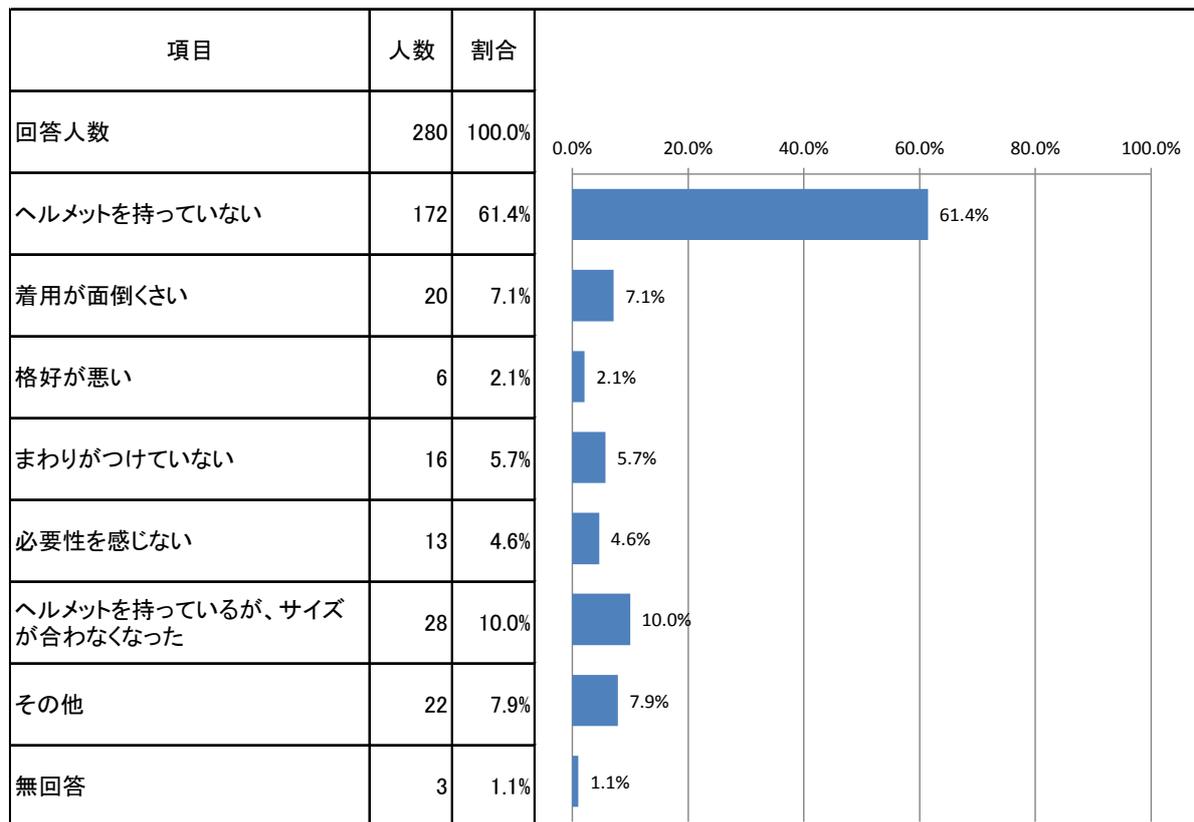
年齢別では、中学生の「つけていない」が 75.2%で、小学校低学年の 49.0%、小学校高学年の 41.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	491	100.0%	258	100.0%	233	100.0%	0	0.0%	96	100.0%	184	100.0%	206	100.0%	5	100.0%
いつもつけている	129	26.3%	76	29.5%	53	22.7%	0	0.0%	24	25.0%	80	43.5%	22	10.7%	3	60.0%
時々つけている	32	6.5%	15	5.8%	17	7.3%	0	0.0%	12	12.5%	13	7.1%	7	3.4%	0	0.0%
あまりつけていない	30	6.1%	15	5.8%	15	6.4%	0	0.0%	9	9.4%	13	7.1%	8	3.9%	0	0.0%
つけていない	280	57.0%	144	55.8%	136	58.4%	0	0.0%	47	49.0%	76	41.3%	155	75.2%	2	40.0%
無回答	20	4.1%	8	3.1%	12	5.2%	0	0.0%	4	4.2%	2	1.1%	14	6.8%	0	0.0%

※問 11-1 で『④つけていない』とご回答された方にお聞きします。

問 11-2 ヘルメットをつけていない理由は何ですか。(ひとつに○)

自転車乗車中にヘルメットをつけていない理由については、「ヘルメットを持っていない」が 61.4%と最も多く、次いで「ヘルメットを持っているが、サイズが合わなくなった」が 10.0%、「着用が面倒くさい」が 7.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「着用が面倒くさい」が 9.7%で、女の 4.4%に比べてやや高くなっている。

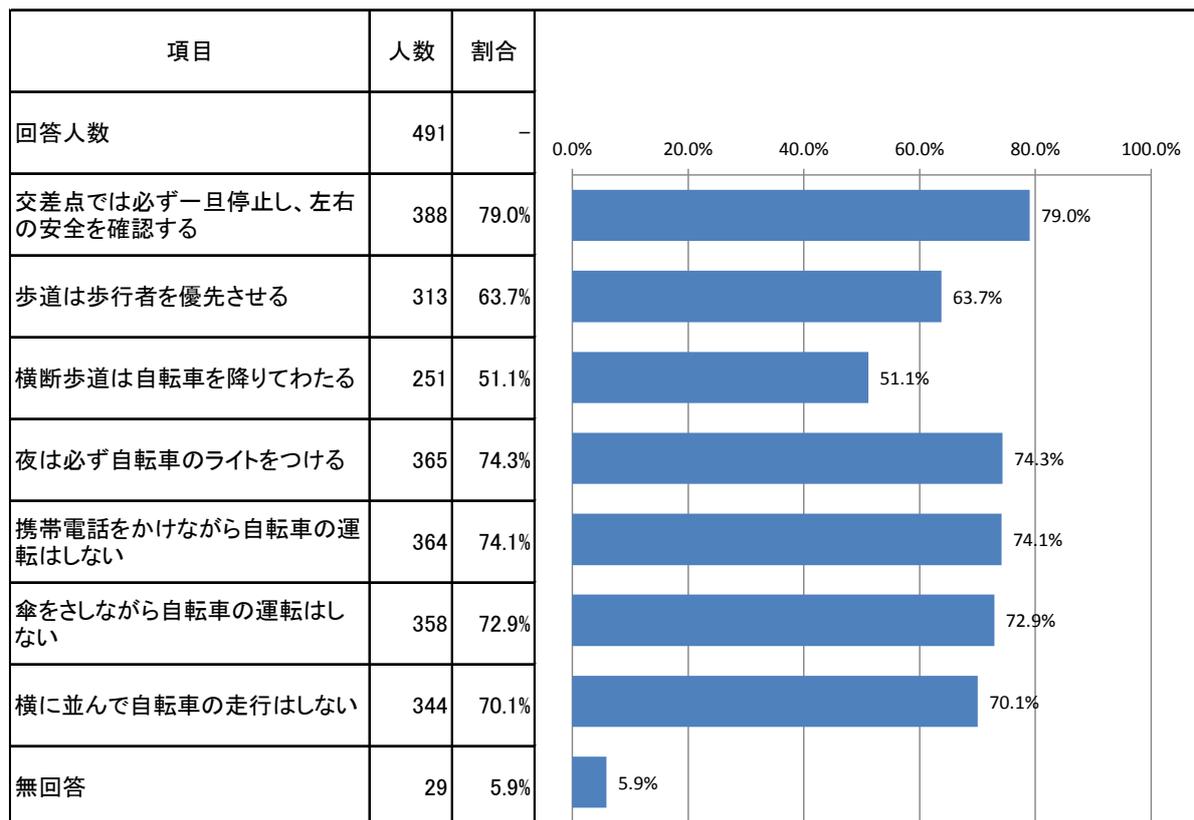
年齢別では、小学校高学年の「ヘルメットを持っていない」が 55.3%で、小学校低学年の 61.7%、中学生の 65.2%に比べてやや低くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	280	100.0%	144	100.0%	136	100.0%	0	0.0%	47	100.0%	76	100.0%	155	100.0%	2	100.0%
ヘルメットを持っていない	172	61.4%	87	60.4%	85	62.5%	0	0.0%	29	61.7%	42	55.3%	101	65.2%	0	0.0%
着用が面倒くさい	20	7.1%	14	9.7%	6	4.4%	0	0.0%	3	6.4%	9	11.8%	8	5.2%	0	0.0%
格好が悪い	6	2.1%	2	1.4%	4	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	4	2.6%	0	0.0%
まわりがつけていない	16	5.7%	8	5.6%	8	5.9%	0	0.0%	1	2.1%	1	1.3%	14	9.0%	0	0.0%
必要性を感じない	13	4.6%	6	4.2%	7	5.1%	0	0.0%	2	4.3%	3	3.9%	8	5.2%	0	0.0%
ヘルメットを持っているが、サイズが合わなくなった	28	10.0%	17	11.8%	11	8.1%	0	0.0%	5	10.6%	11	14.5%	11	7.1%	1	50.0%
その他	22	7.9%	10	6.9%	12	8.8%	0	0.0%	6	12.8%	7	9.2%	8	5.2%	1	50.0%
無回答	3	1.1%	0	0.0%	3	2.2%	0	0.0%	1	2.1%	1	1.3%	1	0.6%	0	0.0%

問 11-3 対象のお子さんは、自転車に関して、次の項目のルールを知っていますか。
また、そのルールを守っていますか。（あてはまるものすべてに○）

（知っている）

自転車に関するルールを知っているかについては、「交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する」が 79.0%と最も多く、次いで「夜は必ず自転車のライトをつける」が 74.3%、「携帯電話をかけながら自転車の運転はしない」が 74.1%となっている。



【小中学生】

【属性別特徴】

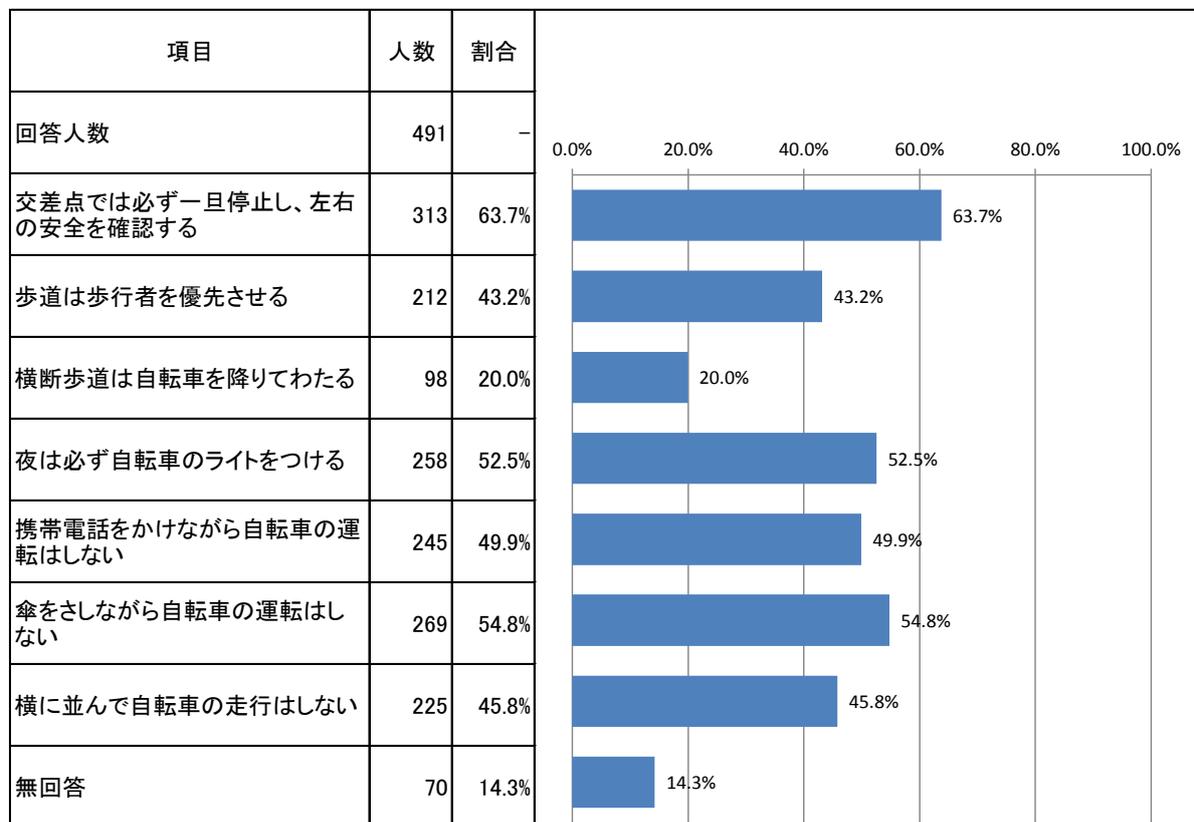
性別では、男の「夜は必ず自転車のライトをつける」が 77.5%で、女の 70.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、小学校低学年のすべてのルールの認知度について、小学校高学年、中学生に比べて低くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	491	-	258	-	233	-	0	-	96	-	184	-	206	-	5	-
交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する	388	79.0%	211	81.8%	177	76.0%	0	0.0%	66	68.8%	153	83.2%	164	79.6%	5	100.0%
歩道は歩行者を優先させる	313	63.7%	166	64.3%	147	63.1%	0	0.0%	39	40.6%	124	67.4%	145	70.4%	5	100.0%
横断歩道は自転車を降りてわたる	251	51.1%	131	50.8%	120	51.5%	0	0.0%	29	30.2%	106	57.6%	112	54.4%	4	80.0%
夜は必ず自転車のライトをつける	365	74.3%	200	77.5%	165	70.8%	0	0.0%	49	51.0%	148	80.4%	163	79.1%	5	100.0%
携帯電話をかけながら自転車の運転はしない	364	74.1%	193	74.8%	171	73.4%	0	0.0%	51	53.1%	151	82.1%	157	76.2%	5	100.0%
傘をさしながら自転車の運転はしない	358	72.9%	191	74.0%	167	71.7%	0	0.0%	51	53.1%	143	77.7%	159	77.2%	5	100.0%
横に並んで自転車の走行はしない	344	70.1%	183	70.9%	161	69.1%	0	0.0%	49	51.0%	140	76.1%	150	72.8%	5	100.0%
無回答	29	5.9%	7	2.7%	22	9.4%	0	0.0%	11	11.5%	3	1.6%	15	7.3%	0	0.0%

(守っている)

自転車に関するルールを守っているかについては、「交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する」が 63.7%と最も多く、次いで「傘をさしながら自転車の運転はしない」が 54.8%、「夜は必ず自転車のライトをつける」が 52.5%となっている。



【属性別特徴】

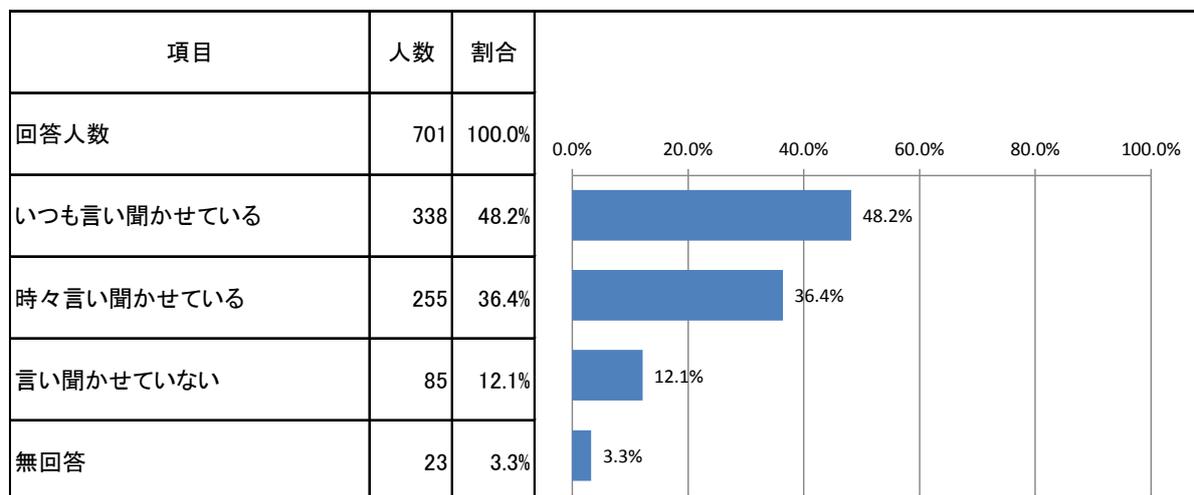
性別では、男の「夜は必ず自転車のライトをつける」が 58.5%で、女の 45.9%に比べて高くなっている。

年齢別では、小学校低学年のすべてのルールの実守度について、小学校高学年、中学生に比べて低くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	491	-	258	-	233	-	0	-	96	-	184	-	206	-	5	-
交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する	313	63.7%	168	65.1%	145	62.2%	0	0.0%	46	47.9%	130	70.7%	134	65.0%	3	60.0%
歩道は歩行者を優先させる	212	43.2%	108	41.9%	104	44.6%	0	0.0%	22	22.9%	82	44.6%	104	50.5%	4	80.0%
横断歩道は自転車を降りてわたる	98	20.0%	41	15.9%	57	24.5%	0	0.0%	11	11.5%	42	22.8%	45	21.8%	0	0.0%
夜は必ず自転車のライトをつける	258	52.5%	151	58.5%	107	45.9%	0	0.0%	22	22.9%	99	53.8%	135	65.5%	2	40.0%
携帯電話をかけながら自転車の運転はしない	245	49.9%	136	52.7%	109	46.8%	0	0.0%	22	22.9%	96	52.2%	124	60.2%	3	60.0%
傘をさしながら自転車の運転はしない	269	54.8%	150	58.1%	119	51.1%	0	0.0%	25	26.0%	106	57.6%	135	65.5%	3	60.0%
横に並んで自転車の走行はしない	225	45.8%	124	48.1%	101	43.3%	0	0.0%	32	33.3%	84	45.7%	106	51.5%	3	60.0%
無回答	70	14.3%	31	12.0%	39	16.7%	0	0.0%	25	26.0%	17	9.2%	28	13.6%	0	0.0%

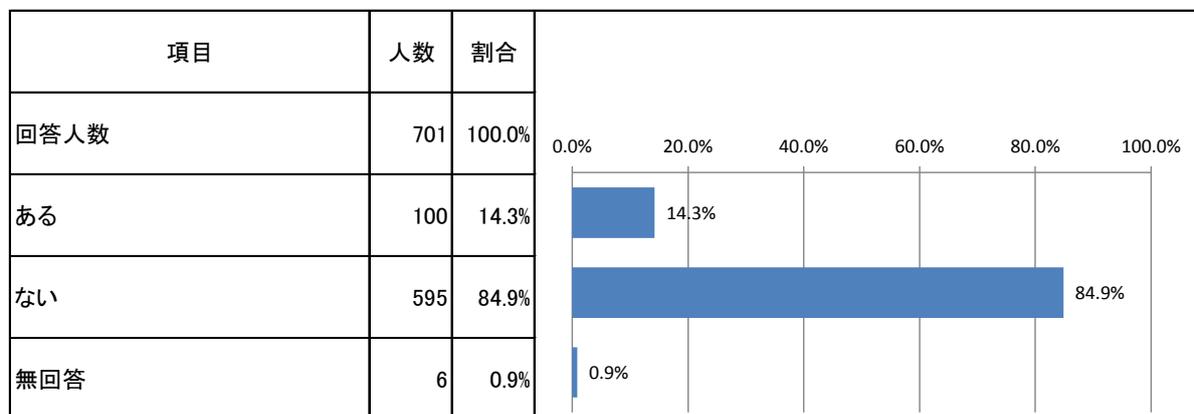
問 12 あなた（保護者）は、対象のお子さんに、交通ルールを守って自転車に乗るよ
うに言い聞かせていますか。（ひとつに○）

子どもへの自転車に関する交通ルールの指導については、「いつも言い聞かせてい
る」が 48.2%と最も多く、次いで「時々言い聞かせている」が 36.4%、「言い聞かせて
いない」が 12.1%となっている。



問 13 車内で対象のお子さんがけがをしたまたは危険な目にあっただけががありますか。(ひとつに○)

自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあっただけがについては、「ある」が14.3%、「ない」が84.9%となっている。



【属性別特徴】

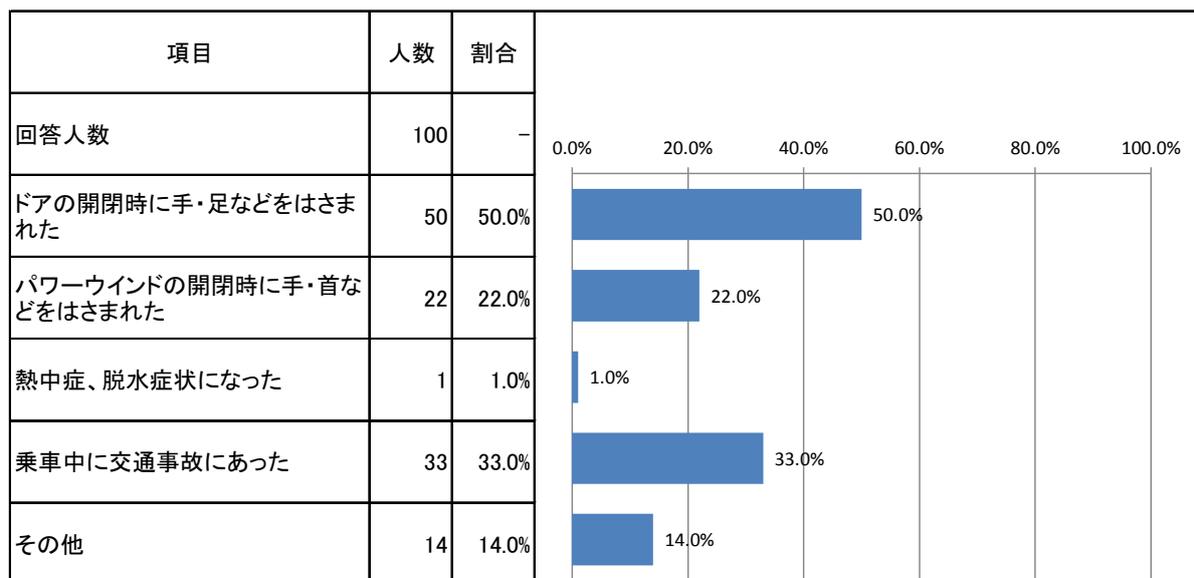
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	701	100.0%	349	100.0%	351	100.0%	1	100.0%	159	100.0%	252	100.0%	283	100.0%	7	100.0%
ある	100	14.3%	48	13.8%	52	14.8%	0	0.0%	20	12.6%	41	16.3%	39	13.8%	0	0.0%
ない	595	84.9%	301	86.2%	293	83.5%	1	100.0%	138	86.8%	209	82.9%	241	85.2%	7	100.0%
無回答	6	0.9%	0	0.0%	6	1.7%	0	0.0%	1	0.6%	2	0.8%	3	1.1%	0	0.0%

※問 13 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 13-1 どんな状況でしたか。(あてはまるものすべてに○)

自動車内で子どもが経験した危険な状況については、「ドアの開閉時に手・足などはさまれた」が 50.0%と最も多く、次いで「乗車中に交通事故にあった」が 33.0%、「パワーウインドの開閉時に手・首などはさまれた」が 22.0%となっている。



【属性別特徴】

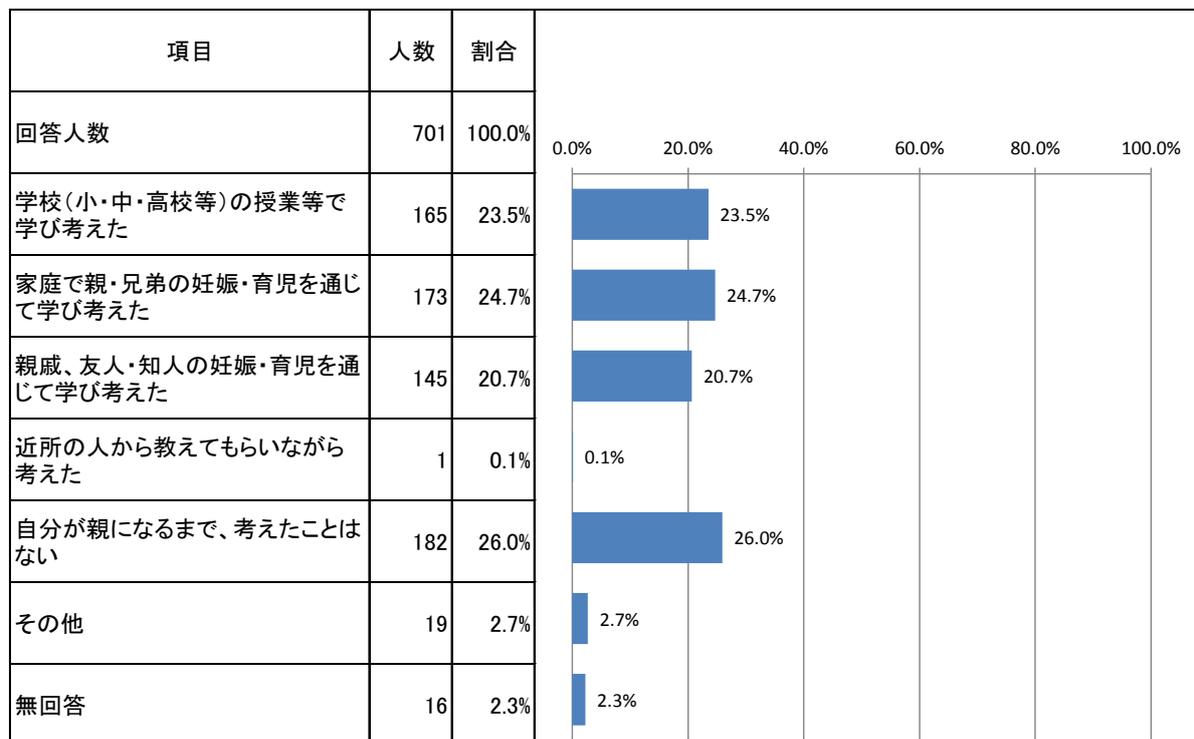
性別では、女の「乗車中に交通事故にあった」が 40.4%で、男の 25.0%に比べて高くなっている。

年齢別では、小学校低学年の「乗車中に交通事故にあった」が 20.0%で、小学校高学年の 34.1%、中学生の 38.5%に比べて低くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	100	-	48	-	52	-	0	-	20	-	41	-	39	-	0	-
ドアの開閉時に手・足などはさまれた	50	50.0%	25	52.1%	25	48.1%	0	0.0%	11	55.0%	23	56.1%	16	41.0%	0	0.0%
パワーウインドの開閉時に手・首などはさまれた	22	22.0%	12	25.0%	10	19.2%	0	0.0%	2	10.0%	8	19.5%	12	30.8%	0	0.0%
熱中症、脱水症状になった	1	1.0%	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
乗車中に交通事故にあった	33	33.0%	12	25.0%	21	40.4%	0	0.0%	4	20.0%	14	34.1%	15	38.5%	0	0.0%
その他	14	14.0%	6	12.5%	8	15.4%	0	0.0%	6	30.0%	3	7.3%	5	12.8%	0	0.0%

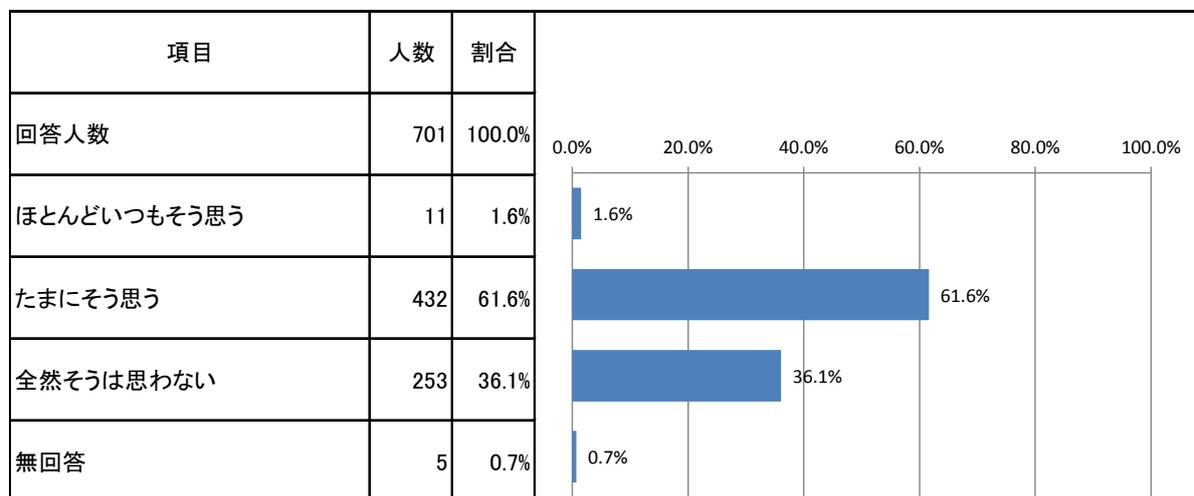
問 14 あなた（保護者）は、自分が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて考える機会がありましたか。（ひとつに〇）

保護者が親になる前に妊娠や子育てのことを考える機会があったかについては、「自分が親になるまで、考えたことはない」が 26.0%と最も多く、次いで「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が 24.7%、「学校（小・中・高校等）の授業等で学び考えた」が 23.5%となっている。



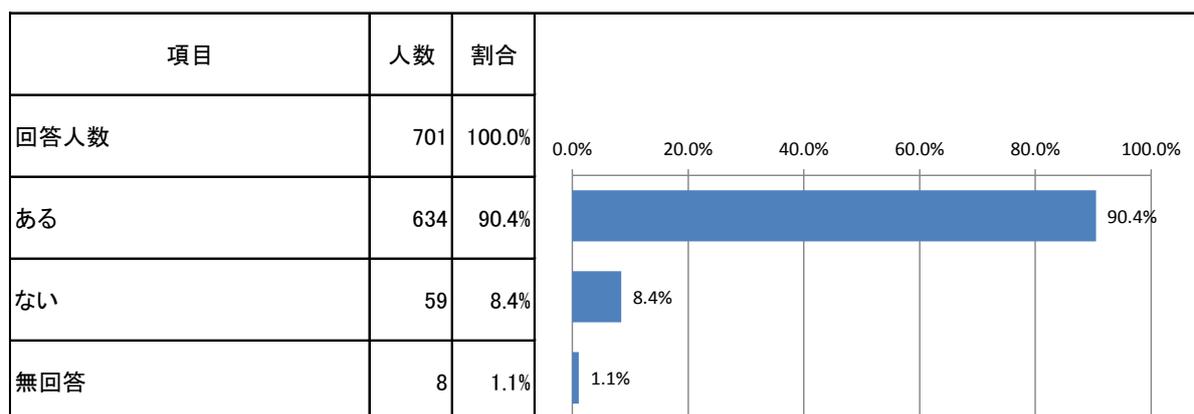
問 15 あなた（保護者）は、子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがありますか。（ひとつに○）

保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについては、「たまにそう思う」が61.6%と最も多く、次いで「全然そうは思わない」が36.1%、「ほとんどいつもそう思う」が1.6%となっている。



問 16 あなた（保護者）は、子育てで困ったときに相談する人や施設がありますか。（ひとつに○）

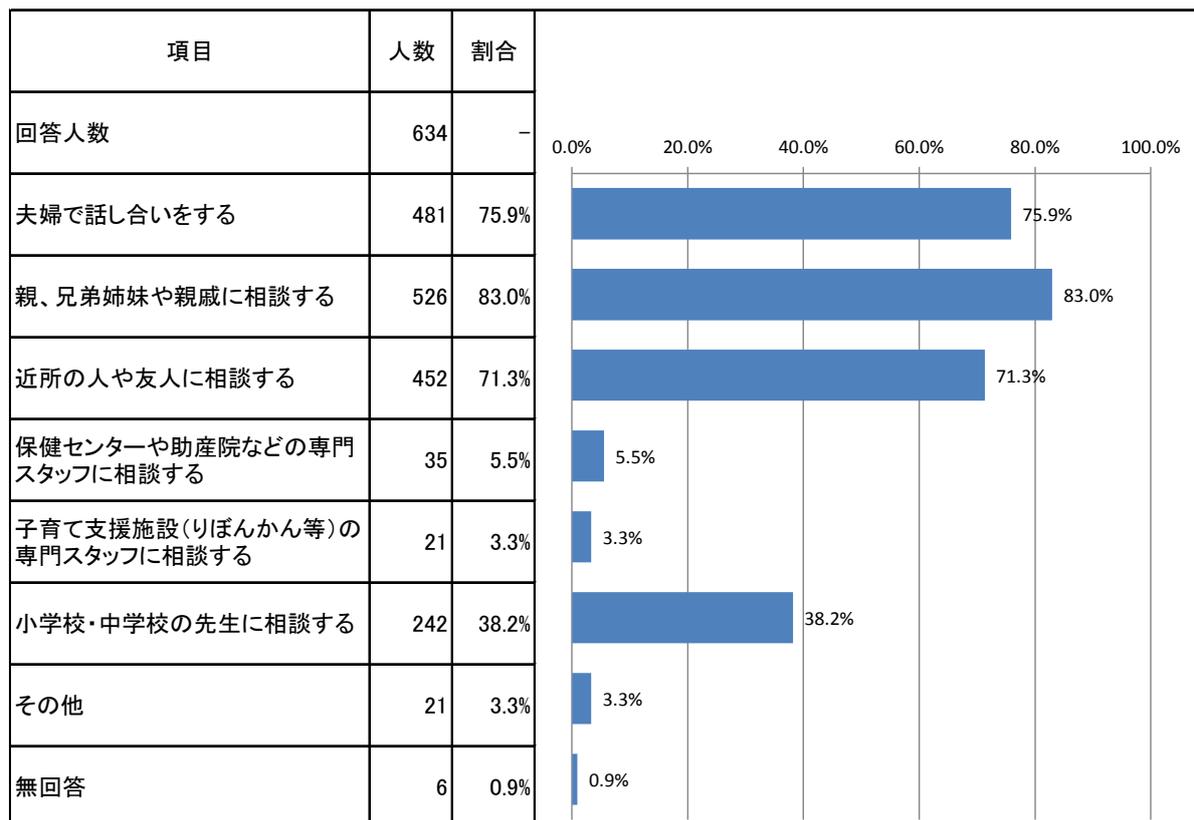
保護者が子育てに困ったときの相談先については、「ある」が90.4%、「ない」が8.4%となっている。



※問 16 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

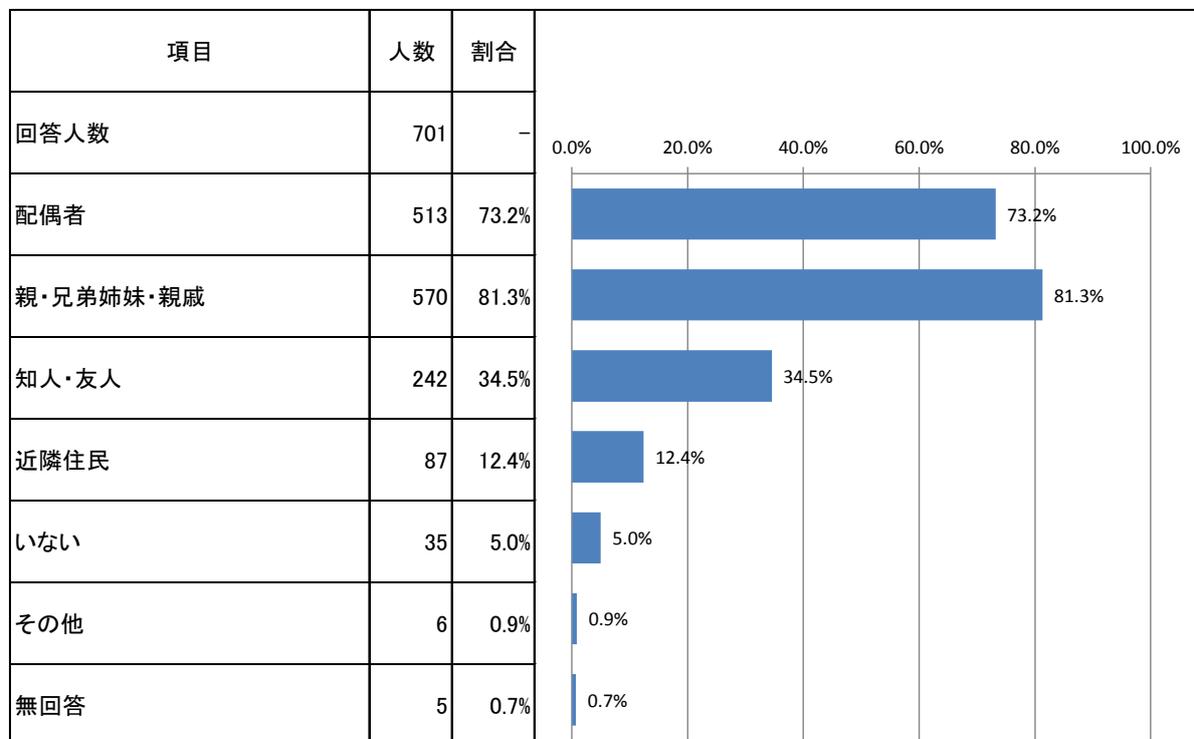
問 17 あなた（保護者）は、子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

子育てで困ったときの具体的な相談先については、「親・兄弟姉妹や親戚に相談する」が 83.0%と最も多く、次いで「夫婦で話し合いをする」が 75.9%、「近所の人や友人に相談する」が 71.3%となっている。



問 18 あなた（保護者）の子育てを手伝ってくれる人はいますか。
（あてはまるものすべてに○）

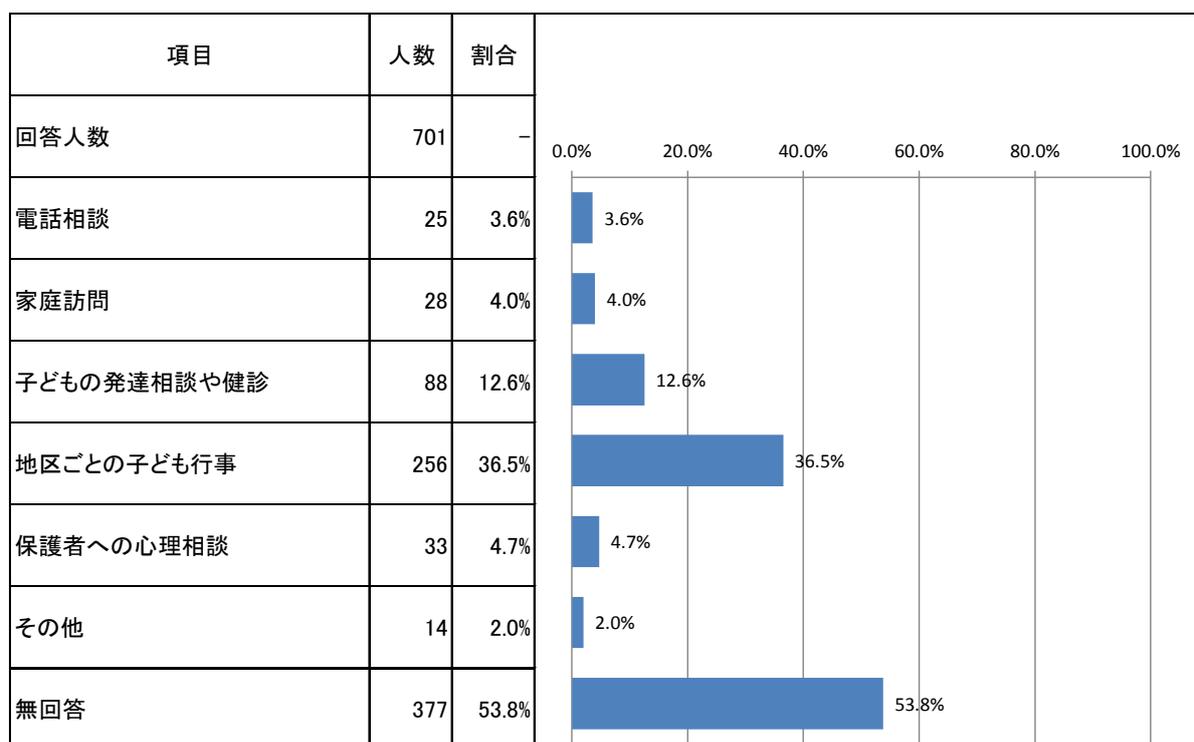
子育てを手伝ってくれる人については、「親・兄弟姉妹・親戚」が 81.3%と最も多く、次いで「配偶者」が 73.2%、「知人・友人」が 34.5%となっている。



問 19 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。
また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。
（最も希望するもの3つまで○）

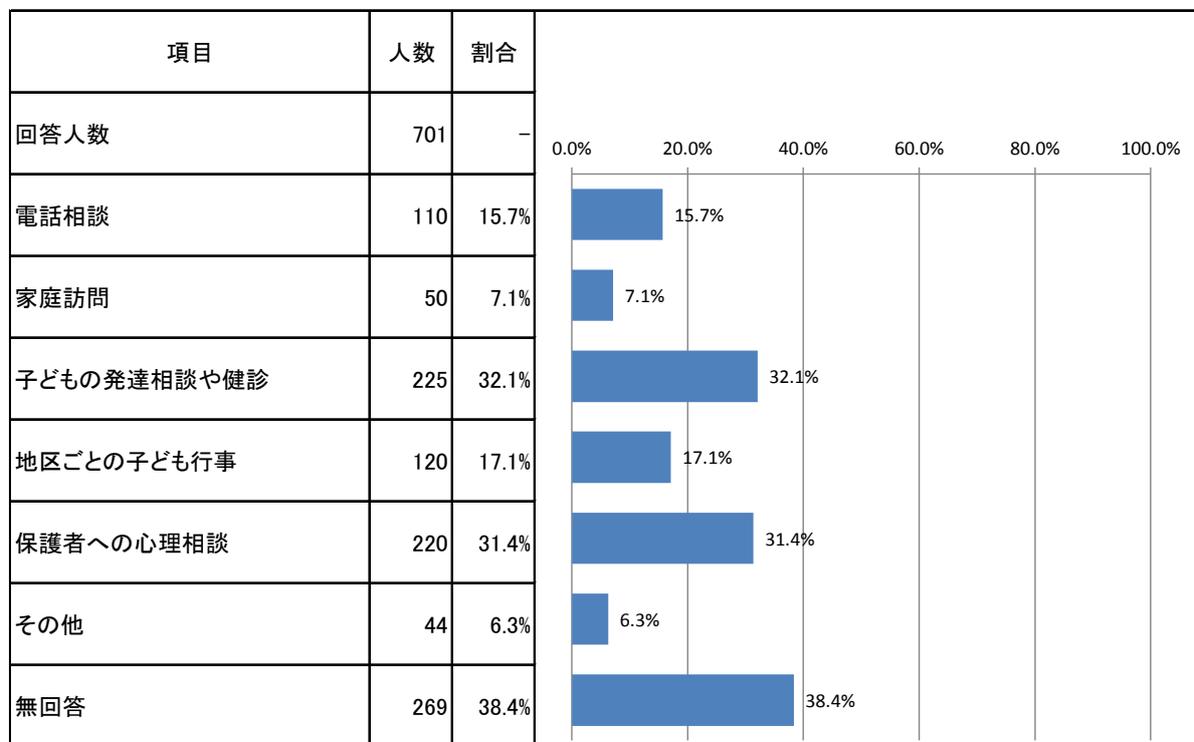
（現在、活用している）

子育て支援の活用状況については、「地区ごとの子ども行事」が 36.5%と最も多く、次いで「子どもの発達相談や健診」が 12.6%、「家庭訪問」4.0%となっている。



(充実して欲しい)

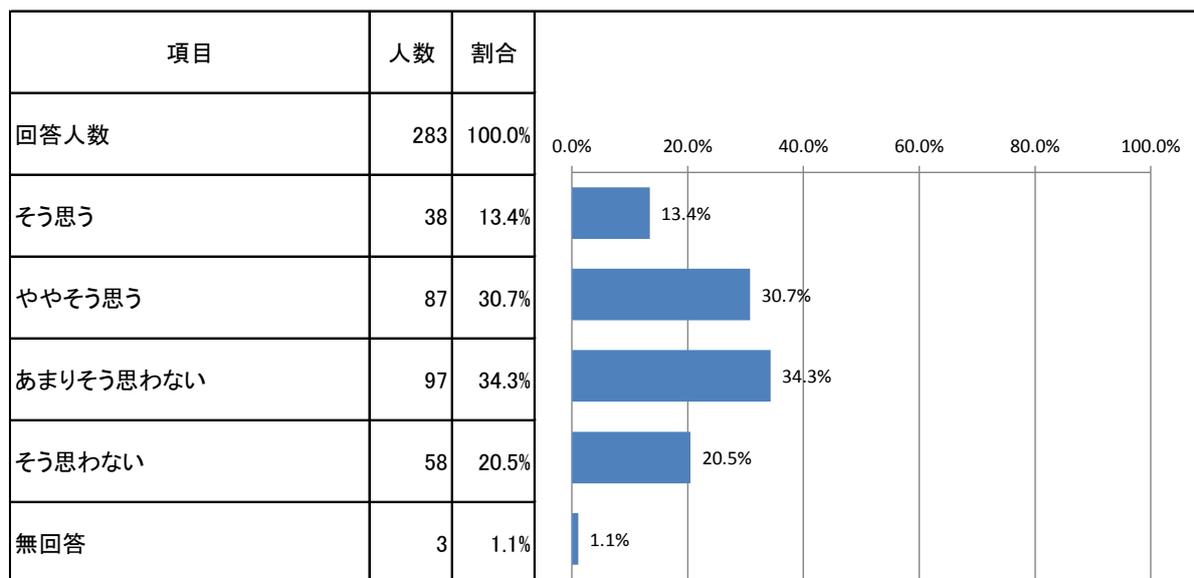
充実して欲しい子育て支援については、「子どもの発達相談や健診」が 32.1%と最も多く、次いで「保護者への心理相談」が 31.4%、「地区ごとの子ども行事」が 17.1%となっている。



問 20 男女の役割などについて、あなた（中学生本人）の考えをおたずねします。
（A～Eの項目ごとにひとつに○）

A 家事や育児は女性の仕事だと思いますか？

家事や育児は女性の仕事だと思うかについては、「あまりそう思わない」が34.3%と最も多く、次いで「ややそう思う」が30.7%、「そう思わない」が20.5%となっている。



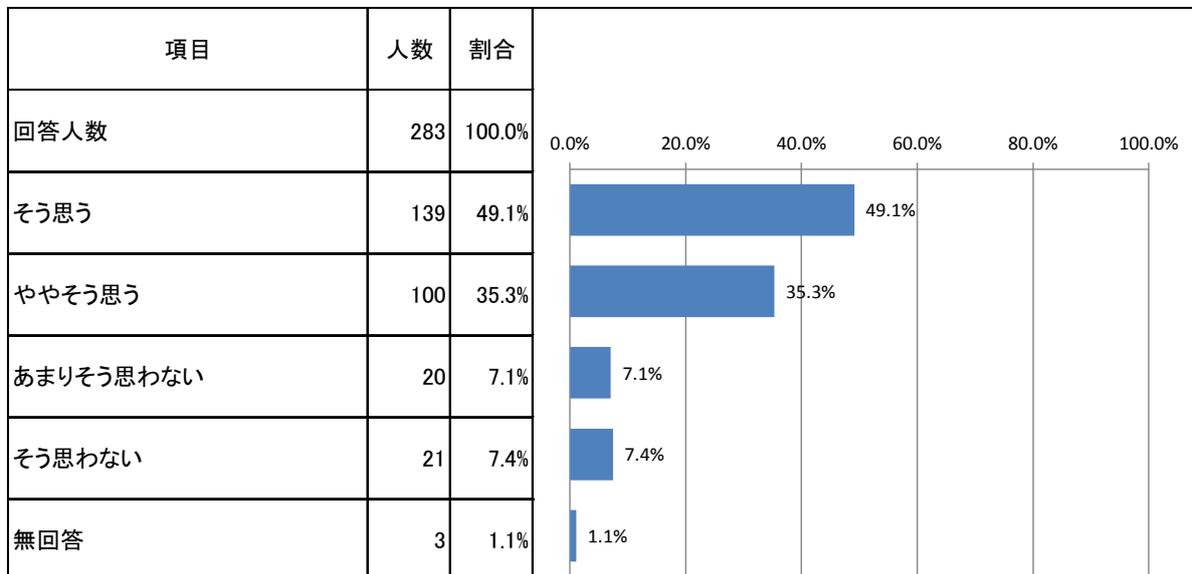
【属性別特徴】

性別では、女の「あまりそう思わない」が36.8%で、男の31.2%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	38	13.4%	19	13.8%	19	13.2%	0	0.0%
ややそう思う	87	30.7%	45	32.6%	42	29.2%	0	0.0%
あまりそう思わない	97	34.3%	43	31.2%	53	36.8%	1	100.0%
そう思わない	58	20.5%	28	20.3%	30	20.8%	0	0.0%
無回答	3	1.1%	3	2.2%	0	0.0%	0	0.0%

B 男性は結婚したら、一家の中心として家族を養うべきだと思いますか？

男性は結婚したら、一家の中心として家族を養うべきだと思うかについては、「そう思う」が49.1%と最も多く、次いで「ややそう思う」が35.3%、「そう思わない」が7.4%となっている。



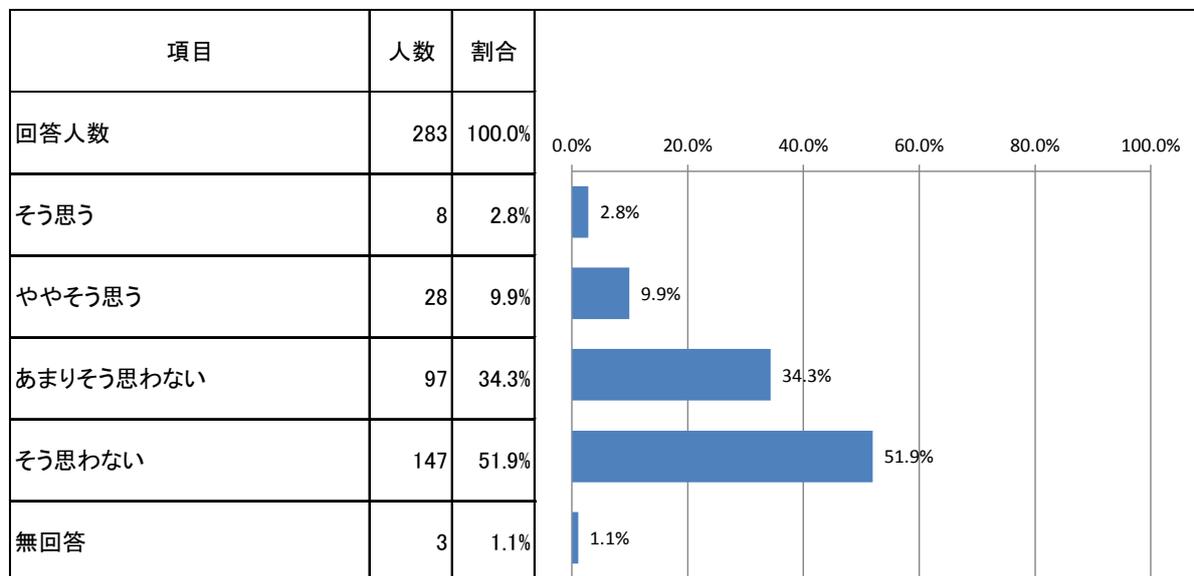
【属性別特徴】

性別では、男の「そう思う」が55.1%で、女の43.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	139	49.1%	76	55.1%	62	43.1%	1	100.0%
ややそう思う	100	35.3%	47	34.1%	53	36.8%	0	0.0%
あまりそう思わない	20	7.1%	3	2.2%	17	11.8%	0	0.0%
そう思わない	21	7.4%	9	6.5%	12	8.3%	0	0.0%
無回答	3	1.1%	3	2.2%	0	0.0%	0	0.0%

C 女性は男性に従うべきだと思いますか？

女性は男性に従うべきだと思うかについては、「そう思わない」が 51.9%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 34.3%、「ややそう思う」が 9.9%となっている。



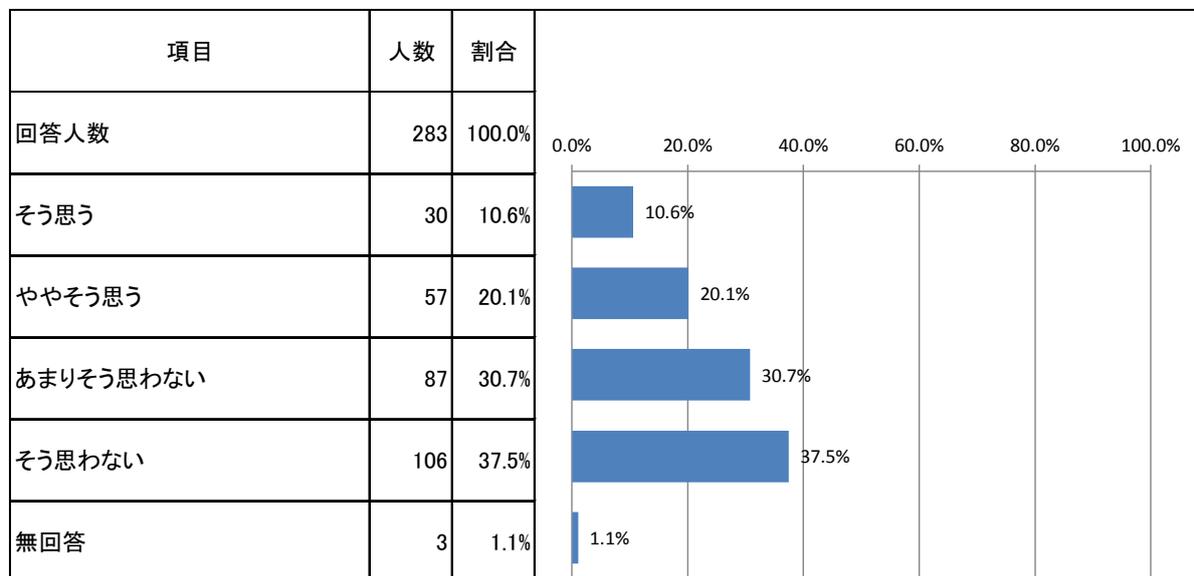
【属性別特徴】

性別では、女の「そう思わない」が 60.4%で、男の 43.5%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	8	2.8%	3	2.2%	5	3.5%	0	0.0%
ややそう思う	28	9.9%	17	12.3%	11	7.6%	0	0.0%
あまりそう思わない	97	34.3%	55	39.9%	41	28.5%	1	100.0%
そう思わない	147	51.9%	60	43.5%	87	60.4%	0	0.0%
無回答	3	1.1%	3	2.2%	0	0.0%	0	0.0%

D 男性は弱音をはくべきではないと思いますか？

男性は弱音をはくべきではないと思うかについては、「そう思わない」が 37.5%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 30.7%、「ややそう思う」が 20.1%となっている。



【属性別特徴】

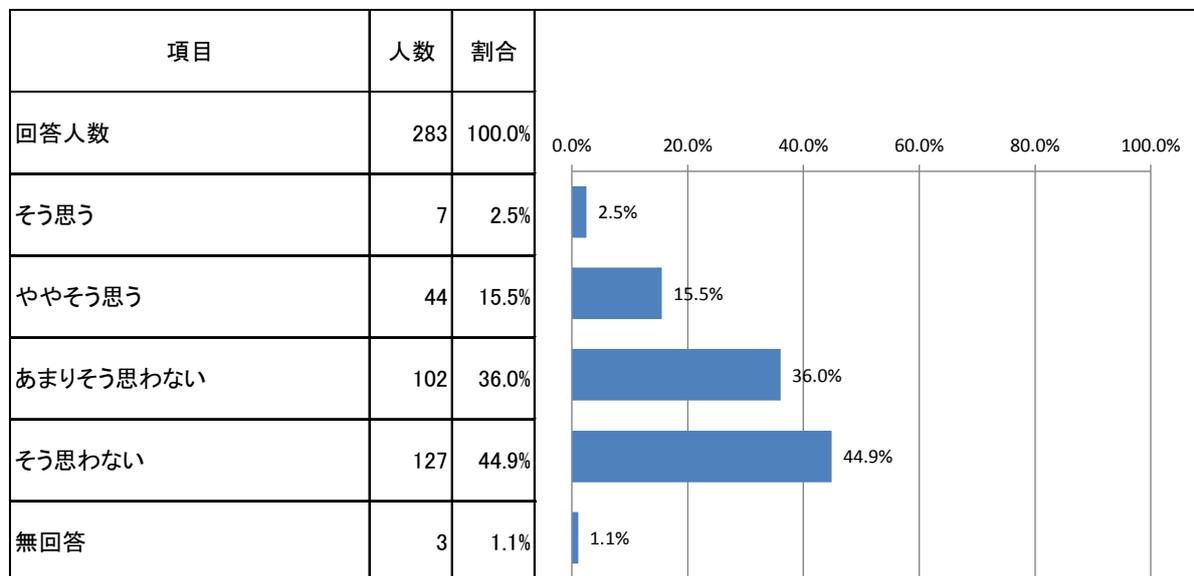
性別では、男の「ややそう思う」が 28.3%で、女の 12.5%に比べて高くなっている。

また、女の「そう思わない」が 47.2%で、男の 27.5%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	30	10.6%	17	12.3%	13	9.0%	0	0.0%
ややそう思う	57	20.1%	39	28.3%	18	12.5%	0	0.0%
あまりそう思わない	87	30.7%	41	29.7%	45	31.3%	1	100.0%
そう思わない	106	37.5%	38	27.5%	68	47.2%	0	0.0%
無回答	3	1.1%	3	2.2%	0	0.0%	0	0.0%

E 女性は自己主張せず控えめな方がいいと思いますか？

女性は自己主張せず控えめな方がいいと思うかについては、「そう思わない」が44.9%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が36.0%、「ややそう思う」が15.5%となっている。



【属性別特徴】

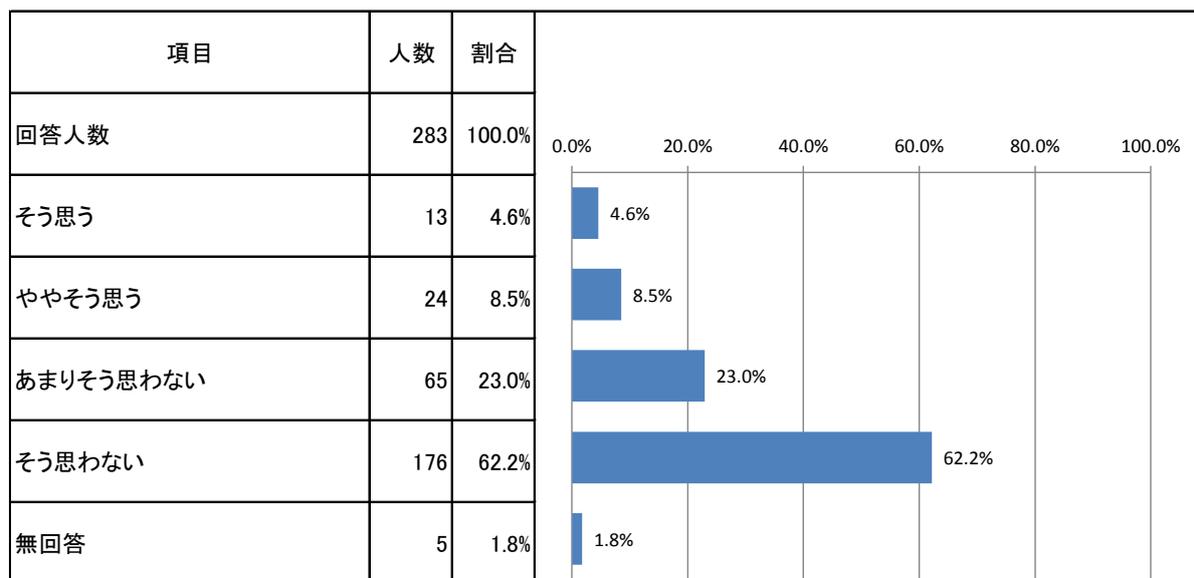
性別では、女の「そう思わない」が50.7%で、男の39.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	7	2.5%	3	2.2%	4	2.8%	0	0.0%
ややそう思う	44	15.5%	26	18.8%	18	12.5%	0	0.0%
あまりそう思わない	102	36.0%	52	37.7%	49	34.0%	1	100.0%
そう思わない	127	44.9%	54	39.1%	73	50.7%	0	0.0%
無回答	3	1.1%	3	2.2%	0	0.0%	0	0.0%

問 21 あなた（中学生本人）が交際した（異性と付き合う）場合、次のようなときに、あなたはどのように思いますか？（A～Gの項目ごとの番号にひとつに○）

A ひどい言葉で傷つけても、直接たたいたりしなければ暴力ではないと思う

ひどい言葉で傷つけても、直接たたいたりしなければ暴力ではないと思うかについては、「そう思わない」が62.2%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が23.0%、「ややそう思う」が8.5%となっている。



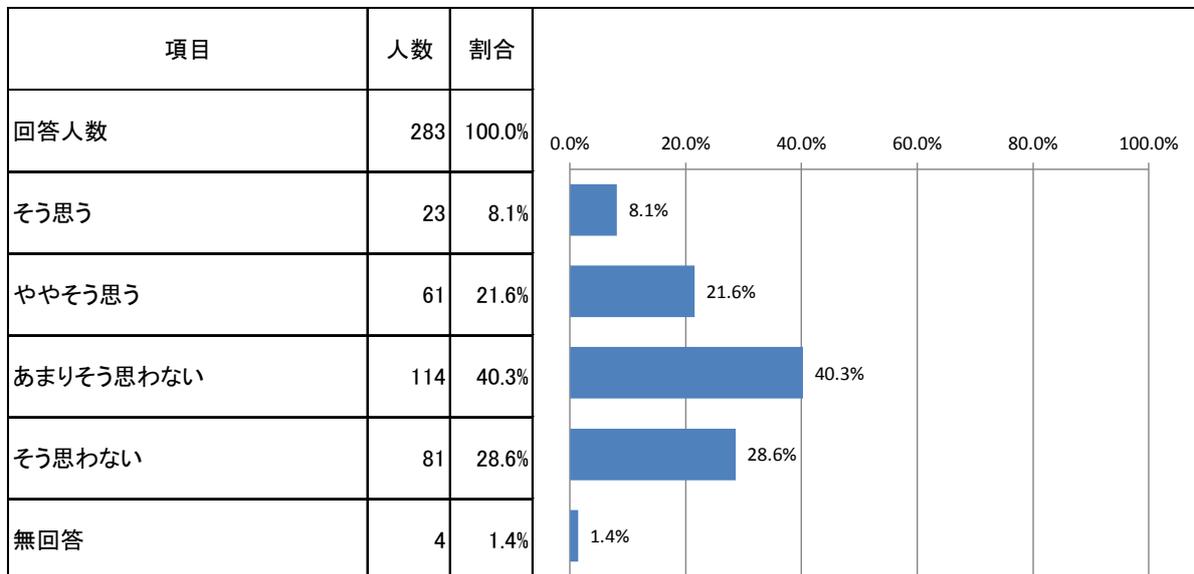
【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	13	4.6%	8	5.8%	5	3.5%	0	0.0%
ややそう思う	24	8.5%	9	6.5%	15	10.4%	0	0.0%
あまりそう思わない	65	23.0%	30	21.7%	35	24.3%	0	0.0%
そう思わない	176	62.2%	87	63.0%	88	61.1%	1	100.0%
無回答	5	1.8%	4	2.9%	1	0.7%	0	0.0%

B つきあい始めたら、男性が女性をリードしなければ格好が悪いと思う

つきあい始めたら、男性が女性をリードしなければ格好が悪いと思うかについては、「あまりそう思わない」が40.3%と最も多く、次いで「そう思わない」が28.6%、「ややそう思う」が21.6%となっている。



【属性別特徴】

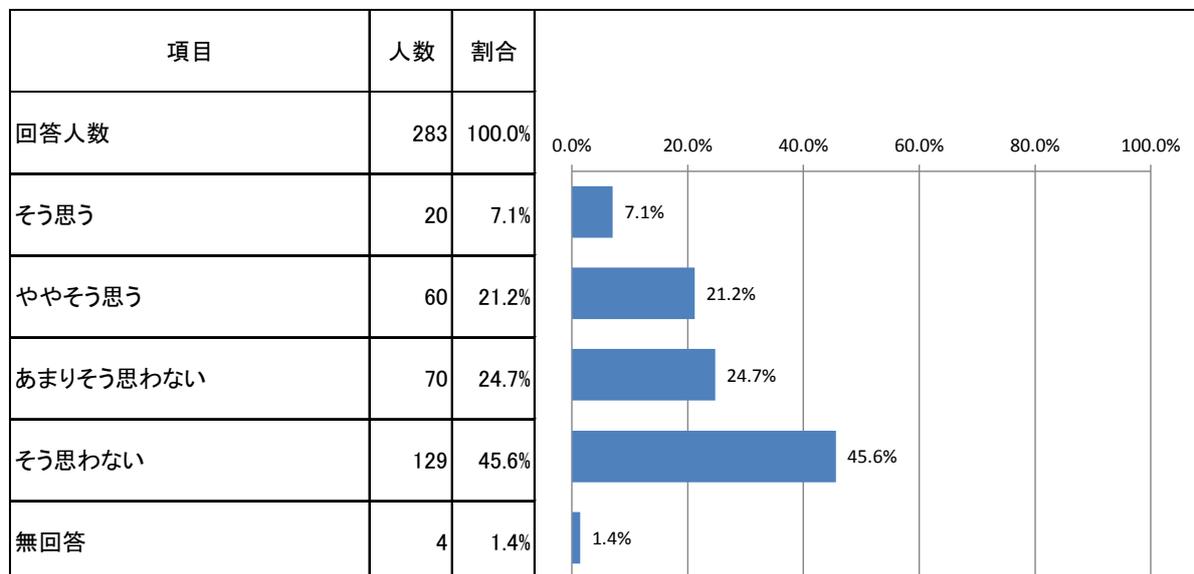
性別では、男の「ややそう思う」が27.5%で、女の16.0%に比べて高くなっている。

また、女の「そう思わない」が36.1%で、男の21.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	23	8.1%	16	11.6%	7	4.9%	0	0.0%
ややそう思う	61	21.6%	38	27.5%	23	16.0%	0	0.0%
あまりそう思わない	114	40.3%	51	37.0%	62	43.1%	1	100.0%
そう思わない	81	28.6%	29	21.0%	52	36.1%	0	0.0%
無回答	4	1.4%	4	2.9%	0	0.0%	0	0.0%

C たとえ暴力をふるわれても謝られたら許すべきだと思う

たとえ暴力をふるわれても謝られたら許すべきだと思うかについては、「そう思わない」が45.6%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が24.7%、「ややそう思う」が21.2%となっている。



【属性別特徴】

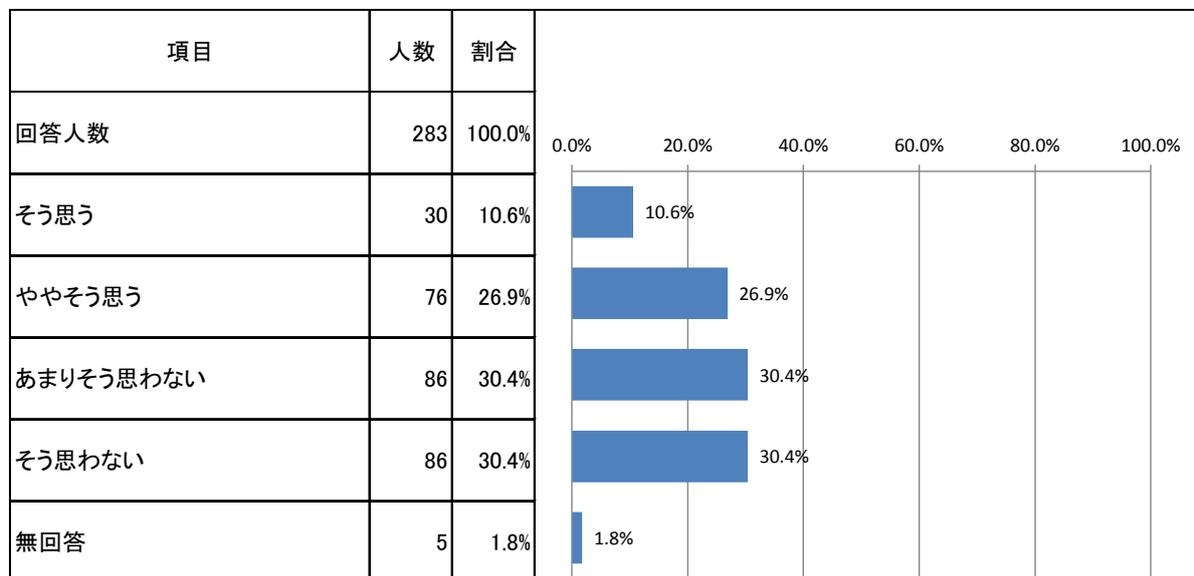
性別では、男の「ややそう思う」が31.2%で、女の11.8%に比べて高くなっている。

また、女の「そう思わない」が59.7%で、男の30.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	20	7.1%	16	11.6%	4	2.8%	0	0.0%
ややそう思う	60	21.2%	43	31.2%	17	11.8%	0	0.0%
あまりそう思わない	70	24.7%	33	23.9%	37	25.7%	0	0.0%
そう思わない	129	45.6%	42	30.4%	86	59.7%	1	100.0%
無回答	4	1.4%	4	2.9%	0	0.0%	0	0.0%

D 暴力をふるわれる方にも悪いところがあると思う

暴力をふるわれる方にも悪いところがあると思うかについては、「あまりそう思わない」、「そう思わない」が30.4%と最も多く、次いで「ややそう思う」が26.9%となっている。



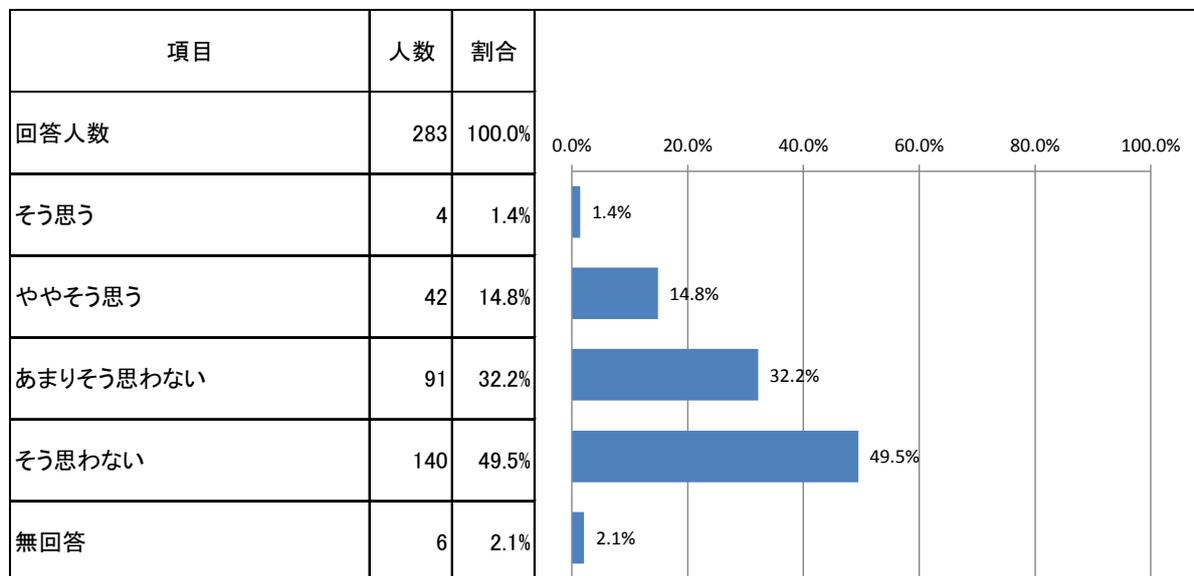
【属性別特徴】

性別では、男の「そう思う」が15.9%で、女の5.6%に比べて高くなっている。
また、女の「そう思わない」が39.6%で、男の21.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	30	10.6%	22	15.9%	8	5.6%	0	0.0%
ややそう思う	76	26.9%	39	28.3%	37	25.7%	0	0.0%
あまりそう思わない	86	30.4%	43	31.2%	42	29.2%	1	100.0%
そう思わない	86	30.4%	29	21.0%	57	39.6%	0	0.0%
無回答	5	1.8%	5	3.6%	0	0.0%	0	0.0%

E メールチェックや誰と会うかなど干渉・束縛するのは好きな証拠だと思う

メールチェックや誰と会うかなど干渉・束縛するのは好きな証拠だと思うかについては、「そう思わない」が49.5%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が32.2%、「ややそう思う」が14.8%となっている。



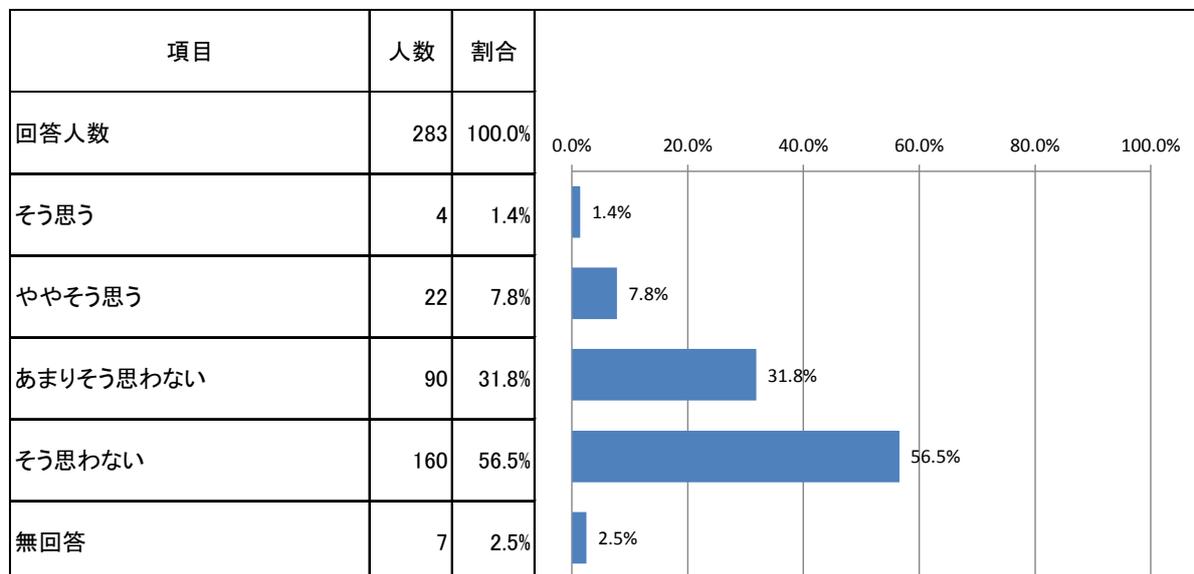
【属性別特徴】

性別では、女の「そう思わない」が55.6%で、男の43.5%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	4	1.4%	3	2.2%	1	0.7%	0	0.0%
ややそう思う	42	14.8%	27	19.6%	15	10.4%	0	0.0%
あまりそう思わない	91	32.2%	43	31.2%	47	32.6%	1	100.0%
そう思わない	140	49.5%	60	43.5%	80	55.6%	0	0.0%
無回答	6	2.1%	5	3.6%	1	0.7%	0	0.0%

F キスや体を触ることを求められたとき、愛情があるなら嫌でも応じると思う

キスや体を触ることを求められたとき、愛情があるなら嫌でも応じると思うかについては、「そう思わない」が56.5%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が31.8%、「ややそう思う」が7.8%となっている。



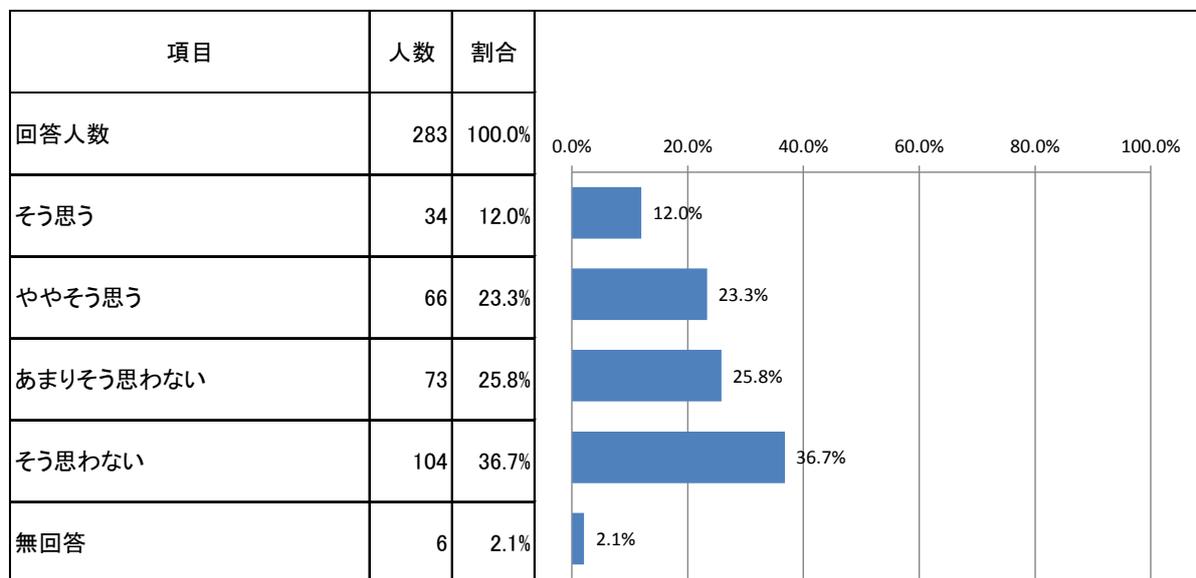
【属性別特徴】

性別では、女の「そう思わない」が68.1%で、男の44.2%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	4	1.4%	4	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
ややそう思う	22	7.8%	11	8.0%	11	7.6%	0	0.0%
あまりそう思わない	90	31.8%	56	40.6%	34	23.6%	0	0.0%
そう思わない	160	56.5%	61	44.2%	98	68.1%	1	100.0%
無回答	7	2.5%	6	4.3%	1	0.7%	0	0.0%

G 相手を怒らせないように工夫すれば、相手からの暴力をなくすことができると思う

相手を怒らせないように工夫すれば、相手からの暴力をなくすことができると思うかについては、「そう思わない」が36.7%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が25.8%、「ややそう思う」が23.3%となっている。



【属性別特徴】

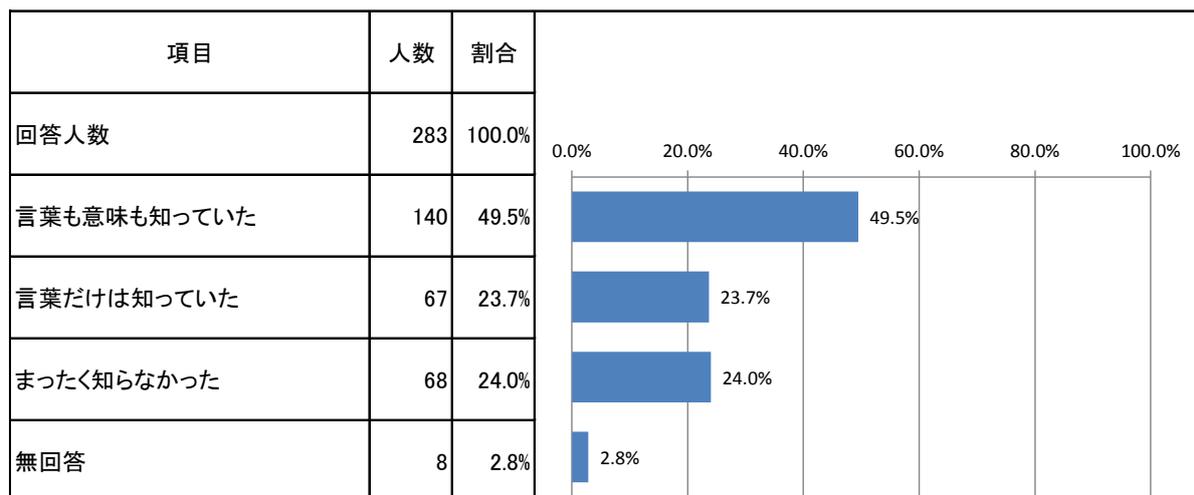
性別では、男の「そう思う」が17.4%で、女の6.9%に比べて高くなっている。
また、女の「そう思わない」が46.5%で、男の26.8%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	34	12.0%	24	17.4%	10	6.9%	0	0.0%
ややそう思う	66	23.3%	37	26.8%	29	20.1%	0	0.0%
あまりそう思わない	73	25.8%	35	25.4%	37	25.7%	1	100.0%
そう思わない	104	36.7%	37	26.8%	67	46.5%	0	0.0%
無回答	6	2.1%	5	3.6%	1	0.7%	0	0.0%

問 22 DV（ドメスティック・バイオレンス）について、あなた（中学生本人）におたずねします。（A～Dの項目ごとの番号にひとつに○、E～Fはあてはまるものすべてに○）

A 「DV」を知っていましたか？

「DV」の認知度については、「言葉も意味も知っていた」が 49.5%と最も多く、次いで「まったく知らなかった」が 24.0%、「言葉だけは知っていた」が 23.7%となっている。



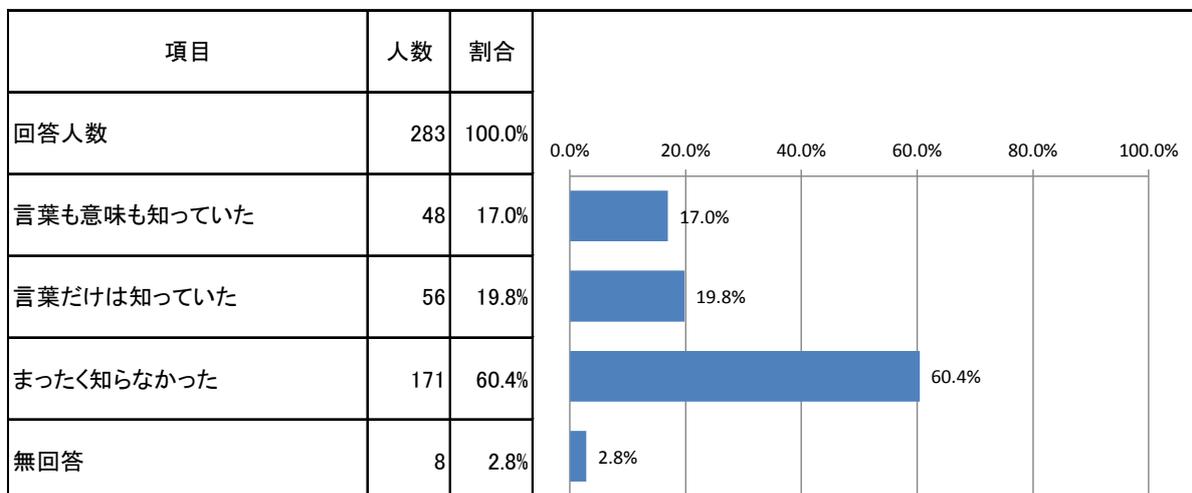
【属性別特徴】

性別では、女の「言葉も意味も知っていた」が 56.3%で、男の 42.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
言葉も意味も知っていた	140	49.5%	58	42.0%	81	56.3%	1	100.0%
言葉だけは知っていた	67	23.7%	33	23.9%	34	23.6%	0	0.0%
まったく知らなかった	68	24.0%	40	29.0%	28	19.4%	0	0.0%
無回答	8	2.8%	7	5.1%	1	0.7%	0	0.0%

B 「デートDV」を知っていましたか？

「デートDV」の認知度については、「まったく知らなかった」が60.4%と最も多く、次いで「言葉だけは知っていた」が19.8%、「言葉も意味も知っていた」が17.0%となっている。



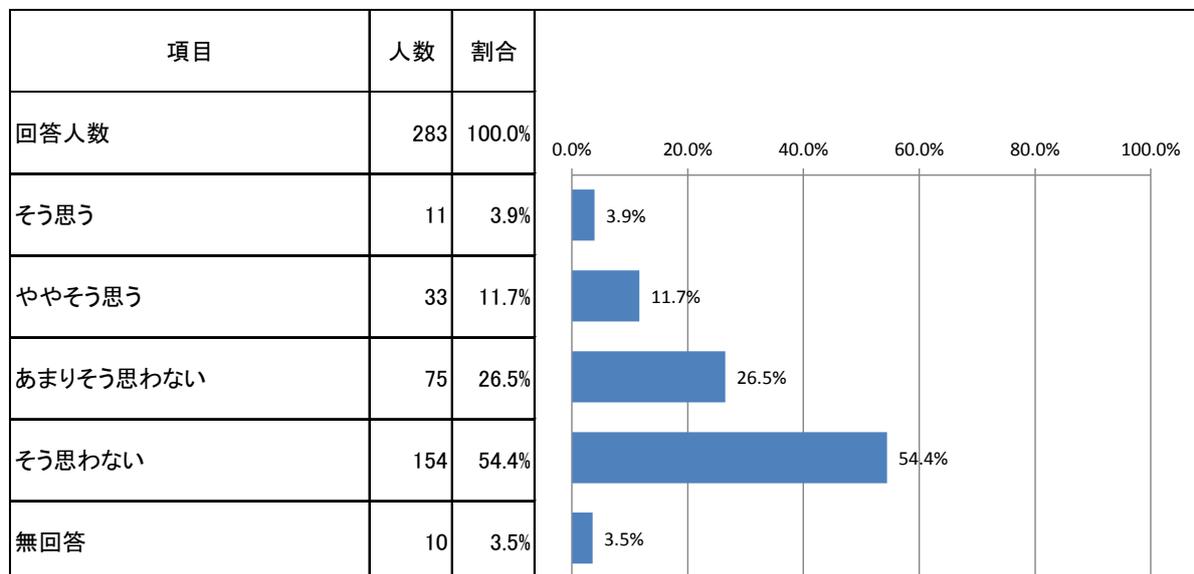
【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
言葉も意味も知っていた	48	17.0%	20	14.5%	28	19.4%	0	0.0%
言葉だけは知っていた	56	19.8%	24	17.4%	31	21.5%	1	100.0%
まったく知らなかった	171	60.4%	87	63.0%	84	58.3%	0	0.0%
無回答	8	2.8%	7	5.1%	1	0.7%	0	0.0%

C 「デートDV」は自分にとって身近なことだと思いますか？

「デートDV」は身近な問題であるかについては、「そう思わない」が 54.4%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 26.5%、「ややそう思う」が 11.7%となっている。



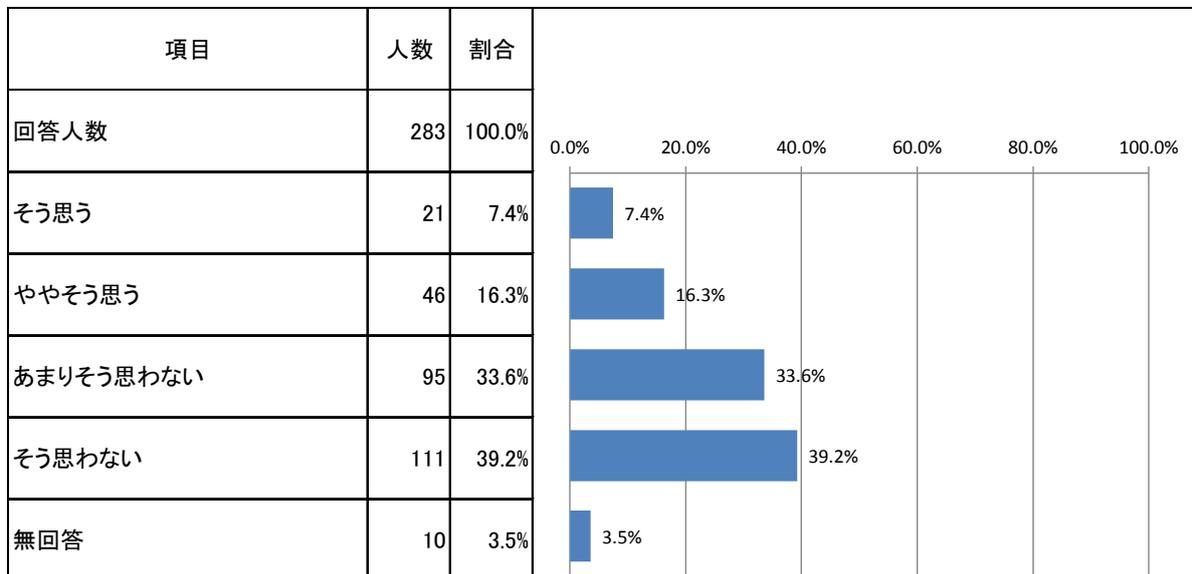
【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	11	3.9%	4	2.9%	7	4.9%	0	0.0%
ややそう思う	33	11.7%	18	13.0%	15	10.4%	0	0.0%
あまりそう思わない	75	26.5%	33	23.9%	41	28.5%	1	100.0%
そう思わない	154	54.4%	74	53.6%	80	55.6%	0	0.0%
無回答	10	3.5%	9	6.5%	1	0.7%	0	0.0%

D 「デートDV」について詳しく知りたいと思いますか？

「デートDV」について詳しく知りたいかについては、「そう思わない」が39.2%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が33.6%、「ややそう思う」が16.3%となっている。



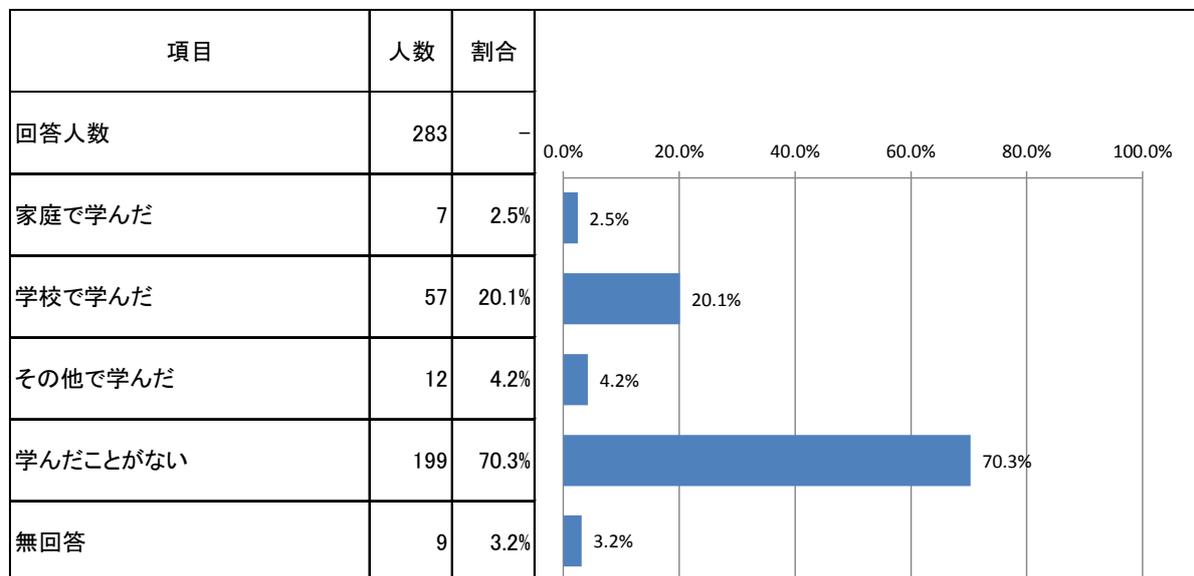
【属性別特徴】

性別では、女の「あまりそう思わない」が36.8%で、男の29.7%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	100.0%	138	100.0%	144	100.0%	1	100.0%
そう思う	21	7.4%	9	6.5%	12	8.3%	0	0.0%
ややそう思う	46	16.3%	25	18.1%	21	14.6%	0	0.0%
あまりそう思わない	95	33.6%	41	29.7%	53	36.8%	1	100.0%
そう思わない	111	39.2%	55	39.9%	56	38.9%	0	0.0%
無回答	10	3.5%	8	5.8%	2	1.4%	0	0.0%

E DVの被害者や加害者にならないための学習をしたことがありますか？

DVの被害者や加害者にならないための学習経験については、「学んだことがない」が70.3%と最も多く、次いで「学校で学んだ」が20.1%、「その他で学んだ」が4.2%となっている。



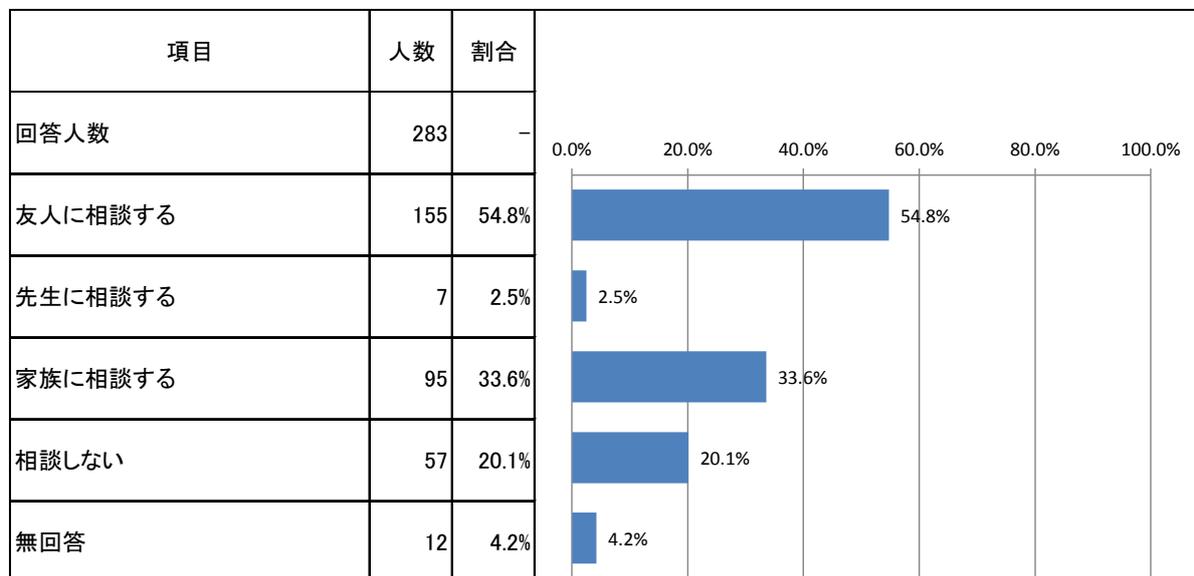
【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	-	138	-	144	-	1	-
家庭で学んだ	7	2.5%	3	2.2%	4	2.8%	0	0.0%
学校で学んだ	57	20.1%	26	18.8%	31	21.5%	0	0.0%
その他で学んだ	12	4.2%	5	3.6%	7	4.9%	0	0.0%
学んだことがない	199	70.3%	97	70.3%	101	70.1%	1	100.0%
無回答	9	3.2%	8	5.8%	1	0.7%	0	0.0%

F 交際相手のことで悩んだら相談しますか？

交際相手のことで悩んだときの相談先については、「友人に相談する」が 54.8%と最も多く、次いで「家族に相談する」が 33.6%、「相談しない」が 20.1%となっている。



【属性別特徴】

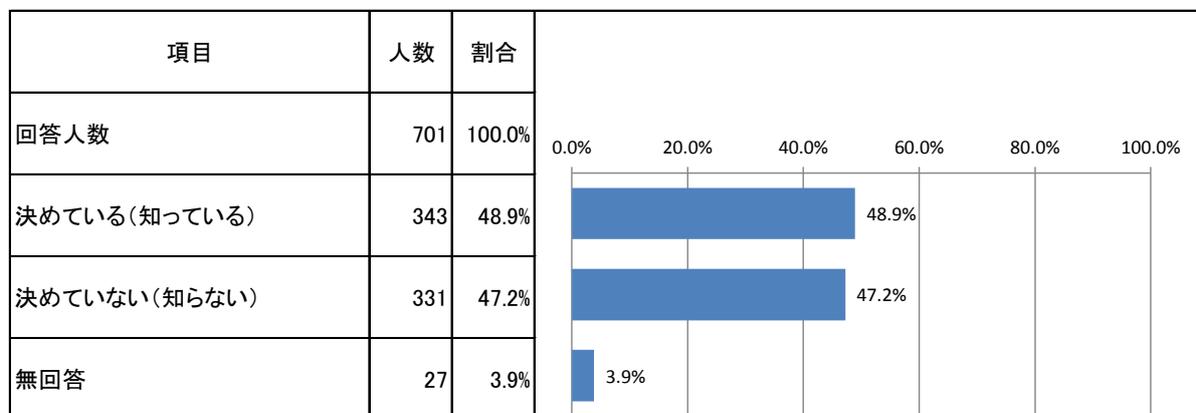
性別では、女の「友人に相談する」が 63.2%で、男の 45.7%に比べて高くなっている。

また、男の「相談しない」が 29.0%で、女の 11.8%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	283	-	138	-	144	-	1	-
友人に相談する	155	54.8%	63	45.7%	91	63.2%	1	100.0%
先生に相談する	7	2.5%	4	2.9%	3	2.1%	0	0.0%
家族に相談する	95	33.6%	35	25.4%	59	41.0%	1	100.0%
相談しない	57	20.1%	40	29.0%	17	11.8%	0	0.0%
無回答	12	4.2%	10	7.2%	2	1.4%	0	0.0%

問 23 対象のお子さんは、避難する場所を決めていますか。
 (または自宅に一番近い指定避難所を知っていますか。)(ひとつに○)

自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている(知っている)」が 48.9%、「決めていない(知らない)」が 47.2%となっている。



【属性別特徴】

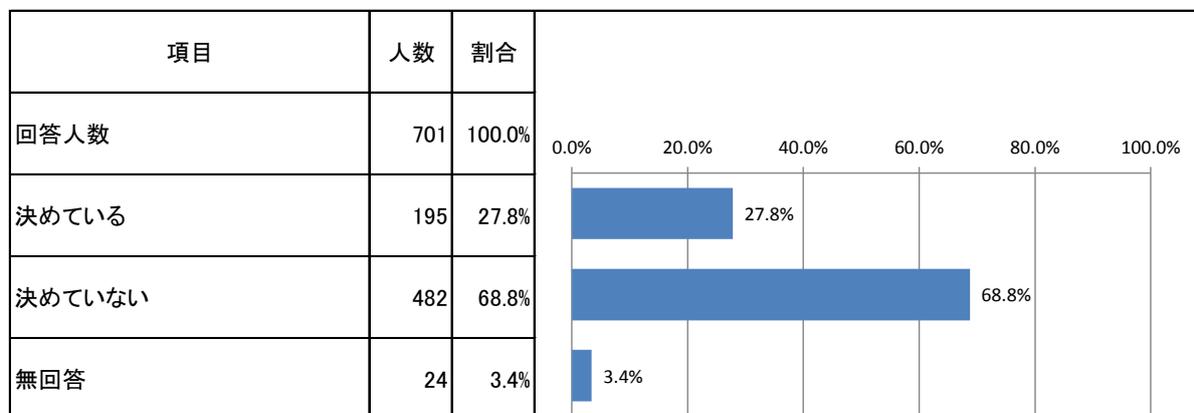
性別では、男の「決めている(知っている)」が 51.9%で、女の 46.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、小学校低学年の「決めている(知っている)」が 40.9%で、小学校高学年の 52.8%、中学生の 49.5%に比べて低くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	701	100.0%	349	100.0%	351	100.0%	1	100.0%	159	100.0%	252	100.0%	283	100.0%	7	100.0%
決めている(知っている)	343	48.9%	181	51.9%	162	46.2%	0	0.0%	65	40.9%	133	52.8%	140	49.5%	5	71.4%
決めていない(知らない)	331	47.2%	156	44.7%	174	49.6%	1	100.0%	88	55.3%	110	43.7%	131	46.3%	2	28.6%
無回答	27	3.9%	12	3.4%	15	4.3%	0	0.0%	6	3.8%	9	3.6%	12	4.2%	0	0.0%

問 24 対象のお子さんは、災害が発生したとき、家族と連絡をとる方法を決めていますか。(ひとつに○)

災害発生時の家族との連絡方法に関する話し合いについては、「決めている」が27.8%、「決めていない」が68.8%となっている。



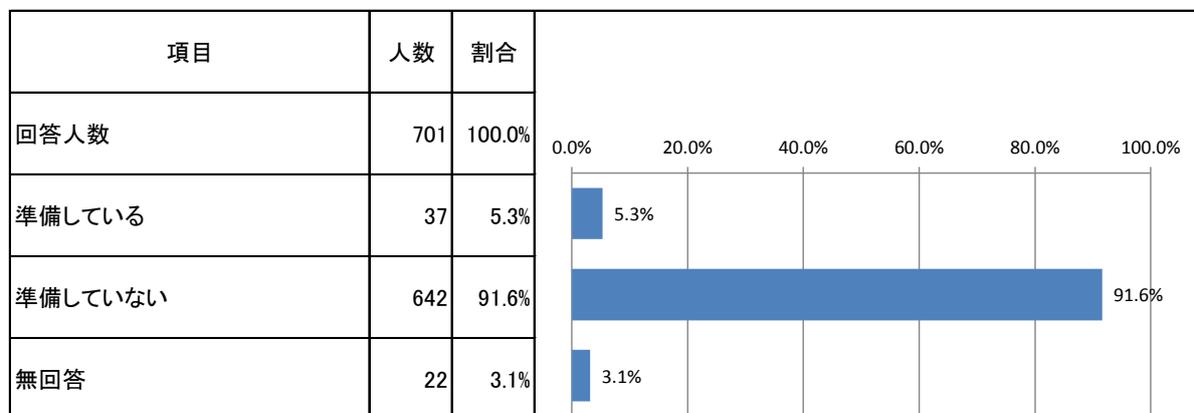
【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	701	100.0%	349	100.0%	351	100.0%	1	100.0%	159	100.0%	252	100.0%	283	100.0%	7	100.0%
決めている	195	27.8%	97	27.8%	98	27.9%	0	0.0%	41	25.8%	71	28.2%	80	28.3%	3	42.9%
決めていない	482	68.8%	241	69.1%	240	68.4%	1	100.0%	112	70.4%	173	68.7%	193	68.2%	4	57.1%
無回答	24	3.4%	11	3.2%	13	3.7%	0	0.0%	6	3.8%	8	3.2%	10	3.5%	0	0.0%

問 25 対象のお子さんは、災害時の非常持ち出し品を準備していますか。
(ひとつに○)

非常持ち出し品の準備については、「準備している」が 5.3%、「準備していない」が 91.6%となっている。



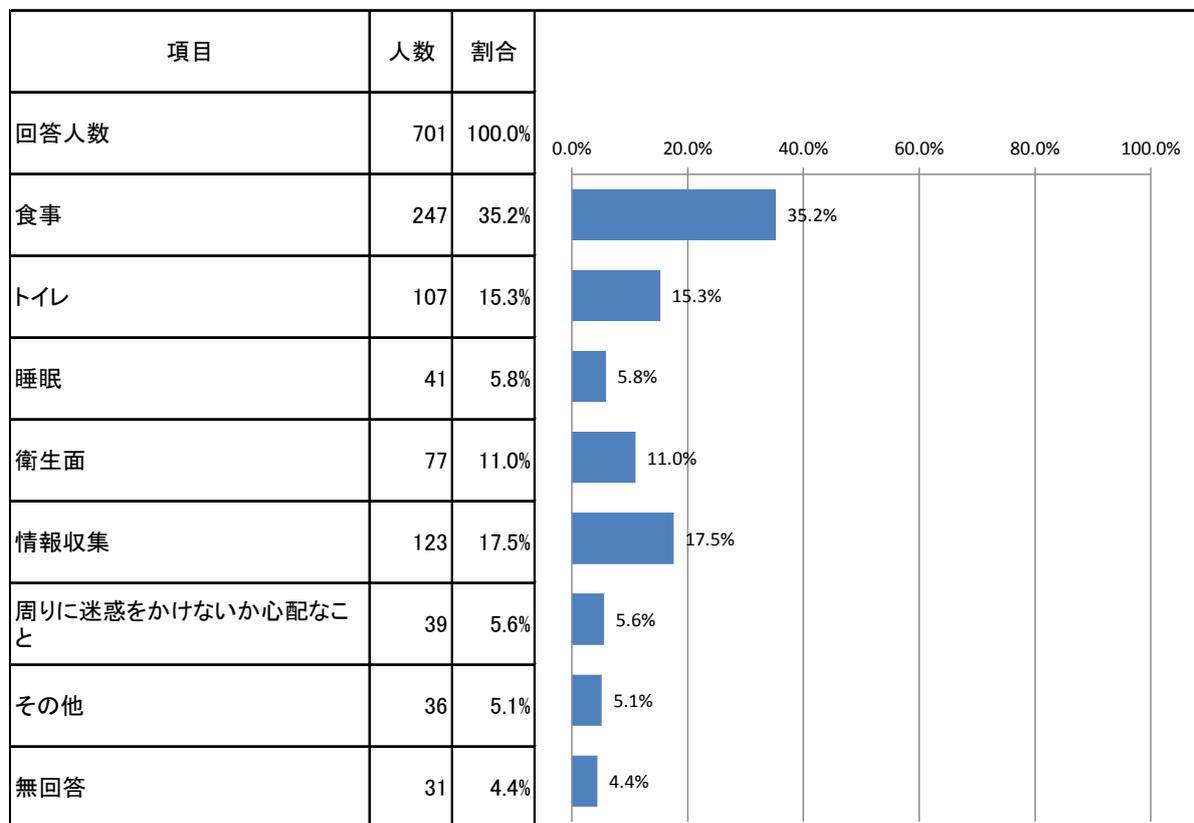
【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	701	100.0%	349	100.0%	351	100.0%	1	100.0%	159	100.0%	252	100.0%	283	100.0%	7	100.0%
準備している	37	5.3%	21	6.0%	16	4.6%	0	0.0%	7	4.4%	14	5.6%	16	5.7%	0	0.0%
準備していない	642	91.6%	316	90.5%	325	92.6%	1	100.0%	146	91.8%	231	91.7%	258	91.2%	7	100.0%
無回答	22	3.1%	12	3.4%	10	2.8%	0	0.0%	6	3.8%	7	2.8%	9	3.2%	0	0.0%

問 26 対象のお子さんは、避難所に避難した場合に、一番不安なのは次のうちどれですか。（ひとつに○）

避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「食事」が 35.2%と最も多く、次いで「情報収集」が 17.5%、「トイレ」が 15.3%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「食事」が38.4%で、女の32.2%に比べてやや高くなっている。

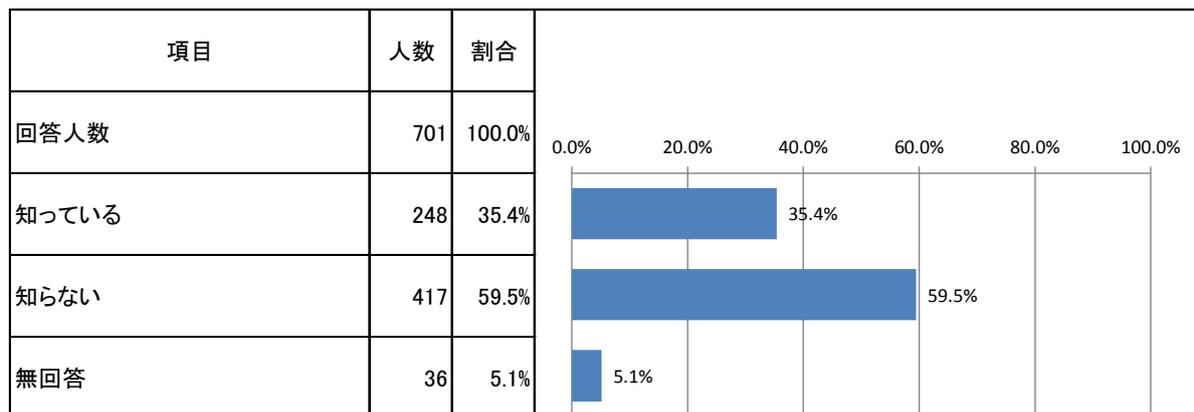
また、女の「トイレ」が19.4%で、男の11.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、小学校低学年の「食事」が42.8%で、小学校高学年の31.7%、中学生の34.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	701	100.0%	349	100.0%	351	100.0%	1	100.0%	159	100.0%	252	100.0%	283	100.0%	7	100.0%
食事	247	35.2%	134	38.4%	113	32.2%	0	0.0%	68	42.8%	80	31.7%	98	34.6%	1	14.3%
トイレ	107	15.3%	39	11.2%	68	19.4%	0	0.0%	17	10.7%	51	20.2%	39	13.8%	0	0.0%
睡眠	41	5.8%	17	4.9%	24	6.8%	0	0.0%	6	3.8%	14	5.6%	20	7.1%	1	14.3%
衛生面	77	11.0%	38	10.9%	39	11.1%	0	0.0%	16	10.1%	26	10.3%	34	12.0%	1	14.3%
情報収集	123	17.5%	66	18.9%	57	16.2%	0	0.0%	21	13.2%	42	16.7%	58	20.5%	2	28.6%
周りに迷惑をかけないか心配なこと	39	5.6%	26	7.4%	13	3.7%	0	0.0%	15	9.4%	15	6.0%	8	2.8%	1	14.3%
その他	36	5.1%	14	4.0%	22	6.3%	0	0.0%	7	4.4%	15	6.0%	13	4.6%	1	14.3%
無回答	31	4.4%	15	4.3%	15	4.3%	1	100.0%	9	5.7%	9	3.6%	13	4.6%	0	0.0%

問 27 桜島の火山活動では、大正噴火時に失われたマグマの約9割が蓄積されており、2020年代には、その蓄積が大正噴火直前の状態とほぼ同じになり、大正噴火級の大噴火が起こる可能性が示唆されていることを、対象のお子さんはご存じですか。(ひとつに○)

大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度については、「知っている」が35.4%、「知らない」が59.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

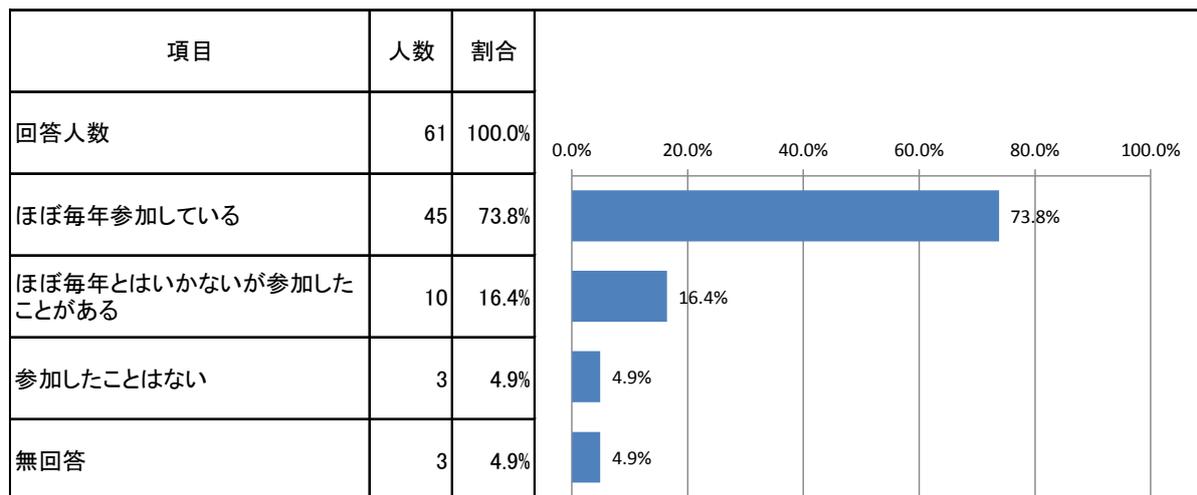
年齢別では、小学校低学年の「知っている」が22.0%で、小学校高学年の39.7%、中学生の39.2%に比べて低くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	701	100.0%	349	100.0%	351	100.0%	1	100.0%	159	100.0%	252	100.0%	283	100.0%	7	100.0%
知っている	248	35.4%	131	37.5%	117	33.3%	0	0.0%	35	22.0%	100	39.7%	111	39.2%	2	28.6%
知らない	417	59.5%	200	57.3%	217	61.8%	0	0.0%	117	73.6%	138	54.8%	157	55.5%	5	71.4%
無回答	36	5.1%	18	5.2%	17	4.8%	1	100.0%	7	4.4%	14	5.6%	15	5.3%	0	0.0%

※問 28 から問 30 は桜島にお住まいの方への質問です。

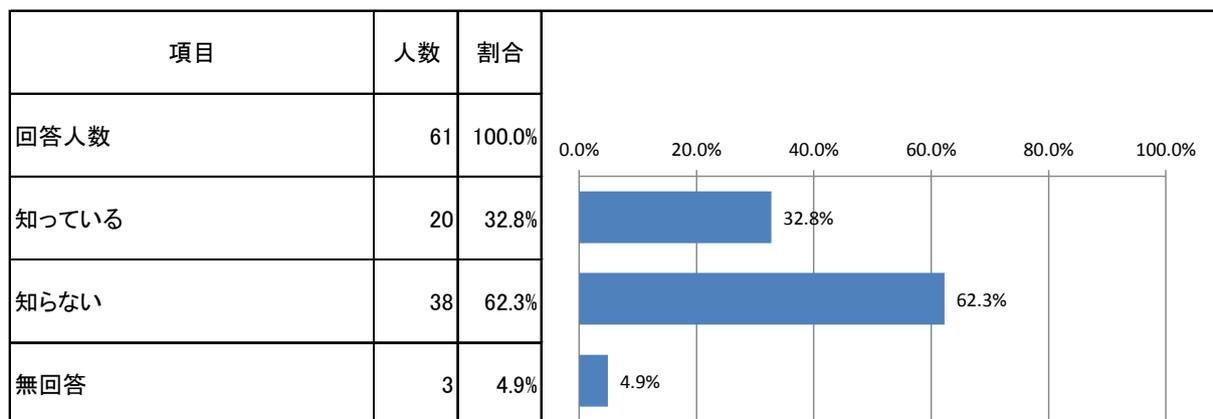
問 28 対象のお子さんは、鹿児島市が開催する桜島火山爆発総合防災訓練に参加したことがありますか。(ひとつに○)

桜島火山爆発総合防災訓練の参加については、「ほぼ毎年参加している」が 73.8%と最も多く、次いで「ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある」が 16.4%、「参加したことはない」が 4.9%となっている。



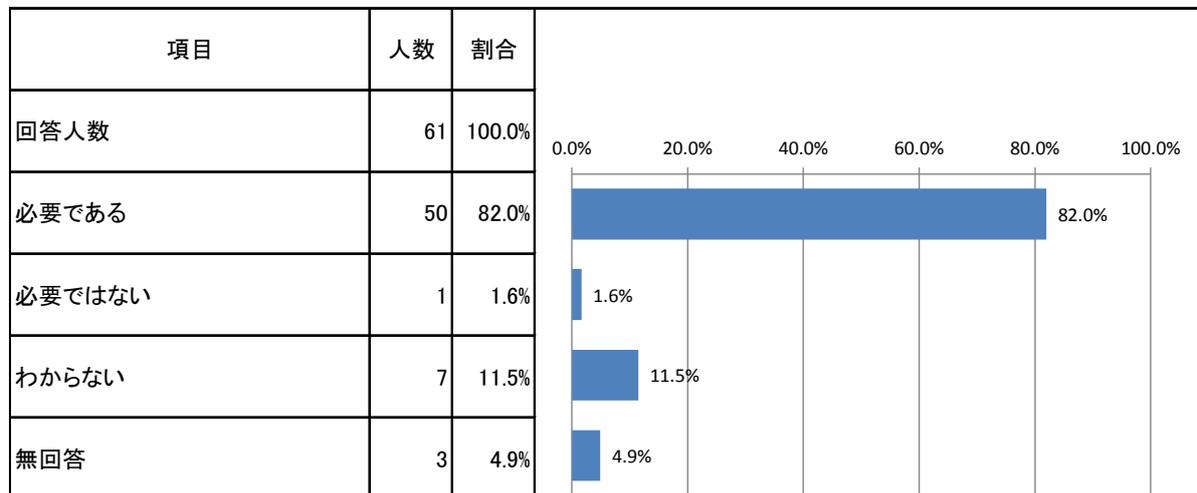
問 29 現在、避難時に家族カードを提出することで、避難した方を把握することになっていますが、対象のお子さんは、家族カードを提出することを知っていますか。(ひとつに○)

噴火の避難時における家族カード提出の認知度については、「知っている」が 32.8%、「知らない」が 62.3%となっている。



問 30 現在、避難しなかった人（避難時に島外にいる人や逃げ遅れた人など）を町内会や行政で確認する仕組みはありません。対象のお子さんは、把握できるようにしておくことが必要だと考えますか。（ひとつに○）

避難しなかった人を確認する仕組みの必要性については、「必要である」が 82.0%と最も多く、次いで「わからない」が 11.5%、「必要ではない」が 1.6%となっている。

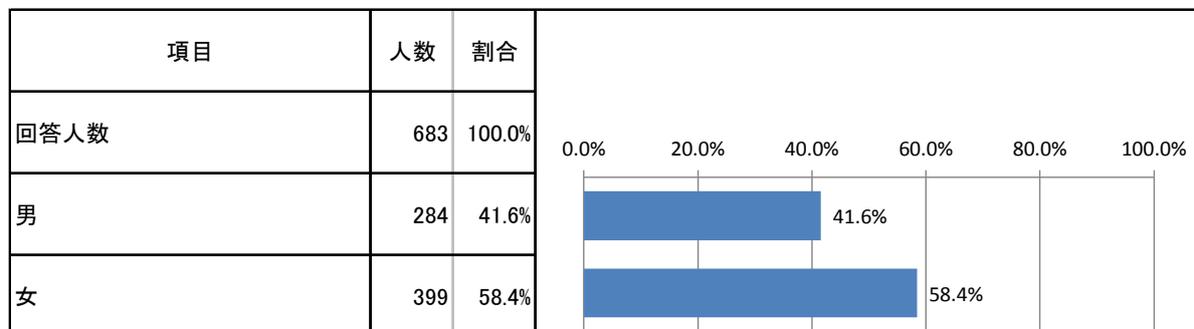


第4章 一般

問1 あなたの性別などについてお聞きします。

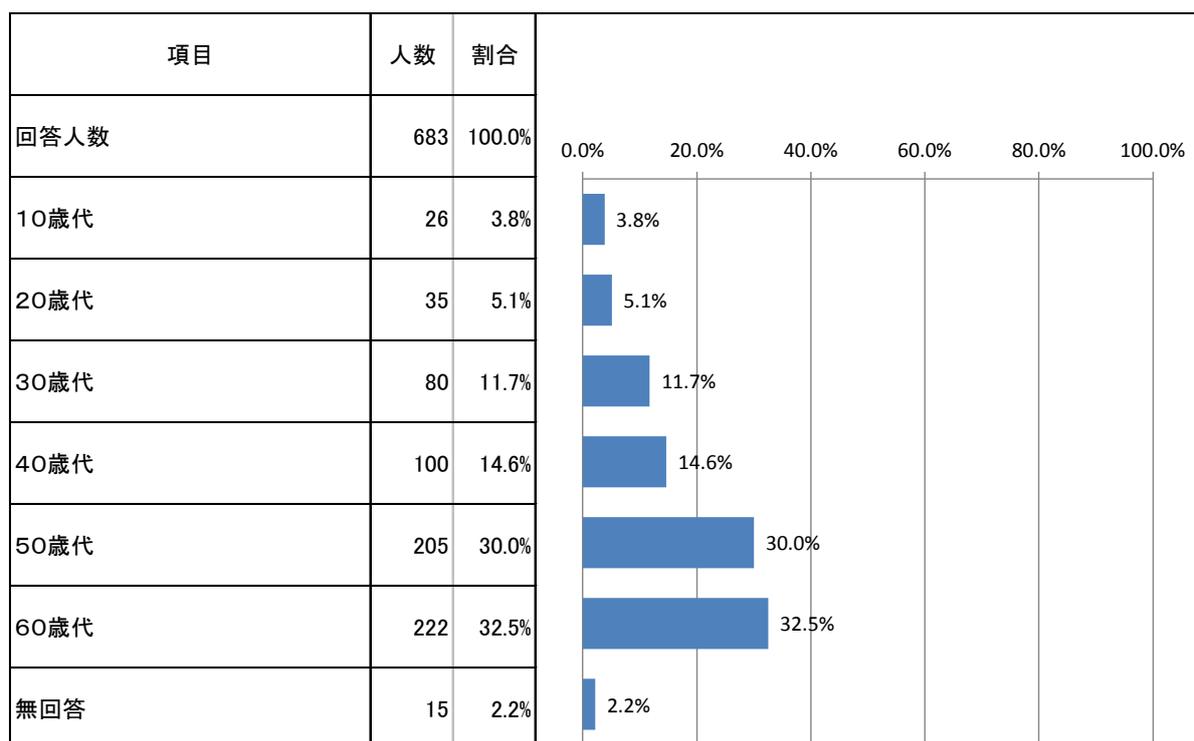
(1)① 対象（封書の宛名）の方の性別

性別については、「男」が41.6%、「女」が58.4%となっている。



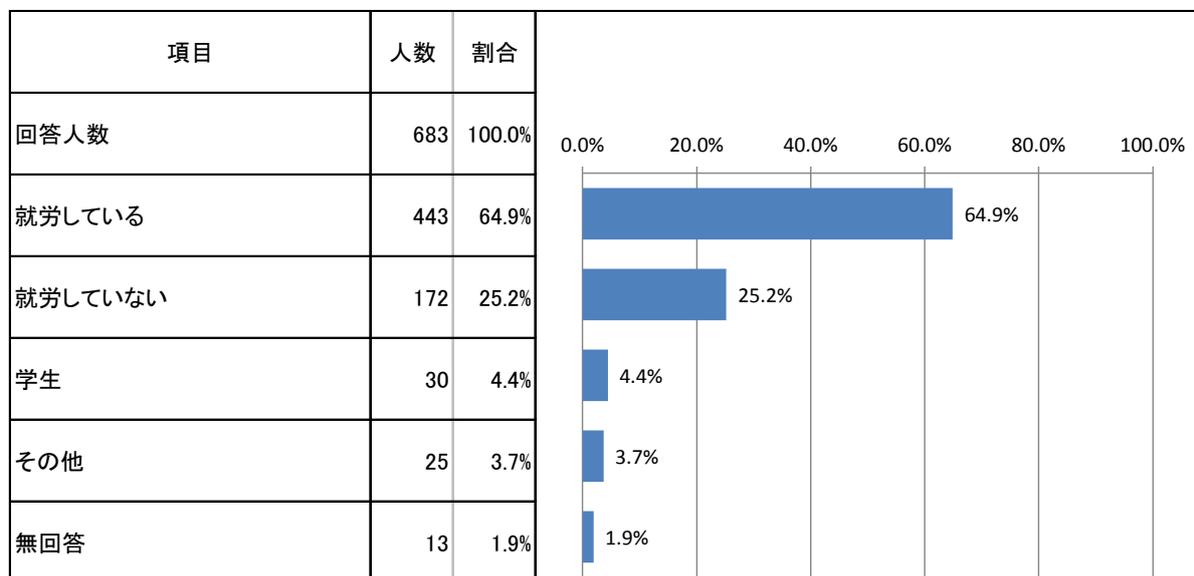
(1)② 対象（封書の宛名）の方の年齢

年齢については、「60歳代」が32.5%と最も多く、次いで「50歳代」が30.0%、「40歳代」が14.6%となっている。



(2) 対象（封書の宛名）の方の就労状況

就労については、「就労している」が 64.9%と最も多く、次いで「就労していない」が 25.2%、「学生」が 4.4%となっている。

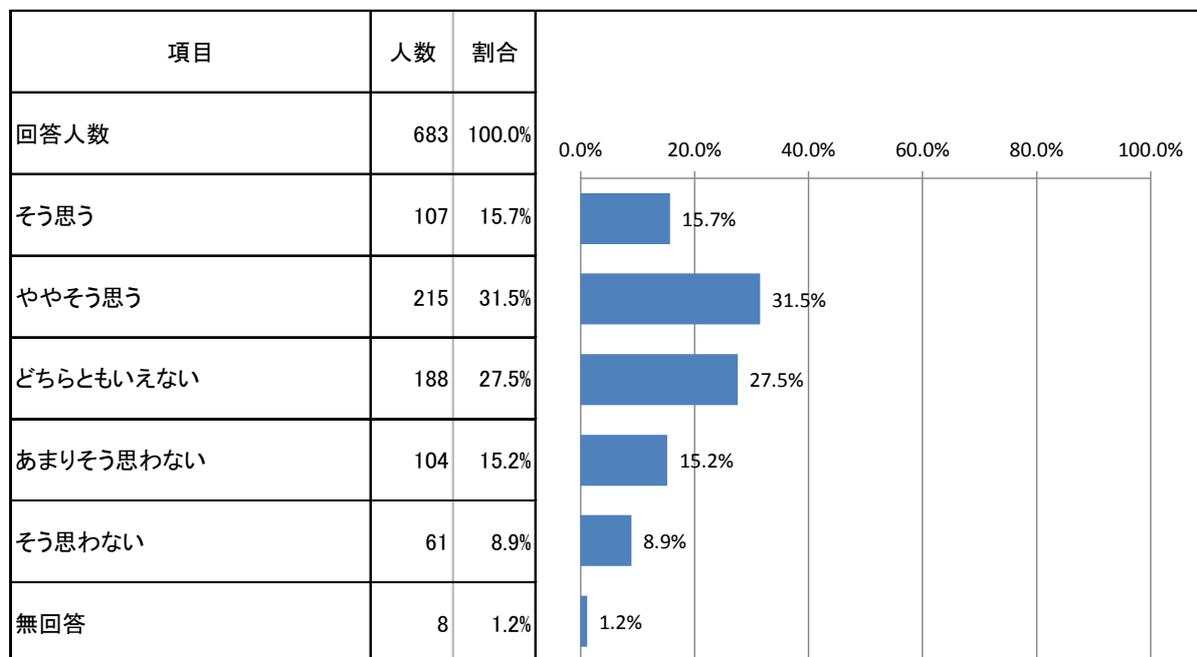


問2 あなたのお住まいについてお聞きします。(小学校区)

区分	人数	割合	区分	人数	割合
本城小学校	1	0.1%	花野小学校	5	0.7%
牟礼岡小学校	4	0.6%	西伊敷小学校	3	0.4%
南方小学校	2	0.3%	伊敷台小学校	10	1.5%
花尾小学校	1	0.1%	玉江小学校	6	0.9%
郡山小学校	2	0.3%	小山田小学校	1	0.1%
川上小学校	4	0.6%	犬迫小学校	1	0.1%
吉野小学校	161	23.6%	東桜島小学校	24	3.5%
吉野東小学校	1	0.1%	改新小学校	9	1.3%
大明丘小学校	2	0.3%	高免小学校	3	0.4%
坂元小学校	6	0.9%	黒神小学校	9	1.3%
坂元台小学校	8	1.2%	桜洲小学校	77	11.3%
清水小学校	5	0.7%	桜峰小学校	58	8.5%
大龍小学校	2	0.3%	春山小学校	1	0.1%
名山小学校	2	0.3%	谷山小学校	13	1.9%
山下小学校	5	0.7%	西谷山小学校	8	1.2%
松原小学校	1	0.1%	東谷山小学校	13	1.9%
城南小学校	4	0.6%	清和小学校	4	0.6%
草牟田小学校	4	0.6%	和田小学校	7	1.0%
原良小学校	5	0.7%	錦江台小学校	7	1.0%
明和小学校	7	1.0%	福平小学校	7	1.0%
武岡小学校	7	1.0%	平川小学校	1	0.1%
西田小学校	2	0.3%	中山小学校	6	0.9%
武小学校	7	1.0%	桜丘西小学校	3	0.4%
田上小学校	5	0.7%	桜丘東小学校	2	0.3%
西陵小学校	9	1.3%	星峯西小学校	1	0.1%
広木小学校	9	1.3%	星峯東小学校	4	0.6%
中洲小学校	3	0.4%	宮川小学校	6	0.9%
荒田小学校	12	1.8%	皇徳寺小学校	5	0.7%
八幡小学校	12	1.8%	中名小学校	1	0.1%
中郡小学校	10	1.5%	喜入小学校	4	0.6%
紫原小学校	6	0.9%	前之浜小学校	1	0.1%
西紫原小学校	8	1.2%	分からない	33	4.8%
鴨池小学校	7	1.0%	無回答	16	2.3%
宇宿小学校	4	0.6%	合計	683	100.0%
向陽小学校	2	0.3%			
伊敷小	4	0.6%			

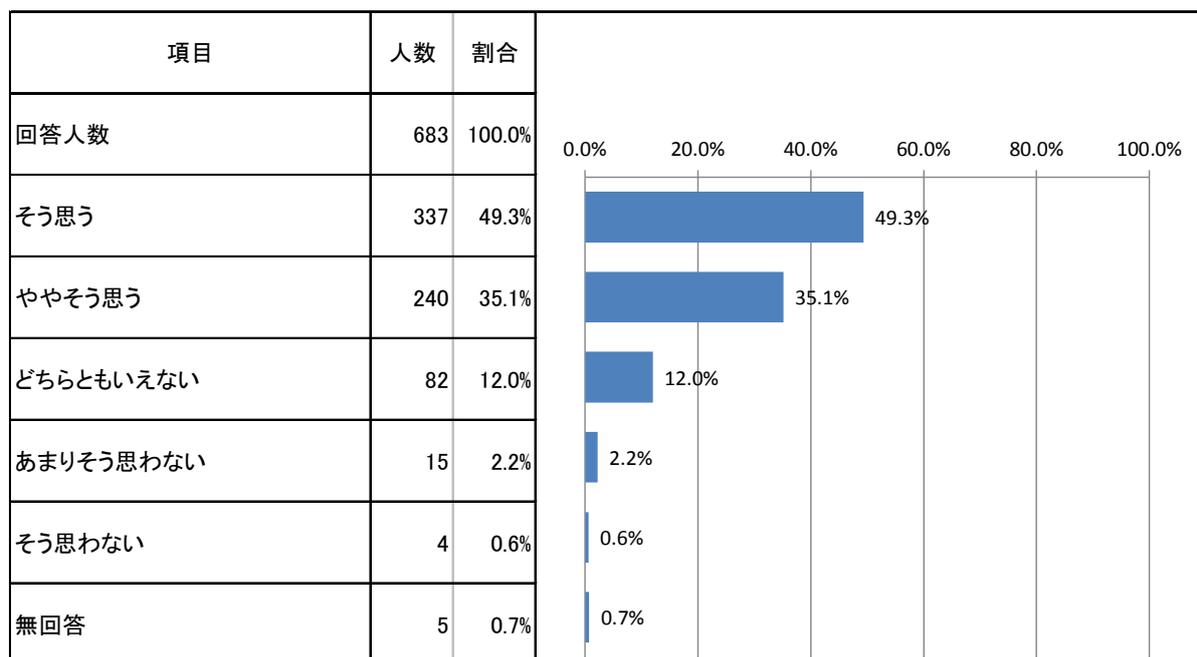
問3 あなたは、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組んでいると思いますか。(ひとつに○)

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組んでいると思うことについては、「ややそう思う」が31.5%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が27.5%、「そう思う」が15.7%となっている。



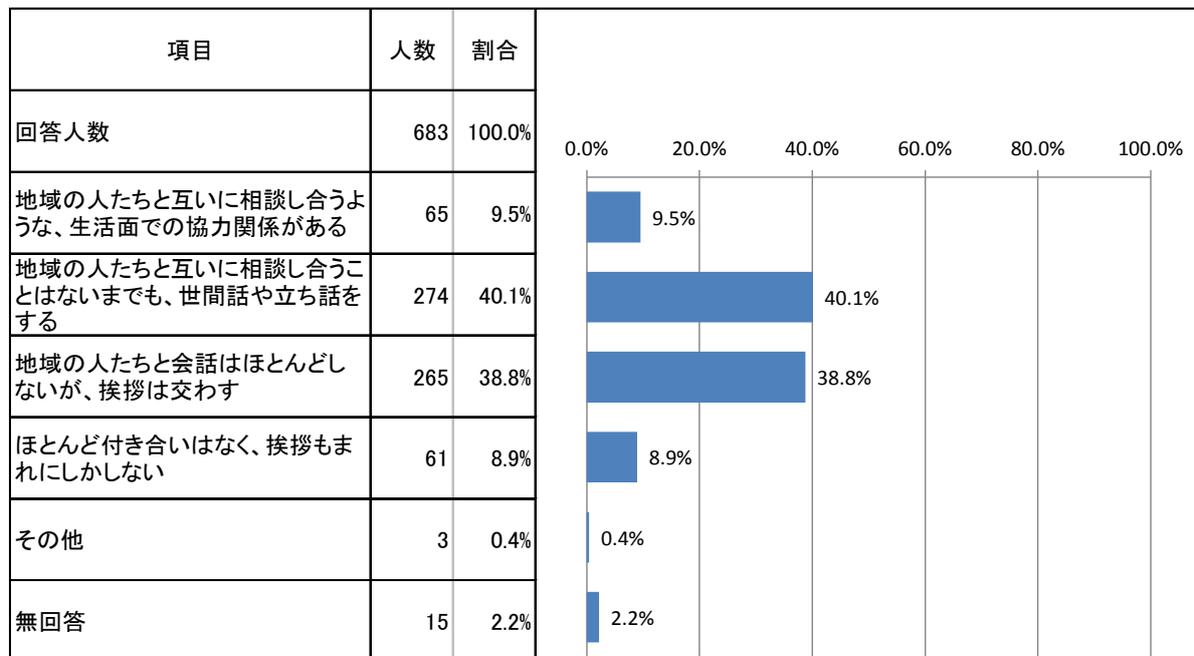
問4 あなたは、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組むことは重要だと思いますか。(ひとつに○)

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組むことは重要だと思うことについては、「そう思う」が49.3%と最も多く、次いで「ややそう思う」が35.1%、「どちらともいえない」が12.0%となっている。



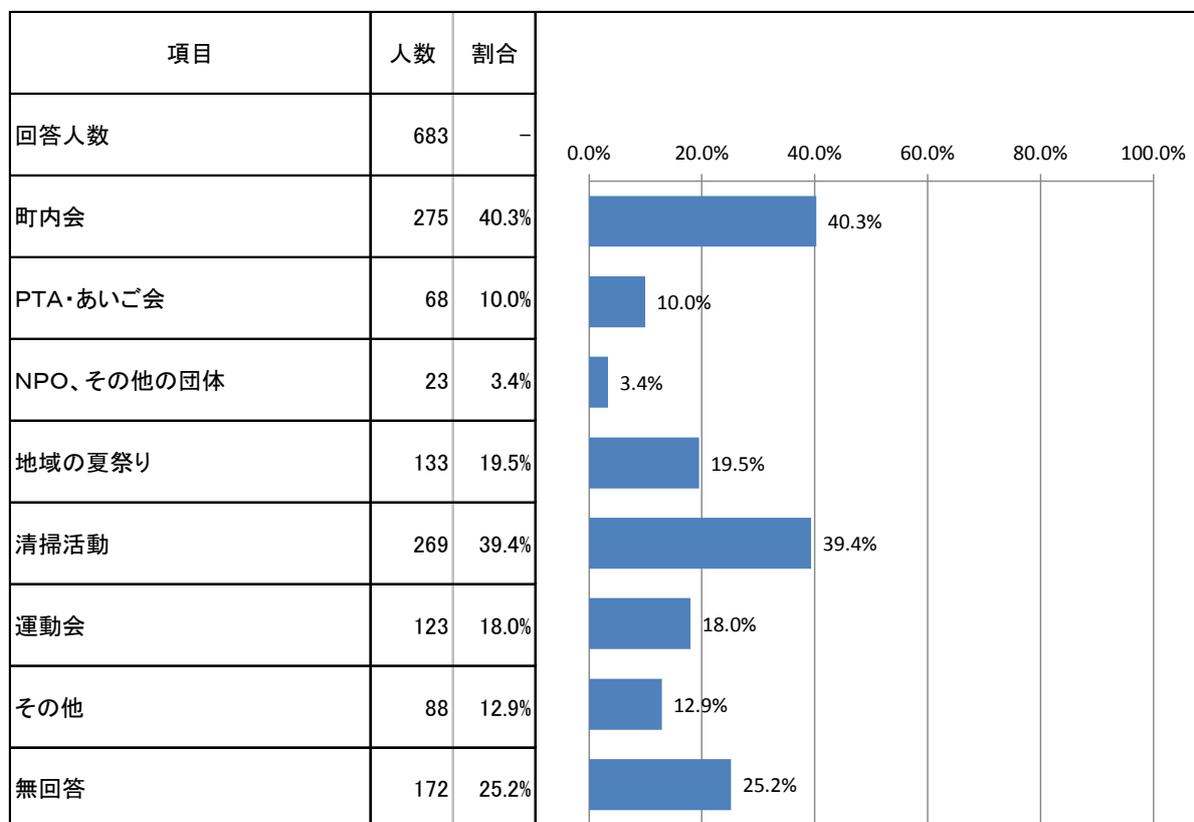
問5 あなたは、地域の人たちとコミュニケーションをとっていますか。
(ひとつに〇)

地域の人たちとのコミュニケーションについては、「地域の人たちと互いに相談し合うことはないまでも、世間話や立ち話をする」が40.1%と最も多く、次いで「地域の人たちと会話はほとんどしないが、挨拶は交わす」が38.8%、「地域の人たちと互いに相談し合うような、生活面での協力関係がある」が9.5%となっている。



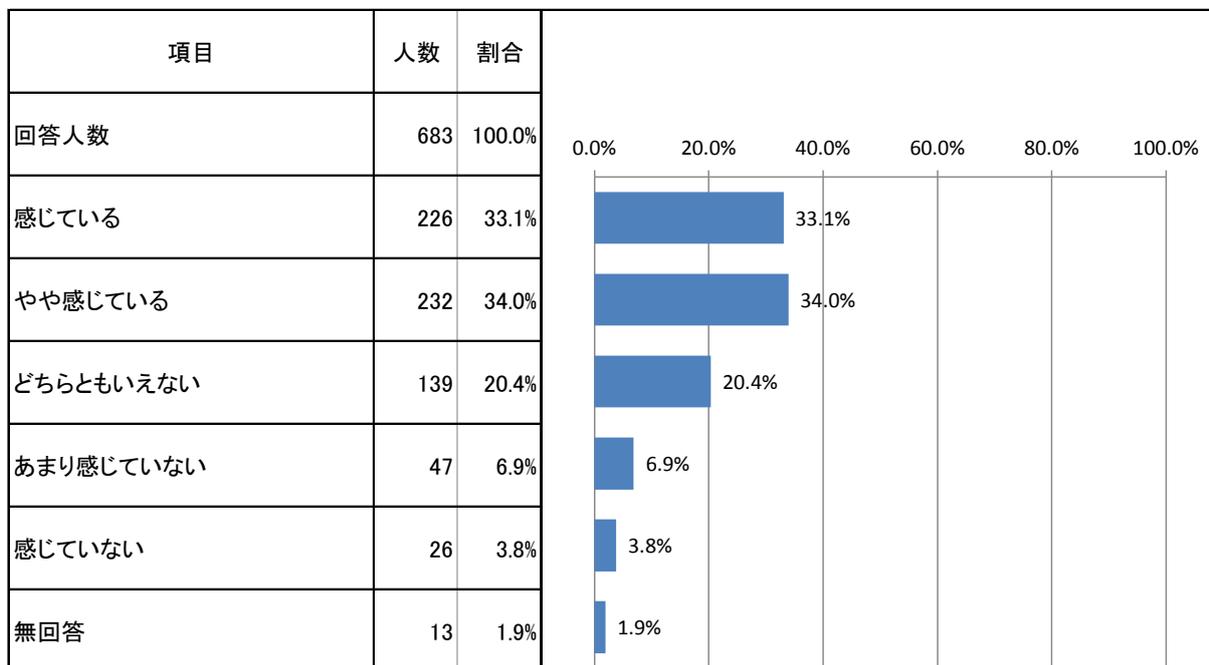
問6 あなたは、地域活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動への参加については、「町内会」が40.3%と最も多く、次いで「清掃活動」が39.4%、「地域の夏祭り」が19.5%となっている。



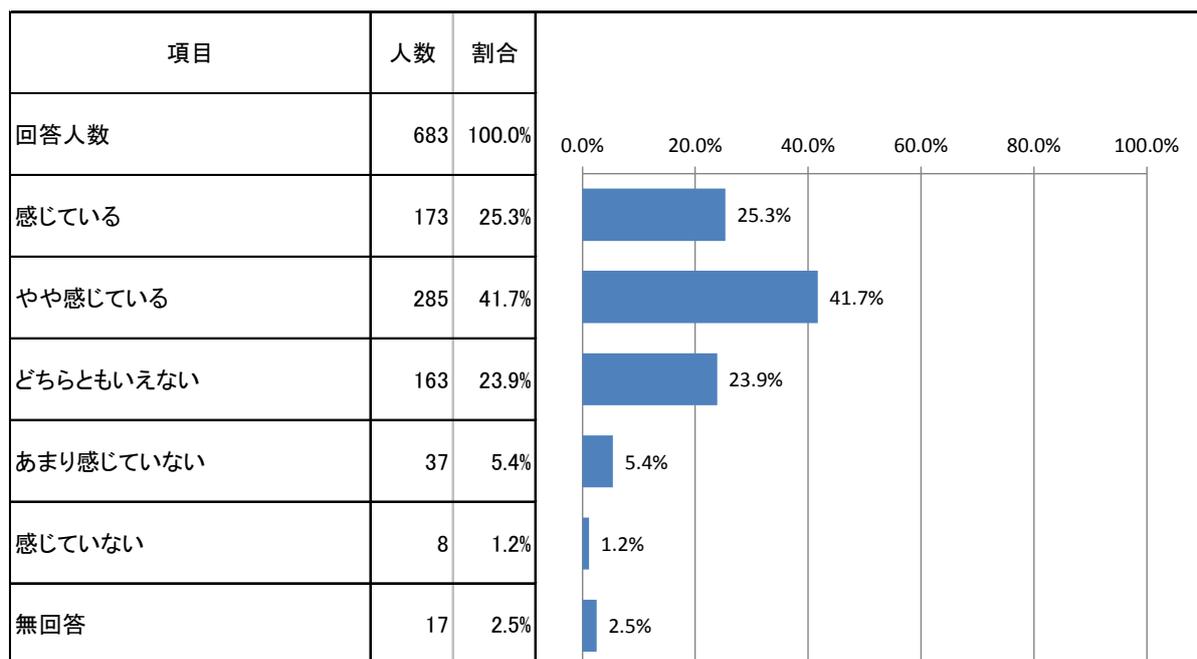
問7 あなたは、地域の暮らしに愛着を感じていますか。(ひとつに○)

地域の暮らしへの愛着度については、「やや感じている」が34.0%と最も多く、次いで「感じている」が33.1%、「どちらともいえない」が20.4%となっている。



問8 あなたは、鹿児島市の暮らしに安心安全を感じていますか。(ひとつに○)

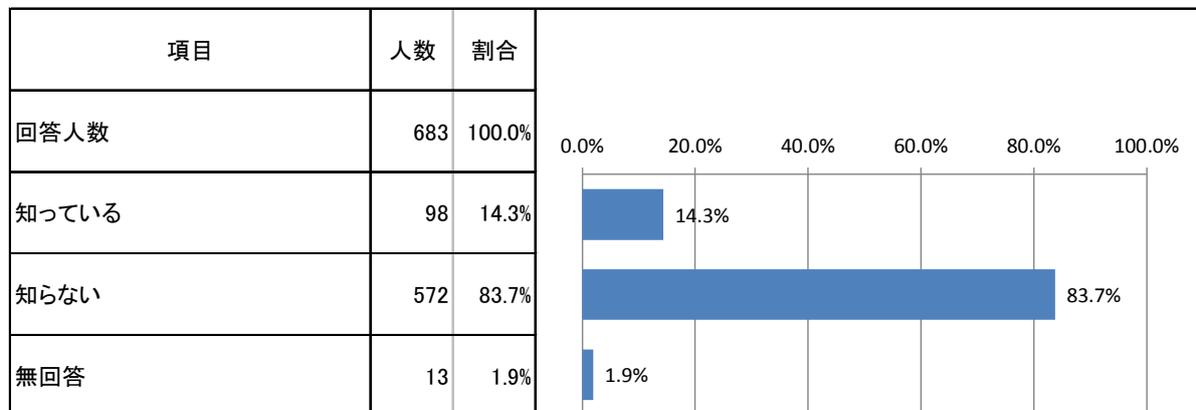
鹿児島市の暮らしに安心安全を感じているかについては、「やや感じている」が41.7%と最も多く、次いで「感じている」が25.3%、「どちらともいえない」が23.9%となっている。



【一般】

問9 あなたは、平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故の死亡者が21人、負傷者が4,500人以上であることを知っていますか。(ひとつに○)

平成24年中、鹿児島市内の交通事故による人身事故発生状況の認知度については、「知っている」が14.3%、「知らない」が83.7%となっている。



【属性別特徴】

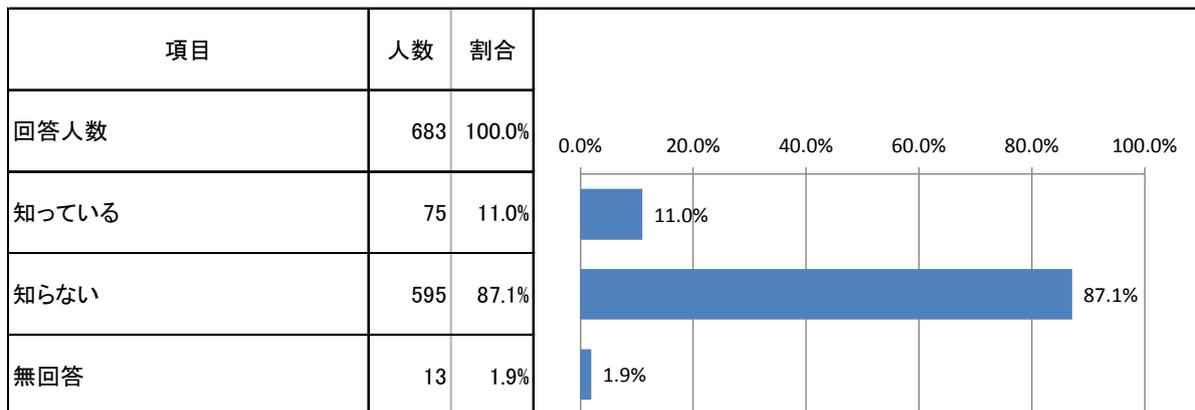
性別では、男の「知っている」が17.3%で、女の12.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が15.7%で、40歳未満の8.5%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っている	98	14.3%	49	17.3%	49	12.3%	12	8.5%	83	15.7%	3	20.0%
知らない	572	83.7%	226	79.6%	346	86.7%	127	90.1%	433	82.2%	12	80.0%
無回答	13	1.9%	9	3.2%	4	1.0%	2	1.4%	11	2.1%	0	0.0%

問 10 あなたは、平成24年中、鹿児島県内で発生した交通事故のうち、歩行中に事故にあった方の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることを知っていますか。(ひとつに○)

平成24年中、鹿児島県内で発生した歩行中の交通事故の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることの認知度については、「知っている」が11.0%、「知らない」が87.1%となっている。



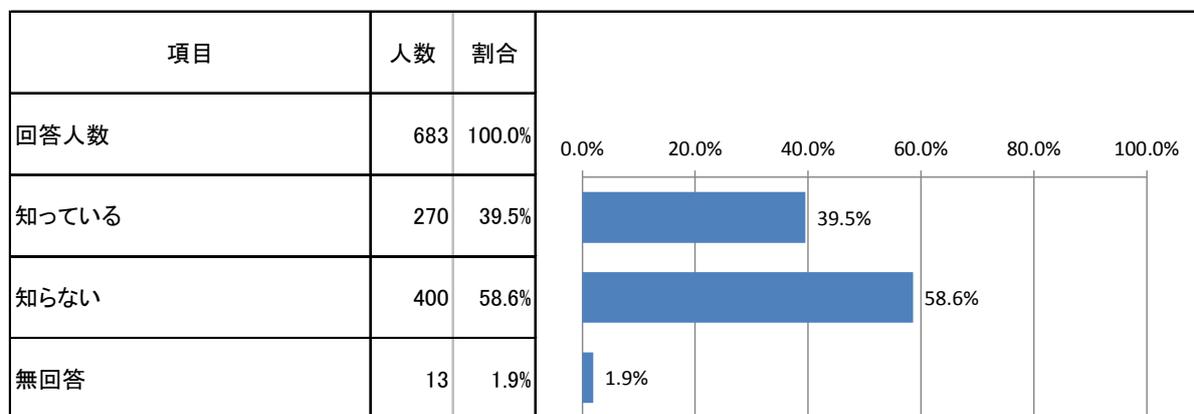
【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っている	75	11.0%	32	11.3%	43	10.8%	13	9.2%	58	11.0%	4	26.7%
知らない	595	87.1%	243	85.6%	352	88.2%	126	89.4%	458	86.9%	11	73.3%
無回答	13	1.9%	9	3.2%	4	1.0%	2	1.4%	11	2.1%	0	0.0%

問 11 あなたは、平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故の6割以上が自動車によるものであることを知っていますか。(ひとつに○)

平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故の6割以上が自動車によるものであることの認知度については、「知っている」が39.5%、「知らない」が58.6%となっている。



【属性別特徴】

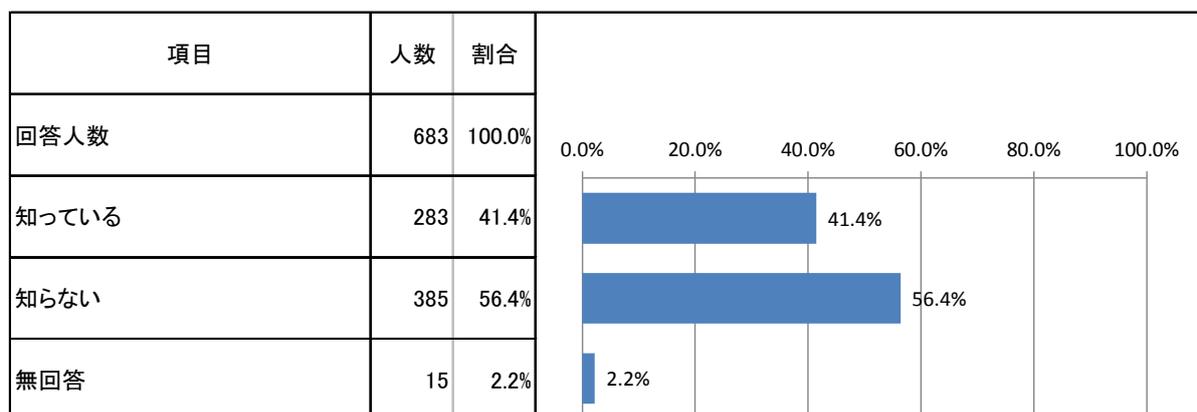
性別では、男の「知っている」が43.0%で、女の37.1%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が43.8%で、40歳未満の24.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っている	270	39.5%	122	43.0%	148	37.1%	34	24.1%	231	43.8%	5	33.3%
知らない	400	58.6%	153	53.9%	247	61.9%	105	74.5%	285	54.1%	10	66.7%
無回答	13	1.9%	9	3.2%	4	1.0%	2	1.4%	11	2.1%	0	0.0%

問 12 あなたは、平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故のうち、自動車であつた方の半数以上が運転者の前方不注意、動静不注視、安全不確認などの安全運転義務違反であることを知っていますか。(ひとつに○)

平成24年中、鹿児島市内で発生した自動車事故の半数以上が安全運転義務違反であることの認知度については、「知っている」が41.4%、「知らない」が56.4%となっている。



【属性別特徴】

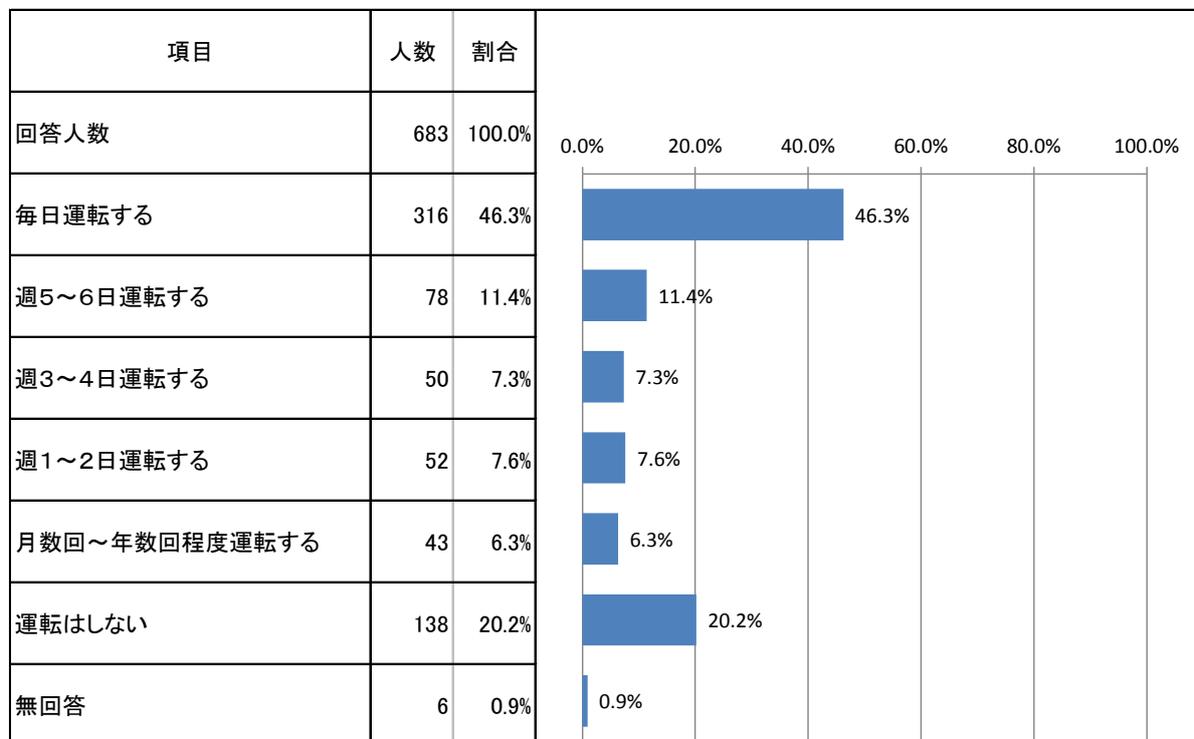
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が44.0%で、40歳未満の31.9%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っている	283	41.4%	117	41.2%	166	41.6%	45	31.9%	232	44.0%	6	40.0%
知らない	385	56.4%	156	54.9%	229	57.4%	94	66.7%	282	53.5%	9	60.0%
無回答	15	2.2%	11	3.9%	4	1.0%	2	1.4%	13	2.5%	0	0.0%

問 13 あなたは自動車を運転しますか。(近いものひとつに○)

自動車の運転頻度については、「毎日運転する」が46.3%と最も多く、次いで「運転はしない」が20.2%、「週5～6日運転する」が11.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「毎日運転する」が 56.3%で、女の 39.1%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「毎日運転する」が 49.9%で、40歳未満の 34.0%に比べて高くなっている。

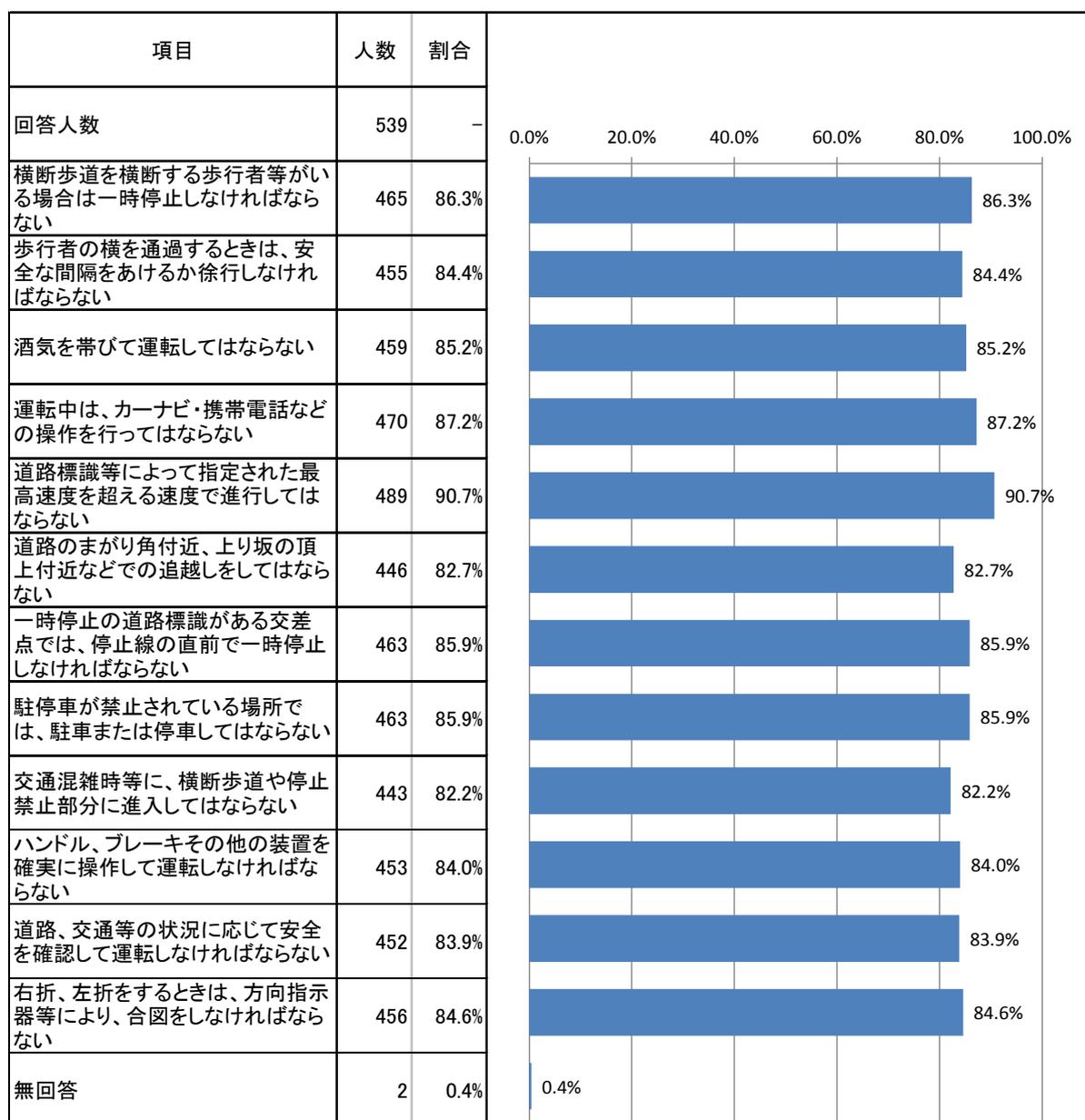
項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
毎日運転する	316	46.3%	160	56.3%	156	39.1%	48	34.0%	263	49.9%	5	33.3%
週5～6日運転する	78	11.4%	26	9.2%	52	13.0%	17	12.1%	57	10.8%	4	26.7%
週3～4日運転する	50	7.3%	18	6.3%	32	8.0%	5	3.5%	43	8.2%	2	13.3%
週1～2日運転する	52	7.6%	26	9.2%	26	6.5%	12	8.5%	39	7.4%	1	6.7%
月数回～年数回程度運転する	43	6.3%	14	4.9%	29	7.3%	18	12.8%	24	4.6%	1	6.7%
運転はしない	138	20.2%	36	12.7%	102	25.6%	39	27.7%	97	18.4%	2	13.3%
無回答	6	0.9%	4	1.4%	2	0.5%	2	1.4%	4	0.8%	0	0.0%

※問 13 で『①毎日運転する』～『⑤月数回～年数回程度運転する』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問 13-1 あなたは、次の交通ルールを知っていますか。また、その交通ルールを守って運転していますか。(あてはまるものすべてに○)

(知っている)

交通ルールの認識については、「道路標識等によって指定された最高速度を超える速度で進行してはならない」が 90.7%と最も多く、次いで「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはならない」が 87.2%、「横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止しなければならない」が 86.3%となっている。



【属性別特徴】

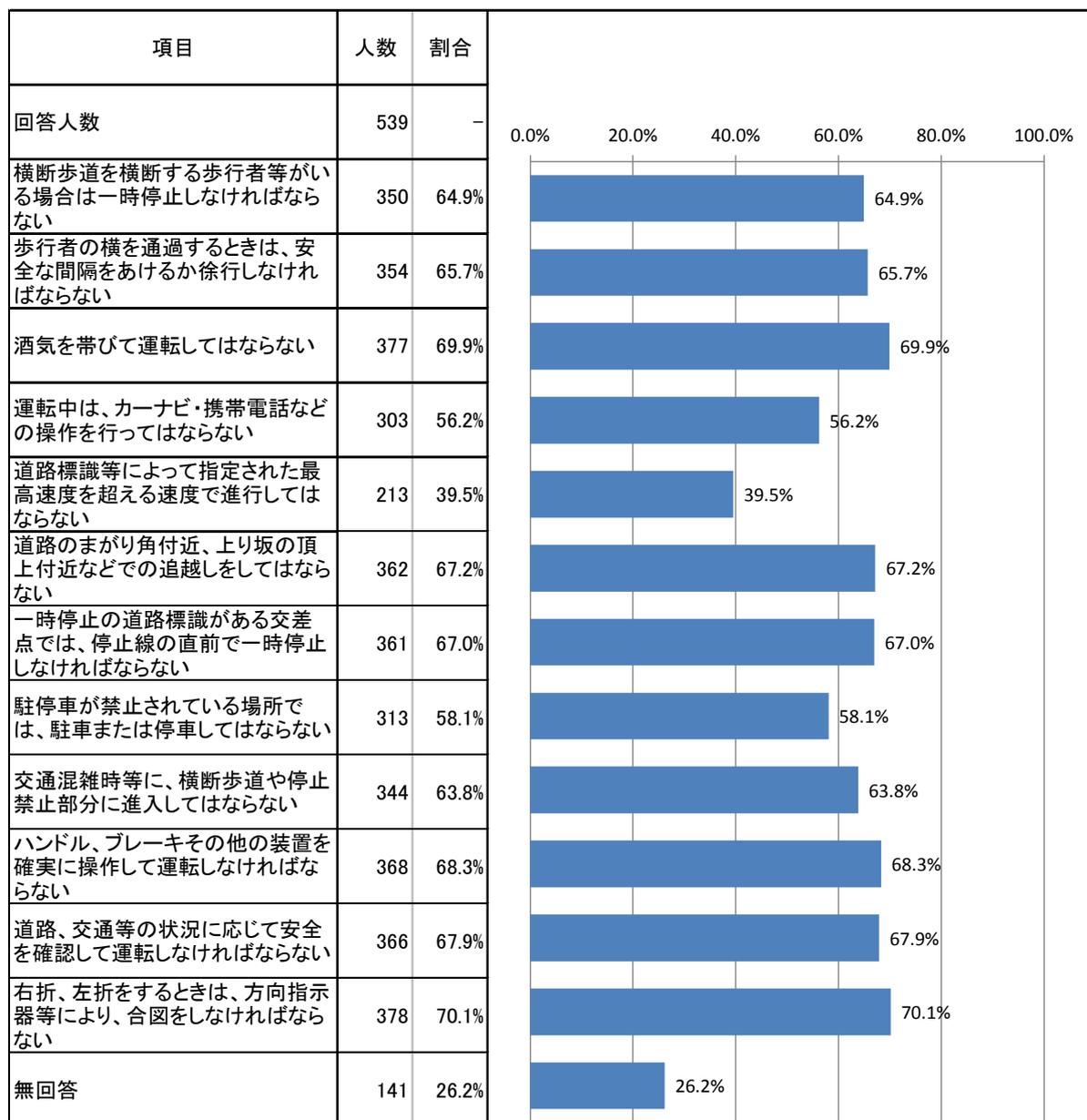
性別では、すべての項目において男の割合が女の割合より高くなっている。

年齢別では、すべての項目において、40歳未満の割合が40歳～64歳の割合より高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	539	-	244	-	295	-	100	-	426	-	13	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止しなければならない	465	86.3%	213	87.3%	252	85.4%	92	92.0%	361	84.7%	12	92.3%
歩行者の横を通過するときは、安全な間隔をあげるか徐行しなければならない	455	84.4%	209	85.7%	246	83.4%	88	88.0%	357	83.8%	10	76.9%
酒気を帯びて運転してはならない	459	85.2%	209	85.7%	250	84.7%	90	90.0%	358	84.0%	11	84.6%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはならない	470	87.2%	213	87.3%	257	87.1%	94	94.0%	365	85.7%	11	84.6%
道路標識等によって指定された最高速度を超える速度で進行してはならない	489	90.7%	225	92.2%	264	89.5%	96	96.0%	382	89.7%	11	84.6%
道路のまがり角付近、上り坂の頂上付近などでの追越しをしてはならない	446	82.7%	207	84.8%	239	81.0%	87	87.0%	348	81.7%	11	84.6%
一時停止の道路標識がある交差点では、停止線の直前で一時停止しなければならない	463	85.9%	214	87.7%	249	84.4%	90	90.0%	362	85.0%	11	84.6%
駐停車が禁止されている場所では、駐車または停車してはならない	463	85.9%	214	87.7%	249	84.4%	93	93.0%	359	84.3%	11	84.6%
交通混雑時等に、横断歩道や停止禁止部分に進入してはならない	443	82.2%	202	82.8%	241	81.7%	87	87.0%	346	81.2%	10	76.9%
ハンドル、ブレーキその他の装置を確実に操作して運転しなければならない	453	84.0%	209	85.7%	244	82.7%	89	89.0%	353	82.9%	11	84.6%
道路、交通等の状況に応じて安全を確認して運転しなければならない	452	83.9%	208	85.2%	244	82.7%	89	89.0%	352	82.6%	11	84.6%
右折、左折をするときは、方向指示器等により、合図をしなければならない	456	84.6%	211	86.5%	245	83.1%	90	90.0%	355	83.3%	11	84.6%
無回答	2	0.4%	1	0.4%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%

(守っている)

交通ルールの遵守については、「右折・左折をするときは、方向指示器等により、合図をしなければならない」が 70.1%と最も多く、次いで「酒気を帯びて運転してはならない」が 69.9%、「ハンドル・ブレーキその他の装置を確実に操作して運転しなければならない」が 68.3%となっている。



【属性別特徴】

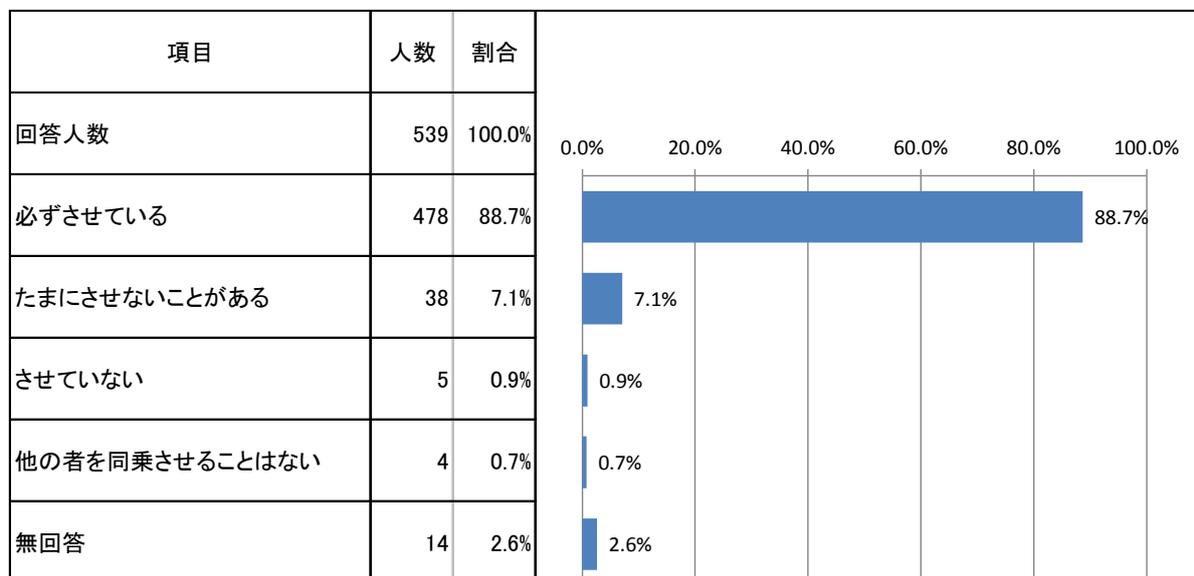
性別では、ほとんどの項目において女の割合が男の割合より高くなっている。

年齢別では、40～64歳の「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはいけない」が57.7%で、40歳未満の47.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	539	-	244	-	295	-	100	-	426	-	13	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止しなければならない	350	64.9%	154	63.1%	196	66.4%	65	65.0%	276	64.8%	9	69.2%
歩行者の横を通過するときは、安全な間隔をあげるか徐行しなければならない	354	65.7%	152	62.3%	202	68.5%	63	63.0%	279	65.5%	12	92.3%
酒気を帯びて運転してはならない	377	69.9%	171	70.1%	206	69.8%	71	71.0%	295	69.2%	11	84.6%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはならない	303	56.2%	129	52.9%	174	59.0%	47	47.0%	246	57.7%	10	76.9%
道路標識等によって指定された最高速度を超える速度で進行してはならない	213	39.5%	85	34.8%	128	43.4%	42	42.0%	165	38.7%	6	46.2%
道路のまがり角付近、上り坂の頂上付近などで追越しをしてはならない	362	67.2%	157	64.3%	205	69.5%	67	67.0%	285	66.9%	10	76.9%
一時停止の道路標識がある交差点では、停止線の直前で一時停止しなければならない	361	67.0%	157	64.3%	204	69.2%	66	66.0%	284	66.7%	11	84.6%
駐停車が禁止されている場所では、駐車または停車してはならない	313	58.1%	129	52.9%	184	62.4%	57	57.0%	246	57.7%	10	76.9%
交通混雑時等に、横断歩道や停止禁止部分に進入してはならない	344	63.8%	149	61.1%	195	66.1%	67	67.0%	266	62.4%	11	84.6%
ハンドル、ブレーキその他の装置を確実に操作して運転しなければならない	368	68.3%	162	66.4%	206	69.8%	67	67.0%	290	68.1%	11	84.6%
道路、交通等の状況に応じて安全を確認して運転しなければならない	366	67.9%	162	66.4%	204	69.2%	67	67.0%	288	67.6%	11	84.6%
右折、左折をするときは、方向指示器等により、合図をしなければならない	378	70.1%	168	68.9%	210	71.2%	70	70.0%	297	69.7%	11	84.6%
無回答	141	26.2%	61	25.0%	80	27.1%	27	27.0%	113	26.5%	1	7.7%

問 13-2 あなたは、自動車を運転するとき同乗者にシートベルトを着用させていますか。(ひとつに○)

同乗者のシートベルトの着用状況については、「必ずさせている」が 88.7%と最も多く、次いで「たまにさせないことがある」が 7.1%、「させていない」が 0.9%となっている。



【属性別特徴】

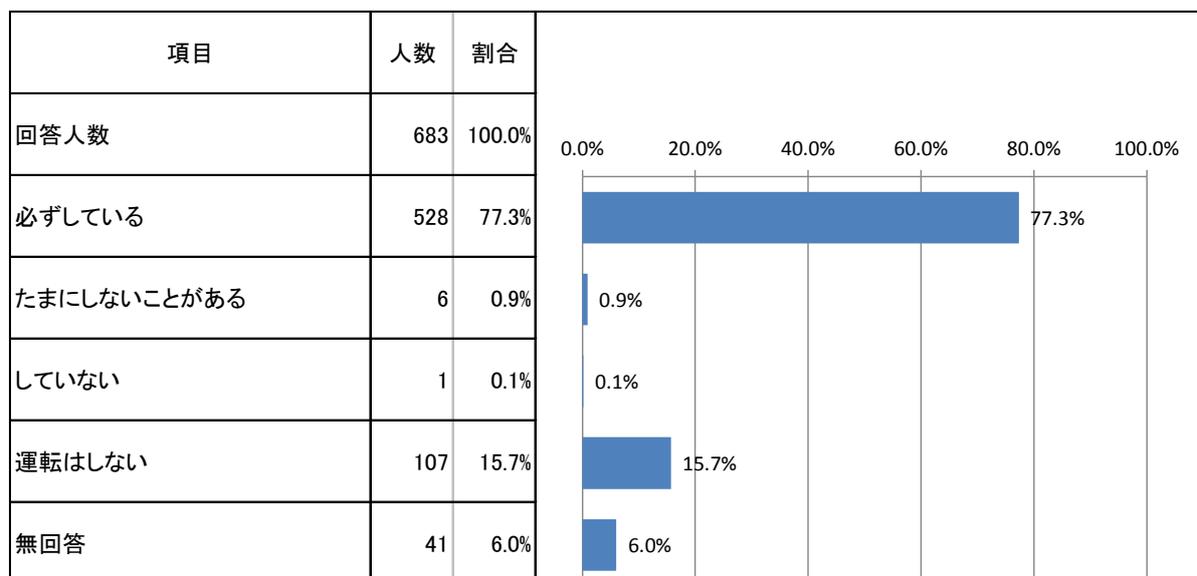
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	539	100.0%	244	100.0%	295	100.0%	100	100.0%	426	100.0%	13	100.0%
必ずさせている	478	88.7%	218	89.3%	260	88.1%	88	88.0%	378	88.7%	12	92.3%
たまにさせないことがある	38	7.1%	19	7.8%	19	6.4%	9	9.0%	29	6.8%	0	0.0%
させていない	5	0.9%	1	0.4%	4	1.4%	2	2.0%	3	0.7%	0	0.0%
他の者を同乗させることはない	4	0.7%	2	0.8%	2	0.7%	1	1.0%	3	0.7%	0	0.0%
無回答	14	2.6%	4	1.6%	10	3.4%	0	0.0%	13	3.1%	1	7.7%

問 14 あなたは、自動車の運転席、助手席、後部座席に乗車しているときにシートベルトを着用していますか。(ひとつに○)

(運転席)

運転席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が77.3%と最も多く、次いで「運転はしない」が15.7%、「たまにしないことがある」が0.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「必ずしている」が84.2%で、女の72.4%に比べて高くなっている。

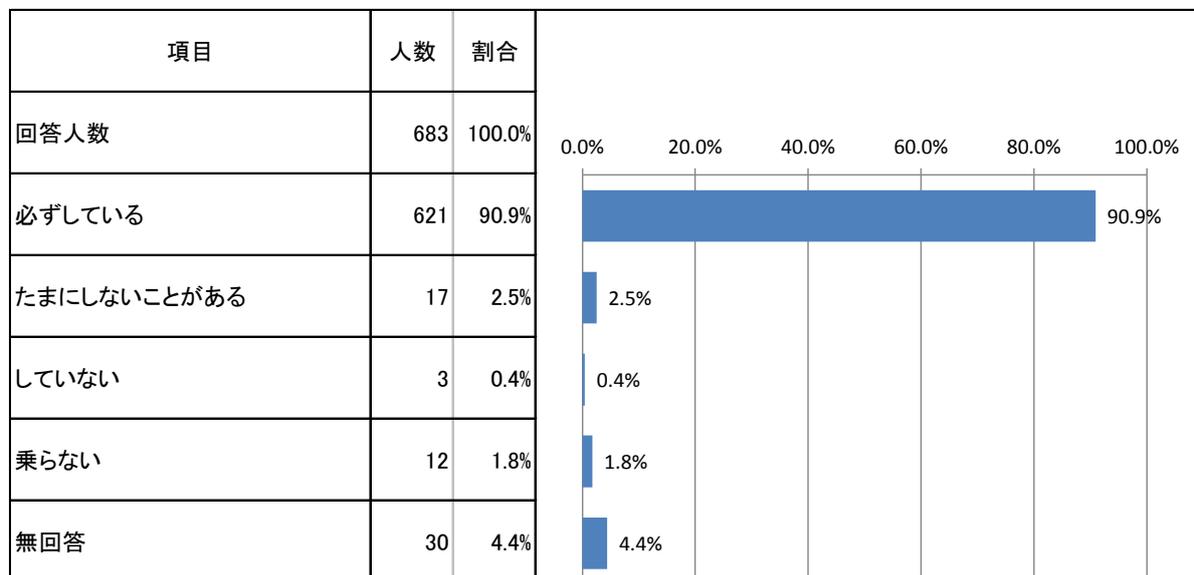
年齢別では、40～64歳の「必ずしている」が79.3%で、40歳未満の69.5%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
必ずしている	528	77.3%	239	84.2%	289	72.4%	98	69.5%	418	79.3%	12	80.0%
たまにしないことがある	6	0.9%	4	1.4%	2	0.5%	2	1.4%	4	0.8%	0	0.0%
していない	1	0.1%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%
運転はしない	107	15.7%	25	8.8%	82	20.6%	32	22.7%	73	13.9%	2	13.3%
無回答	41	6.0%	15	5.3%	26	6.5%	9	6.4%	32	6.1%	0	0.0%

【一般】

(助手席)

助手席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が90.9%と最も多く、次いで「たまにしないことがある」が2.5%、「乗らない」が1.8%となっている。



【属性別特徴】

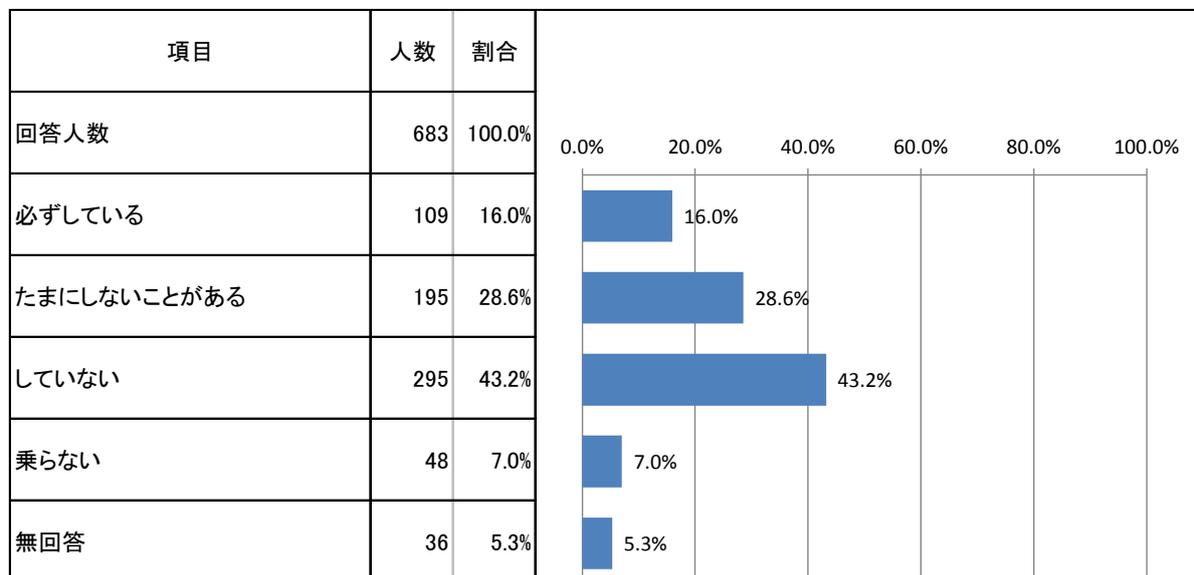
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
必ずしている	621	90.9%	258	90.8%	363	91.0%	127	90.1%	480	91.1%	14	93.3%
たまにしないことがある	17	2.5%	9	3.2%	8	2.0%	6	4.3%	11	2.1%	0	0.0%
していない	3	0.4%	2	0.7%	1	0.3%	1	0.7%	1	0.2%	1	6.7%
乗らない	12	1.8%	3	1.1%	9	2.3%	3	2.1%	9	1.7%	0	0.0%
無回答	30	4.4%	12	4.2%	18	4.5%	4	2.8%	26	4.9%	0	0.0%

【一般】

(後部座席)

後部座席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「していない」が43.2%と最も多く、次いで「たまにしないことがある」が28.6%、「必ずしている」が16.0%となっている。



【属性別特徴】

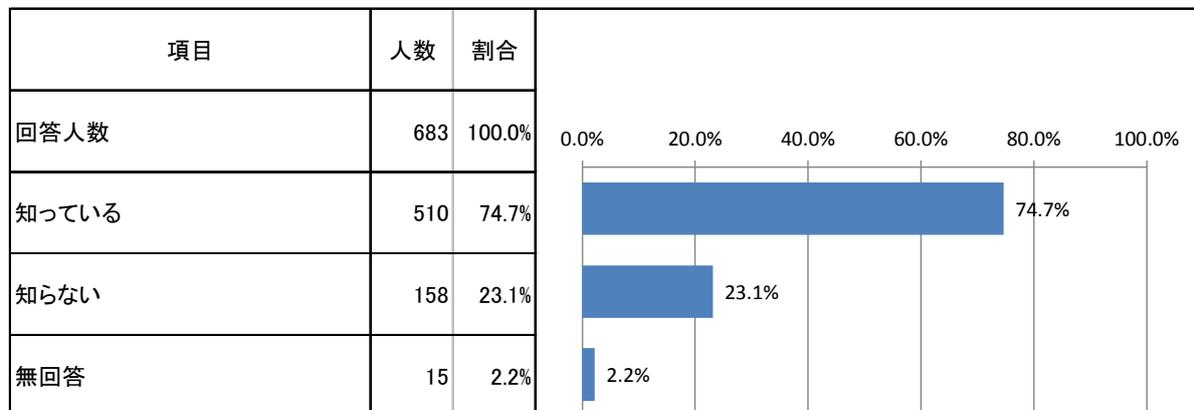
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳未満の「していない」が52.5%で、40～64歳の40.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
必ずしている	109	16.0%	52	18.3%	57	14.3%	17	12.1%	92	17.5%	0	0.0%
たまにしないことがある	195	28.6%	74	26.1%	121	30.3%	40	28.4%	148	28.1%	7	46.7%
していない	295	43.2%	119	41.9%	176	44.1%	74	52.5%	213	40.4%	8	53.3%
乗らない	48	7.0%	25	8.8%	23	5.8%	5	3.5%	43	8.2%	0	0.0%
無回答	36	5.3%	14	4.9%	22	5.5%	5	3.5%	31	5.9%	0	0.0%

問 15 あなたは、後部座席のシートベルト着用が義務化されたことを知っていますか。(ひとつに○)

後部座席シートベルトの着用義務化の認識度については、「知っている」が 74.7%、「知らない」が 23.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「知っている」が 79.9%で、女の 70.9%に比べてやや高くなっている。

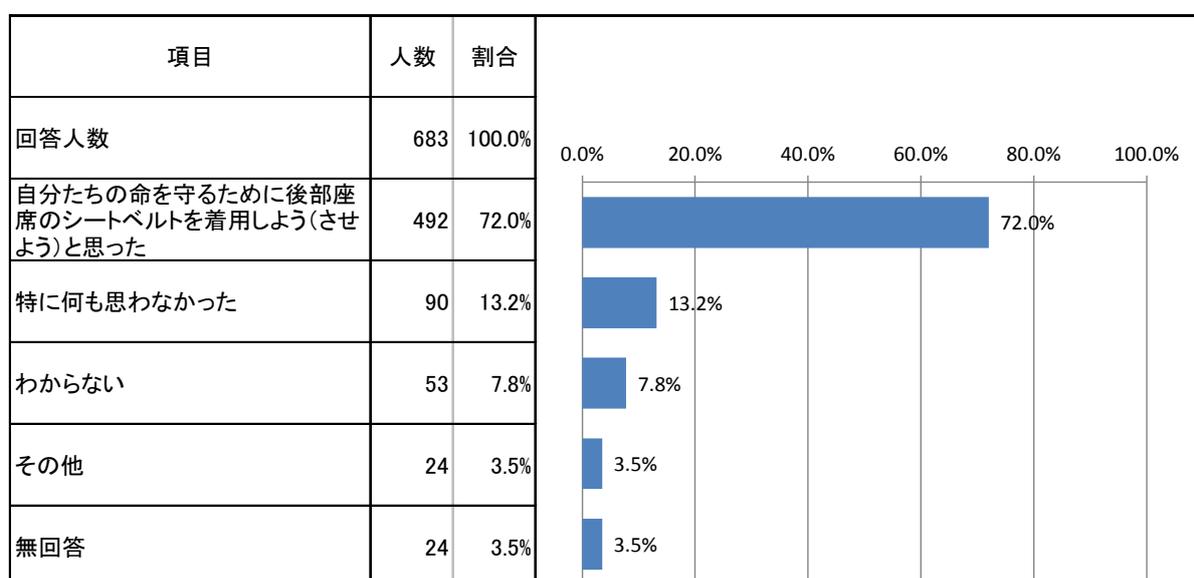
年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っている	510	74.7%	227	79.9%	283	70.9%	105	74.5%	395	75.0%	10	66.7%
知らない	158	23.1%	53	18.7%	105	26.3%	33	23.4%	120	22.8%	5	33.3%
無回答	15	2.2%	4	1.4%	11	2.8%	3	2.1%	12	2.3%	0	0.0%

問 16 鹿児島県の一般道におけるシートベルトの着用率は運転者が98.3%、助手席者が94.0%、後部座席者が30.1%で、後部座席者の着用率が運転者・助手席者に比べて著しく低い状況ですが、あなたはこのことについてどう思いますか。(ひとつに○)

後部座席者のシートベルト着用率が著しく低いことについては、「自分たちの命を守るために後部座席のシートベルトを着用しよう(させよう)と思った」が72.0%と最も多く、次いで「特に何も思わなかった」が13.2%、「わからない」が7.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「義務化になったことを広く伝えるべきだ」等が挙げられた。



【属性別特徴】

性別では、女の「自分たちの命を守るために後部座席のシートベルトを着用しよう（させよう）と思った」が74.4%で、男の68.7%に比べてやや高くなっている。

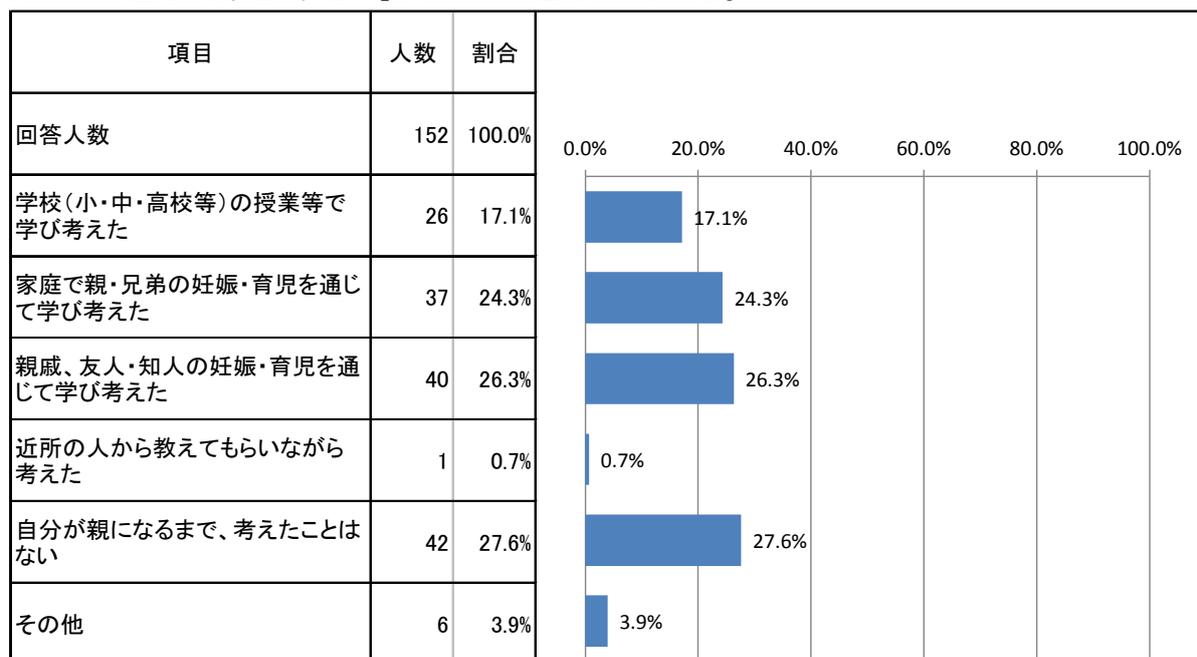
年齢別では、40歳～64歳の「自分たちの命を守るために後部座席のシートベルトを着用しよう（させよう）と思った」が74.4%で、40歳未満の63.8%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
自分たちの命を守るために後部座席のシートベルトを着用しよう(させよう)と思った	492	72.0%	195	68.7%	297	74.4%	90	63.8%	392	74.4%	10	66.7%
特に何も思わなかった	90	13.2%	48	16.9%	42	10.5%	24	17.0%	62	11.8%	4	26.7%
わからない	53	7.8%	20	7.0%	33	8.3%	15	10.6%	37	7.0%	1	6.7%
その他	24	3.5%	13	4.6%	11	2.8%	7	5.0%	17	3.2%	0	0.0%
無回答	24	3.5%	8	2.8%	16	4.0%	5	3.5%	19	3.6%	0	0.0%

※現在、子育て中の方（18歳以下のお子さんがいらっしゃる方）にお聞きします。

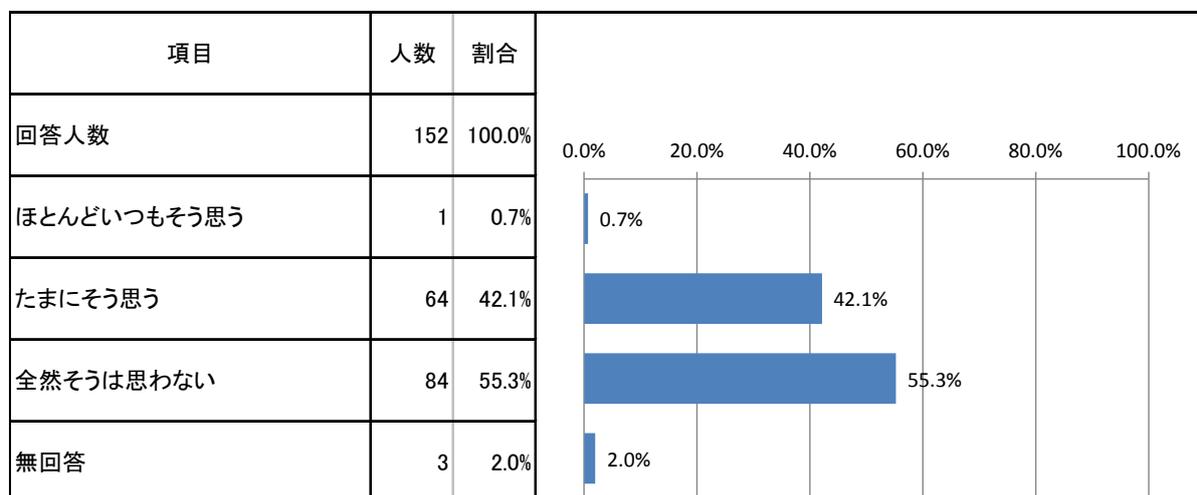
問 17 あなたは、自分が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて、考える機会がありましたか。（ひとつに○）

自分が親になる前に妊娠や子育てのことを考える機会があったかについては、「自分が親になるまで、考えたことはない」が27.6%と最も多く、次いで「親戚・友人・知人の妊娠・育児を通じて学び考えた」が26.3%、「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が24.3%となっている。



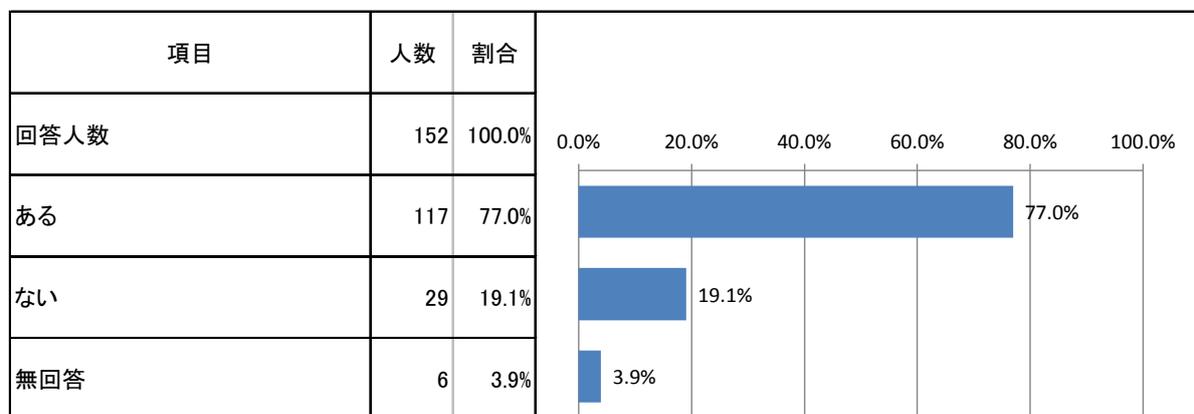
問 18 あなたは、子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがありますか。（ひとつに○）

子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについては、「全然そうは思わない」が55.3%と最も多く、次いで「たまにそう思う」が42.1%となっている。



問 19 あなたは、子育てで困ったときに相談する人や施設がありますか。
(ひとつに○)

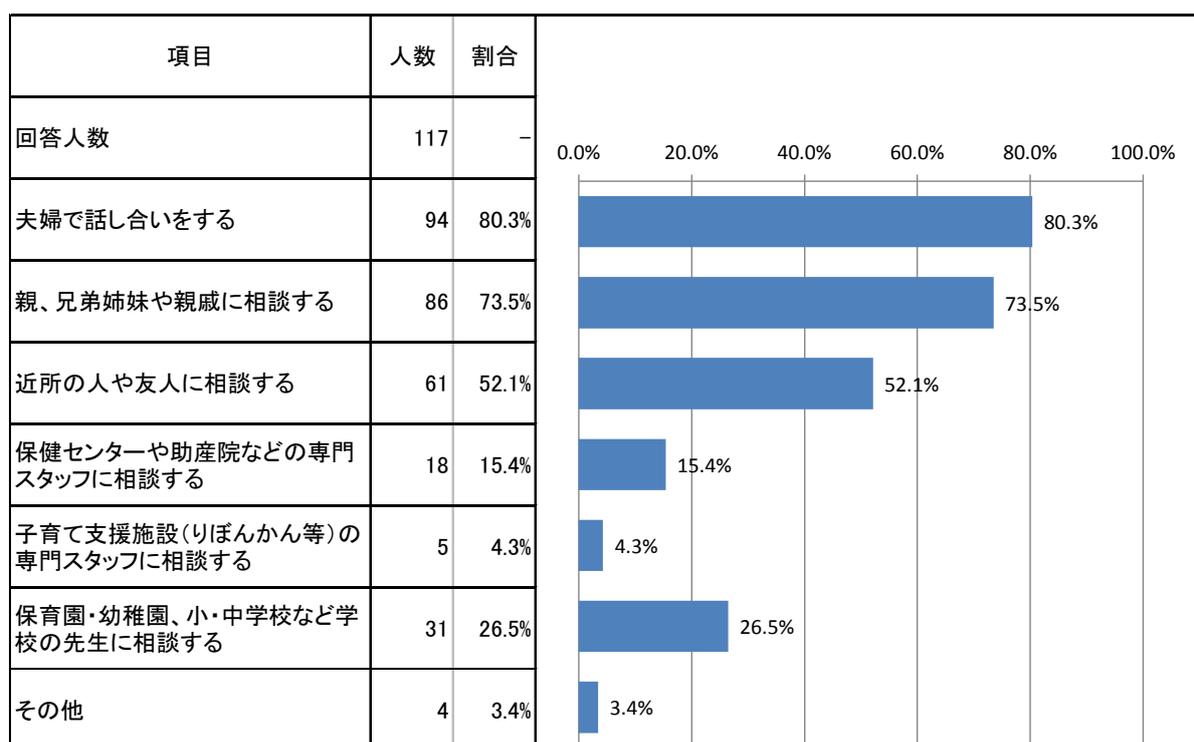
子育てで困ったときの相談先については、「ある」が 77.0%、「ない」が 19.1%となっている。



※問 19 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

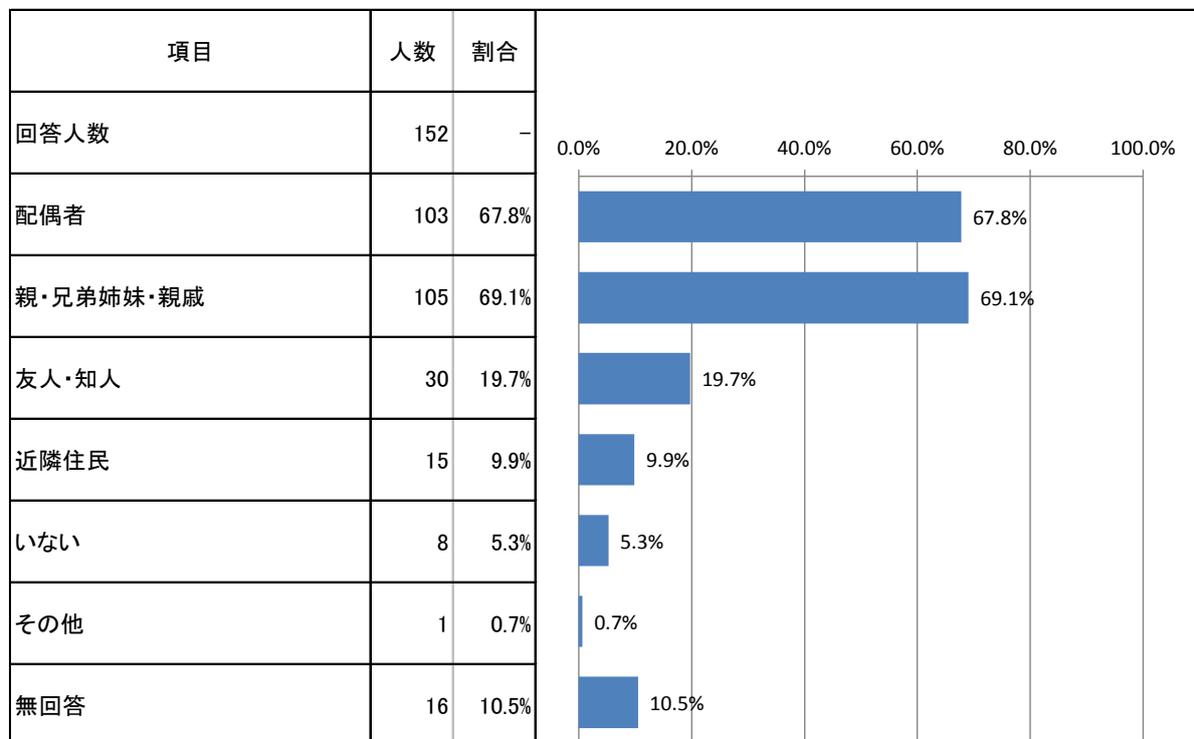
問 20 あなたは、子育てで困ったとき、誰に（又はどこに）相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

子育てで困ったときの具体的な相談先については、「夫婦で話し合いをする」が 80.3%と最も多く、次いで「親、兄弟姉妹や親戚に相談する」が 73.5%、「近所の人や友人に相談する」が 52.1%となっている。



問21 あなたの子育てを手伝ってくれる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

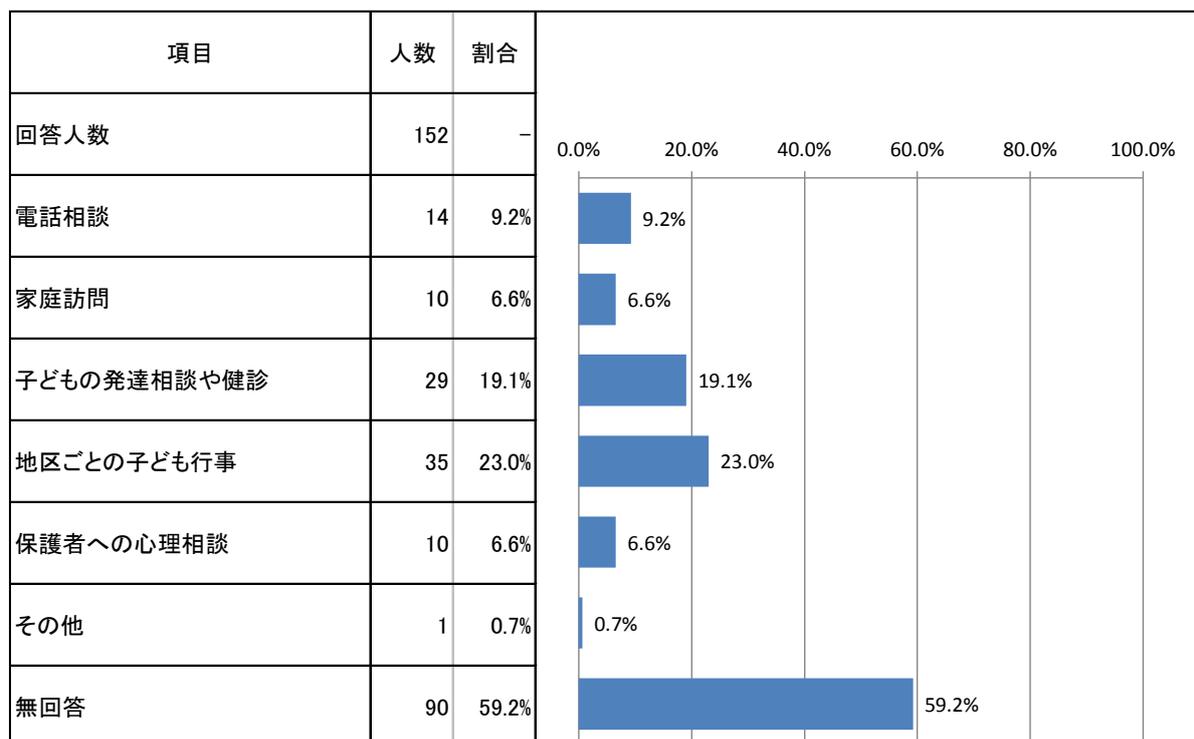
子育てを手伝ってくれる人については、「親・兄弟姉妹・親戚」が 69.1%と最も多く、次いで「配偶者」が 67.8%、「友人・知人」が 19.7%となっている。



問 22 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。
また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。
（最も希望するもの3つに○）

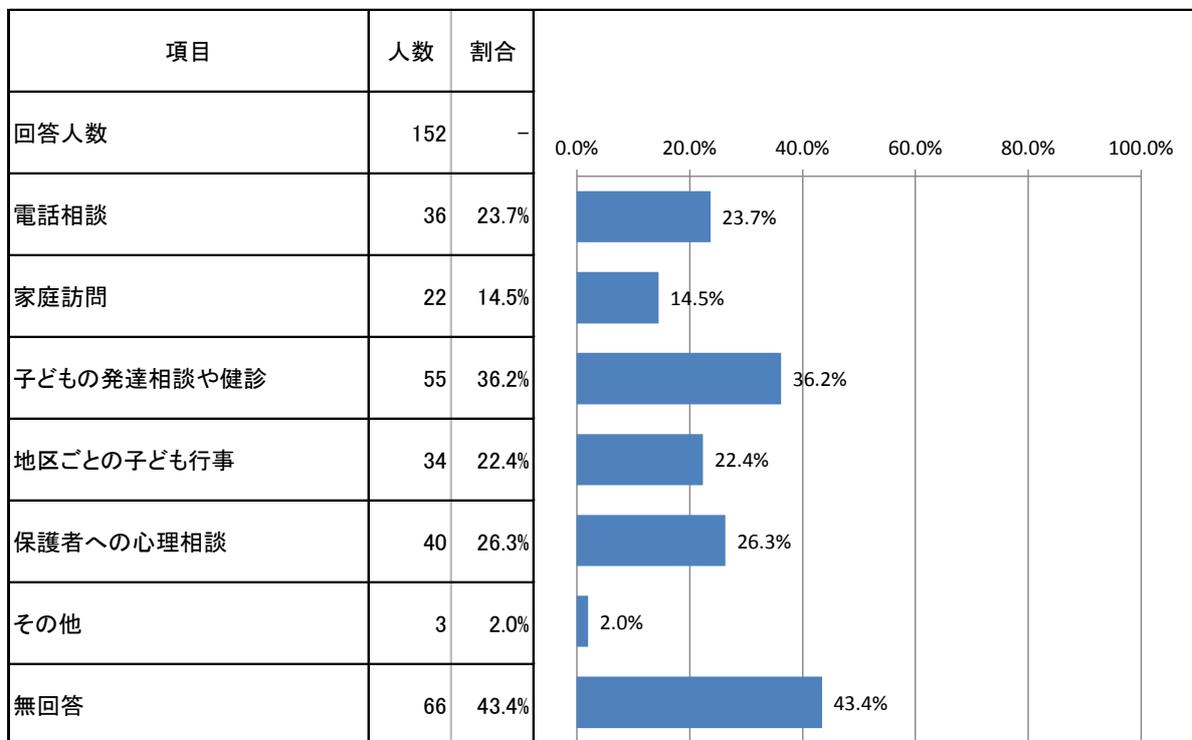
（現在、活用している）

子育て支援の活用状況については、「地区ごとの子ども行事」が 23.0%と最も多く、次いで「子どもの発達相談や健診」が 19.1%、「電話相談」が 9.2%となっている。



(充実して欲しい)

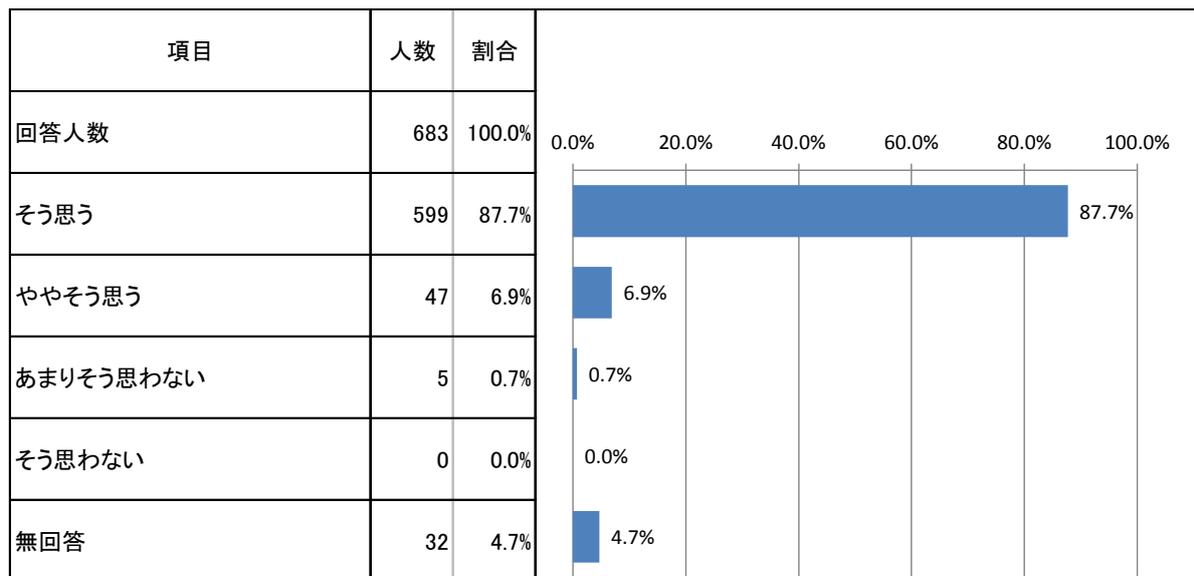
充実して欲しい子育て支援については、「子どもの発達相談や健診」が 36.2%と最も多く、次いで「保護者への心理相談」が 26.3%、「地区ごとの子ども行事」が 22.4%となっている。



問 23 配偶者等からの暴力は、多くの場合女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのように思われますか。（AからFの項目ごとにひとつに○）

A ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為であると思う

ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為だと思うかについては、「そう思う」が 87.7%と最も多く、次いで「ややそう思う」が 6.9%、「あまりそう思わない」が 0.7%となっている。



【属性別特徴】

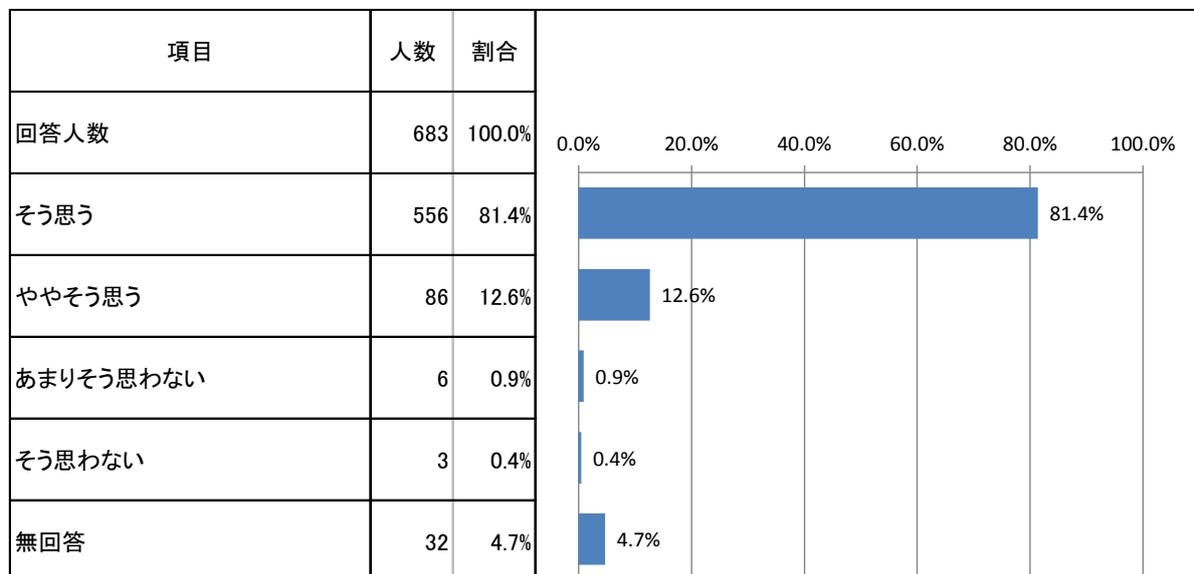
性別では、女の「そう思う」が 90.2%で、男の 84.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
そう思う	599	87.7%	239	84.2%	360	90.2%	118	83.7%	467	88.6%	14	93.3%
ややそう思う	47	6.9%	23	8.1%	24	6.0%	15	10.6%	31	5.9%	1	6.7%
あまりそう思わない	5	0.7%	3	1.1%	2	0.5%	1	0.7%	4	0.8%	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	32	4.7%	19	6.7%	13	3.3%	7	5.0%	25	4.7%	0	0.0%

B どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思う

どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思うかについては、「そう思う」が81.4%と最も多く、次いで「ややそう思う」が12.6%、「あまりそう思わない」が0.9%となっている。



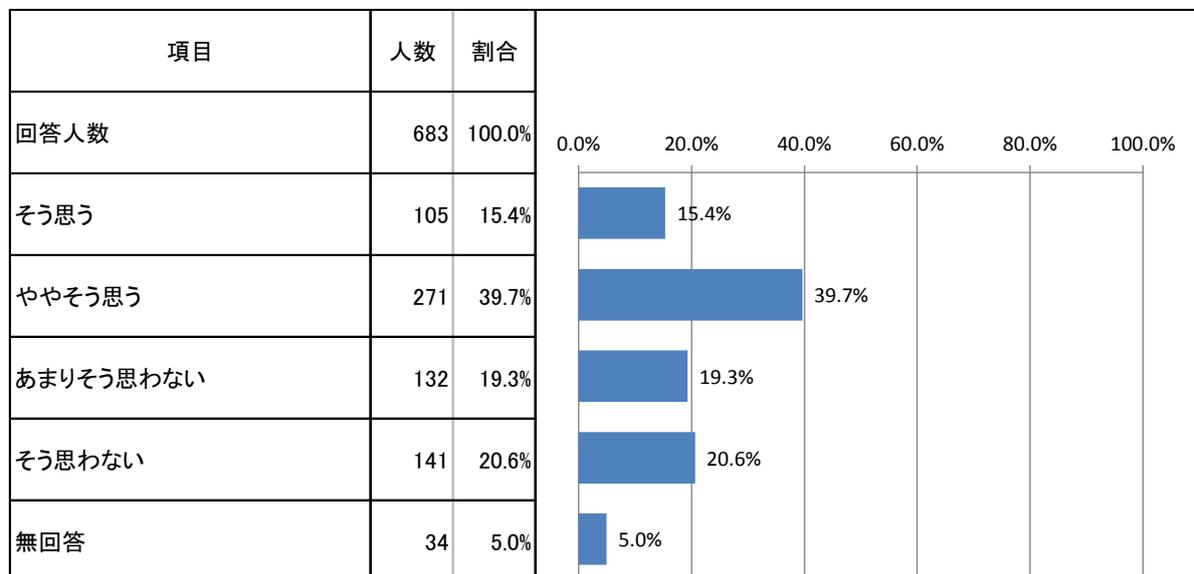
【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
そう思う	556	81.4%	225	79.2%	331	83.0%	111	78.7%	432	82.0%	13	86.7%
ややそう思う	86	12.6%	39	13.7%	47	11.8%	19	13.5%	65	12.3%	2	13.3%
あまりそう思わない	6	0.9%	2	0.7%	4	1.0%	2	1.4%	4	0.8%	0	0.0%
そう思わない	3	0.4%	0	0.0%	3	0.8%	2	1.4%	1	0.2%	0	0.0%
無回答	32	4.7%	18	6.3%	14	3.5%	7	5.0%	25	4.7%	0	0.0%

C 暴力をふるわれる方にも問題があると思う

暴力をふるわれる方にも問題があると思うかについては、「ややそう思う」が 39.7%と最も多く、次いで「そう思わない」が 20.6%、「あまりそう思わない」が 19.3%となっている。



【属性別特徴】

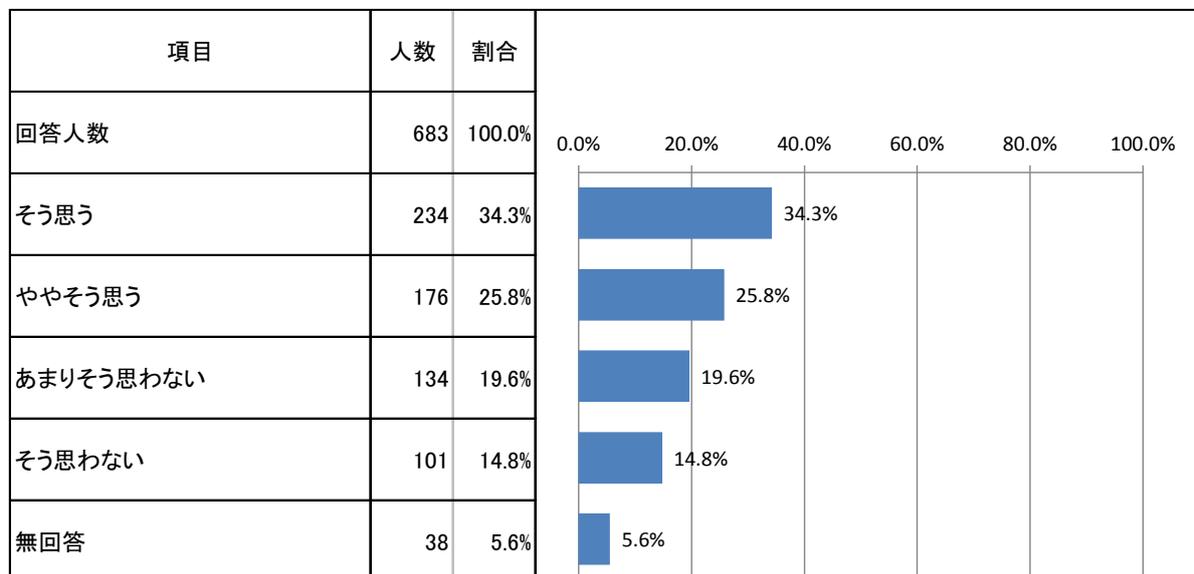
性別では、女の「そう思わない」が 24.1%で、男の 15.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「ややそう思う」が 42.1%で、40歳未満の 29.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
そう思う	105	15.4%	49	17.3%	56	14.0%	18	12.8%	85	16.1%	2	13.3%
ややそう思う	271	39.7%	112	39.4%	159	39.8%	41	29.1%	222	42.1%	8	53.3%
あまりそう思わない	132	19.3%	59	20.8%	73	18.3%	47	33.3%	83	15.7%	2	13.3%
そう思わない	141	20.6%	45	15.8%	96	24.1%	28	19.9%	110	20.9%	3	20.0%
無回答	34	5.0%	19	6.7%	15	3.8%	7	5.0%	27	5.1%	0	0.0%

D 暴力をふるう相手から別れたいと思えばいつでも別れられると思う

暴力をふるう相手といつでも別れられると思うかについては、「そう思う」が34.3%と最も多く、次いで「ややそう思う」が25.8%、「あまりそう思わない」が19.6%となっている。



【属性別特徴】

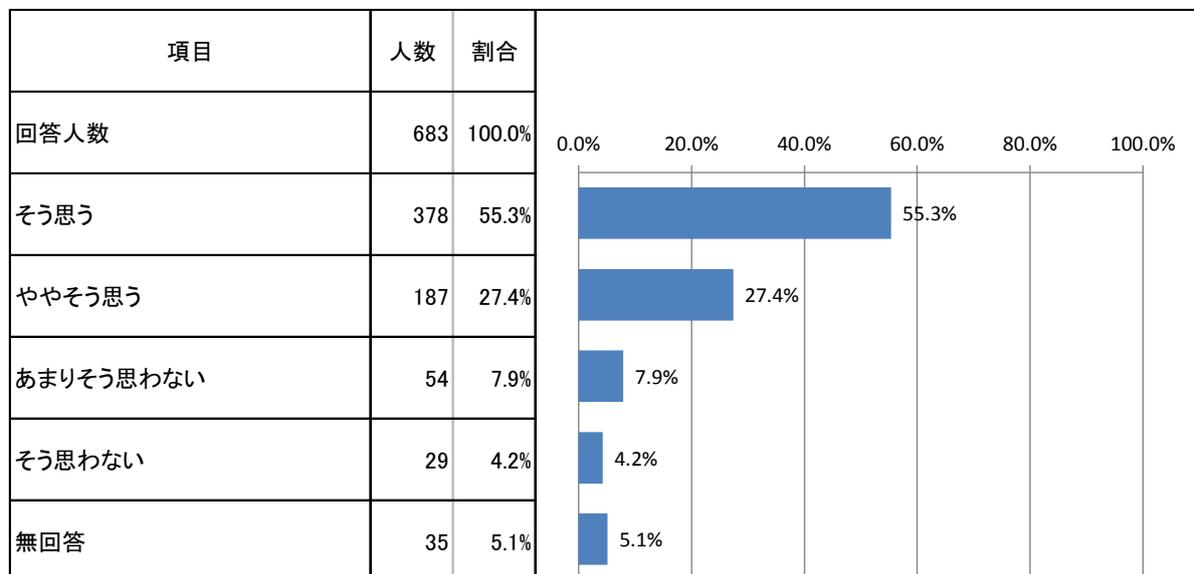
性別では、女の「そう思わない」が17.3%で、男の11.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「そう思う」が36.8%で、40歳未満の23.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
そう思う	234	34.3%	100	35.2%	134	33.6%	33	23.4%	194	36.8%	7	46.7%
ややそう思う	176	25.8%	77	27.1%	99	24.8%	30	21.3%	142	26.9%	4	26.7%
あまりそう思わない	134	19.6%	55	19.4%	79	19.8%	33	23.4%	98	18.6%	3	20.0%
そう思わない	101	14.8%	32	11.3%	69	17.3%	37	26.2%	63	12.0%	1	6.7%
無回答	38	5.6%	20	7.0%	18	4.5%	8	5.7%	30	5.7%	0	0.0%

E 暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思う

暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思うかについては、「そう思う」が55.3%と最も多く、次いで「ややそう思う」が27.4%、「あまりそう思わない」が7.9%となっている。



【属性別特徴】

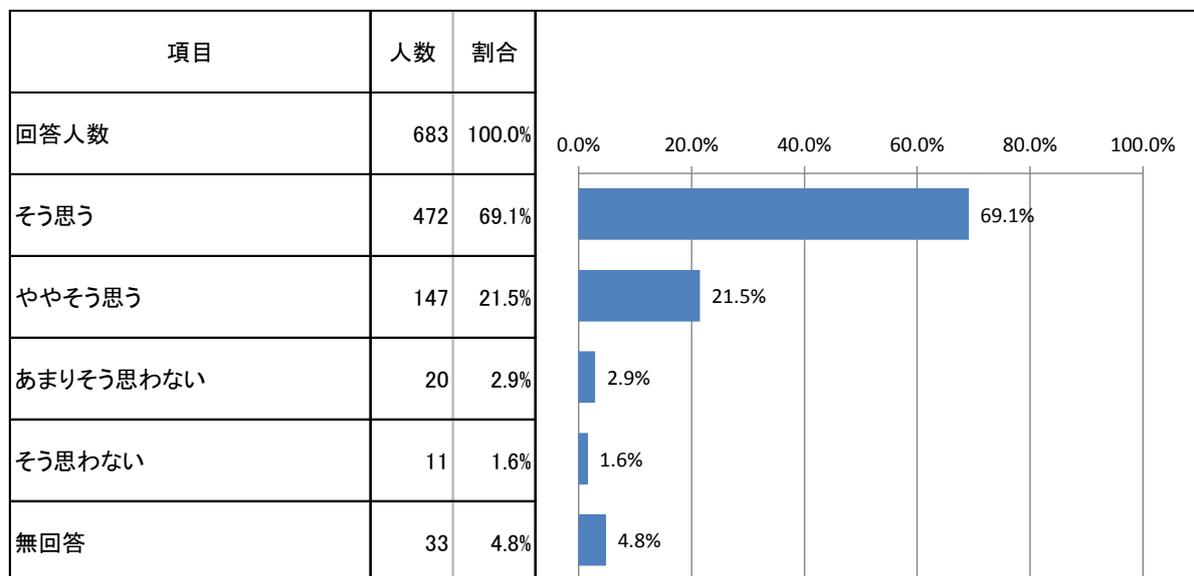
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳未満の「そう思う」が59.6%で、40歳～64歳の54.1%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
そう思う	378	55.3%	149	52.5%	229	57.4%	84	59.6%	285	54.1%	9	60.0%
ややそう思う	187	27.4%	72	25.4%	115	28.8%	35	24.8%	148	28.1%	4	26.7%
あまりそう思わない	54	7.9%	24	8.5%	30	7.5%	10	7.1%	43	8.2%	1	6.7%
そう思わない	29	4.2%	19	6.7%	10	2.5%	5	3.5%	23	4.4%	1	6.7%
無回答	35	5.1%	20	7.0%	15	3.8%	7	5.0%	28	5.3%	0	0.0%

F 夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わ
べきであると思う

夫婦間の暴力であっても、行政などの相談機関が積極的に関わらるべきである
と思うかについては、「そう思う」が 69.1%と最も多く、次いで「ややそう思う」が
21.5%、「あまりそう思わない」が 2.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「そう思う」が 73.7%で、男の 62.7%に比べて高くなっている。

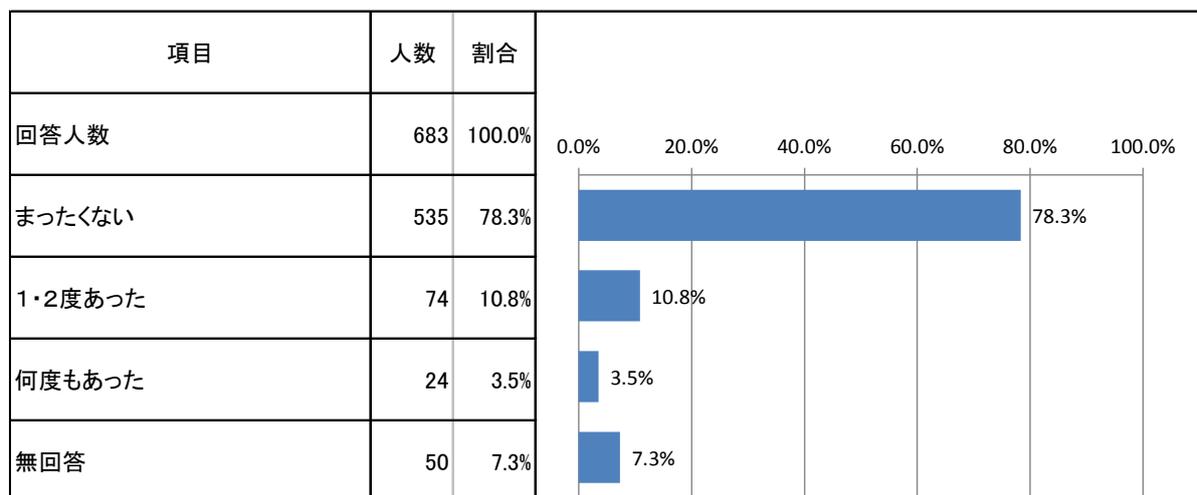
年齢別では、40歳未満の「そう思う」が 80.1%で、40歳～64歳の 66.0%に
比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
そう思う	472	69.1%	178	62.7%	294	73.7%	113	80.1%	348	66.0%	11	73.3%
ややそう思う	147	21.5%	70	24.6%	77	19.3%	20	14.2%	124	23.5%	3	20.0%
あまりそう思わない	20	2.9%	9	3.2%	11	2.8%	2	1.4%	17	3.2%	1	6.7%
そう思わない	11	1.6%	7	2.5%	4	1.0%	0	0.0%	11	2.1%	0	0.0%
無回答	33	4.8%	20	7.0%	13	3.3%	6	4.3%	27	5.1%	0	0.0%

問 24 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(AからCの項目ごとにひとつに○)

A なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた

身体に対する暴行を受けた経験については、「まったくない」が 78.3%と最も多く、次いで「1・2度あった」が 10.8%、「何度もあった」が 3.5%となっている。



【属性別特徴】

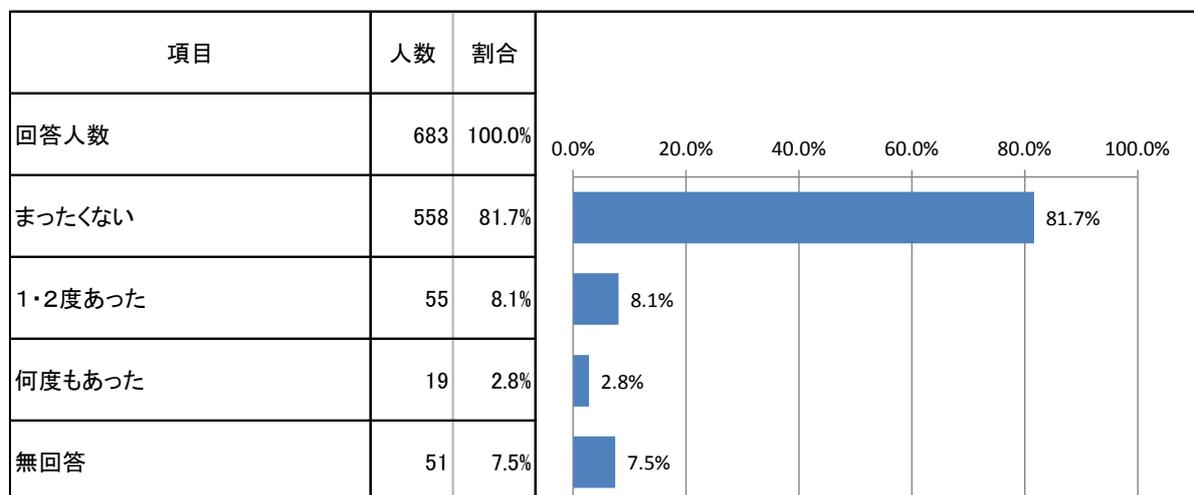
性別では、女の「何度もあった」が 6.0%で、男の 0.0%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
まったくない	535	78.3%	223	78.5%	312	78.2%	110	78.0%	414	78.6%	11	73.3%
1・2度あった	74	10.8%	26	9.2%	48	12.0%	12	8.5%	59	11.2%	3	20.0%
何度もあった	24	3.5%	0	0.0%	24	6.0%	5	3.5%	19	3.6%	0	0.0%
無回答	50	7.3%	35	12.3%	15	3.8%	14	9.9%	35	6.6%	1	6.7%

B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

精神的苦痛を受けた経験については、「まったくない」が 81.7%と最も多く、次いで「1・2度あった」が8.1%、「何度もあった」が2.8%となっている。



【属性別特徴】

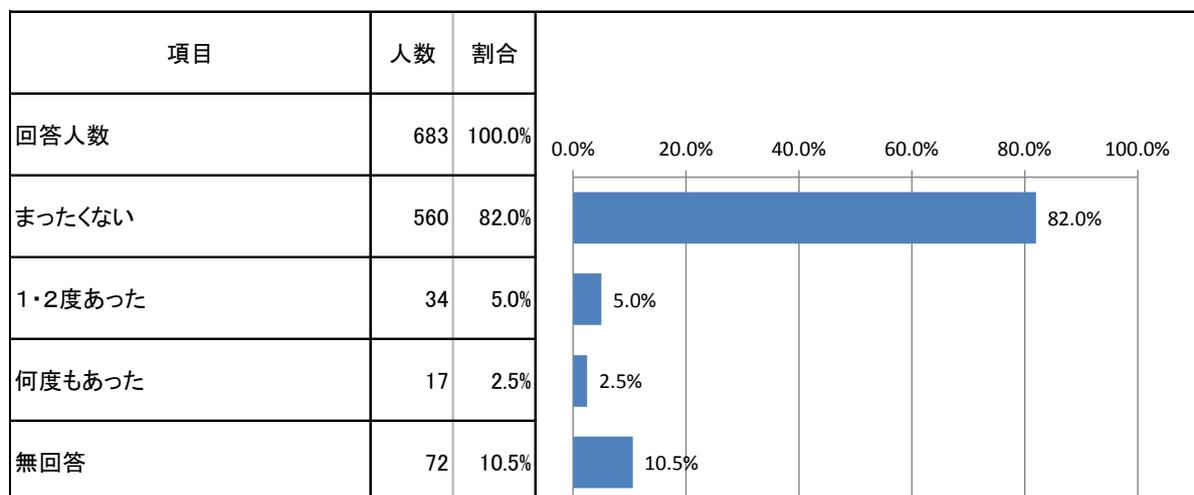
性別では、女の「1・2度あった」が 11.5%で、男の 3.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「まったくない」が82.9%で、40歳未満の76.6%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
まったくない	558	81.7%	239	84.2%	319	79.9%	108	76.6%	437	82.9%	13	86.7%
1・2度あった	55	8.1%	9	3.2%	46	11.5%	13	9.2%	41	7.8%	1	6.7%
何どもあった	19	2.8%	1	0.4%	18	4.5%	6	4.3%	13	2.5%	0	0.0%
無回答	51	7.5%	35	12.3%	16	4.0%	14	9.9%	36	6.8%	1	6.7%

C 避妊に協力しなかったり、嫌がっているのに性的な行為を強要された

性的な行為を強要された経験については、「まったくない」が82.0%と最も多く、次いで「1・2度あった」が5.0%、「何度もあった」が2.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」が7.5%で、男の1.4%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな差異はみられない。

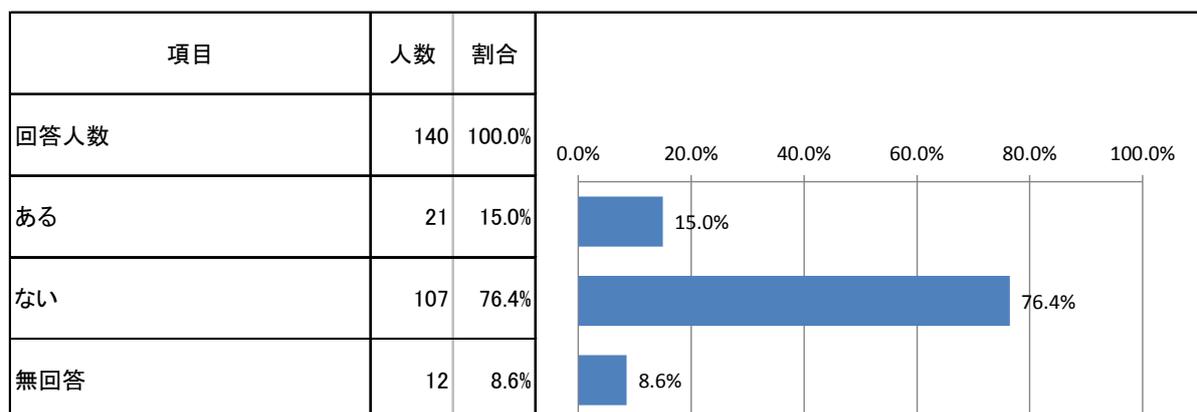
項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
まったくない	560	82.0%	234	82.4%	326	81.7%	119	84.4%	429	81.4%	12	80.0%
1・2度あった	34	5.0%	4	1.4%	30	7.5%	2	1.4%	31	5.9%	1	6.7%
何度もあった	17	2.5%	0	0.0%	17	4.3%	4	2.8%	13	2.5%	0	0.0%
無回答	72	10.5%	46	16.2%	26	6.5%	16	11.3%	54	10.2%	2	13.3%

【一般】

※問 24 で『②1・2度あった』または『③何度もあった』とご回答された方にお聞きします。

問 24-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(ひとつに○)

受けた暴力による命の危険については、「ある」が 15.0%、「ない」が 76.4%となっている。



【属性別特徴】

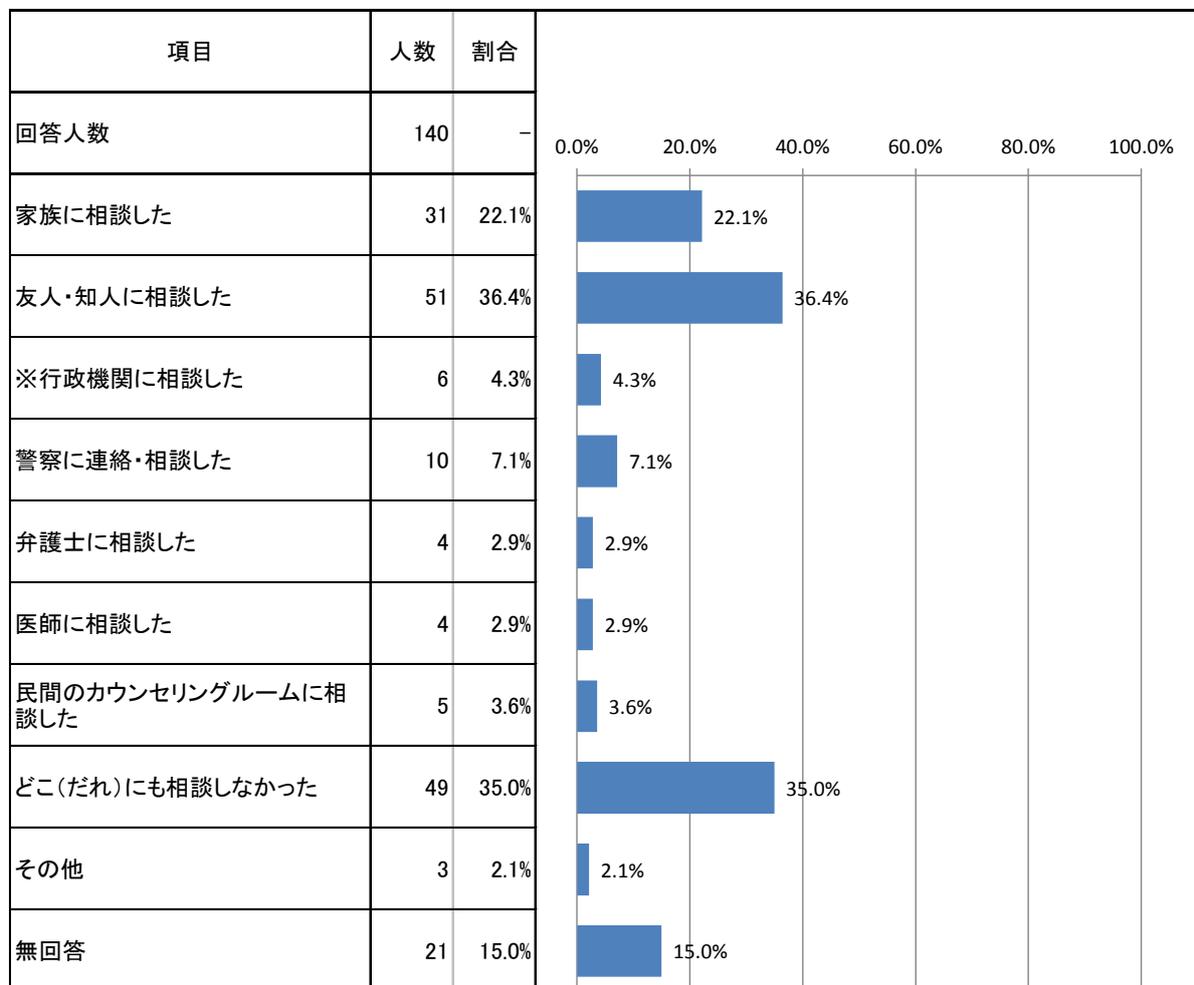
性別では、女の「ある」が 18.3%で、男の 3.2%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「ある」が 20.7%で、40歳～64歳の 13.9%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	140	100.0%	31	100.0%	109	100.0%	29	100.0%	108	100.0%	3	100.0%
ある	21	15.0%	1	3.2%	20	18.3%	6	20.7%	15	13.9%	0	0.0%
ない	107	76.4%	26	83.9%	81	74.3%	23	79.3%	82	75.9%	2	66.7%
無回答	12	8.6%	4	12.9%	8	7.3%	0	0.0%	11	10.2%	1	33.3%

問 24-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

受けた暴力についての相談先については、「友人・知人に相談した」が36.4%と最も多く、次いで「どこ(だれ)にも相談しなかった」が35.0%、「家族に相談した」が22.1%となっている。



※行政機関(鹿児島市男女共同参画センター(サンエールかごしま相談室)、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市子どもと女性の相談室、鹿児島県女性相談センター、保健所、保健センター、法務局など)

【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳未満の「友人・知人に相談した」が62.1%で、40歳～64歳の29.6%に比べて高くなっている。

また、40歳～64歳の「どこ（だれ）にも相談しなかった」が38.9%で、40歳未満の20.7%に比べて高くなっている。

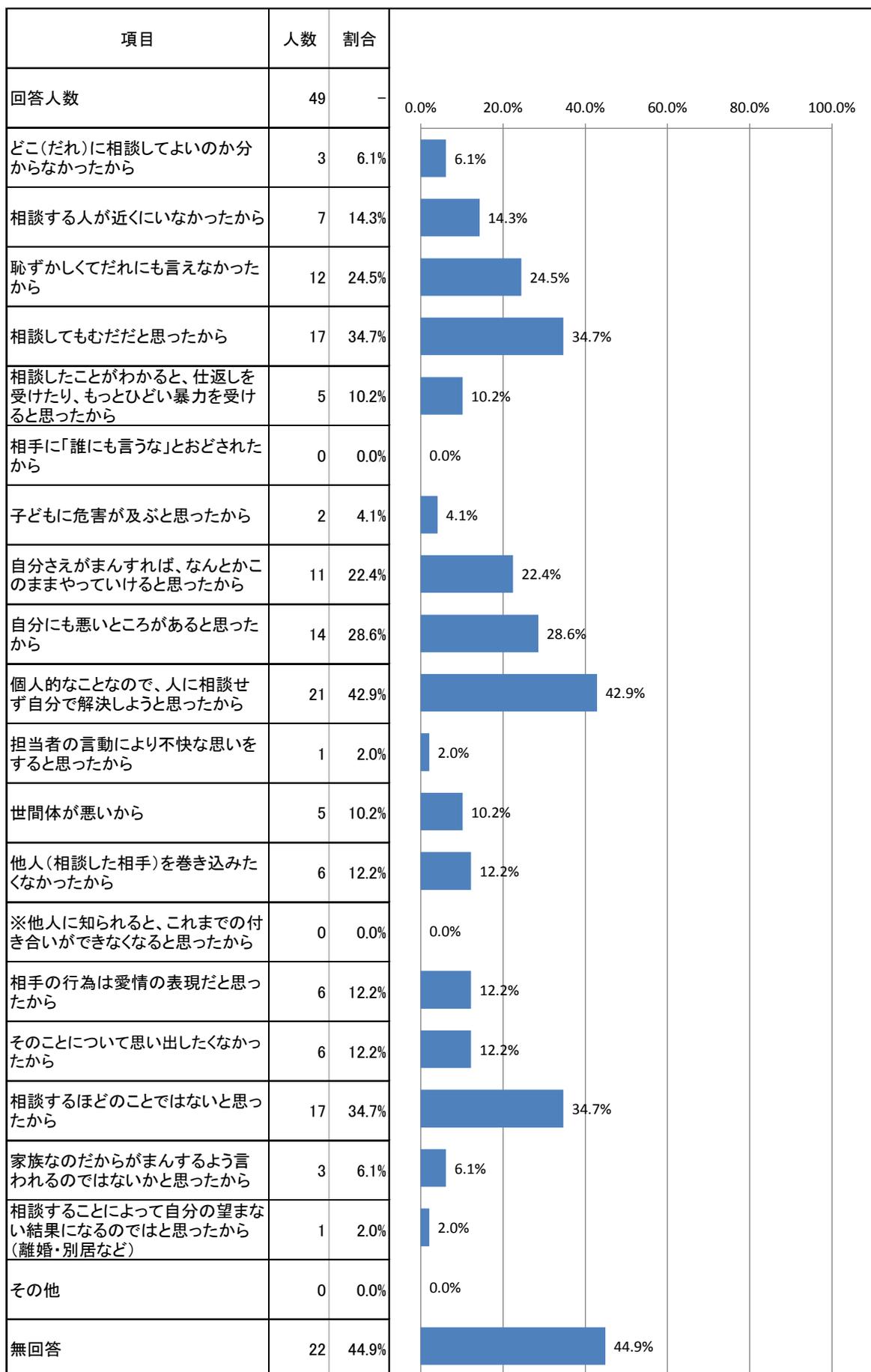
項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	140	-	31	-	109	-	29	-	108	-	3	-
家族に相談した	31	22.1%	6	19.4%	25	22.9%	8	27.6%	23	21.3%	0	0.0%
友人・知人に相談した	51	36.4%	12	38.7%	39	35.8%	18	62.1%	32	29.6%	1	33.3%
※行政機関に相談した	6	4.3%	2	6.5%	4	3.7%	3	10.3%	3	2.8%	0	0.0%
警察に連絡・相談した	10	7.1%	2	6.5%	8	7.3%	4	13.8%	6	5.6%	0	0.0%
弁護士に相談した	4	2.9%	0	0.0%	4	3.7%	1	3.4%	3	2.8%	0	0.0%
医師に相談した	4	2.9%	1	3.2%	3	2.8%	2	6.9%	2	1.9%	0	0.0%
民間のカウンセリングルームに相談した	5	3.6%	1	3.2%	4	3.7%	1	3.4%	4	3.7%	0	0.0%
どこ（だれ）にも相談しなかった	49	35.0%	12	38.7%	37	33.9%	6	20.7%	42	38.9%	1	33.3%
その他	3	2.1%	0	0.0%	3	2.8%	2	6.9%	1	0.9%	0	0.0%
無回答	21	15.0%	5	16.1%	16	14.7%	1	3.4%	19	17.6%	1	33.3%

※行政機関（鹿児島市男女共同参画センター（サンエールかごしま相談室）、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市子どもと女性の相談室、鹿児島県女性相談センター、保健所、保健センター、法務局など）

※問 24-2 で『⑧どこ（だれ）にも相談しなかった』とご回答された方にお聞きします。

問 24-3 どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

受けた暴力に対して相談をしなかった理由については、「個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから」が 42.9%と最も多く、次いで「相談してもむだだと思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」が 34.7%となっている。



※他人(相談したいと思っている相手)に知られると、これまでの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから

【属性別特徴】

性別では、男の「相談するほどのことではないと思ったから」が 50.0%で、女の 29.7%に比べて高くなっている。

また、男の「そのことについて思い出したくなかったから」が 25.0%で、女の 8.1%に比べて高くなっている。

女の「個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから」が 48.6%で、男の 25.0%に比べて高くなっている。

また、女の「相談する人が近くにいなかったから」が 18.9%で、男の 0.0%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「相談するほどのことではないと思ったから」が 83.3%で、40歳～64歳の 26.2%に比べてかなり高くなっている。

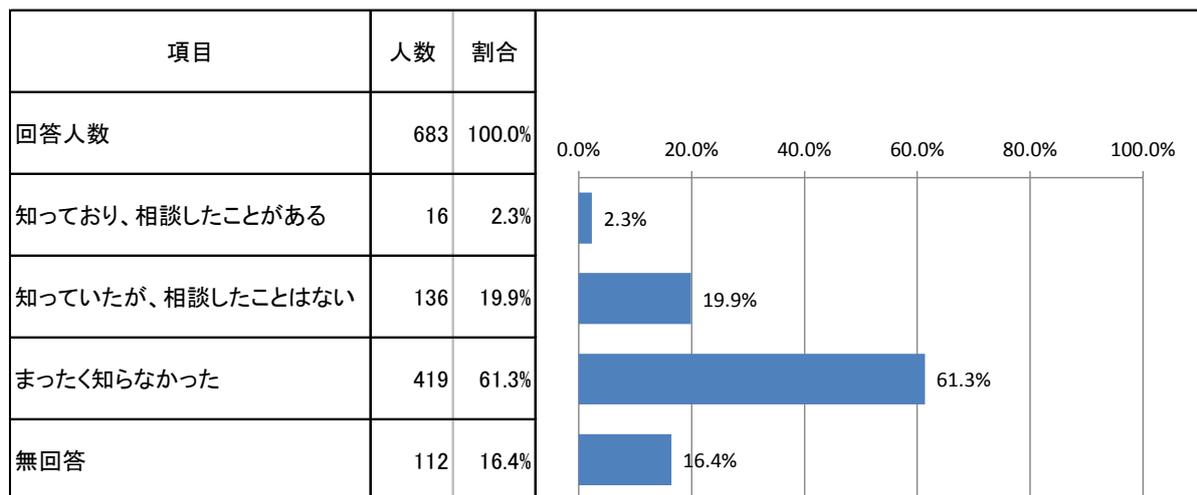
項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	49	-	12	-	37	-	6	-	42	-	1	-
どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	3	6.1%	1	8.3%	2	5.4%	1	16.7%	2	4.8%	0	0.0%
相談する人が近くにいなかったから	7	14.3%	0	0.0%	7	18.9%	0	0.0%	7	16.7%	0	0.0%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	12	24.5%	3	25.0%	9	24.3%	2	33.3%	10	23.8%	0	0.0%
相談してもむだだと思ったから	17	34.7%	4	33.3%	13	35.1%	4	66.7%	13	31.0%	0	0.0%
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	5	10.2%	1	8.3%	4	10.8%	2	33.3%	3	7.1%	0	0.0%
相手に「誰にも言うな」とおどされたから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもに危害が及ぶと思ったから	2	4.1%	1	8.3%	1	2.7%	0	0.0%	2	4.8%	0	0.0%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	11	22.4%	3	25.0%	8	21.6%	4	66.7%	7	16.7%	0	0.0%
自分にも悪いところがあると思ったから	14	28.6%	4	33.3%	10	27.0%	4	66.7%	9	21.4%	1	100.0%
個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから	21	42.9%	3	25.0%	18	48.6%	4	66.7%	16	38.1%	1	100.0%
担当者の言動により不快な思いをすと思ったから	1	2.0%	0	0.0%	1	2.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
世間体が悪いから	5	10.2%	1	8.3%	4	10.8%	1	16.7%	4	9.5%	0	0.0%
他人(相談した相手)を巻き込みたくなかったから	6	12.2%	1	8.3%	5	13.5%	2	33.3%	4	9.5%	0	0.0%
※他人に知られると、これまでの付き合いができなくなると思ったから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	6	12.2%	1	8.3%	5	13.5%	1	16.7%	5	11.9%	0	0.0%
そのことについて思い出したくなかったから	6	12.2%	3	25.0%	3	8.1%	1	16.7%	5	11.9%	0	0.0%
相談するほどのことではないと思ったから	17	34.7%	6	50.0%	11	29.7%	5	83.3%	11	26.2%	1	100.0%
家族なのだからがまんするよう言われるのではないかと思ったから	3	6.1%	1	8.3%	2	5.4%	1	16.7%	2	4.8%	0	0.0%
相談することによって自分の望まない結果になるのではと思ったから(離婚・別居など)	1	2.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	22	44.9%	3	25.0%	19	51.4%	0	0.0%	22	52.4%	0	0.0%

※他人(相談したいと思っている相手)に知られると、これまでの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから

問 25 DVについての具体的な相談先や鹿児島市等が発行しているDVに関するパンフレット等について、知っていますか。(A～Fの項目ごとにひとつに○)

A サンエールかごしま相談室

サンエールかごしま相談室の認知度については、「まったく知らなかった」が61.3%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が19.9%、「知っており、相談したことがある」が2.3%となっている。



【属性別特徴】

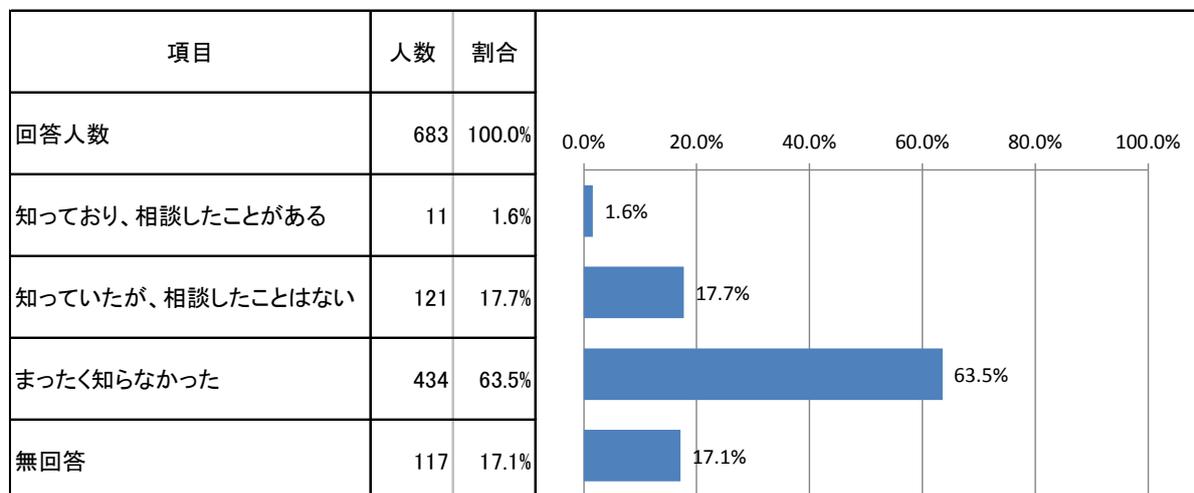
性別では、女の「知っていたが、相談したことはない」が22.6%で、男の16.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「まったく知らなかった」が72.3%で、40歳～64歳の58.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っており、相談したことがある	16	2.3%	3	1.1%	13	3.3%	4	2.8%	12	2.3%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	136	19.9%	46	16.2%	90	22.6%	21	14.9%	113	21.4%	2	13.3%
まったく知らなかった	419	61.3%	178	62.7%	241	60.4%	102	72.3%	306	58.1%	11	73.3%
無回答	112	16.4%	57	20.1%	55	13.8%	14	9.9%	96	18.2%	2	13.3%

B 鹿児島市子どもと女性の相談室

鹿児島市子どもと女性の相談室の認知度については、「まったく知らなかった」が 63.5%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が 17.7%、「知っており、相談したことがある」が 1.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「知っていたが、相談したことはない」が 21.6%で、男の 12.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「まったく知らなかった」が 78.7%で、40歳～64歳の 59.2%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っており、相談したことがある	11	1.6%	4	1.4%	7	1.8%	2	1.4%	9	1.7%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	121	17.7%	35	12.3%	86	21.6%	15	10.6%	104	19.7%	2	13.3%
まったく知らなかった	434	63.5%	185	65.1%	249	62.4%	111	78.7%	312	59.2%	11	73.3%
無回答	117	17.1%	60	21.1%	57	14.3%	13	9.2%	102	19.4%	2	13.3%

C 鹿児島県女性相談センター

鹿児島県女性相談センターの認知度については、「まったく知らなかった」が61.8%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が19.9%、「知っており、相談したことがある」が1.6%となっている。

項目	人数	割合	0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%					
回答人数	683	100.0%						
知っており、相談したことがある	11	1.6%	1.6%					
知っていたが、相談したことはない	136	19.9%	19.9%					
まったく知らなかった	422	61.8%	61.8%					
無回答	114	16.7%	16.7%					

【属性別特徴】

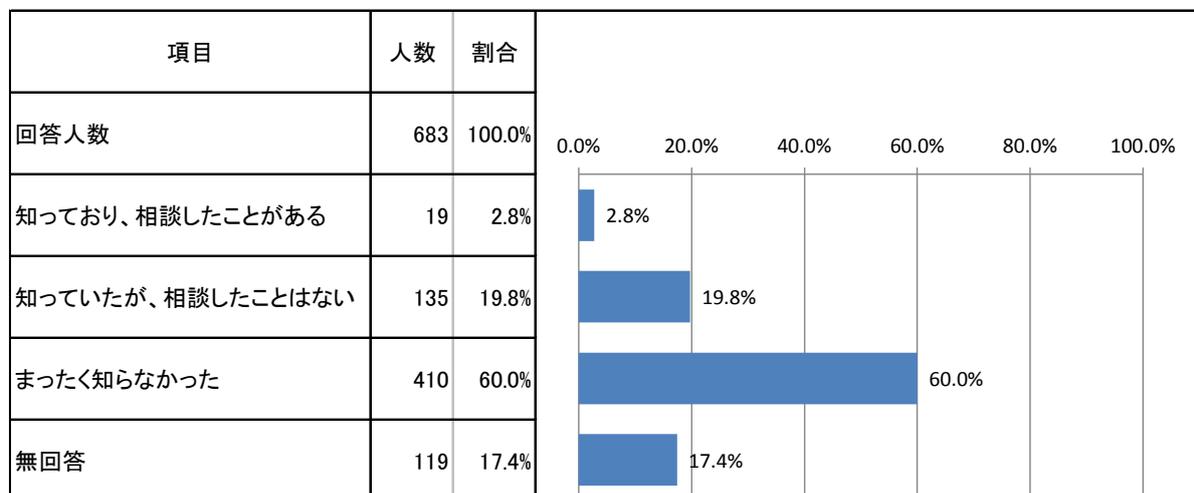
性別では、女の「知っていたが、相談したことはない」が24.1%で、男の14.1%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「まったく知らなかった」が72.3%で、40歳～64歳の58.8%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っており、相談したことがある	11	1.6%	4	1.4%	7	1.8%	3	2.1%	8	1.5%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	136	19.9%	40	14.1%	96	24.1%	23	16.3%	109	20.7%	4	26.7%
まったく知らなかった	422	61.8%	181	63.7%	241	60.4%	102	72.3%	310	58.8%	10	66.7%
無回答	114	16.7%	59	20.8%	55	13.8%	13	9.2%	100	19.0%	1	6.7%

D 鹿児島県男女共同参画センター

鹿児島県男女共同参画センターの認知度については、「まったく知らなかった」が60.0%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が19.8%、「知っており、相談したことがある」が2.8%となっている。



【属性別特徴】

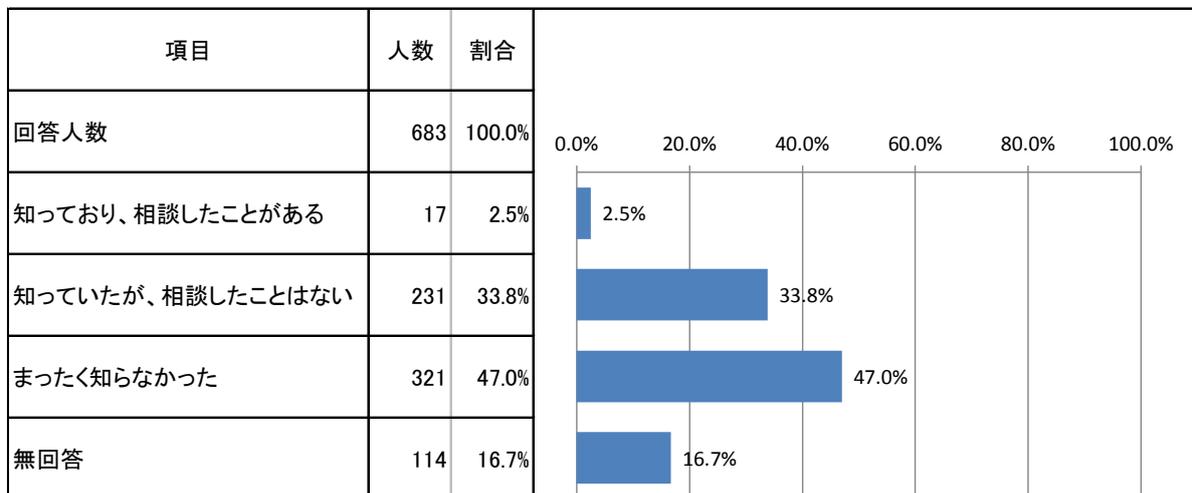
性別では、女の「知っていたが、相談したことはない」が23.3%で、男の14.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「まったく知らなかった」が70.2%で、40歳～64歳の56.9%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っており、相談したことがある	19	2.8%	4	1.4%	15	3.8%	6	4.3%	13	2.5%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	135	19.8%	42	14.8%	93	23.3%	23	16.3%	110	20.9%	2	13.3%
まったく知らなかった	410	60.0%	178	62.7%	232	58.1%	99	70.2%	300	56.9%	11	73.3%
無回答	119	17.4%	60	21.1%	59	14.8%	13	9.2%	104	19.7%	2	13.3%

E 各警察署生活安全課

各警察署生活安全課の認知度については、「まったく知らなかった」が 47.0%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が 33.8%、「知っており、相談したことがある」が 2.5%となっている。



【属性別特徴】

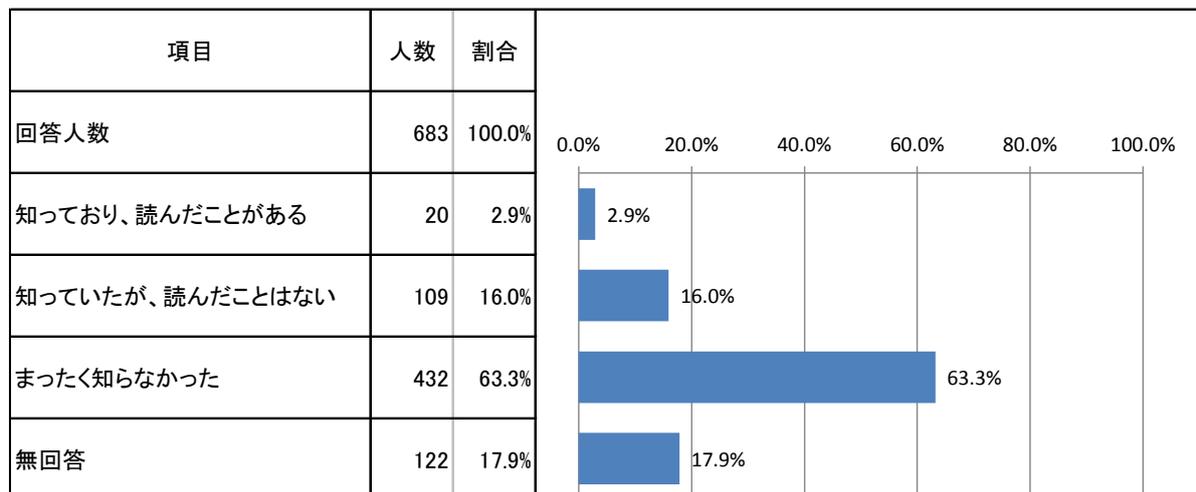
性別では、女の「まったく知らなかった」が 51.1%で、男の 41.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「まったく知らなかった」が 58.2%で、40歳～64歳の 43.8%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っており、相談したことがある	17	2.5%	8	2.8%	9	2.3%	4	2.8%	13	2.5%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	231	33.8%	100	35.2%	131	32.8%	42	29.8%	185	35.1%	4	26.7%
まったく知らなかった	321	47.0%	117	41.2%	204	51.1%	82	58.2%	231	43.8%	8	53.3%
無回答	114	16.7%	59	20.8%	55	13.8%	13	9.2%	98	18.6%	3	20.0%

F 鹿児島市等が発行しているDVの相談先を紹介するカードサイズリーフレット等
※病院や金融機関、公共施設等に設置

鹿児島市等が発行しているDVの相談先を紹介するカードサイズリーフレット等の認知度については、「まったく知らなかった」が63.3%と最も多く、次いで「知っていたが、読んだことはない」が16.0%、「知っており、読んだことがある」が2.9%となっている。



【属性別特徴】

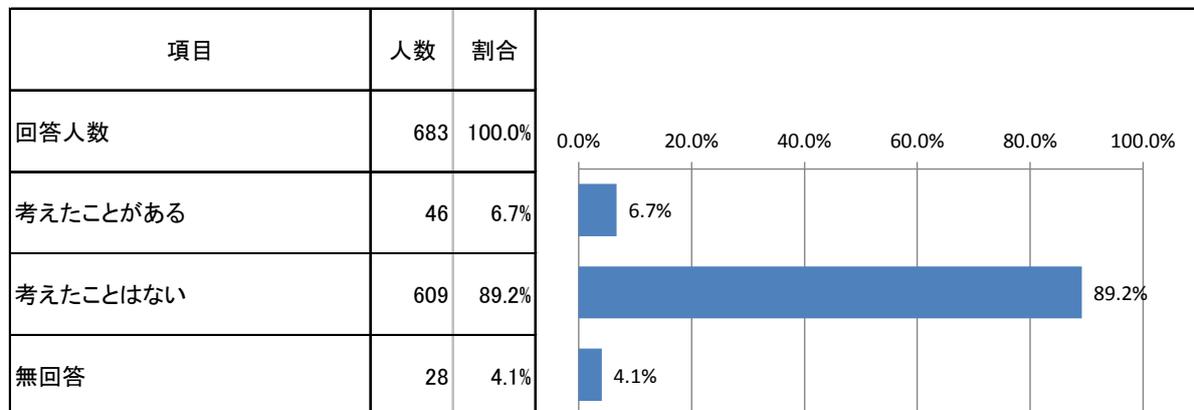
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳未満の「まったく知らなかった」が68.1%で、40歳～64歳の61.7%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っており、読んだことがある	20	2.9%	1	0.4%	19	4.8%	6	4.3%	13	2.5%	1	6.7%
知っていたが、読んだことはない	109	16.0%	41	14.4%	68	17.0%	26	18.4%	83	15.7%	0	0.0%
まったく知らなかった	432	63.3%	180	63.4%	252	63.2%	96	68.1%	325	61.7%	11	73.3%
無回答	122	17.9%	62	21.8%	60	15.0%	13	9.2%	106	20.1%	3	20.0%

問 26 あなたは、この 1 年間で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。
(ひとつに○)

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が 6.7%、「考えたことはない」が 89.2%となっている。



【属性別特徴】

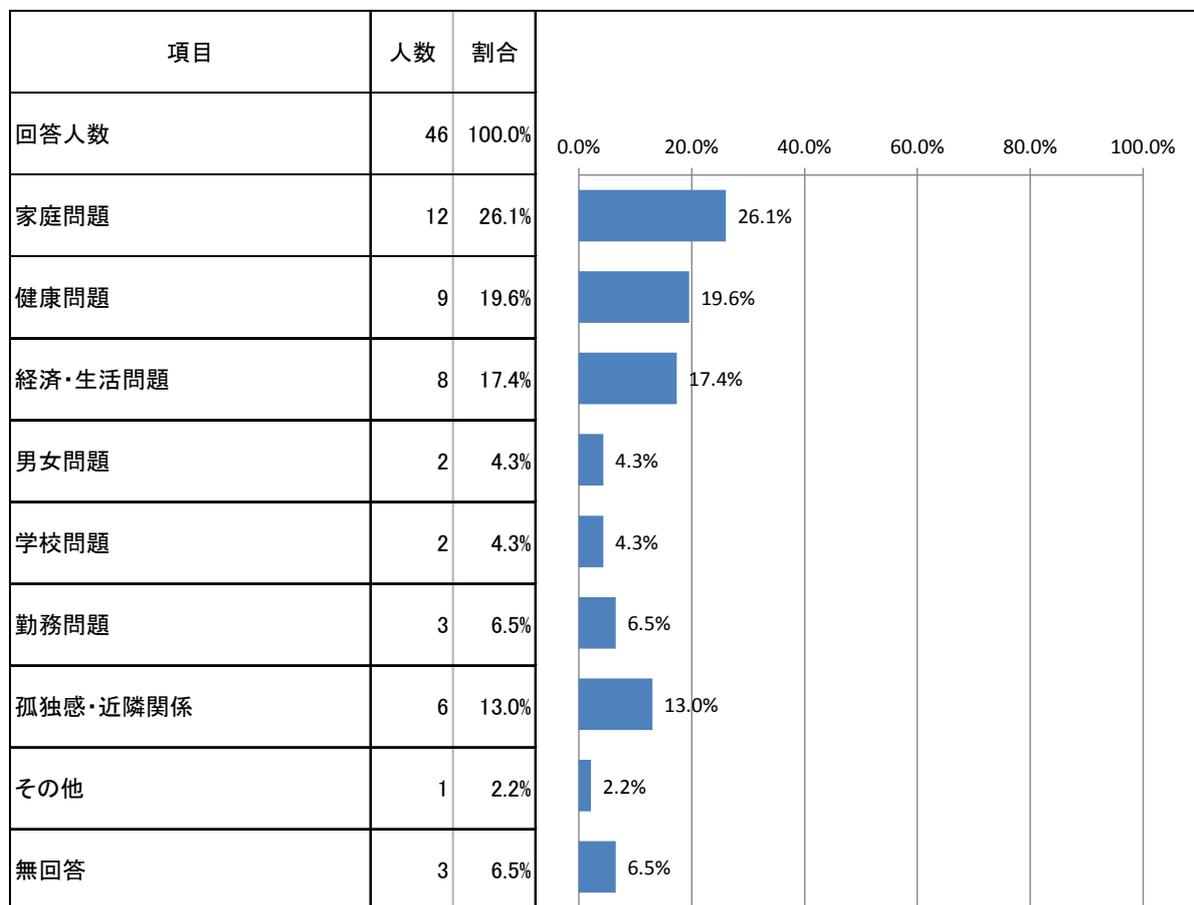
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
考えたことがある	46	6.7%	12	4.2%	34	8.5%	14	9.9%	32	6.1%	0	0.0%
考えたことはない	609	89.2%	258	90.8%	351	88.0%	122	86.5%	472	89.6%	15	100.0%
無回答	28	4.1%	14	4.9%	14	3.5%	5	3.5%	23	4.4%	0	0.0%

※問 26 で『①考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

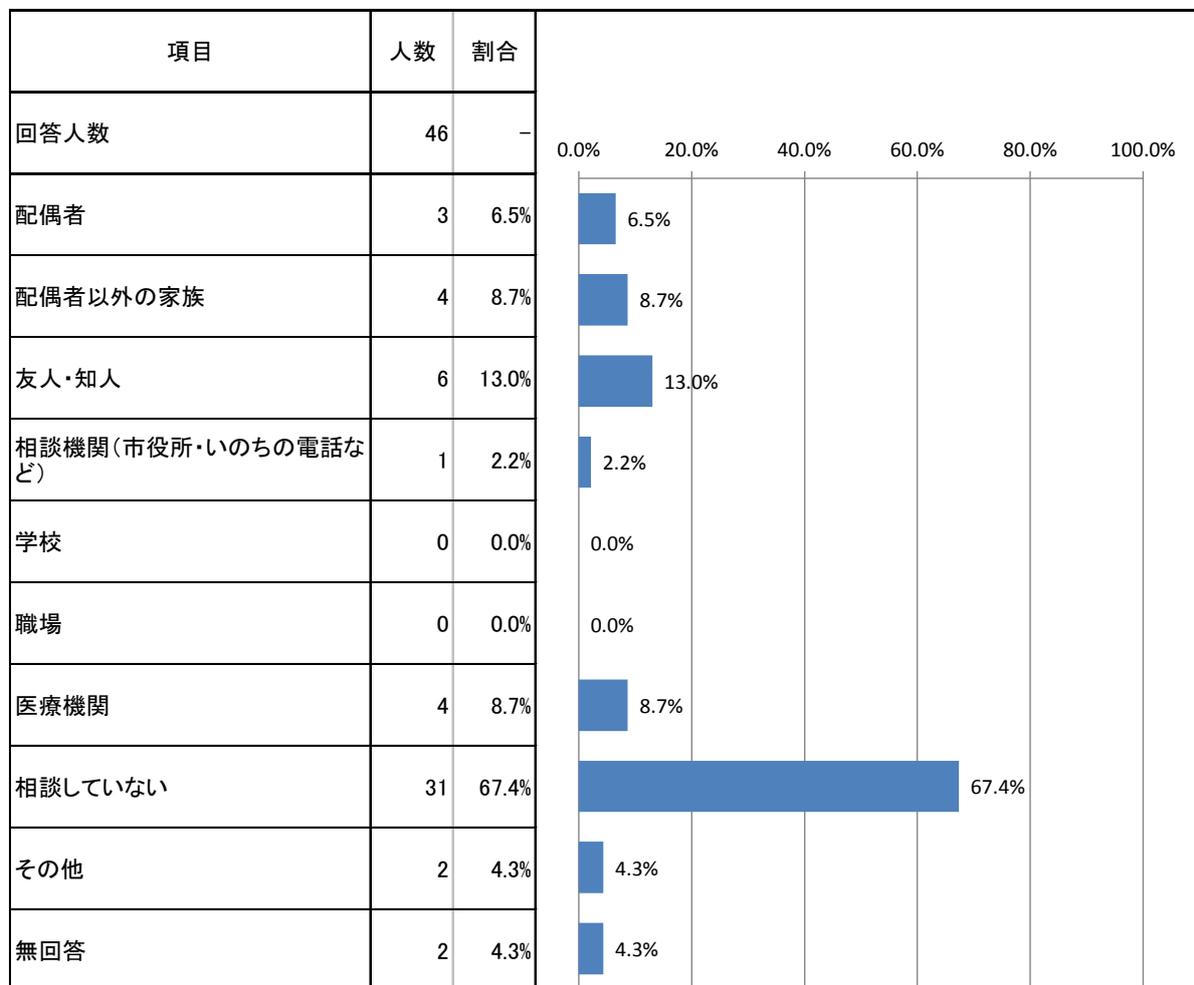
問 26-1 自殺を考えたときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)

自殺したいと考えたときの一番の原因については、「家庭問題」が 26.1%と最も多く、次いで「健康問題」が 19.6%、「経済・生活問題」が 17.4%となっている。



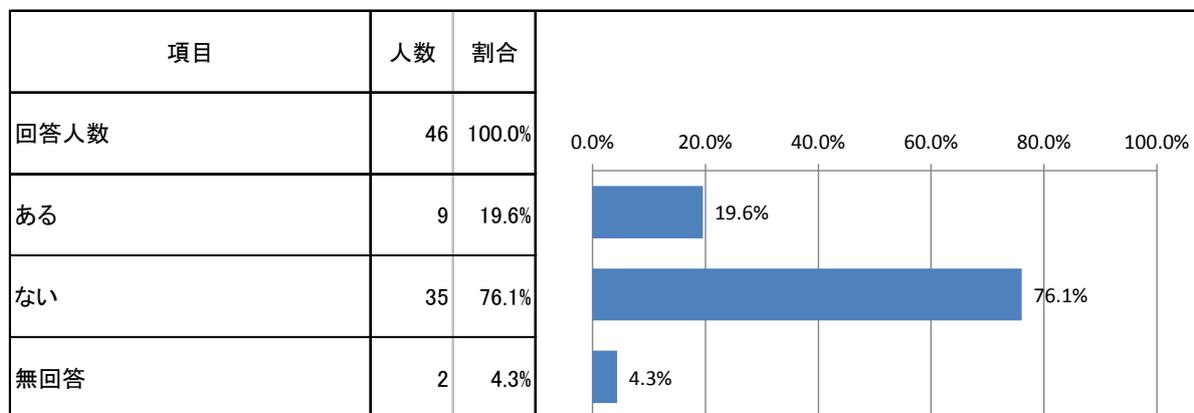
問 26-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれ（どこか）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」が 67.4%と最も多く、次いで「友人・知人」が 13.0%、「配偶者以外の家族」、「医療関係」が 8.7%となっている。



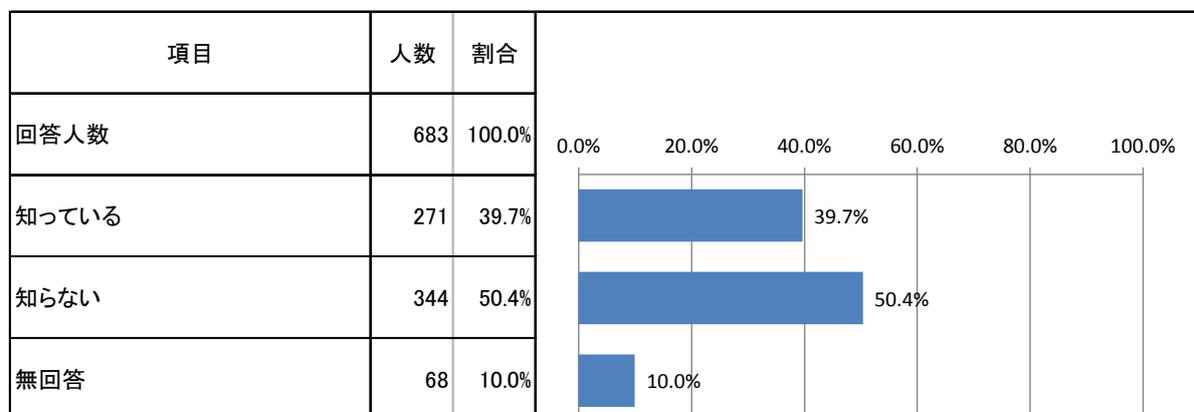
問 26-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。(ひとつに○)

医療機関の受診については、「ある」が19.6%、「ない」が76.1%となっている。



問 27 自殺に関して相談ができるところを知っていますか。(ひとつに○)

自殺に関する相談先の認知度については、「知っている」が 39.7%、「知らない」が 50.4%となっている。



【属性別特徴】

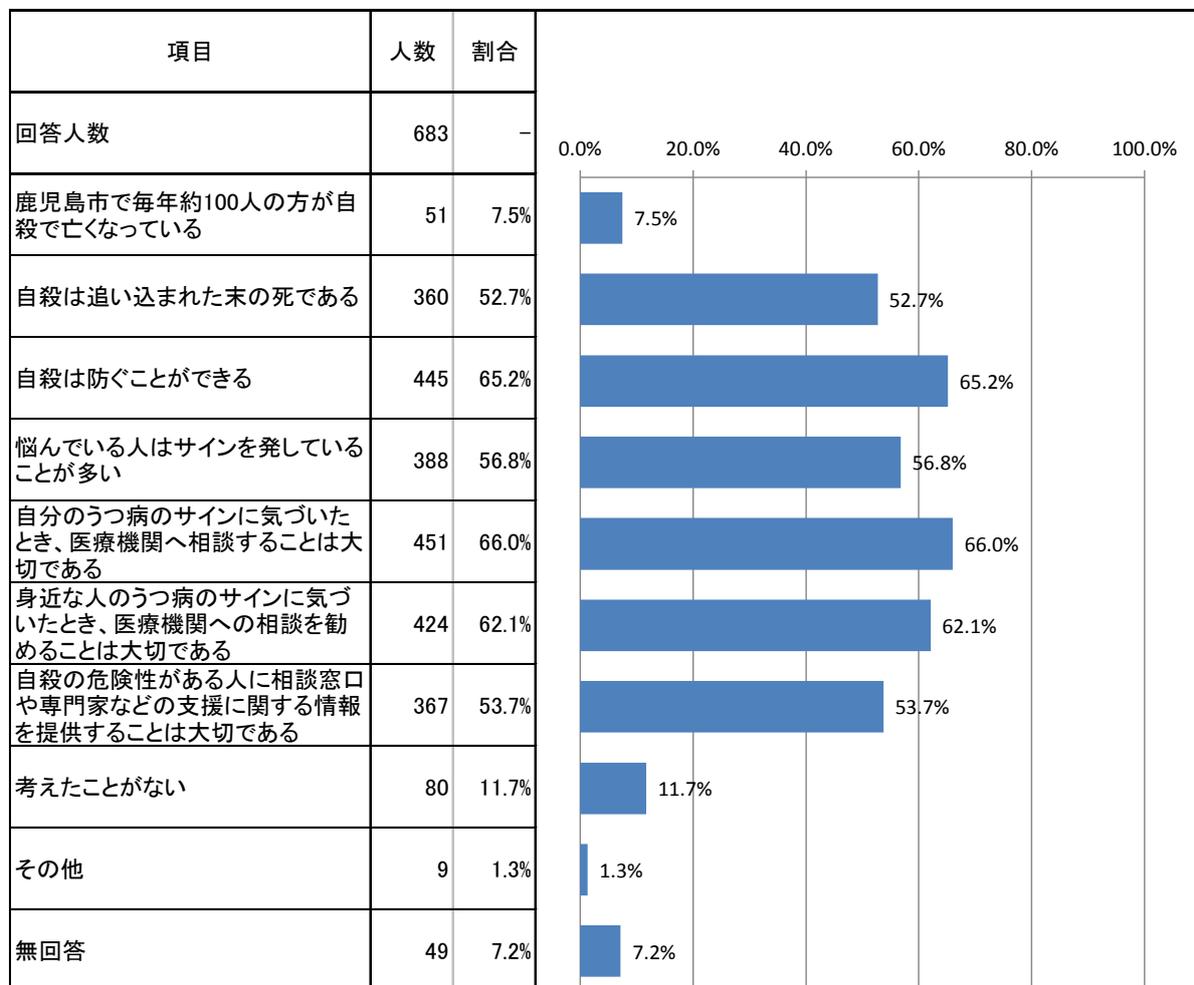
性別では、女の「知っている」が 43.6%で、男の 34.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っている	271	39.7%	97	34.2%	174	43.6%	59	41.8%	205	38.9%	7	46.7%
知らない	344	50.4%	157	55.3%	187	46.9%	74	52.5%	264	50.1%	6	40.0%
無回答	68	10.0%	30	10.6%	38	9.5%	8	5.7%	58	11.0%	2	13.3%

問 28 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自殺について知っていることについては、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が 66.0%と最も多く、次いで「自殺は防ぐことができる」が 65.2%、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が 62.1%となっている。



【属性別特徴】

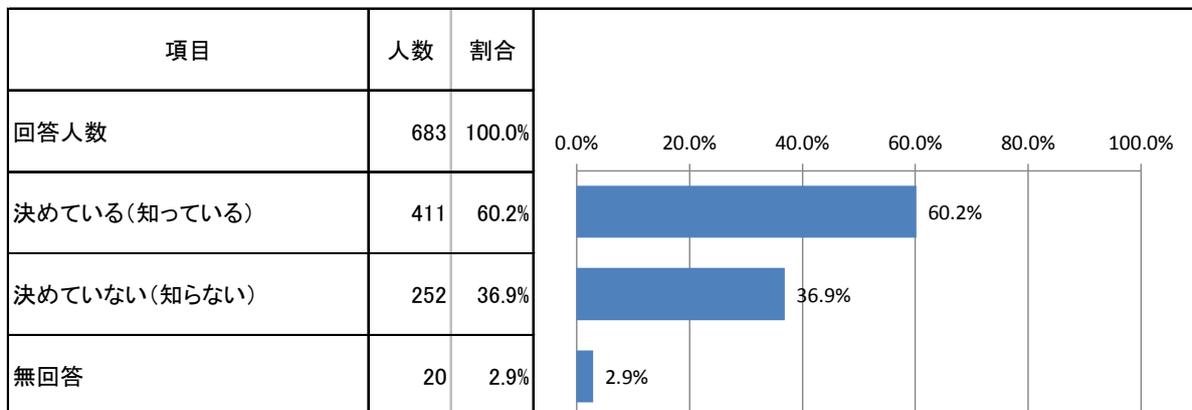
性別では、女の「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が69.4%で、男の61.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が73.8%で、40歳～64歳の64.3%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	-	284	-	399	-	141	-	527	-	15	-
鹿児島市で毎年約100の方が自殺で亡くなっている	51	7.5%	26	9.2%	25	6.3%	10	7.1%	40	7.6%	1	6.7%
自殺は追い込まれた末の死である	360	52.7%	152	53.5%	208	52.1%	70	49.6%	283	53.7%	7	46.7%
自殺は防ぐことができる	445	65.2%	187	65.8%	258	64.7%	93	66.0%	343	65.1%	9	60.0%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	388	56.8%	151	53.2%	237	59.4%	85	60.3%	294	55.8%	9	60.0%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	451	66.0%	174	61.3%	277	69.4%	104	73.8%	339	64.3%	8	53.3%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	424	62.1%	169	59.5%	255	63.9%	86	61.0%	331	62.8%	7	46.7%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	367	53.7%	141	49.6%	226	56.6%	73	51.8%	289	54.8%	5	33.3%
考えたことがない	80	11.7%	38	13.4%	42	10.5%	16	11.3%	63	12.0%	1	6.7%
その他	9	1.3%	0	0.0%	9	2.3%	3	2.1%	6	1.1%	0	0.0%
無回答	49	7.2%	22	7.7%	27	6.8%	5	3.5%	40	7.6%	4	26.7%

問 29 避難する場所を決めていますか。(または自宅に一番近い指定避難所を知っていますか。)(ひとつに○)

自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている(知っている)」が60.2%、「決めていない(知らない)」が36.9%となっている。



【属性別特徴】

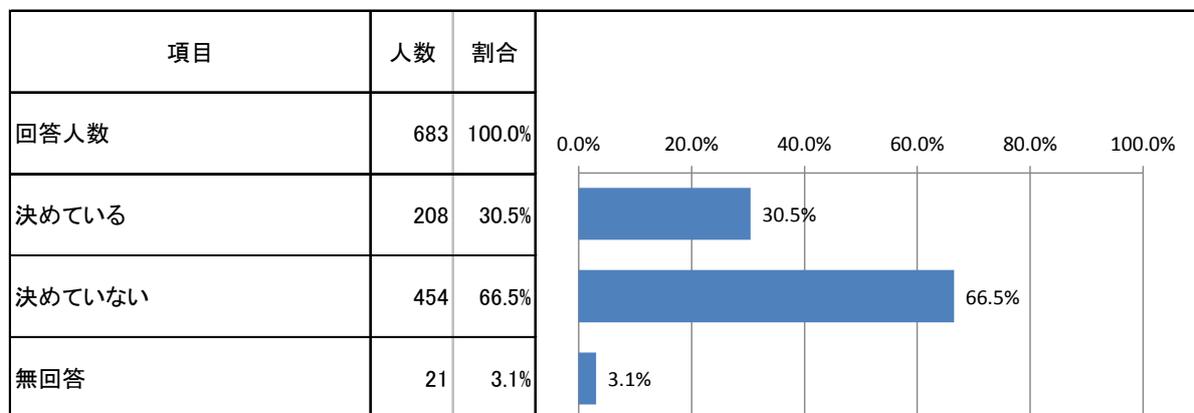
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳～64歳の「決めている(知っている)」が62.0%で、40歳未満の53.9%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
決めている(知っている)	411	60.2%	173	60.9%	238	59.6%	76	53.9%	327	62.0%	8	53.3%
決めていない(知らない)	252	36.9%	101	35.6%	151	37.8%	61	43.3%	184	34.9%	7	46.7%
無回答	20	2.9%	10	3.5%	10	2.5%	4	2.8%	16	3.0%	0	0.0%

問30 災害が発生したとき、家族と連絡をとる方法を決めていますか。(ひとつに○)

災害発生時の家族との連絡方法に関する話し合いについては、「決めている」が30.5%、「決めていない」が66.5%となっている。



【属性別特徴】

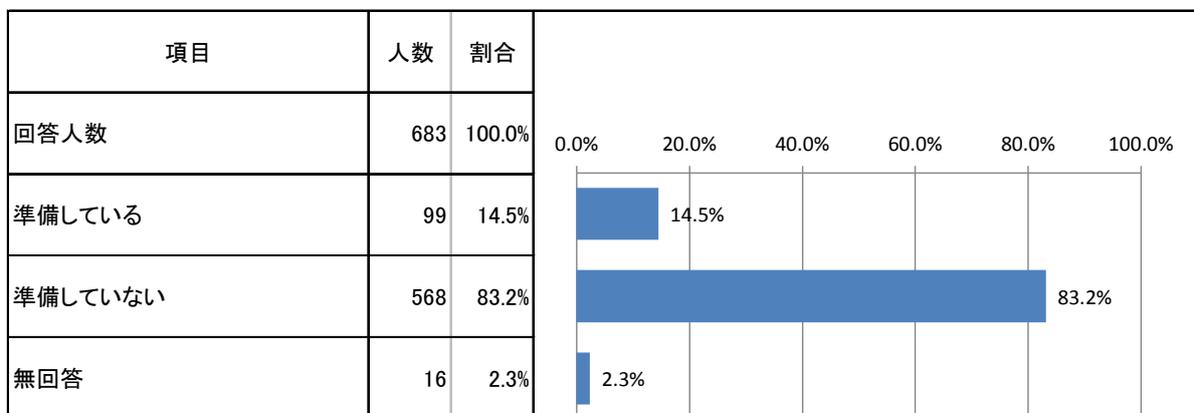
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳～64歳の「決めている」が32.3%で、40歳未満の23.4%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
決めている	208	30.5%	82	28.9%	126	31.6%	33	23.4%	170	32.3%	5	33.3%
決めていない	454	66.5%	191	67.3%	263	65.9%	104	73.8%	340	64.5%	10	66.7%
無回答	21	3.1%	11	3.9%	10	2.5%	4	2.8%	17	3.2%	0	0.0%

問 31 災害時の非常持ち出し品を準備していますか。(ひとつに○)

非常持ち出し品の準備については、「準備している」が 14.5%、「準備していない」が 83.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳～64歳の「準備している」が 15.9%で、40歳未満の 9.2%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
準備している	99	14.5%	34	12.0%	65	16.3%	13	9.2%	84	15.9%	2	13.3%
準備していない	568	83.2%	242	85.2%	326	81.7%	125	88.7%	430	81.6%	13	86.7%
無回答	16	2.3%	8	2.8%	8	2.0%	3	2.1%	13	2.5%	0	0.0%

問 32 災害時要援護者避難支援制度を知っていますか。(ひとつに〇)

災害時要援護者避難支援制度の認知度については、「知っている」が 18.4%、「知らない」が 78.6%となっている。

項目	人数	割合	0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%					
回答人数	683	100.0%						
知っている	126	18.4%	18.4%					
知らない	537	78.6%	78.6%					
無回答	20	2.9%	2.9%					

【属性別特徴】

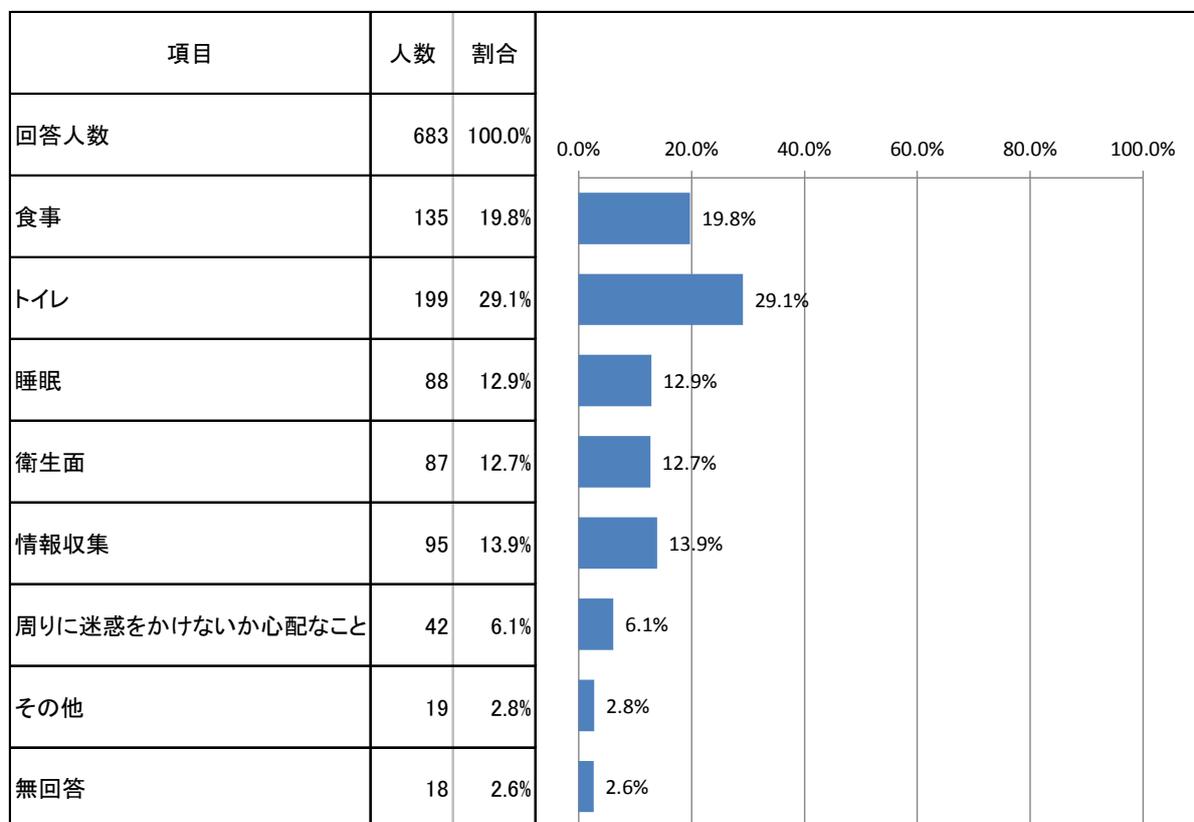
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が 20.1%で、40歳未満の 11.3%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っている	126	18.4%	55	19.4%	71	17.8%	16	11.3%	106	20.1%	4	26.7%
知らない	537	78.6%	221	77.8%	316	79.2%	120	85.1%	406	77.0%	11	73.3%
無回答	20	2.9%	8	2.8%	12	3.0%	5	3.5%	15	2.8%	0	0.0%

問 33 避難所に避難した場合に、一番不安なのは次のうちどれですか。(ひとつに○)

避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「トイレ」が 29.1%と最も多く、次いで「食事」が 19.8%、「情報収集」が 13.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「トイレ」が35.3%で、男の20.4%に比べて高くなっている。

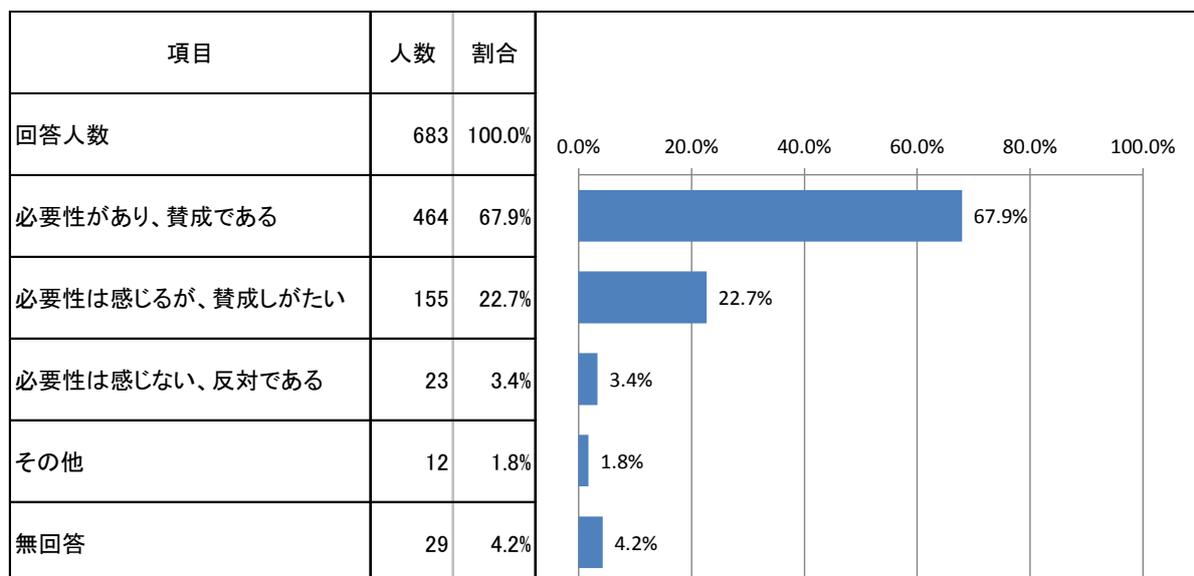
年齢別では、40歳未満の「食事」が34.0%で、40歳～64歳の16.3%に比べて高くなっている。

また、40歳～64歳の「トイレ」が31.3%で、40歳未満の20.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
食事	135	19.8%	70	24.6%	65	16.3%	48	34.0%	86	16.3%	1	6.7%
トイレ	199	29.1%	58	20.4%	141	35.3%	29	20.6%	165	31.3%	5	33.3%
睡眠	88	12.9%	41	14.4%	47	11.8%	5	3.5%	78	14.8%	5	33.3%
衛生面	87	12.7%	34	12.0%	53	13.3%	24	17.0%	60	11.4%	3	20.0%
情報収集	95	13.9%	42	14.8%	53	13.3%	19	13.5%	76	14.4%	0	0.0%
周りに迷惑をかけないか心配なこと	42	6.1%	21	7.4%	21	5.3%	5	3.5%	37	7.0%	0	0.0%
その他	19	2.8%	8	2.8%	11	2.8%	7	5.0%	11	2.1%	1	6.7%
無回答	18	2.6%	10	3.5%	8	2.0%	4	2.8%	14	2.7%	0	0.0%

問 34 災害時に避難した人と避難しなかった人の把握のため、家族情報(家族の人数、氏名、年齢など)を事前に町内会などで把握しておく必要性を感じますか。またそうすることに賛成ですか。(ひとつに○)

町内会において事前に家族情報を把握する必要性とその賛否については、「必要性があり、賛成である」が67.9%と最も多く、次いで「必要性を感じるが、賛成しがたい」が22.7%、「必要性を感じない、反対である」が3.4%となっている。



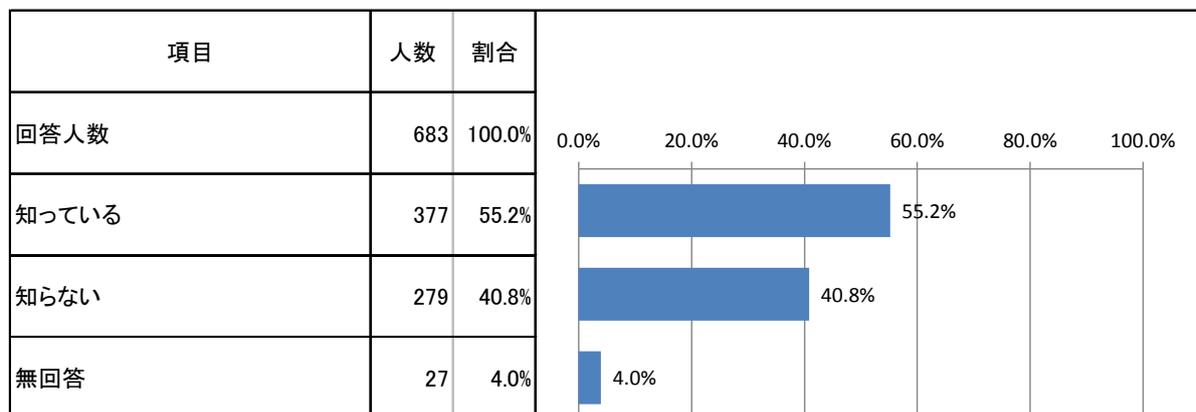
【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
必要性があり、賛成である	464	67.9%	187	65.8%	277	69.4%	93	66.0%	362	68.7%	9	60.0%
必要性を感じるが、賛成しがたい	155	22.7%	61	21.5%	94	23.6%	37	26.2%	114	21.6%	4	26.7%
必要性を感じない、反対である	23	3.4%	12	4.2%	11	2.8%	1	0.7%	22	4.2%	0	0.0%
その他	12	1.8%	8	2.8%	4	1.0%	3	2.1%	8	1.5%	1	6.7%
無回答	29	4.2%	16	5.6%	13	3.3%	7	5.0%	21	4.0%	1	6.7%

問 35 桜島の火山活動では、大正噴火時に失われたマグマの約9割が蓄積されており、2020年代には、その蓄積が大正噴火直前の状態とほぼ同じになり、大正噴火級の大噴火が起こる可能性が示唆されていることをご存じですか。
(ひとつに○)

大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度については、「知っている」が55.2%、「知らない」が40.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

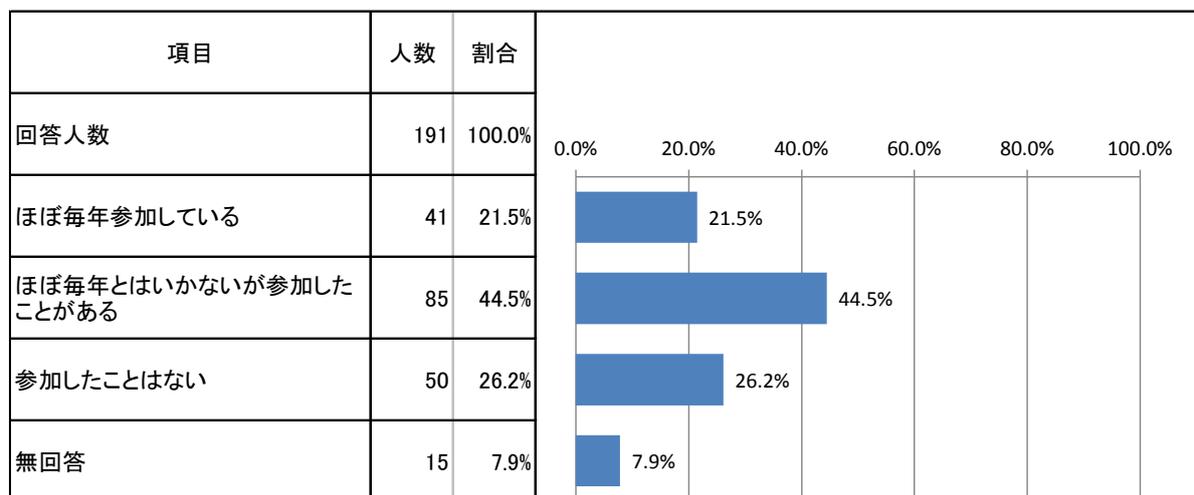
年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が57.1%で、40歳未満の46.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	683	100.0%	284	100.0%	399	100.0%	141	100.0%	527	100.0%	15	100.0%
知っている	377	55.2%	161	56.7%	216	54.1%	65	46.1%	301	57.1%	11	73.3%
知らない	279	40.8%	109	38.4%	170	42.6%	71	50.4%	204	38.7%	4	26.7%
無回答	27	4.0%	14	4.9%	13	3.3%	5	3.5%	22	4.2%	0	0.0%

※問 36 から問 39 は桜島にお住まいの方への質問です。

**問 36 鹿児島市が開催する桜島火山爆発総合防災訓練に参加したことがありますか。
(ひとつに○)**

桜島火山爆発総合防災訓練の参加については、「ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある」が 44.5%と最も多く、次いで「参加したことはない」が 26.2%、「ほぼ毎年参加している」が 21.5%となっている。



【属性別特徴】

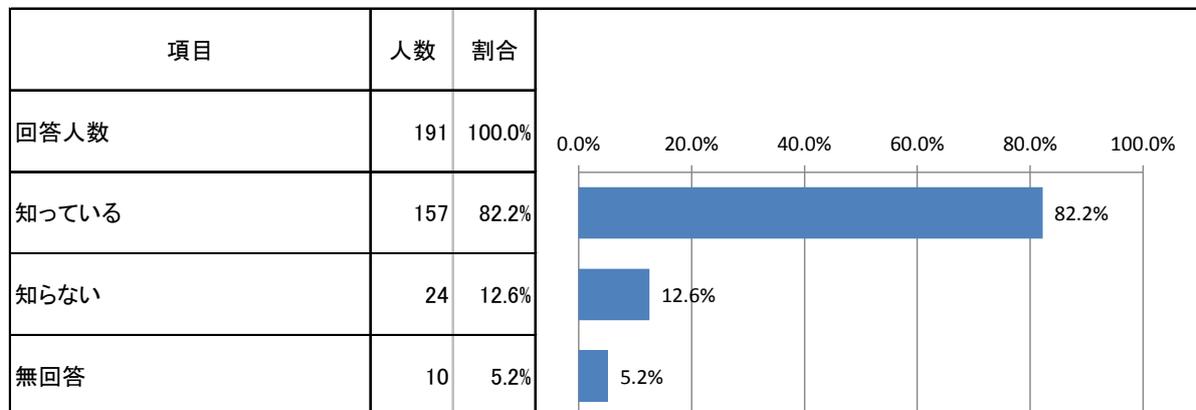
性別では、女の「ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある」が 49.6%で、男の 37.2%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある」が 51.4%で、40歳～64歳の 43.0%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	191	100.0%	78	100.0%	113	100.0%	37	100.0%	149	100.0%	5	100.0%
ほぼ毎年参加している	41	21.5%	19	24.4%	22	19.5%	8	21.6%	32	21.5%	1	20.0%
ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある	85	44.5%	29	37.2%	56	49.6%	19	51.4%	64	43.0%	2	40.0%
参加したことはない	50	26.2%	22	28.2%	28	24.8%	9	24.3%	39	26.2%	2	40.0%
無回答	15	7.9%	8	10.3%	7	6.2%	1	2.7%	14	9.4%	0	0.0%

問 37 現在、避難時に家族カードを提出することで、避難した方を把握することになっていますが、家族カードを提出することを知っていますか。(ひとつに○)

噴火の避難時における家族カード提出の認知度については、「知っている」が 82.2%、「知らない」が 12.6%となっている。



【属性別特徴】

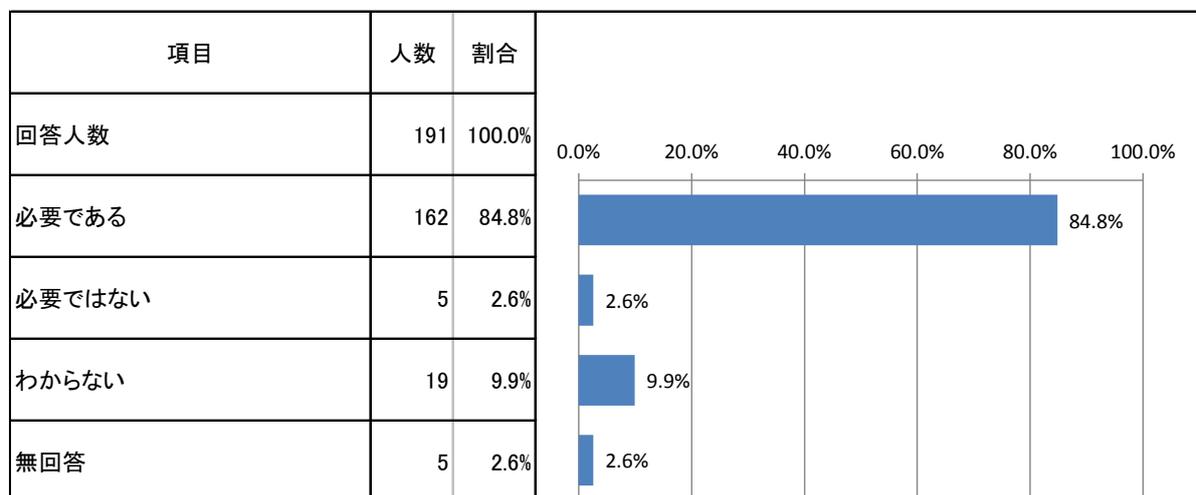
性別では、女の「知っている」が 86.7%で、男の 75.6%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が 85.2%で、40歳未満の 70.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	191	100.0%	78	100.0%	113	100.0%	37	100.0%	149	100.0%	5	100.0%
知っている	157	82.2%	59	75.6%	98	86.7%	26	70.3%	127	85.2%	4	80.0%
知らない	24	12.6%	15	19.2%	9	8.0%	10	27.0%	13	8.7%	1	20.0%
無回答	10	5.2%	4	5.1%	6	5.3%	1	2.7%	9	6.0%	0	0.0%

問 38 現在、避難しなかった人（避難時に島外にいる人や逃げ遅れた人など）を町内会や行政で確認する仕組みはありません。把握できるようにしておくことが必要だと考えますか。（ひとつに○）

避難しなかった人を確認する仕組みの必要性については、「必要である」が 84.8%と最も多く、次いで「わからない」が 9.9%、「必要ではない」が 2.6%となっている。



【属性別特徴】

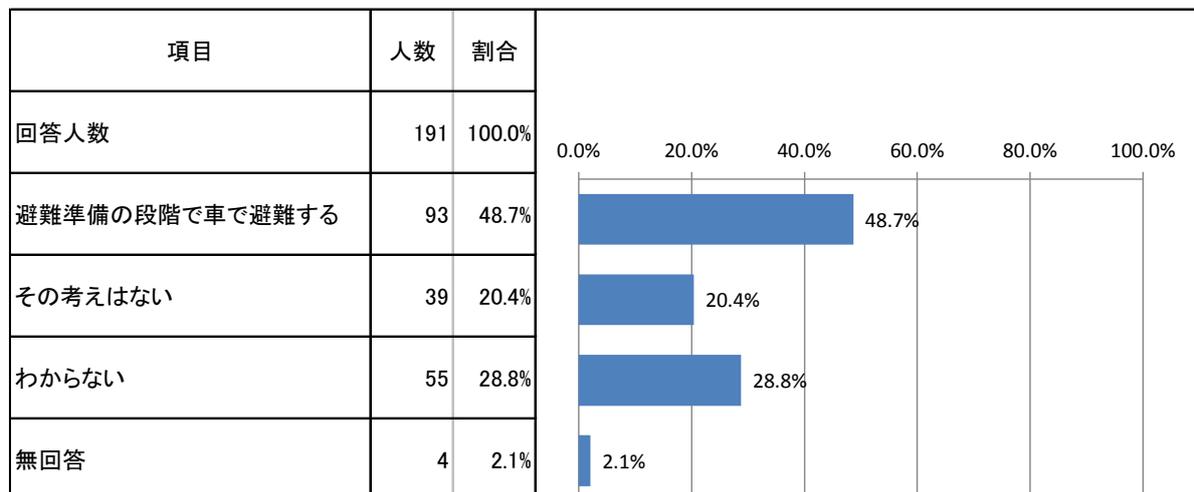
性別では、男の「必要である」が 91.0%で、女の 80.5%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「必要である」が 89.2%で、40歳～64歳の 83.9%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	191	100.0%	78	100.0%	113	100.0%	37	100.0%	149	100.0%	5	100.0%
必要である	162	84.8%	71	91.0%	91	80.5%	33	89.2%	125	83.9%	4	80.0%
必要ではない	5	2.6%	2	2.6%	3	2.7%	0	0.0%	5	3.4%	0	0.0%
わからない	19	9.9%	4	5.1%	15	13.3%	4	10.8%	14	9.4%	1	20.0%
無回答	5	2.6%	1	1.3%	4	3.5%	0	0.0%	5	3.4%	0	0.0%

問 39 「避難勧告」が発令されたら、車は使わず船で避難することになりますが、その前の「避難準備」が発令された段階で、車などで島外に避難する考えがありますか。(ひとつに○)

「避難準備」発令時の車などでの島外避難については、「避難準備の段階で車で避難する」が 48.7%と最も多く、次いで「わからない」が 28.8%、「その考えはない」が 20.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「避難準備の段階で車で避難する」が 52.6%で、女の 46.0%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「避難準備の段階で車で避難する」が 62.2%で、40歳～64歳の 46.3%に比べて高くなっている。

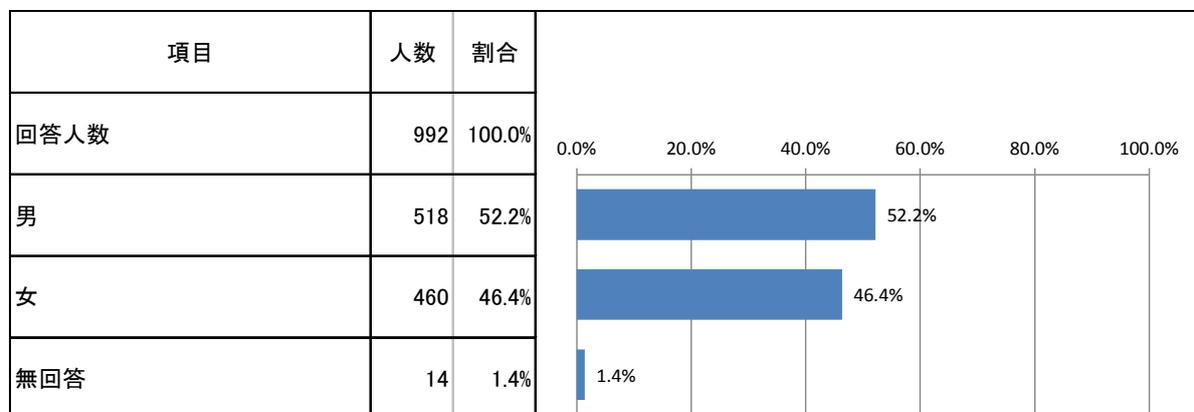
項目	回答人数		性別				年齢別					
			男		女		40歳未満		40歳～64歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	191	100.0%	78	100.0%	113	100.0%	37	100.0%	149	100.0%	5	100.0%
避難準備の段階で車で避難する	93	48.7%	41	52.6%	52	46.0%	23	62.2%	69	46.3%	1	20.0%
その考えはない	39	20.4%	14	17.9%	25	22.1%	6	16.2%	32	21.5%	1	20.0%
わからない	55	28.8%	22	28.2%	33	29.2%	8	21.6%	44	29.5%	3	60.0%
無回答	4	2.1%	1	1.3%	3	2.7%	0	0.0%	4	2.7%	0	0.0%

第5章 高齡者

問1 あなたの性別や世帯構成などについてお聞きします。

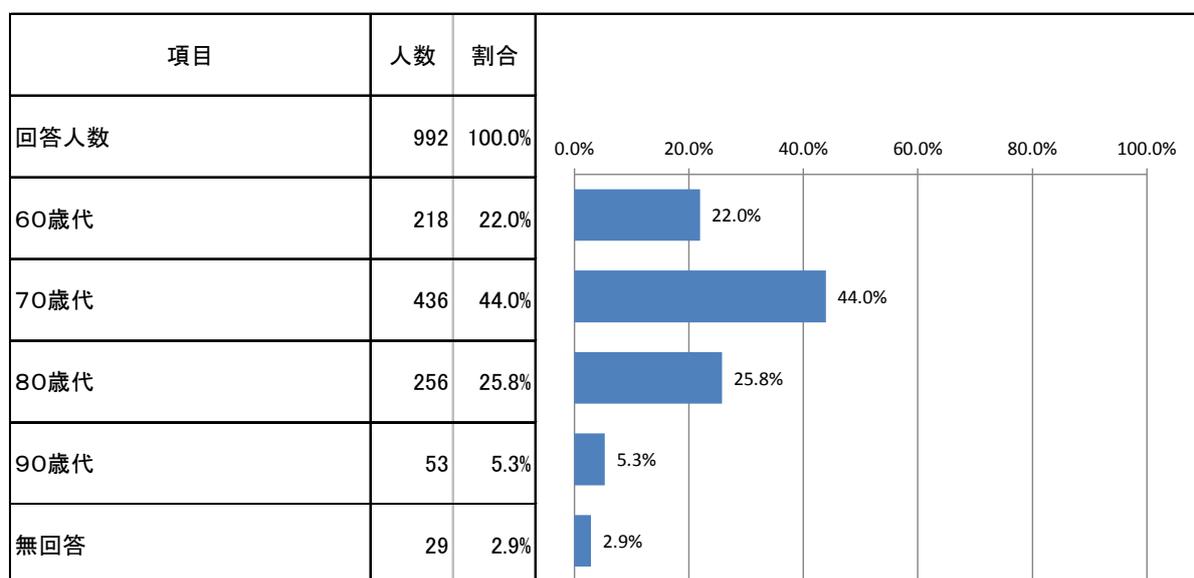
(1)① 対象（封書の宛名）の方の性別

性別については、「男」が52.2%、「女」が46.4%となっている。



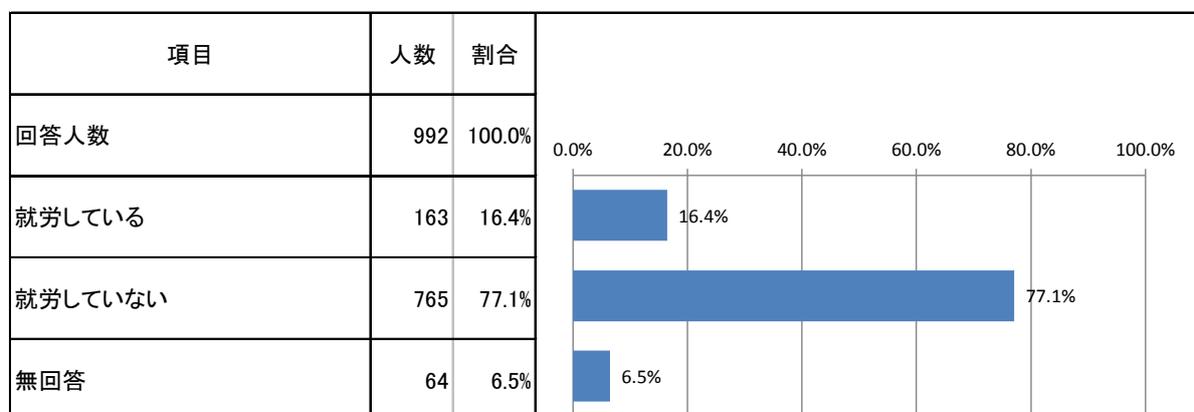
(1)② 対象（封書の宛名）の方の年齢

年齢については、「70歳代」が44.0%と最も多く、次いで「80歳代」が25.8%、「60歳代」が22.0%となっている。



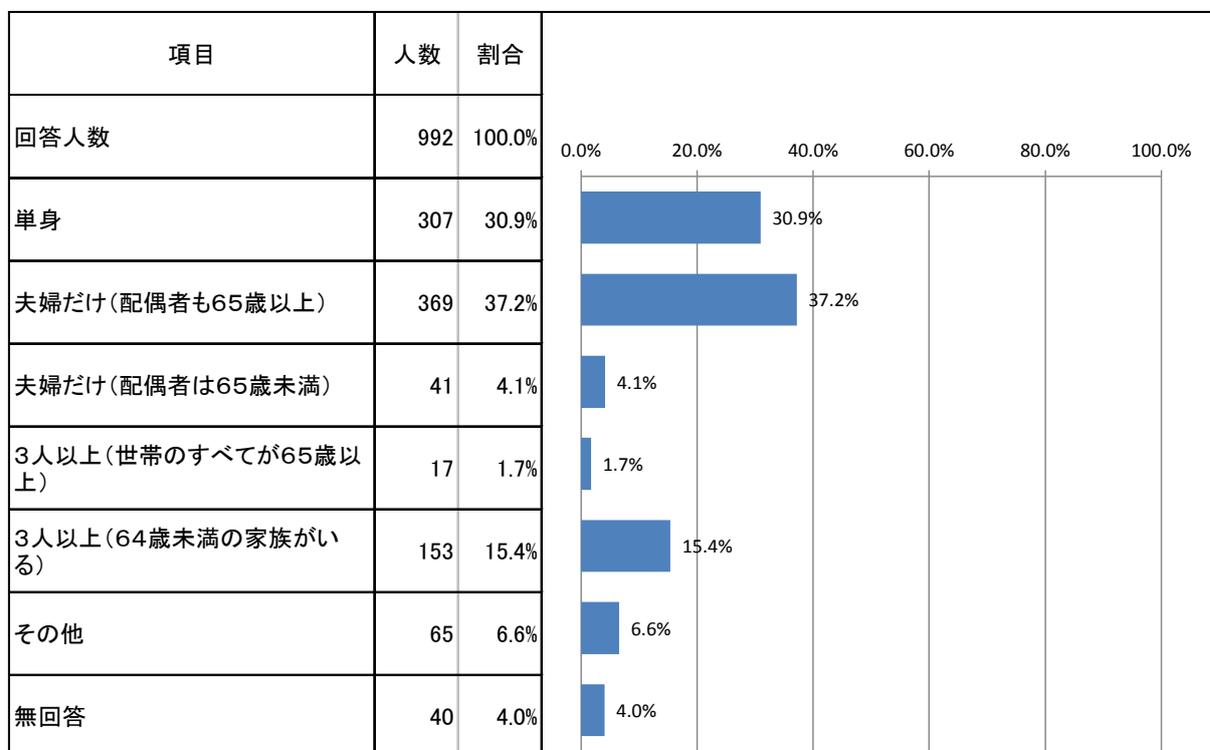
(2) 対象（封書の宛名）の方の就労状況

就労状況については、「就労している」が 16.4%、「就労していない」が 77.1%となっている。



(3) 世帯構成

世帯構成については、「夫婦だけ（配偶者も65歳以上）」が 37.2%と最も多く、次いで「単身」が 30.9%、「3人以上（64歳未満の家族がいる）」が 15.4%となっている。

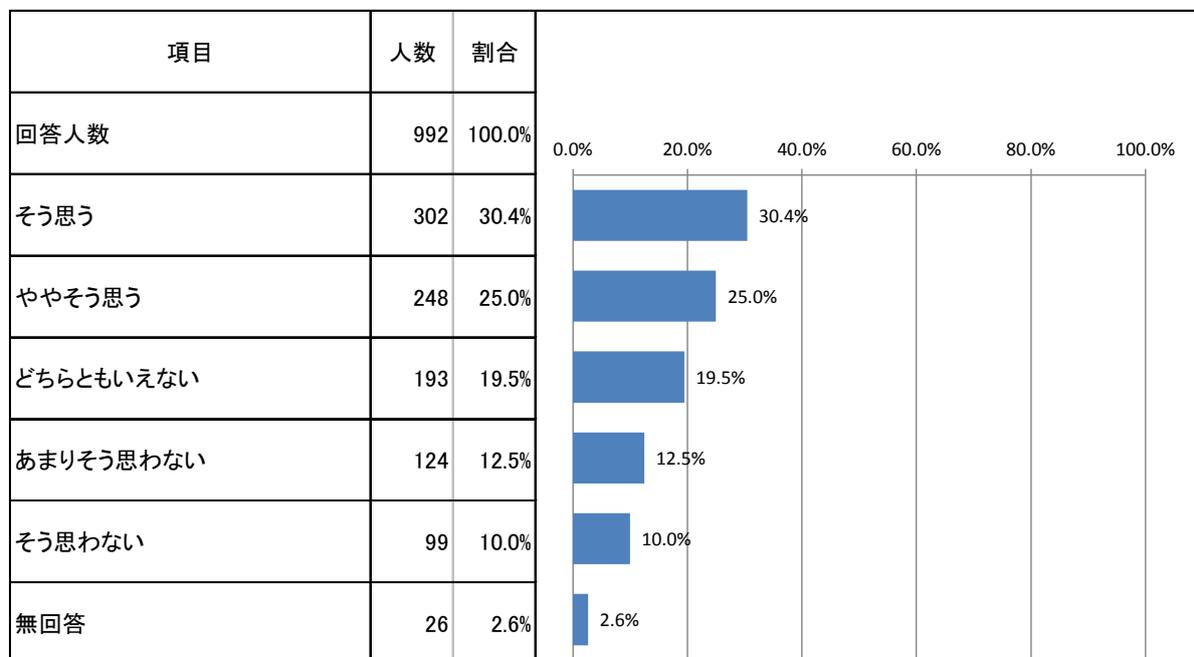


問2 あなたのお住まいについてお聞きします。(小学校区)

区分	人数	割合	区分	人数	割合
本名小学校	3	0.3%	花野小学校	7	0.7%
宮小学校	3	0.3%	西伊敷小学校	9	0.9%
牟礼岡小学校	3	0.3%	伊敷台小学校	4	0.4%
南方小学校	3	0.3%	玉江小学校	12	1.2%
花尾小学校	2	0.2%	小山田小学校	1	0.1%
郡山小学校	3	0.3%	犬迫小学校	2	0.2%
川上小学校	1	0.1%	皆与志小学校	1	0.1%
吉野小学校	283	28.5%	東桜島小学校	25	2.5%
吉野東小学校	3	0.3%	改新小学校	8	0.8%
大明丘小学校	1	0.1%	高免小学校	4	0.4%
坂元小学校	11	1.1%	黒神小学校	9	0.9%
坂元台小学校	11	1.1%	桜洲小学校	88	8.9%
清水小学校	4	0.4%	桜峰小学校	86	8.7%
大龍小学校	10	1.0%	松元小学校	3	0.3%
名山小学校	2	0.2%	春山小学校	3	0.3%
山下小学校	6	0.6%	石谷小学校	1	0.1%
松原小学校	5	0.5%	谷山小学校	12	1.2%
城南小学校	5	0.5%	西谷山小学校	6	0.6%
草牟田小学校	13	1.3%	東谷山小学校	13	1.3%
原良小学校	9	0.9%	清和小学校	8	0.8%
明和小学校	17	1.7%	和田小学校	6	0.6%
武岡小学校	7	0.7%	錦江台小学校	11	1.1%
武岡台小学校	1	0.1%	福平小学校	9	0.9%
西田小学校	10	1.0%	平川小学校	1	0.1%
武小学校	8	0.8%	中山小学校	7	0.7%
田上小学校	7	0.7%	桜丘西小学校	4	0.4%
西陵小学校	10	1.0%	桜丘東小学校	7	0.7%
広木小学校	10	1.0%	星峯西小学校	3	0.3%
中洲小学校	4	0.4%	星峯東小学校	3	0.3%
荒田小学校	4	0.4%	宮川小学校	3	0.3%
八幡小学校	7	0.7%	皇徳寺小学校	2	0.2%
中郡小学校	5	0.5%	瀬々串小学校	3	0.3%
紫原小学校	12	1.2%	中名小学校	4	0.4%
西紫原小学校	7	0.7%	喜入小学校	7	0.7%
鴨池小学校	9	0.9%	前之浜小学校	1	0.1%
南小学校	3	0.3%	分らない	59	5.9%
宇宿小学校	6	0.6%	無回答	48	4.8%
向陽小学校	1	0.1%	合 計	992	100.0%
伊敷小 学 校	3	0.3%			

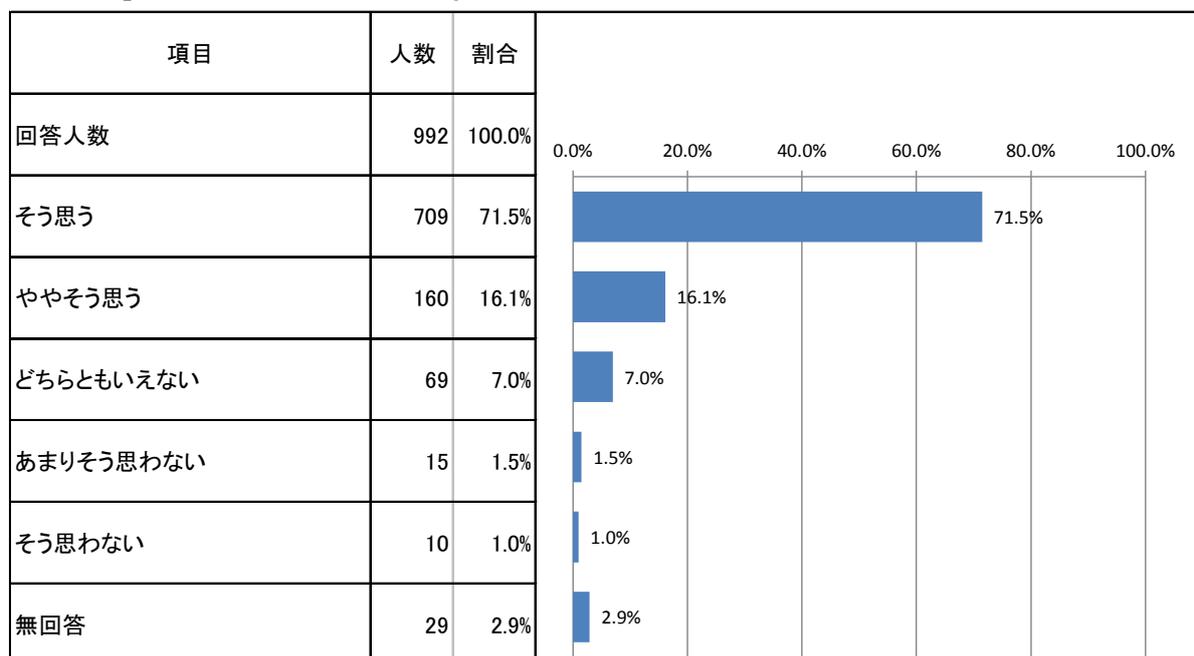
問3 あなたは、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組んでいると思いますか。(ひとつに○)

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組んでいると思うことについては、「そう思う」が30.4%と最も多く、次いで「ややそう思う」が25.0%、「どちらともいえない」が19.5%となっている。



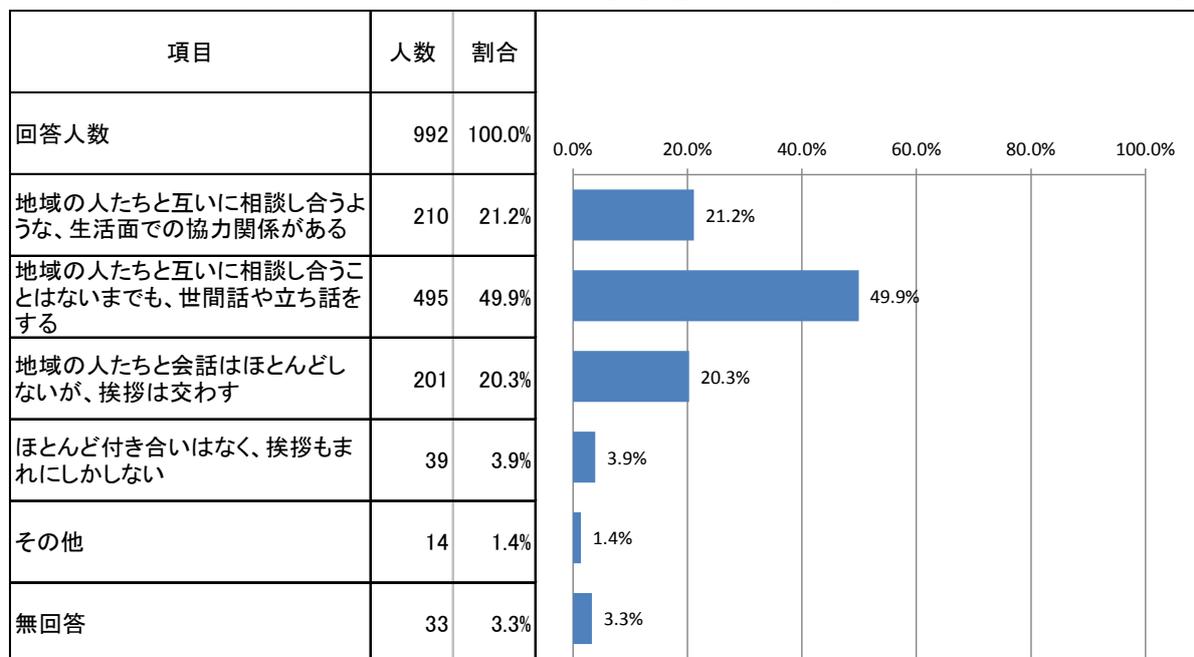
問4 あなたは、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組むことは重要だと思いますか。(ひとつに○)

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組むことは重要だと思うことについては、「そう思う」が71.5%と最も多く、次いで「ややそう思う」が16.1%、「どちらともいえない」が7.0%となっている。



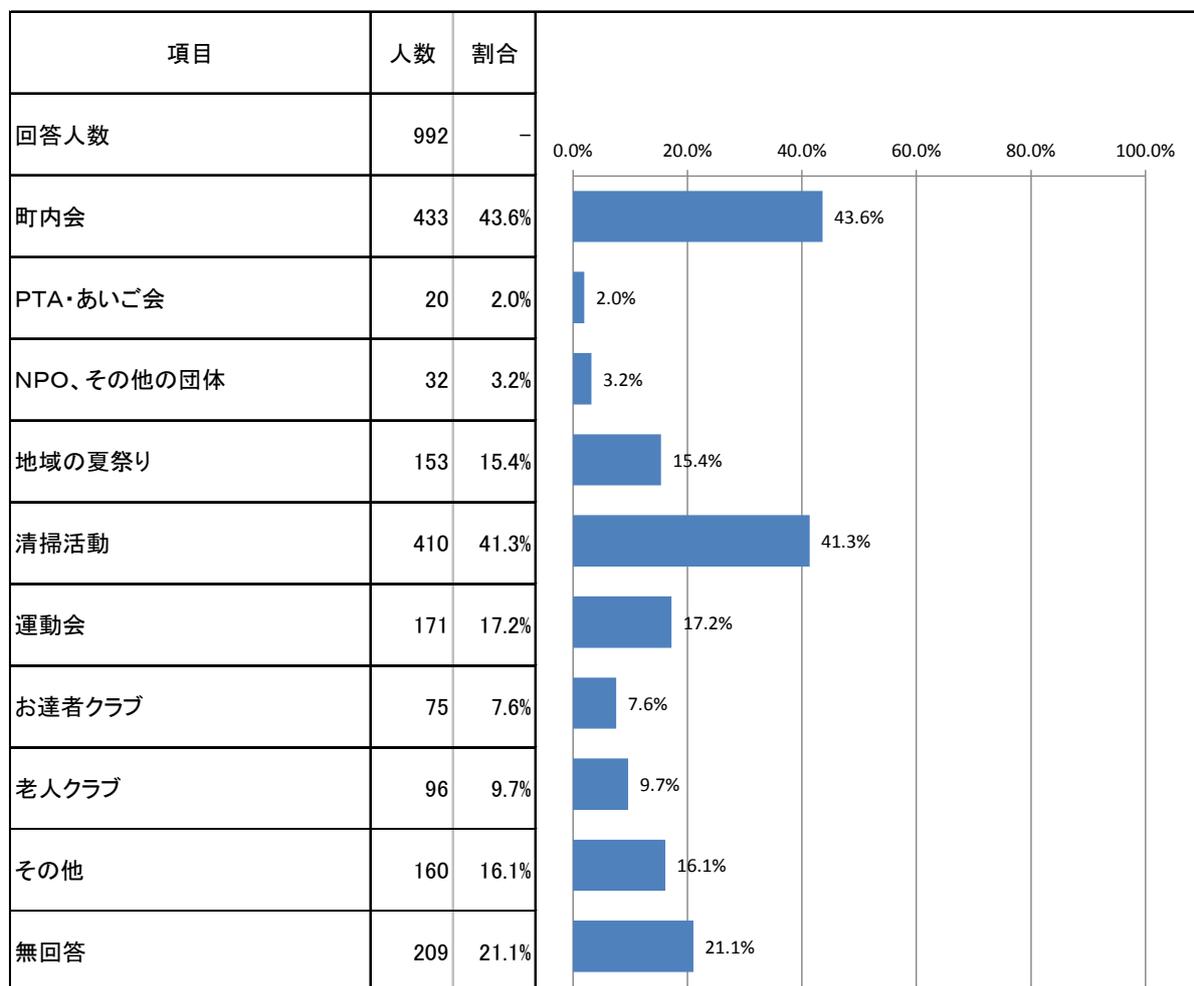
問5 あなたは、地域の人たちとコミュニケーションをとっていますか。
(ひとつに〇)

地域の人たちとのコミュニケーションについては、「地域の人たちと互いに相談し合うことはないまでも、世間話や立ち話をする」が 49.9%と最も多く、次いで「地域の人たちと互いに相談し合うような、生活面での協力関係がある」が 21.2%、「地域の人たちと会話はほとんどしないが、挨拶は交わす」が 20.3%となっている。



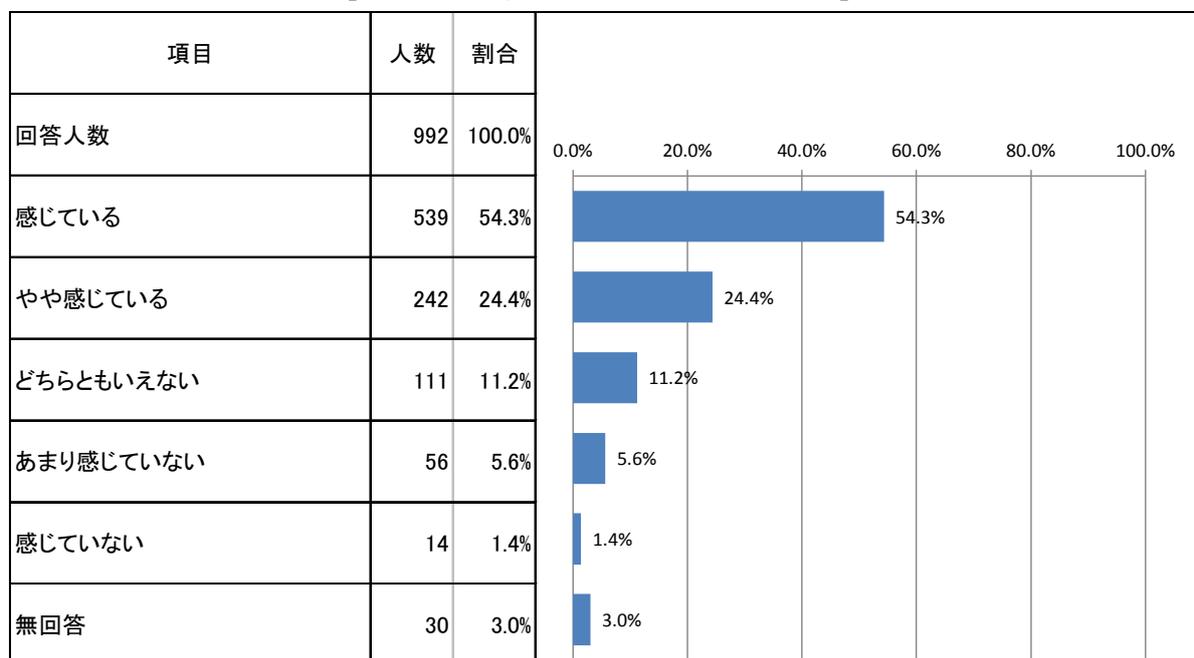
問6 あなたは、地域活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動への参加については、「町内会」が43.6%と最も多く、次いで「清掃活動」が41.3%、「運動会」が17.2%となっている。



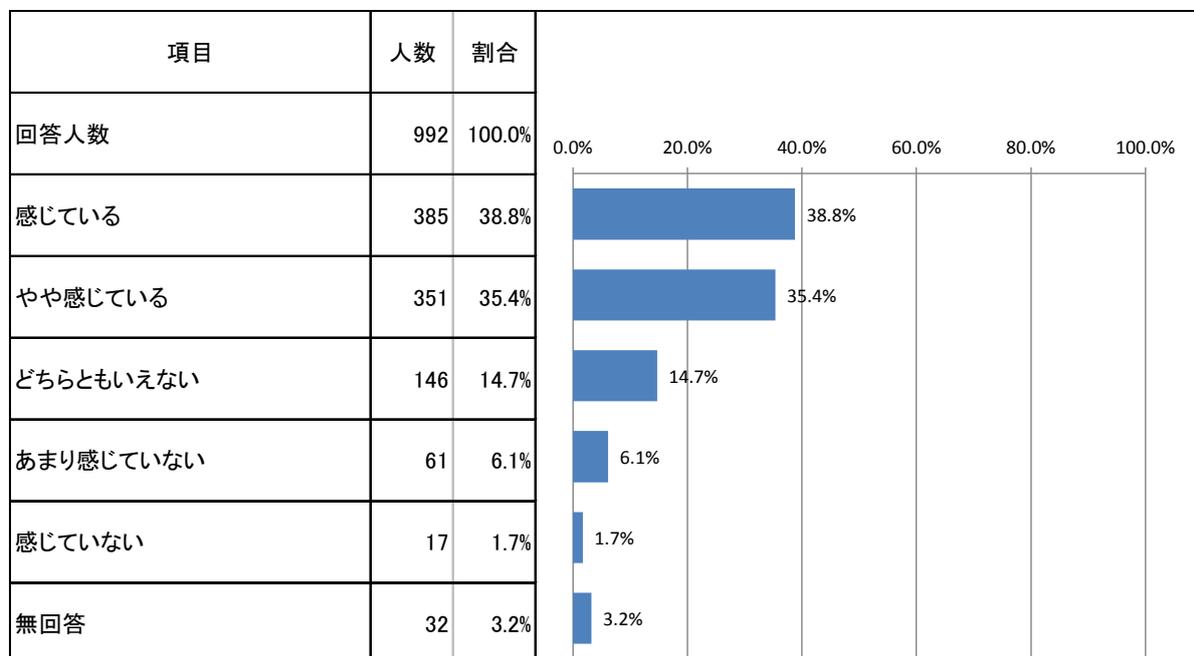
問7 あなたは、地域の暮らしに愛着を感じていますか。(ひとつに○)

地域の暮らしへの愛着度については、「感じている」が 54.3%と最も多く、次いで「やや感じている」が 24.4%、「どちらともいえない」が 11.2%となっている。



問8 あなたは、鹿児島市の暮らしに安心安全を感じていますか。(ひとつに○)

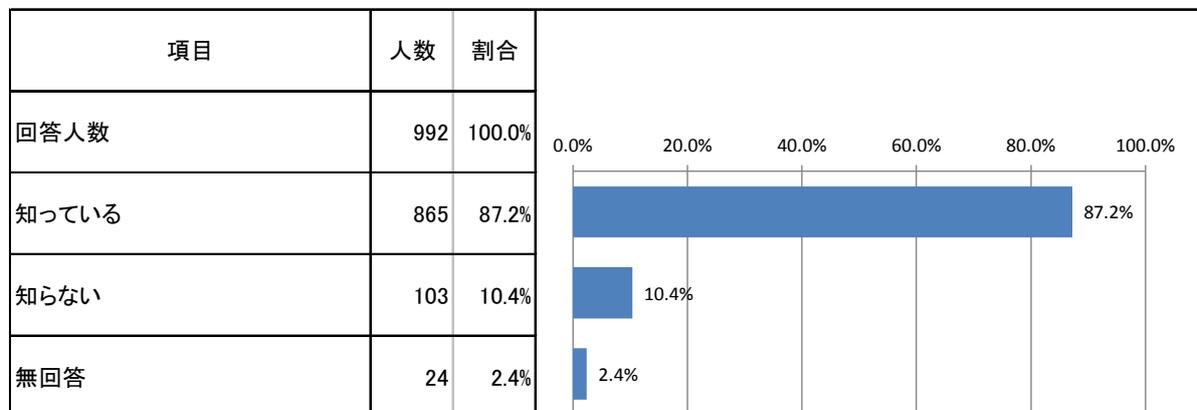
鹿児島市の暮らしに安心安全を感じているかについては、「感じている」が 38.8%と最も多く、次いで「やや感じている」が 35.4%、「どちらともいえない」が 14.7%となっている。



【高齢者】

問9 あなたは、ここ数年、鹿児島市内で発生した交通事故のうち、半数以上が高齢者であることを知っていますか。(ひとつに○)

ここ数年、鹿児島市内で発生した交通事故死亡者の半数以上が高齢者であることの認知度については、「知っている」が87.2%、「知らない」が10.4%となっている。



【属性別特徴】

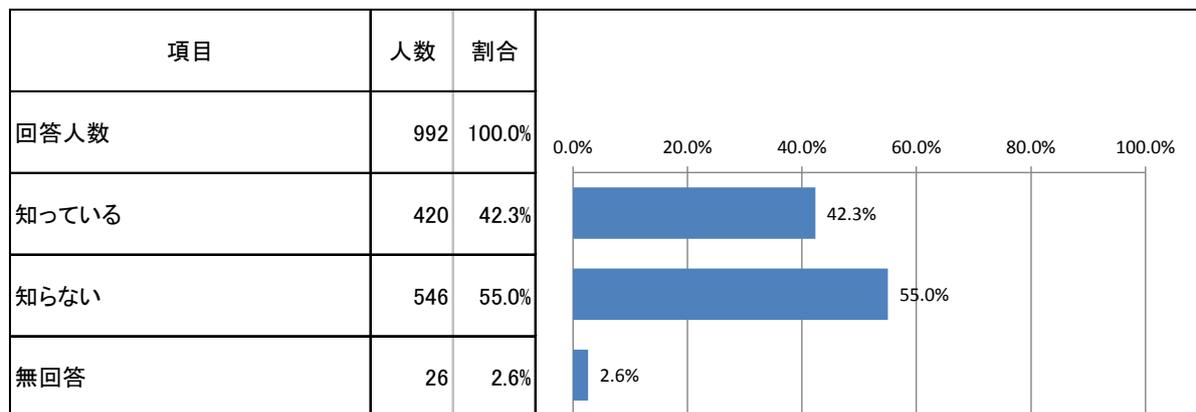
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っている	865	87.2%	456	88.0%	400	87.0%	9	64.3%	384	87.9%	461	87.6%	20	69.0%
知らない	103	10.4%	48	9.3%	54	11.7%	1	7.1%	43	9.8%	56	10.6%	4	13.8%
無回答	24	2.4%	14	2.7%	6	1.3%	4	28.6%	10	2.3%	9	1.7%	5	17.2%

【高齢者】

問 10 あなたは、平成24年中、鹿児島市内で発生した交通死亡事故のうち、夜間歩行中に事故にあった方の全員が夜光反射材を着用していなかったことを知っていますか。(ひとつに○)

平成24年中、鹿児島市内で発生した夜間歩行中の交通事故死亡者全員が夜光反射材を不着用であることの認知度については、「知っている」が42.3%、「知らない」が55.0%となっている。



【属性別特徴】

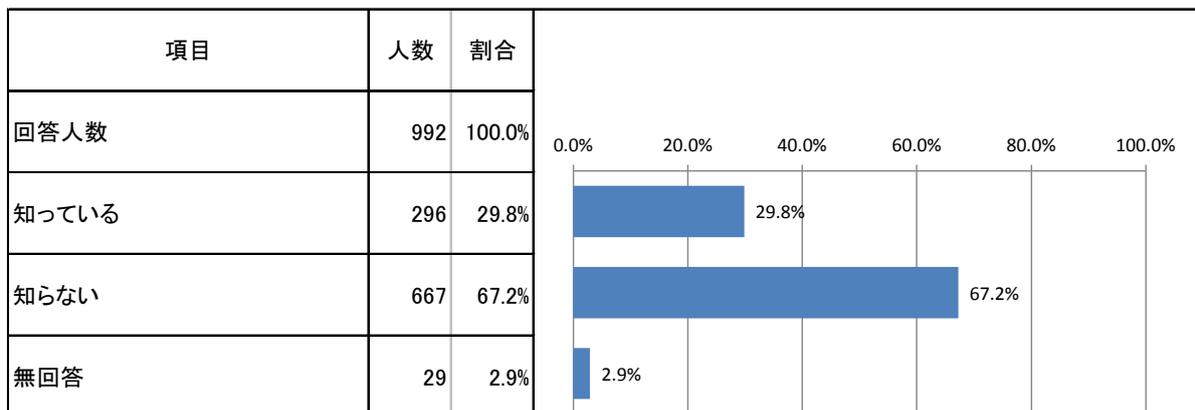
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っている	420	42.3%	229	44.2%	186	40.4%	5	35.7%	184	42.1%	227	43.2%	9	31.0%
知らない	546	55.0%	275	53.1%	266	57.8%	5	35.7%	242	55.4%	288	54.8%	16	55.2%
無回答	26	2.6%	14	2.7%	8	1.7%	4	28.6%	11	2.5%	11	2.1%	4	13.8%

【高齢者】

問 11 あなたは、平成24年中、鹿児島県内で発生した交通死亡事故のうち、歩行中に事故にあった方の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることを知っていますか。(ひとつに○)

平成24年中、鹿児島県内で発生した歩行中の交通死亡事故の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることの認知度については、「知っている」が29.8%、「知らない」が67.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

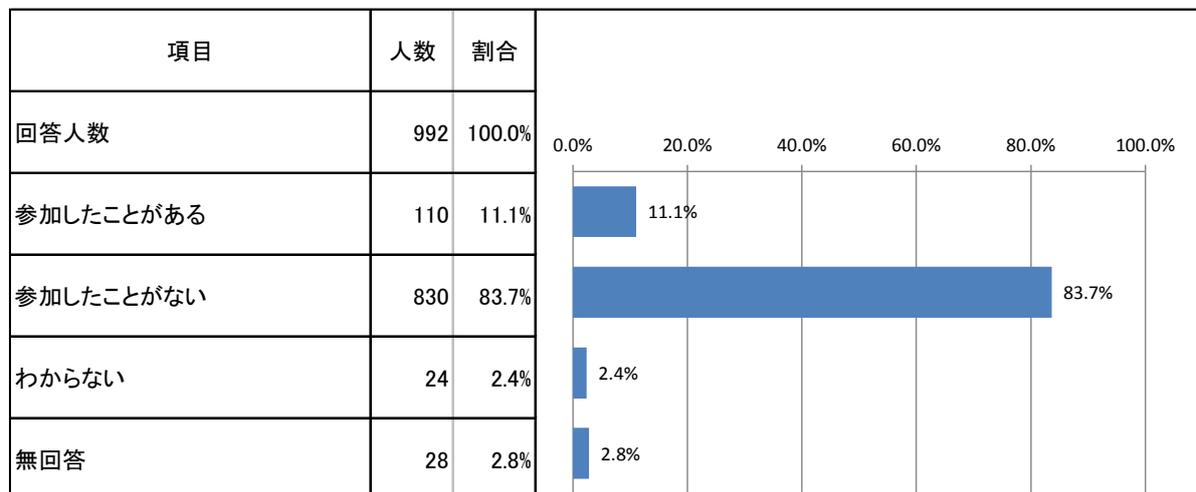
年齢別では、75歳以上の「知っている」が32.3%で、65歳～74歳の27.0%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っている	296	29.8%	159	30.7%	134	29.1%	3	21.4%	118	27.0%	170	32.3%	8	27.6%
知らない	667	67.2%	343	66.2%	317	68.9%	7	50.0%	307	70.3%	344	65.4%	16	55.2%
無回答	29	2.9%	16	3.1%	9	2.0%	4	28.6%	12	2.7%	12	2.3%	5	17.2%

【高齢者】

問 12 あなたは、この1年間（平成24年10月から平成25年9月まで）に歩行者対象の交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（ひとつに○）

1年間の歩行者対象の交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがない」が83.7%と最も多く、次いで「参加したことがある」が11.1%、「わからない」が2.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「参加したことがある」が14.1%で、女の7.6%に比べてやや高くなっている。

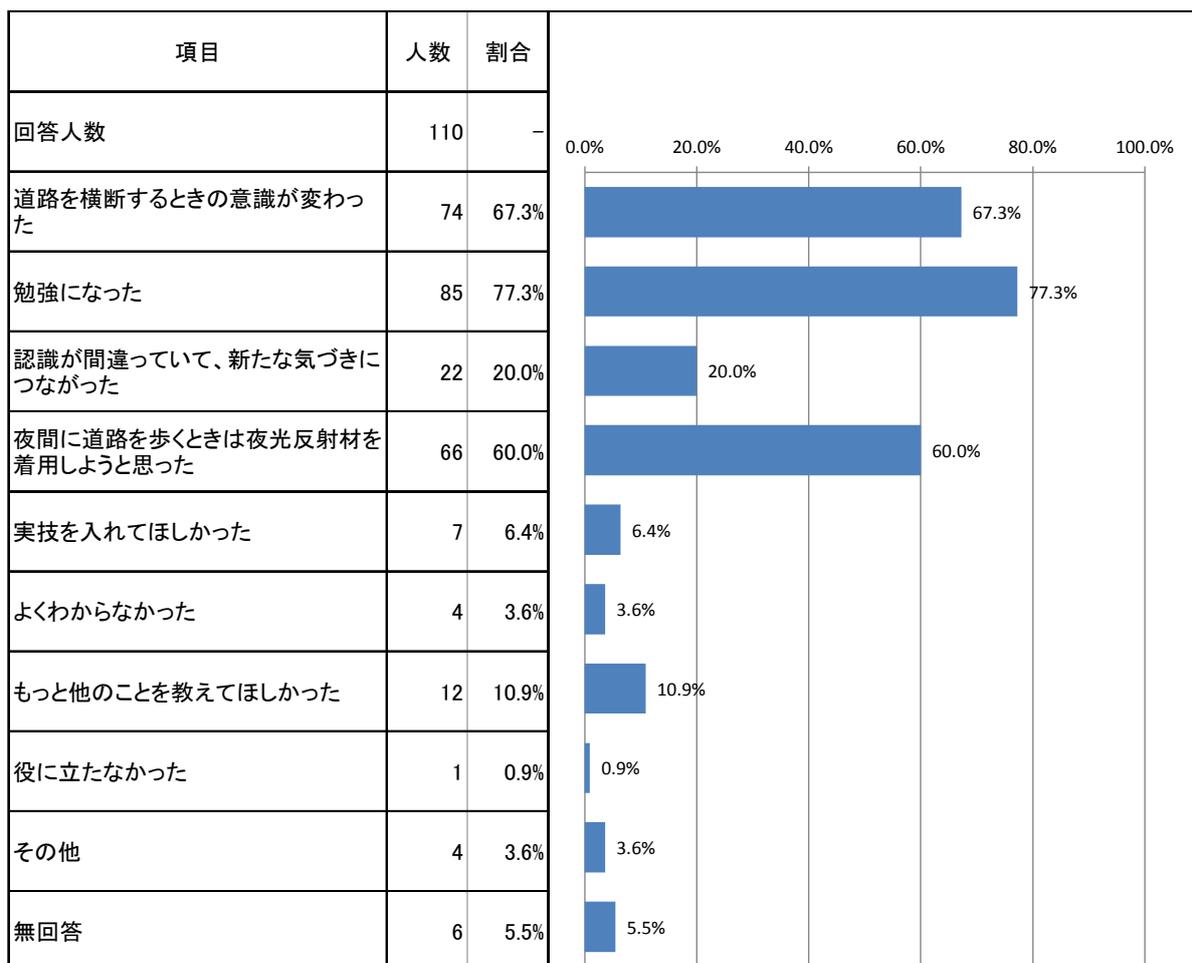
年齢別では、75歳以上の「参加したことがある」が14.4%で、65歳～74歳の7.3%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
参加したことがある	110	11.1%	73	14.1%	35	7.6%	2	14.3%	32	7.3%	76	14.4%	2	6.9%
参加したことがない	830	83.7%	425	82.0%	397	86.3%	8	57.1%	387	88.6%	421	80.0%	22	75.9%
わからない	24	2.4%	6	1.2%	18	3.9%	0	0.0%	7	1.6%	16	3.0%	1	3.4%
無回答	28	2.8%	14	2.7%	10	2.2%	4	28.6%	11	2.5%	13	2.5%	4	13.8%

※問 12 で『①参加したことがある』とご回答された方にお聞きします。

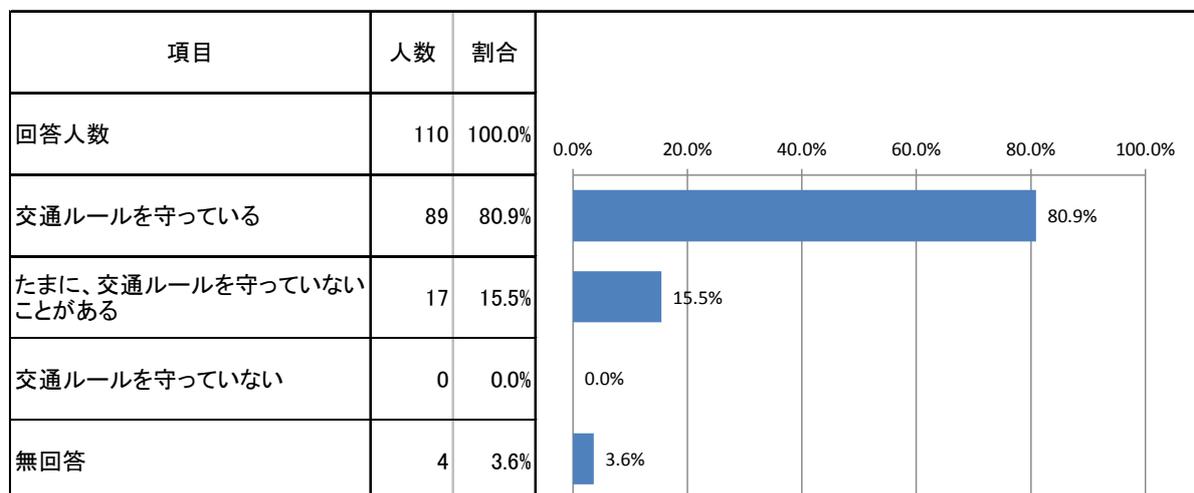
問 12-1 歩行者対象の交通安全教室（講習会などを含む）に参加したあなたの感想はどうでしたか。（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の感想については、「勉強になった」が 77.3%と最も多く、次いで「道路を横断するときの意識が変わった」が 67.3%、「夜間に道路を歩くときは夜光反射材を着用しようと思った」が 60.0%となっている。



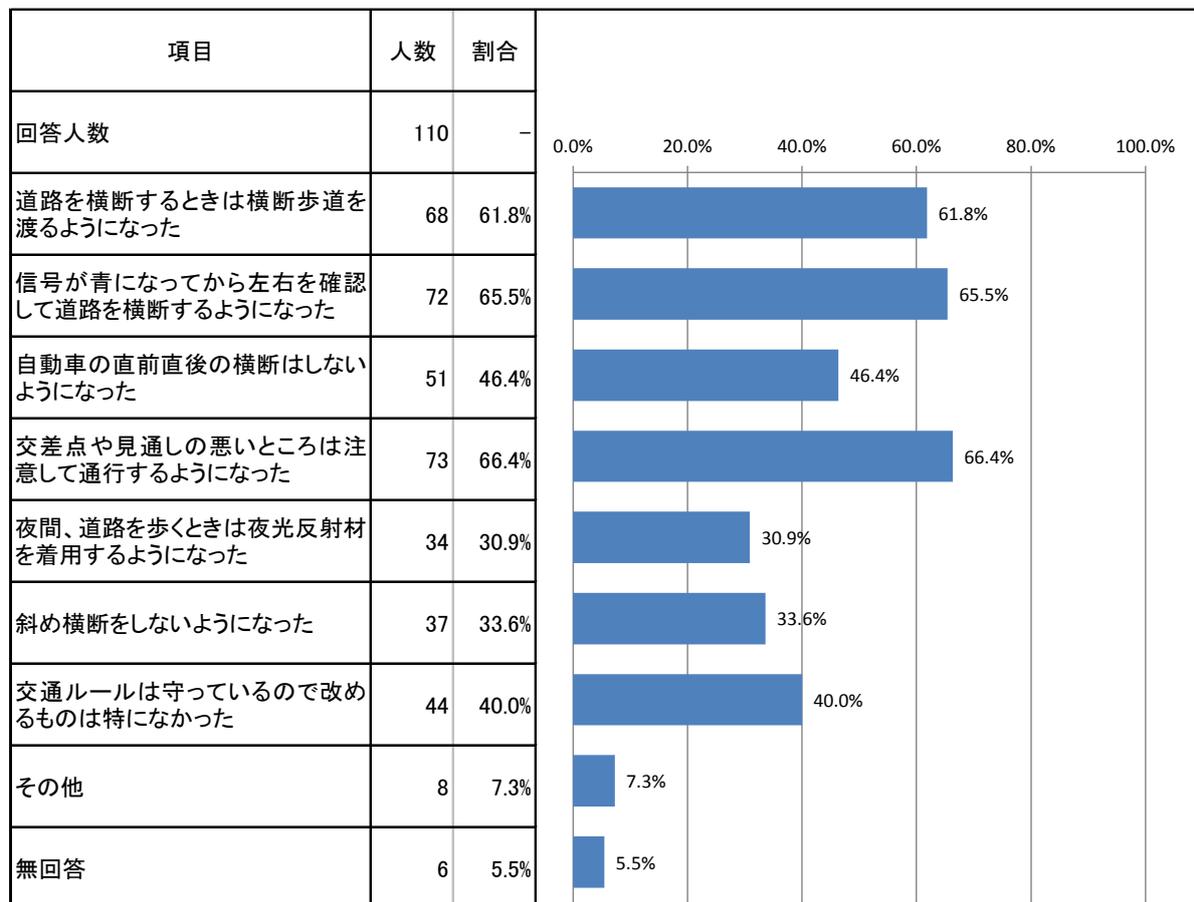
問 12-2 あなたは、歩行者対象の交通安全教室（講習会などを含む）で学んだことを意識して交通ルールを守っていますか（ひとつに○）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守については、「交通ルールを守っている」が 80.9%と最も多く、次いで「たまに交通ルールを守っていないことがある」が 15.5%となっている。



問 12-3 あなたは、歩行者対象の交通安全教室(講習会などを含む)に参加した後、行動の変化はありますか。(あてはまるものすべてに○)

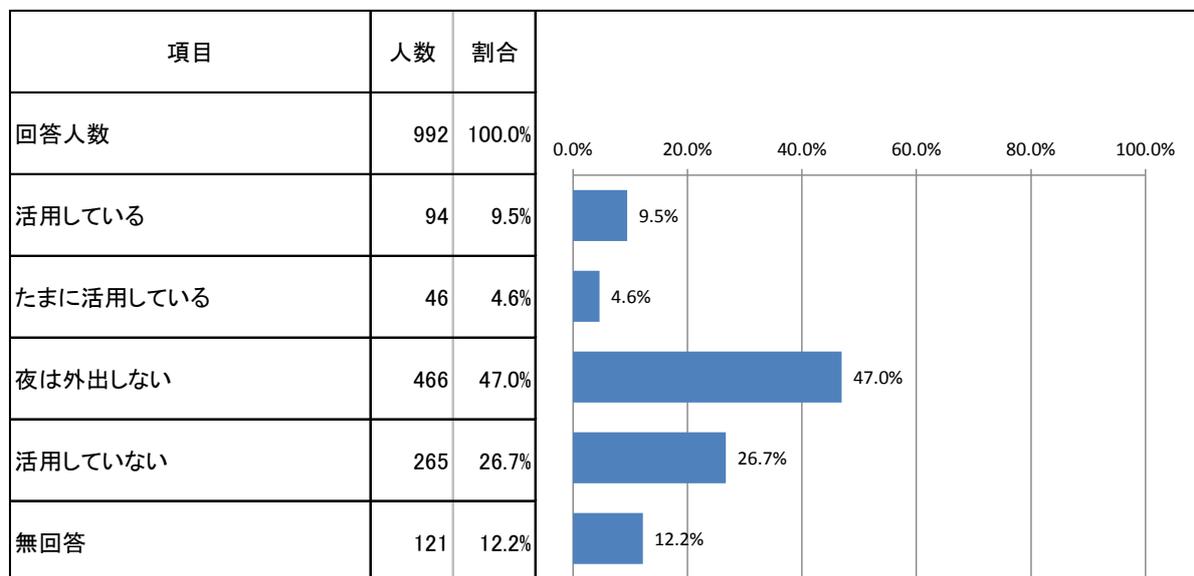
交通安全教室(講習会などを含む)に参加した後の行動の変化については、「交差点や見通しの悪いところは注意して通行するようになった」が66.4%と最も多く、次いで「信号が青になってから左右を確認して道路を横断するようになった」が65.5%、「道路を横断するときは横断歩道を渡るようになった」が61.8%となっている。



【高齢者】

問 13 あなたは、夜間や薄暗いときの散歩などに、夜光反射材がついたものを活用していますか。(ひとつに○)

夜間や薄暗いときの夜光反射材の活用状況については、「夜は外出しない」が 47.0%と最も多く、次いで「活用していない」が 26.7%、「活用している」が 9.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「活用していない」が 32.2%で、女の 20.9%に比べて高くなっている。

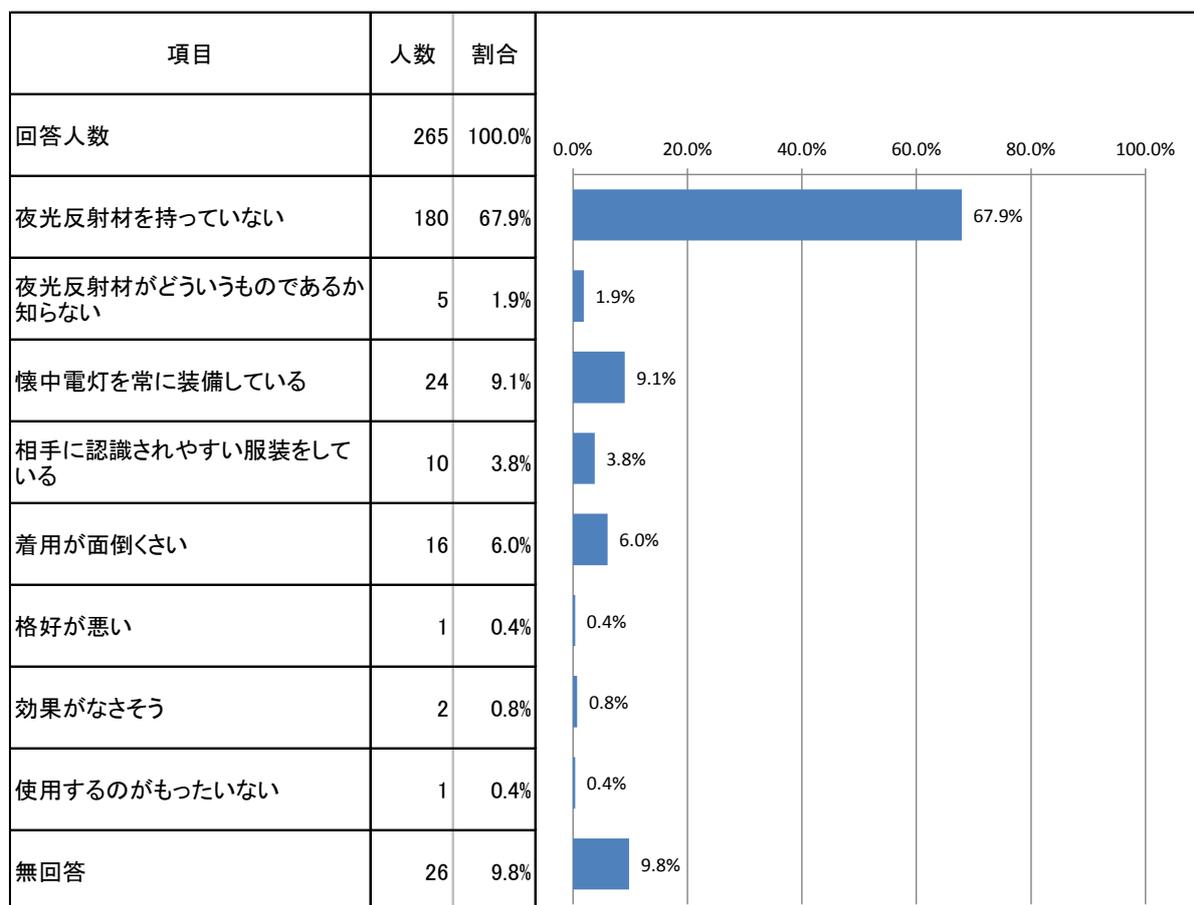
年齢別では、65歳～74歳の「活用していない」が 33.0%で、75歳以上の 21.7%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
活用している	94	9.5%	59	11.4%	35	7.6%	0	0.0%	42	9.6%	52	9.9%	0	0.0%
たまに活用している	46	4.6%	34	6.6%	12	2.6%	0	0.0%	32	7.3%	13	2.5%	1	3.4%
夜は外出しない	466	47.0%	209	40.3%	253	55.0%	4	28.6%	174	39.8%	282	53.6%	10	34.5%
活用していない	265	26.7%	167	32.2%	96	20.9%	2	14.3%	144	33.0%	114	21.7%	7	24.1%
無回答	121	12.2%	49	9.5%	64	13.9%	8	57.1%	45	10.3%	65	12.4%	11	37.9%

※問 13 で『④活用していない』とご回答された方にお聞きします。

問 13-1 夜光反射材を活用していない理由は何ですか。(ひとつに〇)

夜光反射材を活用していない理由については、「夜光反射材を持っていない」が 67.9%と最も多く、次いで「懐中電灯を常に装備している」が 9.1%、「着用が面倒くさい」が 6.0%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

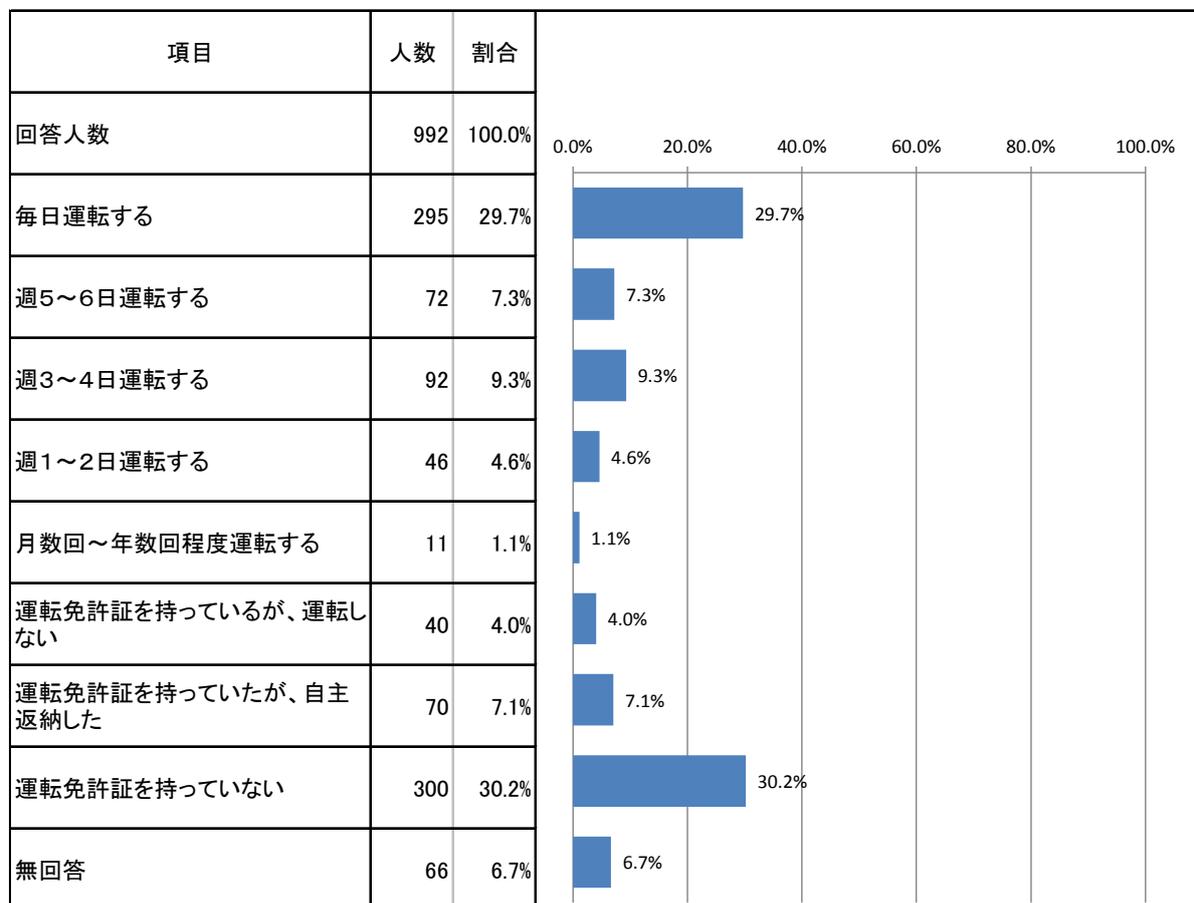
性別では、男の「夜光反射材を持っていない」が 70.7%で、女の 62.5%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、65歳～74歳の「夜光反射材を持っていない」が 73.6%で、75歳以上の 61.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	265	100.0%	167	100.0%	96	100.0%	2	100.0%	144	100.0%	114	100.0%	7	100.0%
夜光反射材を持っていない	180	67.9%	118	70.7%	60	62.5%	2	100.0%	106	73.6%	70	61.4%	4	57.1%
夜光反射材がどういうものであるか知らない	5	1.9%	2	1.2%	3	3.1%	0	0.0%	1	0.7%	4	3.5%	0	0.0%
懐中電灯を常に装備している	24	9.1%	17	10.2%	7	7.3%	0	0.0%	13	9.0%	11	9.6%	0	0.0%
相手に認識されやすい服装をしている	10	3.8%	8	4.8%	2	2.1%	0	0.0%	6	4.2%	4	3.5%	0	0.0%
着用が面倒くさい	16	6.0%	8	4.8%	8	8.3%	0	0.0%	7	4.9%	9	7.9%	0	0.0%
格好が悪い	1	0.4%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
効果がなさそう	2	0.8%	1	0.6%	1	1.0%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.9%	0	0.0%
使用するのをもったいない	1	0.4%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%
無回答	26	9.8%	12	7.2%	14	14.6%	0	0.0%	9	6.3%	15	13.2%	2	28.6%

問 14 あなたは、自動車を運転しますか。(近いものひとつに○)

自動車の運転頻度については、「運転免許証を持っていない」が 30.2%と最も多く、次いで「毎日運転する」が 29.7%、「週 3～4 日運転する」が 9.3%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男の「毎日運転する」が 43.2%で、女の 14.1%に比べて高くなっている。

年齢別では、65歳～74歳の「毎日運転する」が 42.6%で、75歳以上の 19.4%に比べて高くなっている。

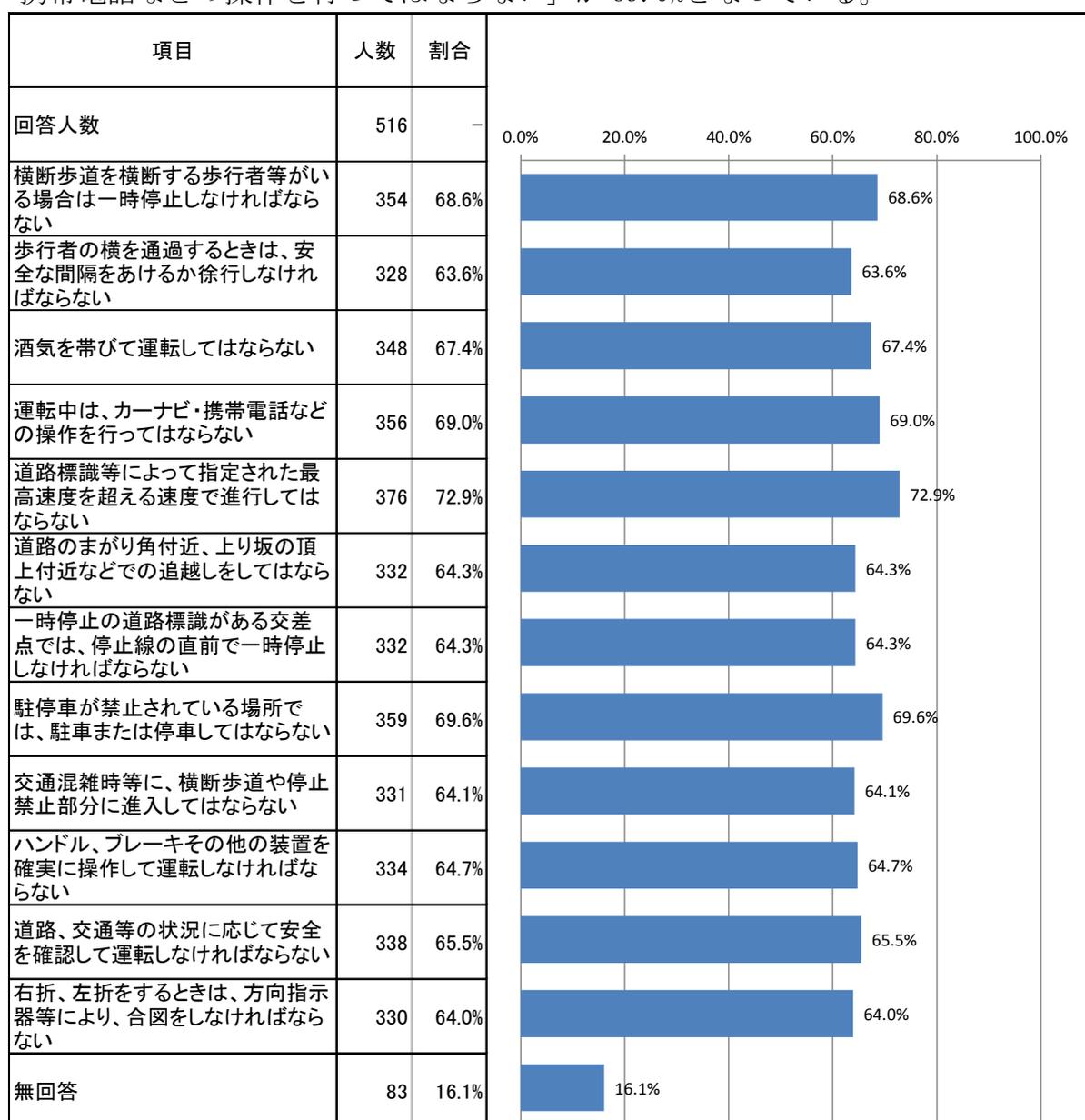
項目	回答人数		性別						年齢別						
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%	
毎日運転する	295	29.7%	224	43.2%	65	14.1%	6	42.9%	186	42.6%	102	19.4%	7	24.1%	
週5～6日運転する	72	7.3%	52	10.0%	20	4.3%	0	0.0%	44	10.1%	28	5.3%	0	0.0%	
週3～4日運転する	92	9.3%	70	13.5%	22	4.8%	0	0.0%	44	10.1%	46	8.7%	2	6.9%	
週1～2日運転する	46	4.6%	35	6.8%	9	2.0%	2	14.3%	24	5.5%	20	3.8%	2	6.9%	
月数回～年数回程度運転する	11	1.1%	5	1.0%	6	1.3%	0	0.0%	8	1.8%	3	0.6%	0	0.0%	
運転免許証を持っているが、運転しない	40	4.0%	21	4.1%	19	4.1%	0	0.0%	24	5.5%	15	2.9%	1	3.4%	
運転免許証を持っていたが、自主返納した	70	7.1%	37	7.1%	32	7.0%	1	7.1%	14	3.2%	56	10.6%	0	0.0%	
運転免許証を持っていない	300	30.2%	49	9.5%	250	54.3%	1	7.1%	78	17.8%	213	40.5%	9	31.0%	
無回答	66	6.7%	25	4.8%	37	8.0%	4	28.6%	15	3.4%	43	8.2%	8	27.6%	

※問 14 で『①毎日運転する』～『⑤月数回～年数回程度運転する』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問 14-1 あなたは、次の交通ルールを知っていますか。また、その交通ルールを守って運転していますか。(あてはまるものすべてに○)

(知っている)

交通ルールの認識については、「道路標識等によって指定された最高速度を超える速度で進行してはならない」が 72.9%と最も多く、次いで「駐停車が禁止されている場所では、駐車または停車してはならない」が 69.6%、「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはならない」が 69.0%となっている。



【高齢者】

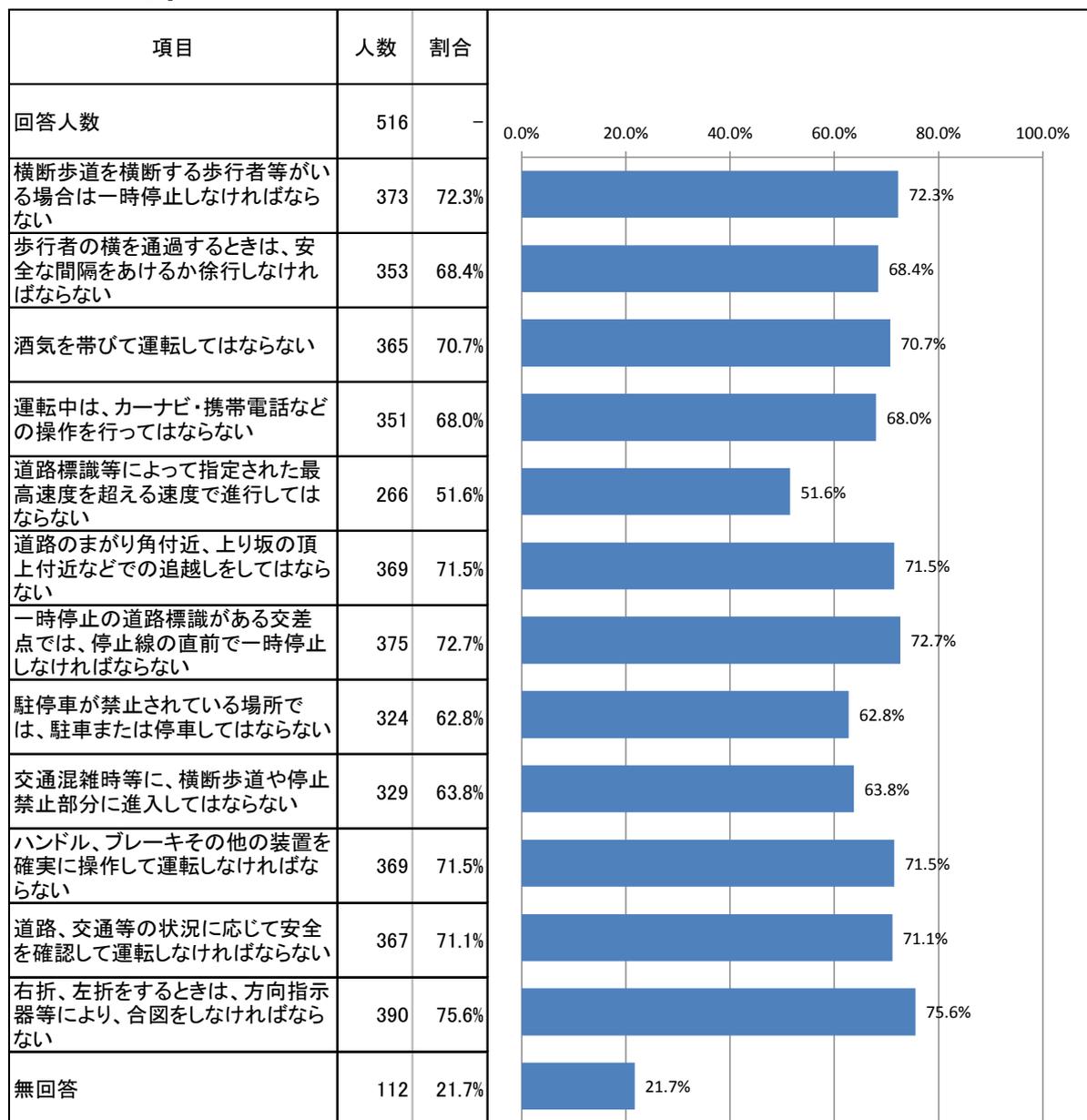
【属性別特徴】

性別では、すべての項目において男の割合が女の割合より高くなっている。
年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	516	-	386	-	122	-	8	-	306	-	199	-	11	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止しなければならない	354	68.6%	278	72.0%	73	59.8%	3	37.5%	211	69.0%	137	68.8%	6	54.5%
歩行者の横を通過するときは、安全な間隔をあげるか徐行しなければならない	328	63.6%	260	67.4%	66	54.1%	2	25.0%	197	64.4%	126	63.3%	5	45.5%
酒気を帯びて運転してはならない	348	67.4%	267	69.2%	77	63.1%	4	50.0%	207	67.6%	134	67.3%	7	63.6%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはならない	356	69.0%	281	72.8%	72	59.0%	3	37.5%	211	69.0%	138	69.3%	7	63.6%
道路標識等によって指定された最高速度を超える速度で進行してはならない	376	72.9%	294	76.2%	78	63.9%	4	50.0%	221	72.2%	147	73.9%	8	72.7%
道路のまがり角付近、上り坂の頂上付近などで追越しをしてはならない	332	64.3%	260	67.4%	69	56.6%	3	37.5%	195	63.7%	131	65.8%	6	54.5%
一時停止の道路標識がある交差点では、停止線の直前で一時停止しなければならない	332	64.3%	261	67.6%	68	55.7%	3	37.5%	195	63.7%	131	65.8%	6	54.5%
駐停車が禁止されている場所では、駐車または停車してはならない	359	69.6%	284	73.6%	72	59.0%	3	37.5%	214	69.9%	139	69.8%	6	54.5%
交通混雑時等に、横断歩道や停止禁止部分に進入してはならない	331	64.1%	259	67.1%	69	56.6%	3	37.5%	197	64.4%	127	63.8%	7	63.6%
ハンドル、ブレーキその他の装置を確実に操作して運転しなければならない	334	64.7%	263	68.1%	69	56.6%	2	25.0%	196	64.1%	132	66.3%	6	54.5%
道路、交通等の状況に応じて安全を確認して運転しなければならない	338	65.5%	268	69.4%	68	55.7%	2	25.0%	202	66.0%	130	65.3%	6	54.5%
右折、左折をするときは、方向指示器等により、合図をしなければならない	330	64.0%	259	67.1%	68	55.7%	3	37.5%	198	64.7%	126	63.3%	6	54.5%
無回答	83	16.1%	54	14.0%	25	20.5%	4	50.0%	43	14.1%	37	18.6%	3	27.3%

(守っている)

交通ルールの遵守については、「右折、左折をするときは、方向指示器等により、合図をしなければならない」が 75.6%と最も多く、次いで「一時停止の道路標識がある交差点では、停止線の直前で一時停止しなければならない」が 72.7%、「横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止しなければならない」が 72.3%となっている。



【属性別特徴】

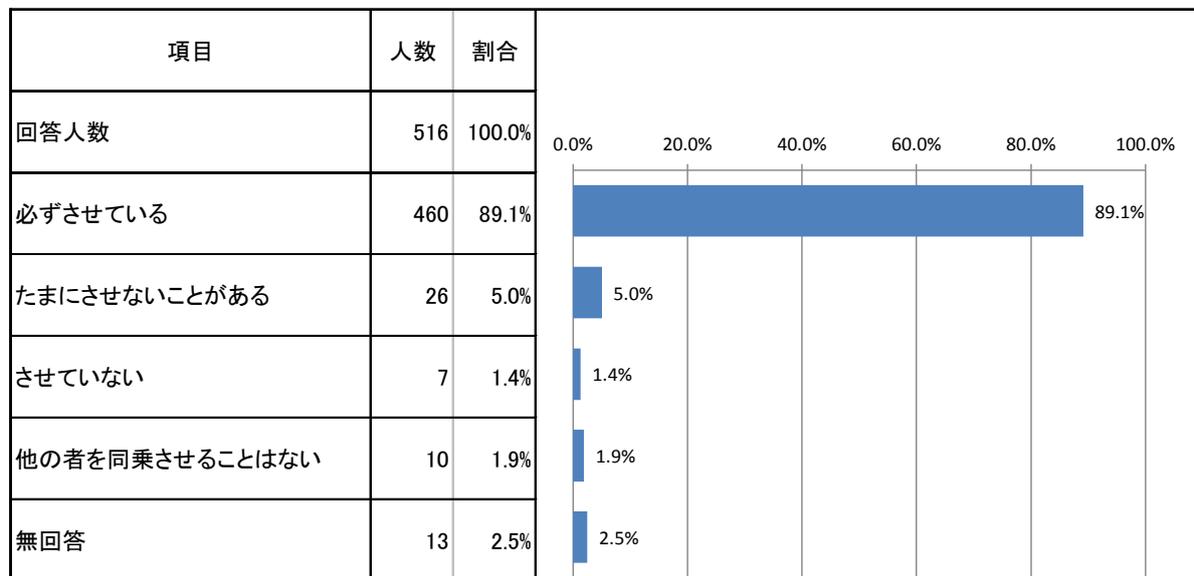
性別では、ほとんどの項目において女の割合が男の割合より高くなっている。
年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	516	-	386	-	122	-	8	-	306	-	199	-	11	-
横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止しなければならない	373	72.3%	272	70.5%	96	78.7%	5	62.5%	219	71.6%	145	72.9%	9	81.8%
歩行者の横を通過するときは、安全な間隔をあげるか徐行しなければならない	353	68.4%	258	66.8%	90	73.8%	5	62.5%	205	67.0%	139	69.8%	9	81.8%
酒気を帯びて運転してはならない	365	70.7%	275	71.2%	86	70.5%	4	50.0%	215	70.3%	142	71.4%	8	72.7%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはならない	351	68.0%	255	66.1%	91	74.6%	5	62.5%	210	68.6%	133	66.8%	8	72.7%
道路標識等によって指定された最高速度を超える速度で進行してはならない	266	51.6%	197	51.0%	65	53.3%	4	50.0%	152	49.7%	108	54.3%	6	54.5%
道路のまがり角付近、上り坂の頂上付近などで追越しをしてはならない	369	71.5%	274	71.0%	90	73.8%	5	62.5%	218	71.2%	142	71.4%	9	81.8%
一時停止の道路標識がある交差点では、停止線の直前で一時停止しなければならない	375	72.7%	277	71.8%	93	76.2%	5	62.5%	222	72.5%	144	72.4%	9	81.8%
駐停車が禁止されている場所では、駐車または停車してはならない	324	62.8%	234	60.6%	85	69.7%	5	62.5%	186	60.8%	129	64.8%	9	81.8%
交通混雑時等に、横断歩道や停止禁止部分に進入してはならない	329	63.8%	242	62.7%	82	67.2%	5	62.5%	194	63.4%	127	63.8%	8	72.7%
ハンドル、ブレーキその他の装置を確実に操作して運転しなければならない	369	71.5%	271	70.2%	93	76.2%	5	62.5%	221	72.2%	140	70.4%	8	72.7%
道路、交通等の状況に応じて安全を確認して運転しなければならない	367	71.1%	269	69.7%	93	76.2%	5	62.5%	218	71.2%	141	70.9%	8	72.7%
右折、左折をするときは、方向指示器等により、合図をしなければならない	390	75.6%	287	74.4%	98	80.3%	5	62.5%	231	75.5%	150	75.4%	9	81.8%
無回答	112	21.7%	88	22.8%	21	17.2%	3	37.5%	66	21.6%	44	22.1%	2	18.2%

【高齢者】

問 14-2 あなたは、自動車を運転するとき同乗者にシートベルトを着用させていますか。(ひとつに○)

同乗者のシートベルトの着用状況については、「必ずさせている」が 89.1%と最も多く、次いで「たまにさせないことがある」が 5.0%、「他の者を同乗させることはない」が 1.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

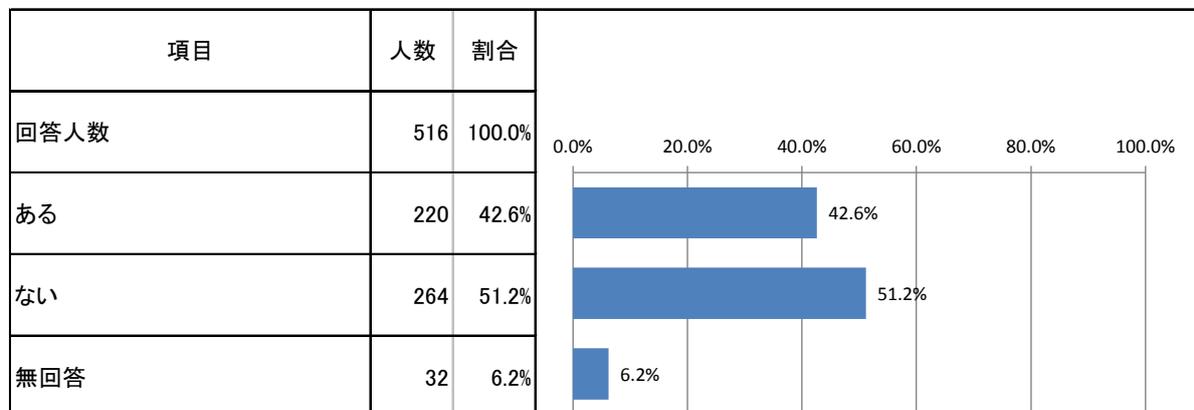
年齢別では、65歳～74歳の「必ずさせている」が 91.5%で、75歳以上の 86.4%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	516	100.0%	386	100.0%	122	100.0%	8	100.0%	306	100.0%	199	100.0%	11	100.0%
必ずさせている	460	89.1%	341	88.3%	112	91.8%	7	87.5%	280	91.5%	172	86.4%	8	72.7%
たまにさせないことがある	26	5.0%	23	6.0%	3	2.5%	0	0.0%	10	3.3%	14	7.0%	2	18.2%
させていない	7	1.4%	5	1.3%	2	1.6%	0	0.0%	3	1.0%	4	2.0%	0	0.0%
他の者を同乗させることはない	10	1.9%	10	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.0%	4	2.0%	0	0.0%
無回答	13	2.5%	7	1.8%	5	4.1%	1	12.5%	7	2.3%	5	2.5%	1	9.1%

【高齢者】

問 14-3 あなたは、体の衰え（視力、反応など）が運転に影響してきたと感じたことがありますか。（ひとつに○）

体の衰えによる運転への影響については、「ある」が 42.6%、「ない」が 51.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「ある」が 45.3%で、女の 36.1%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「ある」が 51.3%で、65歳～74歳の 37.6%に比べて高くなっている。

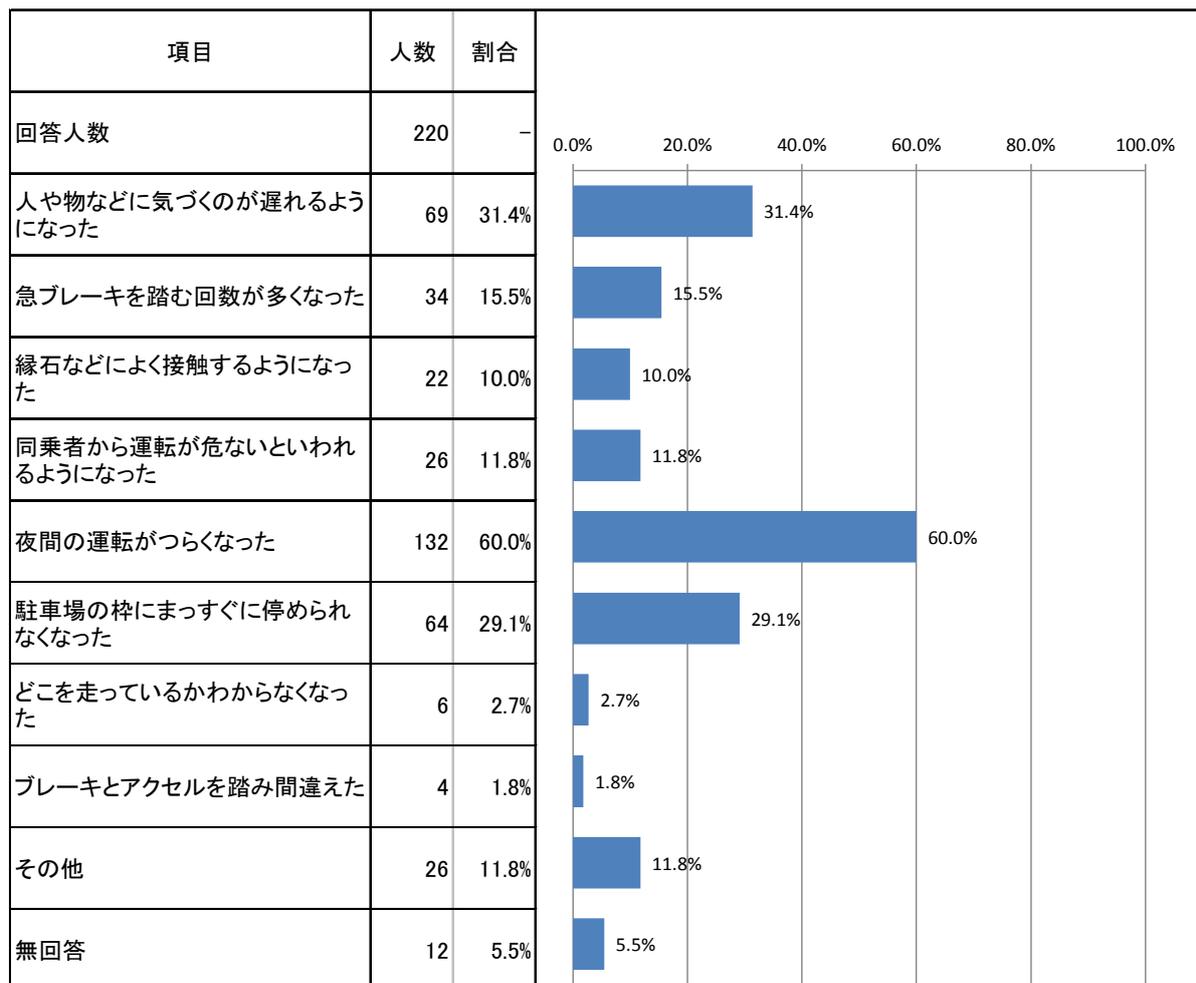
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	516	100.0%	386	100.0%	122	100.0%	8	100.0%	306	100.0%	199	100.0%	11	100.0%
ある	220	42.6%	175	45.3%	44	36.1%	1	12.5%	115	37.6%	102	51.3%	3	27.3%
ない	264	51.2%	192	49.7%	69	56.6%	3	37.5%	176	57.5%	82	41.2%	6	54.5%
無回答	32	6.2%	19	4.9%	9	7.4%	4	50.0%	15	4.9%	15	7.5%	2	18.2%

※問 14-3 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 14-4 どんなときに感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

体の衰えによる運転への影響については、「夜間の運転がづらくなった」が 60.0%と最も多く、次いで「人や物などに気づくのが遅れるようになった」が 31.4%、「駐車場の枠にまっすぐに止められなくなった」が 29.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては「雨天の日の運転がづらくなった」、「長距離運転を敬遠するようになった」等が挙げられた。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男の「人や物などに気づくのが遅れるようになった」が 36.6%で、女の 11.4%に比べて高くなっている。

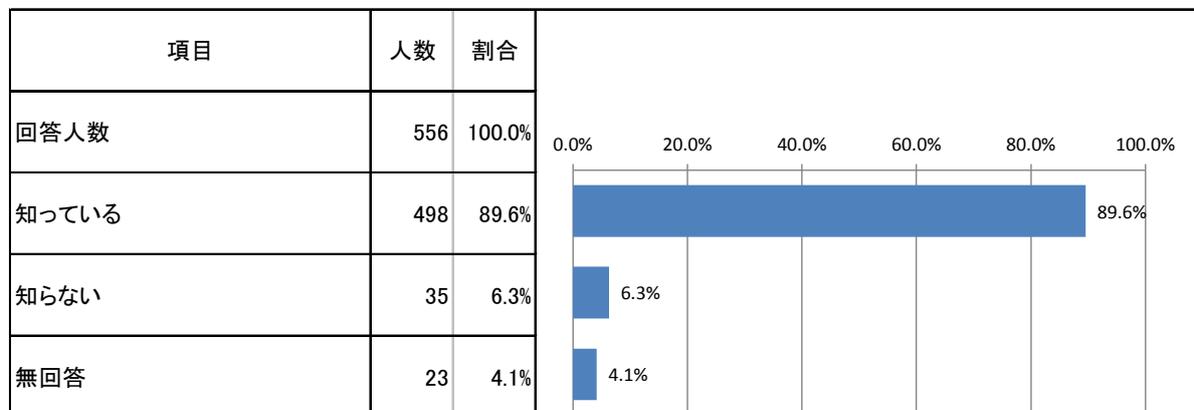
年齢別では、75歳以上の「夜間の運転がづらくなった」が 64.7%で、65歳～74歳の 55.7%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	220	-	175	-	44	-	1	-	115	-	102	-	3	-
人や物などに気づくのが遅れるようになった	69	31.4%	64	36.6%	5	11.4%	0	0.0%	35	30.4%	34	33.3%	0	0.0%
急ブレーキを踏む回数が多くなった	34	15.5%	27	15.4%	7	15.9%	0	0.0%	15	13.0%	19	18.6%	0	0.0%
縁石などによく接触するようになった	22	10.0%	18	10.3%	4	9.1%	0	0.0%	14	12.2%	8	7.8%	0	0.0%
同乗者から運転が危ないといわれるようになった	26	11.8%	20	11.4%	6	13.6%	0	0.0%	19	16.5%	7	6.9%	0	0.0%
夜間の運転がづらくなった	132	60.0%	100	57.1%	32	72.7%	0	0.0%	64	55.7%	66	64.7%	2	66.7%
駐車場の枠にまっすぐに止められなくなった	64	29.1%	52	29.7%	12	27.3%	0	0.0%	33	28.7%	31	30.4%	0	0.0%
どこを走っているかわからなくなった	6	2.7%	4	2.3%	2	4.5%	0	0.0%	2	1.7%	4	3.9%	0	0.0%
ブレーキとアクセルを踏み間違えた	4	1.8%	3	1.7%	1	2.3%	0	0.0%	2	1.7%	2	2.0%	0	0.0%
その他	26	11.8%	18	10.3%	7	15.9%	1	100.0%	15	13.0%	10	9.8%	1	33.3%
無回答	12	5.5%	10	5.7%	2	4.5%	0	0.0%	7	6.1%	5	4.9%	0	0.0%

【高齢者】

問 15 あなたは、「高齢者運転免許自主返納支援制度」を知っていますか。
(ひとつに○)

「高齢者運転免許自主返納支援制度」の認知度については、「知っている」が89.6%、「知らない」が6.3%となっている。



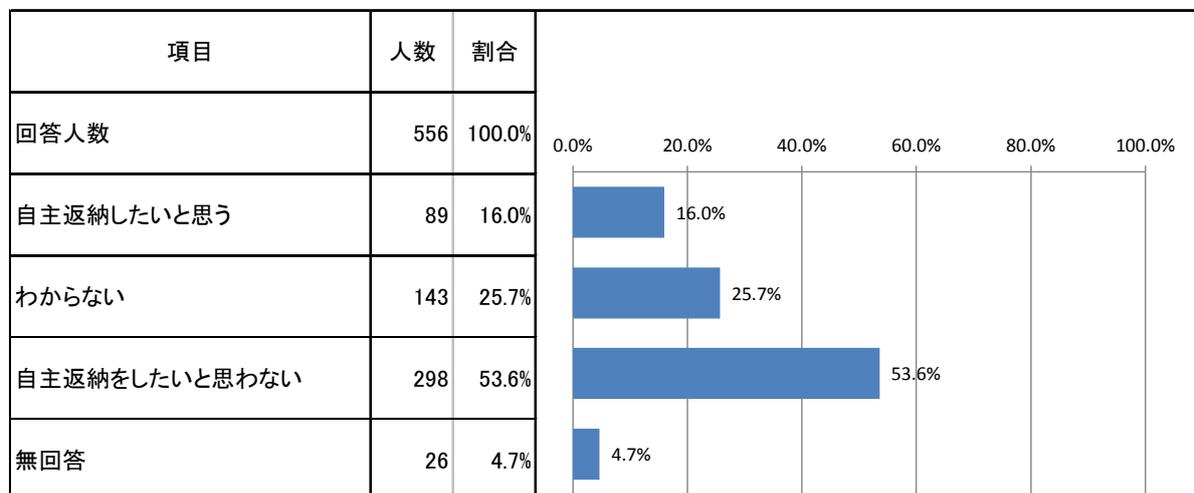
【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	556	100.0%	407	100.0%	141	100.0%	8	100.0%	330	100.0%	214	100.0%	12	100.0%
知っている	498	89.6%	365	89.7%	127	90.1%	6	75.0%	300	90.9%	188	87.9%	10	83.3%
知らない	35	6.3%	26	6.4%	8	5.7%	1	12.5%	20	6.1%	14	6.5%	1	8.3%
無回答	23	4.1%	16	3.9%	6	4.3%	1	12.5%	10	3.0%	12	5.6%	1	8.3%

問 16 あなたは、運転免許の自主返納をしたいと思いますか。(ひとつに○)

運転免許の自主返納については、「自主返納をしたいと思わない」が 53.6%と最も多く、次いで「わからない」が 25.7%、「自主返納したいと思う」が 16.0%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「自主返納をしたいと思わない」が 60.0%で、女の 36.9%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「自主返納したいと思う」が 21.0%で、65歳～74歳の 12.7%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	556	100.0%	407	100.0%	141	100.0%	8	100.0%	330	100.0%	214	100.0%	12	100.0%
自主返納したいと思う	89	16.0%	52	12.8%	35	24.8%	2	25.0%	42	12.7%	45	21.0%	2	16.7%
わからない	143	25.7%	96	23.6%	45	31.9%	2	25.0%	104	31.5%	35	16.4%	4	33.3%
自主返納をしたいと思わない	298	53.6%	244	60.0%	52	36.9%	2	25.0%	173	52.4%	120	56.1%	5	41.7%
無回答	26	4.7%	15	3.7%	9	6.4%	2	25.0%	11	3.3%	14	6.5%	1	8.3%

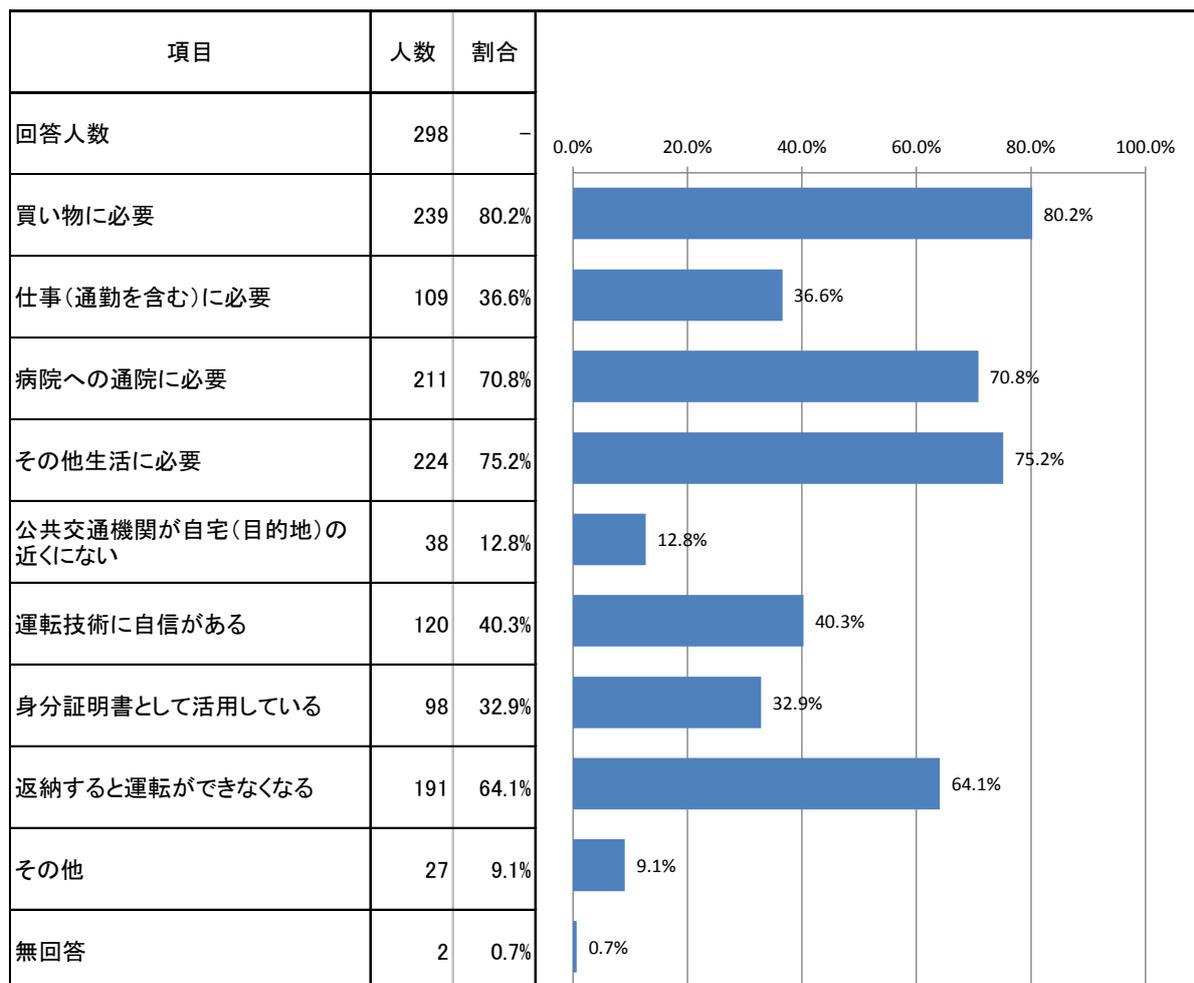
※問 16 で『③自主返納をしたいと思わない』とご回答された方にお聞きします。

問 16-1 運転免許の自主返納をしたいと思わない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

運転免許を自主返納しない理由については、「買い物に必要」が 80.2%と最も多く、次いで「その他生活に必要」が 75.2%、「病院への通院に必要」が 70.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては「急用の時に困る」、「返納した場合の代替交通の費用負担」等が挙げられた。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男の「病院への通院に必要」が 73.4%で、女の 57.7%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「病院への通院に必要」が 82.5%で、65歳～74歳の 63.0%に比べて高くなっている。

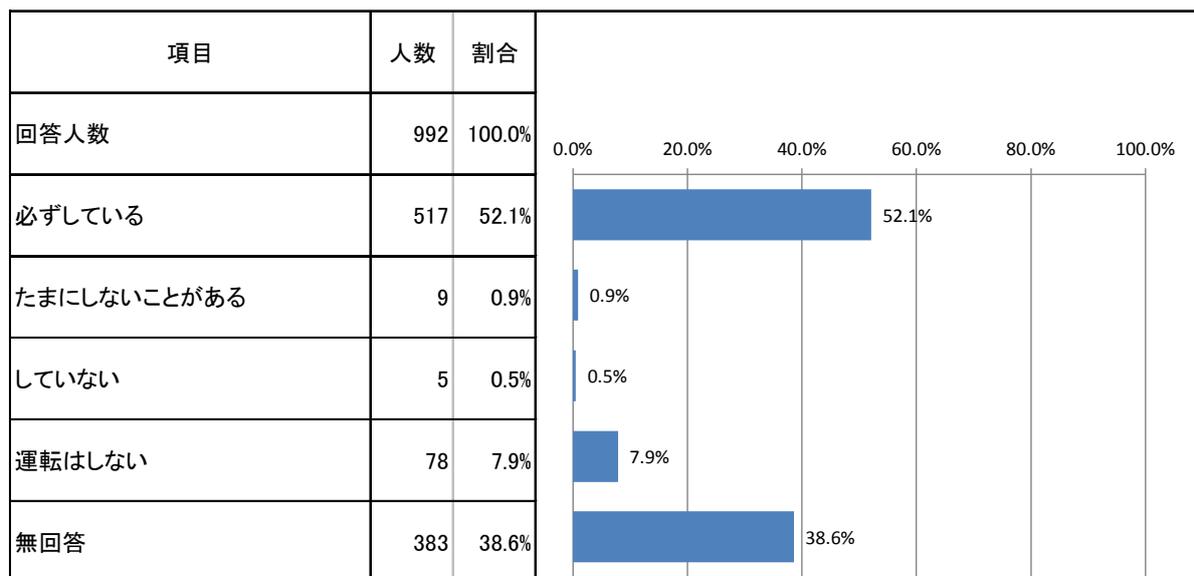
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	298	-	244	-	52	-	2	-	173	-	120	-	5	-
買い物に必要	239	80.2%	196	80.3%	41	78.8%	2	100.0%	134	77.5%	101	84.2%	4	80.0%
仕事(通勤を含む)に必要	109	36.6%	94	38.5%	15	28.8%	0	0.0%	74	42.8%	34	28.3%	1	20.0%
病院への通院に必要	211	70.8%	179	73.4%	30	57.7%	2	100.0%	109	63.0%	99	82.5%	3	60.0%
その他生活に必要	224	75.2%	187	76.6%	35	67.3%	2	100.0%	132	76.3%	89	74.2%	3	60.0%
公共交通機関が自宅(目的地)の近くにない	38	12.8%	31	12.7%	7	13.5%	0	0.0%	21	12.1%	16	13.3%	1	20.0%
運転技術に自信がある	120	40.3%	103	42.2%	15	28.8%	2	100.0%	72	41.6%	45	37.5%	3	60.0%
身分証明書として活用している	98	32.9%	70	28.7%	27	51.9%	1	50.0%	66	38.2%	31	25.8%	1	20.0%
返納すると運転ができなくなる	191	64.1%	161	66.0%	29	55.8%	1	50.0%	118	68.2%	70	58.3%	3	60.0%
その他	27	9.1%	18	7.4%	9	17.3%	0	0.0%	16	9.2%	10	8.3%	1	20.0%
無回答	2	0.7%	1	0.4%	1	1.9%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.8%	0	0.0%

【高齢者】

問 17 あなたは、自動車の運転席、助手席、後部座席に乗車しているときにシートベルトを着用していますか。(ひとつに○)

(運転席)

運転席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が52.1%と最も多く、次いで「運転はしない」が7.9%、「たまにしないことがある」が0.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「必ずしている」が74.1%で、女の27.6%に比べてかなり高くなっている。

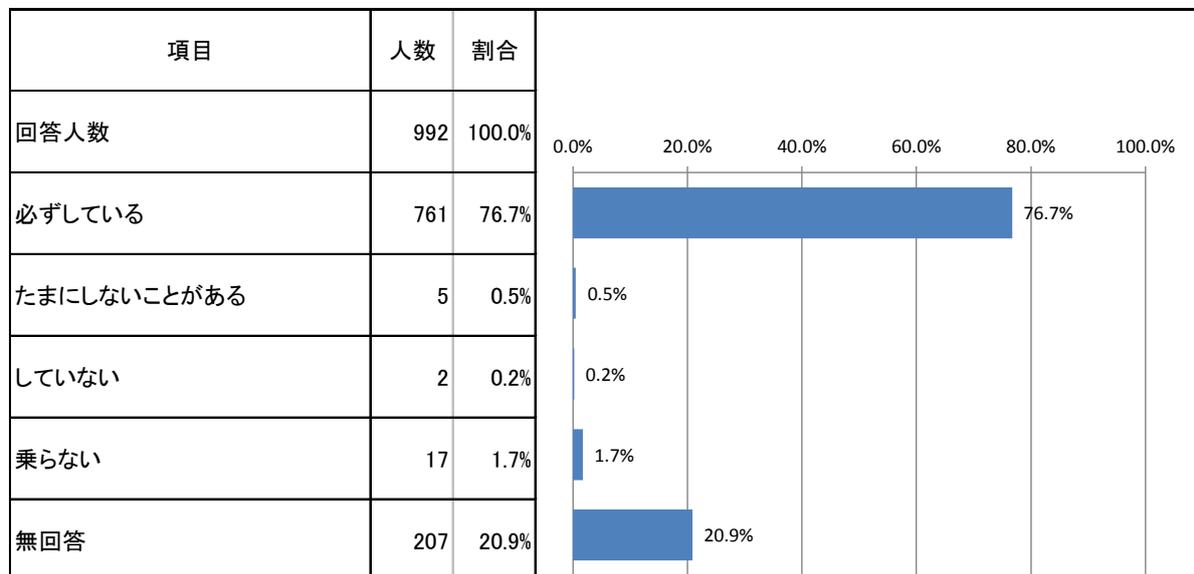
年齢別では、65歳～74歳の「必ずしている」が70.0%で、75歳以上の38.0%に比べてかなり高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
必ずしている	517	52.1%	384	74.1%	127	27.6%	6	42.9%	306	70.0%	200	38.0%	11	37.9%
たまにしないことがある	9	0.9%	7	1.4%	2	0.4%	0	0.0%	5	1.1%	4	0.8%	0	0.0%
していない	5	0.5%	2	0.4%	3	0.7%	0	0.0%	3	0.7%	2	0.4%	0	0.0%
運転はしない	78	7.9%	22	4.2%	56	12.2%	0	0.0%	30	6.9%	48	9.1%	0	0.0%
無回答	383	38.6%	103	19.9%	272	59.1%	8	57.1%	93	21.3%	272	51.7%	18	62.1%

【高齢者】

(助手席)

助手席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が76.7%と最も多く、次いで「乗らない」が1.7%、「たまにしないことがある」が0.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「必ずしている」が83.4%で、女の70.0%に比べて高くなっている。

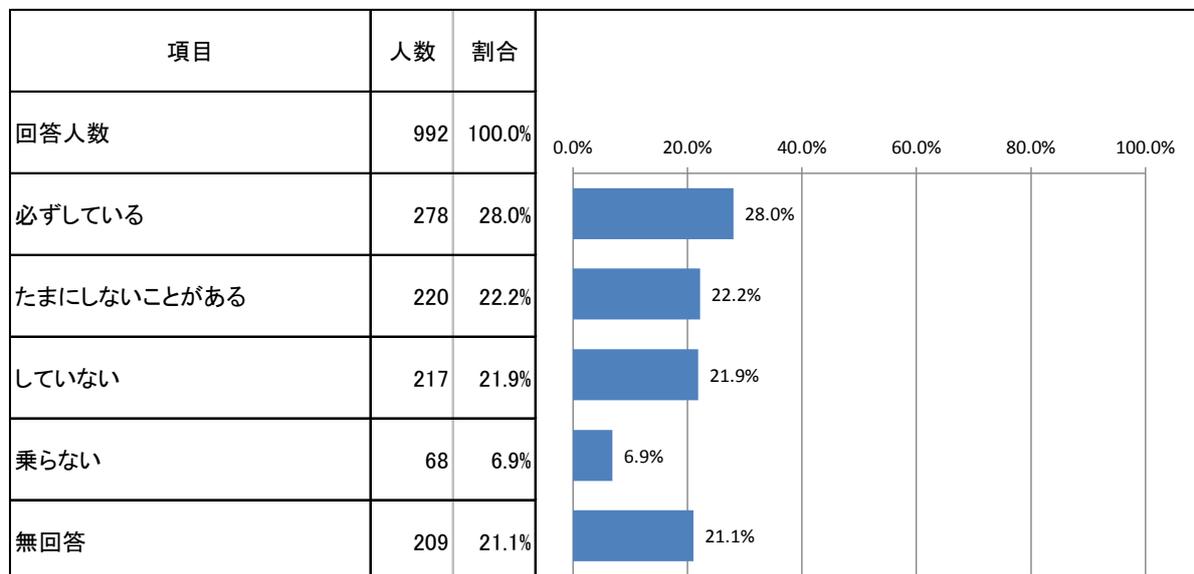
年齢別では、65歳～74歳の「必ずしている」が89.7%で、75歳以上の66.9%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
必ずしている	761	76.7%	432	83.4%	322	70.0%	7	50.0%	392	89.7%	352	66.9%	17	58.6%
たまにしないことがある	5	0.5%	3	0.6%	2	0.4%	0	0.0%	3	0.7%	2	0.4%	0	0.0%
していない	2	0.2%	1	0.2%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.2%	0	0.0%
乗らない	17	1.7%	10	1.9%	7	1.5%	0	0.0%	6	1.4%	11	2.1%	0	0.0%
無回答	207	20.9%	72	13.9%	128	27.8%	7	50.0%	35	8.0%	160	30.4%	12	41.4%

【高齢者】

(後部座席)

後部座席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が28.0%と最も多く、次いで「たまにしないことがある」が22.2%、「していない」が21.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「必ずしている」が31.7%で、女の24.3%に比べてやや高くなっている。

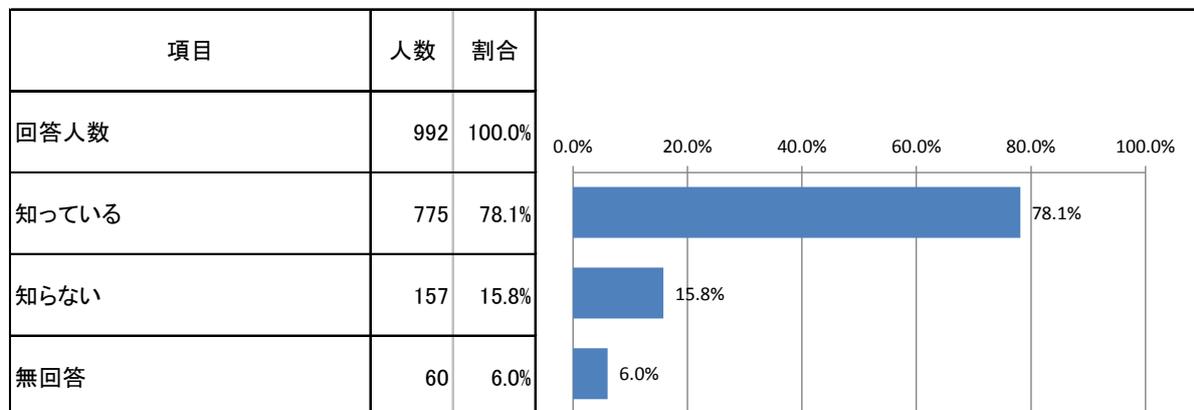
年齢別では、65歳～74歳の「していない」が29.1%で、75歳以上の16.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
必ずしている	278	28.0%	164	31.7%	112	24.3%	2	14.3%	113	25.9%	158	30.0%	7	24.1%
たまにしないことがある	220	22.2%	115	22.2%	103	22.4%	2	14.3%	113	25.9%	103	19.6%	4	13.8%
していない	217	21.9%	113	21.8%	103	22.4%	1	7.1%	127	29.1%	86	16.3%	4	13.8%
乗らない	68	6.9%	48	9.3%	19	4.1%	1	7.1%	34	7.8%	32	6.1%	2	6.9%
無回答	209	21.1%	78	15.1%	123	26.7%	8	57.1%	50	11.4%	147	27.9%	12	41.4%

【高齢者】

問 18 あなたは、後部座席のシートベルト着用が義務化されたことを知っていますか。(ひとつに○)

後部座席のシートベルト着用義務化の認識度については、「知っている」が78.1%、「知らない」が15.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

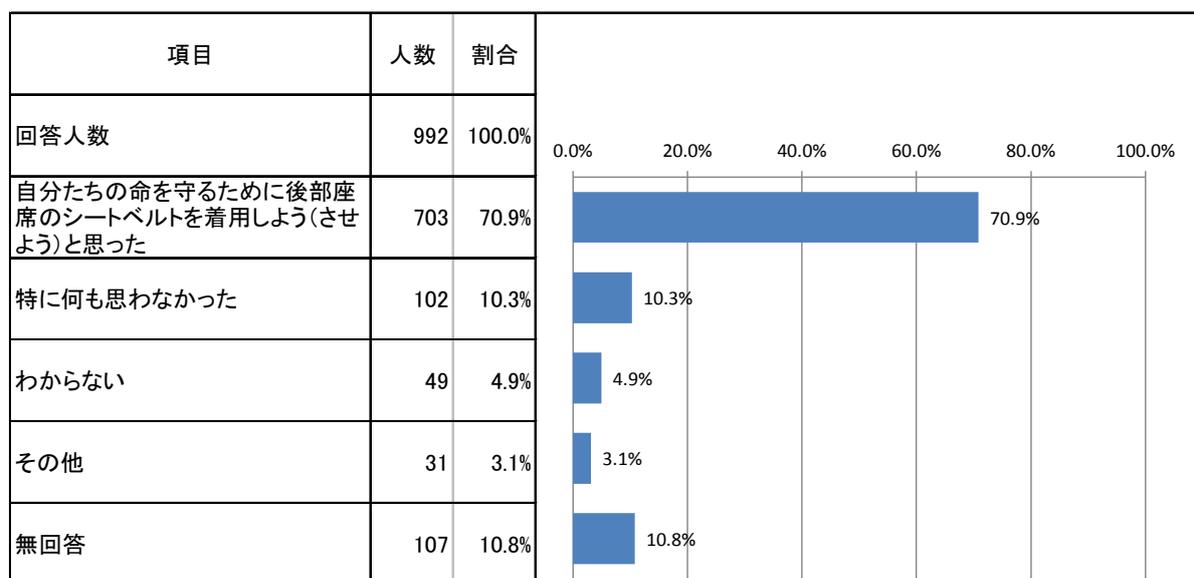
年齢別では、65歳～74歳の「知っている」が81.5%で、75歳以上の75.7%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っている	775	78.1%	417	80.5%	348	75.7%	10	71.4%	356	81.5%	398	75.7%	21	72.4%
知らない	157	15.8%	78	15.1%	79	17.2%	0	0.0%	65	14.9%	89	16.9%	3	10.3%
無回答	60	6.0%	23	4.4%	33	7.2%	4	28.6%	16	3.7%	39	7.4%	5	17.2%

問 19 鹿児島県の一般道におけるシートベルトの着用率は運転者が98.3%、助手席者が94.0%、後部座席者が30.1%で、後部座席者の着用率が運転者・助手席者に比べて著しく低い状況ですが、あなたはこのことについてどう思いますか。(ひとつに○)

後部座席者のシートベルト着用率が著しく低いことについては、「自分たちの命を守るために後部座席のシートベルトを着用しよう(させよう)と思った」が70.9%と最も多く、次いで「特に何も思わなかった」が10.3%、「わからない」が4.9%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「圧迫感があり苦しい」等が挙げられた。



【属性別特徴】

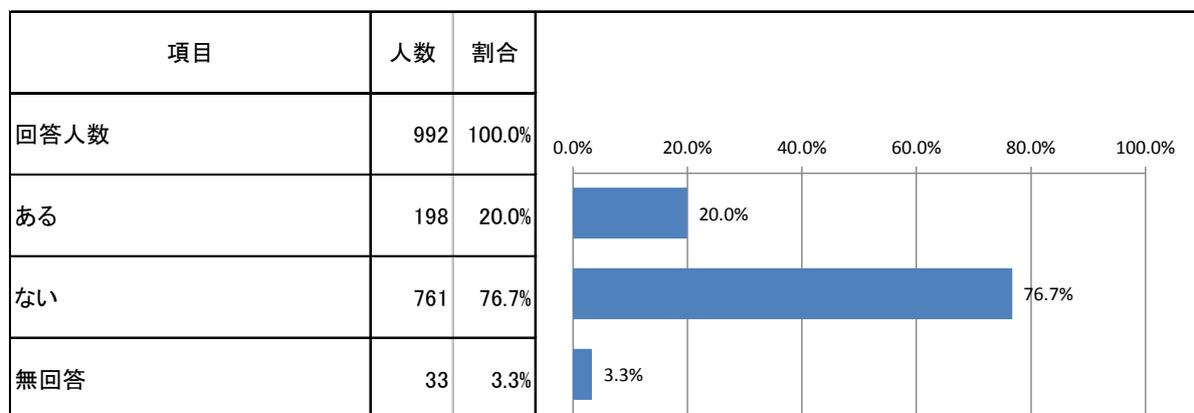
性別では、男の「自分たちの命を守るために後部座席のシートベルトを着用しよう(させよう)と思った」が74.7%で、女の66.7%に比べてやや高くなっている。
年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
自分たちの命を守るために後部座席のシートベルトを着用しよう(させよう)と思った	703	70.9%	387	74.7%	307	66.7%	9	64.3%	323	73.9%	363	69.0%	17	58.6%
特に何も思わなかった	102	10.3%	57	11.0%	45	9.8%	0	0.0%	51	11.7%	50	9.5%	1	3.4%
わからない	49	4.9%	20	3.9%	28	6.1%	1	7.1%	13	3.0%	34	6.5%	2	6.9%
その他	31	3.1%	18	3.5%	13	2.8%	0	0.0%	19	4.3%	11	2.1%	1	3.4%
無回答	107	10.8%	36	6.9%	67	14.6%	4	28.6%	31	7.1%	68	12.9%	8	27.6%

【高齢者】

問 20 この1年間（平成24年10月から平成25年9月まで）に転んだことがありますか。（ひとつに○）

1年間の転倒経験については、「ある」が20.0%、「ない」が76.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「ある」が24.8%で、男の15.8%に比べてやや高くなっている。

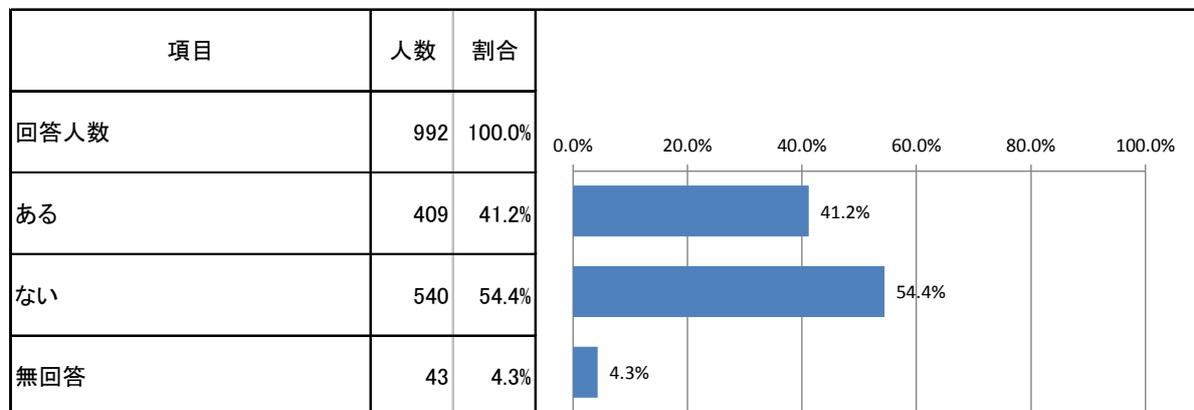
年齢別では、75歳以上の「ある」が27.0%で、65歳～74歳の11.9%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
ある	198	20.0%	82	15.8%	114	24.8%	2	14.3%	52	11.9%	142	27.0%	4	13.8%
ない	761	76.7%	424	81.9%	331	72.0%	6	42.9%	378	86.5%	366	69.6%	17	58.6%
無回答	33	3.3%	12	2.3%	15	3.3%	6	42.9%	7	1.6%	18	3.4%	8	27.6%

【高齢者】

問 21 この1年間（平成24年10月から平成25年9月まで）に転びそうになりヒヤリとしたことがありますか。（ひとつに○）

1年間に転倒しそうになりヒヤリとした経験については、「ある」が41.2%、「ない」が54.4%となっている。



【属性別特徴】

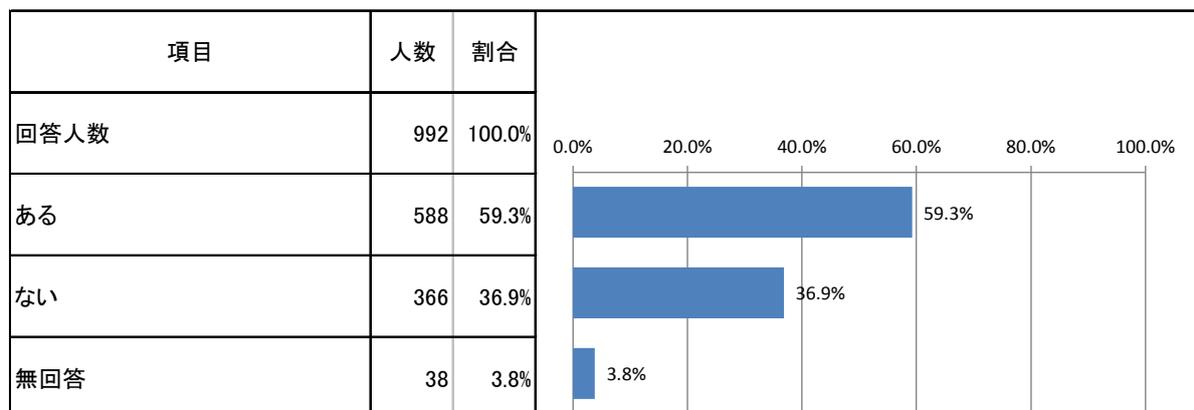
性別では、女の「ある」が50.0%で、男の34.2%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「ある」が48.7%で、65歳～74歳の33.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別						
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%	
ある	409	41.2%	177	34.2%	230	50.0%	2	14.3%	144	33.0%	256	48.7%	9	31.0%	
ない	540	54.4%	325	62.7%	208	45.2%	7	50.0%	282	64.5%	244	46.4%	14	48.3%	
無回答	43	4.3%	16	3.1%	22	4.8%	5	35.7%	11	2.5%	26	4.9%	6	20.7%	

問 22 転ぶことに対する不安はありますか。(ひとつに○)

転倒に対する不安については、「ある」が59.3%、「ない」が36.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「ある」が75.2%で、男の45.4%に比べて高くなっている。

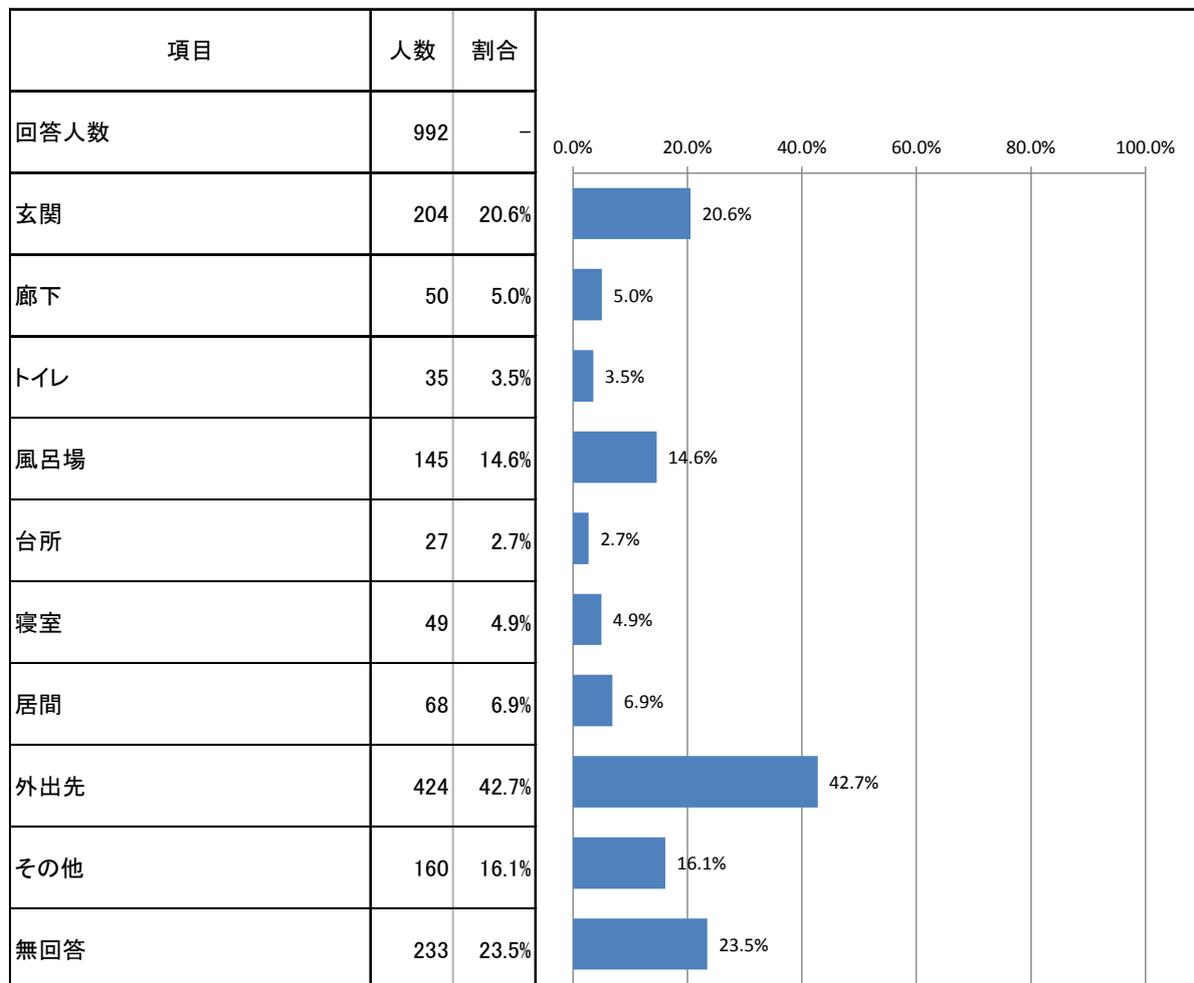
年齢別では、75歳以上の「ある」が69.4%で、65歳～74歳の47.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
ある	588	59.3%	235	45.4%	346	75.2%	7	50.0%	208	47.6%	365	69.4%	15	51.7%
ない	366	36.9%	264	51.0%	99	21.5%	3	21.4%	218	49.9%	139	26.4%	9	31.0%
無回答	38	3.8%	19	3.7%	15	3.3%	4	28.6%	11	2.5%	22	4.2%	5	17.2%

問 23 転びやすい場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

転びやすい場所については、「外出先」が 42.7%と最も多く、次いで「玄関」が 20.6%、「風呂場」が 14.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「階段」、「庭」、「縁石・段差」等が挙げられた。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、女の「外出先」が50.4%で、男の36.3%に比べて高くなっている。

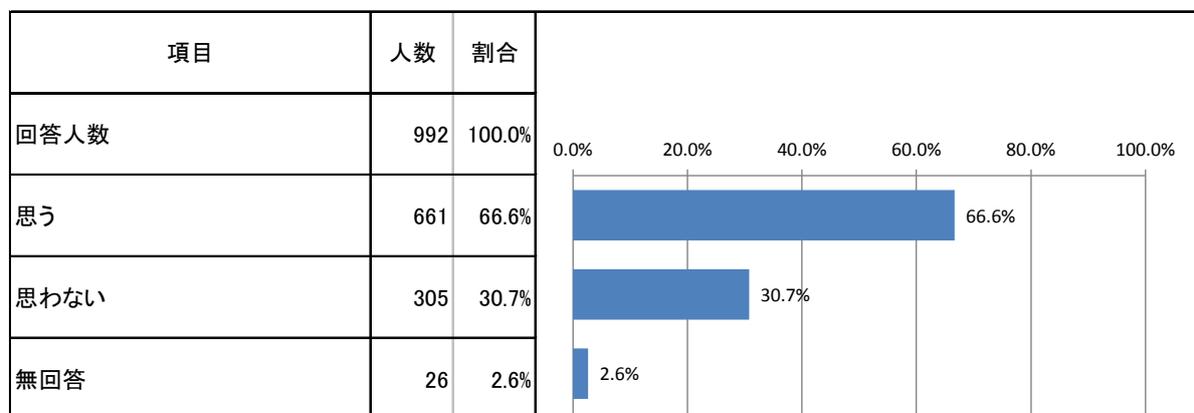
年齢別では、すべての項目において75歳以上の割合が、65歳～74歳の割合に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	-	518	-	460	-	14	-	437	-	526	-	29	-
玄関	204	20.6%	101	19.5%	100	21.7%	3	21.4%	73	16.7%	124	23.6%	7	24.1%
廊下	50	5.0%	23	4.4%	26	5.7%	1	7.1%	13	3.0%	36	6.8%	1	3.4%
トイレ	35	3.5%	15	2.9%	20	4.3%	0	0.0%	5	1.1%	28	5.3%	2	6.9%
風呂場	145	14.6%	70	13.5%	74	16.1%	1	7.1%	53	12.1%	90	17.1%	2	6.9%
台所	27	2.7%	8	1.5%	19	4.1%	0	0.0%	9	2.1%	16	3.0%	2	6.9%
寝室	49	4.9%	18	3.5%	31	6.7%	0	0.0%	10	2.3%	38	7.2%	1	3.4%
居間	68	6.9%	26	5.0%	42	9.1%	0	0.0%	20	4.6%	45	8.6%	3	10.3%
外出先	424	42.7%	188	36.3%	232	50.4%	4	28.6%	182	41.6%	235	44.7%	7	24.1%
その他	160	16.1%	87	16.8%	72	15.7%	1	7.1%	78	17.8%	77	14.6%	5	17.2%
無回答	233	23.5%	150	29.0%	77	16.7%	6	42.9%	129	29.5%	93	17.7%	11	37.9%

【高齢者】

問 24 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。(ひとつに○)

歩く速度が遅くなってきたと思うかについては、「思う」が 66.6%、「思わない」が 30.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「思う」が 72.2%で、男の 62.5%に比べてやや高くなっている。

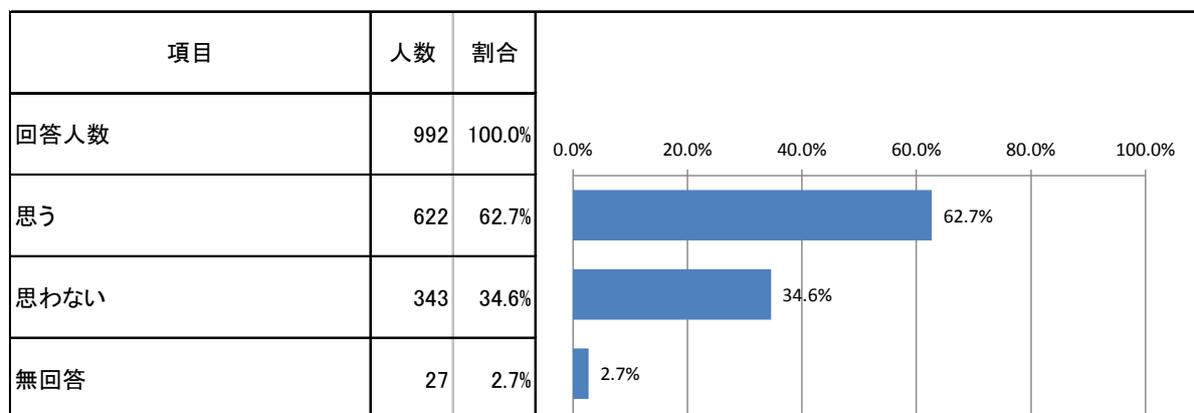
年齢別では、75歳以上の「思う」が 79.8%で、65歳～74歳の 51.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
思う	661	66.6%	324	62.5%	332	72.2%	5	35.7%	224	51.3%	420	79.8%	17	58.6%
思わない	305	30.7%	182	35.1%	118	25.7%	5	35.7%	206	47.1%	92	17.5%	7	24.1%
無回答	26	2.6%	12	2.3%	10	2.2%	4	28.6%	7	1.6%	14	2.7%	5	17.2%

【高齢者】

問 25 以前に比べて歩幅がせまくなってきたと思いますか。(ひとつに○)

歩幅がせまくなってきたと思うかについては、「思う」が 62.7%、「思わない」が 34.6% となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「思う」が 69.6%で、男の 56.9%に比べてやや高くなっている。

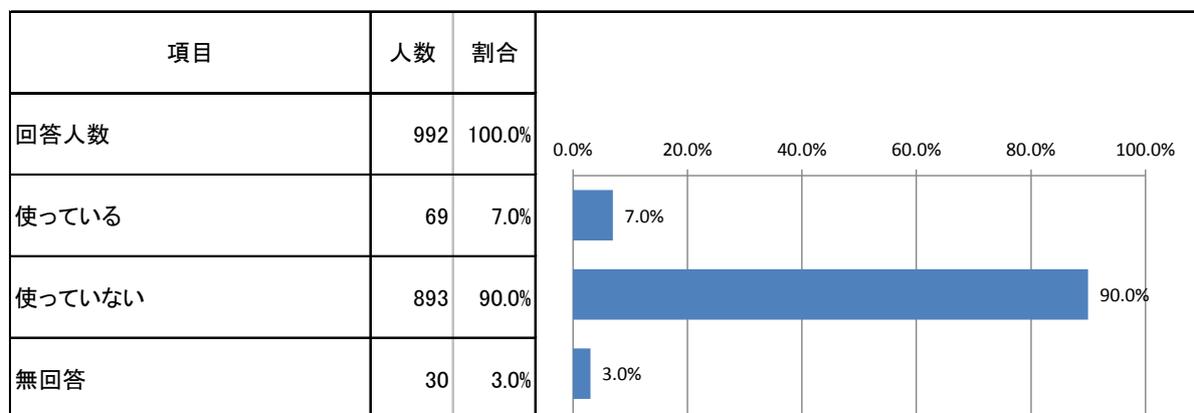
年齢別では、75歳以上の「思う」が 77.0%で、65歳～74歳の 46.0%に比べてかなり高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
思う	622	62.7%	295	56.9%	320	69.6%	7	50.0%	201	46.0%	405	77.0%	16	55.2%
思わない	343	34.6%	212	40.9%	127	27.6%	4	28.6%	228	52.2%	107	20.3%	8	27.6%
無回答	27	2.7%	11	2.1%	13	2.8%	3	21.4%	8	1.8%	14	2.7%	5	17.2%

【高齢者】

問 26 手押し車を使っていますか。(ひとつに○)

手押し車の使用については、「使っている」が 7.0%、「使っていない」が 90.0%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「使っている」が 12.2%で、男の 2.5%に比べてやや高くなっている。

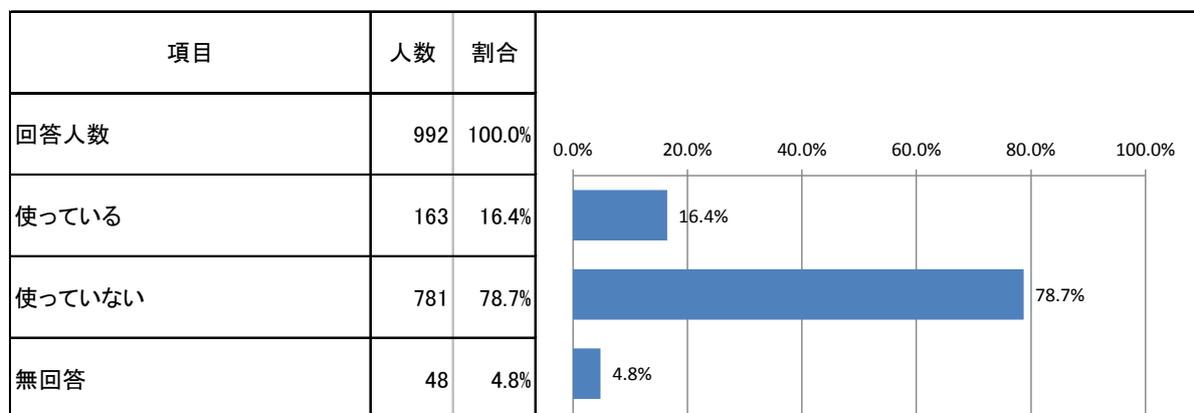
年齢別では、75歳以上の「使っている」が 12.2%で、65歳～74歳の 0.9%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
使っている	69	7.0%	13	2.5%	56	12.2%	0	0.0%	4	0.9%	64	12.2%	1	3.4%
使っていない	893	90.0%	493	95.2%	389	84.6%	11	78.6%	427	97.7%	442	84.0%	24	82.8%
無回答	30	3.0%	12	2.3%	15	3.3%	3	21.4%	6	1.4%	20	3.8%	4	13.8%

【高齢者】

問 27 杖を使っていますか。(ひとつに○)

杖の使用については、「使っている」が 16.4%、「使っていない」が 78.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「使っている」が 22.4%で、男の 11.6%に比べて高くなっている。

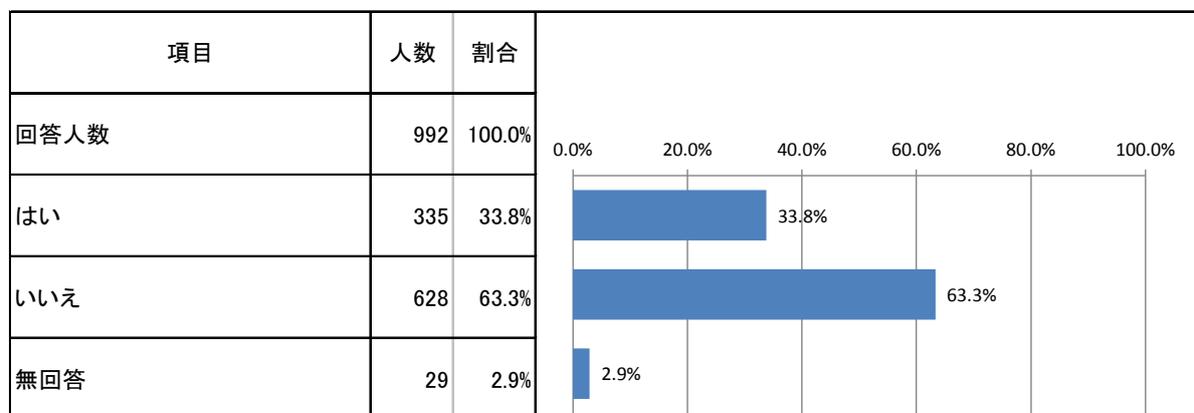
年齢別では、75歳以上の「使っている」が 25.9%で、65歳～74歳の 4.8%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
使っている	163	16.4%	60	11.6%	103	22.4%	0	0.0%	21	4.8%	136	25.9%	6	20.7%
使っていない	781	78.7%	434	83.8%	336	73.0%	11	78.6%	404	92.4%	360	68.4%	17	58.6%
無回答	48	4.8%	24	4.6%	21	4.6%	3	21.4%	12	2.7%	30	5.7%	6	20.7%

【高齢者】

問 28 半年前に比べて固いものが食べづらくなりましたか。(ひとつに○)

固いものが食べづらくなったかについては、「はい」が 33.8%、「いいえ」が 63.3% となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

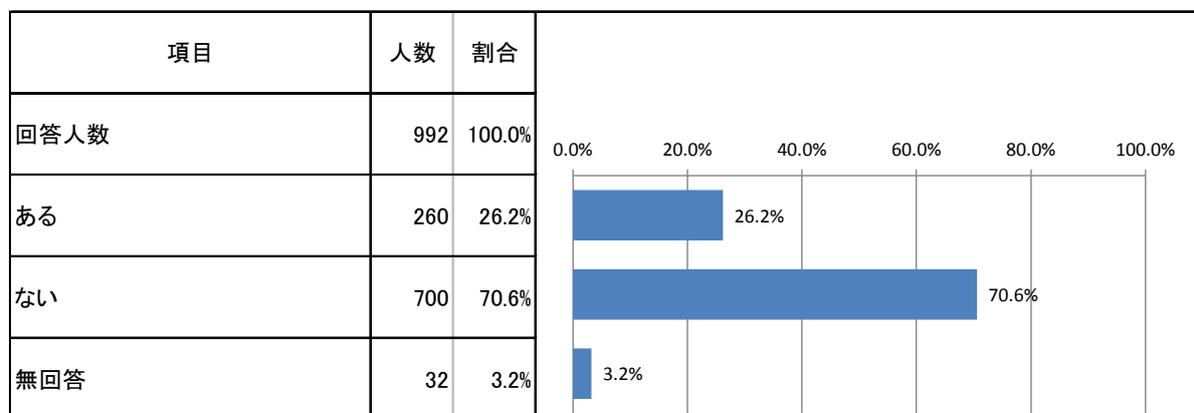
年齢別では、75歳以上の「はい」が 42.0%で、65歳～74歳の 24.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
はい	335	33.8%	170	32.8%	163	35.4%	2	14.3%	106	24.3%	221	42.0%	8	27.6%
いいえ	628	63.3%	333	64.3%	286	62.2%	9	64.3%	326	74.6%	288	54.8%	14	48.3%
無回答	29	2.9%	15	2.9%	11	2.4%	3	21.4%	5	1.1%	17	3.2%	7	24.1%

【高齢者】

問 29 お茶や汁物等でむせることがありますか。(ひとつに○)

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「ある」が26.2%、「ない」が70.6%となっている。



【属性別特徴】

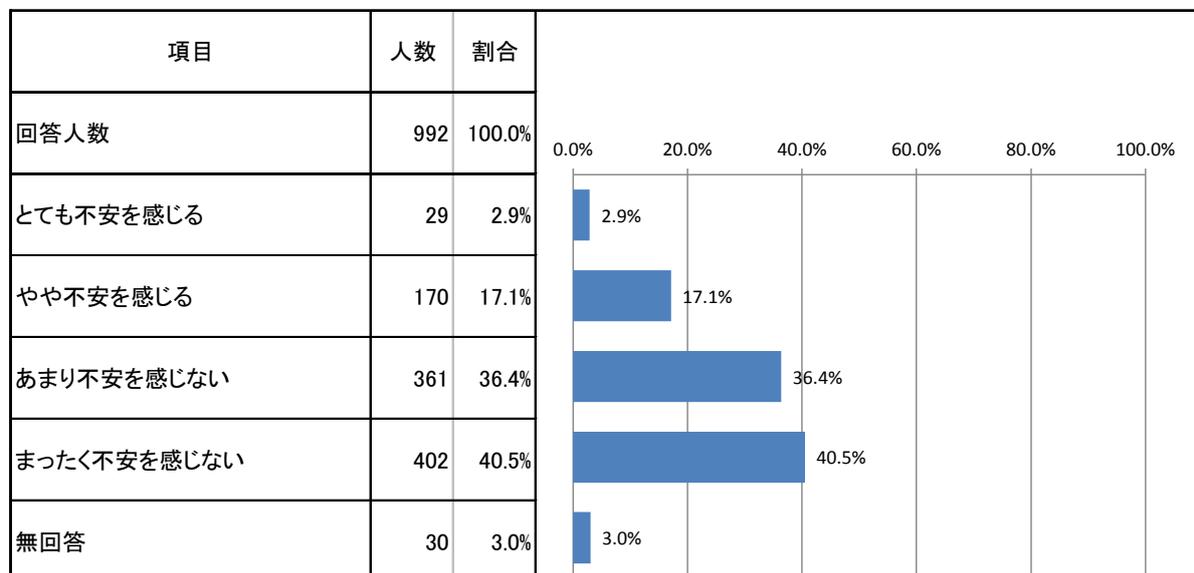
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、75歳以上の「ある」が32.7%で、65歳～74歳の19.2%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
ある	260	26.2%	130	25.1%	127	27.6%	3	21.4%	84	19.2%	172	32.7%	4	13.8%
ない	700	70.6%	370	71.4%	322	70.0%	8	57.1%	347	79.4%	336	63.9%	17	58.6%
無回答	32	3.2%	18	3.5%	11	2.4%	3	21.4%	6	1.4%	18	3.4%	8	27.6%

問 30 飲み込みに対する不安はありますか。(ひとつに○)

飲み込みに対する不安があるかについては「まったく不安を感じない」が 40.5%と最も多く、次いで「あまり不安を感じない」が 36.4%、「やや不安を感じる」が 17.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「まったく不安を感じない」が 45.8%で、女の 34.3%に比べて高くなっている。

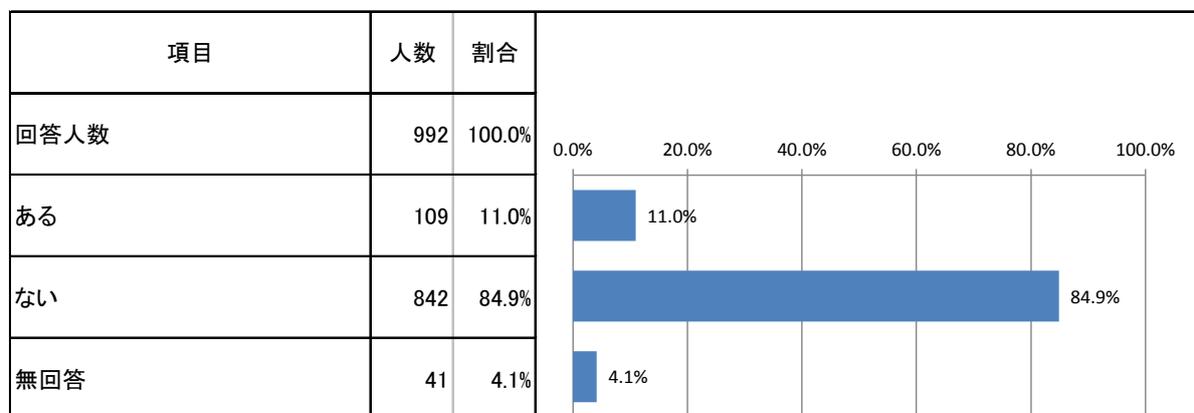
年齢別では、75歳以上の「やや不安を感じる」が 23.4%で、65歳～74歳の 9.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
とても不安を感じる	29	2.9%	12	2.3%	17	3.7%	0	0.0%	9	2.1%	20	3.8%	0	0.0%
やや不安を感じる	170	17.1%	73	14.1%	95	20.7%	2	14.3%	42	9.6%	123	23.4%	5	17.2%
あまり不安を感じない	361	36.4%	179	34.6%	180	39.1%	2	14.3%	152	34.8%	203	38.6%	6	20.7%
まったく不安を感じない	402	40.5%	237	45.8%	158	34.3%	7	50.0%	228	52.2%	163	31.0%	11	37.9%
無回答	30	3.0%	17	3.3%	10	2.2%	3	21.4%	6	1.4%	17	3.2%	7	24.1%

【高齢者】

問 31 食物をのどにつまらせたことがありますか。(ひとつに○)

食物をのどにつまらせたことがあるかについては、「ある」が 11.0%、「ない」が 84.9% となっている。



【属性別特徴】

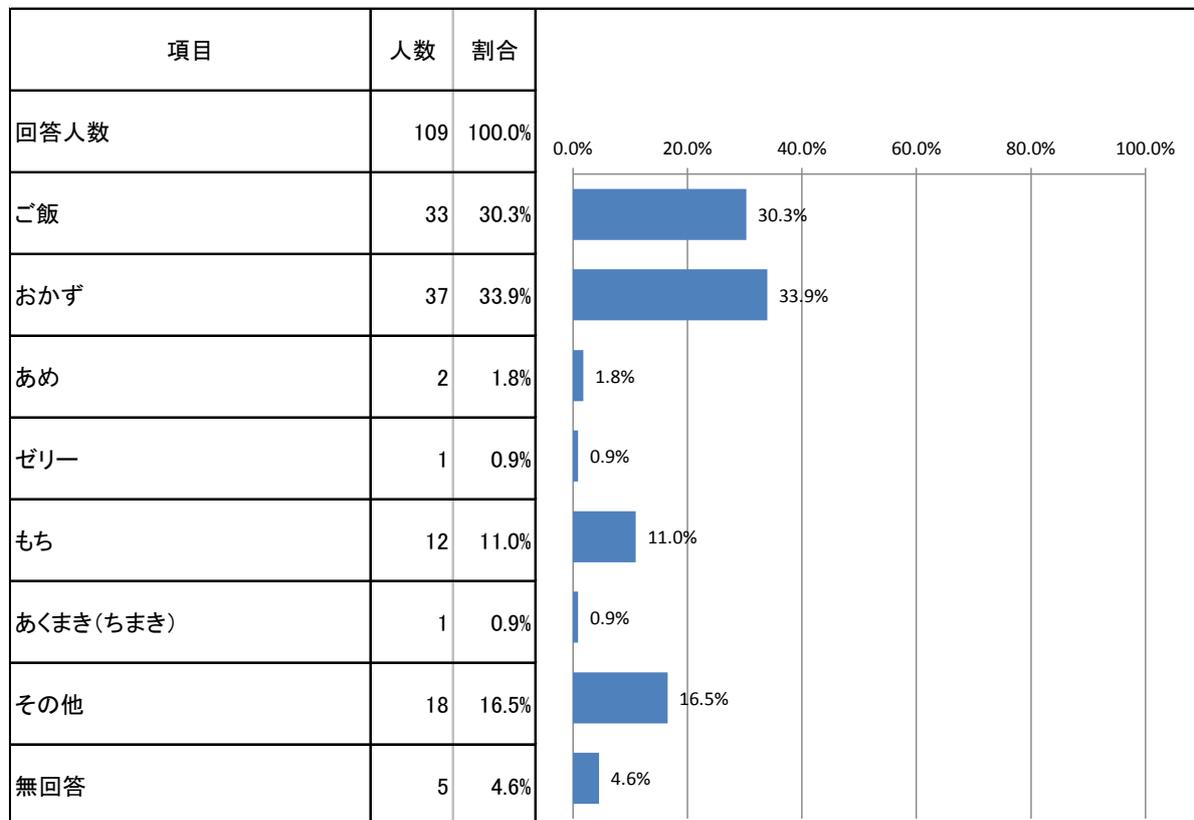
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、75歳以上の「ある」が 13.7%で、65歳～74歳の 8.2%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
ある	109	11.0%	53	10.2%	55	12.0%	1	7.1%	36	8.2%	72	13.7%	1	3.4%
ない	842	84.9%	442	85.3%	390	84.8%	10	71.4%	392	89.7%	428	81.4%	22	75.9%
無回答	41	4.1%	23	4.4%	15	3.3%	3	21.4%	9	2.1%	26	4.9%	6	20.7%

問 32 問 31 で『① ある』とご回答された方にお聞きします。
 のどにつまらせた物は何ですか。(ひとつに○)

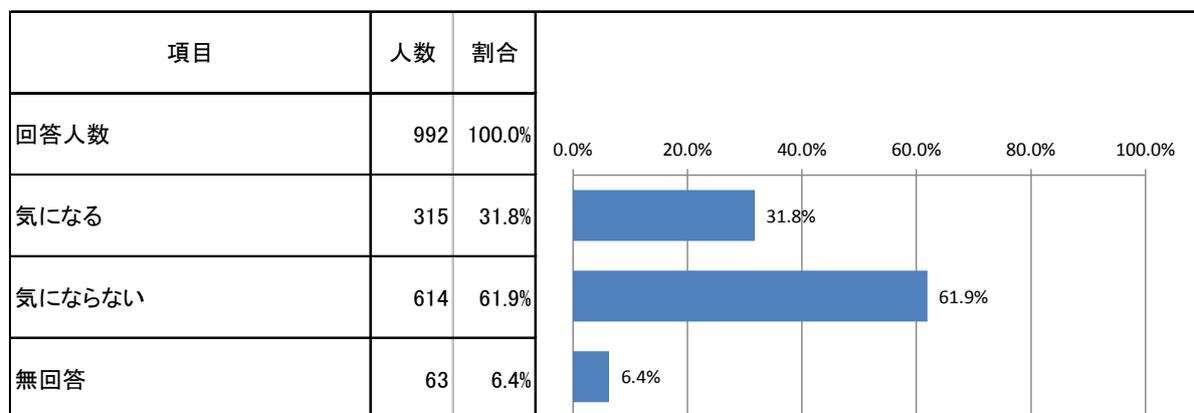
のどにつまらせた物については、「おかず」が 33.9%と最も多く、次いで「ご飯」が 30.3%、「もち」が 11.0%となっている。



【高齢者】

問 33 口の渇きが気になりますか。(ひとつに○)

口の渇きが気になるかについては、「気になる」が 31.8%、「気にならない」が 61.9% となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「気にならない」が 64.9%で、女の 59.3%に比べてやや高くなっている。

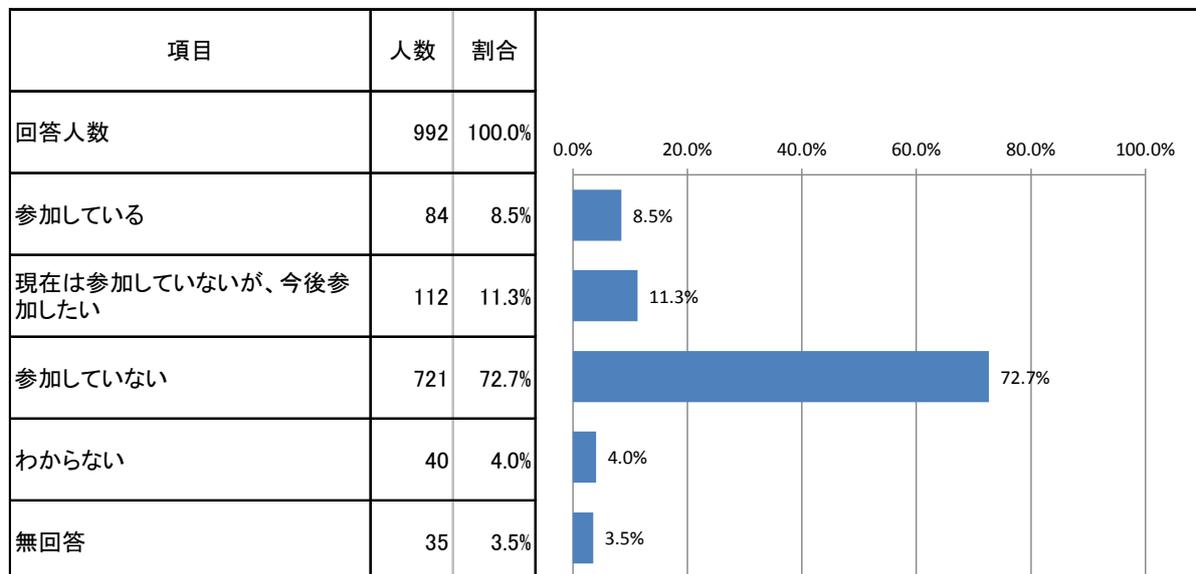
年齢別では、75歳以上の「気になる」が 37.1%で、65歳～74歳の 26.5%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
気になる	315	31.8%	156	30.1%	155	33.7%	4	28.6%	116	26.5%	195	37.1%	4	13.8%
気にならない	614	61.9%	336	64.9%	273	59.3%	5	35.7%	310	70.9%	288	54.8%	16	55.2%
無回答	63	6.4%	26	5.0%	32	7.0%	5	35.7%	11	2.5%	43	8.2%	9	31.0%

【高齢者】

問 34 介護予防のための教室等に参加していますか。(ひとつに○)

介護予防のための教室等の参加については、「参加していない」が 72.7%と最も多く、次いで「現在は参加していないが、今後参加したい」が 11.3%、「参加している」が 8.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「参加していない」が 80.7%で、女の 64.6%に比べて高くなっている。

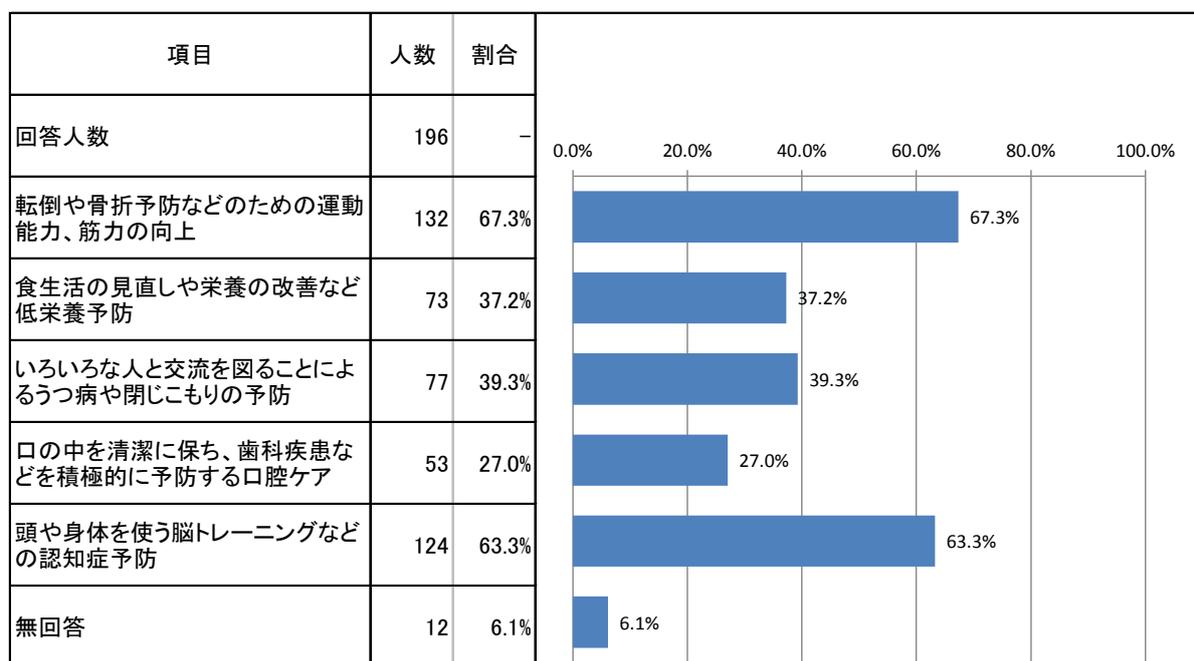
年齢別では、65歳～74歳の「参加していない」が 78.0%で、75歳以上の 69.0%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
参加している	84	8.5%	29	5.6%	53	11.5%	2	14.3%	26	5.9%	57	10.8%	1	3.4%
現在は参加していないが、今後参加したい	112	11.3%	43	8.3%	67	14.6%	2	14.3%	48	11.0%	61	11.6%	3	10.3%
参加していない	721	72.7%	418	80.7%	297	64.6%	6	42.9%	341	78.0%	363	69.0%	17	58.6%
わからない	40	4.0%	15	2.9%	24	5.2%	1	7.1%	14	3.2%	24	4.6%	2	6.9%
無回答	35	3.5%	13	2.5%	19	4.1%	3	21.4%	8	1.8%	21	4.0%	6	20.7%

※問 34 で『①参加している』『②現在は参加していないが、今後参加したい』とご回答された方にお聞きします。

問 35 次あげる介護予防事業のうち、参加している（参加したいと思う）ものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

参加している（参加したいと思う）介護予防事業については、「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」が 67.3%と最も多く、次いで「頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防」が 63.3%、「いろいろな人と交流を図ることによるうつ病や閉じこもりの予防」が 39.3%となっている。

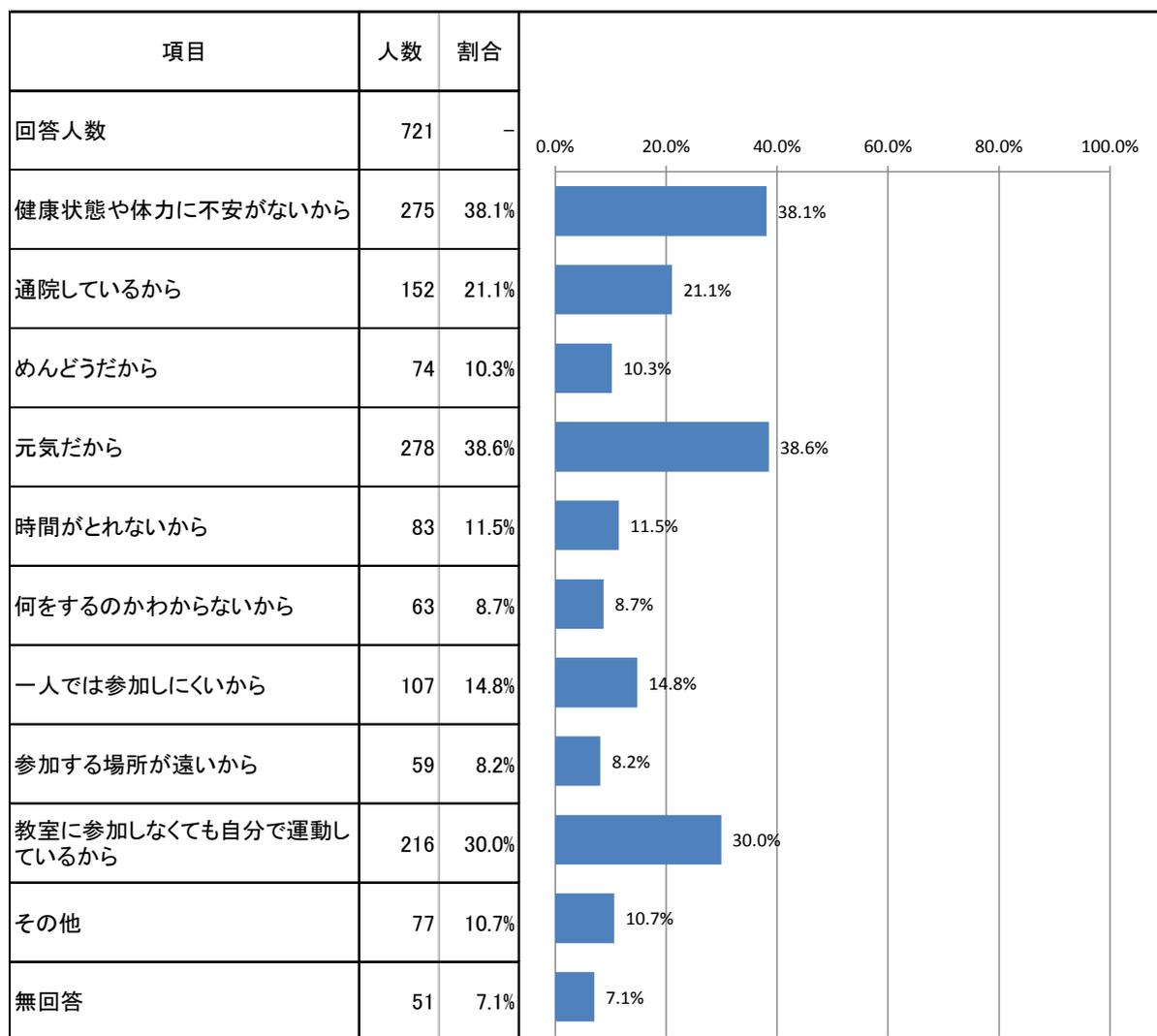


※問 34 で『③参加していない』とご回答された方にお聞きします。

問 36 介護予防教室に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防教室に参加していない理由については、「元気だから」が 38.6%と最も多く、次いで「健康状態や体力に不安がないから」が 38.1%、「教室に参加しなくても自分で運動しているから」が 30.0%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「療養中」等が挙げられた。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男の「健康状態や体力に不安がないから」が 46.2%で、女の 27.3%に比べて高くなっている

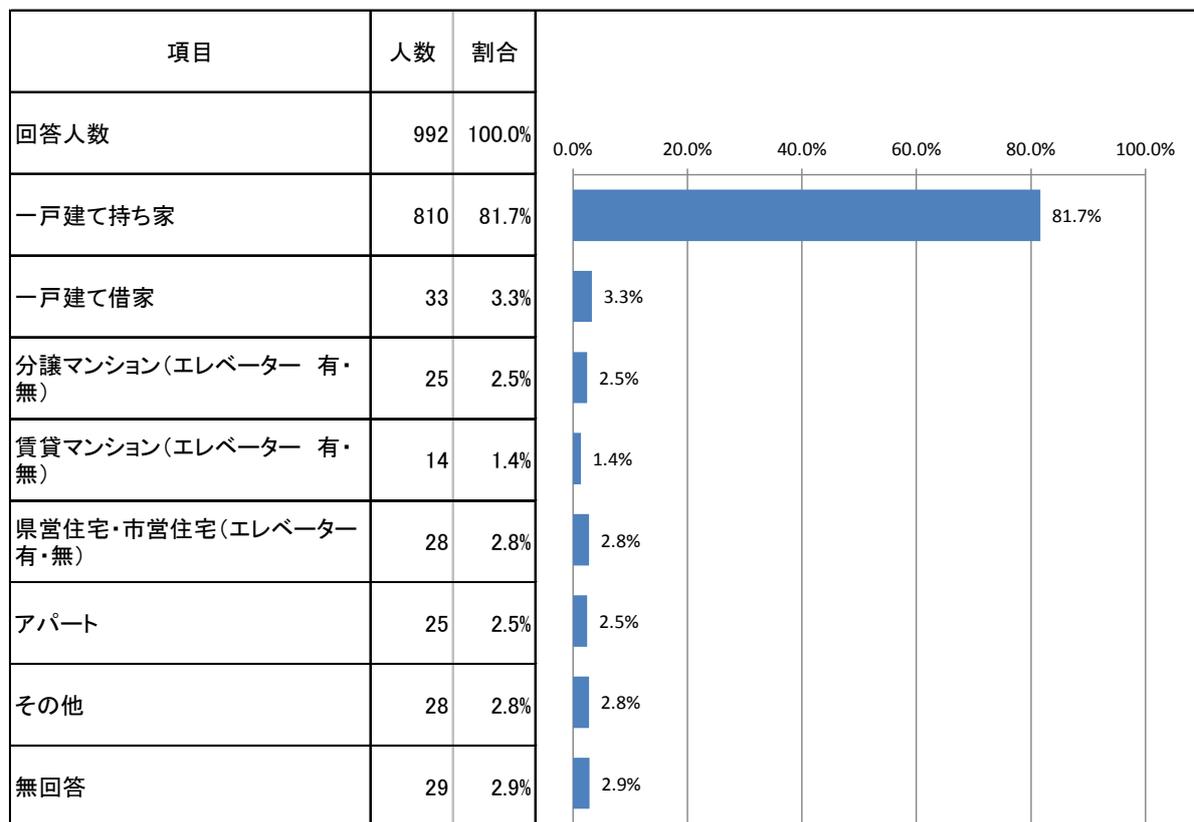
年齢別では、65歳～74歳の「健康状態や体力に不安がないから」が 46.0%で、75歳以上の 30.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	721	-	418	-	297	-	6	-	341	-	363	-	17	-
健康状態や体力に不安がないから	275	38.1%	193	46.2%	81	27.3%	1	16.7%	157	46.0%	110	30.3%	8	47.1%
通院しているから	152	21.1%	83	19.9%	69	23.2%	0	0.0%	50	14.7%	102	28.1%	0	0.0%
めんどうだから	74	10.3%	44	10.5%	30	10.1%	0	0.0%	41	12.0%	32	8.8%	1	5.9%
元気だから	278	38.6%	189	45.2%	86	29.0%	3	50.0%	161	47.2%	110	30.3%	7	41.2%
時間がとれないから	83	11.5%	48	11.5%	35	11.8%	0	0.0%	56	16.4%	24	6.6%	3	17.6%
何をするのかわからないから	63	8.7%	30	7.2%	33	11.1%	0	0.0%	30	8.8%	33	9.1%	0	0.0%
一人では参加しにくいから	107	14.8%	47	11.2%	60	20.2%	0	0.0%	49	14.4%	55	15.2%	3	17.6%
参加する場所が遠いから	59	8.2%	27	6.5%	31	10.4%	1	16.7%	29	8.5%	29	8.0%	1	5.9%
教室に参加しなくても自分で運動しているから	216	30.0%	140	33.5%	73	24.6%	3	50.0%	111	32.6%	102	28.1%	3	17.6%
その他	77	10.7%	35	8.4%	41	13.8%	1	16.7%	28	8.2%	46	12.7%	3	17.6%
無回答	51	7.1%	32	7.7%	19	6.4%	0	0.0%	19	5.6%	32	8.8%	0	0.0%

問37 現在の住まいは次のうちどれですか。（ひとつに〇）

現在の住まいについては、「一戸建て持ち家」が 81.7%と最も多く、次いで「一戸建て借家」が 3.3%、「県営住宅・市営住宅（エレベーター 有・無）」が 2.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「有料老人ホーム」、「グループホーム」、「サービス付き高齢者住宅」等が挙げられた。



【高齢者】

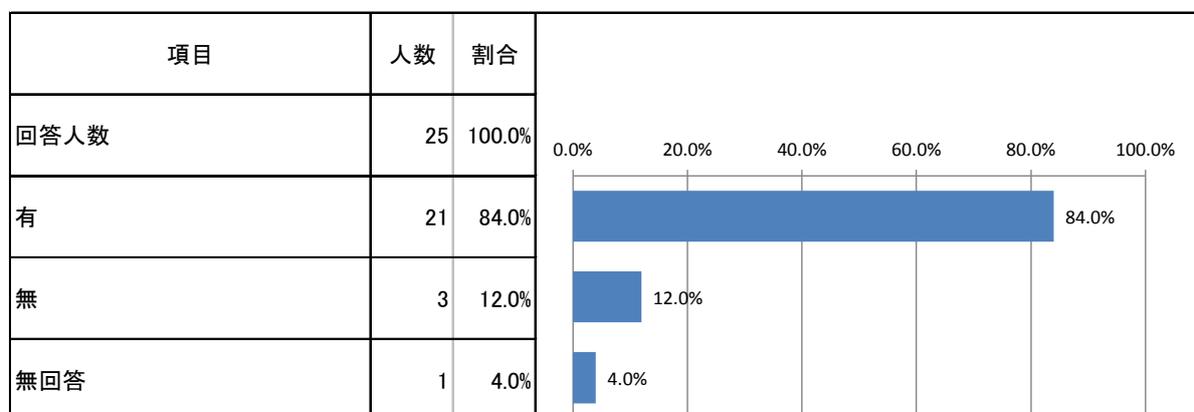
【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
一戸建て持ち家	810	81.7%	436	84.2%	365	79.3%	9	64.3%	368	84.2%	424	80.6%	18	62.1%
一戸建て借家	33	3.3%	16	3.1%	17	3.7%	0	0.0%	13	3.0%	19	3.6%	1	3.4%
分譲マンション(エレベーター有・無)	25	2.5%	12	2.3%	13	2.8%	0	0.0%	10	2.3%	15	2.9%	0	0.0%
賃貸マンション(エレベーター有・無)	14	1.4%	7	1.4%	7	1.5%	0	0.0%	6	1.4%	7	1.3%	1	3.4%
県営住宅・市営住宅(エレベーター有・無)	28	2.8%	13	2.5%	14	3.0%	1	7.1%	14	3.2%	12	2.3%	2	6.9%
アパート	25	2.5%	10	1.9%	15	3.3%	0	0.0%	14	3.2%	9	1.7%	2	6.9%
その他	28	2.8%	9	1.7%	19	4.1%	0	0.0%	7	1.6%	21	4.0%	0	0.0%
無回答	29	2.9%	15	2.9%	10	2.2%	4	28.6%	5	1.1%	19	3.6%	5	17.2%

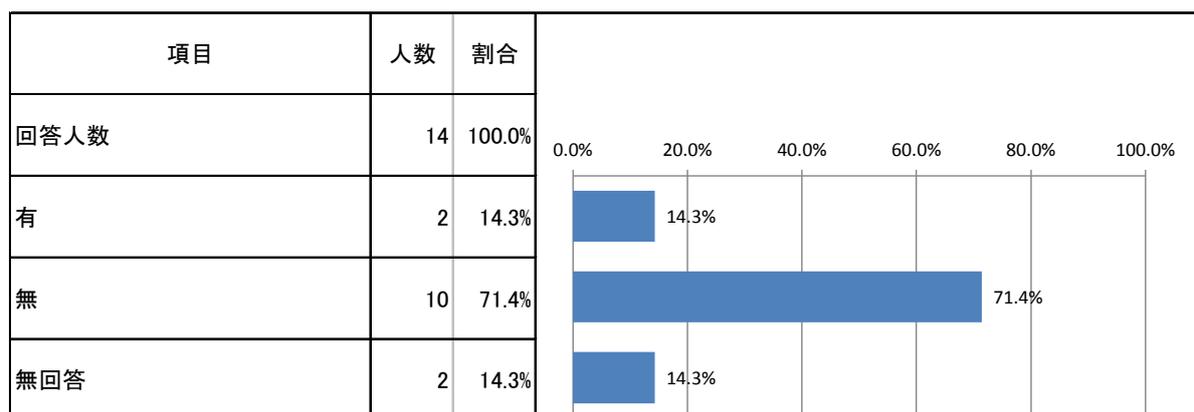
(分譲マンションエレベータ)

分譲マンションエレベータの有無については、「有」が 84.0%、「無」が 12.0%となっている。



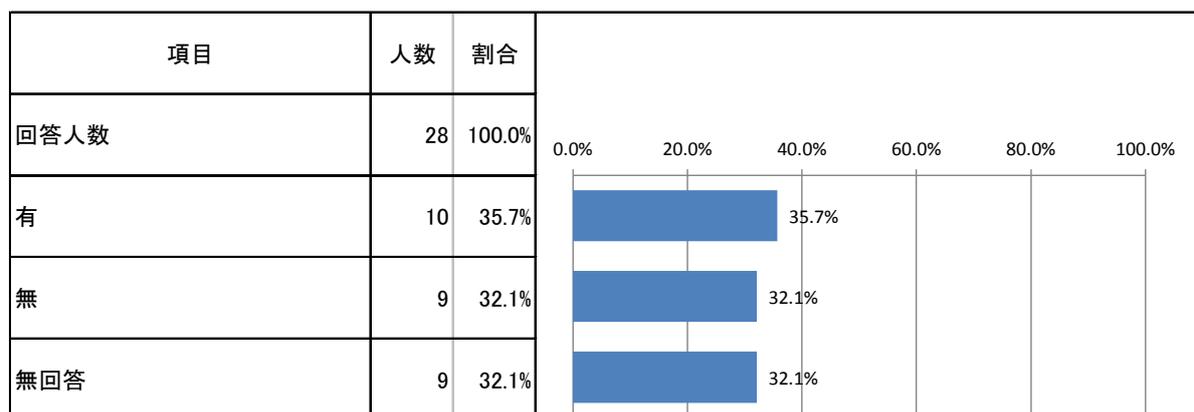
(賃貸マンションエレベータ)

賃貸マンションエレベータの有無については、「有」が 14.3%、「無」が 71.4%となっている。



(県営住宅・市営住宅エレベータ)

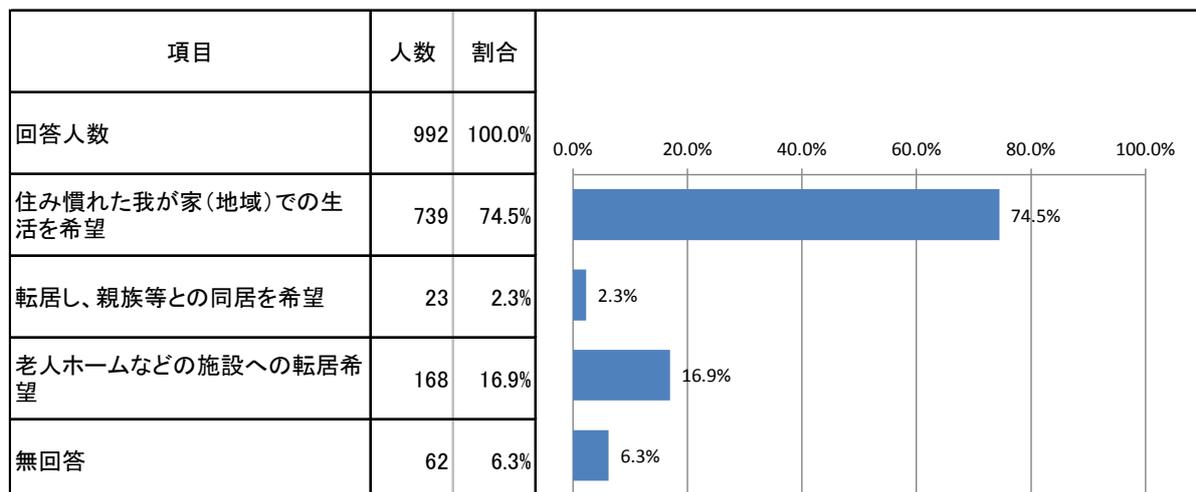
県営住宅・市営住宅エレベータの有無については、「有」が 35.7%、「無」が 32.1%となっている。



【高齢者】

問 38 日常生活支援が必要になったときや要介護になったときでも可能な限り
住み慣れた我が家（地域）で暮らしたいですか。（ひとつに〇）

要介護等になったときでも住み慣れた家（地域）で暮らしたいかについては、「住み慣れた我が家（地域）での生活を希望」が 74.5%と最も多く、次いで「老人ホームなどの施設への転居希望」が 16.9%、「転居し、親族等との同居を希望」が 2.3%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

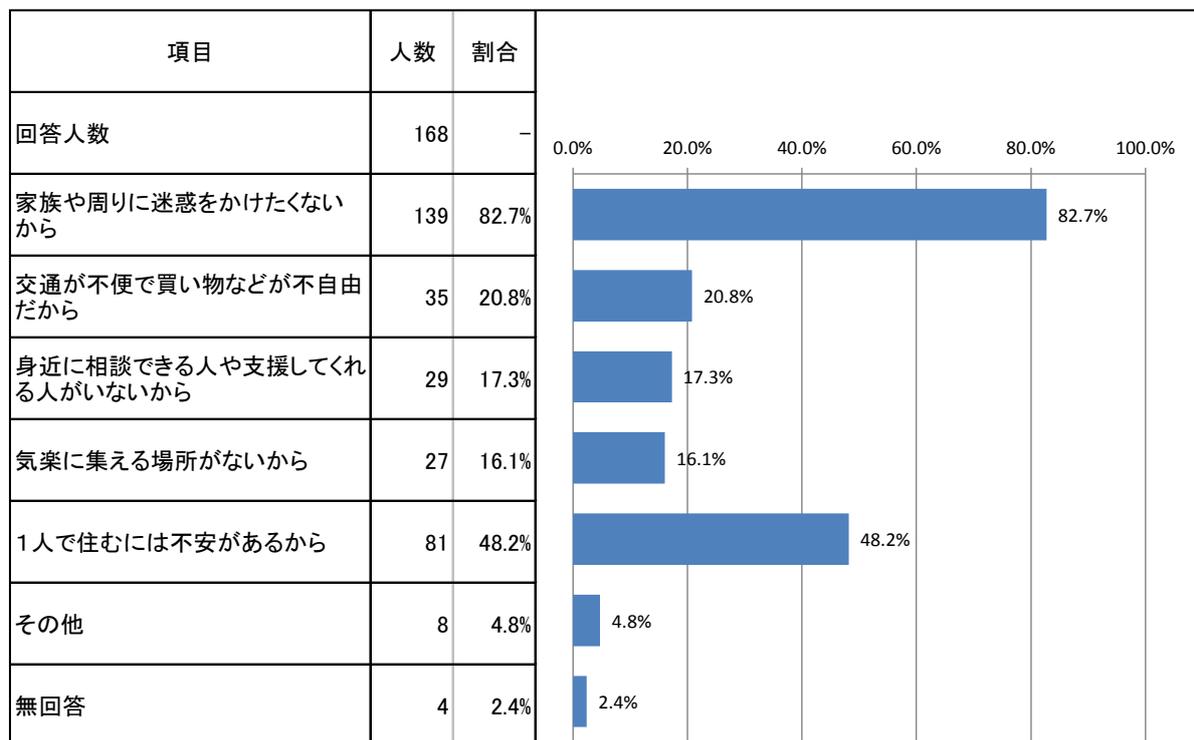
年齢別では、65歳～74歳の「老人ホームなどの施設への転居希望」が 19.7%で、75歳以上の 14.4%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
住み慣れた我が家(地域)での生活を希望	739	74.5%	393	75.9%	338	73.5%	8	57.1%	321	73.5%	401	76.2%	17	58.6%
転居し、親族等との同居を希望	23	2.3%	10	1.9%	13	2.8%	0	0.0%	11	2.5%	12	2.3%	0	0.0%
老人ホームなどの施設への転居希望	168	16.9%	86	16.6%	80	17.4%	2	14.3%	86	19.7%	76	14.4%	6	20.7%
無回答	62	6.3%	29	5.6%	29	6.3%	4	28.6%	19	4.3%	37	7.0%	6	20.7%

※問 38 で『③老人ホームなどの施設への転居希望』とご回答された方にお聞きします。

問 39 老人ホームなどの施設への転居を希望する理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

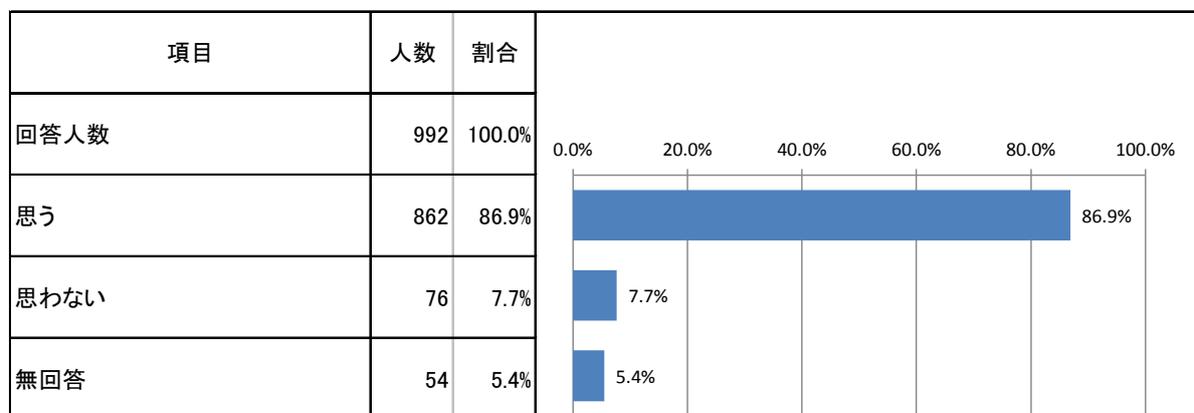
老人ホームなどへの転居希望理由については、「家族や周りに迷惑をかけたくないから」が 82.7%と最も多く、次いで「1人で住むには不安があるから」が 48.2%、「交通が不便で買い物などが不自由だから」が 20.8%となっている。



【高齢者】

問 40 現在の住まいは住みやすいと思いますか。（ひとつに○）

現在の住まいは住みやすいと思うかについては、「思う」が 86.9%、「思わない」が 7.7%となっている。



【属性別特徴】

性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

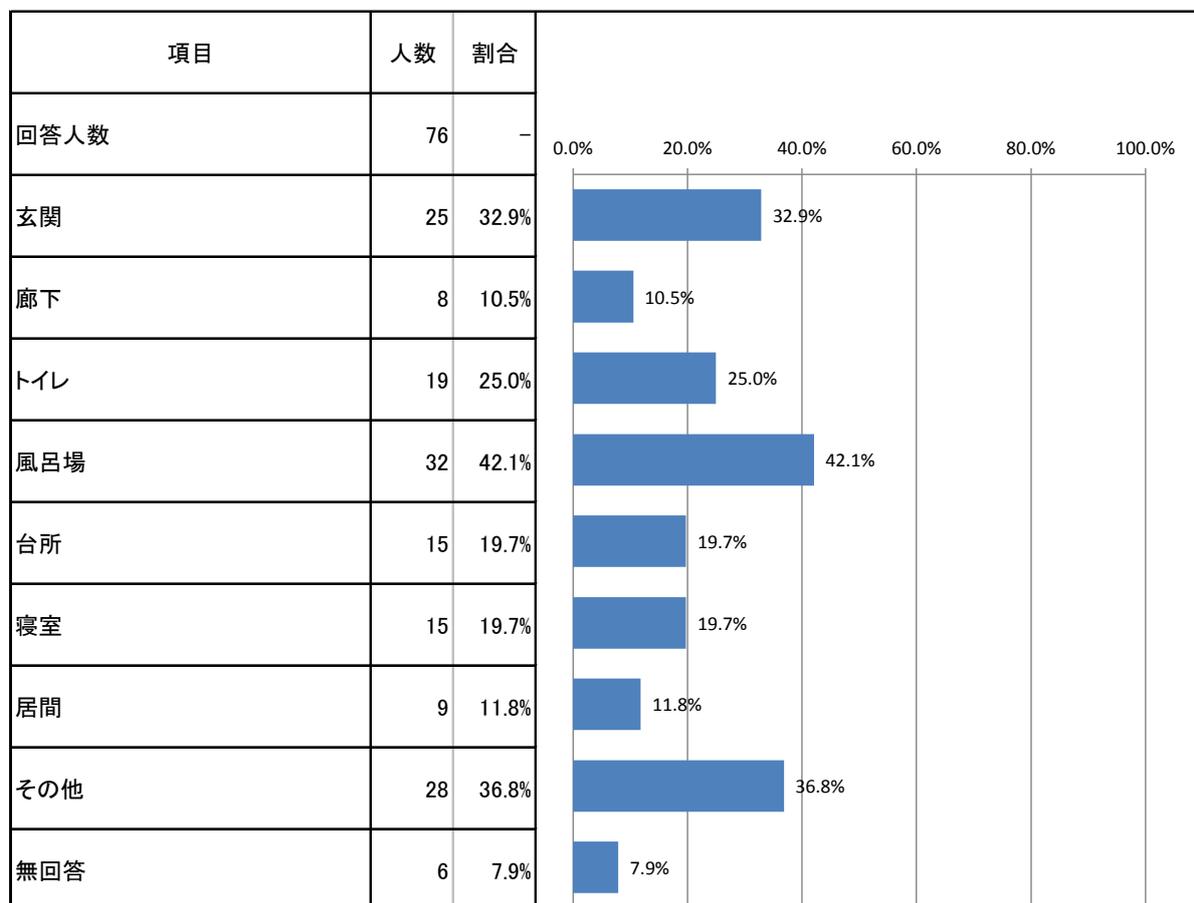
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
思う	862	86.9%	457	88.2%	398	86.5%	7	50.0%	391	89.5%	451	85.7%	20	69.0%
思わない	76	7.7%	35	6.8%	39	8.5%	2	14.3%	35	8.0%	40	7.6%	1	3.4%
無回答	54	5.4%	26	5.0%	23	5.0%	5	35.7%	11	2.5%	35	6.7%	8	27.6%

※問 40 で『② 思わない』とご回答された方にお聞きします。

問 41 住みづらいと思われる場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

住みづらいと思う場所については、「風呂場」が 42.1%と最も多く、次いで「玄関」が 32.9%、「トイレ」が 25.0%となっている。

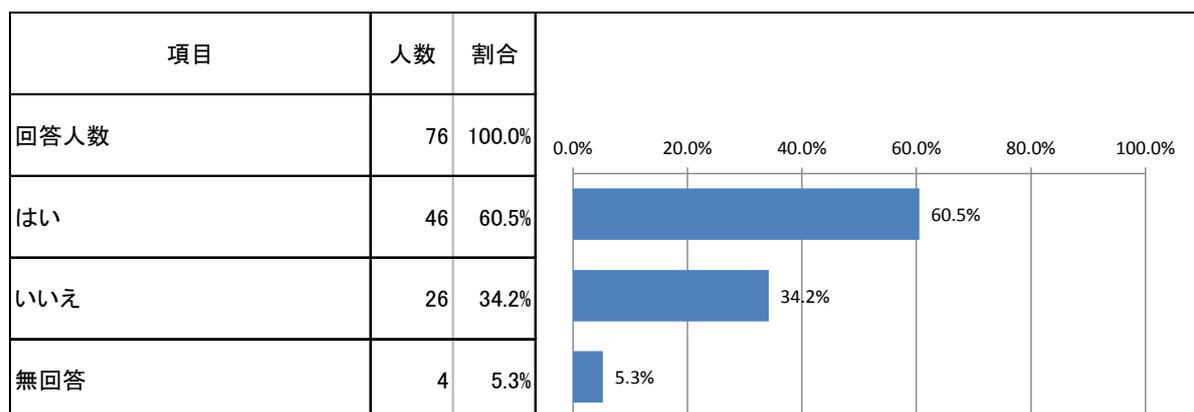
「その他」の具体的な内容としては、「階段」等が挙げられた。



問 42 在宅生活を続けるために、今後、住宅改修が必要とお考えですか。

(ひとつに○)

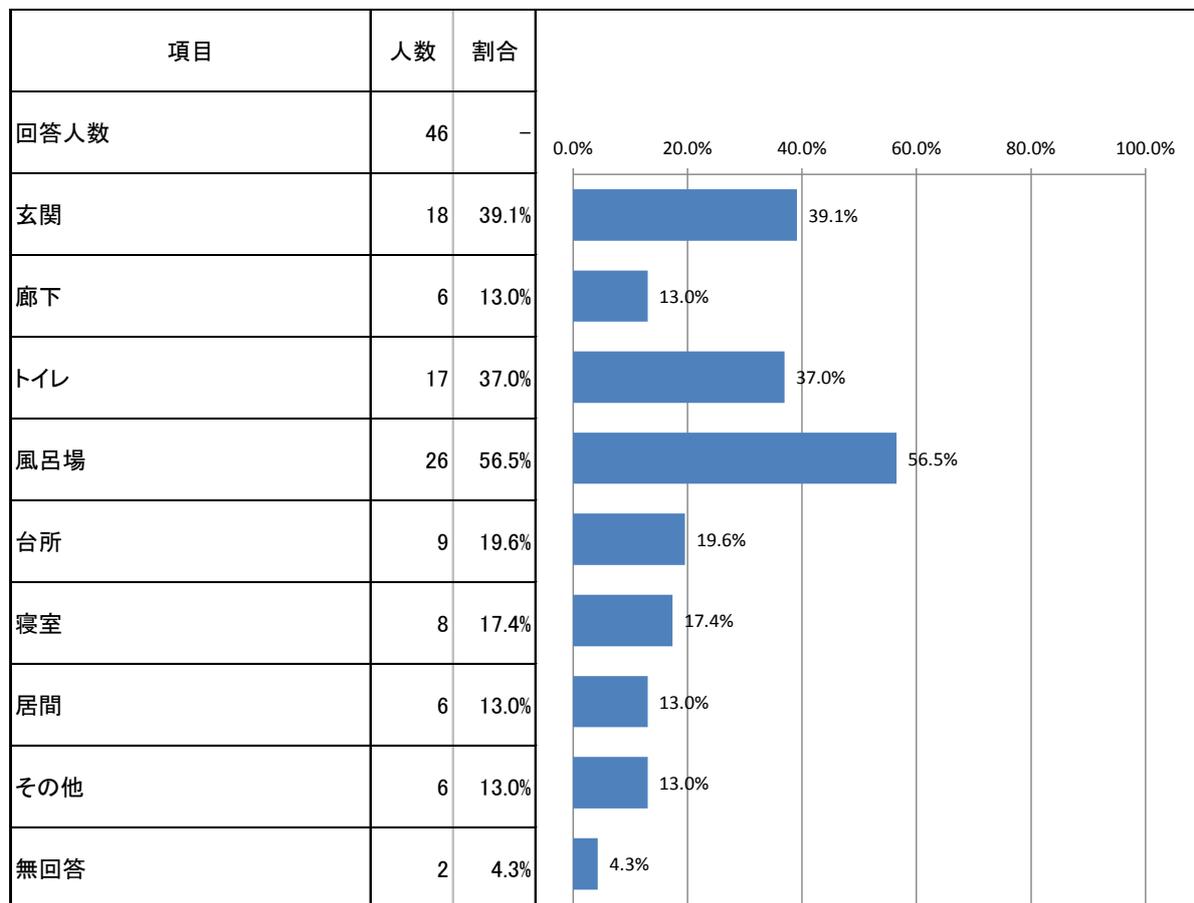
住宅改修の必要性については、「はい」が 60.5%、「いいえ」が 34.2%となっている。



問 43 問 42 で『① はい』とご回答された方にお聞きします。
どこを改修したいですか。(あてはまるものすべてに○)

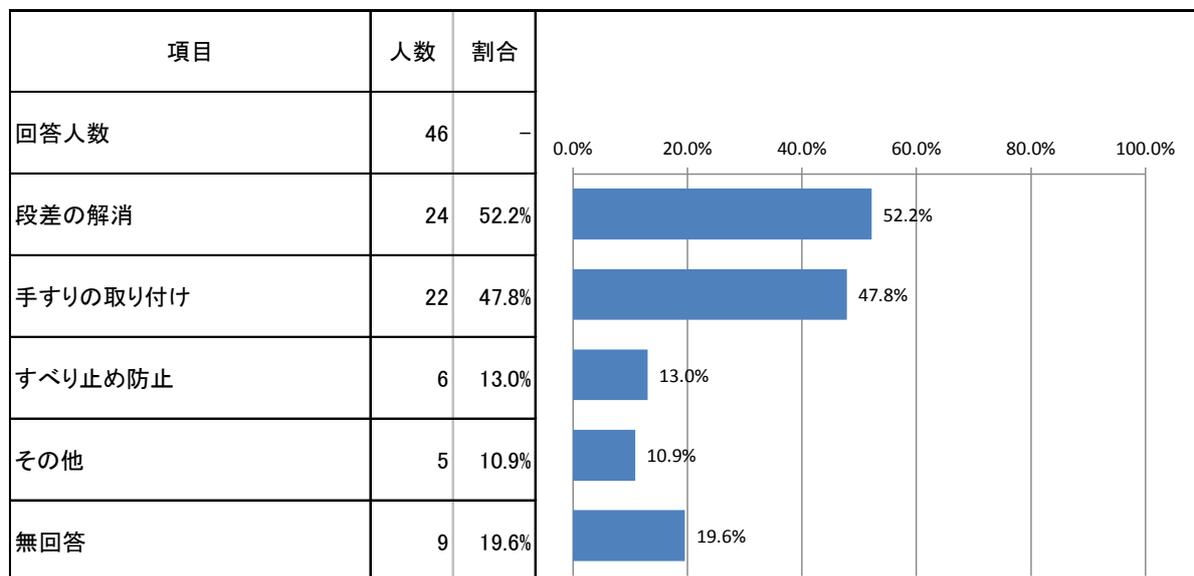
(場所)

住宅改修が必要な場所については、「風呂場」が 56.5%と最も多く、次いで「玄関」が 39.1%、「トイレ」が 37.0%となっている。



(内容)

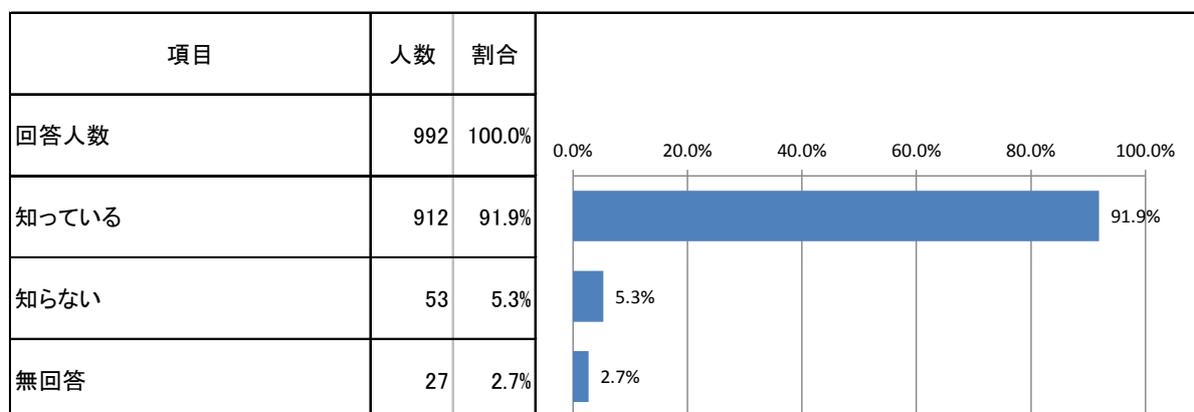
住宅改修の内容については、「段差の解消」が 52.2%と最も多く、次いで「手すりの取り付け」が 47.8%、「すべり止め防止」が 13.0%となっている。



【高齢者】

問 44 あなたは認知症についてご存知ですか。(ひとつに○)

認知症の認知度については、「知っている」が 91.9%、「知らない」が 5.3%となっている。



【属性別特徴】

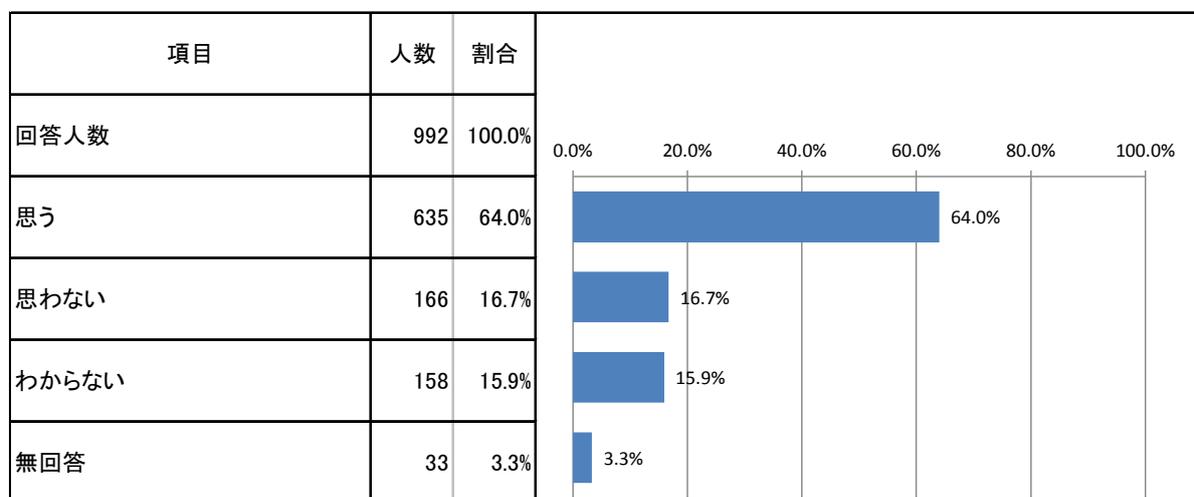
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っている	912	91.9%	488	94.2%	415	90.2%	9	64.3%	415	95.0%	476	90.5%	21	72.4%
知らない	53	5.3%	21	4.1%	30	6.5%	2	14.3%	16	3.7%	35	6.7%	2	6.9%
無回答	27	2.7%	9	1.7%	15	3.3%	3	21.4%	6	1.4%	15	2.9%	6	20.7%

【高齢者】

問 45 あなたは、認知症は病気だと思いますか。(ひとつに○)

認知症は病気だと思うかについては、「思う」が 64.0%と最も多く、次いで「思わない」が 16.7%、「わからない」が 15.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

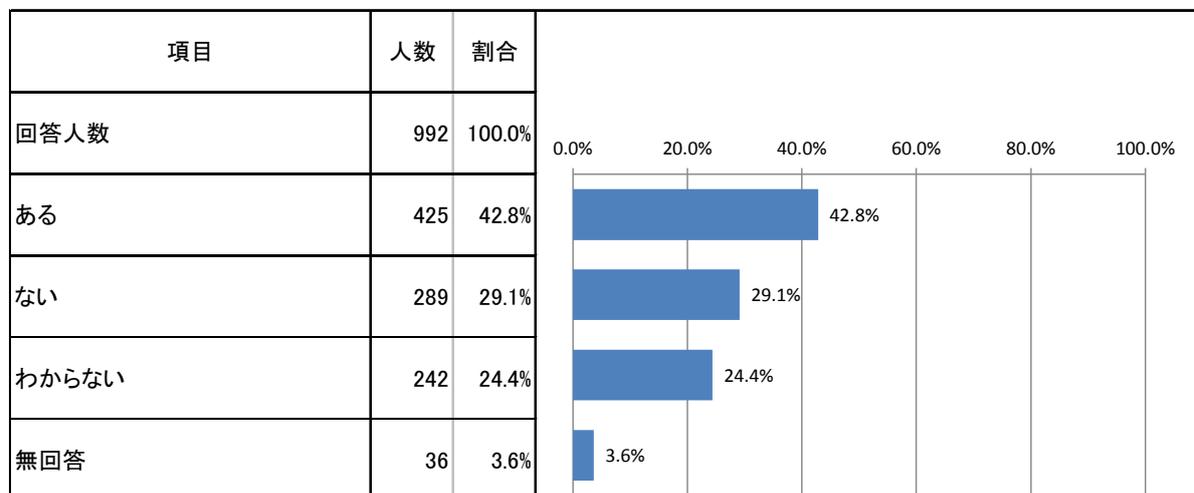
年齢別では、65歳～74歳の「思う」が 67.3%で、75歳以上の 61.8%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
思う	635	64.0%	342	66.0%	285	62.0%	8	57.1%	294	67.3%	325	61.8%	16	55.2%
思わない	166	16.7%	85	16.4%	78	17.0%	3	21.4%	80	18.3%	82	15.6%	4	13.8%
わからない	158	15.9%	77	14.9%	81	17.6%	0	0.0%	57	13.0%	98	18.6%	3	10.3%
無回答	33	3.3%	14	2.7%	16	3.5%	3	21.4%	6	1.4%	21	4.0%	6	20.7%

【高齢者】

問 46 あなたは、ご自身について、認知症に対する不安や心配がありますか。
(ひとつに〇)

認知症に対する不安や心配があるかについては、「ある」が 42.8%と最も多く、次いで「ない」が 29.1%、「わからない」が 24.4%となっている。



【属性別特徴】

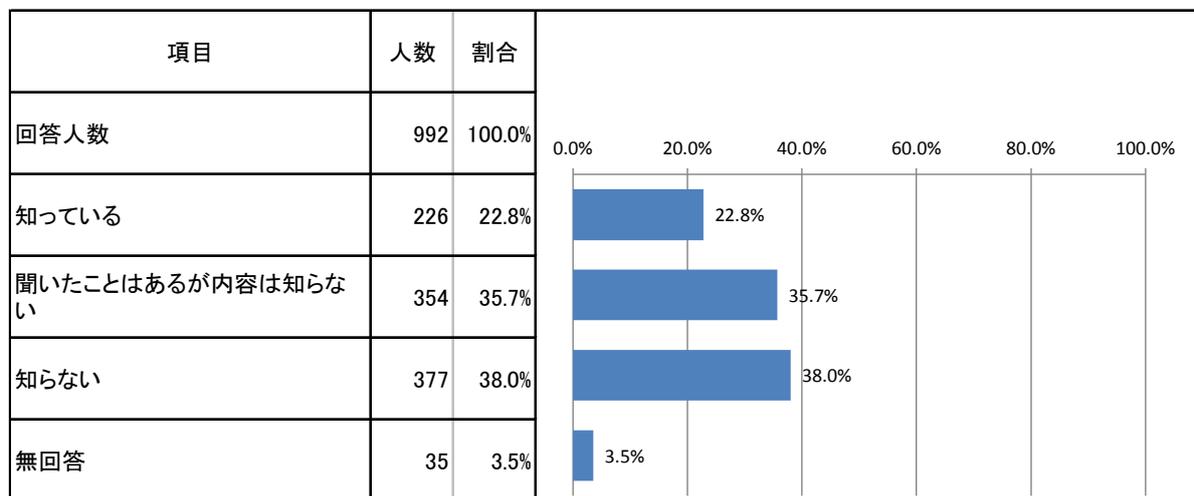
性別では、女の「ある」が 49.1%で、男の 37.5%に比べて高くなっている。
年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
ある	425	42.8%	194	37.5%	226	49.1%	5	35.7%	186	42.6%	225	42.8%	14	48.3%
ない	289	29.1%	184	35.5%	102	22.2%	3	21.4%	128	29.3%	156	29.7%	5	17.2%
わからない	242	24.4%	122	23.6%	117	25.4%	3	21.4%	116	26.5%	122	23.2%	4	13.8%
無回答	36	3.6%	18	3.5%	15	3.3%	3	21.4%	7	1.6%	23	4.4%	6	20.7%

【高齢者】

問 47 認知症サポーター（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（ひとつに○）

認知症サポーターについては、「知らない」が 38.0%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」が 35.7%、「知っている」が 22.8%となっている。



【属性別特徴】

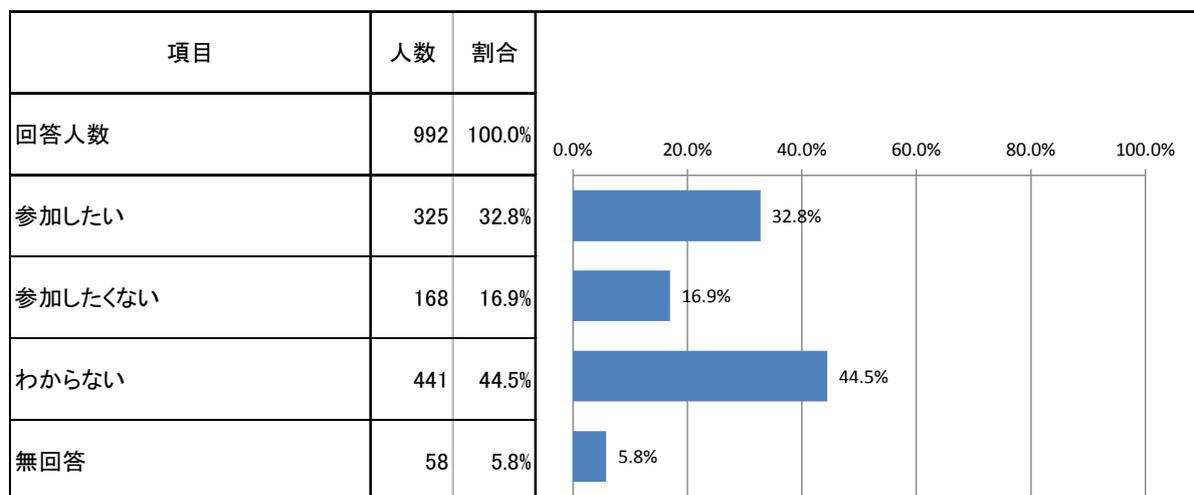
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っている	226	22.8%	105	20.3%	116	25.2%	5	35.7%	105	24.0%	111	21.1%	10	34.5%
聞いたことはあるが内容は知らない	354	35.7%	194	37.5%	156	33.9%	4	28.6%	148	33.9%	201	38.2%	5	17.2%
知らない	377	38.0%	207	40.0%	168	36.5%	2	14.3%	176	40.3%	193	36.7%	8	27.6%
無回答	35	3.5%	12	2.3%	20	4.3%	3	21.4%	8	1.8%	21	4.0%	6	20.7%

【高齢者】

問 48 あなたは、認知症についての勉強会に参加したいと思いますか。(ひとつに○)

認知症の勉強会に参加したいかについては、「わからない」が 44.5%と最も多く、次いで「参加したい」が 32.8%、「参加したくない」が 16.9%となっている。



【属性別特徴】

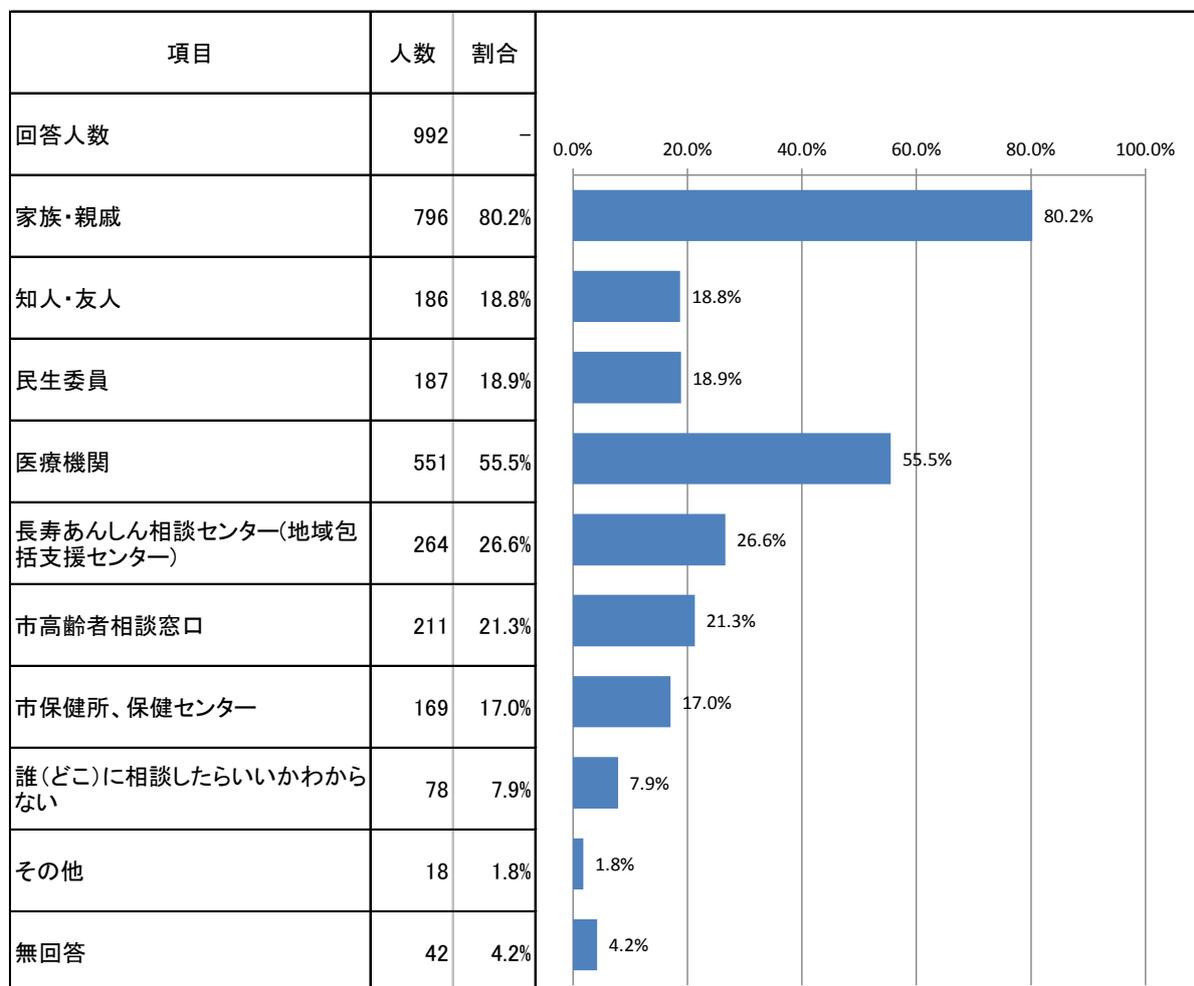
性別では、女の「参加したい」が 37.0%で、男の 28.6%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
参加したい	325	32.8%	148	28.6%	170	37.0%	7	50.0%	150	34.3%	165	31.4%	10	34.5%
参加したくない	168	16.9%	93	18.0%	73	15.9%	2	14.3%	62	14.2%	100	19.0%	6	20.7%
わからない	441	44.5%	251	48.5%	188	40.9%	2	14.3%	205	46.9%	228	43.3%	8	27.6%
無回答	58	5.8%	26	5.0%	29	6.3%	3	21.4%	20	4.6%	33	6.3%	5	17.2%

問 49 あなたが自身や家族について認知症に関する不安をもったとき、相談したいと考えるのは誰(どこ)ですか。(あてはまるものすべてに○)

認知症の相談先については、「家族・親戚」が 80.2%と最も多く、次いで「医療機関」が 55.5%、「長寿あんしん相談センター（地域包括支援センター）」が 26.6%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男の「市高齢者相談窓口」が 25.1%で、女の 17.4%に比べてやや高くなっている。

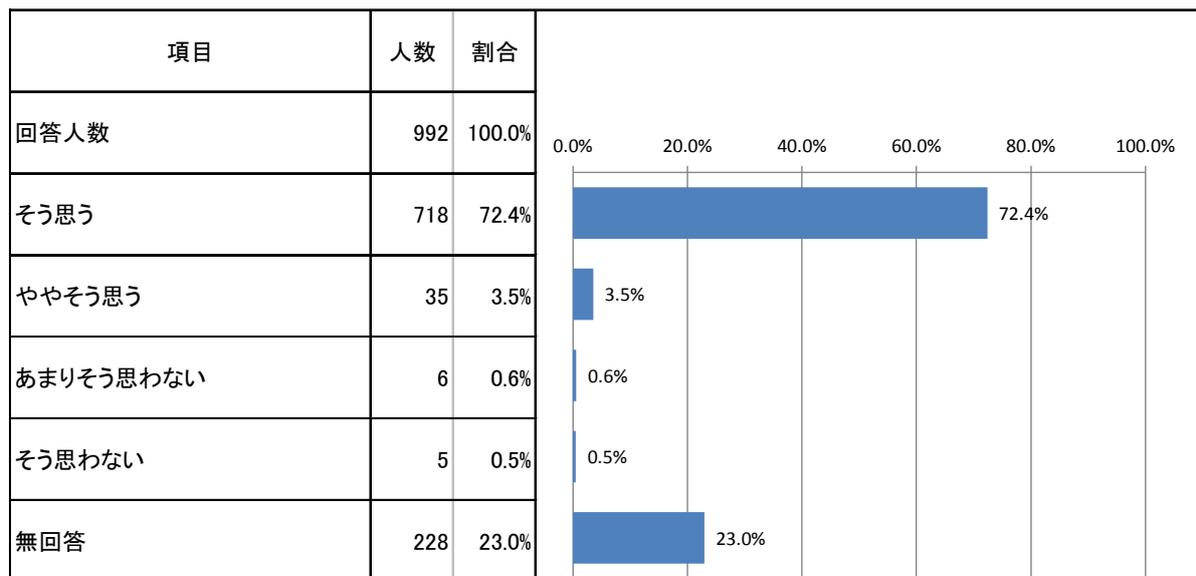
年齢別では、75歳以上の「民生委員」が 21.5%で、65歳～74歳の 16.0%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	-	518	-	460	-	14	-	437	-	526	-	29	-
家族・親戚	796	80.2%	412	79.5%	375	81.5%	9	64.3%	346	79.2%	431	81.9%	19	65.5%
知人・友人	186	18.8%	95	18.3%	89	19.3%	2	14.3%	90	20.6%	92	17.5%	4	13.8%
民生委員	187	18.9%	99	19.1%	85	18.5%	3	21.4%	70	16.0%	113	21.5%	4	13.8%
医療機関	551	55.5%	304	58.7%	243	52.8%	4	28.6%	261	59.7%	283	53.8%	7	24.1%
長寿あんしん相談センター(地域包括支援センター)	264	26.6%	129	24.9%	133	28.9%	2	14.3%	113	25.9%	146	27.8%	5	17.2%
市高齢者相談窓口	211	21.3%	130	25.1%	80	17.4%	1	7.1%	104	23.8%	103	19.6%	4	13.8%
市保健所、保健センター	169	17.0%	101	19.5%	68	14.8%	0	0.0%	80	18.3%	86	16.3%	3	10.3%
誰(どこ)に相談したらいいかわからない	78	7.9%	43	8.3%	35	7.6%	0	0.0%	35	8.0%	40	7.6%	3	10.3%
その他	18	1.8%	10	1.9%	8	1.7%	0	0.0%	5	1.1%	13	2.5%	0	0.0%
無回答	42	4.2%	16	3.1%	22	4.8%	4	28.6%	10	2.3%	27	5.1%	5	17.2%

問 50 配偶者等からの暴力は、多くの場合女が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのように思われますか。（AからFの項目ごとにひとつに○）

A ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為であると思う

ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為であると思うかについては、「そう思う」が 72.4%と最も多く、次いで「ややそう思う」が 3.5%、「あまりそう思わない」が 0.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「そう思う」が 76.6%で、女の 68.7%に比べてやや高くなっている。

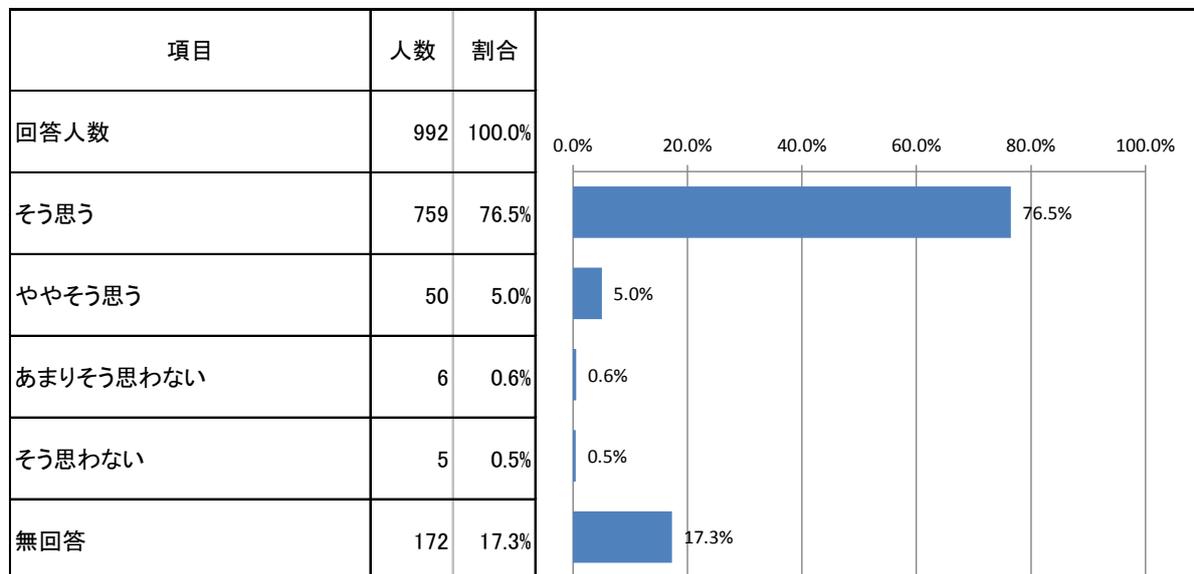
年齢別では、65歳～74歳の「そう思う」が 84.2%で、75歳以上の 64.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
そう思う	718	72.4%	397	76.6%	316	68.7%	5	35.7%	368	84.2%	340	64.6%	10	34.5%
ややそう思う	35	3.5%	20	3.9%	15	3.3%	0	0.0%	16	3.7%	18	3.4%	1	3.4%
あまりそう思わない	6	0.6%	3	0.6%	3	0.7%	0	0.0%	3	0.7%	2	0.4%	1	3.4%
そう思わない	5	0.5%	4	0.8%	1	0.2%	0	0.0%	2	0.5%	3	0.6%	0	0.0%
無回答	228	23.0%	94	18.1%	125	27.2%	9	64.3%	48	11.0%	163	31.0%	17	58.6%

【高齢者】

B どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思う

どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思うかについては、「そう思う」が76.5%と最も多く、次いで「ややそう思う」が5.0%、「あまりそう思わない」が0.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

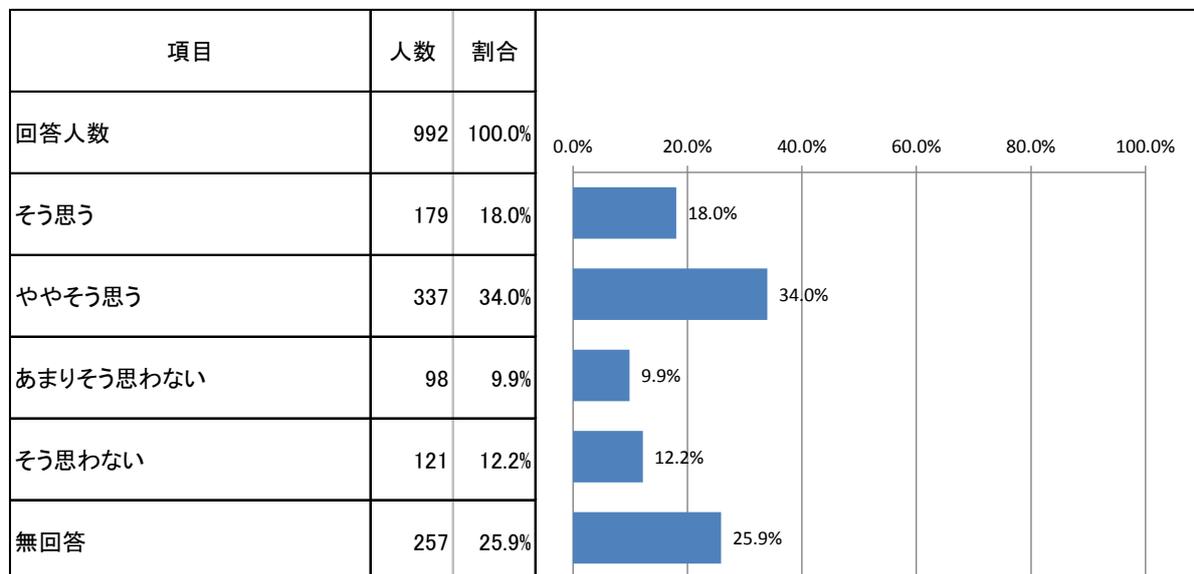
年齢別では、65歳～74歳の「そう思う」が83.1%で、75歳以上の73.4%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
そう思う	759	76.5%	402	77.6%	352	76.5%	5	35.7%	363	83.1%	386	73.4%	10	34.5%
ややそう思う	50	5.0%	36	6.9%	14	3.0%	0	0.0%	35	8.0%	14	2.7%	1	3.4%
あまりそう思わない	6	0.6%	5	1.0%	1	0.2%	0	0.0%	2	0.5%	3	0.6%	1	3.4%
そう思わない	5	0.5%	5	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	4	0.8%	0	0.0%
無回答	172	17.3%	70	13.5%	93	20.2%	9	64.3%	36	8.2%	119	22.6%	17	58.6%

【高齢者】

C 暴力をふるわれる方にも問題があると思う

暴力をふるわれる方にも問題があると思うかについては、「ややそう思う」が 34.0%と最も多く、次いで「そう思う」が 18.0%、「そう思わない」が 12.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「そう思う」が 21.0%で、女の 15.0%に比べてやや高くなっている。

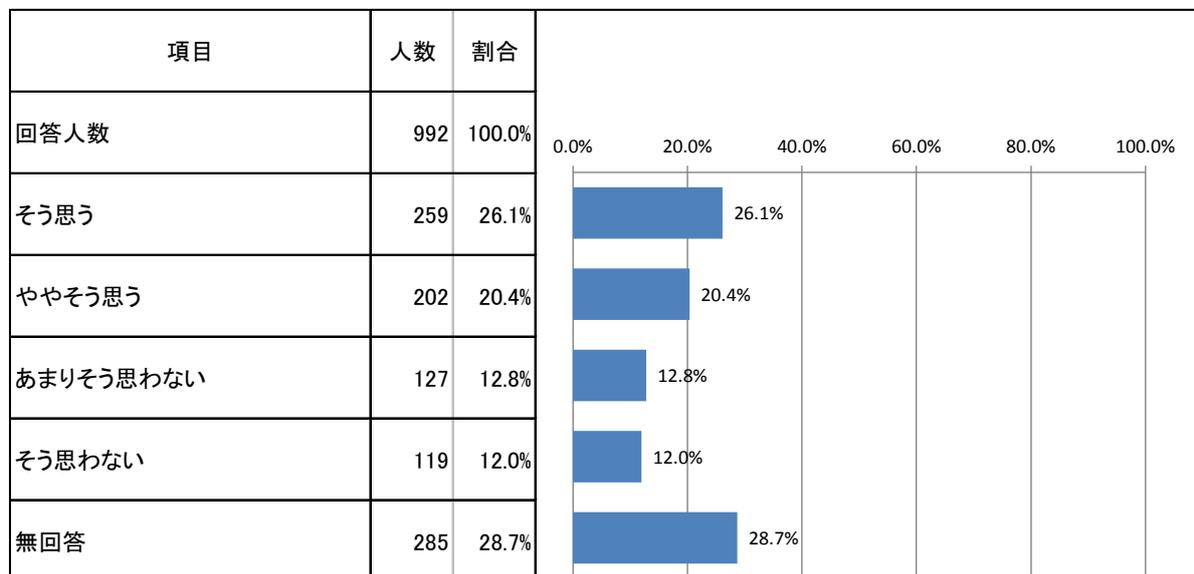
年齢別では、65歳～74歳の「ややそう思う」が 43.2%で、75歳以上の 27.2%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
そう思う	179	18.0%	109	21.0%	69	15.0%	1	7.1%	89	20.4%	89	16.9%	1	3.4%
ややそう思う	337	34.0%	189	36.5%	146	31.7%	2	14.3%	189	43.2%	143	27.2%	5	17.2%
あまりそう思わない	98	9.9%	51	9.8%	47	10.2%	0	0.0%	44	10.1%	51	9.7%	3	10.3%
そう思わない	121	12.2%	59	11.4%	60	13.0%	2	14.3%	54	12.4%	65	12.4%	2	6.9%
無回答	257	25.9%	110	21.2%	138	30.0%	9	64.3%	61	14.0%	178	33.8%	18	62.1%

【高齢者】

D 暴力をふるう相手から別れたいと思えばいつでも別れられると思う

暴力をふるう相手といつでも別れられると思うかについては、「そう思う」が26.1%と最も多く、次いで「ややそう思う」が20.4%、「あまりそう思わない」が12.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

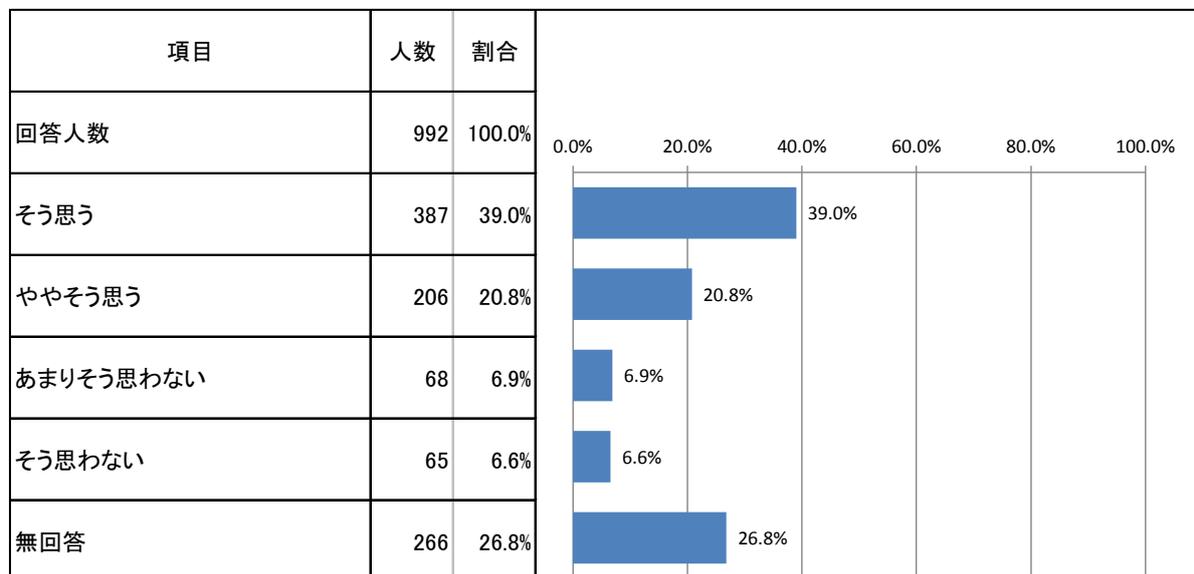
年齢別では、65歳～74歳の「ややそう思う」が24.9%で、75歳以上の17.1%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
そう思う	259	26.1%	143	27.6%	114	24.8%	2	14.3%	132	30.2%	124	23.6%	3	10.3%
ややそう思う	202	20.4%	108	20.8%	92	20.0%	2	14.3%	109	24.9%	90	17.1%	3	10.3%
あまりそう思わない	127	12.8%	74	14.3%	52	11.3%	1	7.1%	67	15.3%	55	10.5%	5	17.2%
そう思わない	119	12.0%	65	12.5%	54	11.7%	0	0.0%	52	11.9%	67	12.7%	0	0.0%
無回答	285	28.7%	128	24.7%	148	32.2%	9	64.3%	77	17.6%	190	36.1%	18	62.1%

【高齢者】

E 暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思う

暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思うかについては、「そう思う」が39.0%と最も多く、次いで「ややそう思う」が20.8%、「あまりそう思わない」が6.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「そう思う」が41.9%で、女の36.1%に比べてやや高くなっている。

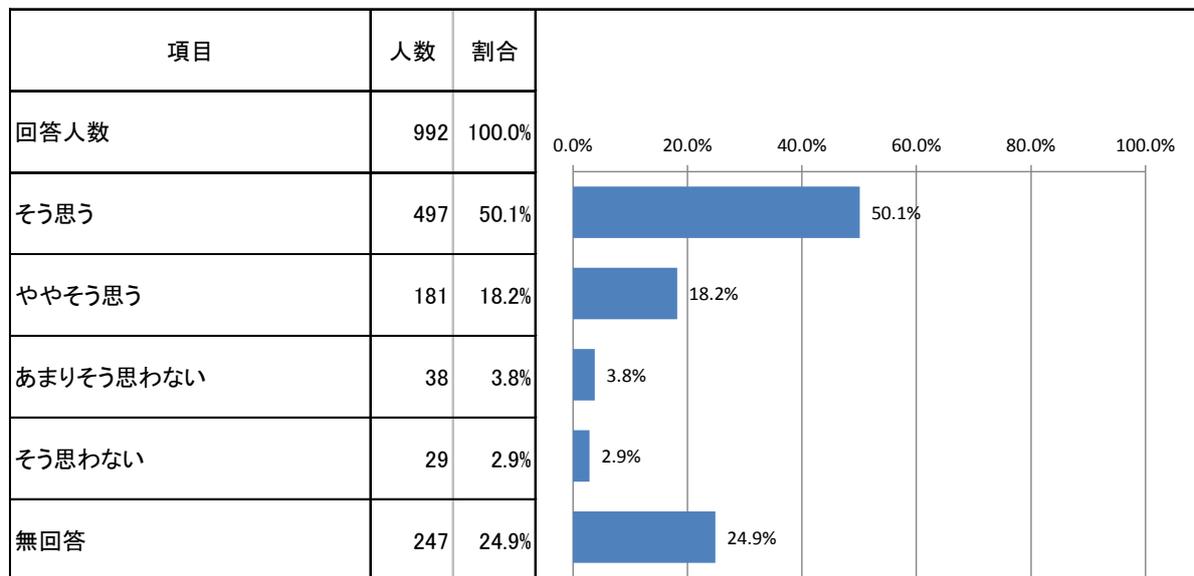
年齢別では、65歳～74歳の「ややそう思う」が25.9%で、75歳以上の16.7%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
そう思う	387	39.0%	217	41.9%	166	36.1%	4	28.6%	191	43.7%	193	36.7%	3	10.3%
ややそう思う	206	20.8%	105	20.3%	100	21.7%	1	7.1%	113	25.9%	88	16.7%	5	17.2%
あまりそう思わない	68	6.9%	41	7.9%	27	5.9%	0	0.0%	35	8.0%	31	5.9%	2	6.9%
そう思わない	65	6.6%	39	7.5%	26	5.7%	0	0.0%	36	8.2%	28	5.3%	1	3.4%
無回答	266	26.8%	116	22.4%	141	30.7%	9	64.3%	62	14.2%	186	35.4%	18	62.1%

【高齢者】

F 夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わ
べきであると思う

夫婦間の暴力であっても、行政などの相談機関が積極的に関わらるべきである
と思うかについては、「そう思う」が 50.1%と最も多く、次いで「ややそう思う」が
18.2%、「あまりそう思わない」が 3.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「そう思う」が 54.6%で、女の 45.7%に比べてやや高
くなっている。

年齢別では、65歳～74歳の「そう思う」が 56.5%で、75歳以上の 46.6%
に比べてやや高くなっている。

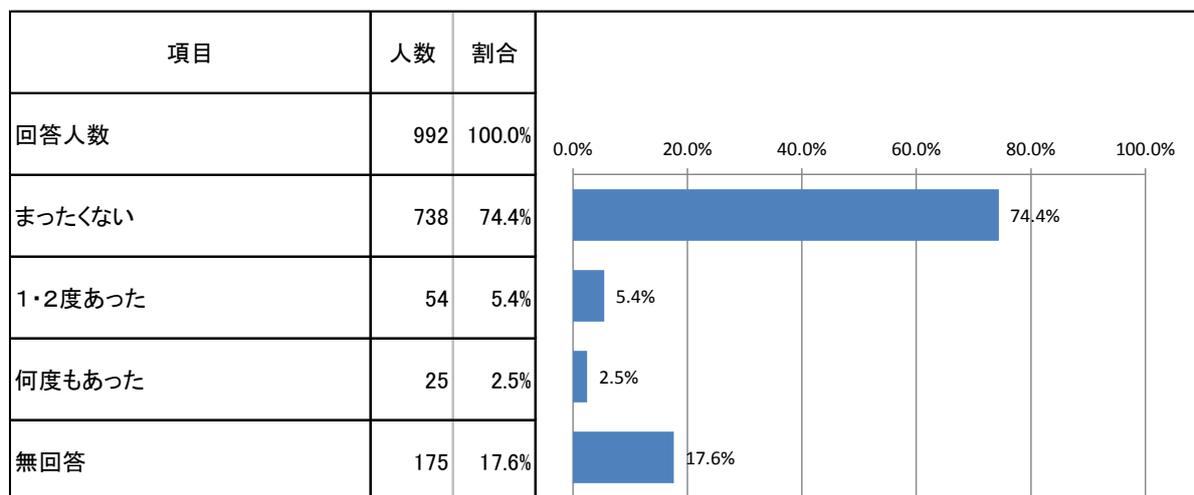
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
そう思う	497	50.1%	283	54.6%	210	45.7%	4	28.6%	247	56.5%	245	46.6%	5	17.2%
ややそう思う	181	18.2%	94	18.1%	86	18.7%	1	7.1%	97	22.2%	79	15.0%	5	17.2%
あまりそう思わない	38	3.8%	20	3.9%	18	3.9%	0	0.0%	21	4.8%	17	3.2%	0	0.0%
そう思わない	29	2.9%	15	2.9%	14	3.0%	0	0.0%	12	2.7%	16	3.0%	1	3.4%
無回答	247	24.9%	106	20.5%	132	28.7%	9	64.3%	60	13.7%	169	32.1%	18	62.1%

【高齢者】

問 51 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(AからCの項目ごとにひとつに○)

A なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた

身体に対する暴行を受けた経験については、「まったくない」が74.4%と最も多く、次いで「1・2度あった」が5.4%、「何度もあった」が2.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」が8.7%で、男の2.7%に比べてやや高くなっている。

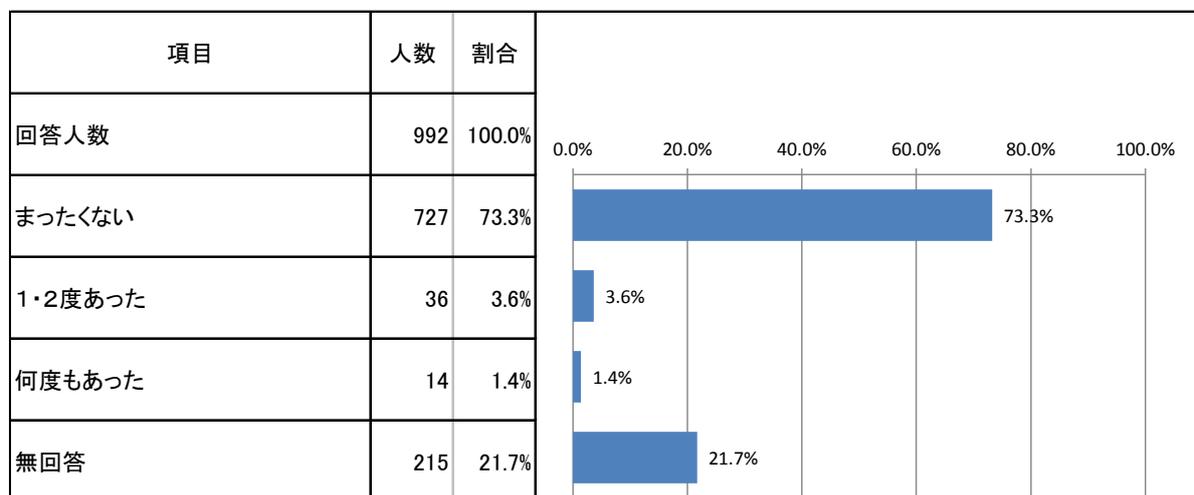
年齢別では、65歳～74歳の「1・2度あった」が9.2%で、75歳以上の2.7%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
まったくない	738	74.4%	421	81.3%	311	67.6%	6	42.9%	340	77.8%	382	72.6%	16	55.2%
1・2度あった	54	5.4%	14	2.7%	40	8.7%	0	0.0%	40	9.2%	14	2.7%	0	0.0%
何度もあった	25	2.5%	2	0.4%	23	5.0%	0	0.0%	17	3.9%	8	1.5%	0	0.0%
無回答	175	17.6%	81	15.6%	86	18.7%	8	57.1%	40	9.2%	122	23.2%	13	44.8%

【高齢者】

B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

精神的苦痛を受けた経験については、「まったくない」が 73.3%と最も多く、次いで「1・2度あった」が 3.6%、「何度もあった」が 1.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「まったくない」が 77.6%で、女の 69.3%に比べてやや高くなっている。

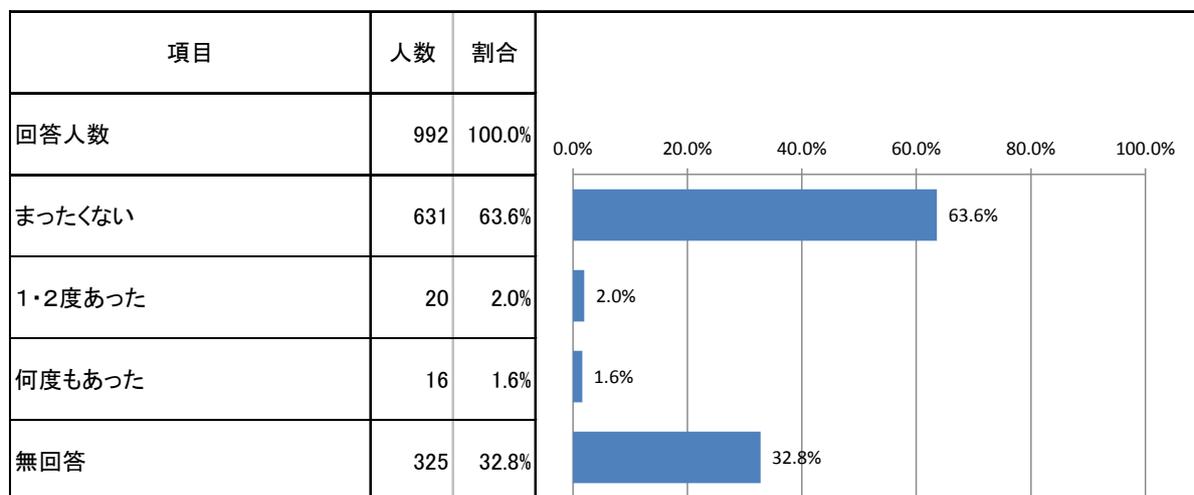
年齢別では、65歳～74歳の「まったくない」が 80.1%で、75歳以上の 69.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
まったくない	727	73.3%	402	77.6%	319	69.3%	6	42.9%	350	80.1%	366	69.6%	11	37.9%
1・2度あった	36	3.6%	17	3.3%	19	4.1%	0	0.0%	21	4.8%	12	2.3%	3	10.3%
何度もあった	14	1.4%	1	0.2%	13	2.8%	0	0.0%	10	2.3%	4	0.8%	0	0.0%
無回答	215	21.7%	98	18.9%	109	23.7%	8	57.1%	56	12.8%	144	27.4%	15	51.7%

【高齢者】

C 避妊に協力しなかったり、嫌がっているのに性的な行為を強要された

性的な行為を強要された経験については、「まったくない」が63.6%と最も多く、次いで「1・2度あった」が2.0%、「何度もあった」が1.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「まったくない」が70.5%で、75歳以上の59.3%に比べて高くなっている。

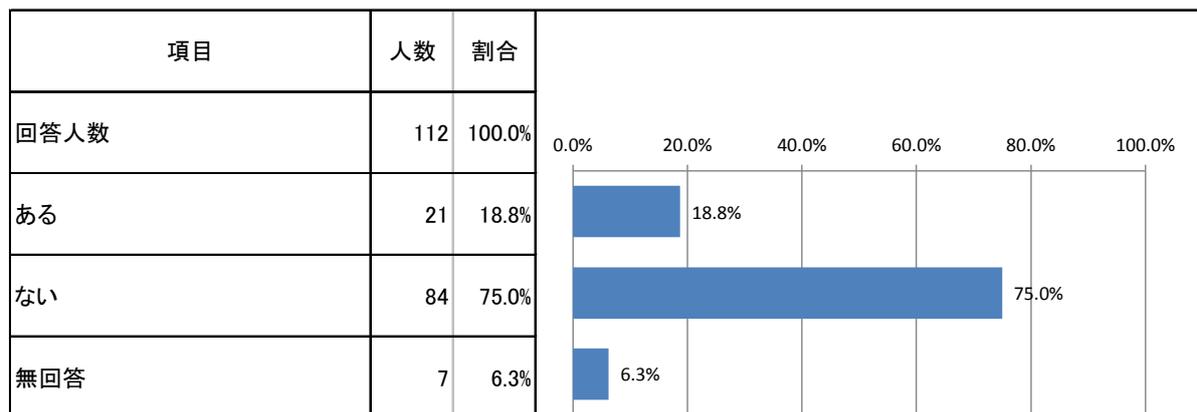
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
まったくない	631	63.6%	337	65.1%	291	63.3%	3	21.4%	308	70.5%	312	59.3%	11	37.9%
1・2度あった	20	2.0%	2	0.4%	17	3.7%	1	7.1%	14	3.2%	5	1.0%	1	3.4%
何度もあった	16	1.6%	0	0.0%	16	3.5%	0	0.0%	10	2.3%	5	1.0%	1	3.4%
無回答	325	32.8%	179	34.6%	136	29.6%	10	71.4%	105	24.0%	204	38.8%	16	55.2%

【高齢者】

※問 51 で『②1・2度あった』または『③何度もあった』とご回答された方にお聞きします。

問 51-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(ひとつに○)

受けた暴力による命の危険については、「ある」が 18.8%、「ない」が 75.0%となっている。



【属性別特徴】

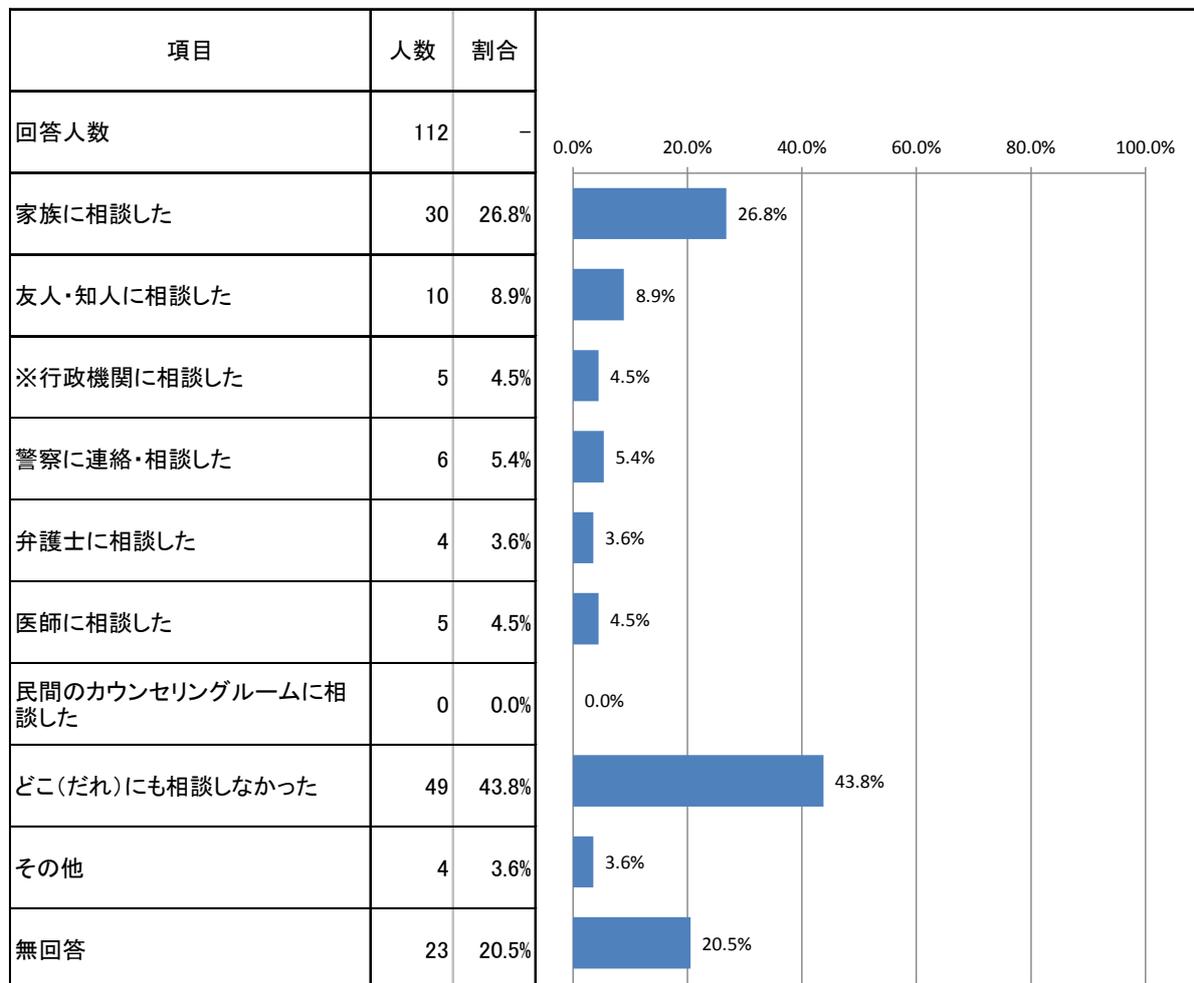
性別では、女の「ある」が 21.0%で、男の 13.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、65歳～74歳の「ない」が 75.7%で、75歳以上の 70.6%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	112	100.0%	30	100.0%	81	100.0%	1	100.0%	74	100.0%	34	100.0%	4	100.0%
ある	21	18.8%	4	13.3%	17	21.0%	0	0.0%	15	20.3%	6	17.6%	0	0.0%
ない	84	75.0%	22	73.3%	61	75.3%	1	100.0%	56	75.7%	24	70.6%	4	100.0%
無回答	7	6.3%	4	13.3%	3	3.7%	0	0.0%	3	4.1%	4	11.8%	0	0.0%

問 51-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

受けた暴力に対する相談については、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が43.8%と最も多く、次いで「家族に相談した」が26.8%、「友人・知人に相談した」が8.9%となっている。



※行政機関（鹿児島市男女共同参画センター（サンエールかごしま相談室）、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市子どもと女性の相談室、鹿児島県女性相談センター、保健所、保健センター、法務局など）

【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、女の「家族に相談した」が 35.8%で、男の 3.3%に比べてかなり高くなっている。

また、女の「どこ（だれ）にも相談したくなかった」が 46.9%で、男の 36.7%に比べて高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「家族に相談した」が 32.4%で、65歳～74歳の 23.0%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	112	-	30	-	81	-	1	-	74	-	34	-	4	-
家族に相談した	30	26.8%	1	3.3%	29	35.8%	0	0.0%	17	23.0%	11	32.4%	2	50.0%
友人・知人に相談した	10	8.9%	1	3.3%	9	11.1%	0	0.0%	8	10.8%	2	5.9%	0	0.0%
※行政機関に相談した	5	4.5%	2	6.7%	3	3.7%	0	0.0%	4	5.4%	1	2.9%	0	0.0%
警察に連絡・相談した	6	5.4%	2	6.7%	4	4.9%	0	0.0%	5	6.8%	1	2.9%	0	0.0%
弁護士に相談した	4	3.6%	1	3.3%	3	3.7%	0	0.0%	2	2.7%	2	5.9%	0	0.0%
医師に相談した	5	4.5%	2	6.7%	3	3.7%	0	0.0%	4	5.4%	1	2.9%	0	0.0%
民間のカウンセリングルームに相談した	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
どこ（だれ）にも相談しなかった	49	43.8%	11	36.7%	38	46.9%	0	0.0%	34	45.9%	14	41.2%	1	25.0%
その他	4	3.6%	2	6.7%	2	2.5%	0	0.0%	3	4.1%	1	2.9%	0	0.0%
無回答	23	20.5%	12	40.0%	10	12.3%	1	100.0%	13	17.6%	9	26.5%	1	25.0%

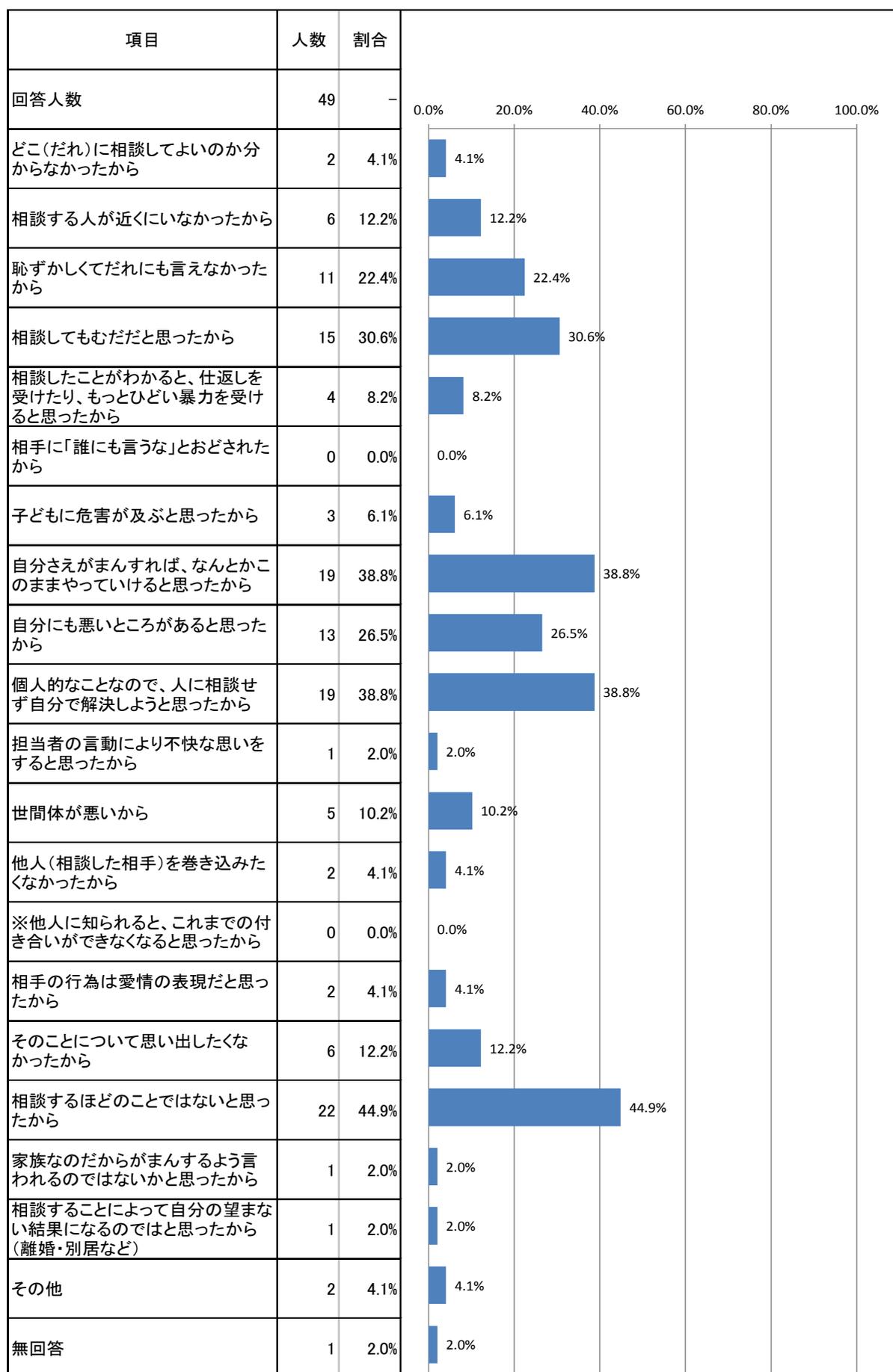
※行政機関（鹿児島市男女共同参画センター（サンエールかごしま相談室）、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市子どもと女性の相談室、鹿児島県女性相談センター、保健所、保健センター、法務局など）

※問 51-2 で「⑧どこ（だれ）にも相談しなかった」とご回答された方にお聞きします。

問 51-3 どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。
(あてはまるものすべてに○)

受けた暴力に対して相談をしなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 44.9%と最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから」が 38.8%となっている。

【高齢者】



※他人(相談したいと思っている相手)に知られると、これまでの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから

【属性別特徴】

性別では、女の「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が44.7%で、男の18.2%に比べて高くなっている。

また、女の「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が26.3%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が28.9%、「世間体が悪いから」が13.2%で、男の9.1%、18.2%、0.0%に比べてそれぞれ高くなっている。

年齢別では、75歳以上の「相談してもむだだと思ったから」が57.1%で、65歳～74歳の20.6%に比べてかなり高くなっている。

また、75歳以上では、「世間体が悪いから」が21.4%、「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」が14.3%で、65歳～74歳の5.9%、0.0%に比べて高くなっており、65歳～74歳では、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が26.5%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が32.4%、「相談するほどのことではないと思ったから」が50.0%で、75歳以上の14.3%、14.3%、35.7%に比べて高くなっている。

【高齢者】

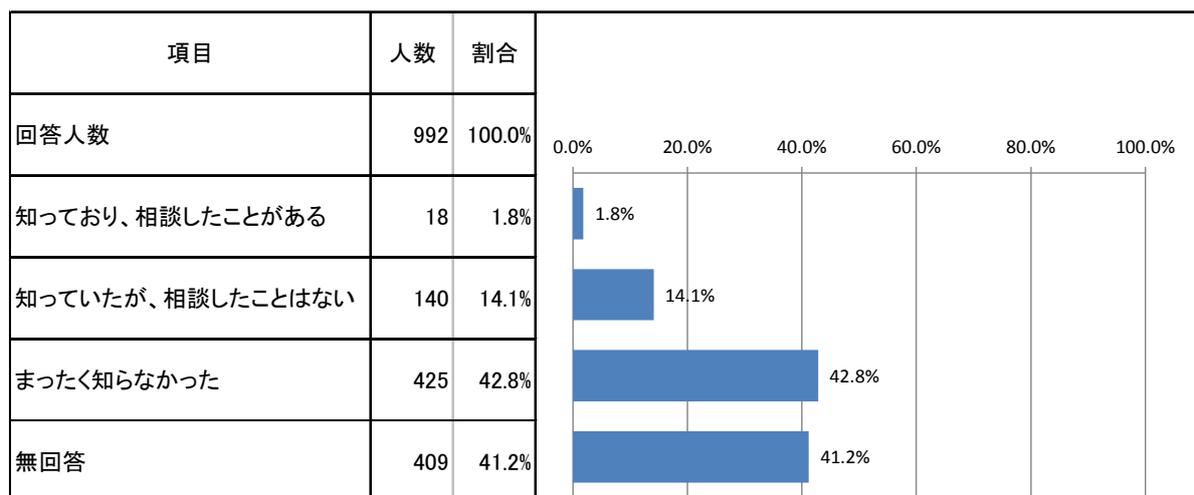
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	49	-	11	-	38	-	0	-	34	-	14	-	1	-
どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	2	4.1%	0	0.0%	2	5.3%	0	0.0%	1	2.9%	1	7.1%	0	0.0%
相談する人が近くにいなかったから	6	12.2%	1	9.1%	5	13.2%	0	0.0%	4	11.8%	2	14.3%	0	0.0%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	11	22.4%	1	9.1%	10	26.3%	0	0.0%	9	26.5%	2	14.3%	0	0.0%
相談してもむだだと思ったから	15	30.6%	3	27.3%	12	31.6%	0	0.0%	7	20.6%	8	57.1%	0	0.0%
相談したことがわかると、返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	4	8.2%	1	9.1%	3	7.9%	0	0.0%	3	8.8%	1	7.1%	0	0.0%
相手に「誰にも言うな」とおどされたから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもに危害が及ぶと思ったから	3	6.1%	0	0.0%	3	7.9%	0	0.0%	2	5.9%	1	7.1%	0	0.0%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	19	38.8%	2	18.2%	17	44.7%	0	0.0%	14	41.2%	5	35.7%	0	0.0%
自分にも悪いところがあると思ったから	13	26.5%	2	18.2%	11	28.9%	0	0.0%	11	32.4%	2	14.3%	0	0.0%
個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから	19	38.8%	4	36.4%	15	39.5%	0	0.0%	14	41.2%	5	35.7%	0	0.0%
担当者の言動により不快な思いをと思ったから	1	2.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
世間体が悪いから	5	10.2%	0	0.0%	5	13.2%	0	0.0%	2	5.9%	3	21.4%	0	0.0%
他人(相談した相手)を巻き込みたくなかったから	2	4.1%	0	0.0%	2	5.3%	0	0.0%	1	2.9%	1	7.1%	0	0.0%
※他人に知られると、これまでの付き合いができなくなると思ったから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	2	4.1%	0	0.0%	2	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	14.3%	0	0.0%
そのことについて思い出しなくなかったから	6	12.2%	1	9.1%	5	13.2%	0	0.0%	5	14.7%	1	7.1%	0	0.0%
相談するほどのことではないと思ったから	22	44.9%	6	54.5%	16	42.1%	0	0.0%	17	50.0%	5	35.7%	0	0.0%
家族なのだからがまんするよう言われるのではないかと思ったから	1	2.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
相談することによって自分の望まない結果になるのではと思ったから(離婚・別居など)	1	2.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
その他	2	4.1%	1	9.1%	1	2.6%	0	0.0%	2	5.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	2.0%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%

※他人(相談したいと思っている相手)に知られると、これまでの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから

問 52 DVについての具体的な相談先や鹿児島市等が発行しているDVに関するパンフレット等について知っていますか。
(AからFの項目ごとにひとつに○)

A サンエールかごしま相談室

サンエールかごしま相談室の認知度については、「まったく知らなかった」が42.8%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が14.1%、「知っており、相談したことがある」が1.8%となっている。



【属性別特徴】

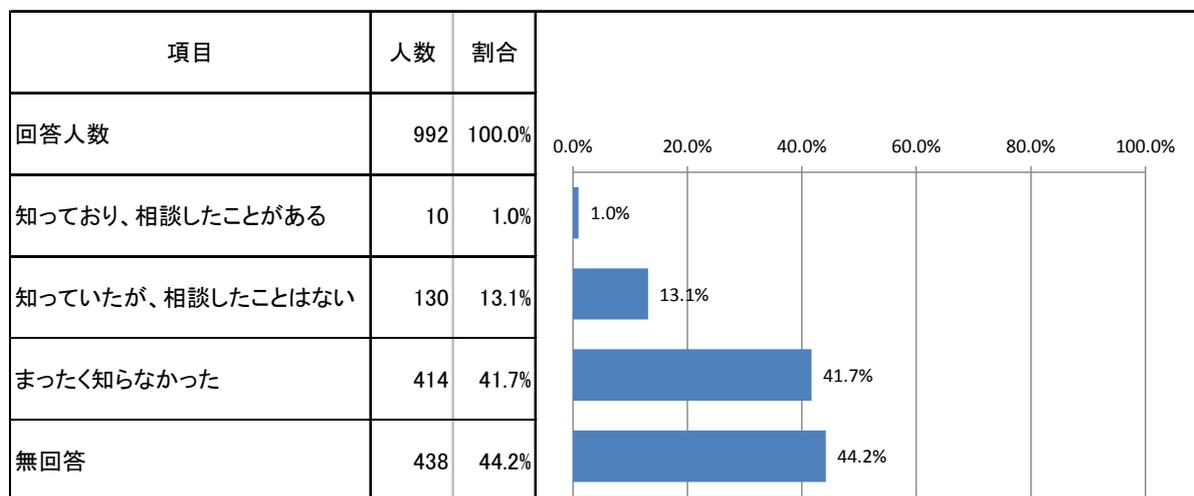
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「まったく知らなかった」が50.8%で、75歳以上の37.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っており、相談したことがある	18	1.8%	10	1.9%	8	1.7%	0	0.0%	9	2.1%	9	1.7%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	140	14.1%	81	15.6%	58	12.6%	1	7.1%	77	17.6%	63	12.0%	0	0.0%
まったく知らなかった	425	42.8%	227	43.8%	196	42.6%	2	14.3%	222	50.8%	195	37.1%	8	27.6%
無回答	409	41.2%	200	38.6%	198	43.0%	11	78.6%	129	29.5%	259	49.2%	21	72.4%

B 鹿児島市子どもと女性の相談室

鹿児島市子どもと女性の相談室の認知度については、「まったく知らなかった」が 41.7%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が 13.1%、「知っており、相談したことがある」が 1.0%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

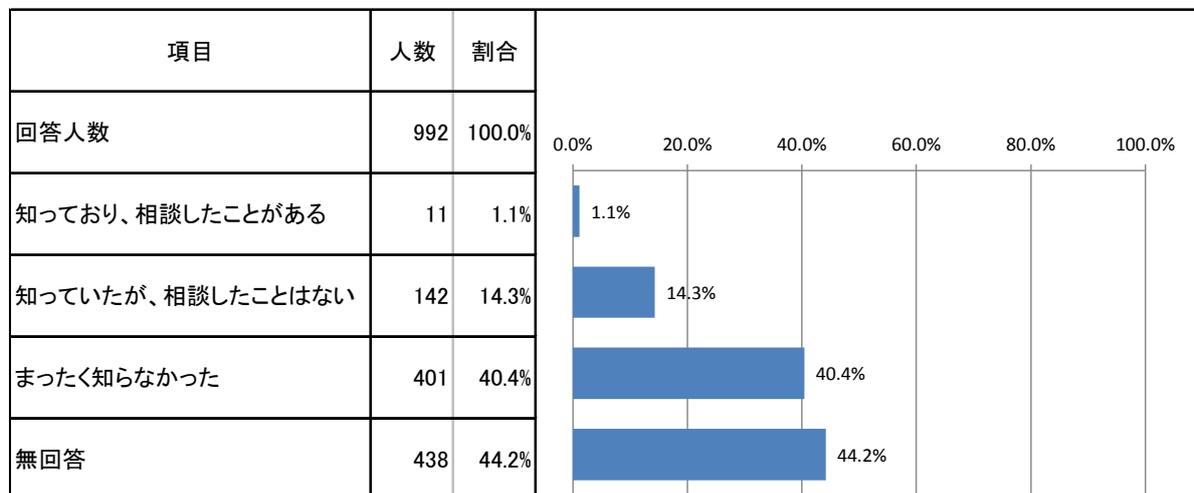
年齢別では、65歳～74歳の「まったく知らなかった」が 50.8%で、75歳以上の 35.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っており、相談したことがある	10	1.0%	4	0.8%	6	1.3%	0	0.0%	5	1.1%	5	1.0%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	130	13.1%	77	14.9%	52	11.3%	1	7.1%	68	15.6%	62	11.8%	0	0.0%
まったく知らなかった	414	41.7%	218	42.1%	194	42.2%	2	14.3%	222	50.8%	184	35.0%	8	27.6%
無回答	438	44.2%	219	42.3%	208	45.2%	11	78.6%	142	32.5%	275	52.3%	21	72.4%

【高齢者】

C 鹿児島県女性相談センター

鹿児島県女性相談センターの認知度については、「まったく知らなかった」が40.4%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が14.3%、「知っており、相談したことがある」が1.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

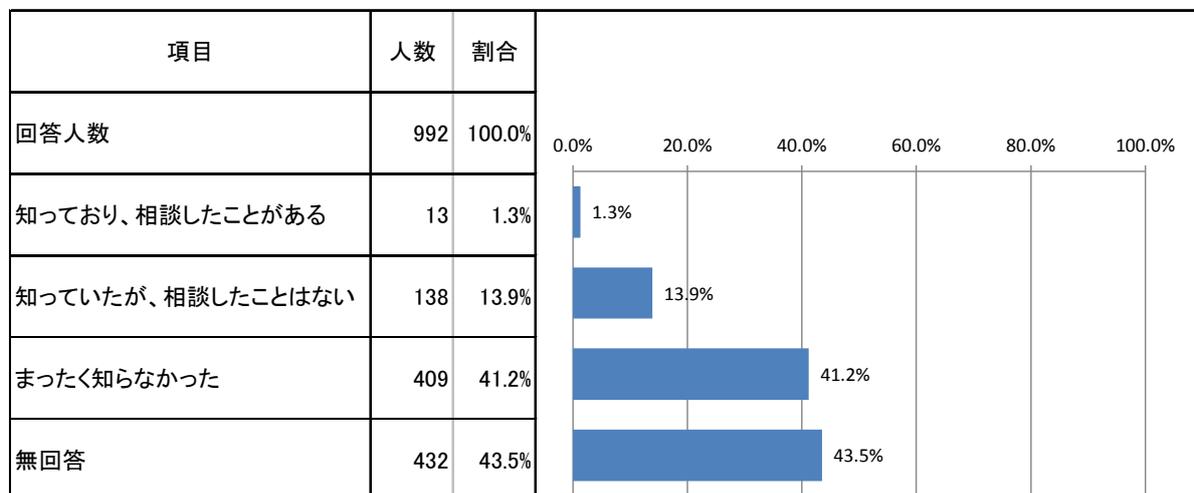
年齢別では、65歳～74歳の「まったく知らなかった」が47.4%で、75歳以上の35.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っており、相談したことがある	11	1.1%	5	1.0%	6	1.3%	0	0.0%	6	1.4%	5	1.0%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	142	14.3%	83	16.0%	58	12.6%	1	7.1%	83	19.0%	59	11.2%	0	0.0%
まったく知らなかった	401	40.4%	210	40.5%	189	41.1%	2	14.3%	207	47.4%	186	35.4%	8	27.6%
無回答	438	44.2%	220	42.5%	207	45.0%	11	78.6%	141	32.3%	276	52.5%	21	72.4%

【高齢者】

D 鹿児島県男女共同参画センター

鹿児島県男女共同参画センターの認知度については、「まったく知らなかった」が 41.2%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が 13.9%、「知っており、相談したことがある」が 1.3%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

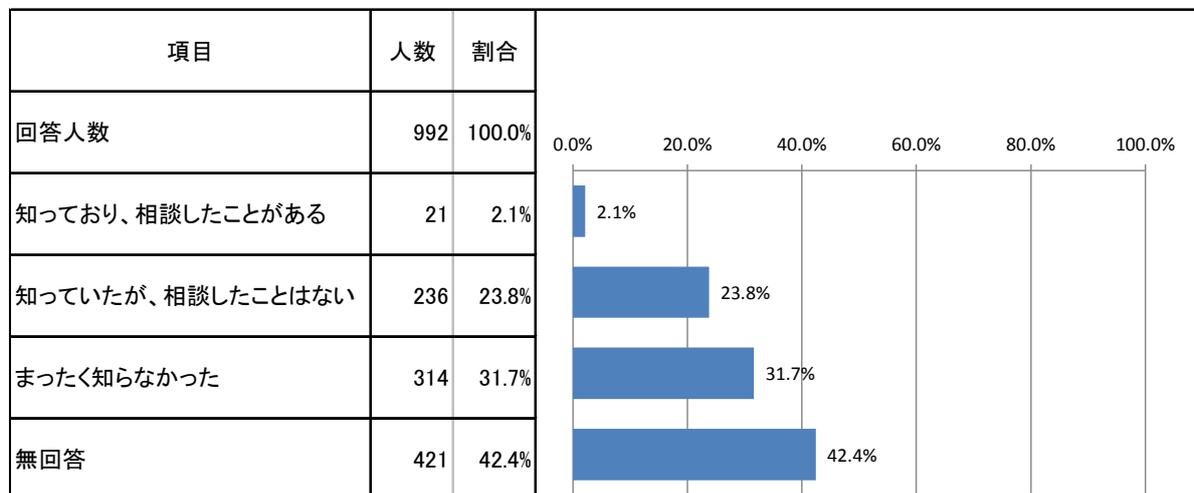
年齢別では、65歳～74歳の「まったく知らなかった」が 48.1%で、75歳以上の 36.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っており、相談したことがある	13	1.3%	6	1.2%	6	1.3%	1	7.1%	5	1.1%	7	1.3%	1	3.4%
知っていたが、相談したことはない	138	13.9%	84	16.2%	52	11.3%	2	14.3%	83	19.0%	55	10.5%	0	0.0%
まったく知らなかった	409	41.2%	215	41.5%	193	42.0%	1	7.1%	210	48.1%	191	36.3%	8	27.6%
無回答	432	43.5%	213	41.1%	209	45.4%	10	71.4%	139	31.8%	273	51.9%	20	69.0%

【高齢者】

E 各警察署生活安全課

各警察署生活安全課の認知度については、「まったく知らなかった」が 31.7%と最も多く、次いで「知っていたが、相談したことはない」が 23.8%、「知っており、相談したことがある」が 2.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「知っていたが、相談したことはない」が 27.6%で、女の 20.0%に比べてやや高くなっている。

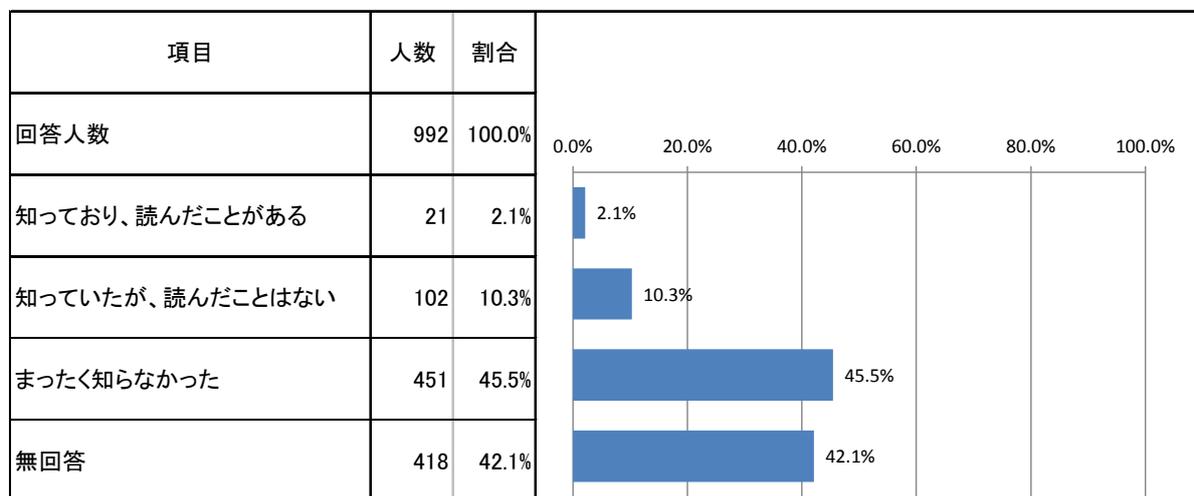
年齢別では、65歳～74歳の「知っていたが、相談したことはない」が 30.9%で、75歳以上の 19.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っており、相談したことがある	21	2.1%	14	2.7%	7	1.5%	0	0.0%	10	2.3%	11	2.1%	0	0.0%
知っていたが、相談したことはない	236	23.8%	143	27.6%	92	20.0%	1	7.1%	135	30.9%	100	19.0%	1	3.4%
まったく知らなかった	314	31.7%	159	30.7%	154	33.5%	1	7.1%	158	36.2%	149	28.3%	7	24.1%
無回答	421	42.4%	202	39.0%	207	45.0%	12	85.7%	134	30.7%	266	50.6%	21	72.4%

【高齢者】

F 鹿児島市等が発行しているDVの相談先を紹介するカードサイズリーフレット等

鹿児島市等が発行しているDVの相談先を紹介するカードサイズリーフレット等の認知度については、「まったく知らなかった」が45.5%と最も多く、次いで「知っていたが、読んだことはない」が10.3%、「知っており、読んだことがある」が2.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

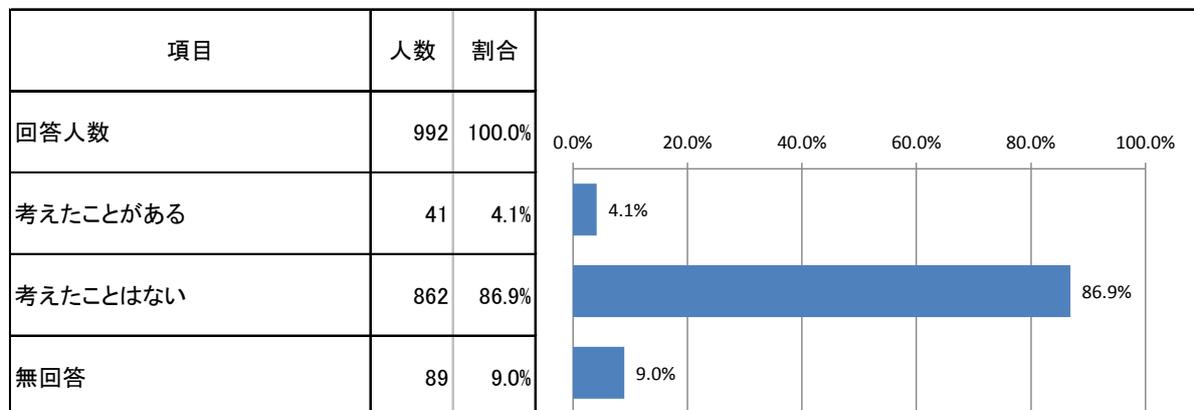
年齢別では、65歳～74歳の「まったく知らなかった」が56.3%で、75歳以上の37.5%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っており、読んだことがある	21	2.1%	12	2.3%	9	2.0%	0	0.0%	7	1.6%	13	2.5%	1	3.4%
知っていたが、読んだことはない	102	10.3%	61	11.8%	40	8.7%	1	7.1%	51	11.7%	50	9.5%	1	3.4%
まったく知らなかった	451	45.5%	241	46.5%	208	45.2%	2	14.3%	246	56.3%	197	37.5%	8	27.6%
無回答	418	42.1%	204	39.4%	203	44.1%	11	78.6%	133	30.4%	266	50.6%	19	65.5%

【高齢者】

問 53 あなたは、この 1 年間で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。
(ひとつに○)

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が 4.1%、「考えたことはない」が 86.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

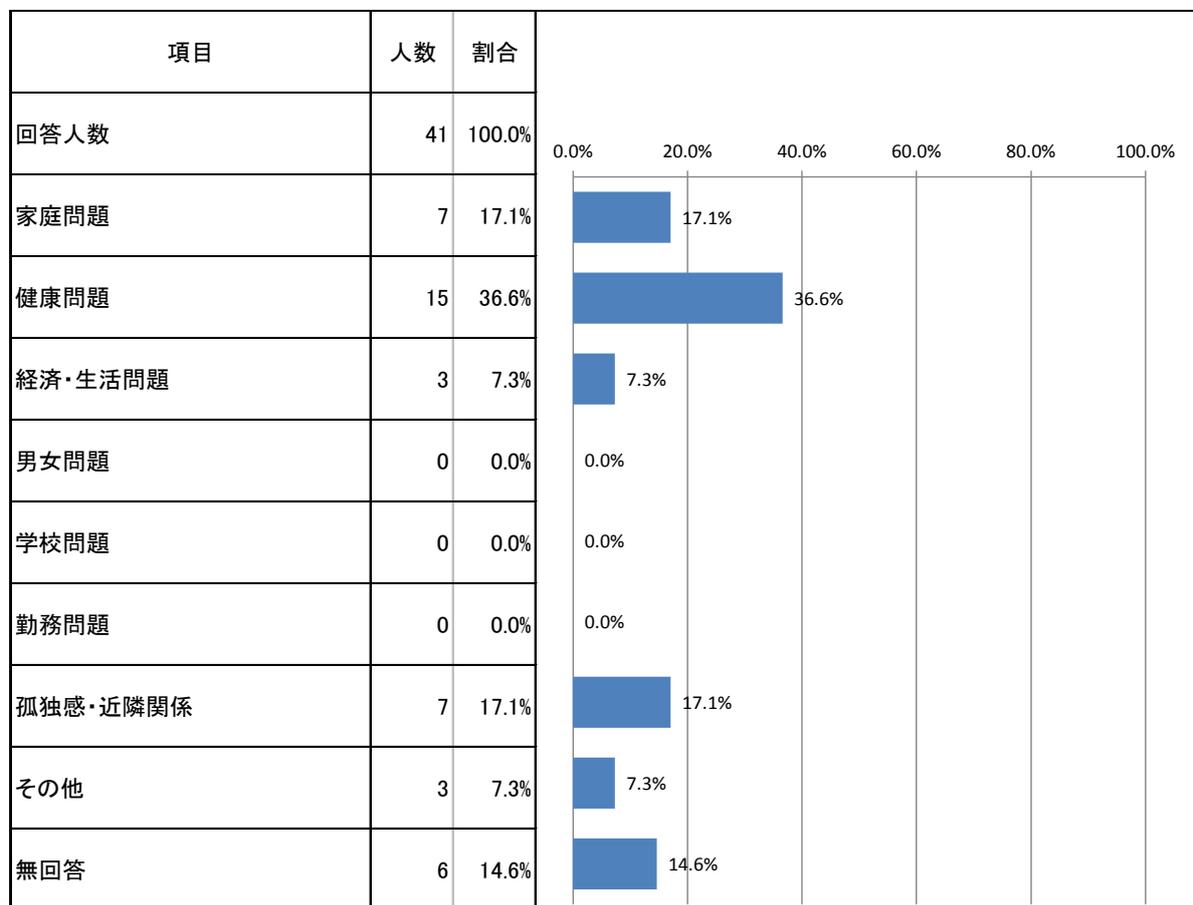
年齢別では、65歳～74歳の「考えたことはない」が 90.8%で、75歳以上の 84.8%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別						
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%	
考えたことがある	41	4.1%	23	4.4%	18	3.9%	0	0.0%	19	4.3%	22	4.2%	0	0.0%	
考えたことはない	862	86.9%	459	88.6%	394	85.7%	9	64.3%	397	90.8%	446	84.8%	19	65.5%	
無回答	89	9.0%	36	6.9%	48	10.4%	5	35.7%	21	4.8%	58	11.0%	10	34.5%	

※問 53 で『①考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

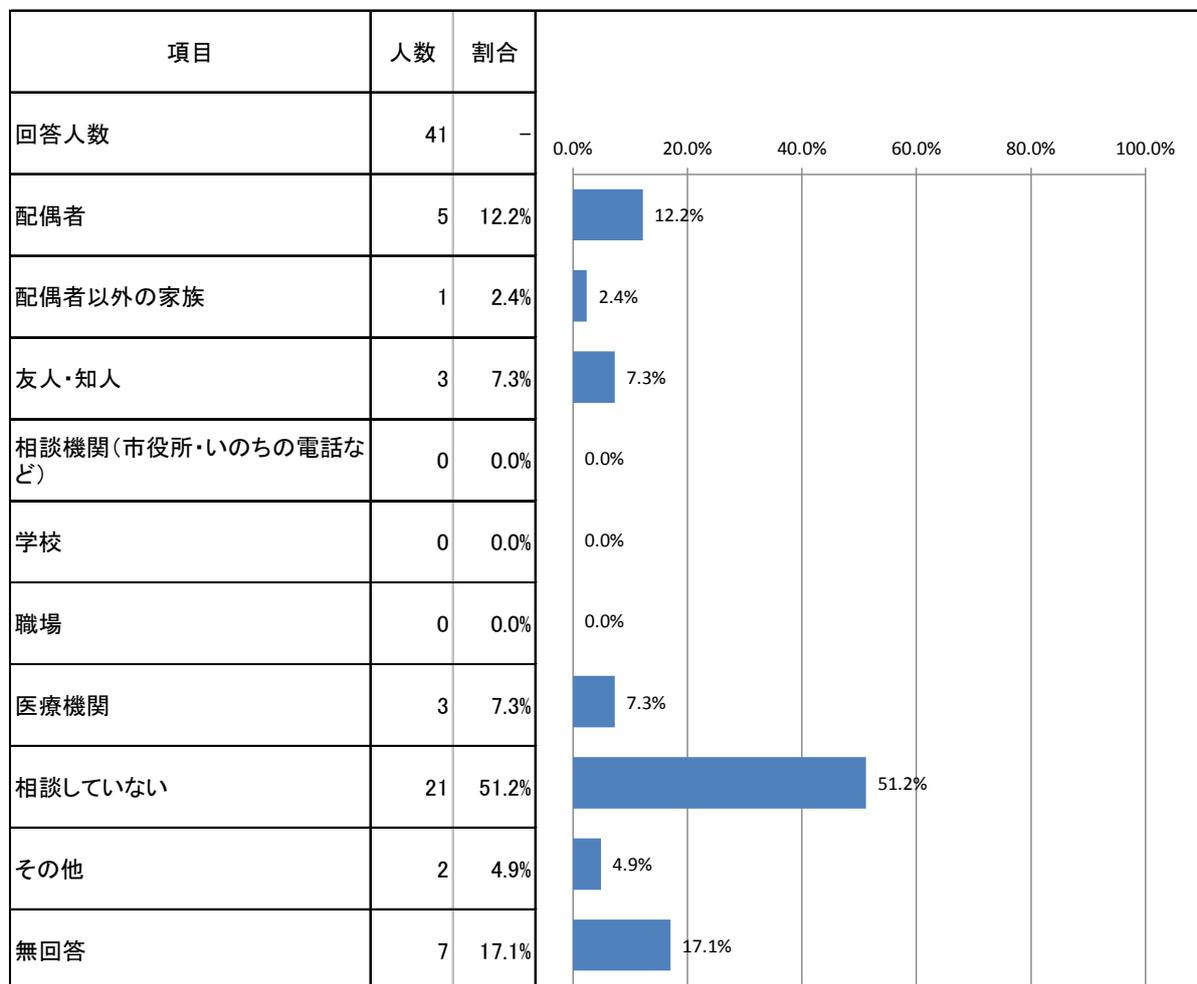
問 53-1 自殺を考えたときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)

自殺したいと考えた一番の原因については、「健康問題」が 36.6%と最も多く、次いで「家庭問題」、「孤独感・近隣関係」が 17.1%となっている。



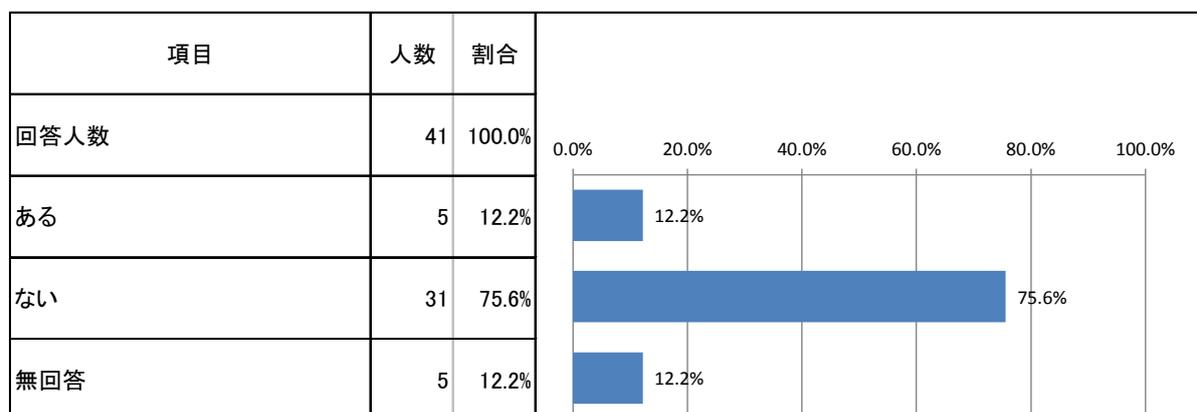
問 53-2 あなたは、自殺をしようと思ったときにだれに（どこか）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

自殺しようと思ったときの相談先については、「相談していない」が 51.2%と最も多く、次いで「配偶者」が 12.2%、「友人・知人」、「医療機関」が 7.3%となっている。



問 53-3 あなたは、自殺しようと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。（ひとつに○）

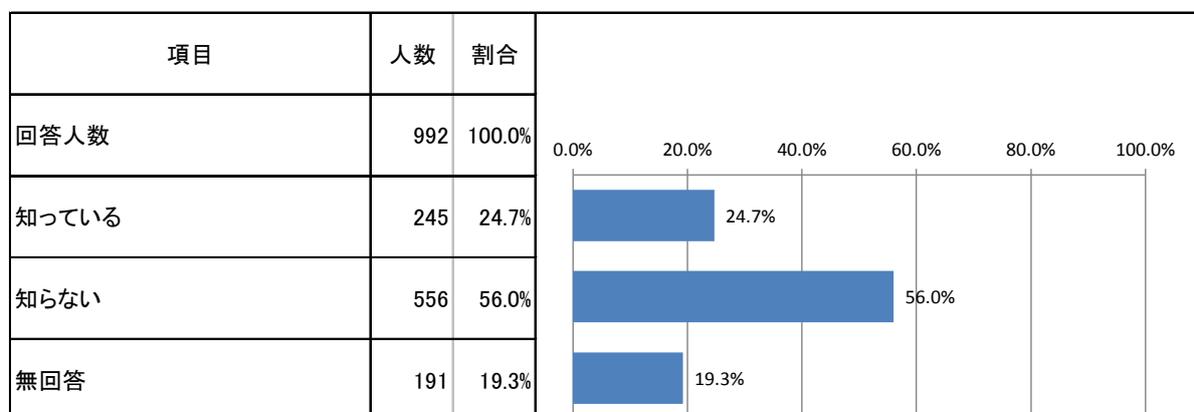
医療機関の受診については、「ある」が 12.2%、「ない」が 75.6%となっている。



【高齢者】

問 54 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。(ひとつに○)

自殺に関する相談先の認知度については、「知っている」が 24.7%、「知らない」が 56.0%となっている。



【属性別特徴】

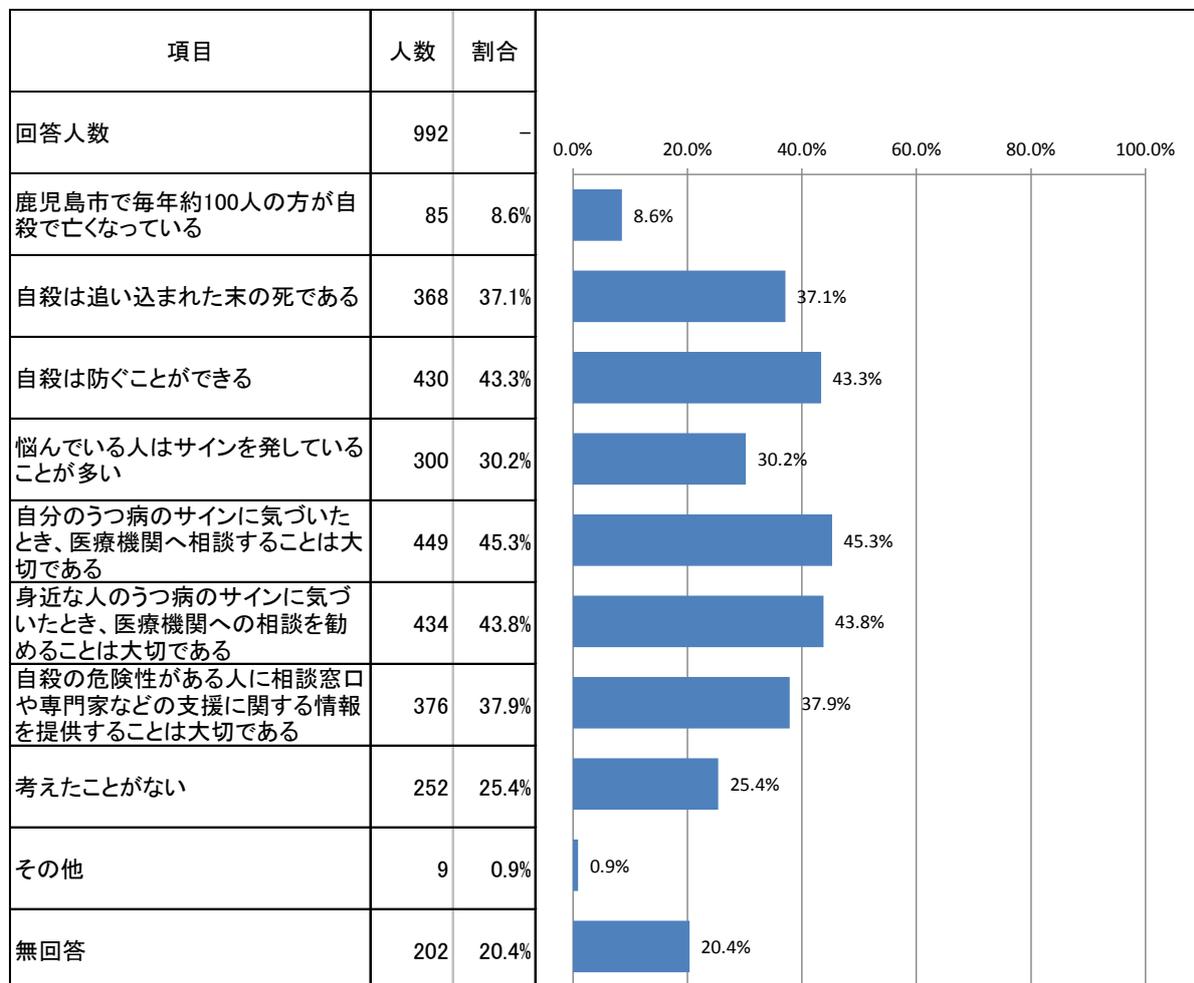
性別では、男の「知らない」が 59.3%で、女の 52.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、65歳～74歳の「知っている」が 29.3%で、75歳以上の 21.5%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別						
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%	
知っている	245	24.7%	128	24.7%	116	25.2%	1	7.1%	128	29.3%	113	21.5%	4	13.8%	
知らない	556	56.0%	307	59.3%	243	52.8%	6	42.9%	259	59.3%	282	53.6%	15	51.7%	
無回答	191	19.3%	83	16.0%	101	22.0%	7	50.0%	50	11.4%	131	24.9%	10	34.5%	

問 55 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自殺について知っていることについては、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が 45.3%と最も多く、次いで「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が 43.8%、「自殺は防ぐことができる」が 43.3%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

性別では、男の「自殺は追い込まれた末の死である」が 40.2%で、女の 34.3%に比べてやや高くなっている。

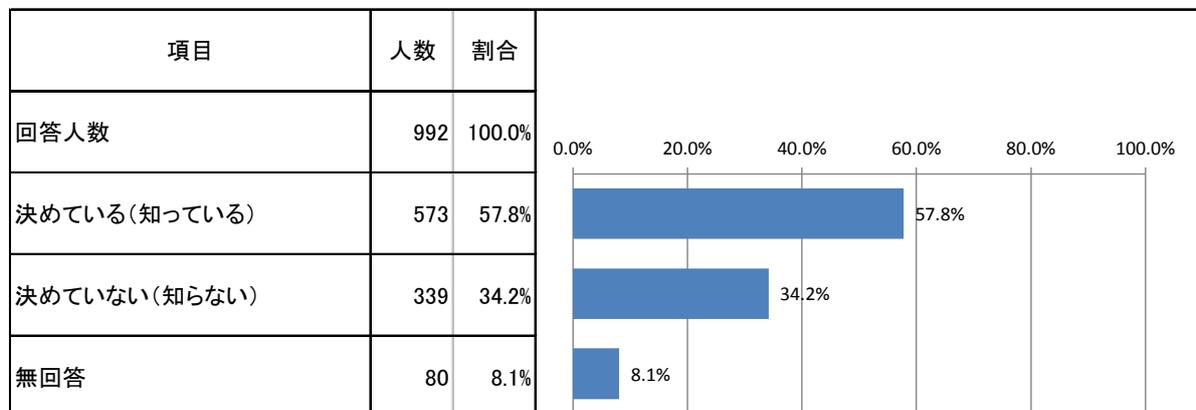
年齢別では、65歳～74歳の「自殺は防ぐことができる」が 51.3%で、75歳以上の 38.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	-	518	-	460	-	14	-	437	-	526	-	29	-
鹿児島市で毎年約100人の方が自殺で亡くなっている	85	8.6%	47	9.1%	38	8.3%	0	0.0%	30	6.9%	53	10.1%	2	6.9%
自殺は追い込まれた末の死である	368	37.1%	208	40.2%	158	34.3%	2	14.3%	190	43.5%	171	32.5%	7	24.1%
自殺は防ぐことができる	430	43.3%	231	44.6%	197	42.8%	2	14.3%	224	51.3%	202	38.4%	4	13.8%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	300	30.2%	160	30.9%	139	30.2%	1	7.1%	165	37.8%	131	24.9%	4	13.8%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	449	45.3%	237	45.8%	211	45.9%	1	7.1%	236	54.0%	209	39.7%	4	13.8%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	434	43.8%	232	44.8%	200	43.5%	2	14.3%	223	51.0%	207	39.4%	4	13.8%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	376	37.9%	212	40.9%	163	35.4%	1	7.1%	198	45.3%	175	33.3%	3	10.3%
考えたことがない	252	25.4%	139	26.8%	111	24.1%	2	14.3%	101	23.1%	145	27.6%	6	20.7%
その他	9	0.9%	3	0.6%	5	1.1%	1	7.1%	4	0.9%	4	0.8%	1	3.4%
無回答	202	20.4%	89	17.2%	104	22.6%	9	64.3%	47	10.8%	141	26.8%	14	48.3%

【高齢者】

問 56 避難する場所を決めていますか。(または自宅に一番近い指定避難所を知っていますか。)(ひとつに○)

自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている(知っている)」が 57.8%、「決めていない(知らない)」が 34.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

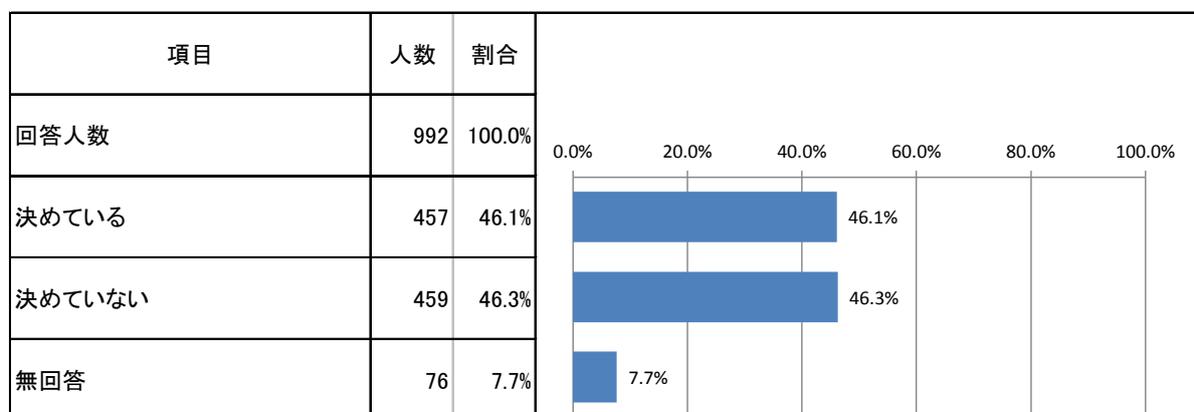
年齢別では、65歳～74歳の「決めている(知っている)」が 62.5%で、75歳以上の 54.6%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
決めている(知っている)	573	57.8%	306	59.1%	262	57.0%	5	35.7%	273	62.5%	287	54.6%	13	44.8%
決めていない(知らない)	339	34.2%	175	33.8%	159	34.6%	5	35.7%	153	35.0%	178	33.8%	8	27.6%
無回答	80	8.1%	37	7.1%	39	8.5%	4	28.6%	11	2.5%	61	11.6%	8	27.6%

【高齢者】

問 57 災害が発生したとき、家族と連絡をとる方法を決めていますか。(ひとつに○)

災害発生時の家族との連絡方法を決めているかについては、「決めている」が 46.1%、「決めていない」が 46.3%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

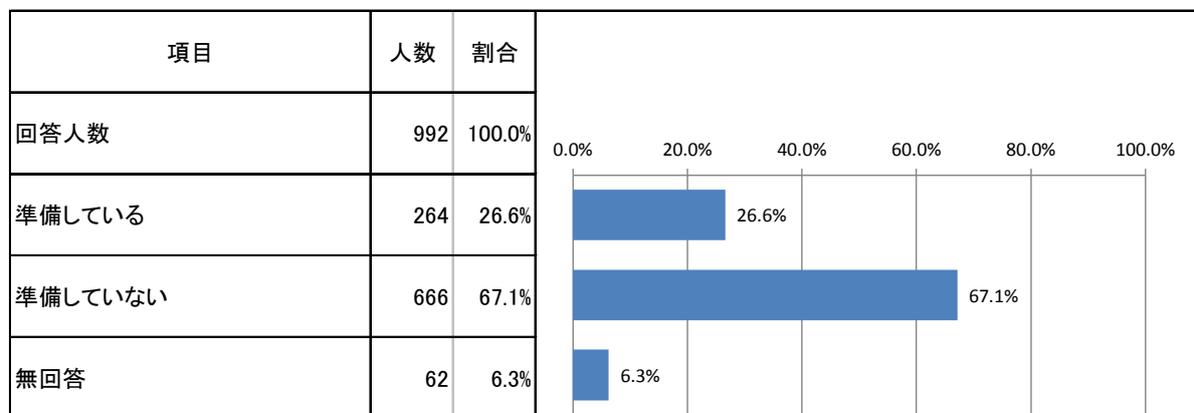
年齢別では、65歳～74歳の「決めていない」が 51.7%で、75歳以上の 42.0%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
決めている	457	46.1%	244	47.1%	208	45.2%	5	35.7%	194	44.4%	255	48.5%	8	27.6%
決めていない	459	46.3%	243	46.9%	212	46.1%	4	28.6%	226	51.7%	221	42.0%	12	41.4%
無回答	76	7.7%	31	6.0%	40	8.7%	5	35.7%	17	3.9%	50	9.5%	9	31.0%

【高齢者】

問 58 災害時の非常持ち出し品を準備していますか。(ひとつに〇)

非常持ち出し品の準備については、「準備している」が 26.6%、「準備していない」が 67.1%となっている。



【属性別特徴】

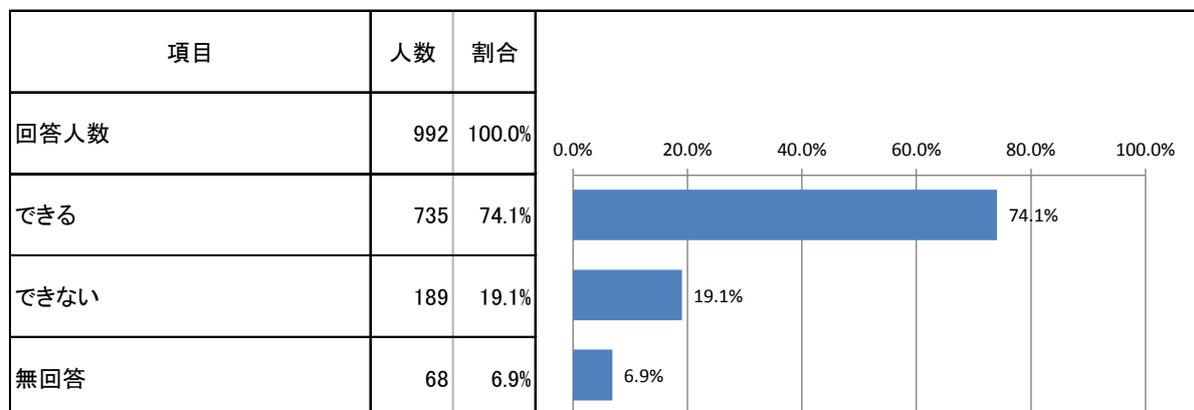
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「準備していない」が 72.3%で、75歳以上の 63.5%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
準備している	264	26.6%	140	27.0%	123	26.7%	1	7.1%	112	25.6%	148	28.1%	4	13.8%
準備していない	666	67.1%	349	67.4%	308	67.0%	9	64.3%	316	72.3%	334	63.5%	16	55.2%
無回答	62	6.3%	29	5.6%	29	6.3%	4	28.6%	9	2.1%	44	8.4%	9	31.0%

問 59 災害が発生した場合、自力で避難できますか。(ひとつに○)

災害発生時の自力避難については、「できる」が 74.1%、「できない」が 19.1%となっている。



【属性別特徴】

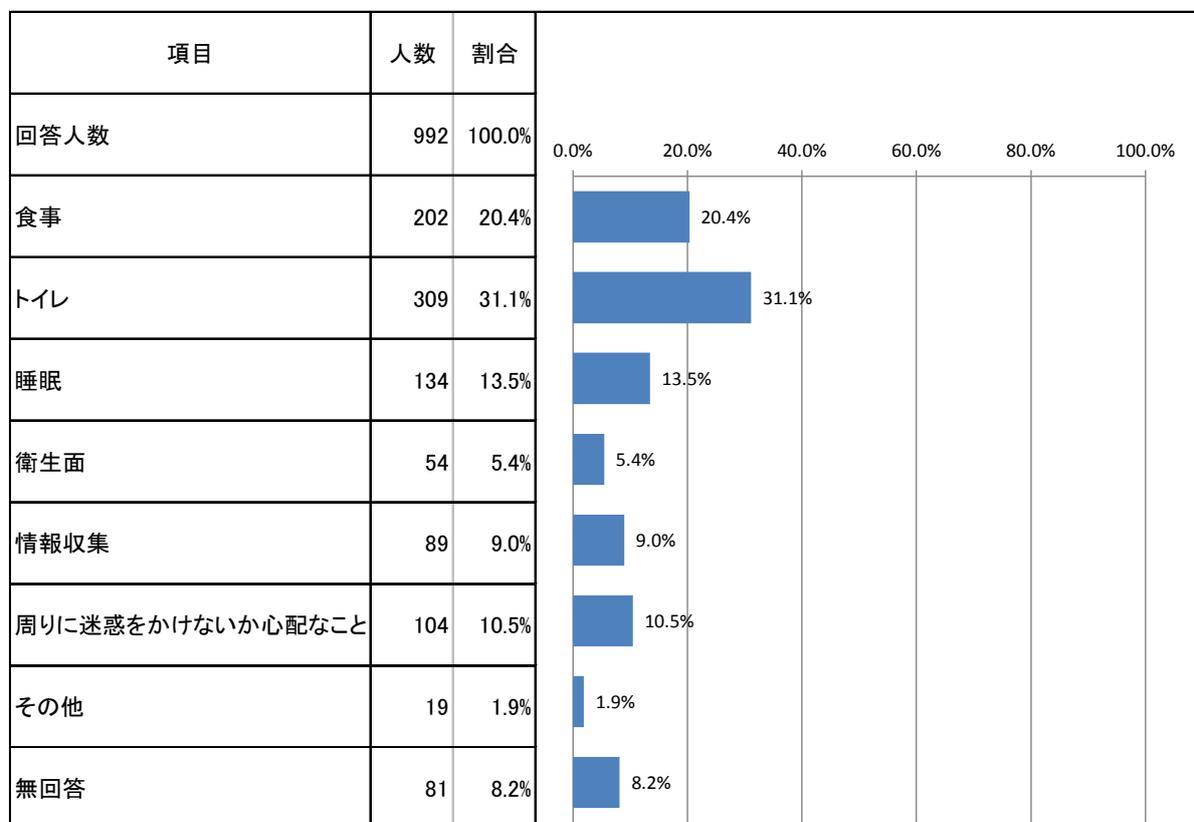
性別では、男の「できる」が 82.8%で、女の 64.8%に比べて高くなっている。

年齢別では、65歳～74歳の「できる」が 88.8%で、75歳以上の 62.9%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
できる	735	74.1%	429	82.8%	298	64.8%	8	57.1%	388	88.8%	331	62.9%	16	55.2%
できない	189	19.1%	59	11.4%	128	27.8%	2	14.3%	35	8.0%	148	28.1%	6	20.7%
無回答	68	6.9%	30	5.8%	34	7.4%	4	28.6%	14	3.2%	47	8.9%	7	24.1%

問 60 避難所に避難した場合に、一番不安なのは次のうちどれですか。(ひとつに○)

避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「トイレ」が 31.1%と最も多く、次いで「食事」が 20.4%、「睡眠」が 13.5%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

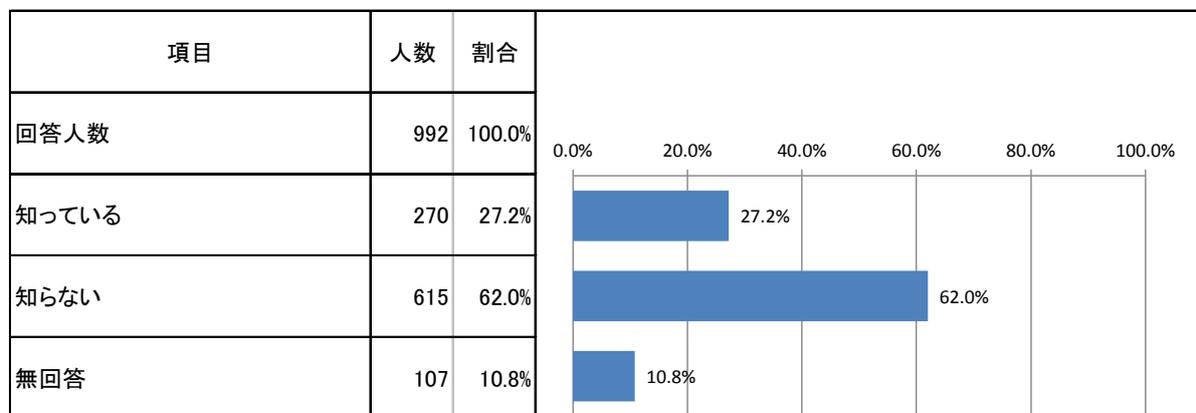
性別では、女の「トイレ」が40.7%で、男の23.4%に比べて高くなっている。
年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
食事	202	20.4%	130	25.1%	69	15.0%	3	21.4%	96	22.0%	101	19.2%	5	17.2%
トイレ	309	31.1%	121	23.4%	187	40.7%	1	7.1%	138	31.6%	167	31.7%	4	13.8%
睡眠	134	13.5%	77	14.9%	57	12.4%	0	0.0%	63	14.4%	69	13.1%	2	6.9%
衛生面	54	5.4%	34	6.6%	19	4.1%	1	7.1%	28	6.4%	24	4.6%	2	6.9%
情報収集	89	9.0%	51	9.8%	36	7.8%	2	14.3%	50	11.4%	37	7.0%	2	6.9%
周りに迷惑をかけないか心配なこと	104	10.5%	56	10.8%	45	9.8%	3	21.4%	34	7.8%	65	12.4%	5	17.2%
その他	19	1.9%	11	2.1%	8	1.7%	0	0.0%	9	2.1%	9	1.7%	1	3.4%
無回答	81	8.2%	38	7.3%	39	8.5%	4	28.6%	19	4.3%	54	10.3%	8	27.6%

【高齢者】

問 61 災害時要援護者避難支援制度を知っていますか。(ひとつに○)

災害時要援護者避難支援制度の認知度については、「知っている」が 27.2%、「知らない」が 62.0%となっている。



【属性別特徴】

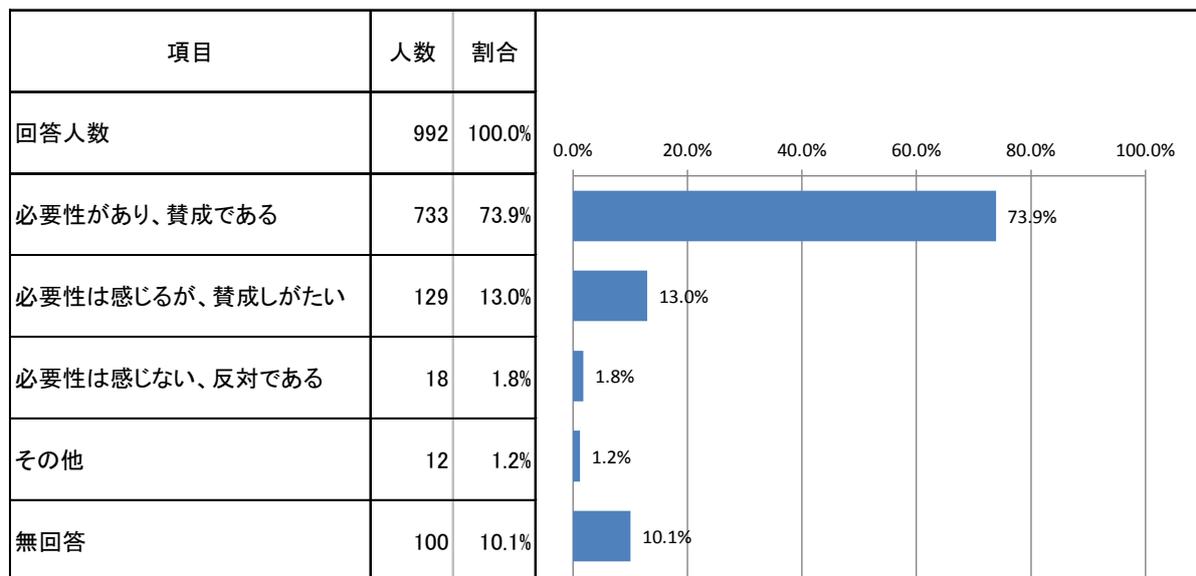
性別・年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っている	270	27.2%	150	29.0%	116	25.2%	4	28.6%	132	30.2%	133	25.3%	5	17.2%
知らない	615	62.0%	318	61.4%	291	63.3%	6	42.9%	281	64.3%	318	60.5%	16	55.2%
無回答	107	10.8%	50	9.7%	53	11.5%	4	28.6%	24	5.5%	75	14.3%	8	27.6%

【高齢者】

問 62 災害時に避難した人と避難しなかった人の把握のため、家族情報（家族の人数、氏名、年齢など）を事前に町内会などで把握しておく必要性を感じますか。またそうすることに賛成ですか。（ひとつに○）

町内会において事前に家族情報を把握する必要性とその賛否については、「必要性があり、賛成である」が73.9%と最も多く、次いで「必要性は感じるが、賛成しがたい」が13.0%、「必要性は感じない、反対である」が1.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

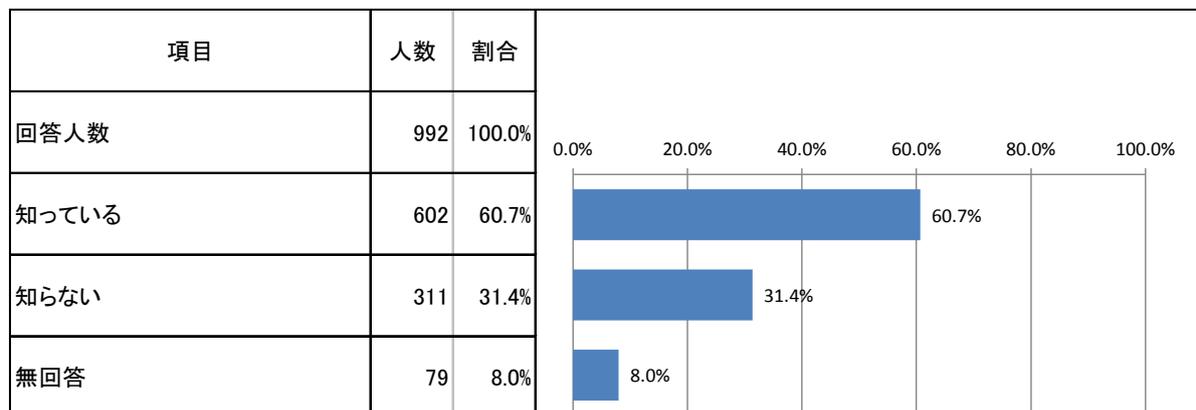
年齢別では、65歳～74歳の「必要性は感じるが、賛成しがたい」が16.7%で、75歳以上の10.3%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
必要性があり、賛成である	733	73.9%	390	75.3%	335	72.8%	8	57.1%	320	73.2%	398	75.7%	15	51.7%
必要性は感じるが、賛成しがたい	129	13.0%	68	13.1%	60	13.0%	1	7.1%	73	16.7%	54	10.3%	2	6.9%
必要性は感じない、反対である	18	1.8%	11	2.1%	7	1.5%	0	0.0%	8	1.8%	8	1.5%	2	6.9%
その他	12	1.2%	4	0.8%	8	1.7%	0	0.0%	5	1.1%	7	1.3%	0	0.0%
無回答	100	10.1%	45	8.7%	50	10.9%	5	35.7%	31	7.1%	59	11.2%	10	34.5%

【高齢者】

問 63 桜島の火山活動では、大正噴火時に失われたマグマの約9割が蓄積されており、2020年代には、その蓄積が大正噴火直前の状態とほぼ同じになり、大正噴火級の大噴火が起こる可能性が示唆されていることをご存じですか。
(ひとつに○)

大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度については、「知っている」が60.7%、「知らない」が31.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「知っている」が63.5%で、女の58.5%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳~74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	992	100.0%	518	100.0%	460	100.0%	14	100.0%	437	100.0%	526	100.0%	29	100.0%
知っている	602	60.7%	329	63.5%	269	58.5%	4	28.6%	272	62.2%	318	60.5%	12	41.4%
知らない	311	31.4%	152	29.3%	155	33.7%	4	28.6%	144	33.0%	160	30.4%	7	24.1%
無回答	79	8.0%	37	7.1%	36	7.8%	6	42.9%	21	4.8%	48	9.1%	10	34.5%

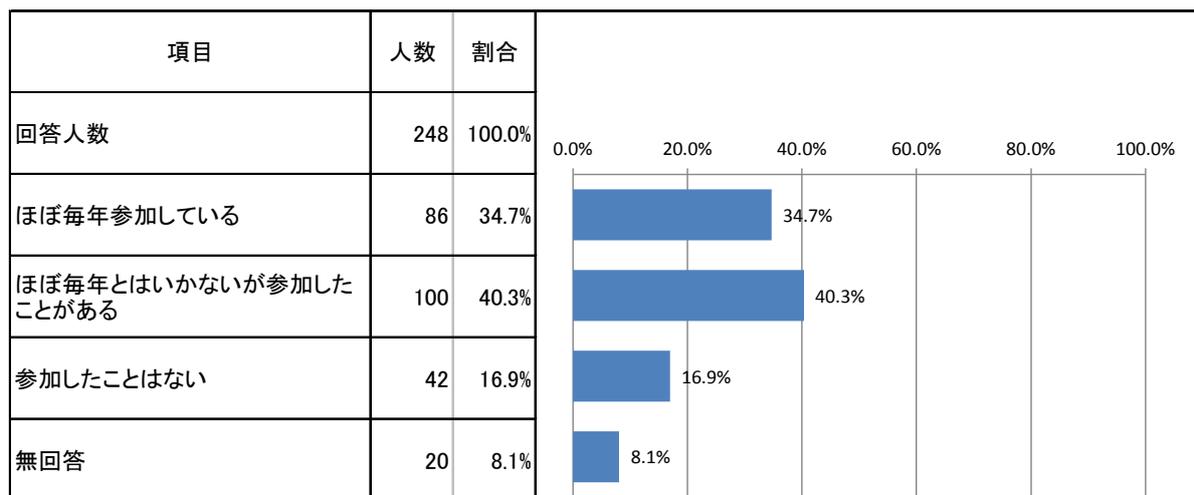
【高齢者】

※問 64 から問 67 は桜島にお住まいの方への質問です。

それ以外の方は問 68 にお進みください。

**問 64 鹿児島市が開催する桜島火山爆発総合防災訓練に参加したことがありますか。
(ひとつに○)**

桜島火山爆発総合防災訓練の参加については、「ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある」が 40.3%と最も多く、次いで「ほぼ毎年参加している」が 34.7%、「参加したことはない」が 16.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある」が 44.7%で、男の 37.4%に比べてやや高くなっている。

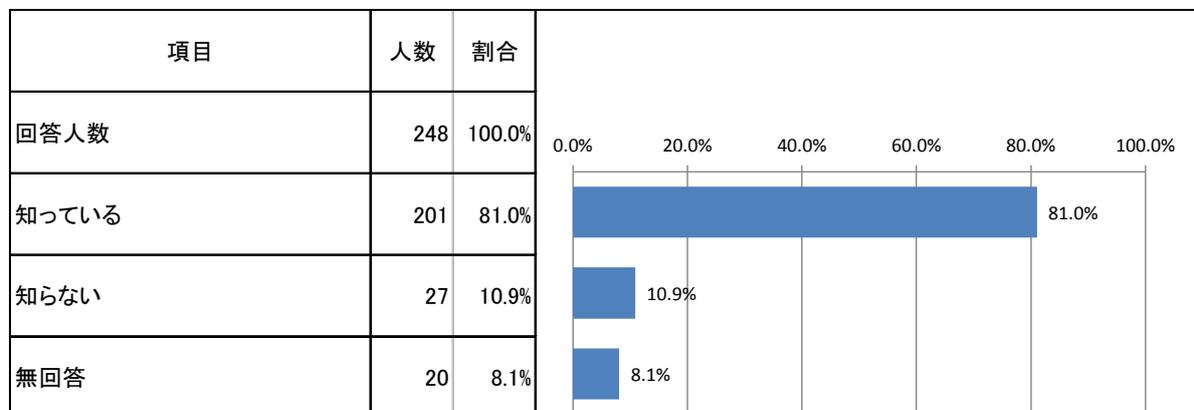
年齢別では、65歳～74歳の「ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある」が 46.5%で、75歳以上の 37.1%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	248	100.0%	131	100.0%	114	100.0%	3	100.0%	99	100.0%	143	100.0%	6	100.0%
ほぼ毎年参加している	86	34.7%	47	35.9%	37	32.5%	2	66.7%	33	33.3%	51	35.7%	2	33.3%
ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある	100	40.3%	49	37.4%	51	44.7%	0	0.0%	46	46.5%	53	37.1%	1	16.7%
参加したことはない	42	16.9%	19	14.5%	22	19.3%	1	33.3%	15	15.2%	25	17.5%	2	33.3%
無回答	20	8.1%	16	12.2%	4	3.5%	0	0.0%	5	5.1%	14	9.8%	1	16.7%

【高齢者】

問 65 現在、避難時に家族カードを提出することで、避難した方を把握することになっていますが、家族カードを提出することを知っていますか。(ひとつに○)

避難時における家族カード提出の認知度については、「知っている」が 81.0%、「知らない」が 10.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

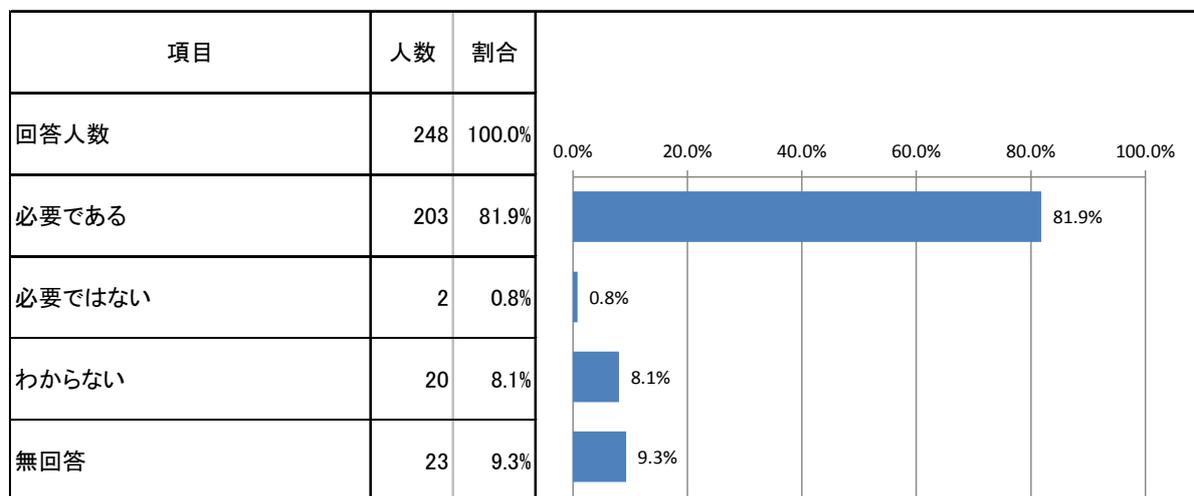
年齢別では、65歳～74歳の「知っている」が 88.9%で、75歳以上の 76.9%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	248	100.0%	131	100.0%	114	100.0%	3	100.0%	99	100.0%	143	100.0%	6	100.0%
知っている	201	81.0%	104	79.4%	95	83.3%	2	66.7%	88	88.9%	110	76.9%	3	50.0%
知らない	27	10.9%	12	9.2%	14	12.3%	1	33.3%	6	6.1%	19	13.3%	2	33.3%
無回答	20	8.1%	15	11.5%	5	4.4%	0	0.0%	5	5.1%	14	9.8%	1	16.7%

【高齢者】

問 66 現在、避難しなかった人（避難時に島外にいる人や逃げ遅れた人など）を町内会や行政で確認する仕組みはありません。把握できるようにしておくことが必要だと考えますか。（ひとつに○）

避難しなかった人を確認する仕組みの必要性については、「必要である」が 81.9%と最も多く、次いで「わからない」が 8.1%、「必要ではない」が 0.8%となっている。



【属性別特徴】

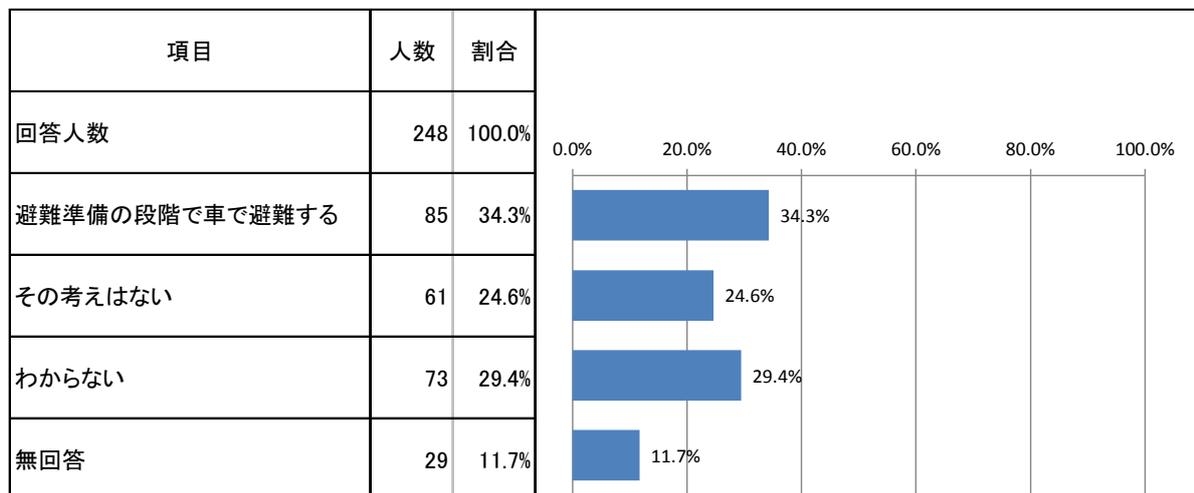
性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「必要である」が 87.9%で、75歳以上の 77.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	248	100.0%	131	100.0%	114	100.0%	3	100.0%	99	100.0%	143	100.0%	6	100.0%
必要である	203	81.9%	105	80.2%	96	84.2%	2	66.7%	87	87.9%	111	77.6%	5	83.3%
必要ではない	2	0.8%	2	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%
わからない	20	8.1%	8	6.1%	12	10.5%	0	0.0%	6	6.1%	14	9.8%	0	0.0%
無回答	23	9.3%	16	12.2%	6	5.3%	1	33.3%	6	6.1%	16	11.2%	1	16.7%

問 67 「避難勧告」が発令されたら、車は使わず船で避難することになりますが、その前の「避難準備」が発令された段階で、車などで島外に避難する考えがありますか。(ひとつに○)

「避難準備」発令時の車などでの島外避難については、「避難準備の段階で車で避難する」が 34.3%と最も多く、次いで「わからない」が 29.4%、「その考えはない」が 24.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、65歳～74歳の「避難準備の段階で車で避難する」が 37.4%で、75歳以上の 32.2%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	248	100.0%	131	100.0%	114	100.0%	3	100.0%	99	100.0%	143	100.0%	6	100.0%
避難準備の段階で車で避難する	85	34.3%	45	34.4%	39	34.2%	1	33.3%	37	37.4%	46	32.2%	2	33.3%
その考えはない	61	24.6%	30	22.9%	31	27.2%	0	0.0%	25	25.3%	36	25.2%	0	0.0%
わからない	73	29.4%	38	29.0%	34	29.8%	1	33.3%	30	30.3%	41	28.7%	2	33.3%
無回答	29	11.7%	18	13.7%	10	8.8%	1	33.3%	7	7.1%	20	14.0%	2	33.3%

第6章 総括

【共通項目】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

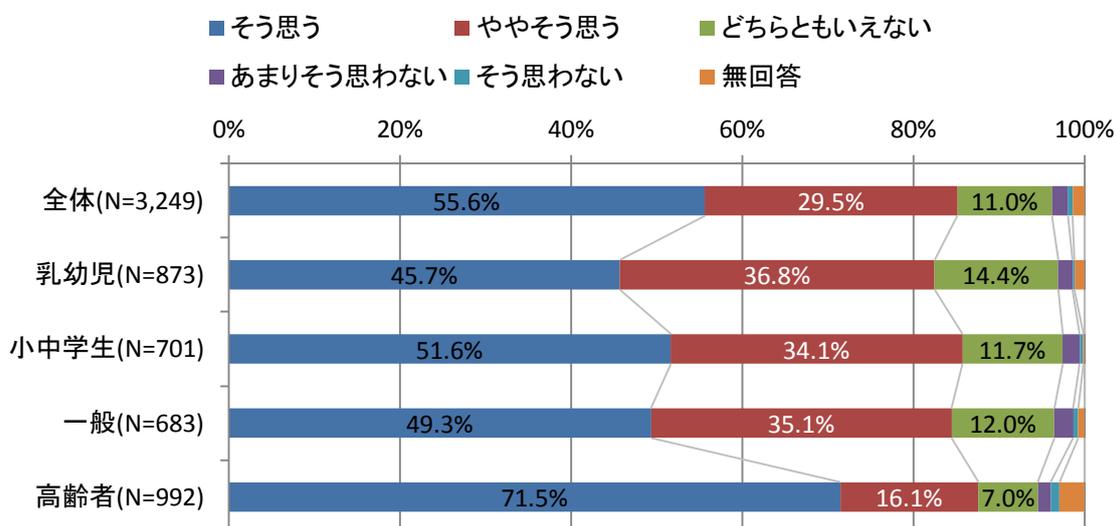
1 地域活動について

【地域の課題に取り組む重要性の認識と活動について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

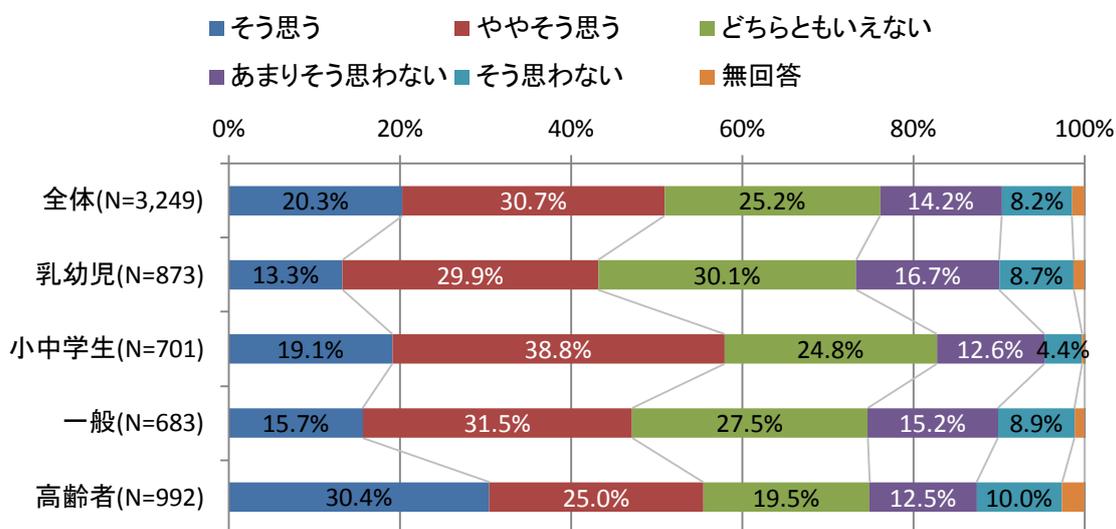
地域住民が一緒になって、地域課題に取り組むことは重要だと思うことについては、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が、全体で85.1%、乳幼児が82.5%、小中学生が85.7%、一般が84.4%、高齢者が87.6%となっている。

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組んでいると思うかについては、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が、全体で51.0%、乳幼児が43.2%、小中学生が57.9%、一般が47.2%、高齢者が55.4%となっている。

（地域の課題に取り組む重要性の認識について）



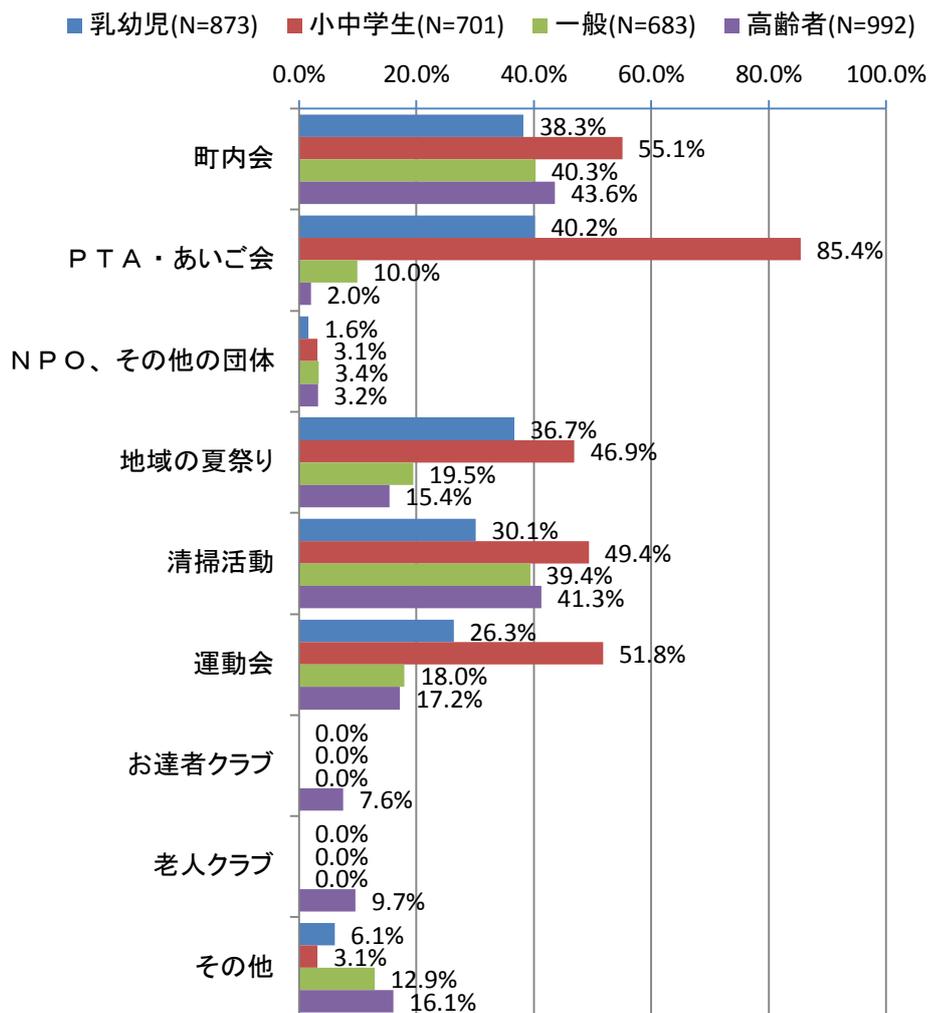
（地域の課題への活動について）



【地域活動の参加状況について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

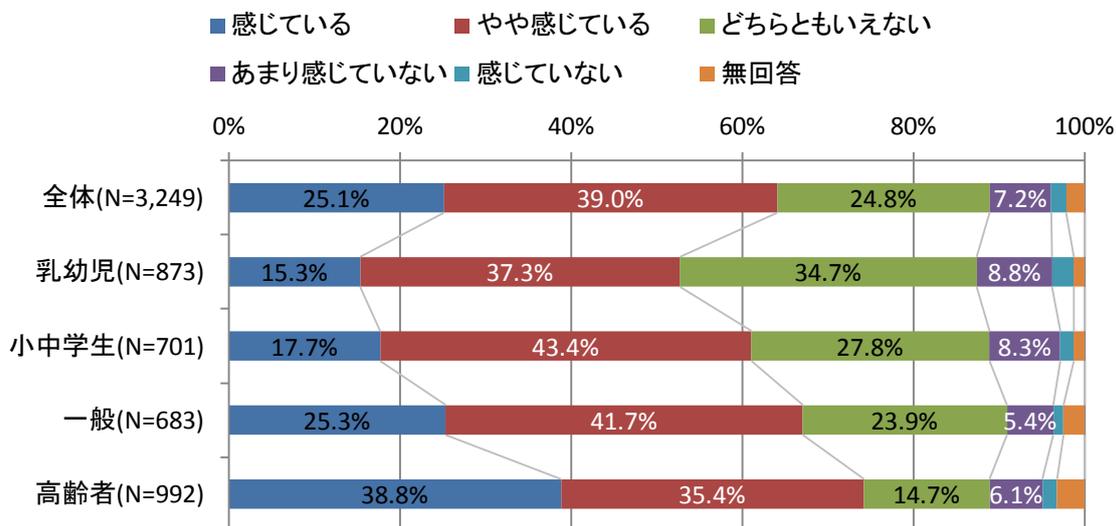
地域活動の参加内容については、小中学生の「PTA・あいご会」が約9割、「町内会」、「運動会」、「清掃活動」、「地域の夏祭り」が約5割となっている。

なお、乳幼児については「町内会」、「PTA・あいご会」、「地域の夏祭り」が約4割、一般については「町内会」、「清掃活動」が約4割、高齢者については「町内会」、「清掃活動」が約4割となっている。



【鹿児島市の暮らしへの安心安全度について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

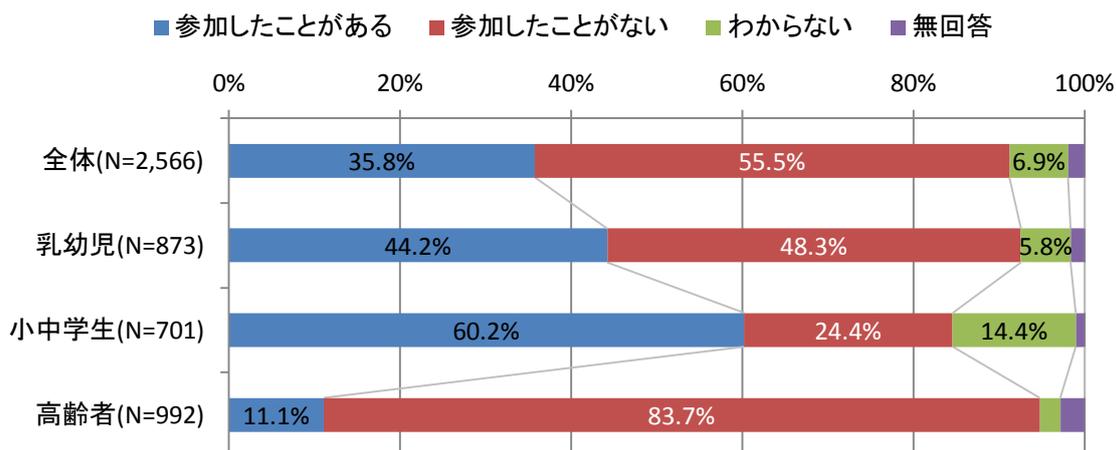
鹿児島市の暮らしに安心安全を感じているかについて、「感じている」と「やや感じている」の合計が、全体で 64.1%、乳幼児が 52.6%、小中学生が 61.1%、一般が 67.0%、高齢者が 74.2%となっている。



2 交通安全について

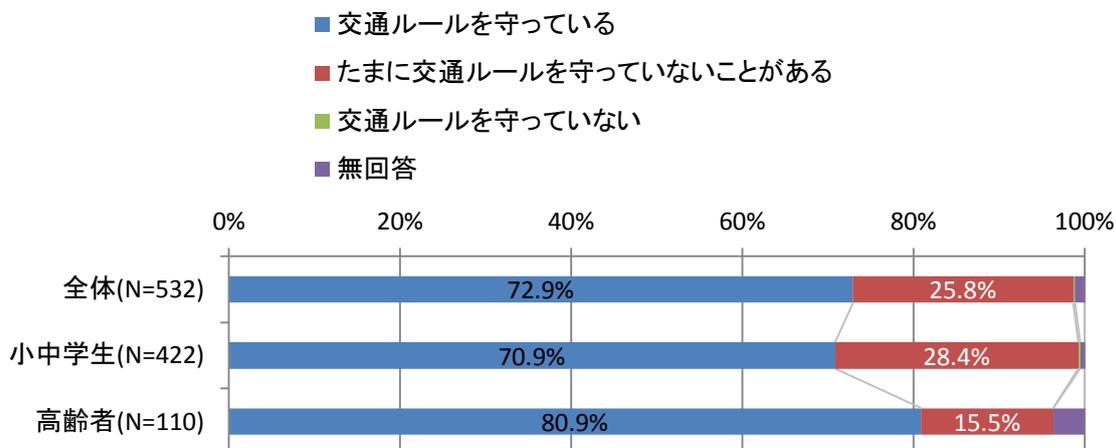
【交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について】（乳幼児・小中学生・高齢者）

交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがある」（乳幼児区分は、「参加したことがある」と「保護者と一緒に参加したことがある」の合計）が、全体で35.8%、乳幼児が44.2%、小中学生が60.2%、高齢者が11.1%となっている。



【交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守について】 （小中学生・高齢者）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守については、「交通ルールを守っている」が、全体で72.9%、小中学生が70.9%、高齢者が80.9%となっている。



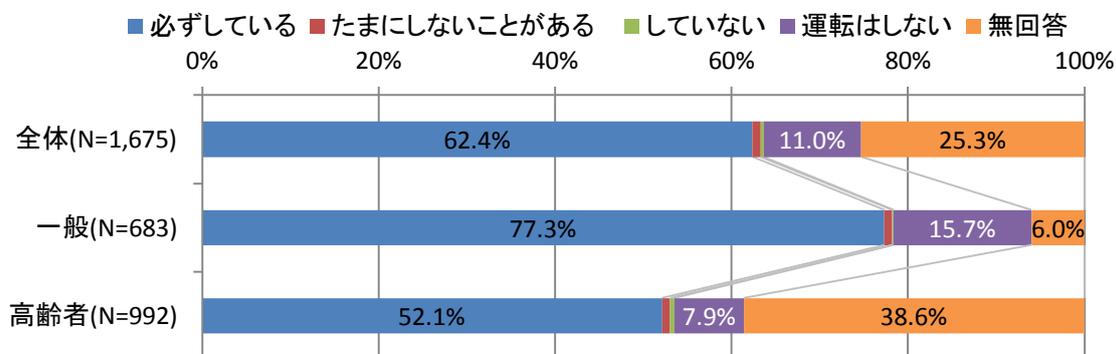
【シートベルト着用状況について】（一般・高齢者）

運転席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で62.4%、一般が77.3%、高齢者が52.1%となっている。

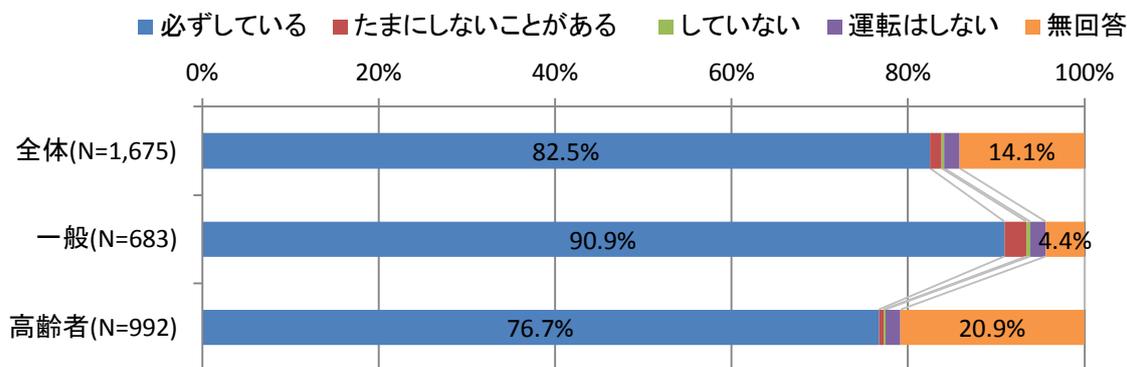
助手席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で82.5%、一般が90.9%、高齢者が76.7%となっている。

後部座席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で23.1%、一般が16.0%、高齢者が28.0%となっている。

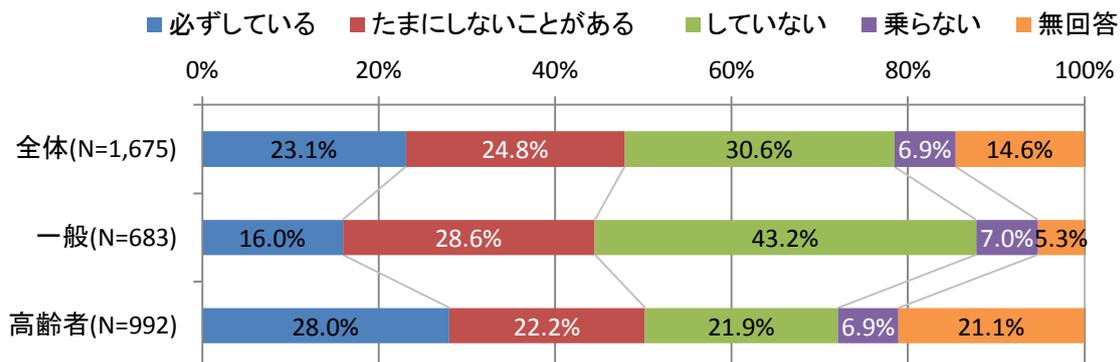
（運転席）



（助手席）



（後部座席）



3 暴力について

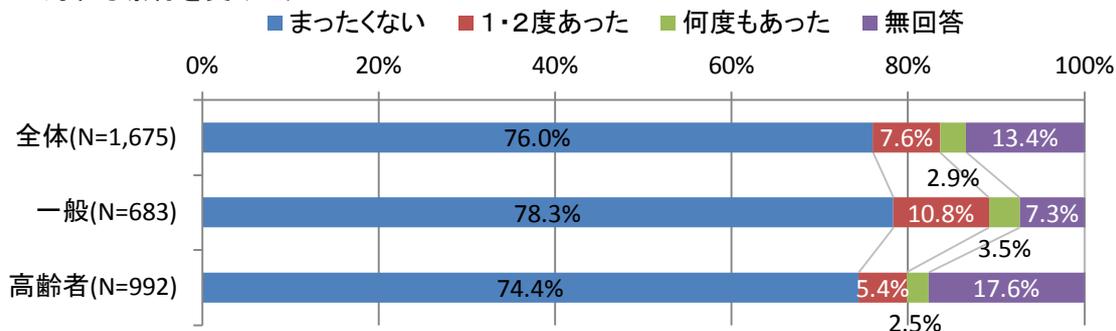
【配偶者や交際相手からのDVについて】（一般・高齢者）

配偶者や交際相手からの「身体に対する暴行を受けた等」のDVについては、「1・2度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で10.5%、一般が14.3%、高齢者が7.9%となっている。

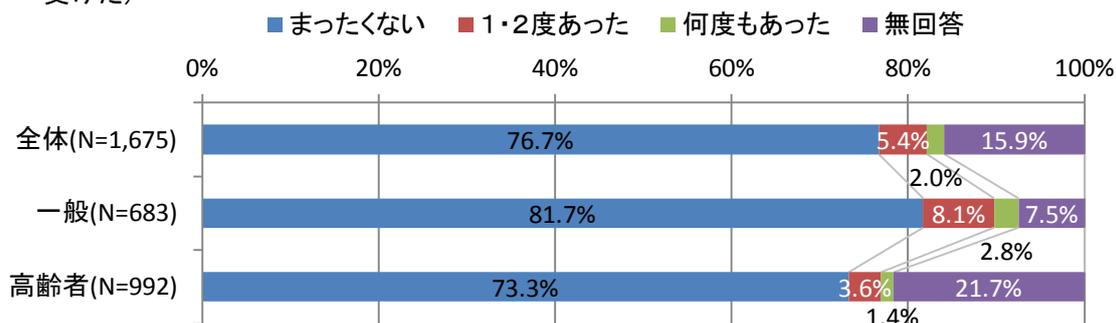
配偶者や交際相手からの「精神的な嫌がらせ等」のDVについては、「1・2度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で7.4%、一般が10.9%、高齢者が5.0%となっている。

配偶者や交際相手からの「性的な行為を強要された等」のDVについては、「1・2度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で5.2%、一般が7.5%、高齢者が3.6%となっている。

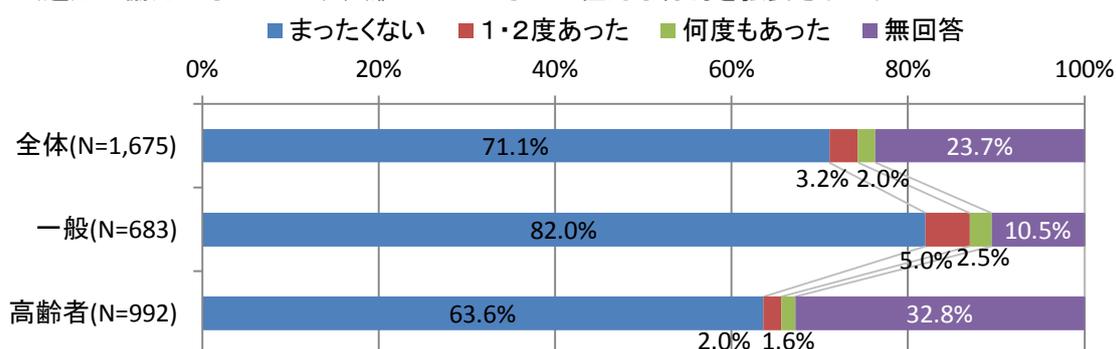
（なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた）



（人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた）



（避妊に協力しなかったり、嫌がっているのに性的な行為を強要された）



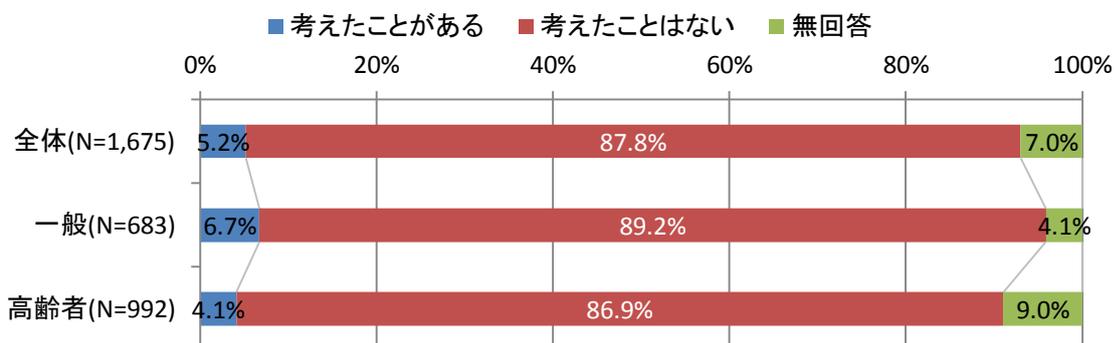
4 自殺について（一般・高齢者）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が、全体で5.2%、一般が6.7%、高齢者が4.1%となっている。

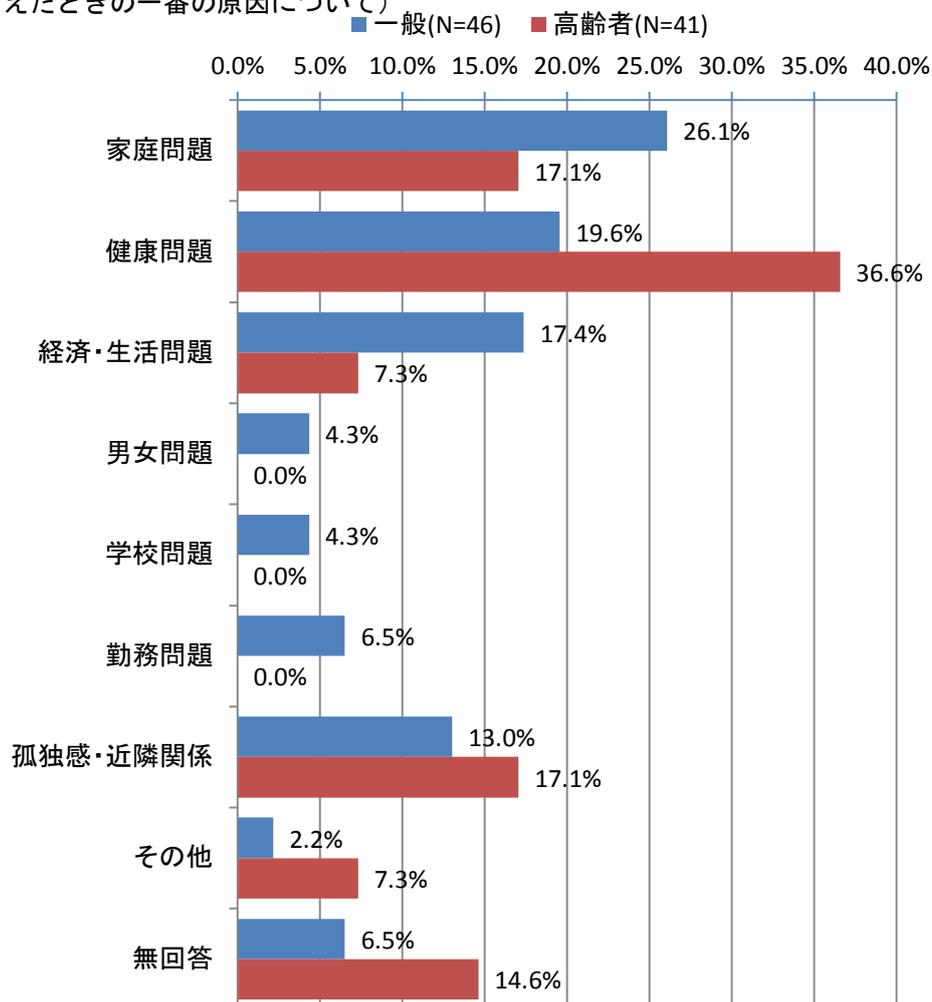
なお、自殺を考えたときの一番の原因として、一般が「家庭問題」、高齢者が「健康問題」を最も上位に挙げている。

また、自殺したいと考えたときの相談先については、半数以上がともに「相談していない」としている。

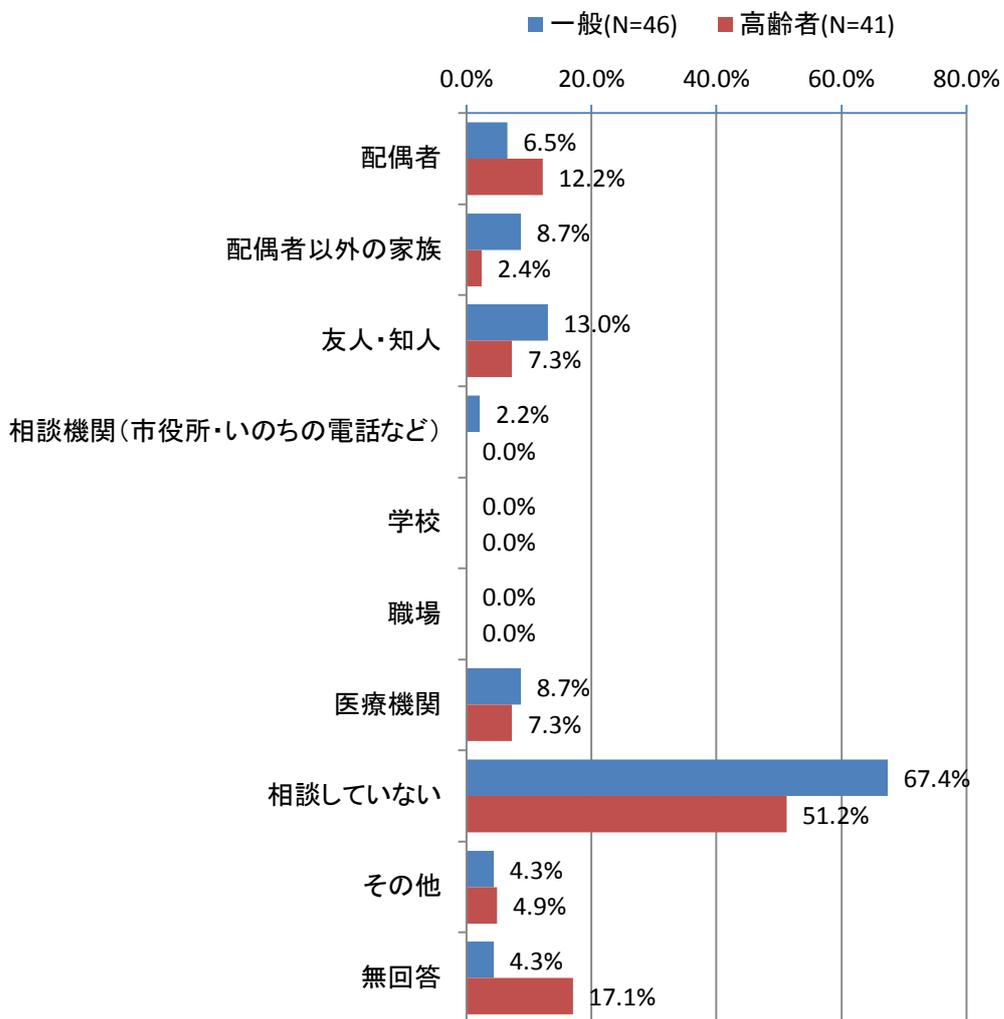
（この1年間における自殺への考えについて）



（自殺を考えたときの一番の原因について）



（自殺を考えたときの相談先について）



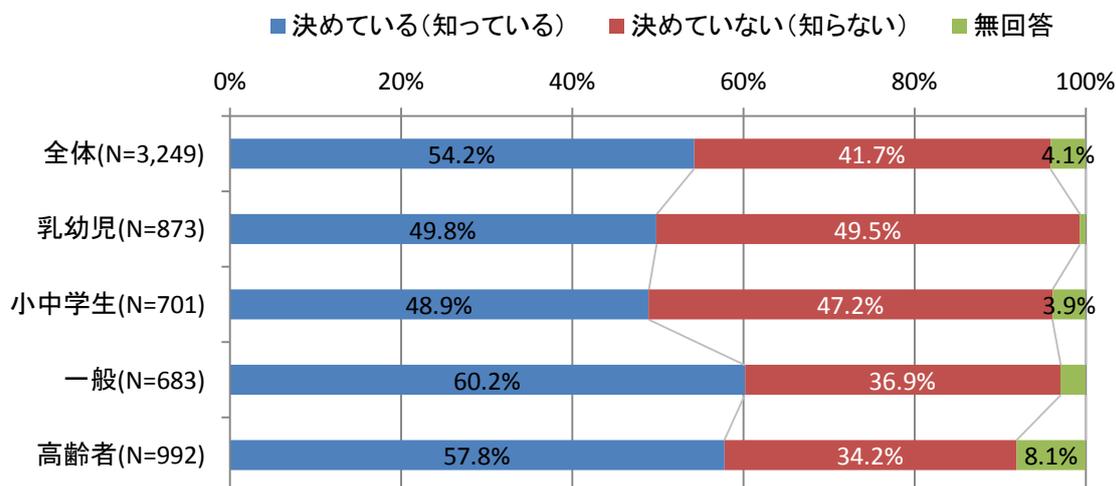
5 防災について

【防災対策について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

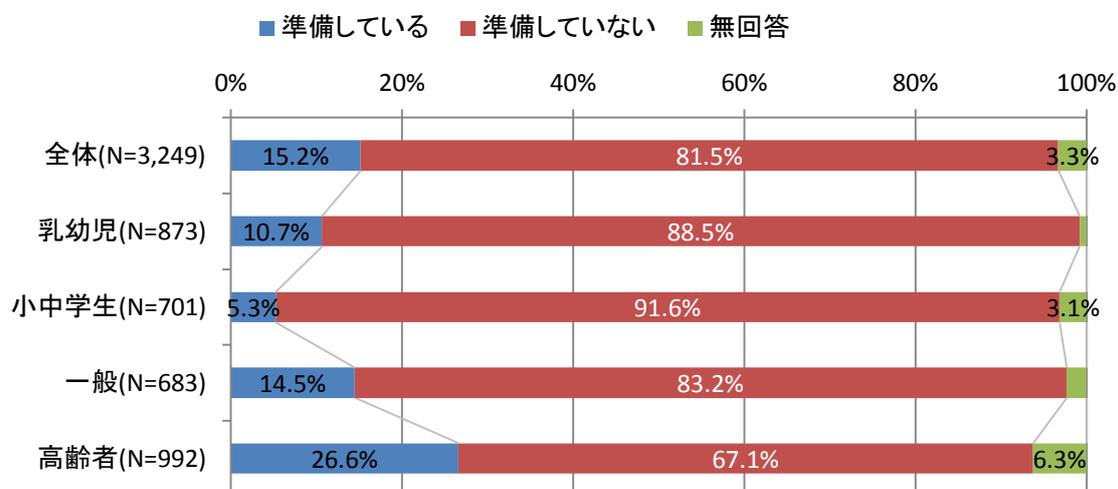
自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている（知っている）」が、全体で54.2%、乳幼児が49.8%、小中学生が48.9%、一般が60.2%、高齢者が57.8%となっている。

災害時の非常持ち出し品の準備については、「準備している」が、全体で15.2%、乳幼児が10.7%、小中学生が5.3%、一般が14.5%、高齢者が26.6%となっている。

（避難する場所について）



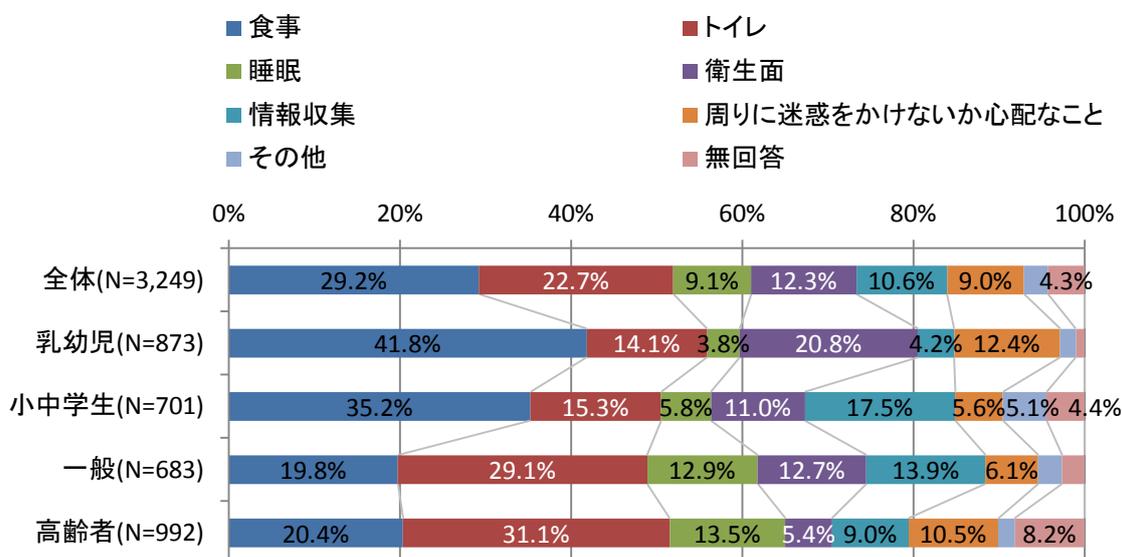
（災害時の非常持ち出し品の準備について）



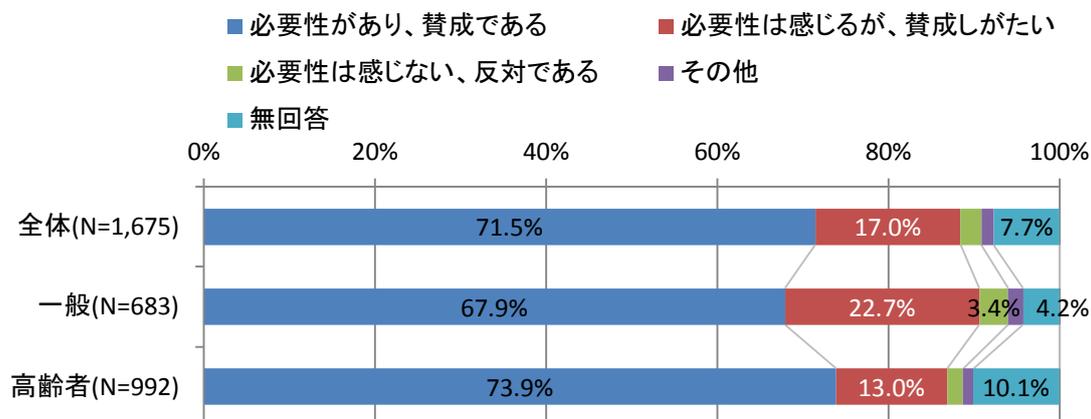
避難所に避難した場合に一番不安なことについて、全体では「食事」（29.2%）、「トイレ」（22.7%）が上位で、各区分では一般・高齢者が「トイレ」「食事」、乳幼児・小中学生が「食事」の次に「衛生面」「情報収集」となっている。

町内会において事前に家族情報を把握する必要性とその賛否については、「必要性があり、賛成である」が、全体で71.5%、一般が67.9%、高齢者が73.9%となっている。

（避難所に避難した場合に一番不安なことについて）



（町内会において事前に家族情報を把握する必要性について）



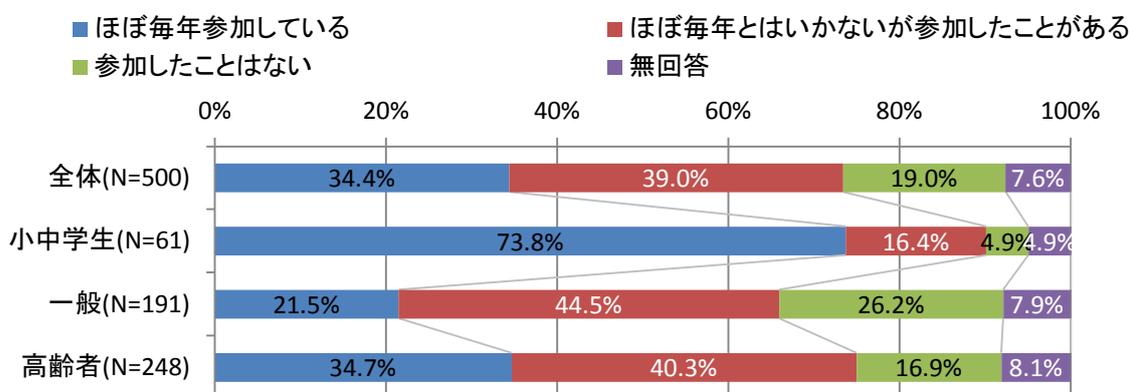
【桜島にお住まいの方の防災対策について】（小中学生・一般・高齢者）

桜島火山爆発総合防災訓練の参加については、「ほぼ毎年参加している」が、全体で34.4%、小中学生が73.8%、一般が21.5%、高齢者が34.7%となっている。

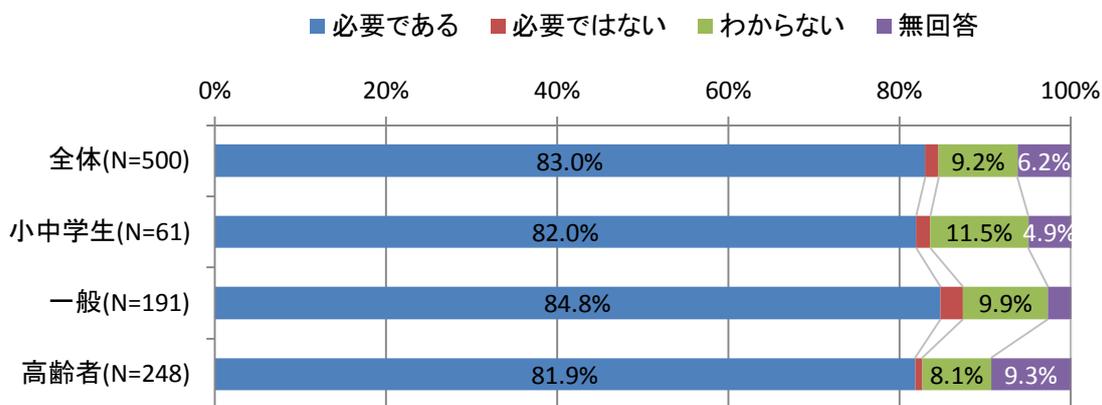
避難しなかった人を確認する仕組みの必要性については、「必要である」が、全体で83.0%、小中学生が82.0%、一般が84.8%、高齢者が81.9%となっている。

「避難準備」発令時の車などでの島外避難については、「避難準備の段階で車で避難する」が、全体で40.5%、一般が48.7%、高齢者が34.3%となっている。

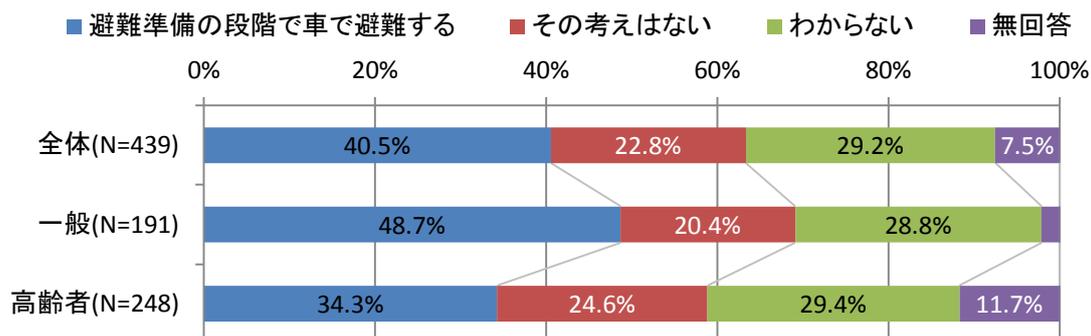
（桜島火山爆発総合防災訓練の参加について）



（避難しなかった人を確認する仕組みの必要性について）



（「避難準備」発令時の車などでの島外避難について）



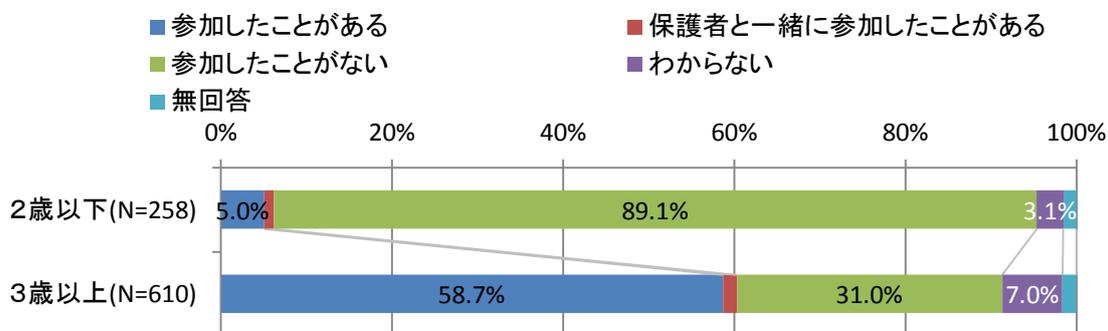
【乳幼児】

1 交通安全について（P10～P12、P17～P18 参照）

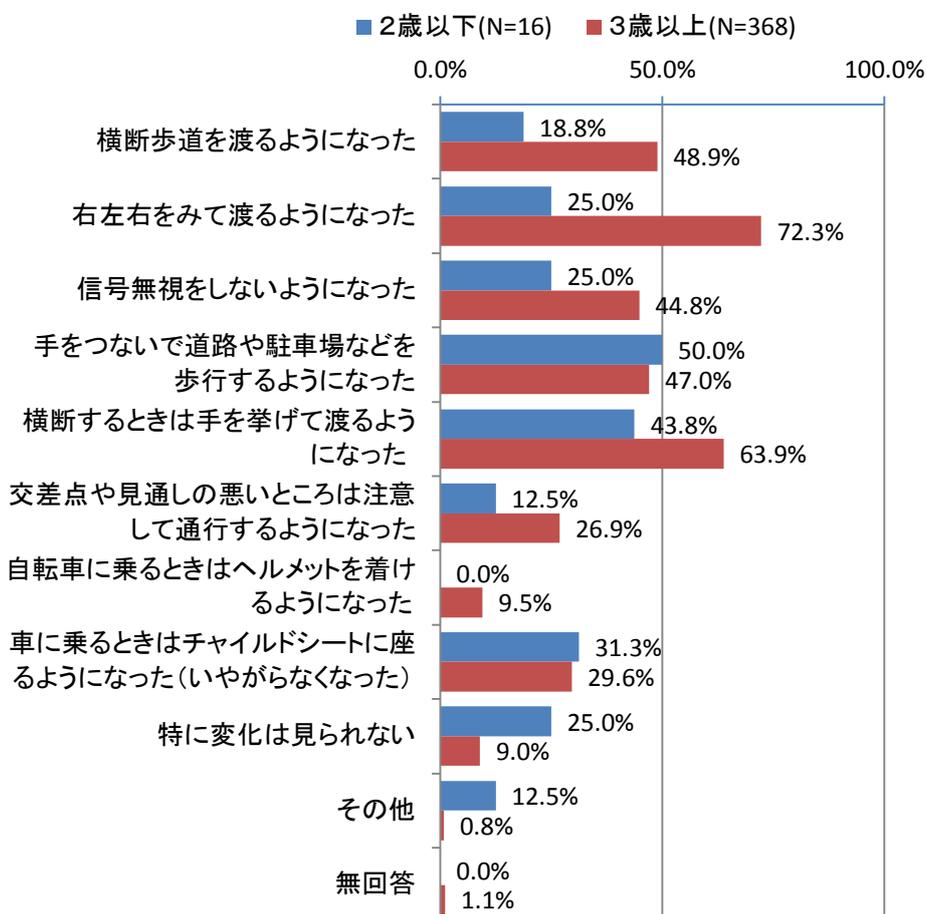
（1）交通安全教室（講習会などを含む）について

- 交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがある」が、全体で 42.7%、性別では男が 41.2%、女が 44.4%、年齢別では 2 歳以下が 5.0%、3 歳以上が 58.7%となっている。
- 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、子どもに見られた行動の変化については、「右左右をみて渡るようになった」が、全体で 70.5%、性別では男が 70.0%、女が 70.8%、年齢別では 2 歳以下が 25.0%、3 歳以上が 72.3%となっている。なお、「特に変化は見られない」は 9.6%となっている。

（交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について）



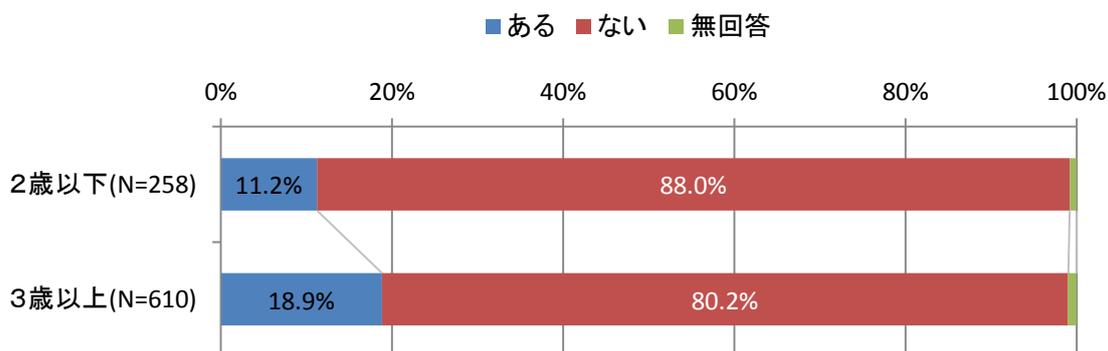
（交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、子どもに見られた行動の変化について）



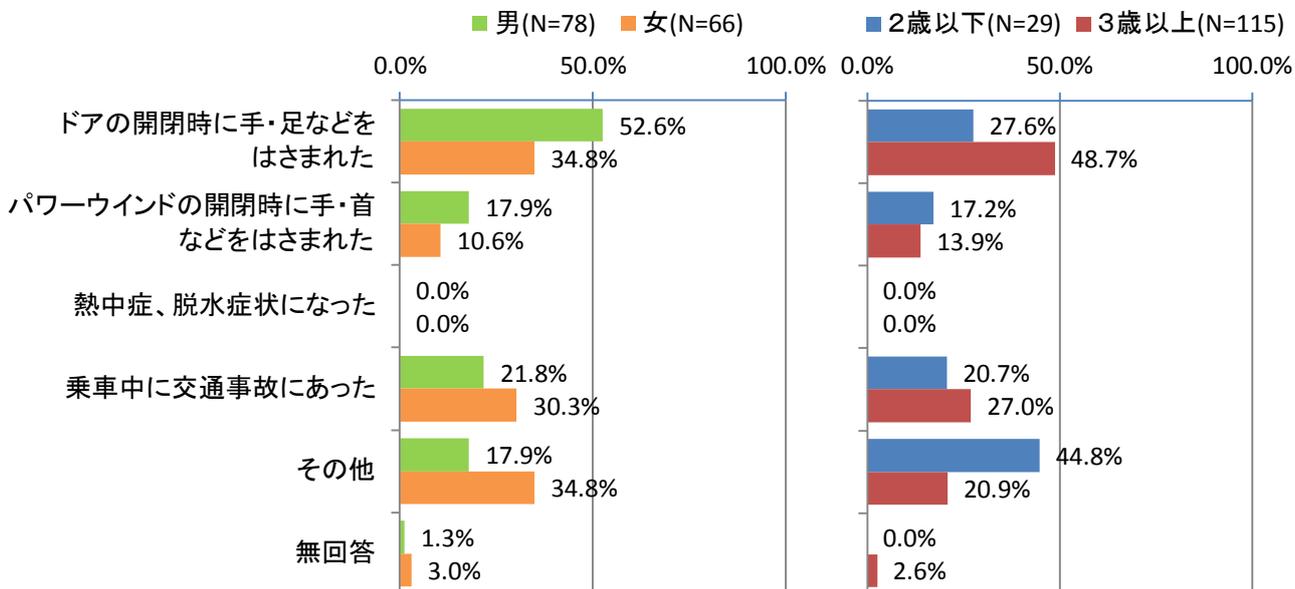
（２）自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあったことについて

- ・自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあったことについては、「ある」が、全体で 16.5%、性別では男が 17.4%、女が 15.7%、年齢別では 2 歳以下が 11.2%、3 歳以上が 18.9%となっている。
- ・自動車内で子どもが経験した危険な状況については、「ドアの開閉時に手・足などをはさまれた」が、全体で 44.4%、性別では男が 52.6%、女が 34.8%、年齢別では 2 歳以下が 27.6%、3 歳以上が 48.7%となっている。

（自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあったことについて）



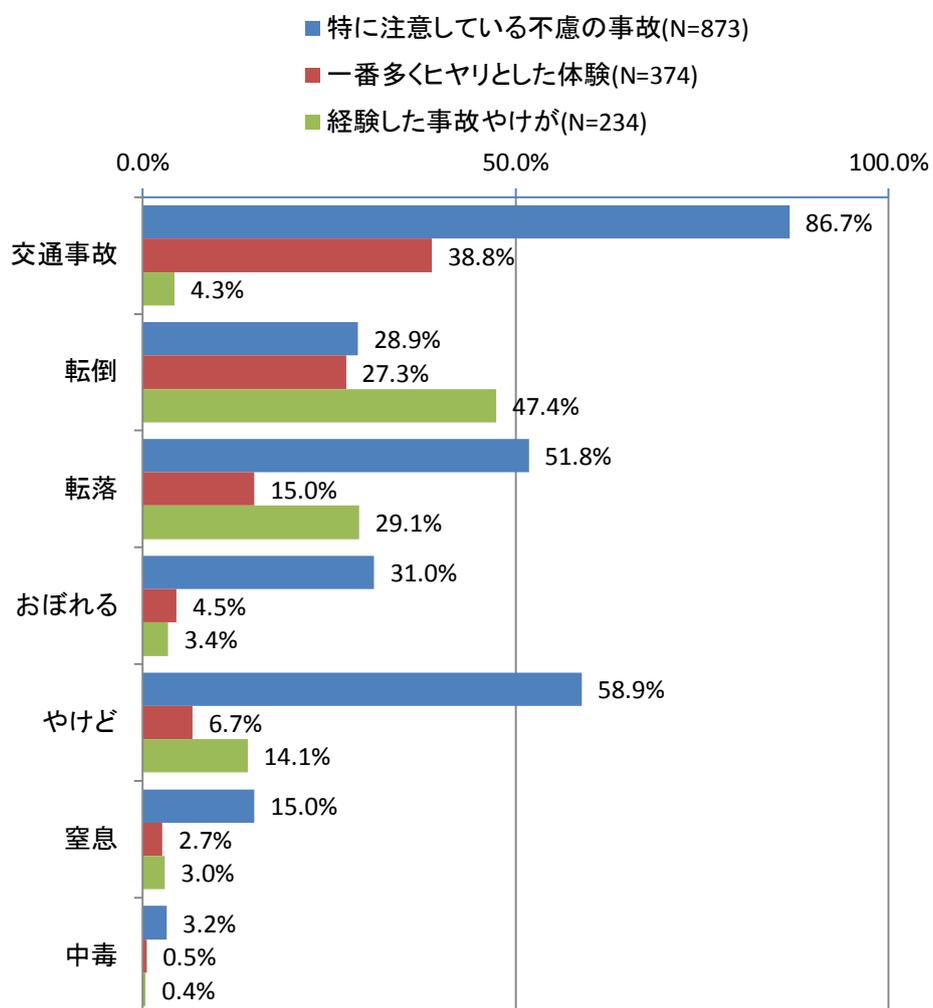
（自動車内で子どもが経験した危険な状況について）



2 不慮の事故について（P19～P31 参照）

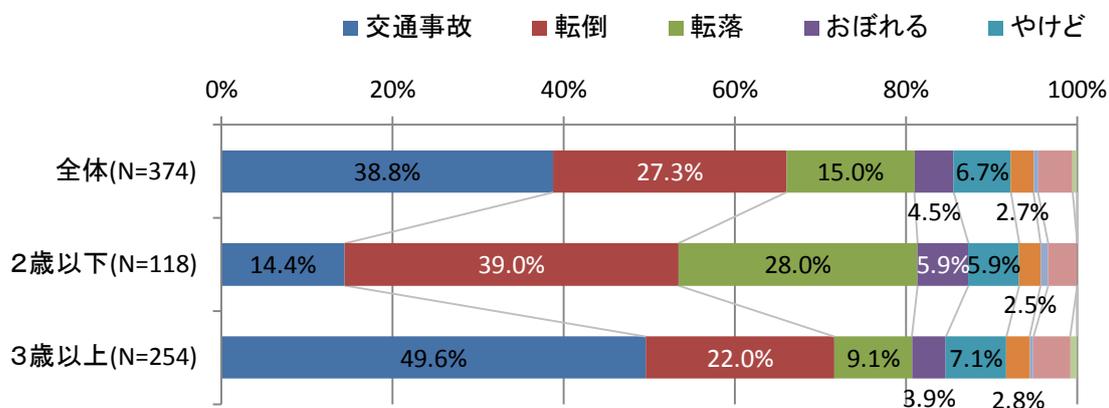
（1）「特に注意している不慮の事故」・「一番多くヒヤリとした体験」・「経験した事故やけが」について

- ・「特に注意している不慮の事故（3つまで○）」については、「交通事故」が86.7%、「やけど」が58.9%、「転落」が51.8%となっている。
- ・「一番多くヒヤリとした体験（ひとつに○）」については、「交通事故」が38.8%、「転倒」が27.3%、「転落」が15.0%となっている。
- ・「経験した事故やけがの種類（1件目と2件目の合計）」については、「転倒」が47.4%、「転落」が29.1%、「やけど」が14.1%となっている。



（２） 1年間に一番多くヒヤリとした体験について

- ・ 1年間に一番多くヒヤリとした体験については、「交通事故」が、全体で 38.8%、性別では男が 39.5%、女が 37.9%、年齢別では 2歳以下が 14.4%、3歳以上が 49.6%となっている。
- ・ 1年間に一番多くヒヤリとした体験については、「転倒」が、全体で 27.3%、性別では男が 26.2%、女が 28.2%、年齢別では 2歳以下が 39.0%、3歳以上が 22.0%となっている。
- ・ 1年間に一番多くヒヤリとした体験については、「転落」が、全体で 15.0%、性別では男が 16.9%、女が 13.0%、年齢別では 2歳以下が 28.0%、3歳以上が 9.1%となっている。



（３）子どもの安全対策について（P35～P36 参照）

子どもの年齢等により、安全対策の内容は違うと考えられるが、割合ごとに分けると以下ようになる。

	項目	人数	割合
80%以上	箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないように注意している	791	90.6%
	ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている	761	87.2%
	熱いお茶などの入ったコップなどをテーブルの端に置かないようにしている	746	85.5%
50%以上80%未満	浴槽の水は残さないようにしている	479	54.9%
	ベランダから身をのりださないように台座などは置かないようにしている	449	51.4%
	かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにしている	448	51.3%
50%未満	たばこを放置しない	409	46.8%
	トイレの中に落ちないようにする子ども用の便座やふたをしている	279	32.0%
	よく体をぶつけてしまいそうな家具などの角にカバーをしている	258	29.6%
	たんす、食器棚、冷蔵庫の扉が開かないように安全グッズを設置している	232	26.6%
	階段に転落防止柵を設置している(昇らないような防止柵も含む)	166	19.0%
	ドアやとびらに手を挟まないように安全グッズを設置している	104	11.9%
	窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置している	100	11.5%
	ベッドに転落防止柵を設置している	75	8.6%
	浴槽ですべて濡れないようにすべり止めを設置している	62	7.1%
	その他	28	3.2%

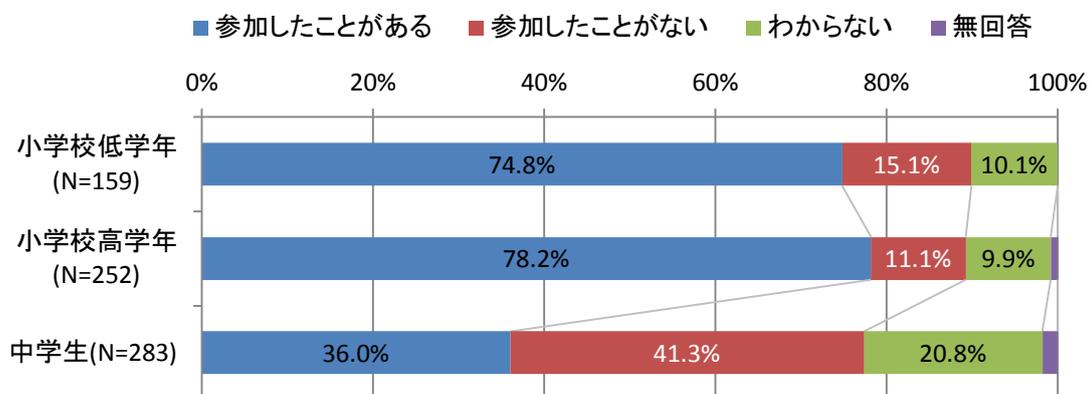
【小中学生】

1 交通安全について（P56～P60、P62～P69、P71～P72 参照）

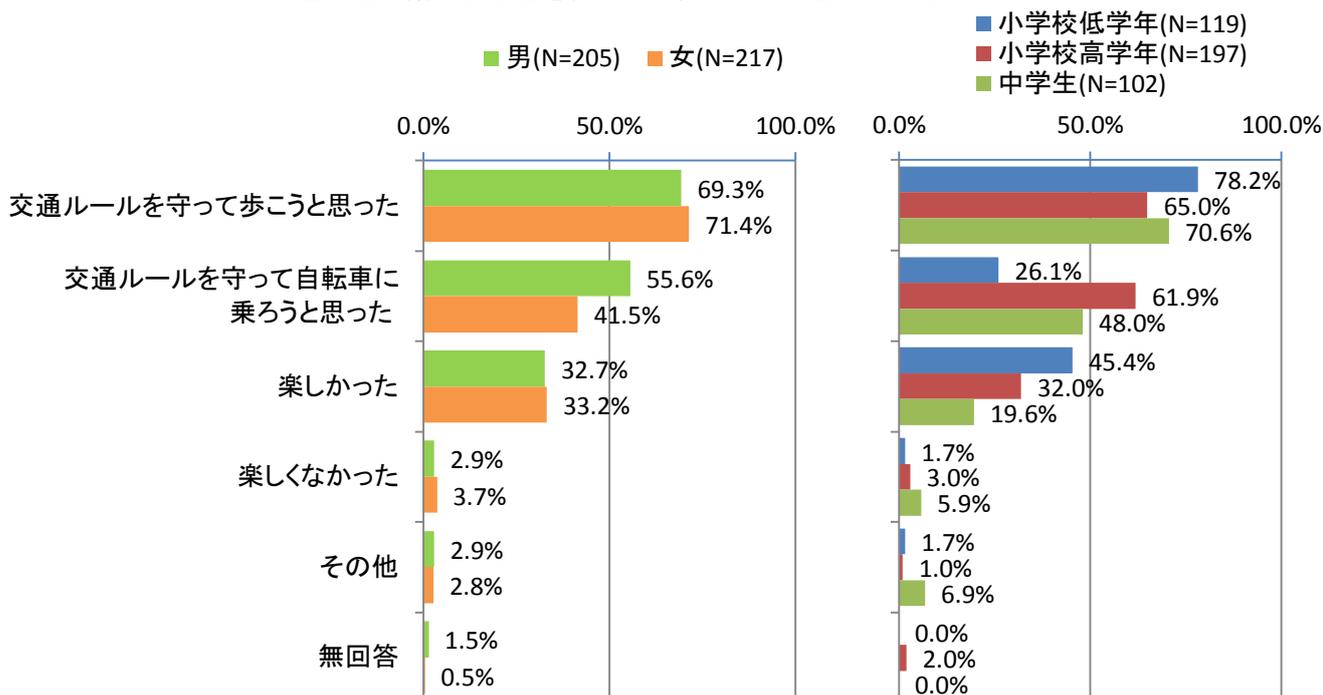
（1）交通安全教室（講習会などを含む）について

- 交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがある」が、全体で 60.2%、性別では男が 58.7%、女が 61.8%、年齢別では小学校低学年が 74.8%、小学校高学年が 78.2%、中学生が 36.0%となっている。
- 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した子どもの感想については、「交通ルールを守って歩こうと思った」が、全体で 70.4%、性別では男が 69.3%、女が 71.4%、年齢別では小学校低学年が 78.2%、小学校高学年が 65.0%、中学生が 70.6%となっている。

（交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について）

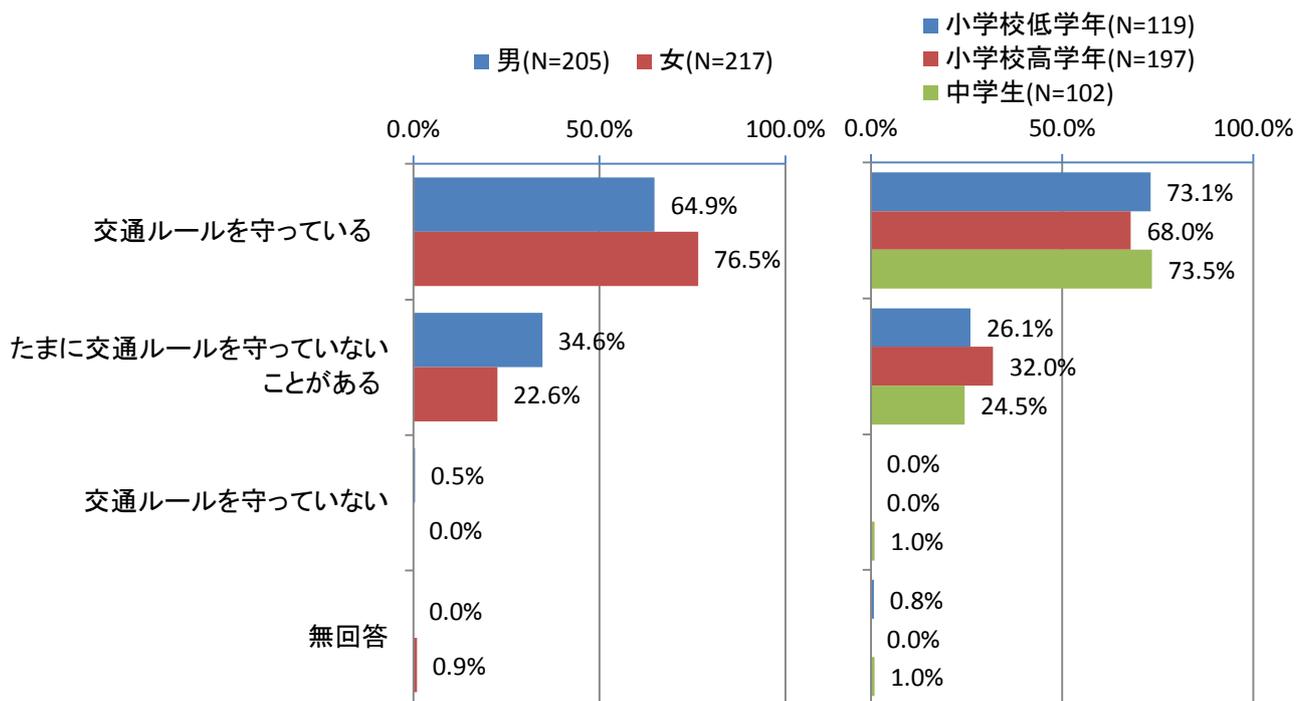


（交通安全教室（講習会などを含む）に参加した子どもの感想について）



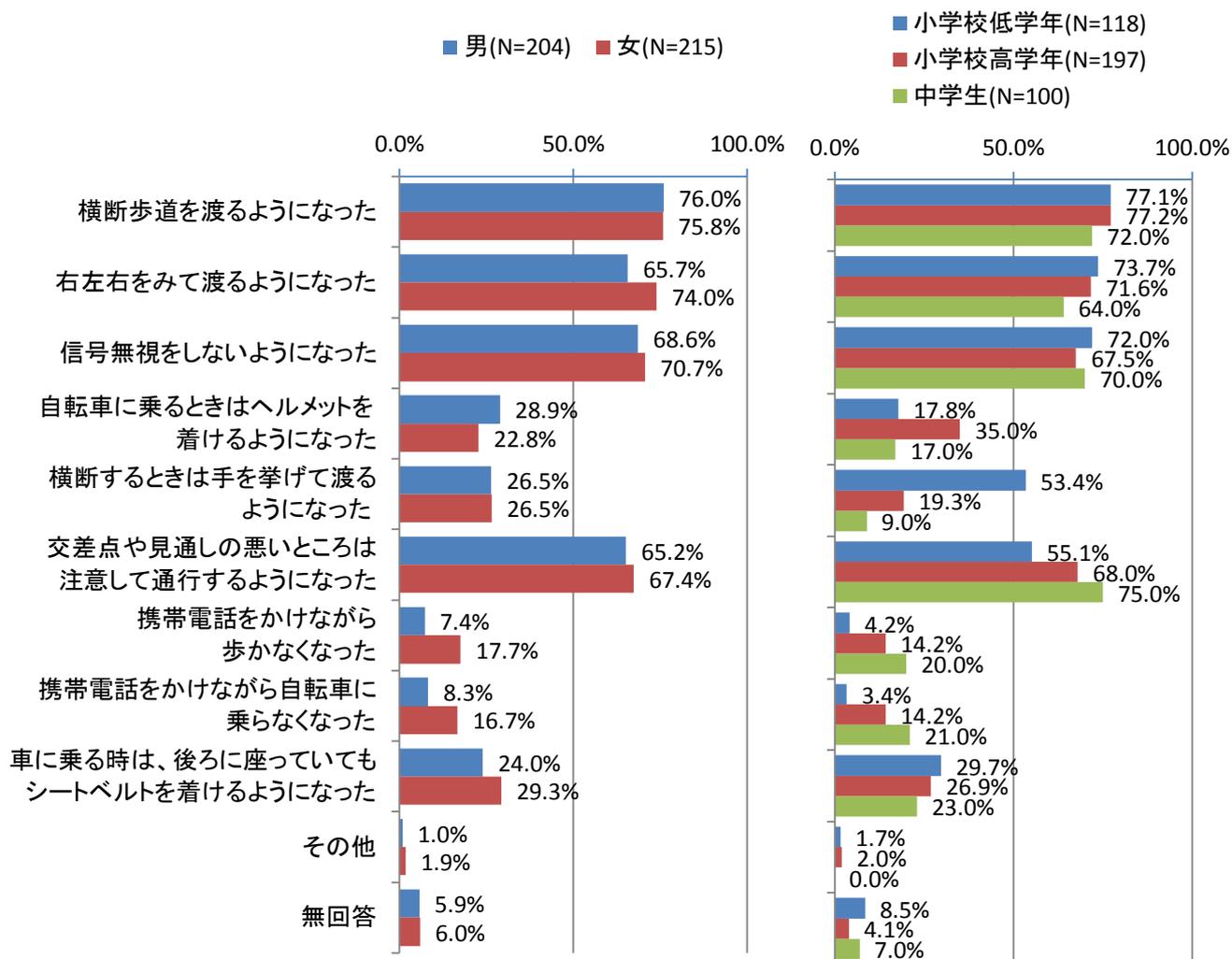
- 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守については、「交通ルールを守っている」が、全体で70.9%、性別では男が64.9%、女が76.5%、年齢別では小学校低学年が73.1%、小学校高学年が68.0%、中学生が73.5%となっている。

（交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守について）



- 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、守るようになった交通ルールについては、「横断歩道を渡るようになった」が、全体で 75.9%、性別では男が 76.0%、女が 75.8%、年齢別では小学校低学年が 77.1%、小学校高学年が 77.2%、中学生が 72.0%となっている。

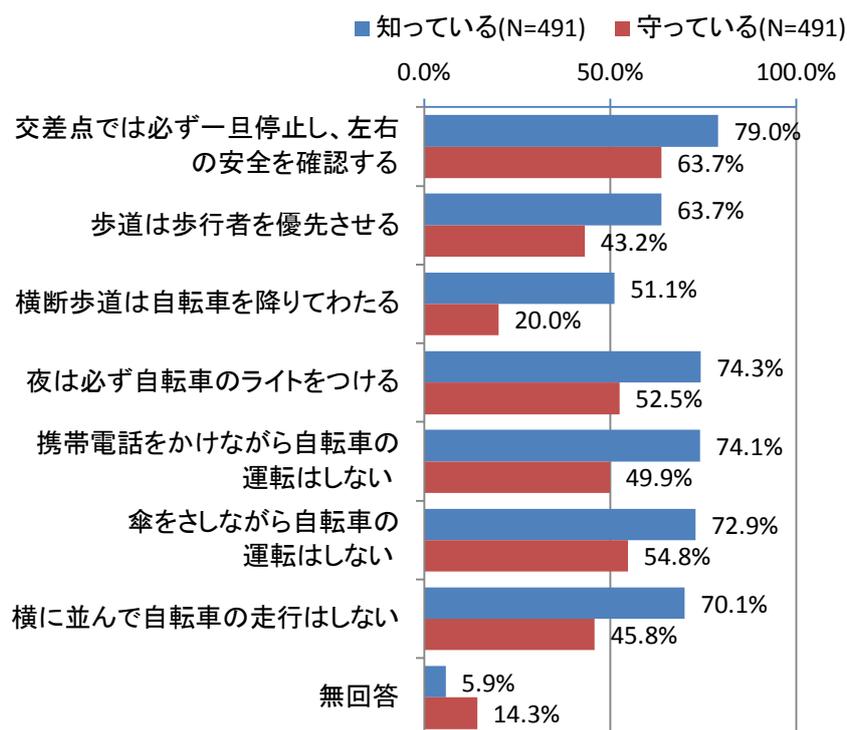
（交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、守るようになった交通ルールについて）



（２）自転車について

- ・自転車の使用頻度については、「ほぼ毎日（週４日以上）」、「週に２～３日」、「週に１日」の合計が、全体で 33.1%、性別では男が 41.5%、女が 24.8%、年齢別では小学校低学年が 23.2%、小学校高学年が 39.8%、中学生が 33.2%となっている。
- ・自転車乗車中のヘルメットの着用状況については、「つけていない」が、全体で 57.0%、性別では男が 55.8%、女が 58.4%、年齢別では小学校低学年が 49.0%、小学校高学年が 41.3%、中学生が 75.2%となっている。
- ・自転車乗車中にヘルメットをつけていない理由については、「ヘルメットを持っていない」が、全体で 61.4%、性別では男が 60.4%、女が 62.5%、年齢別では小学校低学年が 61.7%、小学校高学年が 55.3%、中学生が 65.2%となっている。
- ・自転車に関するルールを知っているかについては、「交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する」が、全体で 79.0%、性別では男が 81.8%、女が 76.0%、年齢別では小学校低学年が 68.8%、小学校高学年が 83.2%、中学生が 79.6%となっている。
- ・自転車に関するルールを守っているかについては、「交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する」が、全体で 63.7%、性別では男が 65.1%、女が 62.2%、年齢別では小学校低学年が 47.9%、小学校高学年が 70.7%、中学生が 65.0%となっている。

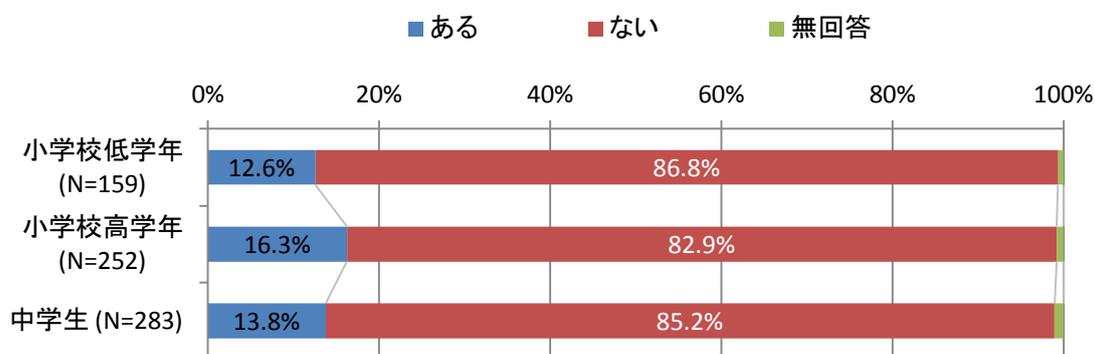
（自転車に関するルールの認知度と遵守度について）



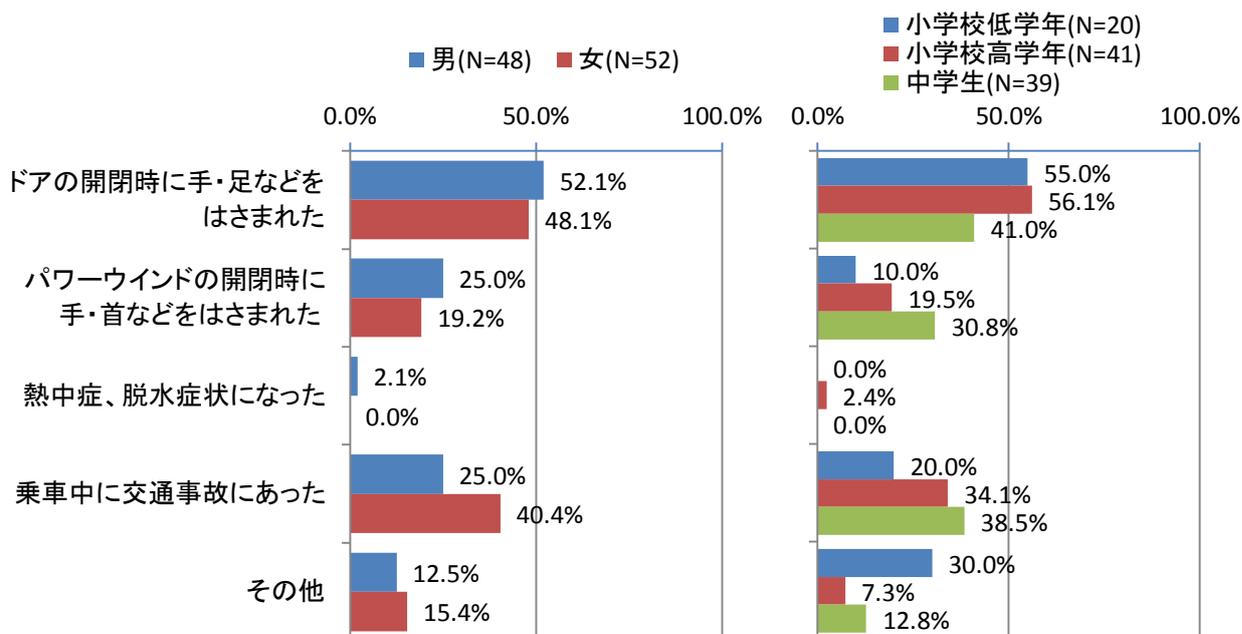
（3）自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあっただことについて

- ・自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあっただことについては、「ある」が、全体で 14.3%、性別では男が 13.8%、女が 14.8%、年齢別では小学校低学年が 12.6%、小学校高学年が 16.3%、中学生が 13.8%となっている。
- ・自動車内で子どもが経験した危険な状況については、「ドアの開閉時に手・足などをはさまれた」が、全体で 50.0%、性別では男が 52.1%、女が 48.1%、年齢別では小学校低学年が 55.0%、小学校高学年が 56.1%、中学生が 41.0%となっている。

（自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあっただことについて）



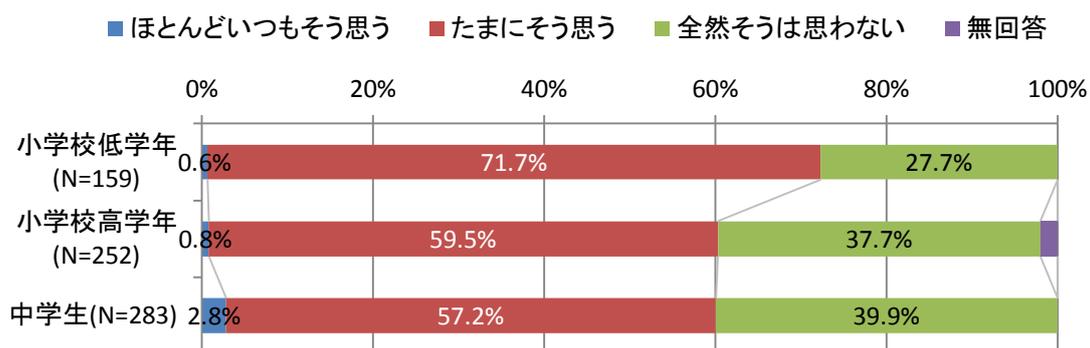
（自動車内で子どもが経験した危険な状況について）



2 子育てへの支援について（P74 参照）

- ・保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについて、「ほとんどいつもそう思う」と「たまにそう思う」の合計が、全体で63.2%、性別では男が64.5%、女が62.1%、年齢別では小学校低学年が72.3%、小学校高学年が60.3%、中学生が60.0%となっている。

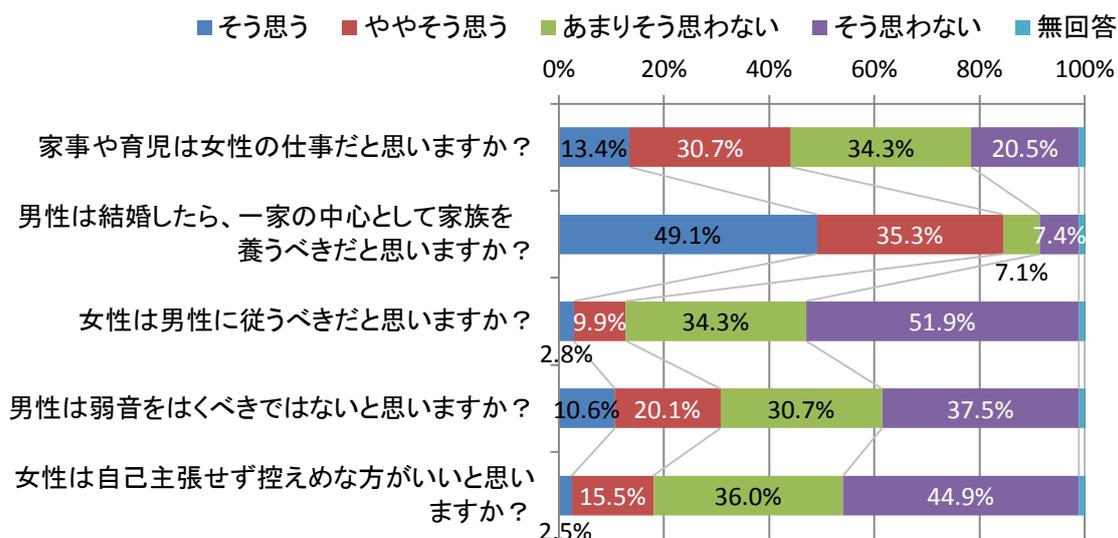
（保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについて）



3 暴力（DV）について（P79～P96 参照）

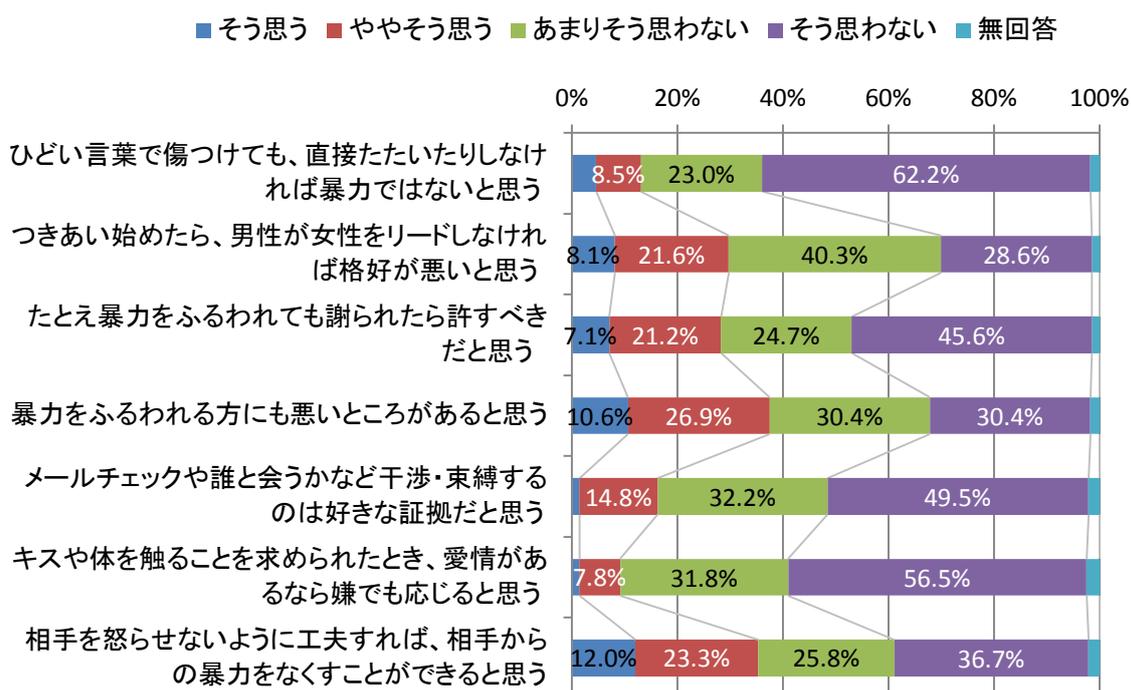
（1）男女の役割について

- ・家事や育児は女性の仕事だと思うかについては、「そう思う」が、全体で13.4%、性別では男が13.8%、女が13.2%となっている。
- ・男性は結婚したら、一家の中心として家族を養うべきだと思うかについては、「そう思う」が、全体で49.1%、性別では男が55.1%、女が43.1%となっている。
- ・女性は男性に従うべきだと思うかについては、「そう思う」が、全体で2.8%、性別では男が2.2%、女が3.5%となっている。
- ・男性は弱音をかくべきではないと思うかについては、「そう思う」が、全体で10.6%、性別では男が12.3%、女が9.0%となっている。
- ・女性は自己主張せず控えめな方がいいと思うかについては、「そう思う」が、全体で2.5%、性別では男が2.2%、女が2.8%となっている。



（２）あなた（中学生本人）が交際した（異性と付き合う）場合にどう思うことかについて

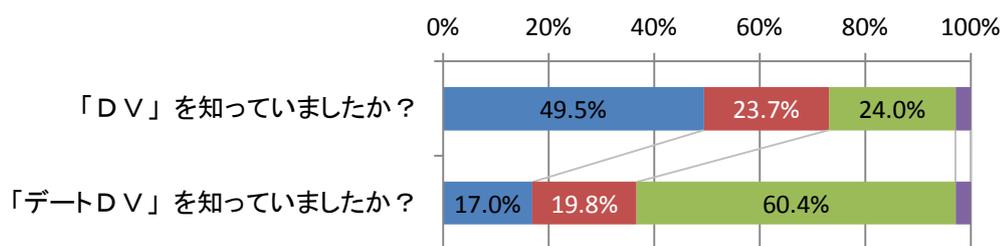
- ・ひどい言葉で傷つけても、直接たたいたりしなければ暴力ではないと思うかについては、「そう思う」が、全体で 4.6%、性別では男が 5.8%、女が 3.5%となっている。
- ・つきあい始めたら、男性が女性をリードしなければ格好が悪いと思うかについては、「そう思う」が、全体で 8.1%、性別では男が 11.6%、女が 4.9%となっている。
- ・たとえ暴力をふるわれても謝られたら許すべきだと思うかについては、「そう思う」が、全体で 7.1%、性別では男が 11.6%、女が 2.8%となっている。
- ・暴力をふるわれる方にも悪いところがあると思うかについては、「そう思う」が、全体で 10.6%、性別では男が 15.9%、女が 5.6%となっている。
- ・メールチェックや誰と会うかなど干渉・束縛するのは好きな証拠だと思うかについては、「そう思う」が、全体で 1.4%、性別では男が 2.2%、女が 0.7%となっている。
- ・キスや体を触ることを求められたとき、愛情があるなら嫌でも応じると思うかについては、「そう思う」が、全体で 1.4%、性別では男が 2.9%、女が 0.0%となっている。
- ・相手を怒らせないように工夫すれば、相手からの暴力をなくすことができると思うかについては、「そう思う」が、全体で 12.0%、性別では男が 17.4%、女が 6.9%となっている。



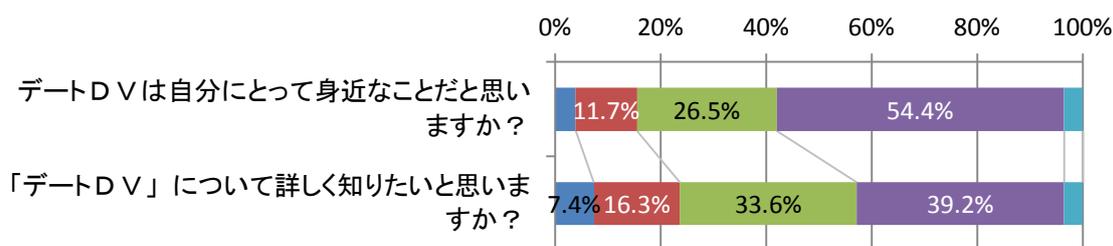
（3）DV（ドメスティック・バイオレンス）について

- ・「DV」の認知度については、「まったく知らなかった」が、全体で24.0%、性別では男が29.0%、女が19.4%となっている。
- ・「デートDV」の認知度については、「まったく知らなかった」が、全体で60.4%、性別では男が63.0%、女が58.3%となっている。
- ・「デートDV」は身近な問題であるかについては、「そう思わない」が、全体で54.4%、性別では男が53.6%、女が55.6%となっている。
- ・「デートDV」について詳しく知りたいかについては、「そう思わない」が、全体で39.2%、性別では男が39.9%、女が38.9%となっている。
- ・DVの被害者や加害者にならないための学習をしたことがあるかについては、「学んだことはない」が、全体で70.3%、性別では男が70.3%、女が70.1%となっている。
- ・交際相手のことで悩んだときの相談先については、「相談しない」が、全体で20.1%、性別では男が29.0%、女が11.8%となっている。

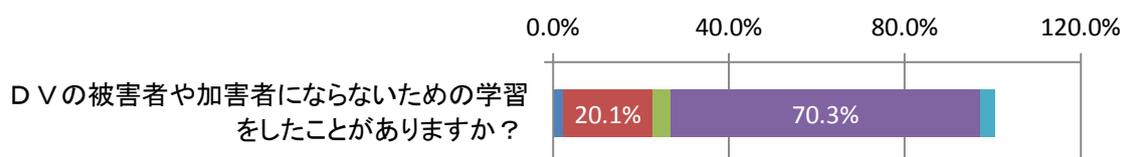
■言葉も意味も知っていた ■言葉だけは知っていた ■まったく知らなかった ■無回答



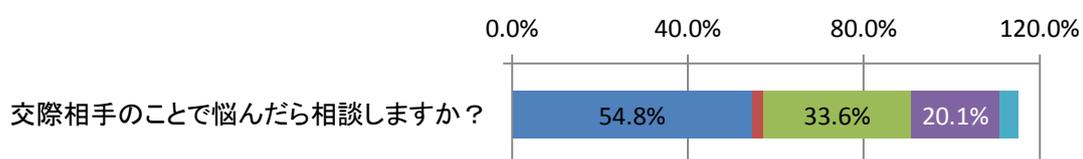
■そう思う ■ややそう思う ■あまりそう思わない ■そう思わない ■無回答



■家庭で学んだ ■学校で学んだ ■その他で学んだ ■学んだことがない ■無回答

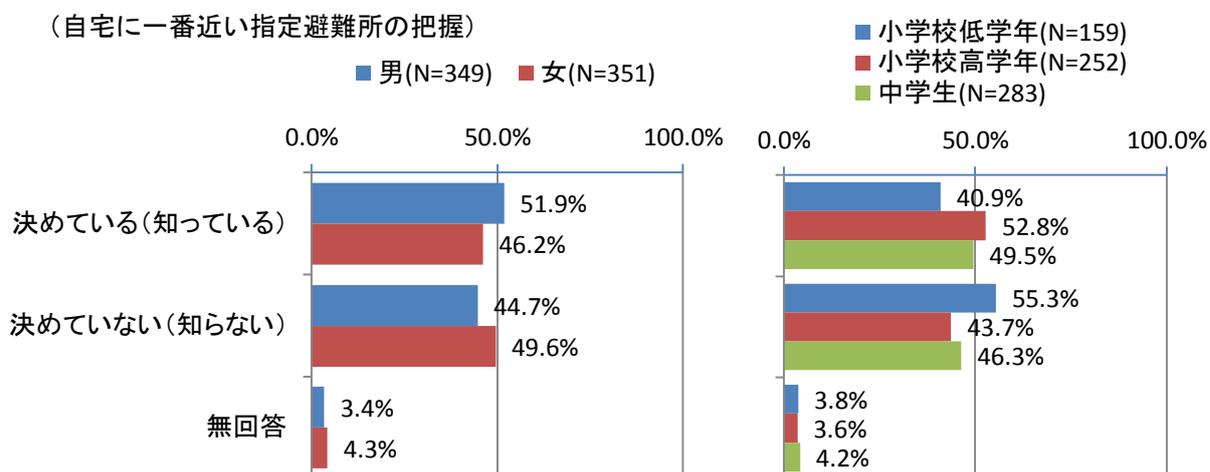


■友人に相談する ■先生に相談する ■家族に相談する ■相談しない ■無回答

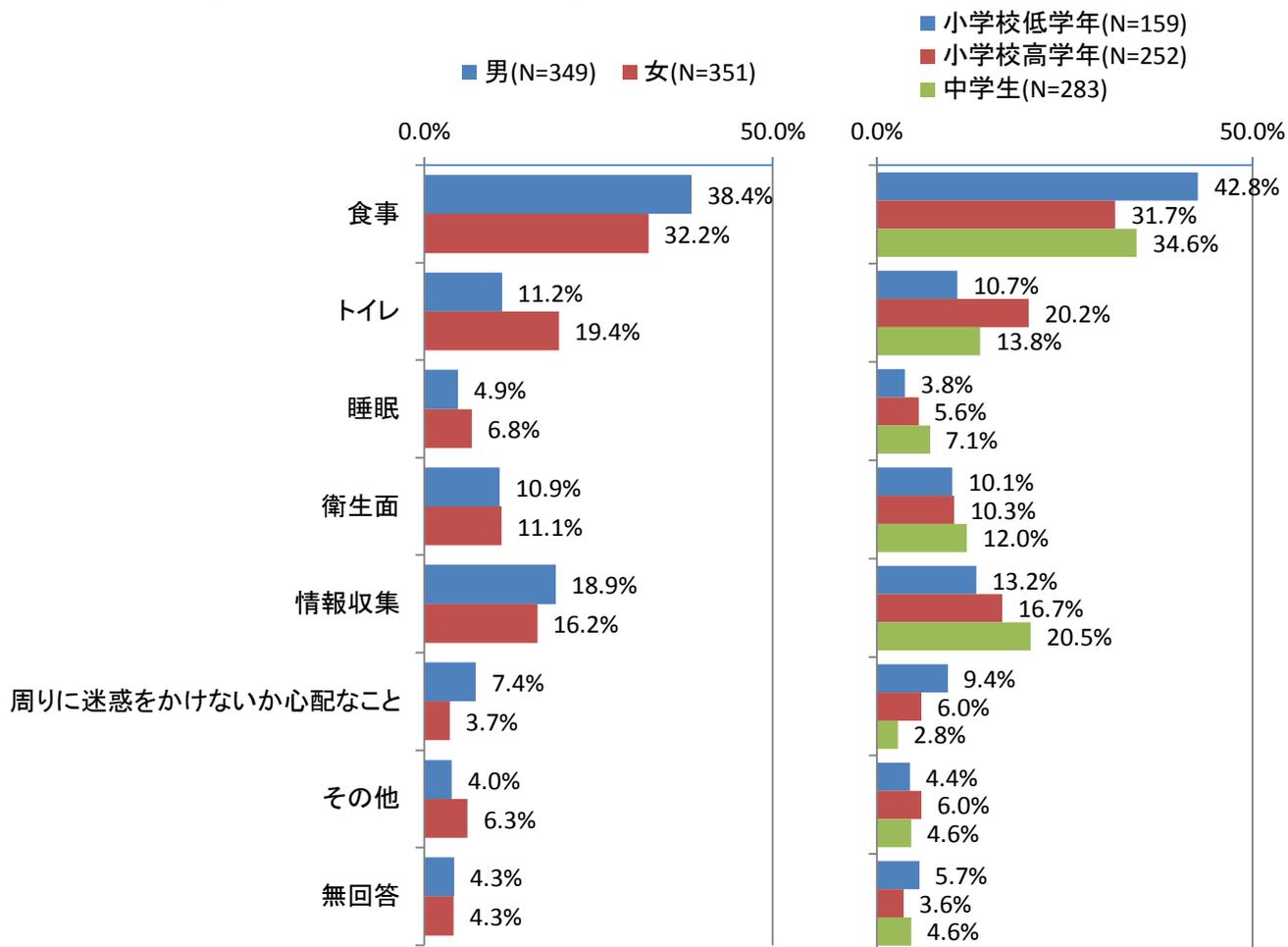


4 防災について（P97、P100～P102 参照）

- ・自宅に一番近い指定避難所の把握について、「決めている（知っている）」が、全体で 48.9%、性別では男が 51.9%、女が 46.2%、年齢別では小学校低学年が 40.9%、小学校高学年が 52.8%、中学生が 49.5%となっている。
- ・避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「食事」が、全体で 35.2%、性別では男が 38.4%、女が 32.2%、年齢別では小学校低学年が 42.8%、小学校高学年が 31.7%、中学生が 34.6%となっている。
- ・大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度について、「知っている」が、全体で 35.4%、性別では男が 37.5%、女が 33.3%、年齢別では小学校低学年が 22.0%、小学校高学年が 39.7%、中学生が 39.2%となっている。



（避難所に避難した場合に一番不安なこと）



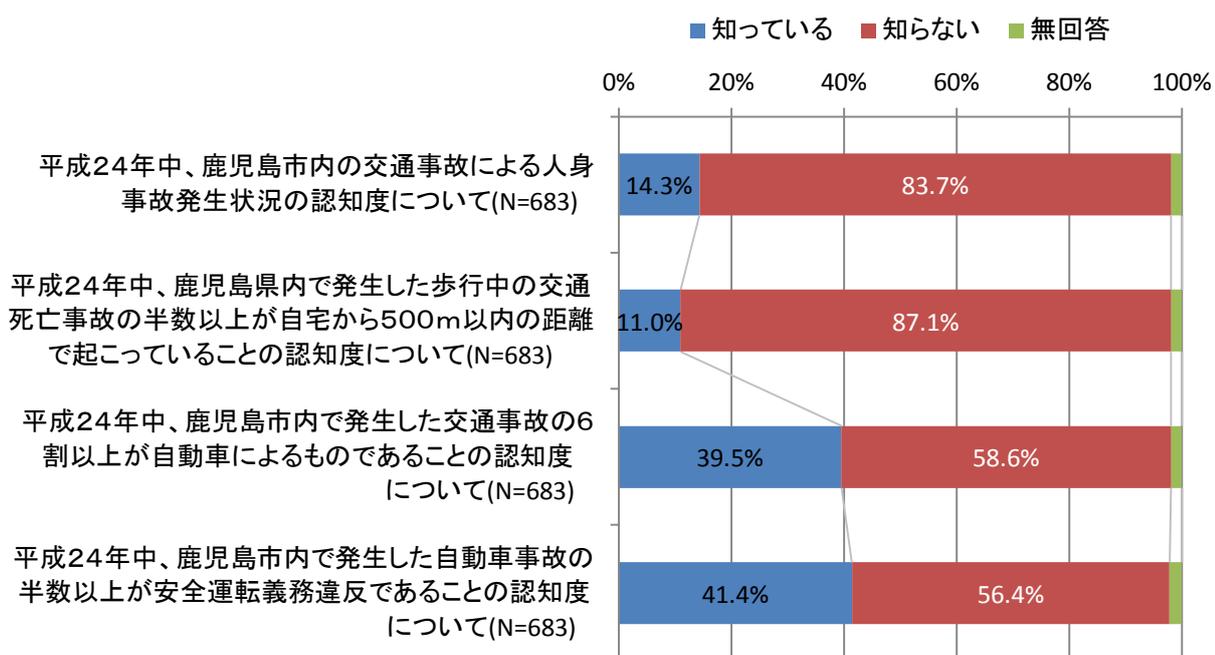
【一般】

1 交通安全について（P112～P115、P122～P126 参照）

（1）交通事故等に関する認知度について

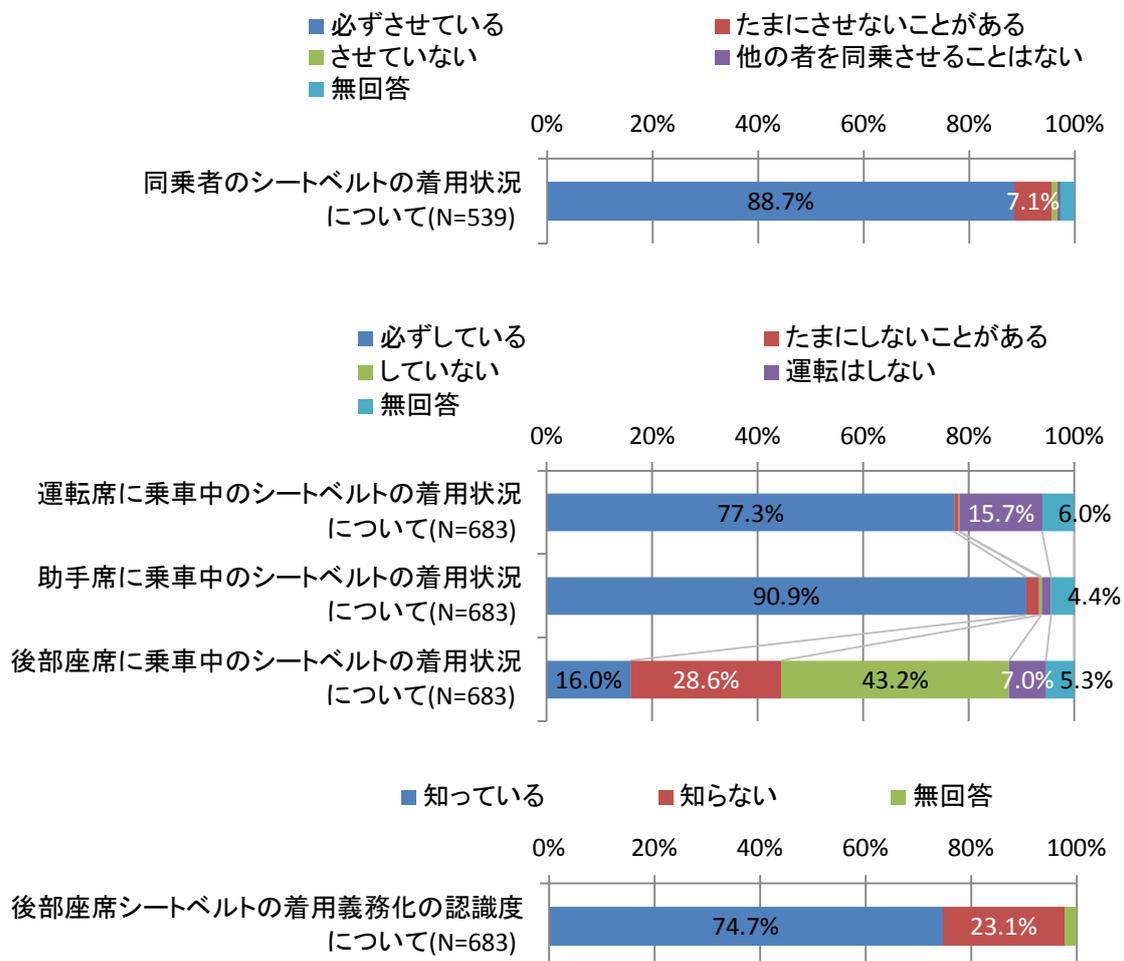
- ・平成24年中、鹿児島市内の交通事故による人身事故発生状況の認知度については、「知っている」が、全体で14.3%、性別では男が17.3%、女が12.3%、年齢別では40歳未満が8.5%、40歳～64歳が15.7%となっている。
- ・平成24年中、鹿児島県内で発生した歩行中の交通死亡事故の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることの認知度については、「知っている」が、全体で11.0%、性別では男が11.3%、女が10.8%、年齢別では40歳未満が9.2%、40歳～64歳が11.0%となっている。
- ・平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故の6割以上が自動車によるものであることの認知度については、「知っている」が、全体で39.5%、性別では男が43.0%、女が37.1%、年齢別では40歳未満が24.1%、40歳～64歳が43.8%となっている。
- ・平成24年中、鹿児島市内で発生した自動車事故の半数以上が安全運転義務違反であることの認知度については、「知っている」が、全体で41.4%、性別では男が41.2%、女が41.6%、年齢別では40歳未満が31.9%、40歳～64歳が44.0%となっている。

（交通事故等に関する認知度について）



（２）シートベルトの着用状況等について

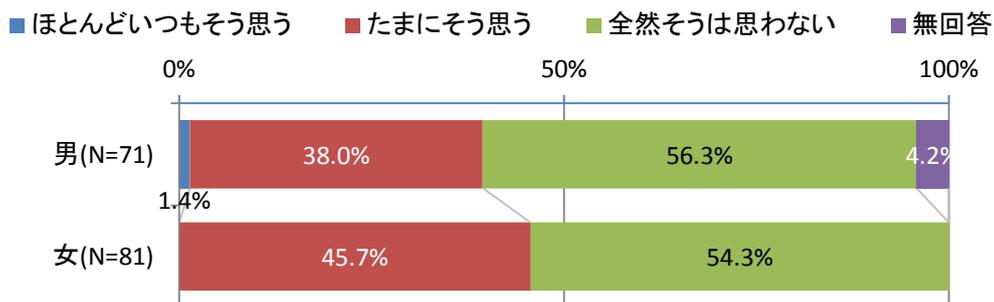
- ・同乗者のシートベルトの着用状況については、「必ずさせている」が、全体で88.7%、性別では男が89.3%、女が88.1%、年齢別では40歳未満が88.0%、40歳～64歳が88.7%となっている。
- ・運転席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で77.3%、性別では男が84.2%、女が72.4%、年齢別では40歳未満が69.5%、40歳～64歳が79.3%となっている。
- ・助手席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で90.9%、性別では男が90.8%、女が91.0%、年齢別では40歳未満が90.1%、40歳～64歳が91.1%となっている。
- ・後部座席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「していない」が、全体で43.2%、性別では男が41.9%、女が44.1%、年齢別では40歳未満が52.5%、40歳～64歳が40.4%となっている。
- ・後部座席シートベルトの着用義務化の認識度については、「知っている」が、全体で74.7%、性別では男が79.9%、女が70.9%、年齢別では40歳未満が74.5%、40歳～64歳が75.0%となっている。



2 子育てへの支援について（P129 参照）

- ・子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについては、「ほとんどいつもそう思う」と「たまにそう思う」の合計が、全体で42.8%、性別では男が39.4%、女が45.7%、年齢別では40歳未満が42.2%、40歳～64歳が42.3%となっている。

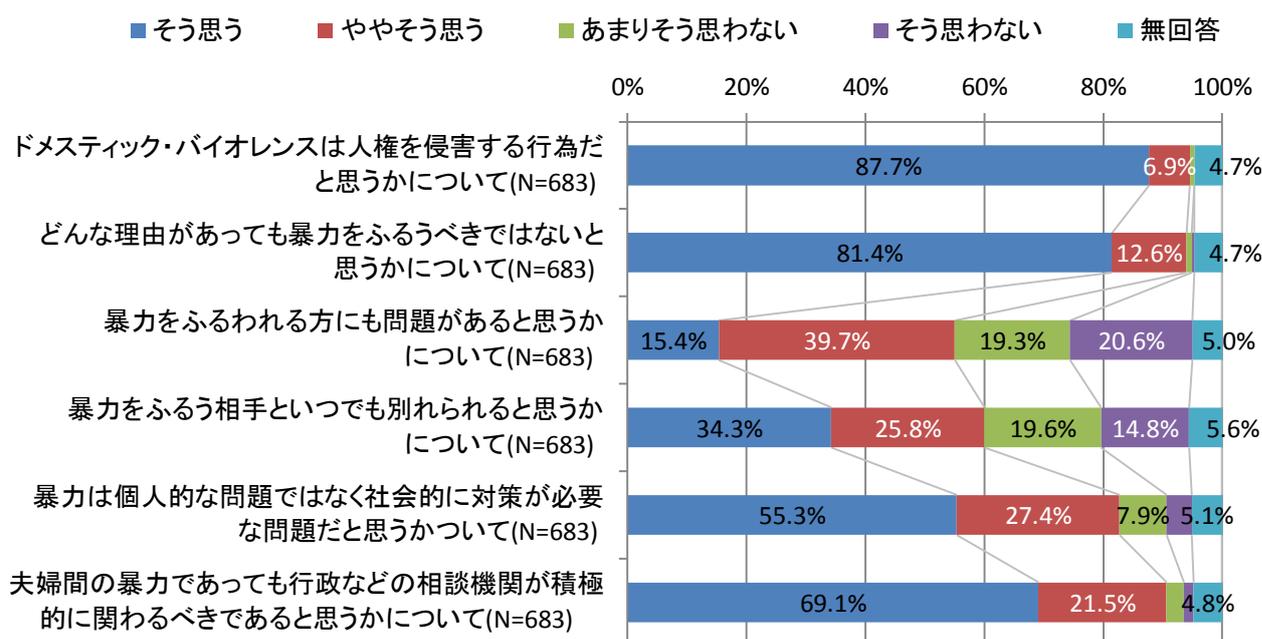
（保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについて）



3 暴力（DV）について（P134～P149 参照）

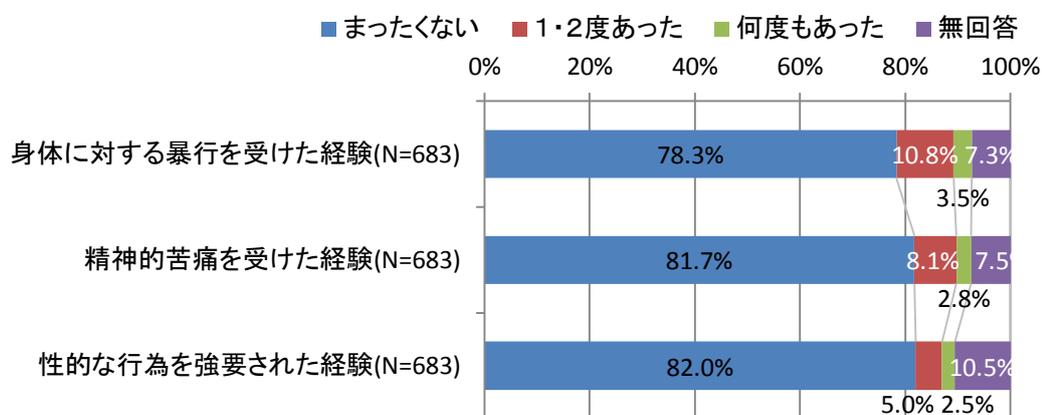
（1）暴力について

- ・ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為だと思うかについては、「そう思う」が、全体で 87.7%、性別では男が 84.2%、女が 90.2%、年齢別では 40 歳未満が 83.7%、40 歳～64 歳が 88.6%となっている。
- ・どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思うかについては、「そう思う」が、全体で 81.4%、性別では男が 79.2%、女が 83.0%、年齢別では 40 歳未満が 78.7%、40 歳～64 歳が 82.0%となっている。
- ・暴力をふるわれる方にも問題があると思うかについては、「そう思う」が、全体で 15.4%、性別では男が 17.3%、女が 14.0%、年齢別では 40 歳未満が 12.8%、40 歳～64 歳が 16.1%となっている。
- ・暴力をふるう相手といつでも別れられると思うかについては、「そう思う」が、全体で 34.3%、性別では男が 35.2%、女が 33.6%、年齢別では 40 歳未満が 23.4%、40 歳～64 歳が 36.8%となっている。
- ・暴力は個人的な問題ではなく社会的に対策が必要な問題だと思うかについては、「そう思う」が、全体で 55.3%、性別では男が 52.5%、女が 57.4%、年齢別では 40 歳未満が 59.6%、40 歳～64 歳が 54.1%となっている。
- ・夫婦間の暴力であっても行政などの相談機関が積極的に関わるべきであると思うかについては、「そう思う」が、全体で 69.1%、性別では男が 62.7%、女が 73.7%、年齢別では 40 歳未満が 80.1%、40 歳～64 歳が 66.0%となっている。



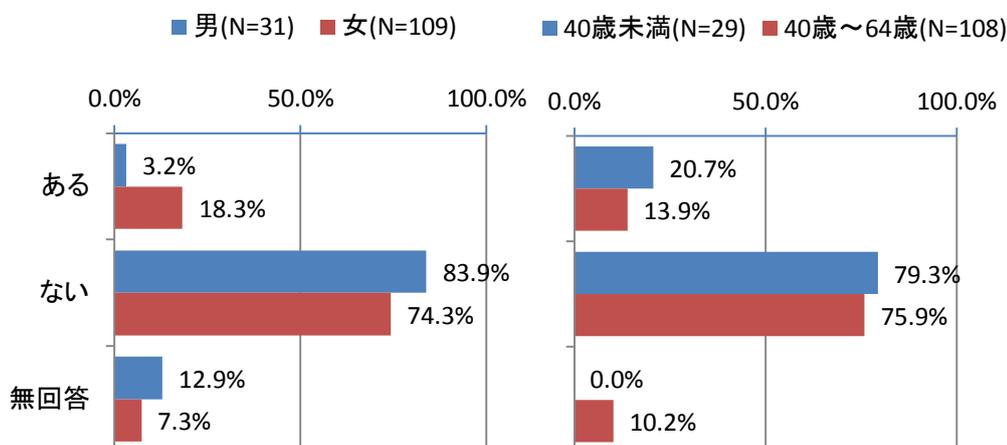
（２）暴力を受けた経験について

- ・身体に対する暴行を受けた経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で14.3%、性別では男が9.2%、女が18.0%、年齢別では40歳未満が12.0%、40歳～64歳が14.8%となっている。
- ・精神的苦痛を受けた経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で10.9%、性別では男が3.6%、女が16.0%、年齢別では40歳未満が13.5%、40歳～64歳が10.3%となっている。
- ・性的な行為を強要された経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で7.5%、性別では男が1.4%、女が11.8%、年齢別では40歳未満が4.2%、40歳～64歳が8.4%となっている。



（３）受けた暴力による命の危険

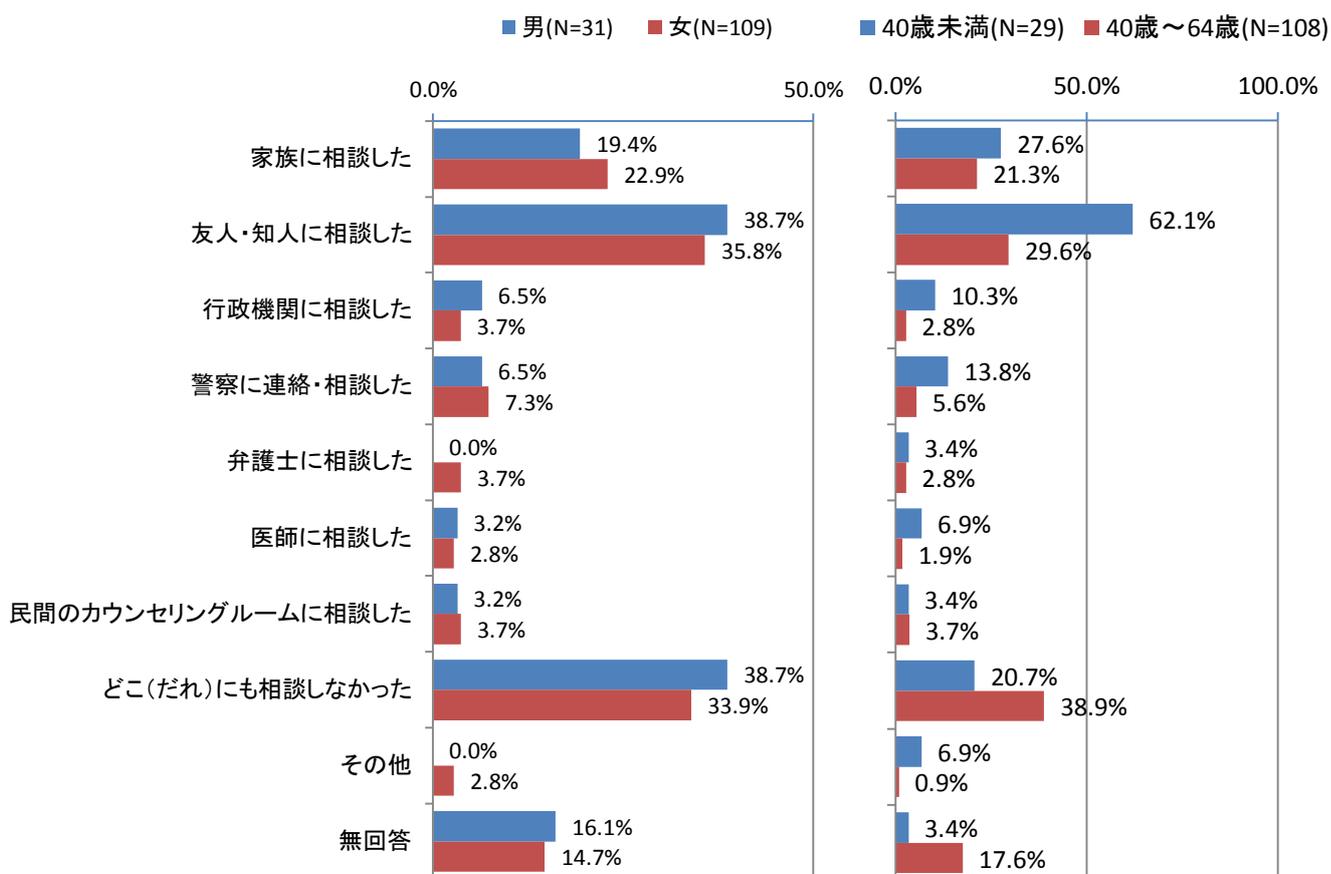
- ・受けた暴力による命の危険については、「ある」が、全体で15.0%、性別では男が3.2%、女が18.3%、年齢別では40歳未満が20.7%、40歳～64歳が13.9%となっている。



（４）受けた暴力に対する相談等

- ・受けた暴力についての相談先については、「友人・知人に相談した」が、全体で36.4%、性別では男が38.7%、女が35.6%、年齢別では40歳未満が62.1%、40歳～64歳が29.6%となっている。
- また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は、全体で35.0%、性別では男が38.7%、女が33.9%、年齢別では40歳未満が20.7%、40歳～64歳が38.9%となっている。
- ・どこ（だれ）にも相談しなかった理由については、「個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから」が、全体で42.9%、性別では男が25.0%、女が48.6%、年齢別では40歳未満が66.7%、40歳～64歳が38.1%となっている。

（受けた暴力についての相談先）



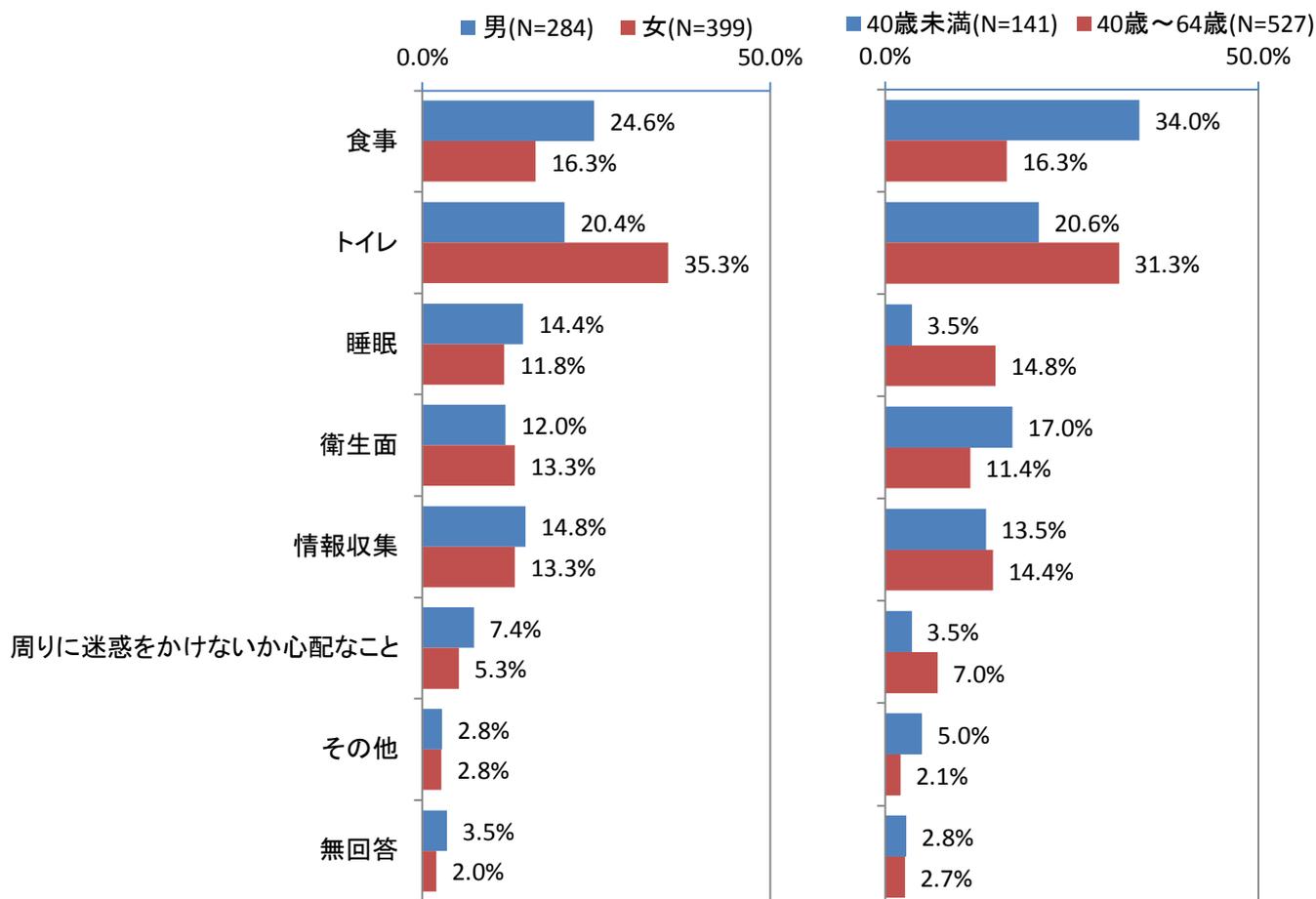
4 自殺について（P156～P158、P160～P162 参照）

- ・自殺したいと考えたことについては、「考えたことがある」が、全体で 6.7%、性別では男が 4.2%、女が 8.5%、年齢別では 40 歳未満が 9.9%、40 歳～64 歳が 6.1%となっている。
なお、自殺したいと考えたときの一番の原因については、「家庭問題」が 26.1%、「健康問題」が 19.6%、「経済・生活問題」が 17.4%となっている。
- ・自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」が 67.4%となっている。
なお、自殺に関する相談先の認知度については、「知らない」が、全体で 50.4%、性別では男が 55.3%、女が 46.9%、年齢別では 40 歳未満が 52.5%、40 歳～64 歳が 50.1%となっている。
- ・自殺について知っていることについては、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が 66.0%、「自殺は防ぐことができる」が 65.2%、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が 62.1%、なお「考えたことはない」は 11.7%となっている。

5 防災について（P163～P170 参照）

- ・自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている（知っている）」が、全体で 60.2%、性別では男が 60.9%、女が 59.6%、年齢別では 40 歳未満が 53.9%、40 歳～64 歳が 62.0%となっている。
 - ・災害発生時の家族との連絡方法に関する話し合いについては、「決めている」が、全体で 30.5%、性別では男が 28.9%、女が 31.6%、年齢別では 40 歳未満が 30.5%、40 歳～64 歳が 28.9%となっている。
 - ・非常持ち出し品の準備については、「準備している」が、全体で 14.5%、性別では男が 12.0%、女が 16.3%、年齢別では 40 歳未満が 9.2%、40 歳～64 歳が 15.9%となっている。
 - ・災害時要援護者避難支援制度の認知度については、「知っている」が、全体で 18.4%、性別では男が 19.4%、女が 17.8%、年齢別では 40 歳未満が 11.3%、40 歳～64 歳が 20.1%となっている。
 - ・避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「トイレ」が、全体で 29.1%、性別では男が 20.4%、女が 35.3%、年齢別では 40 歳未満が 20.6%、40 歳～64 歳が 31.3%となっている。
- なお、次いで「食事」が 19.8%、「情報収集」が 13.9%となっている。

（避難所に避難した場合に一番不安なこと）



- ・町内会において事前に家族情報を把握する必要性とその賛否については、「必要性があり、賛成である」が、全体で67.9%、性別では男が65.8%、女が69.4%、年齢別では40歳未満が66.0%、40歳～64歳が68.7%となっている。
- ・大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度については、「知っている」が、全体で55.2%、性別では男が56.7%、女が54.1%、年齢別では40歳未満が46.1%、40歳～64歳が57.1%となっている

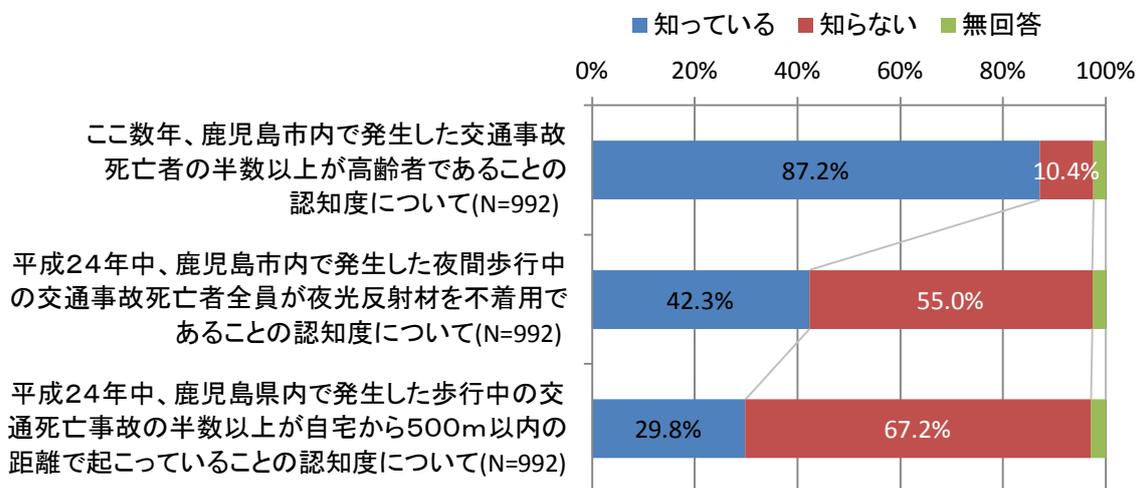
【高齢者】

1 交通安全について（P183～P186、P190～P192、P199～P210 参照）

（1）交通事故等に関する認知度について

- ・ここ数年、鹿児島市内で発生した交通事故死亡者の半数以上が高齢者であることの認知度については、「知っている」が、全体で 87.2%、性別では男が 88.0%、女が 87.0%、年齢別では 65 歳～74 歳が 87.9%、75 歳以上が 87.6%となっている。
- ・平成 24 年中、鹿児島市内で発生した夜間歩行中の交通事故死亡者全員が夜光反射材を不着用であることの認知度については、「知っている」が、全体で 42.3%、性別では男が 44.2%、女が 40.4%、年齢別では 65 歳～74 歳が 42.1%、75 歳以上が 43.2%となっている。
- ・平成 24 年中、鹿児島県内で発生した歩行中の交通死亡事故の半数以上が自宅から 500 m 以内の距離で起こっていることの認知度については、「知っている」が、全体で 29.8%、性別では男が 30.7%、女が 29.1%、年齢別では 65 歳～74 歳が 27.0%、75 歳以上が 32.3%となっている。

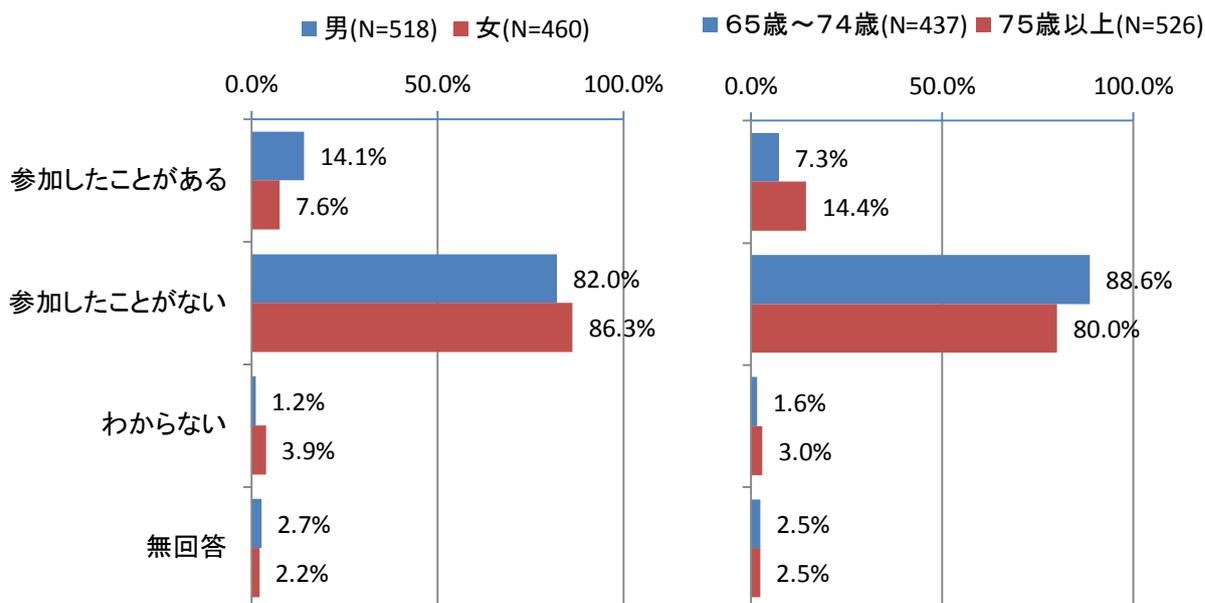
（交通事故等に関する認知度について）



（２）交通安全教室（講習会などを含む）について

- ・ 1年間の歩行者対象の交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがない」が、全体で83.7%、性別では男が82.0%、女が86.3%、年齢別では65歳～74歳が88.6%、75歳以上が80.0%となっている。

（交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について）



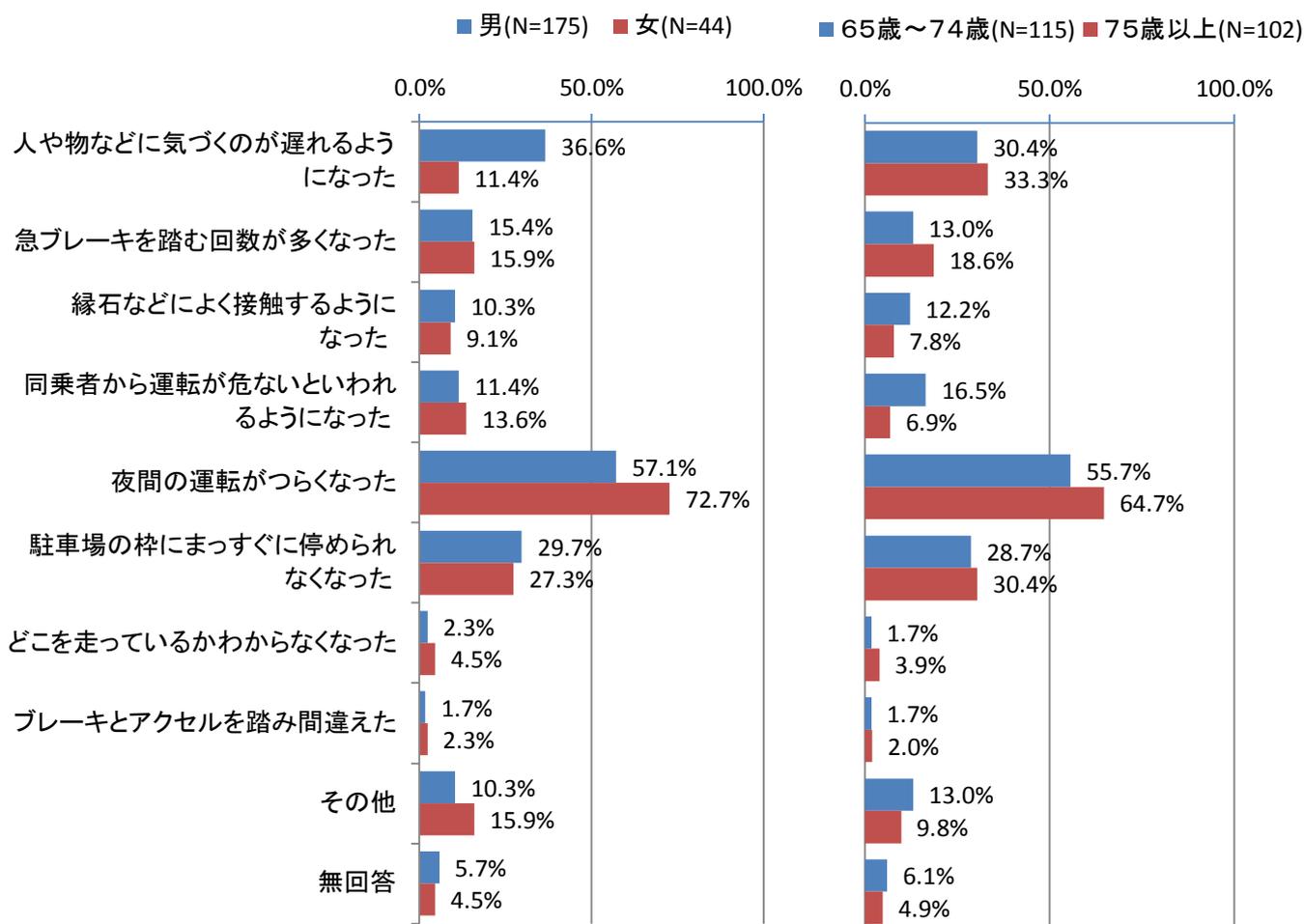
（３）夜光反射材の活用状況について

- ・ 夜間や薄暗いときの夜光反射材の活用状況については、「活用していない」が、全体で26.7%、性別では男が32.2%、女が20.9%、年齢別では65歳～74歳が33.0%、75歳以上が21.7%となっている。
- ・ 夜光反射材を活用していない理由については、「夜光反射材を持っていない」が、全体で67.9%、性別では男が70.7%、女が62.5%、年齢別では65歳～74歳が73.6%、75歳以上が61.4%となっている。

（４）体の衰えによる運転への影響について

- ・体の衰えによる運転への影響については、「ある」が、全体で 42.6%、性別では男が 45.3%、女が 36.1%、年齢別では 65歳～74歳が 37.6%、75歳以上が 51.3%となっている。
- ・体の衰えによる運転への影響については、「夜間の運転がづらくなった」が、全体で 60.0%、性別では男が 57.1%、女が 72.7%、年齢別では 65歳～74歳が 55.7%、75歳以上が 64.7%となっている。

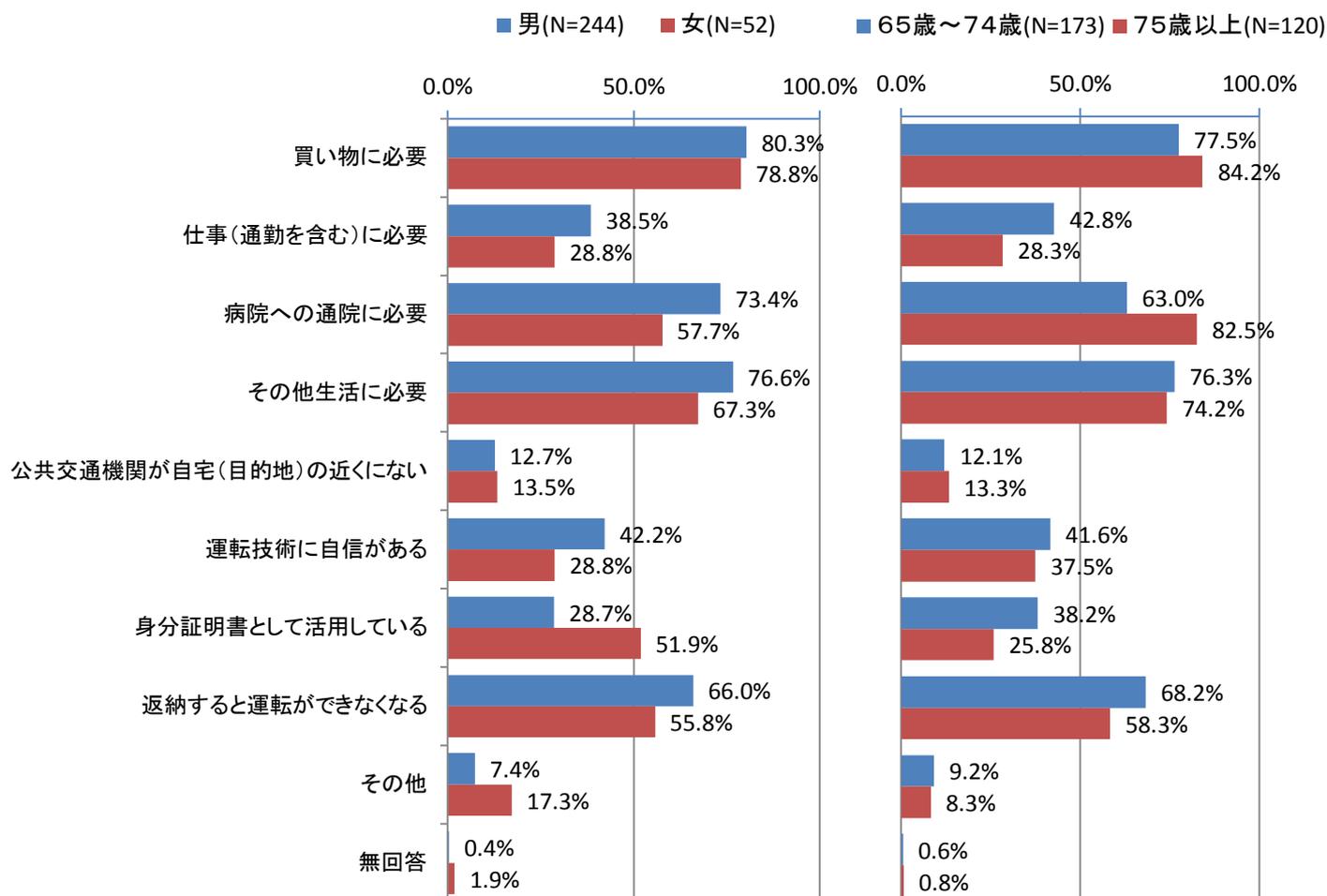
（体の衰えによる運転への影響について）



（５）運転免許の自主返納について

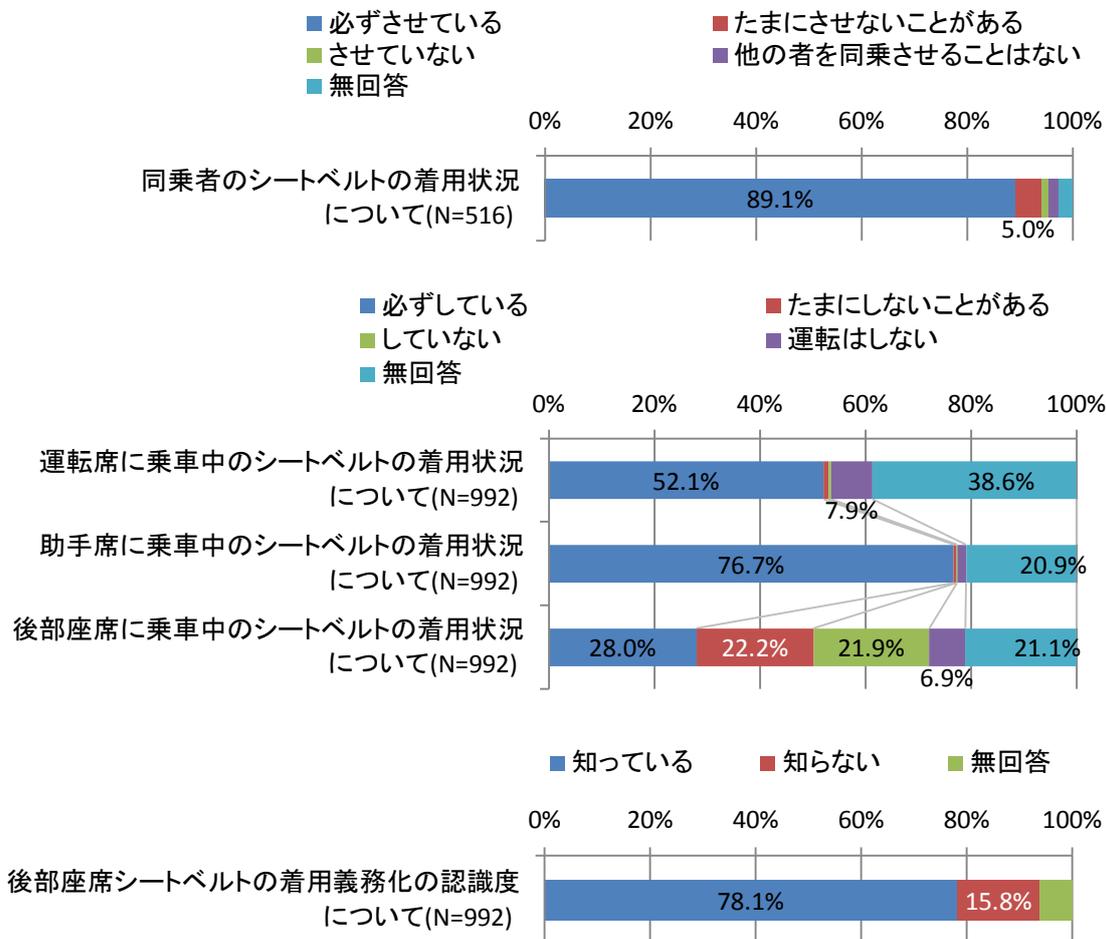
- ・「高齢者運転免許自主返納支援制度」の認知度については、「知っている」が、全体で 89.6%、性別では男が 89.7%、女が 90.1%、年齢別では 65歳～74歳が 90.9%、75歳以上が 87.9%となっている。
- ・運転免許の自主返納については、「自主返納をしたいと思わない」が、全体で 53.6%、性別では男が 60.0%、女が 36.9%、年齢別では 65歳～74歳が 52.4%、75歳以上が 56.1%となっている。
- ・運転免許を自主返納しない理由については、「買い物に必要」が、全体で 80.2%、性別では男が 80.3%、女が 78.8%、年齢別では 65歳～74歳が 77.5%、75歳以上が 84.2%となっている。

（運転免許を自主返納しない理由について）



（6）シートベルトの着用状況等について

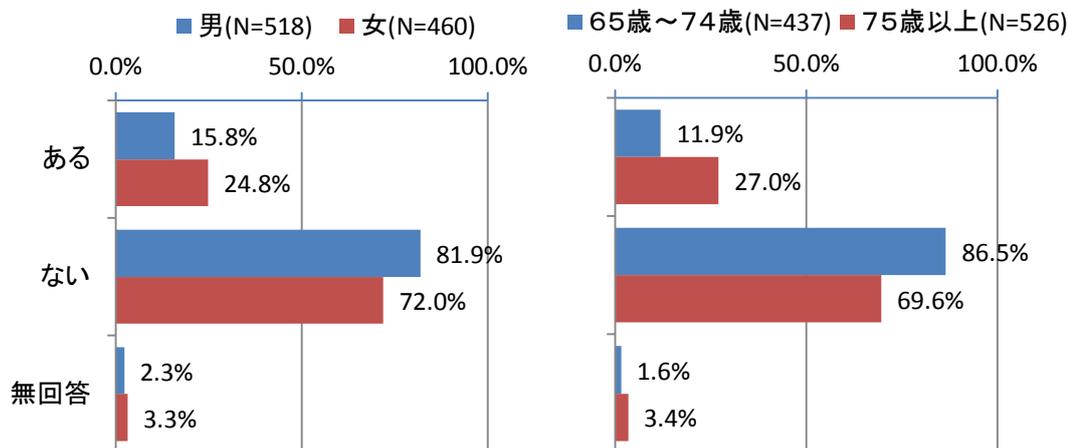
- ・同乗者のシートベルトの着用状況については、「必ずさせている」が、全体で 89.1%、性別では男が 88.3%、女が 91.8%、年齢別では 65 歳～74 歳が 91.5%、75 歳以上が 86.4%となっている。
- ・運転席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で 52.1%、性別では男が 74.1%、女が 27.6%、年齢別では 65 歳～74 歳が 70.0%、75 歳以上が 38.0%となっている。
- ・助手席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で 76.7%、性別では男が 83.4%、女が 70.0%、年齢別では 65 歳～74 歳が 89.7%、75 歳以上が 66.9%となっている。
- ・後部座席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で 28.0%、性別では男が 31.7%、女が 24.3%、年齢別では 65 歳～74 歳が 25.9%、75 歳以上が 30.0%となっている。
- ・後部座席シートベルトの着用義務化の認識度については、「知っている」が、全体で 78.1%、性別では男が 80.5%、女が 75.7%、年齢別では 65 歳～74 歳が 81.5%、75 歳以上が 75.7%となっている。



2 転倒の経験等について（P212～P220）

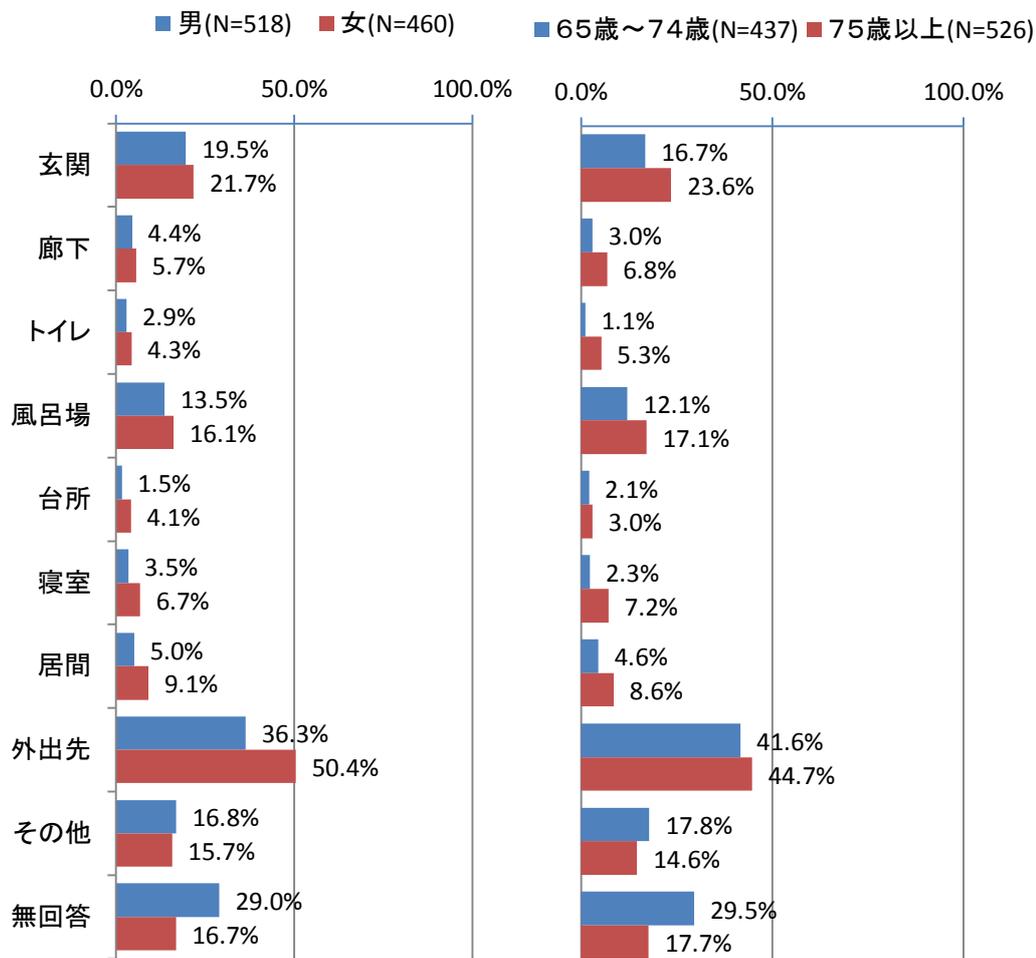
- ・1年間の転倒経験については、「ある」が、全体で20.0%、性別では男が15.8%、女が24.8%、年齢別では65歳～74歳が11.9%、75歳以上が27.0%となっている。

（1年間の転倒経験について）



- ・1年間に転倒しそうになりヒヤリとした経験については、「ある」が、全体で41.2%、性別では男が34.2%、女が50.0%、年齢別では65歳～74歳が33.0%、75歳以上が48.7%となっている。
- ・転倒に対する不安については、「ある」が、全体で59.3%、性別では男が45.4%、女が75.2%、年齢別では65歳～74歳が47.6%、75歳以上が69.4%となっている。
- ・転びやすい場所については、「外出先」が、全体で42.7%、性別では男が36.3%、女が50.4%、年齢別では65歳～74歳が41.6%、75歳以上が44.7%となっている。
- ・歩く速度が遅くなってきたと思うかについては、「思う」が、全体で66.6%、性別では男が62.5%、女が72.2%、年齢別では65歳～74歳が51.3%、75歳以上が79.8%となっている。
- ・歩幅がせまくなってきたと思うかについては、「思う」が、全体で62.7%、性別では男が56.9%、女が69.6%、年齢別では65歳～74歳が46.0%、75歳以上が77.0%となっている。
- ・手押し車の使用については、「使っている」が、全体で7.0%、性別では男が2.5%、女が12.2%、年齢別では65歳～74歳が0.9%、75歳以上が12.2%となっている。
- ・杖の使用については、「使っている」が、全体で16.4%、性別では男が11.6%、女が22.4%、年齢別では65歳～74歳が4.8%、75歳以上が25.9%となっている。

（転びやすい場所について）



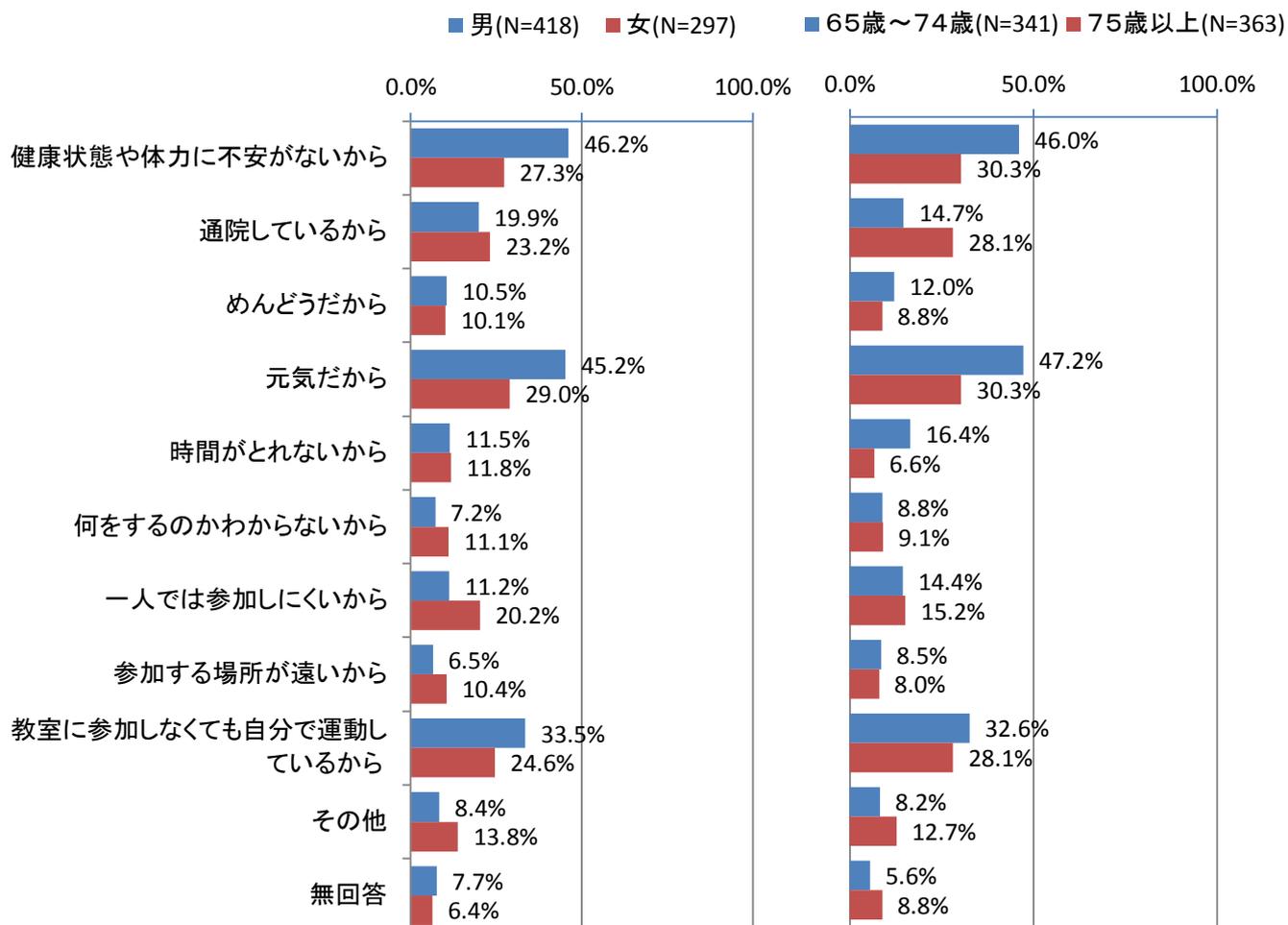
3 口腔機能について（P221～P226）

- ・固いものが食べづらくなったかについては、「はい」が、全体で 33.8%、性別では男が 32.8%、女が 35.4%、年齢別では 65歳～74歳が 24.3%、75歳以上が 42.0%となっている。
- ・お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「ある」が、全体で 26.2%、性別では男が 25.1%、女が 27.6%、年齢別では 65歳～74歳が 19.2%、75歳以上が 32.7%となっている。
- ・飲み込みに対する不安があるかについては、「とても不安を感じる」と「やや不安を感じる」の合計が、全体で 20.0%、性別では男が 16.4%、女が 24.4%、年齢別では 65歳～74歳が 11.7%、75歳以上が 27.2%となっている。
- ・食物をのどにつまらせたことがあるかについては、「ある」が、全体で 11.0%、性別では男が 10.2%、女が 12.0%、年齢別では 65歳～74歳が 8.2%、75歳以上が 13.7%となっている。
- ・口の渇きが気になるかについては、「気になる」が、全体で 31.8%、性別では男が 30.1%、女が 33.7%、年齢別では 65歳～74歳が 26.5%、75歳以上が 37.1%となっている。

4 介護予防について（P227～P229 参照）

- ・介護予防のための教室等の参加については、「参加していない」が、全体で72.7%、性別では男が80.7%、女が64.6%、年齢別では65歳～74歳が78.0%、75歳以上が69.0%となっている。
- ・介護予防教室に参加していない理由については、「元気だから」が、全体で38.6%、性別では男が45.2%、女が29.0%、年齢別では65歳～74歳が47.2%、75歳以上が30.3%となっている。

（介護予防教室に参加していない理由について）



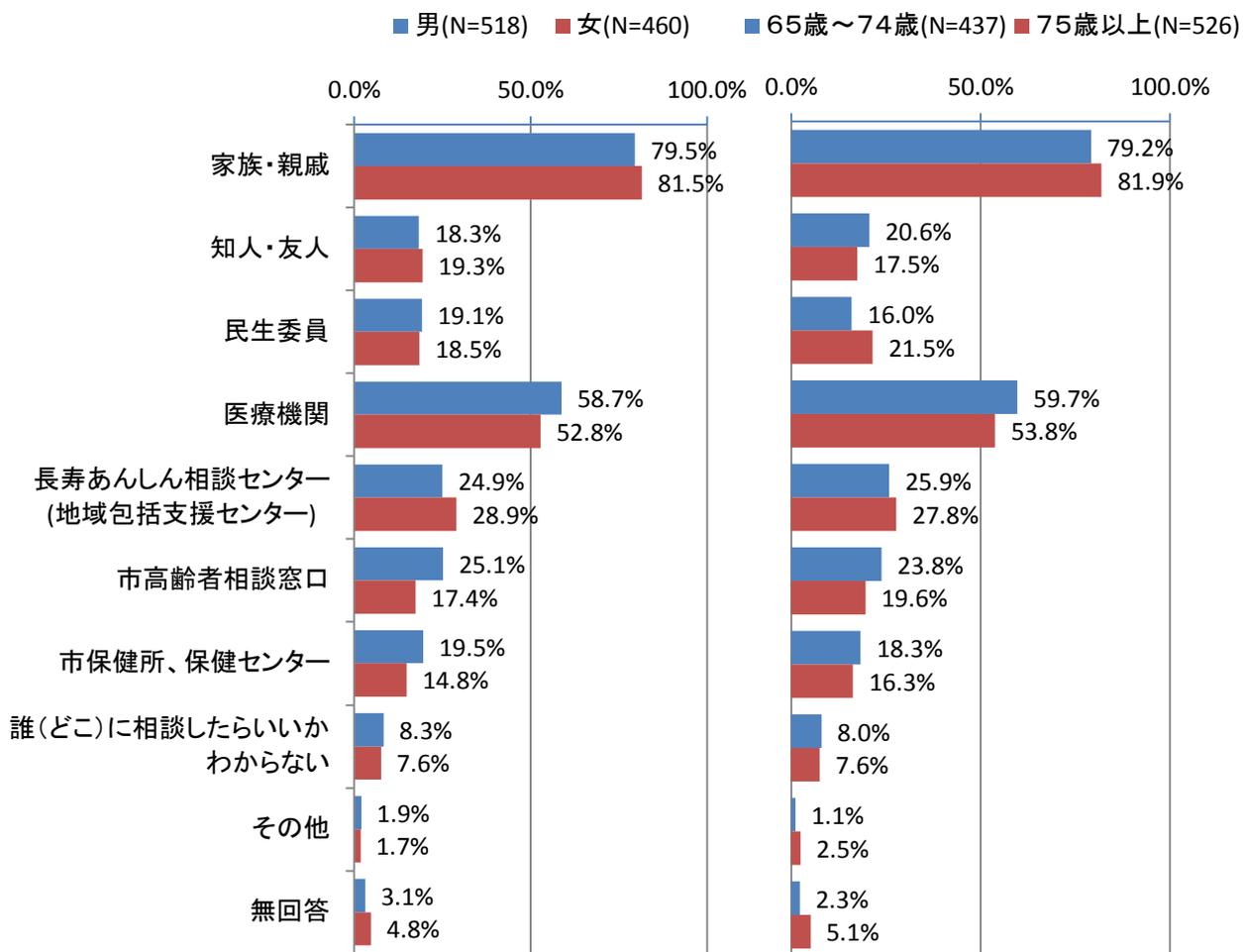
5 住まいに関する現状と今後の希望について（P231～P234、P236 参照）

- ・現在の住まいについては、「一戸建て持ち家」が、全体で 81.7%、性別では男が 84.2%、女が 79.3%、年齢別では 65歳～74歳が 84.2%、75歳以上が 80.6%となっている。
- ・要介護等になったときでも住み慣れた家（地域）で暮らしたいかについては、「住み慣れた我が家（地域）での生活を希望」が、全体で 74.5%、性別では男が 75.9%、女が 73.5%、年齢別では 65歳～74歳が 73.5%、75歳以上が 76.2%となっている。
- ・現在の住まいは住みやすいと思うかについては、「思う」が、全体で 86.9%、性別では男が 88.2%、女が 86.5%、年齢別では 65歳～74歳が 89.5%、75歳以上が 85.7%となっている。

6 認知症に対する理解について（P240～P246 参照）

- ・認知症の認知度については、「知っている」が、全体で 91.9%、性別では男が 94.2%、女が 90.2%、年齢別では 65歳～74歳が 95.0%、75歳以上が 90.5%となっている。
- ・認知症は病気だと思うかについては、「思う」が、全体で 64.0%、性別では男が 66.0%、女が 62.0%、年齢別では 65歳～74歳が 67.3%、75歳以上が 61.8%となっている。
- ・認知症に対する不安や心配があるかについては、「ある」が、全体で 42.8%、性別では男が 37.5%、女が 49.1%、年齢別では 65歳～74歳が 42.6%、75歳以上が 42.8%となっている。
- ・認知症サポーターについては、「知らない」が、全体で 38.0%、性別では男が 40.0%、女が 36.5%、年齢別では 65歳～74歳が 40.3%、75歳以上が 36.7%となっている。
- ・認知症の勉強会に参加したいかについては、「参加したい」が、全体で 32.8%、性別では男が 28.6%、女が 37.0%、年齢別では 65歳～74歳が 34.3%、75歳以上が 31.4%となっている。
- ・認知症の相談先については、「家族・親戚」が、全体で 80.2%、性別では男が 79.5%、女が 81.5%、年齢別では 65歳～74歳が 79.2%、75歳以上が 81.9%となっている。

（認知症の相談先について）

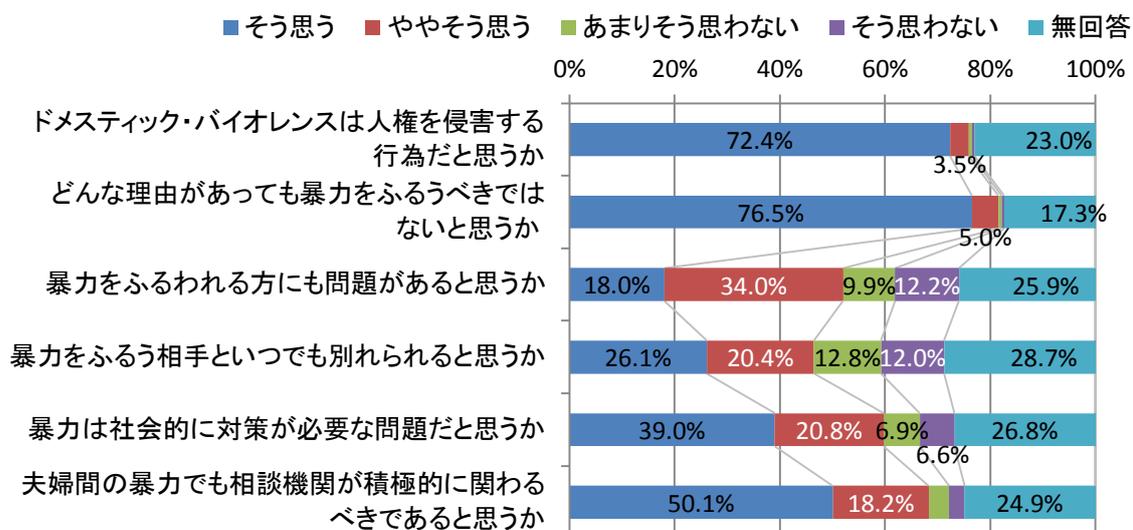


7 暴力（DV）について（P247～262 参照）

（1）暴力について

- ・ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為であると思うかについては、「そう思う」が、全体で 72.4%、性別では男が 76.6%、女が 68.7%、年齢別では 65歳～74歳が 84.2%、75歳以上が 64.6%となっている。
- ・どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思うかについては、「そう思う」が、全体で 76.5%、性別では男が 77.6%、女が 76.5%、年齢別では 65歳～74歳が 83.1%、75歳以上が 73.4%となっている。
- ・暴力をふるわれる方にも問題があると思うかについては、「そう思う」が、全体で 18.0%、性別では男が 21.0%、女が 15.0%、年齢別では 65歳～74歳が 20.4%、75歳以上が 16.9%となっている。
- ・暴力をふるう相手といつでも別れられると思うかについては、「そう思う」が、全体で 26.1%、性別では男が 27.6%、女が 24.8%、年齢別では 65歳～74歳が 30.2%、75歳以上が 23.6%となっている。
- ・暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思うかについては、「そう思う」が、全体で 39.0%、性別では男が 41.9%、女が 36.1%、年齢別では 65歳～74歳が 43.7%、75歳以上が 36.7%となっている。
- ・夫婦間の暴力であっても、行政などの相談機関が積極的に関わるべきであると思うかについては、「そう思う」が、全体で 50.1%、性別では男が 54.6%、女が 45.7%、年齢別では 65歳～74歳が 56.5%、75歳以上が 46.6%となっている。

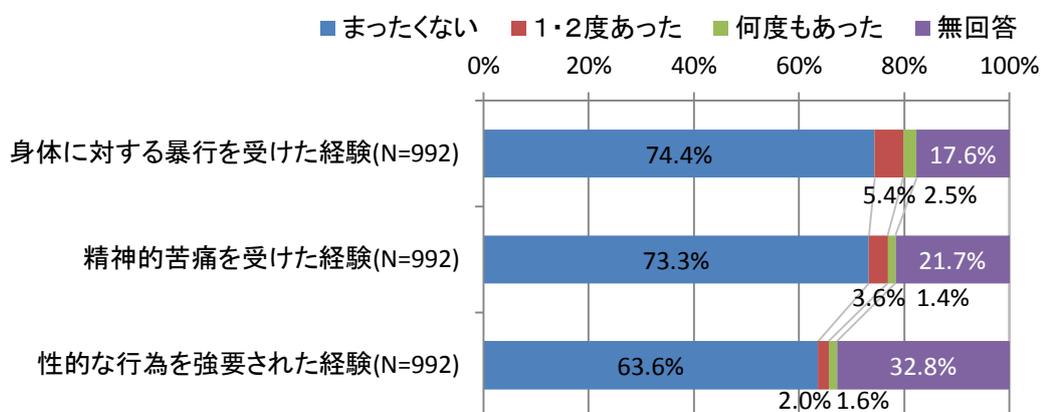
（暴力について）



（２）暴力を受けた経験について

- ・身体に対する暴行を受けた経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で 7.9%、性別では男が 3.1%、女が 13.7%、年齢別では 65歳～74歳が 13.1%、75歳以上が 4.2%となっている。
- ・精神的苦痛を受けた経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で 5.0%、性別では男が 3.5%、女が 6.9%、年齢別では 65歳～74歳が 7.1%、75歳以上が 3.1%となっている。
- ・性的な行為を強要された経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で 3.6%、性別では男が 0.4%、女が 7.2%、年齢別では 65歳～74歳が 5.5%、75歳以上が 2.0%となっている。

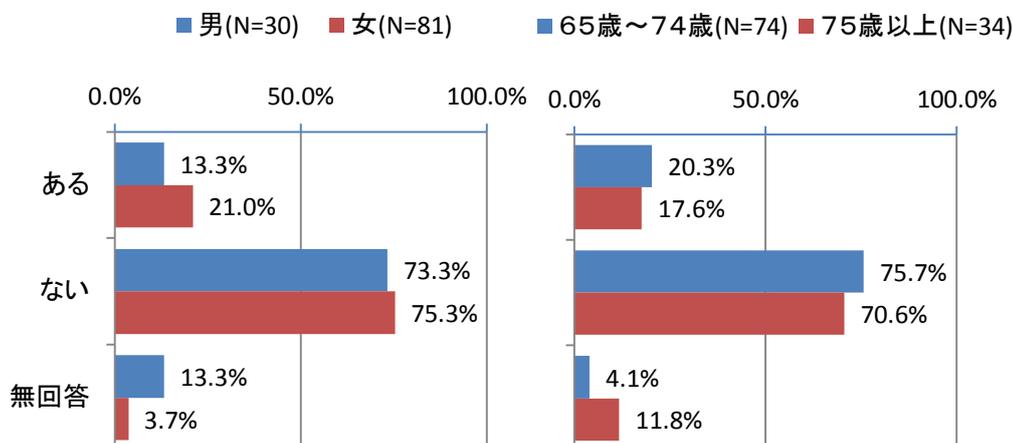
（暴力を受けた経験について）



（３）受けた暴力による命の危険

- ・受けた暴力による命の危険については、「ある」が、全体で 18.8%、性別では男が 13.3%、女が 21.0%、年齢別では 65歳～74歳が 20.3%、75歳以上が 17.6%となっている。

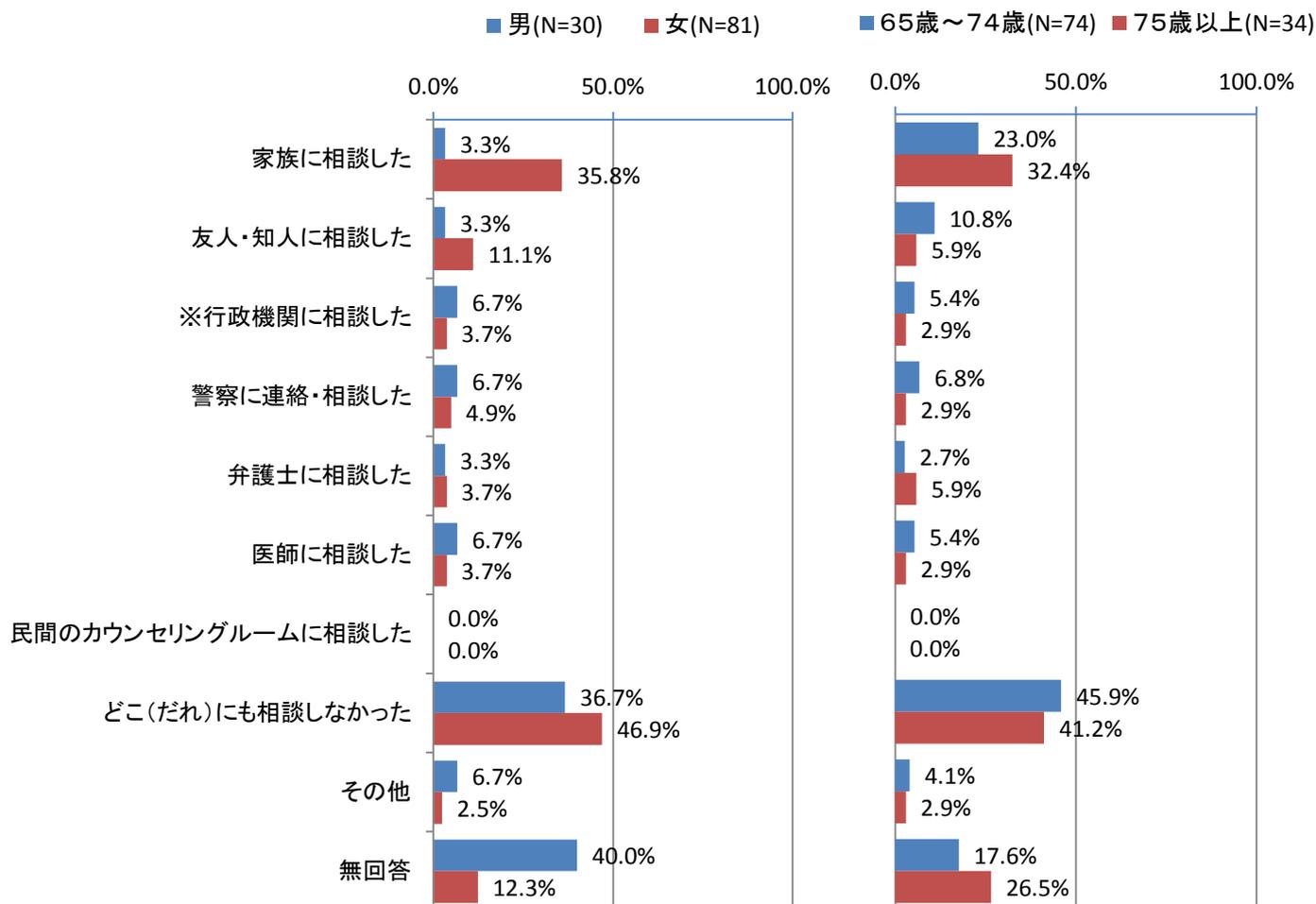
（受けた暴力による命の危険について）



（４）受けた暴力に対する相談等

- ・受けた暴力に対する相談については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が、全体で 43.8%、性別では男が 36.7%、女が 46.9%、年齢別では 65歳～74歳が 45.9%、75歳以上が 41.2%となっている。
- ・受けた暴力に対して相談をしなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が、全体で 44.9%、性別では男が 54.5%、女が 42.1%、年齢別では 65歳～74歳が 50.0%、75歳以上が 35.7%となっている。

（受けた暴力についての相談先について）



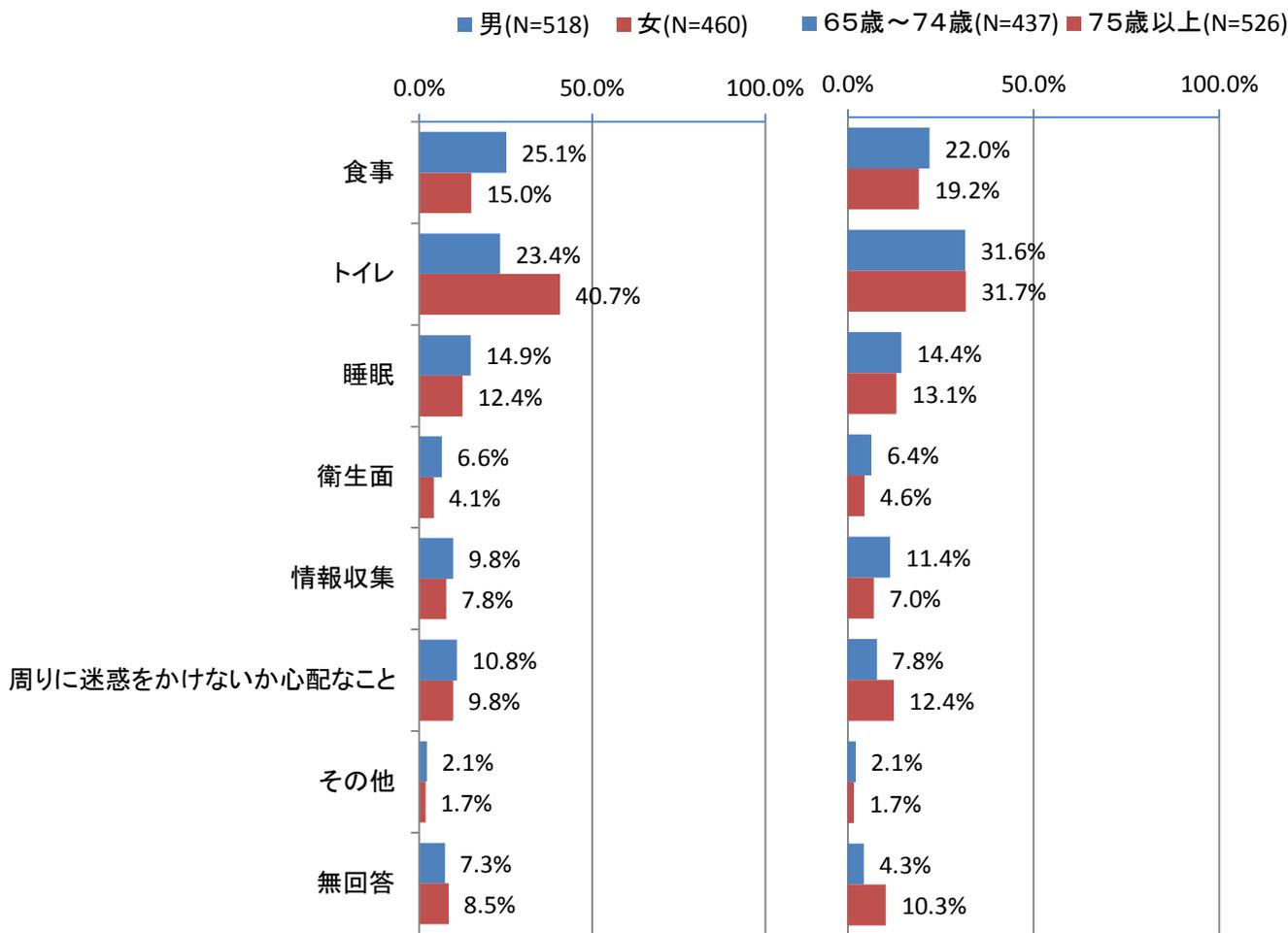
8 自殺について（P269～P274 参照）

- ・自殺したいと考えたことについては、「考えたことがある」が、全体で 4.1%、性別では男が 4.4%、女が 3.9%、65歳～74歳が 4.3%、75歳以上が 4.2%となっている。
なお、自殺したいと考えた一番の原因については、「健康問題」が 36.6%となっている。
- ・自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」が 51.2%となっている。
なお、自殺に関する相談先の認知度については、「知らない」が、全体で 56.0%、性別では男が 59.3%、女が 52.8%、年齢別では 65歳～74歳が 59.3%、75歳以上が 53.6%となっている。
- ・自殺について知っていることについては、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が 45.3%、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が 43.8%、「自殺は防ぐことができる」が 43.3%となっている。なお「考えたことはない」は 25.4%となっている。

9 防災について（P275～P283 参照）

- ・自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている（知っている）」が、全体で 57.8%、性別では男が 59.1%、女が 57.0%、年齢別では 65 歳～74 歳が 62.5%、75 歳以上が 54.6%となっている。
- ・災害発生時の家族との連絡方法を決めているかについては、「決めている」が、全体で 46.1%、性別では男が 47.1%、女が 45.2%、年齢別では 65 歳～74 歳が 44.4%、75 歳以上が 48.5%となっている。
- ・非常持ち出し品の準備については、「準備していない」が、全体で 67.1%、性別では男が 67.4%、女が 67.0%、年齢別では 65 歳～74 歳が 72.3%、75 歳以上が 63.5%となっている。
- ・災害発生時の自力避難については、「できる」が、全体で 74.1%、性別では男が 82.8%、女が 64.8%、年齢別では 65 歳～74 歳が 88.8%、75 歳以上が 62.9%となっている。
- ・避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「トイレ」が、全体で 31.1%、性別では男が 23.4%、女が 40.7%、年齢別では 65 歳～74 歳が 31.6%、75 歳以上が 31.7%となっている。

（避難所に避難した場合に一番不安なこと）



- ・災害時要援護者避難支援制度の認知度については、「知らない」が、全体で62.0%、性別では男が61.4%、女が63.3%、年齢別では65歳～74歳が64.3%、75歳以上が60.5%となっている。
- ・町内会において事前に家族情報を把握する必要性とその賛否については、「必要性があり、賛成である」が、全体で73.9%、性別では男が75.3%、女が72.8%、年齢別では65歳～74歳が73.2%、75歳以上が75.7%となっている。
- ・大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度については、「知っている」が、全体で60.7%、性別では男が63.5%、女が58.5%、年齢別では65歳～74歳が62.2%、75歳以上が60.5%となっている。

第7章 調査票

乳幼児の事故やけがに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、平成24年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組んでおります。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、乳幼児の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの乳幼児がいらっしゃる世帯の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

● 調査票の記入について

- 1 同封のセーフコミュニティのリーフレットを読まれてからご回答ください。
- 2 調査対象にしているお子さんの保護者の方がご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、平成25年10月1日（火）現在でご回答ください。
- 4 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 5 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成25年11月14日（木）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 6 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748



※同封のリーフレットを回答前にお読みください

平成25年度事故やけがに関する調査（乳幼児）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 対象のお子さん（封書の宛名）のことやお住まいのことについて

問1 対象のお子さんについてお聞きします。

(1) 対象（封書の宛名）のお子さん ※25年10月1日現在	性別	①男	②女
	年齢	（ ）歳（ ）か月	
(2) 対象（封書の宛名）のお子さんの就園 ※25年10月1日現在	就園	①未就園児	
		②保育園児	
		③幼稚園児	
(3) 家族構成	①子どもと両親		
	②子どもと母（又は父）		
	③子どもと両親と祖父母等		
	④子どもと母（又は父）と祖父母等		
	⑤その他		

問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	（ ）例）山下町、谷山中央4丁目	
(2) 小学校区	①（ ）校区	② 分からない



2 地域活動について

問3 あなた（保護者）は、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組んでいると思いますか。（ひとつに○）

- ①そう思う ②ややそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そう思わない

問4 あなた（保護者）は、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組むことは重要だと思いませんか。（ひとつに○）

- ①そう思う ②ややそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そう思わない

問5 あなた（保護者）は、地域の人たちとコミュニケーションをとっていますか。（ひとつに○）

- ①地域の人たちと互いに相談し合うような、生活面での協力関係がある
②地域の人たちと互いに相談し合うことはないまでも、世間話や立ち話をする
③地域の人たちと会話はほとんどしないが、挨拶は交わす
④ほとんど付き合いはなく、挨拶もまれにしかしない
⑤その他

問6 あなた（保護者）は、地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

- ①町内会 ⑤清掃活動
②PTA・あいご会 ⑥運動会
③NPO、その他の団体 ⑦その他
④地域の夏祭り

問7 あなたは、地域の暮らしに愛着を感じていますか。（ひとつに○）

- ①感じている ②やや感じている ③どちらともいえない
④あまり感じていない ⑤感じていない

問 10 あなた（保護者）は、交通安全に関する情報はなに（どこ）から得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①家族・親戚	
②友人・知人	
③テレビ・ラジオ・新聞	
④インターネット（SNSを含む）	
⑤病院	
⑥保育園・幼稚園	
⑦保健所、保健センター	
⑧交通安全教室（講習会などを含む）	
⑨市の広報誌	
⑩市のホームページ	
⑪市以外の育児雑誌等	
⑫その他	

問 11 問 10 の情報を得た後、交通安全に関して、あなた（保護者）は対象のお子さんに対する考え方や行動の変化はありましたか。（ひとつに○）

A 考え方の変化	①あった	②なかった	③わからない
----------	------	-------	--------

考え方の変化の例

- （車に乗る際はチャイルドシートを使用しなければならないと思った。）
- （子どもの手をつないで道路を歩かないといけないと思った。）
- （交通ルールを子どもに教えながら歩かなければならないと思った。）

B 行動の変化	①あった	②なかった	③わからない
---------	------	-------	--------

行動の変化の例

- （車に乗る際はチャイルドシートを使用するようになった。）
- （子どもの手をつないで道路を歩くようになった。）
- （交通ルールを子どもに教えながら歩くようになった。）

問 12 あなた（保護者）は、対象のお子さんが車に乗る際にチャイルドシートを使用していますか。（ひとつに○）

- ①使用している
- ②ときどき使用している
- ③使用していない
- ④持っていない



問 13 あなた（保護者）は、日頃から対象のお子さんのためにどのような交通安全対策をとっていますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①交通ルールを教えている	
②自転車に乗る際にヘルメットを着けさせている	
③道路を歩行する際に手つなぎやだっこをする	
④運転中は車から飛び出さないようにドアをロックしている	
⑤運転中は安全を確保するためにチャイルドシートを使用している。	
⑥道路で遊ばせない	
⑦その他（ ）	



不慮の事故について

問 15 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれる、やけど、窒息、中毒などをいいますが、対象のお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。
（3つまで○）

- ①交通事故 ②転倒 ③転落 ④おぼれる
⑤やけど ⑥窒息 ⑦中毒 ⑧その他（ ）

対象（封筒の宛名）のお子さんのこの1年間（平成24年10月～平成25年9月）の「事故やけが」の状況についてお聞きします。この場合の「事故やけが」とは、不慮の事故によるけがなどを指します。

問 16 対象のお子さんが、この1年間にもう少して「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに○）

- ①ある →問16-1、2ご回答後、問17へ
②ない →問17へ

問16で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 16-1 この1年間に対象のお子さんで、ヒヤリとしたことは、どのくらいの頻度でありますか。（一番近いものひとつに○）

- ①毎日5回以上 ②毎日5回未満 ③2、3日に数回
④1～2週間に数回 ⑤1か月に数回 ⑥年に数回
⑦その他（ ）

問 16-2 この1年間に対象のお子さんで、一番多くヒヤリとした体験は何ですか。
（ひとつに○）

- ①交通事故 ②転倒 ③転落 ④おぼれる
⑤やけど ⑥窒息 ⑦中毒 ⑧その他（ ）

問 18 の『イ 事故やけがの種類』で『⑥窒息』とご回答された方にお聞きします。

（※問 18 で 1 件目と 2 件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『⑥窒息』とご回答された場合は、1 件目のものについてご回答ください。）

問 18-5 窒息の原因・状況（ひとつに○）

- ①食べ物を詰ませた
- ②手元にあったもの（おもちゃ、ボタンなど）を口に入れてしまい、詰ませた
- ③おう吐物が鼻・口をふさいだ
- ④うつぶせ寝
- ⑤ビニール袋等を頭にかぶった・かぶされた
- ⑥添い寝で、親の腕等が鼻・口をふさいだ
- ⑦紐（ブラインドの紐やベルトなど）が首にまきついた
- ⑧その他（）

問 19 お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに（どこ）から得ていますか。また、お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、なに（どこ）ですか。（3つまで○）

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在、得ている	充実して欲しい
①家族・親戚		/
②友人・知人		/
③テレビ・ラジオ・新聞		
④インターネット（SNSを含む）		
⑤病院		
⑥保育園・幼稚園		
⑦保健所、保健センター		
⑧子育てサークルなど		
⑨子育て教室・講座		
⑩育児雑誌		
⑪子育て支援施設（りぼんかん・なかまっちなど）		
⑫その他（ ）		

問 24 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 25 子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①夫婦で話し合いをする	
②親、兄弟姉妹や親戚に相談する	
③近所の人や友人に相談する	
④保健センターや助産院などの専門スタッフに相談する	
⑤子育て支援施設（りぼんかん等）の専門スタッフに相談する	
⑥保育園・幼稚園の先生に相談する	
⑦その他（ ）	

問 26 子育て中の親への支援についてお聞きします。

問 26-1 あなた（保護者）の子育てを手伝ってくれる人はいますか。
（あてはまるものすべてに○）

- ①配偶者
- ②親・兄弟姉妹・親戚
- ③知人・友人
- ④近隣住民
- ⑤いない
- ⑥その他（）



問 26-2 あなた（保護者）は、子どもの一時的預かりの施設等を利用したことがありますか。（AからDの項目ごとにひとつに○）

項 目	利用の有無	利用頻度
Aファミリー・サポート・センターの育児支援	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
B保育園の一時的預かり	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
C幼稚園の預かり保育	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
Dすこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時的預かり	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回

問 27 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。（最も希望するもの3つに○）

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在、活用している	充実して欲しい
①電話相談		
②家庭訪問		
③保育園や幼稚園への通園		
④子育て講座の受講		
⑤保護者同士の交流会		
⑥子どもの発達相談や健診		
⑦育児サークル		
⑧地区ごとの子ども行事		
⑨保護者への心理相談		
⑩その他（ ）		

小学生・中学生の事故やけがに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、平成24年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組んでおります。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、小学生・中学生の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの小学生・中学生がいらっしゃる世帯の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

● 調査票の記入について

- 1 同封のセーフコミュニティのリーフレットを読まれてからご回答ください。
- 2 調査対象にしているお子さんと一緒に保護者の方がご回答ください。
(問20から問22については、対象の中学生ご本人がご回答ください。)
- 3 特別の注意書きがない限り、平成25年10月1日（火）現在でご回答ください。
- 4 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、カッコ内には適切な言葉をご記入ください。
- 5 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成25年11月14日（木）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 6 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話 216-1209 FAX 226-0748



※同封のリーフレットを回答前にお読み
ください

平成25年度事故やけがに関する調査（小中学生）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 対象（封書の宛名）のお子さんのことやお住まいのことについて

問1 対象のお子さんについてお聞きします。

(1) 対象（封書の宛名） のお子さん ※25年10月1日現在	性別	①男	②女	
	年齢	（ ）歳		
(2) 対象（封書の宛名） のお子さんの学年	学年	①小学1年生	④小学4年生	⑦中学1年生
		②小学2年生	⑤小学5年生	⑧中学2年生
		③小学3年生	⑥小学6年生	⑨中学3年生

問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	（ ）例）山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	①（ ）校区 ② 分からない

2 地域活動について

問3 あなた（保護者）は、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組んでいると思いますか。（ひとつに○）

- ①そう思う ②ややそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そう思わない

問4 あなた（保護者）は、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組むことは重要だと思いませんか。（ひとつに○）

- ①そう思う ②ややそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そう思わない

問5 あなた（保護者）は、地域の人たちとコミュニケーションをとっていますか。
（ひとつに○）

- ①地域の人たちと互いに相談し合うような、生活面での協力関係がある
- ②地域の人たちと互いに相談し合うことはないまでも、世間話や立ち話をする
- ③地域の人たちと会話はほとんどしないが、挨拶は交わす
- ④ほとんど付き合いはなく、挨拶もまれにしかしない
- ⑤その他

問6 あなた（保護者）は、地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

- ①町内会
- ②PTA・あいご会
- ③NPO、その他の団体
- ④地域の夏祭り
- ⑤清掃活動
- ⑥運動会
- ⑦その他

問7 あなた（保護者）は、地域の暮らしに愛着を感じていますか。（ひとつに○）

- ①感じている
- ②やや感じている
- ③どちらともいえない
- ④あまり感じていない
- ⑤感じていない

問8 あなた（保護者）は、鹿児島市の暮らしに安心安全を感じていますか。（ひとつに○）

- ①感じている
- ②やや感じている
- ③どちらともいえない
- ④あまり感じていない
- ⑤感じていない



問9-2で『①交通ルールを守っている』、『②たまに交通ルールを守っていないことがある』とご回答された方にお聞きします。

問9-3 対象のお子さんは、交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、守っている（守るようになった）交通ルールは次のうちどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①横断歩道を渡るようになった	
②右左右をみて渡るようになった	
③信号無視をしないようになった	
④自転車に乗るときはヘルメットを着けるようになった	
⑤横断するときは手を挙げて渡るようになった	
⑥交差点や見通しの悪いところは注意して通行するようになった	
⑦携帯電話をかけながら歩かなくなった	
⑧携帯電話をかけながら自転車に乗らなくなった	
⑨車に乗る時は、後ろに座っていてもシートベルトを着けるようになった	
⑩その他（ ）	



問 10 あなた（保護者）は、交通安全に関する情報はなに（どこ）から得ていますか。
 （あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①家族・親戚	
②友人・知人	
③テレビ・ラジオ・新聞	
④インターネット（SNSを含む）	
⑤病院	
⑥学校	
⑦交通安全教室（講習会などを含む）	
⑧市の広報誌	
⑨市のホームページ	
⑩市以外の情報誌等	
⑪その他	

問 11 対象のお子さんは、いつもどのくらいの頻度で自転車に乗りますか。
 （一番近いものひとつに○）

- ①ほぼ毎日（週4日以上）
 - ②週に2～3日
 - ③週に1日
 - ④ほとんど乗らない
 - ⑤自転車には乗らない・乗れない
 - ⑥自転車はもっていない
- } → 問 11-1 へ
} → 問 12 へ

問 11 で『①ほぼ毎日（週 4 日以上）』～『④ほとんど乗らない』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問 11-1 対象のお子さんは、自転車に乗るときにヘルメットをつけていますか。
(ひとつに○)

- ①いつもつけている
 - ②時々つけている
 - ③あまりつけていない
 - ④つけていない
- } → 問 11-3 ご回答後、問 12 へ
- 問 11-2、3 ご回答後、問 12 へ

問 11-1 で『④つけていない』にご回答された方にお聞きします。

問 11-2 ヘルメットをつけていない理由は何ですか。(ひとつに○)

- ①ヘルメットを持っていない
- ②着用が面倒くさい
- ③格好が悪い
- ④まわりがつけていない
- ⑤必要性を感じない
- ⑥ヘルメットを持っているが、サイズが合わなくなった
- ⑦その他 ()

問 11-3 対象のお子さんは、自転車に関して、次の項目のルールを知っていますか。また、そのルールを守っていますか。(あてはまるものすべてに○)

項 目	知っている	守っている
①交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する		
②歩道は歩行者を優先させる		
③横断歩道は自転車を降りてわたる		
④夜は必ず自転車のライトをつける		
⑤携帯電話をかけながら自転車の運転はしない		
⑥傘をさしながら自転車の運転はしない		
⑦横に並んで自転車の走行はしない		

問 16 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 17 あなた（保護者）は、子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①夫婦で話し合いをする	
②親、兄弟姉妹や親戚に相談する	
③近所の人や友人に相談する	
④保健センターや助産院などの専門スタッフに相談する	
⑤子育て支援施設（りぼんかん等）の専門スタッフに相談する	
⑥小学校・中学校の先生に相談する	
⑦その他（ ）	

問 18 あなた（保護者）の子育てを手伝ってくれる人はいますか。
（あてはまるものすべてに○）

- ①配偶者
- ②親・兄弟姉妹・親戚
- ③知人・友人
- ④近隣住民
- ⑤いない
- ⑥その他（ ）

問19 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。（最も希望するもの3つまで○）

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在、活用している	充実して欲しい
①電話相談		
②家庭訪問		
③子どもの発達相談や健診		
④地区ごとの子ども行事		
⑤保護者への心理相談		
⑥その他（ ）		



5 暴力（DV）について

中学生の方のみ、DVについてお聞きします。

DVの設問（問20から問22）については、中学生本人が、可能な範囲でお答えください。

小学生の方は、問23にお進みください。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

一般的には、配偶者や恋人など親密な関係の中で起こる、たたくなどの身体的な暴力や、どなったりするなどの嫌がらせのことをいいます。DVは大人だけの問題ではなく、若者の間にも起こっていて、特に恋人との交際中にふるわれる暴力を、「デートDV」といいます。

問20 男女の役割などについて、あなた（中学生本人）の考えをおたずねします。

（A～Eの項目ごとにひとつに○）

	項 目	① そう思う	② ややそう 思う	③ あまりそう 思わない	④ そう思わ ない
A	家事や育児は女性の仕事だと思えますか？				
B	男性は結婚したら、一家の中心として家族を養うべきだと思えますか？				
C	女性は男性に従うべきだと思えますか？				
D	男性は弱音をはくべきではないと思えますか？				
E	女性は自己主張せず控えめな方がいいと思えますか？				



問 21 あなた（中学生本人）が交際した（異性と付き合う）場合、次のようなときに、あなたはどのように思いますか？（A～Gの項目ごとの番号にひとつに○）

	項 目	① そう思う	② ややそう 思う	③ あまりそう 思わない	④ そう思わ ない
A	ひどい言葉で傷つけても、直接たたいたりしなければ暴力ではないと思う				
B	つきあい始めたら、男性が女性をリードしなければ格好が悪いと思う				
C	たとえ暴力をふるわれても謝られたら許すべきだと思う				
D	暴力をふるわれる方にも悪いところがあると思う				
E	メールチェックや誰と会うかなど干渉・束縛するのは好きな証拠だと思う				
F	キスや体を触ることを求められたとき、愛情があるなら嫌でも応じると思う				
G	相手を怒らせないように工夫すれば、相手からの暴力をなくすことができると思う				



問 22 DV（ドメスティック・バイオレンス）について、あなた（中学生本人）におたずねします。

（A～Dの項目ごとの番号にひとつに○、E～Fはあてはまるものすべてに○）

	項 目				
A	「DV」を知っていましたか？	① 言葉も 意味も 知って いた	② 言葉だけ は知って いた	③ まったく知ら なかった	
B	「デートDV」を知っていましたか？	① 言葉も 意味も 知って いた	② 言葉だけ は知って いた	③ まったく知ら なかった	
C	デートDVは自分にとって身近なことだ と思いますか？	① そう思 う	② ややそう 思う	③ あまりそう思 わない	④ そう思わ ない
D	「デートDV」について詳しく知りたい と思いますか？	① そう思 う	② ややそう 思う	③ あまりそう思 わない	④ そう思わ ない
E	DVの被害者や加害者にならないための 学習をしたことがありますか？	① 家庭で 学んだ	② 学校で学 んだ	③ その他で学ん だ ()	④ 学んだこ とがない
F	交際相手のことで悩んだら相談します か？	① 友人に 相談す る	② 先生に相 談する	③ 家族に相談す る	④ 相談しな い



※問 28 から問 30 は桜島にお住まいの方への質問です。それ以外の方については問 31 にお進みください。

問 28 対象のお子さんは、鹿児島市が開催する桜島火山爆発総合防災訓練に参加したことがありますか。（ひとつに○）

- ①ほぼ毎年参加している
- ②ほぼ毎年とはいかないが参加したことがある。
- ③参加したことはない

問 29 現在、避難時に家族カードを提出することで、避難した方を把握することになっていますが、対象のお子さんは、家族カードを提出することを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている
- ②知らない

問 30 現在、避難しなかった人（避難時に島外にいる人や逃げ遅れた人など）を町内会や行政で確認する仕組みはありません。対象のお子さんは、把握できるようにしておくことが必要だと考えますか。（ひとつに○）

- ①必要である
- ②必要ではない
- ③わからない

問 31 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ **11月14日（木）**までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。

鹿児島市民の事故やけがなどに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、平成24年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組んでおります。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、市民の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの16歳から64歳までの方の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

● 調査票の記入について

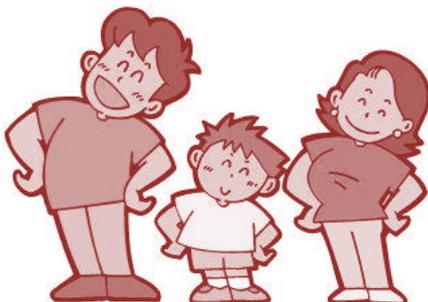
- 1 同封のセーフコミュニティのリーフレットを読まれてからご回答ください。
- 2 調査対象としていらっしゃる方がご回答ください。（ご本人様にご回答できない場合は、ご家族の方などが、可能な範囲で聞き取り等を行いご回答ください。）
- 3 特別の注意書きがない限り、平成25年10月1日（火）現在でご回答ください。
- 4 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、カッコ内には適切な言葉をご記入ください。
- 5 ご回答後の調査票は、お手数ですが**平成25年11月14日（木）まで**に、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 6 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748



※同封のリーフレットを回答前にお読みください

平成25年度事故やけがに関する調査（一般）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 あなたのことやお住まいについて

問1 あなたの性別などについてお聞きします。

(1) 対象（封書の宛名） の方 ※25年10月1日現在	性別 ①男 ②女 年齢 () 歳
(2) 対象（封書の宛名） の方の就労状況 ※25年10月1日現在	就労状況 ①就労している ③学生 ②就労していない ④その他

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	() 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	① () 校区 ② 分からない

2 地域活動について

問3 あなたは、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組んでいると思いますか。
(ひとつに○)

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

問4 あなたは、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組むことは重要だと思いますか。(ひとつに○)

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

問5 あなたは、地域の人たちとコミュニケーションをとっていますか。（ひとつに○）

- ①地域の人たちと互いに相談し合うような、生活面での協力関係がある
- ②地域の人たちと互いに相談し合うことはないまでも、世間話や立ち話をする
- ③地域の人たちと会話はほとんどしないが、挨拶は交わす
- ④ほとんど付き合いはなく、挨拶もまれにしかしない
- ⑤その他

問6 あなたは、地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

- ①町内会
- ②PTA・あいご会
- ③NPO、その他の団体
- ④地域の夏祭り
- ⑤清掃活動
- ⑥運動会
- ⑦その他

問7 あなたは、地域の暮らしに愛着を感じていますか。（ひとつに○）

- ①感じている
- ②やや感じている
- ③どちらともいえない
- ④あまり感じていない
- ⑤感じていない

問8 あなたは、鹿児島市の暮らしに安心安全を感じていますか。（ひとつに○）

- ①感じている
- ②やや感じている
- ③どちらともいえない
- ④あまり感じていない
- ⑤感じていない



3 交通安全について

問9 あなたは、平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故の死亡者が21人、負傷者が4,500人以上であることを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている
②知らない

問10 あなたは、平成24年中、鹿児島県内で発生した交通死亡事故のうち、歩行中に事故にあった方の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている
②知らない

問11 あなたは、平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故の6割以上が自動車によるものであることを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている
②知らない

問12 あなたは、平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故のうち、自動車で事故にあった方の半数以上が運転者の前方不注意、動静不注意、安全不確認などの安全運転義務違反であることを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている
②知らない

（参考）

	内 容
前方不注意	・テレビ、携帯電話、ひげそり、お化粧などの「ながら」運転をした ・脇見運転をした など
動静不注意	・対向車や歩行者などを注意深く見て運転しなかった など
安全不確認	・まわりをよく確認しないで運転をした など

問 13 あなたは自動車を運転しますか。（近いものひとつに○）

- ①毎日運転する
- ②週 5～6 日運転する
- ③週 3～4 日運転する
- ④週 1～2 日運転する
- ⑤月数回～年数回程度運転する
- ⑥運転はしない



→ 問 13-1、2 个回答後、問 14 へ

→ 問 14 へ

問 13 で『①毎日運転する』～『⑤月数回～年数回程度運転する』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問 13-1 あなたは、次の交通ルールを知っていますか。また、その交通ルールを守って運転していますか。（あてはまるものすべてに○）

	それぞれについてあてはまるものすべてに○	
	知っている	守っている
①横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止しなければならない		
②歩行者の横を通過するときは、安全な間隔をあけるか徐行しなければならない		
③酒気を帯びて運転してはならない		
④運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはならない		
⑤道路標識等によって指定された最高速度を超える速度で進行してはならない		
⑥道路のまがり角付近、上り坂の頂上付近などでの追越しをしてはならない		
⑦一時停止の道路標識がある交差点では、停止線の直前で一時停止しなければならない		
⑧駐停車が禁止されている場所では、駐車または停車してはならない		
⑨交通混雑時等に、横断歩道や停止禁止部分に進入してはならない		
⑩ハンドル、ブレーキその他の装置を確実に操作して運転しなければならない		
⑪道路、交通等の状況に応じて安全を確認して運転しなければならない		
⑫右折、左折をするときは、方向指示器等により、合図をしなければならない		

問 13-2 あなたは、自動車を運転するときに同乗者にシートベルトを着用させていますか。（ひとつに○）

- ①必ずさせている
- ②たまにさせないことがある
- ③させていない
- ④他の者を同乗させることはない

問 19 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 20 あなたは、子育てで困ったとき、誰に（又はどこに）相談しますか。
（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①夫婦で話し合いをする	
②親、兄弟姉妹や親戚に相談する	
③近所の人や友人に相談する	
④保健センターや助産院などの専門スタッフに相談する	
⑤子育て支援施設（りぼんかん等）の専門スタッフに相談する	
⑥保育園・幼稚園、小・中学校など学校の先生に相談する	
⑦その他（ ）	

問 21 あなたの子育てを手伝ってくれる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

- ①配偶者
- ②親・兄弟姉妹・親戚
- ③友人・知人
- ④近隣住民
- ⑤いない
- ⑥その他（ ）



問 22 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。（最も希望するもの3つに○）

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在、活用している	充実して欲しい
①電話相談		
②家庭訪問		
③子どもの発達相談や健診		
④地区ごとの子ども行事		
⑤保護者への心理相談		
⑥その他（ ）		

5 暴力（DV）について

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

一般的には、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者からふるわれる暴力をいい、身体的な暴力だけでなく、社会的地位や信用、経済力、腕力などの「力」を背景に、様々な暴力の形をとって、相手を支配しようとする行為であり、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。（下記はDV事例の一部）

★身体的なもの

- ・なぐられる
- ・けられる
- ・たたかれる
- ・引きずりまわされる

★精神的なもの

- ・怒鳴られる
- ・無視される
- ・子どもを盾に脅される
- ・交友関係を制限される

★経済的なもの

- ・生活費を渡されない
- ・お金の使い道を細かく確認される

★性的なもの

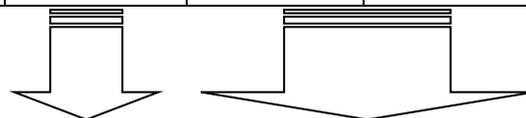
- ・性行為を強要される
- ・避妊に協力してもらえない

問 23 配偶者等からの暴力は、多くの場合女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのように思われますか。（AからFの項目ごとにひとつに○）

	項 目	① そう思う	② ややそう 思う	③ あまりそ う思わな い	④ そう思わ ない
A	ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為であると思う				
B	どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思う				
C	暴力をふるわれる方にも問題があると思う				
D	暴力をふるう相手から別れたいと思えばいつでも別れられると思う				
E	暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思う				
F	夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきであると思う				

問 24 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（AからCの項目ごとにひとつに○）

	項 目	① まったくな い	② 1・2度 あった	③ 何度もあつ た
A	なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた			
B	人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた			
C	避妊に協力しなかったり、嫌がっているのに性的な行為を強要された			



問 25 へ

問 24-1、2、3
ご回答後、問 25 へ

問 24 で『② 1・2度あった』または『③ 何度もあった』とご回答された方にお聞きします。

問 24-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。（ひとつに○）

①ある

②ない

問 24-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①家族に相談した	
②友人・知人に相談した	
③行政機関（鹿児島市男女共同参画センター（サンエールかごしま相談室）、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市子どもと女性の相談室、鹿児島県女性相談センター、保健所、保健センター、法務局など）に相談した	
④警察に連絡・相談した	
⑤弁護士に相談した	
⑥医師に相談した	
⑦民間のカウンセリングルームに相談した	
⑧どこ（だれ）にも相談しなかった	
⑨その他（ ）	

NO DV! YES SMILE

鹿児島市は「配偶者暴力相談支援センター」を設置しました。

サンエールかごしま相談室

099-813-0853

がまんしないで相談を

相談無料 秘密厳守

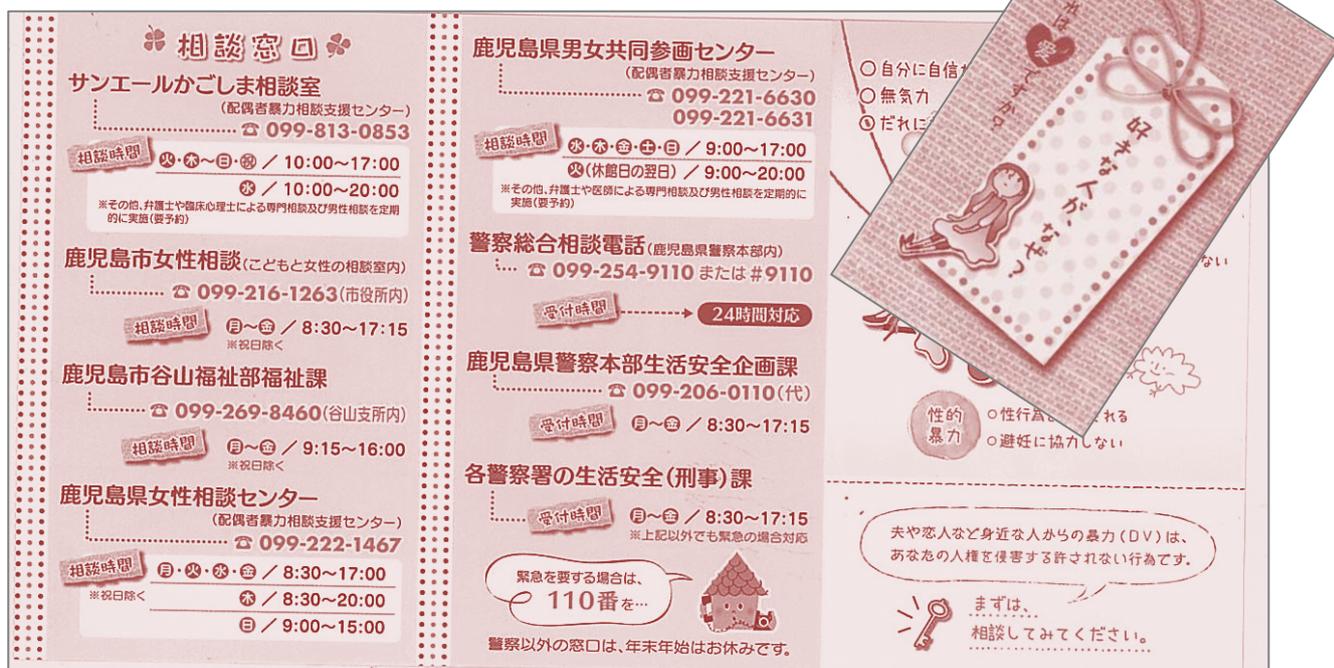
問 24-2 で『⑧どこ（だれ）にも相談しなかった』とご回答された方にお聞きします。

問 24-3 どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。
（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①どこ（だれ）に相談してよいのか分からなかったから	
②相談する人が近くにいなかったから	
③恥ずかしくてだれにも言えなかったから	
④相談してもむだだと思ったから	
⑤相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	
⑥相手に「誰にも言うな」とおどされたから	
⑦子どもに危害が及ぶと思ったから	
⑧自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	
⑨自分にも悪いところがあると思ったから	
⑩個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから	
⑪担当者の言動により不快な思いをすと思ったから	
⑫世間体が悪いから	
⑬他人（相談した相手）を巻き込みたくなかったから	
⑭他人（相談したいと思っている相手）に知られると、これまでの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	
⑮相手の行為は愛情の表現だと思ったから	
⑯そのことについて思い出したくなかったから	
⑰相談するほどのことではないと思ったから	
⑱家族なのだからがまんするよう言われるのではないかと思ったから （離婚・別居など）	
⑳その他（ ）	

問 25 DVについての具体的な相談先や鹿児島市等が発行しているDVに関するパンフレット等について、知っていますか。（A～Fの項目ごとにひとつに○）

	項 目	① 知ってお り、相談し た（読んだ） ことがある	② 知っていた が、相談し た（読んだ） ことはない	③ まったく知 らなかった
A	サンエールかごしま相談室			
B	鹿児島市こどもと女性の相談室			
C	鹿児島県女性相談センター			
D	鹿児島県男女共同参画センター			
E	各警察署生活安全課			
F	鹿児島市等が発行しているDVの相談先を紹介するカードサイズリーフレット等 ※病院や金融機関、公共施設等に設置			



鹿児島市が発行しているカードサイズDVリーフレット

6 自殺について

問 26 あなたは、この1年間で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。
(ひとつに○)

- ①考えたことがある → 問 26-1、2、3 个回答後、問 27 へ
②考えたことはない → 問 27 へ

問 26 で『①考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 26-1 自殺を考えたときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)

- | | |
|----------|-----------|
| ①家庭問題 | ⑤学校問題 |
| ②健康問題 | ⑥勤務問題 |
| ③経済・生活問題 | ⑦孤独感・近隣関係 |
| ④男女問題 | ⑧その他 () |

問 26-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれ(どこか)に相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|----------|
| ①配偶者 | ⑥職場 |
| ②配偶者以外の家族 | ⑦医療機関 |
| ③友人・知人 | ⑧相談していない |
| ④相談機関(市役所・いのちの電話など) | ⑨その他 () |
| ⑤学校 | |

問 26-3 あなたは、自殺をしたいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。(ひとつに○)

- ①ある ②ない

問 37 現在、避難時に家族カードを提出することで、避難した方を把握することになっていますが、家族カードを提出することを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている ②知らない

問 38 現在、避難しなかった人（避難時に島外にいる人や逃げ遅れた人など）を町内会や行政で確認する仕組みはありません。把握できるようにしておくことが必要だと考えますか。（ひとつに○）

- ①必要である ②必要ではない ③わからない

問 39 「避難勧告」が発令されたら、車は使わず船で避難することになりますが、その前の「避難準備」が発令された段階で、車などで島外に避難する考えがありますか。（ひとつに○）

- ①避難準備の段階で車で避難する
②その考えはない
③わからない

問 40 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ **11月14日（木）**までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。

高齢者の事故やけがなどに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、今年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組んでおります。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、市民の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの65歳以上の方の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

● 調査票の記入について

- 1 同封のセーフコミュニティのリーフレットを読まれてからご回答ください。
- 2 調査対象としていらっしゃる方がご回答ください。（ご本人様にご回答できない場合は、ご家族の方などが、可能な範囲で聞き取り等を行いご回答ください。）
- 3 特別の注意書きがない限り、平成25年10月1日（火）現在でご回答ください。
- 4 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 5 ご回答後の調査票は、お手数ですが**平成25年11月14日（木）まで**に、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 6 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748



※同封のリーフレットを回答前にお読みください

平成25年度事故やけがに関する調査（高齢者）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 あなたのことやお住まいについて

問1 あなたの性別や世帯構成などについてお聞きします。

(1) 対象(封書の宛名)の方 ※25年10月1日現在	性別 ①男 ②女 年齢 () 歳
(2) 対象(封書の宛名)の方の就労状況 ※25年10月1日現在	就労状況 ①就労している ②就労していない
(3) 世帯構成	①単身 ②夫婦だけ（配偶者も65歳以上） ③夫婦だけ（配偶者は65歳未満） ④3人以上（世帯のすべてが65歳以上） ⑤3人以上（64歳未満の家族がいる） ⑥その他

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	() 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	① () 校区 ② 分からない

2 地域活動について

問3 あなたは、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組んでいると思いますか。
(ひとつに○)

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

問4 あなたは、地域の住人が一緒になって、地域の課題に取り組むことは重要だと思いますか。（ひとつに○）

- ①そう思う ②ややそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そう思わない

問5 あなたは、地域の人たちとコミュニケーションをとっていますか。（ひとつに○）

- ①地域の人たちと互いに相談し合うような、生活面での協力関係がある
②地域の人たちと互いに相談し合うことはないまでも、世間話や立ち話をする
③地域の人たちと会話はほとんどしないが、挨拶は交わす
④ほとんど付き合いはなく、挨拶もまれにしかしない
⑤その他

問6 あなたは、地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

- ①町内会 ⑥運動会
②PTA・あいご会 ⑦お達者クラブ
③NPO、その他の団体 ⑧老人クラブ
④地域の夏祭り ⑨その他
⑤清掃活動

問7 あなたは、地域の暮らしに愛着を感じていますか。（ひとつに○）

- ①感じている ②やや感じている ③どちらともいえない
④あまり感じていない ⑤感じていない

問8 あなたは、鹿児島市の暮らしに安心安全を感じていますか。（ひとつに○）

- ①感じている ②やや感じている ③どちらともいえない
④あまり感じていない ⑤感じていない

3 交通安全について

問9 あなたは、ここ数年、鹿児島市内で発生した交通死亡事故のうち、半数以上が高齢者であることを知っていますか。（ひとつに○）

①知っている

②知らない

問10 あなたは、平成24年中、鹿児島市内で発生した交通死亡事故のうち、夜間歩行中に事故にあった方の全員が夜光反射材を着用していなかったことを知っていますか。（ひとつに○）

①知っている

②知らない

問11 あなたは、平成24年中、鹿児島県内で発生した交通死亡事故のうち、歩行中に事故にあった方の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることを知っていますか。（ひとつに○）

①知っている

②知らない

問12 あなたは、この1年間（平成24年10月から平成25年9月まで）に歩行者対象の交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（ひとつに○）

①参加したことがある → 問12-1、2、3ご回答後、問13へ

②参加したことがない
③わからない } → 問13へ



問 12-3 あなたは、歩行者対象の交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、行動の変化はありますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①道路を横断するときは横断歩道を渡るようになった	
②信号が青になってから左右を確認して道路を横断するようになった	
③自動車の直前直後の横断はしないようになった	
④交差点や見通しの悪いところは注意して通行するようになった	
⑤夜間、道路を歩くときは夜光反射材を着用するようになった	
⑥斜め横断をしないようになった	
⑦交通ルールは守っているので改めるものは特になかった	
⑧その他（ ）	

問 13 あなたは、夜間や薄暗いときの散歩などに、夜光反射材がついたものを活用していますか。（ひとつに○）

- ①活用している
 - ②たまに活用している
 - ③夜は外出しない
 - ④活用していない
- } → 問 14 へ
- 問 13-1 ご回答後、問 14 へ

問 13 で『④活用していない』とご回答された方にお聞きします。

問 13-1 夜光反射材を活用していない理由は何ですか。（ひとつに○）

- ①夜光反射材を持っていない
- ②夜光反射材がどういうものであるか知らない
- ③懐中電灯を常に装備している
- ④相手に認識されやすい服装をしている
- ⑤着用が面倒くさい
- ⑥格好が悪い
- ⑦効果がなさそう
- ⑧使用するのがもったいない

問 14 あなたは、自動車を運転しますか。（近いものひとつに○）

- ①毎日運転する
 - ②週 5～6 日運転する
 - ③週 3～4 日運転する
 - ④週 1～2 日運転する
 - ⑤月数回～年数回程度運転する
 - ⑥運転免許証を持っているが、運転しない
 - ⑦運転免許証を持っていたが、自主返納した
 - ⑧運転免許証を持っていない
- 問 14-1、2、3 へ
- 問 15 へ
- 問 17 へ



問 14 で『①毎日運転する』～『⑤月数回～年数回程度運転する』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問 14-1 あなたは、次の交通ルールを知っていますか。また、その交通ルールを守って運転していますか。（あてはまるものすべてに○）

	それぞれについてあてはまるものすべてに○	
	知っている	守っている
①横断歩道を横断する歩行者等がいる場合は一時停止しなければならない		
②歩行者の横を通過するときは、安全な間隔をあけるか徐行しなければならない		
③酒気を帯びて運転してはならない		
④運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行ってはならない		
⑤道路標識等によって指定された最高速度を超える速度で進行してはならない		
⑥道路のまがり角付近、上り坂の頂上付近などでの追越しをしてはならない		
⑦一時停止の道路標識がある交差点では、停止線の直前で一時停止しなければならない		
⑧駐停車が禁止されている場所では、駐車または停車してはならない		
⑨交通混雑時等に、横断歩道や停止禁止部分に進入してはならない		
⑩ハンドル、ブレーキその他の装置を確実に操作して運転しなければならない		
⑪道路、交通等の状況に応じて安全を確認して運転しなければならない		
⑫右折、左折をするときは、方向指示器等により、合図をしなければならない		

問 14-2 あなたは、自動車を運転するときに同乗者にシートベルトを着用させていますか。（ひとつに○）

- ①必ずさせている
- ②たまにさせないことがある
- ③させていない
- ④他の者を同乗させることはない

問 14-3 あなたは、体の衰え（視力、反応など）が運転に影響してきたと感じたことがありますか。（ひとつに○）

- ①ある → [問 14-4 ご回答後、問 15 へ](#)
 ②ない → [問 15 へ](#)

問 14-3 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 14-4 どんなときに感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①人や物などに気づくのが遅れるようになった	
②急ブレーキを踏む回数が多くなった	
③縁石などによく接触するようになった	
④同乗者から運転が危ないといわれるようになった	
⑤夜間の運転がっらなくなった	
⑥駐車場の枠にまっすぐに止められなくなった	
⑦どこを走っているかわからなくなった	
⑧ブレーキとアクセルを踏み間違えた	
⑨その他（ ）	

問 15 あなたは、「高齢者運転免許自主返納支援制度」を知っていますか。

- ①知っている ②知らない

「高齢者運転免許自主返納支援制度」

- ・市営バス、市電、JR九州バス、南国交通バスの割引（空港バス、高速バス、観光バス、コミュニティバス等を除く）

（問い合わせ先：県警察本部交通企画課高齢者対策係 206-0110）

- ・住民基本台帳カードの無料交付

（問い合わせ先：市役所市民課窓口第一係 216-1221）

※ 詳しい制度の内容・手続きについては、各問い合わせ先にお尋ねください。

問 27 杖を使っていますか。（ひとつに○）

- ①使っている ②使っていない

5 口腔機能について

問 28 半年前に比べて固いものが食べづらくなりましたか。（ひとつに○）

- ①はい ②いいえ

問 29 お茶や汁物等でむせることがありますか。（ひとつに○）。

- ①ある ②ない

問 30 飲み込みに対する不安はありますか。（ひとつに○）

- ①とても不安を感じる
②やや不安を感じる
③あまり不安を感じない
④まったく不安を感じない

問 31 食物をのどにつまらせたことがありますか。（ひとつに○）

- ①ある → 問 32 ご回答後、問 33 へ
②ない → 問 33 へ

問 32 問 31 で『① ある』とご回答された方にお聞きします。のどにつまらせた物は何ですか。（ひとつに○）

- ①ご飯 ⑤もち
②おかず ⑥あくまき（ちまき）
③あめ ⑦その他（ ）
④ゼリー

問 33 口の渇きが気になりますか。（ひとつに○）

- ①気になる
- ②気にならない

6 介護予防について

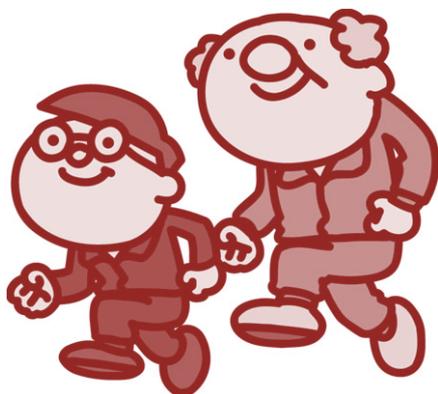
問 34 介護予防のための教室等に参加していますか。（ひとつに○）

- ①参加している
 - ②現在は参加していないが、今後参加したい
 - ③参加していない
 - ④わからない
- } → 問 35 ご回答後、問 37 へ
- 問 36 ご回答後、問 37 へ
- 問 37 へ

問 34 で『①参加している』『②現在は参加していないが、今後参加したい』とご回答された方にお聞きします。

問 35 次にあげる介護予防事業のうち、参加している（参加したいと思う）ものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- ①転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上
- ②食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防
- ③いろいろな人と交流を図ることによるうつ病や閉じこもりの予防
- ④口の中を清潔に保ち、歯科疾患などを積極的に予防する口腔ケア
- ⑤頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防



問 34 で『③参加していない』とご回答された方にお聞きします。

問 36 介護予防教室に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①健康状態や体力に不安がないから	
②通院しているから	
③めんどうだから	
④元気だから	
⑤時間がとれないから	
⑥何をするのかわからないから	
⑦一人では参加しにくいから	
⑧参加する場所が遠いから	
⑨教室に参加しなくても自分で運動しているから	
⑩その他（ ）	

7 住まいに関する現状と今後の希望について

問 37 現在の住まいは次のうちどれですか。（ひとつに○）

- ①一戸建て持ち家
- ②一戸建て借家
- ③分譲マンション（エレベーター 有・無）
- ④賃貸マンション（エレベーター 有・無）
- ⑤県営住宅・市営住宅（エレベーター 有・無）
- ⑥アパート
- ⑦その他（ ）

問 42 在宅生活を続けるために、今後、住宅改修が必要とお考えですか。（ひとつに○）

①はい → 問 43 ご回答後、問 44 へ

②いいえ → 問 44 へ

問 43 問 42 で『① はい』とご回答された方にお聞きします。どこを改修したいですか。
（あてはまるものすべてに○）

場所	①玄関	⑤台所
	②廊下	⑥寝室
	③トイレ	⑦居間
	④風呂場	⑧その他（ ）

内容	①段差の解消
	②手すりの取り付け
	③すべり止め防止
	④その他（ ）

8 認知症に対する理解について

問 44 あなたは認知症についてご存知ですか。（ひとつに○）

①知っている ②知らない

問 45 あなたは、認知症は病気だと思えますか。（ひとつに○）

①思う ②思わない ③わからない

問 46 あなたは、ご自身について、認知症に対する不安や心配がありますか。（ひとつに○）

①ある ②ない ③わからない

問 47 認知症サポーター（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（ひとつに○）

- ①知っている
- ②聞いたことはあるが内容は知らない
- ③知らない

問 48 あなたは、認知症についての勉強会に参加したいと思いますか。（ひとつに○）

- ①参加したい
- ②参加したくない
- ③わからない

問 49 あなたが自身や家族について認知症に関する不安をもったとき、相談したいと考えるのは誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①家族・親戚	
②知人・友人	
③民生委員	
④医療機関	
⑤長寿あんしん相談センター(地域包括支援センター)	
⑥市高齢者相談窓口	
⑦市保健所、保健センター	
⑧誰（どこ）に相談したらいいかわからない	
⑨その他（ ）	

9 暴力について

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

一般的には、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者からふるわれる暴力をいい、身体的な暴力だけでなく、社会的地位や信用、経済力、腕力などの「力」を背景に、様々な暴力の形をとって、相手を支配しようとする行為であり、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。（下記はDV事例の一部）

★身体的なもの

- ・なぐられる
- ・けられる
- ・たたかれる
- ・引きずりまわされる

★精神的なもの

- ・怒鳴られる
- ・無視される
- ・子どもを盾に脅される
- ・交友関係を制限される

★経済的なもの

- ・生活費を渡されない
- ・お金の使い道を細かく確認される

★性的なもの

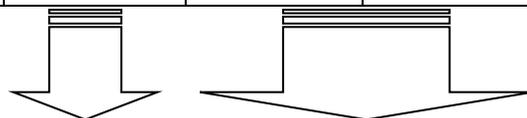
- ・性行為を強要される
- ・避妊に協力してもらえない

問 50 配偶者等からの暴力は、多くの場合女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのように思われますか。（AからFの項目ごとにひとつに○）

	項 目	① そう思う	② ややそう思う	③ あまりそう思わない	④ そう思わない
A	ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為であると思う				
B	どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思う				
C	暴力をふるわれる方にも問題があると思う				
D	暴力をふるう相手から別れたいと思えばいつでも別れられると思う				
E	暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思う				
F	夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきであると思う				

問 51 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（AからCの項目ごとにひとつに○）

	項 目	① まったく ない	② 1・2度 あった	③ 何度もあ った
A	なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた			
B	人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた			
C	避妊に協力しなかったり、嫌がっているのに性的な行為を強要された			



問 52 へ

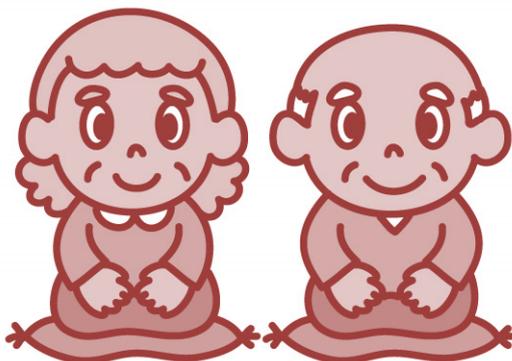
問 51-1、2、3
ご回答後、問 52 へ

問 51 で『② 1・2度あった』または『③ 何度もあった』とご回答された方にお聞きします。

問 51-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。（ひとつに○）

①ある

②ない



問 51-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①家族に相談した	
②友人・知人に相談した	
③行政機関（鹿児島市男女共同参画センター（サンエールかごしま相談室）、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市こどもと女性の相談室、鹿児島県女性相談センター、保健所、保健センター、法務局など）に相談した	
④警察に連絡・相談した	
⑤弁護士に相談した	
⑥医師に相談した	
⑦民間のカウンセリングルームに相談した	
⑧どこ（だれ）にも相談しなかった	
⑨その他（ ）	



問 51-2 で「⑧どこ（だれ）にも相談しなかった」とご回答された方にお聞きします。

問 51-3 どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。

（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①どこ（だれ）に相談してよいのか分からなかったから	
②相談する人が近くにいなかったから	
③恥ずかしくてだれにも言えなかったから	
④相談してもむだだと思ったから	
⑤相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	
⑥相手に「誰にも言うな」とおどされたから	
⑦子どもに危害が及ぶと思ったから	
⑧自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	
⑨自分にも悪いところがあると思ったから	
⑩個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから	
⑪担当者の言動により不快な思いをすと思ったから	
⑫世間体が悪いから	
⑬他人（相談した相手）を巻き込みたくなかったから	
⑭他人（相談したいと思っている相手）に知られると、これまでの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	
⑮相手の行為は愛情の表現だと思ったから	
⑯そのことについて思い出したくなかったから	
⑰相談するほどのことではないと思ったから	
⑱家族なのだからがまんするよう言われるのではないかと思ったから	
⑲相談することによって自分の望まない結果になるのではと思ったから（離婚・別居など）	
⑳その他（ ）	

問 52 DVについての具体的な相談先や鹿児島市等が発行しているDVに関するパンフレット等について、知っていますか。（AからFの項目ごとにひとつに○）

	項 目	① 知ってお り、相談し た（読ん だ）こと がある	② 知ってい たが、相談 した（読ん だ）こと はない	③ まったく 知らな かった
A	サンエールかごしま相談室			
B	鹿児島市子どもと女性の相談室			
C	鹿児島県女性相談センター			
D	鹿児島県男女共同参画センター			
E	各警察署生活安全課			
F	鹿児島市等が発行しているDVの相談先を紹介するカードサイズリーフレット等 ※病院や金融機関、公共施設等に設置			

相談窓口

サンエールかごしま相談室
(配偶者暴力相談支援センター)
☎ 099-813-0853
相談時間 月・火・水・木・金 / 10:00~17:00
土 / 10:00~20:00
※その他、弁護士や臨床心理士による専門相談及び男性相談を定期的に実施(要予約)

鹿児島市女性相談(子どもと女性の相談室内)
☎ 099-216-1263(市役所内)
相談時間 月~金 / 8:30~17:15
※祝日除く

鹿児島市谷山福祉部福祉課
☎ 099-269-8460(谷山支所内)
相談時間 月~金 / 9:15~16:00
※祝日除く

鹿児島県女性相談センター
(配偶者暴力相談支援センター)
☎ 099-222-1467
相談時間 月・火・水・木 / 8:30~17:00
土 / 8:30~20:00
日 / 9:00~15:00
※祝日除く

鹿児島県男女共同参画センター
(配偶者暴力相談支援センター)
☎ 099-221-6630
099-221-6631
相談時間 月・火・水・木・金 / 9:00~17:00
土(休日の翌日) / 9:00~20:00
※その他、弁護士や医師による専門相談及び男性相談を定期的に実施(要予約)

警察総合相談電話(鹿児島県警察本部内)
☎ 099-254-9110 または #9110
受付時間 24時間対応

鹿児島県警察本部生活安全企画課
☎ 099-206-0110(代)
受付時間 月~金 / 8:30~17:15

各警察署の生活安全(刑事)課
受付時間 月~金 / 8:30~17:15
※上記以外でも緊急の場合対応

緊急を要する場合は、**110番**を...
警察以外の窓口は、年末年始はお休みです。

DV相談窓口
自分には自信が...
無気力...
だれにも...
性的暴力...
○性行為を強要される
○避妊に協力しない
夫や恋人など身近な人からの暴力(DV)は、あなたの人権を侵害する許されない行為です。
まずは...
相談してみてください。

鹿児島市が発行しているカードサイズDVリーフレット

10 自殺について

問 53 あなたは、この1年間で自殺したい(死にたい)と考えたことがありますか。
(ひとつに○)

- ① 考えたことがある → 問 53-1、2、3 个回答後、問 54 へ
② 考えたことはない → 問 54 へ

問 53 で『①考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 53-1 自殺を考えたときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)

- | | |
|----------|-----------|
| ①家庭問題 | ⑤学校問題 |
| ②健康問題 | ⑥勤務問題 |
| ③経済・生活問題 | ⑦孤独感・近隣関係 |
| ④男女問題 | ⑧その他 () |

問 53-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれに（どこか）に相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|----------|
| ①配偶者 | ⑥職場 |
| ②配偶者以外の家族 | ⑦医療機関 |
| ③友人・知人 | ⑧相談していない |
| ④相談機関（市役所・いのちの電話など） | ⑨その他 () |
| ⑤学校 | |

問 53-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。(ひとつに○)

- ① ある ② ない

11 防災について

問 56 避難する場所を決めていますか。（または自宅に一番近い指定避難所を知っていますか。）（ひとつに○）

- ①決めている（知っている） ②決めていない（知らない）

問 57 災害が発生したとき、家族と連絡をとる方法を決めていますか。（ひとつに○）

- ①決めている ②決めていない

問 58 災害時の非常持ち出し品を準備していますか。（ひとつに○）

- ①準備している ②準備していない

問 59 災害が発生した場合、自力で避難できますか。（ひとつに○）

- ①できる ②できない

問 60 避難所に避難した場合に、一番不安なのは次のうちどれですか。（ひとつに○）

- ①食事 ⑤情報収集
②トイレ ⑥周りに迷惑をかけないか心配なこと
③睡眠 ⑦その他（ ）
④衛生面

問 61 災害時要援護者避難支援制度を知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている ②知らない

※災害時要援護者避難支援制度とは、災害時やそのおそれがある場合の避難に、家族等の支援が困難で、何らかの助けを必要とする重度の障害者やひとり暮らし高齢者などの皆様が、地域の中で避難の支援が受けられるようにするため、本人の申請や民生委員の戸別訪問調査による災害時要援護者台帳の作成や、支援に必要な情報の提供などを行うための取り組みです。

問 67 「避難勧告」が発令されたら、車は使わず船で避難することになりますが、その前の「避難準備」が発令された段階で、車などで島外に避難する考えがありますか。
（ひとつに○）

- ①避難準備の段階で車で避難する
- ②その考えはない
- ③わからない

問 68 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。
同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ **11月14日（木）**までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。